富士市埋蔵文化財調査報告　第 57 集

静岡県　富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

―平成 24・25 年度―

◆コーカン畑遺跡　第２地区

◆中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

◆三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

◆比奈１古墳群　比奈Ｇ－第 74 号墳

・その他の試掘確認調査

2015 年３月

富士市教育委員会

SU01 土器検出（西から）

SU01 出土土器

中島遺跡 第１地区（昭和 61 年度調査）出土遺物

中島遺跡は、富士山南麓から流下する松原川の北東岸に所在する、縄文時代および古墳時代の集落跡である。

過去に行われた発掘調査で、縄文時代の配石遺構（環状列石）や竪穴建物跡と思われる落ち込み等を検出しており、出土遺物からは後期初頭～中葉（称名寺式～加曽利Ｂ式期）を中心とした遺跡と考えられる。

松原川を挟んだ対岸には、縄文時代中～後期および弥生時代後期～平安時代の集落跡である宇東川遺跡が立地し、水に恵まれたこの地域に連綿と人の営みがあったことが認められれる。

平成 24 年度に行われた第９地区の確認調査では、縄文時代後期前半（堀之内２式期）の埋甕が出土した。

（第１章 第２節）

二タ子塚第２号墳　トレンチ完掘全景（南から）

二タ子塚第２号墳　前庭部石積み（南から）

二タ子塚第２号墳　2Tr 西壁（東から）

石坂２古墳群は富士山南麓の標高 105 ～ 120m 程に立地する３基の古墳で構成される古墳群である。

平成 24 年度には、残存する石坂Ｃ－第 26 号墳（二タ子塚第２号墳）の南東に隣接する土地の造成工事に伴って、墳丘範囲および古墳関連遺構の状況を確認するための調査が行われた。

トレンチ調査により、横穴式石室の前庭側壁とみられる石積みを検出し、奥壁から前庭側壁端までの全長が 9.5m を測る、富士市域では比較的大型の石室であることが確認された。

また、８世紀代に位置づけられる須恵器が出土したものの、本墳の築造時期は未だ明確とはなっていない。

（第３章）

カラー図版　4　　コーカン畑遺跡　第２地区

調査地全景（南から）

SB02　東西土層断面（南から）

出土遺物集合

▲　７世紀の竪穴建物跡の覆土中に「大淵スコリア」と認識されるスコリアの単層が認められた。「大淵スコリア」はこれまで古墳時代中期末に富士山の側火山から噴出したと考えられてきたスコリアであるが、近年の調査・研究で似た特徴を示すスコリアが複数回降下している可能性が指摘されており、本建物跡の覆土堆積状況もこれを裏づけるものと言える。
▼　縄文時代の土坑から多量の焼礫と炭化物が出土した。
（第４章）

SS101

カラー図版　6　　中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

調査地全景（南西から）

出土遺物集合

中桁・中ノ坪遺跡は、富士山南麓を流下し駿河湾へ注ぐ潤井川の北東岸に所在する、古墳時代～平安時代の集落跡である。

平成 24 年度に行われた第６地区の本発掘調査では、８～９世紀の竪穴建物跡が検出された。SB02・SB03 のカマドからは破砕された土器片が多量に出土し、カマド廃絶時の祭祀行為の跡と考えられる。

（第５章）

カラー図版　8　　三日市廃寺跡　（東平遺跡　第 60 地区）

遺構検出全景（東から）

出土遺物集合

三日市廃寺跡は、隣接する集落跡である東平遺跡とともに、古代富士郡衙に関わる重要な遺跡として捉えられている。

平成 25 年度に行われた本発掘調査（東平遺跡第 60 地区）では、おおむね 8 世紀代に位置づけられる 5 軒の竪穴建物跡が検出され、SB02 からは転用硯の可能性がある蓋や、瓦鉢とみられる須恵器が出土している。

（第 6 章）

カラー図版　10　　比奈１古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）

比奈Ｇ－第 74 号墳　全景（南から）

比奈Ｇ－第 74 号墳　石室第２床面・閉塞石（石室内から）

比奈Ｇ－第 74 号墳　石室第２床面・奥壁（石室内から）

カラー図版　12　　比奈１古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）

出土遺物集合

石室第１床面（南から）

石室第２床面（南から）

遺物（金属製品 12・４）出土状況

遺物（金属製品 10・７・６）出土状況

遺物（金属製品２）出土状況

比奈１古墳群は富士山南麓の東端、富士火山地と愛鷹火山地の境を流下する赤渕川の西岸に所在する 31 基の古墳で構成される古墳群である。

平成 25 年度には、比奈Ｇ－第 74 号墳の本発掘調査が実施され、段構造をもつ無袖形横穴式石室の構築方法と、埋葬・追葬の方法を検討するための良好な成果が得られた。

（第７章）

カラー図版　14　清水岩の上遺跡

松野と富士山

遺物出土状況

出土時の遺物

清水岩の上遺跡は富士川の西岸、旧富士川町松野地区の溶岩台地上に所在する弥生時代末～古墳時代初頭の集落跡である。

昭和 50 年代に畑から一括出土し、富士川町指定文化財となっていた弥生土器を再実測し報告する。

これらの壺は、装飾や調整などから弥生時代後期後半に位置づけられる良好な一括資料である。

（第 8 章）

出土遺物集合

出土土器　1

出土土器　2

カラー図版　16　清水岩の上遺跡

出土土器　3

出土土器　5

出土土器　6

出土土器　7

例　言

1．本書は、静岡県富士市内において富士市教育委員会が平成 24 年度・平成 25 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。調査名については、調査当時の包蔵地範囲に準拠して呼称している。ただし、一部には平成 24 年度以前に調査された調査成果の報告も含んでいる。

2．調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、文化振興課職員がこれにあたった。調査の一部は『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。調査体制、担当者は第 1 章第 1 節に譲る。

3．本書の編集は佐藤祐樹（文化振興課上席主事）・若林美希（文化振興課臨時職員）が行った。執筆分担は、第 1 章は佐藤・若林、第 2・3 章は若林、第 4 章は佐藤・小島利史（文化振興課臨時職員）、第 5 章は佐藤・若林、第 6 章は佐藤、第 7 章は石川武男（文化振興課主査）、第 8 章は佐藤・若林による。

4．本書に掲載した調査に関わる図版は、調査担当者および稲葉万智子・金田純子・三輪真佐子（文化振興課臨時職員）が作成した。遺物実測図は、金田・三輪・小田貴子・杉原範美・井上真帆・大松さやか（同）が実測・トレースし、稲葉・金田が図版を作成した。遺物の接合・拓本は井上尚子・石川都久子・望月真弓・渡辺美規子（同）による。

　遺物写真は、第 1 ～ 7 章に関わるものを金田・三輪が、第 8 章に関わるものを佐藤が撮影した。調査記録写真は、調査担当者が撮影したものを使用した。

5．本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。

　　池谷信之、池谷初恵、小崎　晋、篠原　武、堀内秀樹、前嶋秀張　　（五十音順、敬称略）

6．本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会で保管している。

凡　例

1．確認調査を含め、座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系を使用して調査した。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2．各調査報告の冒頭に示す調査地位置図には、『富士市土地計画基本図』を使用した。

3．挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

4．本書における標記は次のとおりである。

Tr：トレンチ　　SB：竪穴建物跡　　SD：溝状遺構　　SU：埋甕土坑

SX：性格不明遺構　　SS：集石　　SK：土坑　　Pit：ピット　　P：土器　　S：石

5．土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器 　須恵器 　灰釉陶器・陶器

6．土器および土層などの色調は『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修　2000 年版）による。

7．出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

・縄文土器

小林達雄 編 2008『総覧　縄文土器』

・土師器

山梨県考古学協会 1992『甲斐型土器研究グループ第 1 回研究集会資料　甲斐型土器 - その編年と年代 -』

山本恵一 1995「静岡県下の 6 ～ 7 C の土師器 - 駿河東部・伊豆北部の現状について」『東国土器研究』第 4 号　東国土器研究会

山本恵一 1999「駿河の古墳時代中期の土器 - 東駿河を中心にして -」『東国土器研究』第 5 号　東国土器研究会

渡井英誉 1997「弥生・古墳時代編」『富士宮市文化財調査報告書第 23 集　滝戸遺跡　- 市立富士宮第三中学校校舎増改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -』富士宮市教育委員会

渡井英誉 1999「中見代式土器小考 - 大廓式土器から中見代式土器へ -」『東国土器研究』第 5 号　東国土器研究会

・須恵器

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

鈴木敏則 1998「第 1 章第 4 節　律令時代土器編年の概要」『梶子北遺跡』遺物編（本文）（財）浜松市文化協会

鈴木敏則 2004「第 5 章第 2 節　静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

・陶磁器類

愛知県 2007『愛知県史』別編　窯業 2　中世・近世　瀬戸系

目　次

カラー図版

例　言

凡　例

目　次

第１章　平成 24・25 年度の調査

第１節　調査体制と調査概要 …… 1

第２節　平成 24 年度の発掘調査報告 …… 6

第３節　平成 25 年度の発掘調査報告 …… 41

第４節　埋蔵文化財包蔵地の内容変更と新規登録 …… 81

写真図版　平成 24 年度 …… 83

写真図版　平成 25 年度 …… 95

第２章　天間沢遺跡の調査

第１節　天間沢遺跡の概要 …… 111

第２節　第 33 地区の調査成果 …… 118

第３節　第 34 地区の調査成果 …… 119

第４節　第 35 地区の調査成果 …… 120

第５節　第 36 地区の調査成果 …… 121

第６節　第 37 地区の調査成果 …… 123

第７節　第 38 地区の調査成果 …… 126

第８節　第 39 地区の調査成果 …… 127

第３章　石坂２古墳群の調査

第１節　石坂２古墳群の概要 …… 129

第２節　第２地区（二タ子塚第２号墳）の調査成果 …… 130

第３節　第４地区の調査成果 …… 137

第４章　コーカン畑遺跡　第２地区の調査

第１節　調査に至る経緯 …… 139

第２節　調査の経緯 …… 139

第３節　立地と基本土層 …… 141

第４節　縄文時代の遺構と遺物 …… 143

第５節　弥生時代以降の遺構と遺物 …… 152

第６節　まとめ …… 167

第５章　中桁・中ノ坪遺跡　第６地区の調査
第１節　中桁・中ノ坪遺跡の概要 …… 169
第２節　第６地区の調査成果 …… 171

第６章　三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）の調査
第１節　東平遺跡・三日市廃寺跡の概要 …… 185
第２節　第 60 地区の調査成果 …… 186

第７章　比奈１古墳群　第９地区の調査
第１節　調査の経緯と経過 …… 199
第２節　遺跡の立地と調査履歴 …… 202
第３節　比奈Ｇ－第 74 号墳の調査成果 …… 204
第４節　まとめ …… 217

第８章　資料報告
第１節　清水岩の上遺跡出土の弥生土器 …… 218
第２節　中村上第１号墳出土の須恵器 …… 226

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章　平成24・25年度の調査

第1節　調査体制と調査概要

第1図　平成24・25年度　調査地の位置と地形区分 …… 5

第2節　平成24年度の発掘調査報告

第2図　念信園遺跡第1地区　位置図 …… 6

第3図　念信園遺跡第1地区　トレンチ配置図 …… 6

第4図　念信園遺跡第1地区　セクション図 …… 7

第5図　中桁・中ノ坪遺跡第5地区　位置図 …… 7

第6図　中桁・中ノ坪遺跡第5地区　トレンチ配置図 …… 7

第7図　中桁・中ノ坪遺跡第5地区　セクション図 …… 8

第8図　舟久保遺跡第51地区　位置図 …… 8

第9図　舟久保遺跡第51地区　出土遺物実測図 …… 8

第10図　舟久保遺跡第51地区
トレンチ配置図・2TrSX01平面図・セクション図 … 9

第11図　中島遺跡第9地区　位置図 …… 10

第12図　中島遺跡第9地区　トレンチ配置図 …… 10

第13図　中島遺跡第9地区　セクション図 …… 11

第14図　中島遺跡第9地区
SU01・Pit01・Pit02　平面図・セクション図 …… 12

第15図　中島遺跡第9地区　SX01　平面図・セクション図 …… 12

第16図　中島遺跡第9地区　SX02　平面図・セクション図 …… 13

第17図　中島遺跡第9地区　SX03　平面図・セクション図 …… 13

第18図　中島遺跡第9地区　出土遺物実測図 …… 15

第19図　井倉遺跡第1地区　位置図 …… 16

第20図　井倉遺跡第1地区　トレンチ配置図・セクション図 … 17

第21図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区）　位置図 …… 18

第22図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）
トレンチ配置図 …… 18

第23図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）
セクション図　① …… 19

第24図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）
セクション図　② …… 20

第25図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）
出土遺物実測図 …… 21

第26図　善得寺城跡・東泉院跡第2地区　位置図 …… 22

第27図　善得寺城跡・東泉院跡第2地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 22

第28図　沢東A遺跡第13次調査地点　位置図 …… 23

第29図　沢東A遺跡第13次調査地点　トレンチ配置図 …… 23

第30図　沢東A遺跡第13次調査地点　セクション図 …… 23

第31図　沢東A遺跡第13次調査地点　出土遺物実測図 …… 24

第32図　富士岡1古墳群第13地区　位置図 …… 25

第33図　富士岡1古墳群第13地区　トレンチ配置図 …… 25

第34図　富士岡1古墳群第13地区　セクション図 …… 26

第35図　中吉原宿遺跡第7地区　位置図 …… 26

第36図　中吉原宿遺跡第7地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 27

第37図　石坂7古墳群第2地区　位置図 …… 27

第38図　石坂7古墳群第2地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 28

第39図　厚原横道下遺跡第4地区　位置図 …… 29

第40図　厚原横道下遺跡第4地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 29

第41図　大渕城跡第1地区　位置図 …… 30

第42図　大渕城跡第1地区　トレンチ配置図・セクション図 … 30

第43図　沖田遺跡第148次調査地点　位置図 …… 31

第44図　沖田遺跡第148次調査地点
トレンチ配置図・セクション図 …… 31

第45図　ジンゲン沢遺跡第4地区　位置図 …… 32

第46図　ジンゲン沢遺跡第4地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 32

第47図　ジンゲン沢遺跡第4地区
4Tr検出遺構　平面図・セクション図 …… 33

第48図　ジンゲン沢遺跡第4地区　出土遺物実測図 …… 33

第49図　宇東川遺跡R地区　位置図 …… 34

第50図　宇東川遺跡R地区　トレンチ配置図・セクション図 … 34

第51図　舟久保遺跡第52地区　位置図 …… 35

第52図　舟久保遺跡第52地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 35

第53図　神谷古墳群第9地区　位置図 …… 36

第54図　神谷古墳群第9地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 36

第55図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）位置図 …… 37

第56図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）
トレンチ配置図 …… 37

第57図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）セクション図 …… 37

第58図　中里3古墳群第5地区　位置図 …… 38

第59図　中里3古墳群第5地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 38

第60図　沖田遺跡工事立会　位置図 …… 39

第61図　沖田遺跡工事立会　平面図 …… 39

第62図　沖田遺跡工事立会　セクション図 …… 39

第63図　沖田遺跡工事立会　出土遺物実測図 …… 40

第3節　平成25年度の発掘調査報告

第64図　三日市廃寺跡（東平遺跡第61地区）位置図 …… 41

第65図　三日市廃寺跡（東平遺跡第61地区）
トレンチ配置図 …… 41

第66図　三日市廃寺跡（東平遺跡第61地区）
出土遺物実測図 …… 41

第67図　三日市廃寺跡（東平遺跡第61地区）
トレンチ平面図・セクション図 …… 42

第68図　善得寺城跡・東泉院跡第3地区　位置図 …… 42

第69図　善得寺城跡・東泉院跡第3地区　トレンチ配置図 …… 43

第70図　善得寺城跡・東泉院跡第3地区　セクション図 …… 43

第71図　村添遺跡第1地区　位置図 …… 44

第72図　村添遺跡第1地区　トレンチ配置図 …… 44

第73図　村添遺跡第1地区　セクション図 …… 45

第74図　中桁・中ノ坪遺跡第8地区　位置図 …… 45

第75図　中桁・中ノ坪遺跡第8地区　トレンチ配置図 …… 45

第76図　中桁・中ノ坪遺跡第8地区
トレンチ平面図・セクション図 …… 46

第77図　林泉寺砦跡第1地区　位置図 …… 46

第78図　林泉寺砦跡第1地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 46

第79図　東平遺跡第62地区　位置図 …… 47

第80図　東平遺跡第62地区　出土遺物実測図 …… 47

第81図　東平遺跡第62地区　トレンチ配置図 …… 47

第82図　東平遺跡第62地区　セクション図 …… 48

第83図　沖田遺跡第149次調査地点　位置図 …… 48

第84図　沖田遺跡第149次調査地点
トレンチ配置図・セクション図 …… 49

第85図　沖田遺跡第150次調査地点　位置図 …… 49

第 86 図　沖田遺跡第 150 次調査地点　出土遺物実測図 …… 49
第 87 図　沖田遺跡第 150 次調査地点
　　トレンチ配置図・セクション図 …… 50
第 88 図　中野石切場遺跡第 1 地区　位置図 …… 51
第 89 図　中野石切場遺跡第 1 地区
　　トレンチ配置図 …… 51
第 90 図　中野石切場遺跡第 1 地区
　　セクション図 …… 52
第 91 図　元吉原宿遺跡第 2 地区　位置図 …… 52
第 92 図　元吉原宿遺跡第 2 地区
　　トレンチ配置図・セクション図 …… 52
第 93 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）位置図…… 53
第 94 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）
　　トレンチ配置図 …… 53
第 95 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）
　　出土遺物実測図 …… 53
第 96 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）
　　トレンチ平面図・セクション図 …… 53
第 97 図　沢東 B 遺跡隣接地（第 8 地区）位置図 …… 54
第 98 図　沢東 B 遺跡隣接地（第 8 地区）トレンチ配置図 …… 54
第 99 図　沢東 B 遺跡隣接地（第 8 地区）セクション図 …… 55
第 100 図　三新田遺跡 L 地区　位置図 …… 55
第 101 図　三新田遺跡 L 地区　トレンチ配置図 …… 55
第 102 図　三新田遺跡 L 地区　セクション図 …… 56
第 103 図　丸崎遺跡第 2 地区　位置図 …… 56
第 104 図　丸崎遺跡第 2 地区　トレンチ配置図・セクション図 … 57
第 105 図　滝下遺跡 K 地区　位置図 …… 57
第 106 図　滝下遺跡 K 地区　トレンチ配置図・セクション図 …… 58
第 107 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　位置図 …… 59
第 108 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　トレンチ配置図 …… 59
第 109 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　セクション図 …… 59
第 110 図　中桁・中ノ坪遺跡第 9 地区　位置図 …… 59
第 111 図　中桁・中ノ坪遺跡第 9 地区　トレンチ配置図 …… 60
第 112 図　中桁・中ノ坪遺跡第 9 地区
　　トレンチ平面図・セクション図 …… 60
第 113 図　沢東 B 遺跡第 9 地区　位置図 …… 61
第 114 図　沢東 B 遺跡第 9 地区　トレンチ配置図 …… 61
第 115 図　沢東 B 遺跡第 9 地区　セクション図 …… 61
第 116 図　東平遺跡第 67 地区　位置図…… 62
第 117 図　東平遺跡第 67 地区　トレンチ配置図・セクション図… 62
第 118 図　滝下遺跡 L 地区　位置図 …… 63
第 119 図　滝下遺跡 L 地区　トレンチ配置図・セクション図 …… 63
第 120 図　東平遺跡第 64 地区　位置図…… 64
第 121 図　東平遺跡第 64 地区　トレンチ配置図・セクション図… 65
第 122 図　東平遺跡第 64 地区　セクション図…… 66
第 123 図　東平遺跡第 64 地区　出土遺物実測図…… 66
第 124 図　東平遺跡第 65 地区　位置図…… 67
第 125 図　東平遺跡第 65 地区　出土遺物実測図…… 67
第 126 図　東平遺跡第 65 地区
　　トレンチ配置図・セクション図 …… 68
第 127 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 2 次調査）
　　位置図 …… 68
第 128 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 2 次調査）
　　トレンチ配置図・セクション図 …… 69
第 129 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 2 次調査）
　　出土遺物実測図① …… 70
第 130 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 2 次調査）
　　出土遺物実測図② …… 70
第 131 図　柏原遺跡第 8 地区　位置図 …… 71
第 132 図　柏原遺跡第 8 地区　トレンチ配置図 …… 71
第 133 図　柏原遺跡第 8 地区　セクション図 …… 72
第 134 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　位置図…… 73
第 135 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　トレンチ配置図…… 73
第 136 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区
　　トレンチ平面図・セクション図 …… 74
第 137 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　出土遺物実測図 …… 74
第 138 図　祢宜ノ前遺跡第 5 地区　位置図 …… 75
第 139 図　祢宜ノ前遺跡第 5 地区　出土遺物実測図 …… 75
第 140 図　祢宜ノ前遺跡第 5 地区　トレンチ配置図 …… 75
第 141 図　祢宜ノ前遺跡第 5 地区　セクション図 …… 75
第 142 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）位置図 …… 76
第 143 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）
　　トレンチ配置図 …… 76
第 144 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）
　　トレンチ平面図・セクション図 …… 77
第 145 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）
　　出土遺物実測図① …… 78
第 146 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）
　　出土遺物実測図② …… 79
第 147 図　元吉原宿遺跡第 3 地区　位置図 …… 80
第 148 図　元吉原宿遺跡第 3 地区　出土遺物実測図 …… 80
第 149 図　元吉原宿遺跡第 3 地区　トレンチ配置図 …… 80
第 150 図　元吉原宿遺跡第 3 地区　セクション図 …… 80
第 4 節　埋蔵文化財包蔵地の内容変更と新規登録
第 151 図　高徳坊遺跡 …… 82
第 152 図　滝下遺跡 …… 82
第 153 図　川窪遺跡 …… 82
第 154 図　天間沢遺跡 …… 82
第 155 図　比奈 1 古墳群、富士岡 1 古墳群、前の原遺跡 …… 82

第 2 章　天間沢遺跡の調査
第 1 節　天間沢遺跡の概要
第 156 図　天間沢遺跡の位置と周辺地形図 ……111
第 157 図　天間沢遺跡　調査履歴図 ……112
第 158 図　天間沢遺跡　縄文時代の遺跡分布状況 ……114
第 159 図　天間沢遺跡　古墳時代の遺跡分布状況 ……115
第 160 図　天間沢遺跡　中心地の遺構分布状況 ……116
第 161 図　天間沢遺跡　主な遺構・遺物 ……117
第 2 節　第 33 地区の調査成果
第 162 図　天間沢遺跡第 33 地区　位置図……118
第 163 図　天間沢遺跡第 33 地区　トレンチ配置図……118
第 164 図　天間沢遺跡第 33 地区　セクション図……118
第 3 節　第 34 地区の調査成果
第 165 図　天間沢遺跡第 34 地区　位置図……119
第 166 図　天間沢遺跡第 34 地区　トレンチ配置図……119
第 167 図　天間沢遺跡第 34 地区　セクション図……120
第 4 節　第 35 地区の調査成果
第 168 図　天間沢遺跡第 35 地区　位置図……120
第 169 図　天間沢遺跡第 35 地区　トレンチ配置図……120
第 170 図　天間沢遺跡第 35 地区　セクション図……121
第 5 節　第 36 地区の調査成果
第 171 図　天間沢遺跡第 36 地区　位置図……121

第 172 図　天間沢遺跡第 36 地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 122
第 6 節　第 37 地区の調査成果
第 173 図　天間沢遺跡第 37 地区　位置図 …… 123
第 174 図　天間沢遺跡第 37 地区　トレンチ配置図 …… 123
第 175 図　天間沢遺跡第 37 地区　セクション図 …… 124
第 176 図　天間沢遺跡第 37 地区　出土遺物実測図 …… 124
第 7 節　第 38 地区の調査成果
第 177 図　天間沢遺跡第 38 地区　位置図 …… 126
第 178 図　天間沢遺跡第 38 地区　トレンチ配置図 …… 126
第 179 図　天間沢遺跡第 38 地区　セクション図 …… 126
第 8 節　第 39 地区の調査成果
第 180 図　天間沢遺跡第 39 地区　位置図 …… 127
第 181 図　天間沢遺跡第 39 地区　トレンチ配置図 …… 127
第 182 図　天間沢遺跡第 39 地区　セクション図 …… 128
第 183 図　天間沢遺跡第 39 地区　出土遺物実測図 …… 128

第 3 章　石坂 2 古墳群の調査
第 1 節　石坂 2 古墳群の概要
第 184 図　石坂 2 古墳群の位置と周辺地形図 …… 129
第 185 図　石坂 2 古墳群周辺の主な古墳 …… 130
第 2 節　第 2 地区（二タ子塚第 2 号墳）の調査成果
第 186 図　石坂 2 古墳群第 2 地区　位置図 …… 131
第 187 図　二タ子塚第 2 号墳　墳丘平面図・エレベーション図 … 132
第 188 図　二タ子塚第 2 号墳
トレンチ配置図・主軸セクション図 …… 133
第 189 図　二タ子塚第 2 号墳　トレンチ平面図 …… 134
第 190 図　二タ子塚第 2 号墳　セクション図 …… 135
第 191 図　二タ子塚第 2 号墳　出土遺物実測図 …… 136
第 3 節　第 4 地区の調査成果
第 192 図　石坂 2 古墳群第 4 地区　位置図 …… 137
第 193 図　石坂 2 古墳群第 4 地区
トレンチ配置図・セクション図 …… 138

第 4 章　コーカン畑遺跡　第 2 地区の調査
第 2 節　調査の経緯
第 194 図　コーカン畑遺跡位置図 …… 140
第 3 節　立地と基本土層
第 195 図　調査地位置図 …… 141
第 196 図　1 次調査　トレンチ平面図・セクション図 …… 142
第 197 図　基本土層図 …… 143
第 4 節　縄文時代の遺構と遺物
第 198 図　SS01 …… 143
第 199 図　縄文時代　遺構全体図 …… 144
第 200 図　縄文時代　土坑 …… 145
第 201 図　縄文時代　ピット …… 146
第 202 図　縄文時代　遺構出土遺物 …… 147
第 203 図　縄文時代遺構外出土遺物　①（縄文土器） …… 148
第 204 図　縄文時代遺構外出土遺物　②（縄文土器） …… 149
第 205 図　縄文時代遺構外出土遺物　③（石器） …… 149
第 206 図　縄文時代　遺物・礫出土状況図 …… 150
第 5 節　弥生時代以降の遺構と遺物
第 207 図　弥生時代以降　遺構全体図 …… 153
第 208 図　SB01・SB05 …… 154
第 209 図　SB01　出土遺物 …… 154
第 210 図　SB02 …… 155
第 211 図　SB02 カマド …… 156
第 212 図　SB02 出土遺物 …… 157
第 213 図　SB06 …… 158
第 214 図　SB03 …… 159
第 215 図　SB03 カマド …… 160
第 216 図　SB03 出土遺物 …… 161
第 217 図　SB04 …… 162
第 218 図　SB04 カマド …… 163
第 219 図　SB04 出土遺物 …… 163
第 220 図　SD02 出土遺物 …… 164
第 221 図　SD01 …… 165
第 222 図　SD05 …… 165
第 223 図　SD02 …… 165
第 224 図　SK01 …… 166
第 225 図　弥生時代以降　ピット …… 166

第 5 章　中桁・中ノ坪遺跡　第 6 地区の調査
第 1 節　中桁・中ノ坪遺跡の概要
第 226 図　中桁・中ノ坪遺跡の位置と周辺地形図 …… 169
第 227 図　中桁・中ノ坪遺跡　周辺の状況 …… 170
第 2 節　第 6 地区の調査成果
第 228 図　調査地位置図 …… 171
第 229 図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図 …… 171
第 230 図　本調査区全体図 …… 172
第 231 図　基本土層図 …… 172
第 232 図　SB01 …… 173
第 233 図　SB01 出土遺物実測図 …… 173
第 234 図　SB02 …… 175
第 235 図　SB02 カマド …… 175
第 236 図　SB02 カマド遺物出土状況図 …… 176
第 237 図　SB02 出土遺物実測図 …… 176
第 238 図　SB03 …… 177
第 239 図　SB03 カマド …… 178
第 240 図　SB03 出土遺物実測図 …… 178
第 241 図　SB03 カマド遺物出土状況図 …… 179
第 242 図　SB04 …… 180
第 243 図　SB04 カマド …… 181
第 244 図　SB04 出土遺物実測図 …… 182
第 245 図　SX01 出土遺物実測図 …… 183
第 246 図　SX・SK・Pit …… 184

第 6 章　三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）の調査
第 1 節　東平遺跡・三日市廃寺跡の概要
第 247 図　東平遺跡の調査区 …… 185
第 2 節　第 60 地区の調査成果
第 248 図　調査地位置図 …… 186
第 249 図　1 次調査　平面図・セクション図 …… 187
第 250 図　2 次調査　全体図 …… 187
第 251 図　基本土層 …… 188
第 252 図　SB01・SB02 …… 188
第 253 図　SB01　出土遺物 …… 189
第 254 図　SB02　カマド …… 189
第 255 図　SB02　出土遺物 …… 190
第 256 図　SB03 …… 192
第 257 図　SB03　カマド …… 193
第 258 図　SB03　出土遺物 …… 193

第 259 図　SB04 ……195
第 260 図　SB04　出土遺物 ……195
第 261 図　SB05 ……196
第 262 図　SK01 ……197
第 263 図　SX01 ……197
第 264 図　Pit01 ～ 05 ……197
第 265 図　表採遺物 ……197

第 7 章　比奈 1 古墳群　第 9 地区の調査
第 1 節　調査の経緯と経過
第 266 図　調査地位置図 ……199
第 267 図　1 ～ 4 次調査トレンチ配置図・セクション図 ……200
第 268 図　原田亀窪第 2 号墳　現況図・セクション図 ……201
第 2 節　遺跡の立地と調査履歴
第 269 図　周辺遺跡分布図 ……203
第 3 節　比奈 G －第 74 号墳の調査成果
第 270 図　比奈 G －第 74 号墳　現況図・断面図……205
第 271 図　比奈 G －第 74 号墳　検出状況図……206
第 272 図　比奈 G －第 74 号墳
　横穴式石室検出状況図（第 1 床面）……208
第 273 図　比奈 G －第 74 号墳　横穴式石室断面図……209
第 274 図　比奈 G －第 74 号墳　横穴式石室展開図（第 2 床面）…210
第 275 図　比奈 G －第 74 号墳
　横穴式石室基底石配置図・墓坑図 ……211
第 276 図　比奈 G －第 74 号墳
　横穴式石室床面遺物出土状況図 ……212
第 277 図　比奈 G －第 74 号墳
　横穴式石室前庭部遺物出土状況図 ……213
第 278 図　比奈 G －第 74 号墳　石室内出土遺物（金属製品）……214
第 279 図　比奈 G －第 74 号墳　石室内出土遺物（玉類）……214
第 280 図　比奈 G －第 74 号墳　出土遺物……215

第 8 章　資料報告
第 1 節　清水岩の上遺跡出土の弥生土器
第 281 図　清水岩の上遺跡の位置 ……218
第 282 図　清水岩の上遺跡出土土器① ……220
第 283 図　清水岩の上遺跡出土土器② ……221
第 284 図　清水岩の上遺跡と周辺の遺跡 ……222
第 285 図　周辺遺跡出土土器 ……224
第 286 図　駿河から甲府へ至る道 ……225
第 2 節　中村上第 1 号墳出土の須恵器
第 287 図　中村上第 1 号墳　出土遺物 ……226
第 288 図　中村上第 1 号墳出土　須恵器提瓶 ……226
第 289 図　中村上第 1 号墳　石室床面遺物出土状況図 ……227

挿表目次

第1章　平成24・25年度の調査

第1節　調査体制と調査概要

第1表　富士市内における届出・調査件数の推移 …… 1

第2表　発掘調査面積の推移 …… 1

第3表　平成24・25年度発掘調査一覧 …… 4

第2節　平成24年度の発掘調査報告

第4表　舟久保遺跡第51地区　出土遺物観察表 …… 8

第5表　中島遺跡第9地区　出土遺物観察表 …… 16

第6表　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）出土遺物観察表 …… 20

第7表　沢東A遺跡第13次調査地点　出土遺物観察表 …… 24

第8表　ジンゲン沢遺跡第4地区　出土遺物観察表 …… 33

第9表　沖田遺跡工事立会　出土遺物観察表 …… 40

第3節　平成25年度の発掘調査報告

第10表　三日市廃寺跡（東平遺跡第61地区）出土遺物観察表 …… 41

第11表　東平遺跡第62地区　出土遺物観察表 …… 48

第12表　沖田遺跡第150次調査地点　出土遺物観察表 …… 51

第13表　三日市廃寺跡（東平遺跡第63地区）出土遺物観察表 …… 54

第14表　東平遺跡第64地区　出土遺物観察表 …… 67

第15表　東平遺跡第65地区　出土遺物観察表 …… 68

第16表　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－2次調査）出土遺物観察表 …… 70

第17表　中桁・中ノ坪遺跡第10地区　出土遺物観察表 …… 74

第18表　祢宜ノ前遺跡第5地区　出土遺物観察表 …… 75

第19表　三日市廃寺跡（東平遺跡第66地区）　出土遺物観察表… 78

第20表　元吉原宿遺跡第3地区　出土遺物観察表 …… 80

第2章　天間沢遺跡の調査

第1節　天間沢遺跡の概要

第21表　天間沢遺跡調査履歴 …… 113

第22表　天間沢遺跡　時代別検出遺構数 …… 115

第6節　第37地区の調査成果

第23表　天間沢遺跡第37地区　出土遺物観察表 …… 125

第8節　第39地区の調査成果

第24表　天間沢遺跡第39地区　出土遺物観察表 …… 128

第3章　石坂2古墳群の調査

第2節　第2地区（二タ子塚第2号墳）の調査成果

第25表　二タ子塚第2号墳　出土遺物観察表 …… 136

第4章　コーカン畑遺跡　第2地区の調査

第4節　縄文時代の遺構と遺物

第26表　縄文時代　土坑・ピット一覧 …… 147

第27表　縄文遺構出土遺物観察表 …… 147

第28表　遺構外出土遺物観察表 …… 151

第5節　弥生時代以降の遺構と遺物

第29表　SB01出土遺物観察表 …… 154

第30表　SB02出土遺物観察表 …… 157

第31表　SB03出土遺物観察表 …… 161

第32表　SB04出土遺物観察表 …… 164

第33表　SD02出土遺物観察表 …… 164

第34表　弥生時代以降　ピット一覧 …… 166

第6節　まとめ

第35表　検出遺構一覧 …… 167

第5章　中桁・中ノ坪遺跡　第6地区の調査

第2節　第6地区の調査成果

第36表　SB01出土遺物観察表 …… 174

第37表　SB02出土遺物観察表 …… 177

第38表　SB03出土遺物観察表 …… 179

第39表　SB04出土遺物観察表 …… 183

第40表　SX01出土遺物観察表 …… 183

第6章　三日市廃寺跡（東平遺跡　第60地区）の調査

第2節　第60地区の調査成果

第41表　SB01出土遺物観察表 …… 189

第42表　SB02出土遺物観察表 …… 191

第43表　SB03出土遺物観察表 …… 194

第44表　SB04出土遺物観察表 …… 196

第45表　SK・Pit・SX　規模等一覧表 …… 198

第46表　表採遺物観察表 …… 198

第7章　比奈1古墳群　第9地区の調査

第2節　遺跡の立地と調査履歴

第47表　比奈古墳群　調査履歴一覧 …… 203

第3節　比奈G－第74号墳の調査成果

第48表　比奈G－第74号墳　出土遺物観察表 …… 216

写真図版目次

カラー図版　1
　中島遺跡　第９地区
カラー図版　2～3
　石坂２古墳群　第２地区
カラー図版　4～5
　コーカン畑遺跡　第２地区
カラー図版　6・7
　中桁・中ノ坪遺跡　第６地区
カラー図版　8・9
　三日市廃寺跡　（東平遺跡　第 60 地区）
カラー図版　10～13
　比奈１古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）
カラー図版　14～16
　清水岩の上遺跡

PL.1　天間沢遺跡
　第 33 地区　調査写真
　　1．調査地全景（南から）
　　2．3Tr 北壁セクション
　第 34 地区　調査写真
　　1．調査地全景（北東から）
　　2．1・2Tr 完掘（西から）
　　3．4Tr 完掘（南から）
　　4．5Tr 完掘（南東から）
　第 35 地区　調査写真
　　1．1Tr 北壁セクション
　　2．2Tr 完掘（南東から）
PL.2　天間沢遺跡
　第 36 地区　調査写真
　　1．2Tr 完掘（南東から）
　　2．2Tr 北壁セクション
　　3．4Tr 完掘（南東から）
　　4．6Tr 完掘（北西から）
　第 38 地区　調査写真
　　1．調査地全景（東から）
　　2．1Tr 北壁セクション
　　3．2Tr 完掘（南東から）
PL.3～4　天間沢遺跡
　第 37 地区　調査写真
　　1．1Tr 完掘（西から）
　　2．2Tr 完掘（南から）
　　3．2TrSB01 検出（北から）
　　4．2TrSB01 セクション（南から）
　　5．1Tr 遺物出土状況
　　6．2Tr 東壁セクション南端
　　7．3Tr 完掘（南西から）
　第 37 地区　出土遺物
PL.5　天間沢遺跡
　第 39 地区　調査写真
　　1．調査地全景（東から）
　　2．1Tr 完掘（東から）
　　3．1TrSK01・SK02 検出（西から）
　　4．2Tr 完掘（南東から）
　　5．2Tr 北壁セクション西端
　第 39 地区　出土遺物
PL.6～11　石坂２古墳群
　第２地区　調査写真
　　1．二タ子塚第２号墳調査前全景（南から）
　　2．二タ子塚第２号墳墳頂（南から）
　　3．二タ子塚第２号墳
　　　石室奥壁残存状況（北から）
　　4．トレンチ完掘全景（南から）
　　5．1Tr 完掘（南から）
　　6．1Tr 東壁セクション（西から）
　　7．1Tr 北壁セクション（南から）
　　8．2Tr 完掘（南東から）
　　9．2Tr 西壁セクション（南東から）
　　10．3Tr 完掘（南西から）
PL.12　石坂２古墳群
　第２地区　出土遺物
PL.13　石坂２古墳群
　第４地区　調査写真
　　1．調査前　二タ子塚第１号墳現況(西から)
　　2．1Tr 完掘（西から）
　　3．1Tr 北壁（南西から）
　　4．1Tr 東端（西から）
　　5．2Tr 完掘（南西から）
　　6．3Tr 完掘（北から）
　　7．5Tr 完掘（北東から）
PL.14～18　コーカン畑遺跡
　第２地区　調査写真
　　1．調査地全景（南から）
　　2．SB01・SB05（北から）
　　3．SB01 カマド（北から）
　　4．Ⅰ区西側全景（北東から）
　　5．Ⅰ区 SD02（東から）
　　6．SB02（南から）
　　7．SB02 カマド（南から）
　　8．SB02-Pit02（南西から）
　　9．SB02・SB06（南西から）
　　10．SB03（南から）
　　11．SB03 カマド（南から）
　　12．SB03（西から）
　　13．SB03 カマド（南から）
　　14．SB03 カマド（北東から）
　　15．SB03 カマド（南から）
　　16．SB04（南西から）
　　17．SB04 カマド（西から）
　　18．Ⅱ区第２面全景（南から）
　　19．SS01（南から）
　　20．SS01（南から）
PL.19～23　コーカン畑遺跡
　第２地区　出土遺物
PL.24～29　中桁・中ノ坪遺跡
　第６地区　調査写真
　　1．調査地全景（南西から）
　　2．調査地全景（南から）
　　3．SB01 完掘（南から）
　　4．SB02 カマド遺物検出（西から）
　　5．SB02 カマド遺物検出（南から）
　　6．SB02 全景（南から）
　　7．SB03 全景（西から）
　　8．SB03 カマド遺物検出（北から）
　　9．SB03 カマド完掘（西から）
　　10．SB04 完掘（東から）
　　11．SB04 カマド完掘（南から）
PL.30～33　中桁・中ノ坪遺跡
　第６地区　出土遺物
PL.34～38　三日市廃寺跡
　東平遺跡第 60 地区　調査写真
　　1．遺構検出全景（東から）
　　2．SB01・02・03（西から）
　　3．SB02 カマド遺物出土状況（南から）
　　4．SB02 カマド（南から）
　　5．SB03（南から）
　　6．SB03 カマド（南から）
　　7．SB03 カマド袖下出土遺物（南から）
　　8．SB03・04（南から）
　　9．SB04 カマド（南西から）
　　10．SB05 カマド（北から）
　　11．Pit01・02・03
PL.39～43　三日市廃寺跡
　東平遺跡第 60 地区　出土遺物
PL.44～51　比奈１古墳群
　比奈Ｇ－第 74 号墳　調査写真
　　1．石室　第１床面検出（南から）
　　2．石室　閉塞石（南から）
　　3．閉塞石外　遺物出土状況（南から）
　　4．第１床面（北から）
　　5．石室　東側壁（北西から）
　　6．石室　西側壁（北東から）
　　7．閉塞石（石室内から）
　　8．奥壁（石室内から）
　　9．石室　第２床面検出（南から）
　　10．第２床面（南から）
　　11．第２床面（北から）
　　12．床面　遺物（刀装具）出土状況
　　13．床面　遺物（足金物）出土状況
　　14．床面　遺物（鉄鏃）出土状況
　　15．第２床面　遺物（鉄鏃）出土状況
　　16．第２床面　遺物（鉄鏃）出土状況
　　17．石室　掘り方（南から）
　　18．石室　根石（南から）
PL.52～54　比奈１古墳群
　比奈Ｇ－第 74 号墳　出土遺物
PL.55～57　清水岩の上遺跡
　出土遺物
PL.58　中村上第１号墳
　石室床面遺物出土状況
　出土遺物

第１章　平成 24・25 年度の調査

第１節　調査体制と調査概要

１．調査体制

平成 24 年度および 25 年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。

平成 24 年度

〔事務局〕　富士市教育委員会　教 育 長　山田　幸男
　　教育次長　鈴木　清二
　　文化振興課　課　　長　渡井　義彦
　　主　　幹　前田　勝己
〔調査担当〕　文化振興課　上席主事　佐藤　祐樹
　　主　　事　藤村　　翔
　　臨時職員　服部　孝信
　　小島　利史
　　若林　美希

平成 25 年度

〔事務局〕　富士市教育委員会　教 育 長　山田　幸男
　　教育次長　鈴木　清二
　　文化振興課　課　　長　渡井　義彦
　　主　　幹　前田　勝己
〔調査担当〕　文化振興課　主　　査　石川　武男
　　上席主事　佐藤　祐樹
　　臨時職員　服部　孝信
　　小島　利史
　　若林　美希

２．調査件数

文化財保護法（以下、法）第 99 条に基づき、平成 24 年度は確認調査 30 件、本発掘調査２件、平成 25 年度は確認調査 37 件、本発掘調査４件を実施した。平成 20 年度の調査件数 21 件から、５年間で２倍に増えたことになる。特に、平成 24･25 年度は個人住宅建設（確認調査６件、本発掘調査２件）やそれに伴う比較的規模の小さい宅地造成などに伴う発掘調査が目立った。これは、消費税増税前の駆け込み開発に伴う調査件数の増加という要因とともに、後述するように法第 93 条の届出の徹底とその周知により、問い合わせ件数の増加によるものと考えられる。

その一方で平成 25 年度は 2,000㎡以上を対象面積とした確認調査も 12 件実施しており、リーマン・ショック以降冷え込んだ大規模開発が、以前の状況に戻ってきたようにも感じられる。

３．届出・通知の周知徹底と件数

富士市教育委員会では、これまでに開発と埋蔵文化財保護の円滑な調整のために、『富士市埋蔵文化財分布地図』を作成してきた。平成 24 年度も国庫補助事業として、分布地図を 1000 部作成し、平成 25 年４月、市内および、近隣市の開発業者や工務所、ハウスメーカーなどに無償で送付した。

また、その後も、埋蔵文化財包蔵地内における土木工事を行う際は、60 日前までに届出をするという法第 93 条を徹底するように、平成 25 年９月 10 日付けで富士市行政書士会富士支部長宛に富士市教育委員会教育長名で依頼文を送付した。

加えて、平成 25 年９月５日付けで静岡県宅地建物取引業協会富士支部長宛に同様の文書を送付するとともに、会員への周知徹底を目的とした勉強会を開催することとなった。平成 25 年 12 月２日、（公社）静岡県宅地

第１表　富士市内における届出・調査件数の推移

	法 93 条	法 94 条	法 99 条確認	法 99 条本調査
H20	10	17	19	2
H21	9	27	19	3
H22	33	32	28	0
H23	53	26	22	2
H24	62	23	30	2
H25	99	33	37	4

第２表　発掘調査面積の推移

	～ 499㎡	500 ～ 999㎡	1000 ～ 1999㎡	2000㎡～	合計
H20	1	4	8	8	21
H21	3	0	7	12	22
H22	14	6	3	5	28
H23	5	6	7	6	24
H24	12	8	6	6	32
H25	9	12	8	12	41

建物取引業協会富士支部および、（公社）全国宅地建物取引業保証協会静岡本部主催の「タッケンセミナー」において、「富士市埋蔵文化財包蔵地内土木工事における届出の徹底について」と題して、同協会会員に周知徹底を図った。

以上の周知の効果もあり、平成24年度の法93条に基づく届出は62件、平成25年度は99件であった。平成20年度が10件であったことを考えると10倍の増加である。

一方、公共工事については、前年度の2月に、次年度の公共事業の全リストを文化振興課に提出するように全庁に求め、そのリストを元に法94条の通知の必要な事業、事前の確認調査の実施が必要な事業などを回答している。平成24年度は23件、平成25年度は33件の通知があり、平成20年度の17件に対して2倍の増加である。

4．発掘調査の概要

縄文時代　平成24・25年度は比較的、縄文時代の調査が目立った。その中でも天間沢遺跡での確認調査が合計6件実施されている。天間沢遺跡は富士市と富士宮市との市境付近に所在する富士市を代表する縄文時代の遺跡であるが、昭和40年代後半以降、あまり開発がなく、調査もあまり行われてこなかった。天間沢遺跡におけるこれまでの調査については別章でまとめることとするが、近年は、個人住宅や共同住宅（長屋）建設に伴う調査が増加している。平成25年に行われた第37・39地区はかつて面的な調査が行われた市立天間幼稚園の東側に接した箇所の調査で、大きな谷に向かって傾斜し始める台地上の調査である。曽利Ⅲ式の竪穴建物跡やピットなどが検出され、井戸尻式～曽利式の土器もまとまって出土した。ともに、個人住宅建設に伴う確認調査で、保護層が確保されたため本発掘調査は実施していない。

中島遺跡第9地区では堀ノ内2式の埋甕が検出、調査されている。これまで、学術調査において調査がなされてきたものの、成果を公表できていない同遺跡において貴重な成果といえる。今後は、松原川を挟んで西側に位置する宇東川遺跡との関係も注目されるところである。

また、市の東部に位置するコーカン畑遺跡第2地区の本発掘調査でも縄文時代の遺構･遺物が見つかっている。調査は個人住宅建設に伴う事前の本発掘調査で、保護層の図れない箇所について調査が実施された。第1面は弥生時代から平安時代までの遺構検出面にあたり、第2面において縄文時代の遺構を検出した。集石、土坑の遺構とともに塩屋中層式、五領ヶ台Ⅰ式の土器が比較的まとまって出土している。

弥生時代　富士市内には弥生時代の遺跡は少なく、しかもその多くが後期に限られている。前述のコーカン畑遺跡本発掘調査において、弥生時代後期の土器を伴う溝が検出された。また､沖田遺跡の工事立会い(比奈843－1)により大廓式前半と考えられる壺が出土した。

古墳・飛鳥時代　コーカン畑遺跡では、6軒の竪穴建物跡が調査された。これまで本地域に多く見られる「大淵スコリア」と称される富士系スコリア層は、古墳時代中期末に降下したものと考えられてきたが、古墳時代後期から7世紀にかけての建物跡の調査により、それらは、少なくとも三枚に区分できる可能性が指摘された（上杉2013)。

古墳の調査も行われた。石坂2古墳群では、現存する2基の古墳のうち二タ子塚第2号墳の調査が行われた(第2地区)。この調査は、不動産売買に伴い、古墳の範囲を確定することを目的として墳丘測量、開口部のトレンチ調査を行った。その結果、奥壁から前庭側壁南端までの石室全長は9.5 mを測ることが判明し、富士市域では、船津･寺の上第1号墳、三ツ沢･実円寺西第1号墳、須津・千人塚古墳、比奈・大坂上古墳に次ぐ規模の大型石室墳であることが確認された。

比奈1古墳群では、介護老人福祉施設建設に伴い比奈G－第74号墳の本発掘調査を行った。その結果、南北9.6 m、東西6.4 mの楕円形を呈する無袖型横穴式石室（残存長5.75 m）を主体部とする古墳であることを確認した。大刀足金物、鉄鏃、刀子、ガラス小玉等を検出し、石室構造及び遺物から古墳の築造時期を7世紀中葉～後葉、墓前祭祀の時期を8世紀代と想定している。そのほかにも比奈1古墳群では、踏査や工事立会いにより横穴式石室墳2基を新たに発見し､原田亀窪第1号墳、原田亀窪第2号墳として新規登録した。

奈良・平安時代　平成22年度より調査件数が増加している東平遺跡とくに三日市廃寺跡における調査が依然多く行われた。第59地区は、富士六所浅間神社社殿改築に伴う調査で、3,300㎡を対象とした確認調査が行われた。その結果、寺院に伴う建物跡は検出されなかったも

のの、敷地東側（社殿側）にのみ布目瓦が表採され、西側には、まったく見られないことが明らかとなった。以上のことから、寺域の西端と推定される範囲がこのあたりにあるのではないかと考えられる。また、第63地区、第66地区の調査地は平成23年度に個人住宅建設に伴い確認調査を実施し、布目平瓦の集積を確認した第55地区のそれぞれ西隣と東隣にあたる。布目瓦の出土範囲からは寺域の北端付近と考えられるが、それを区画するような直線的な溝は検出されなかった。調査地の北側は地山が上がるため、地山を削り出し、寺域の境界とした可能性も考えられる。

集落域の調査では、中桁・中ノ坪遺跡第6地区・第7地区の調査が注目される。第6地区は遺跡の北西端に位置し、公会堂建設に伴い市費負担により本発掘調査が行われた。その結果、8世紀から9世紀前半にかけての竪穴建物跡が検出され、「富」と墨書きされた土師器が出土し、その成果が新聞により大々的に報道された。第7地区では8世紀後半から9世紀前半にかけての溝が調査され、土師器・須恵器が多数出土した。それらには人為的破砕も認められることから水辺祭祀行為の存在も想定される。なお、第7地区は平成26年度にも改めて本発掘調査が行われることとなったため、調査成果はそちらで報告することとする。

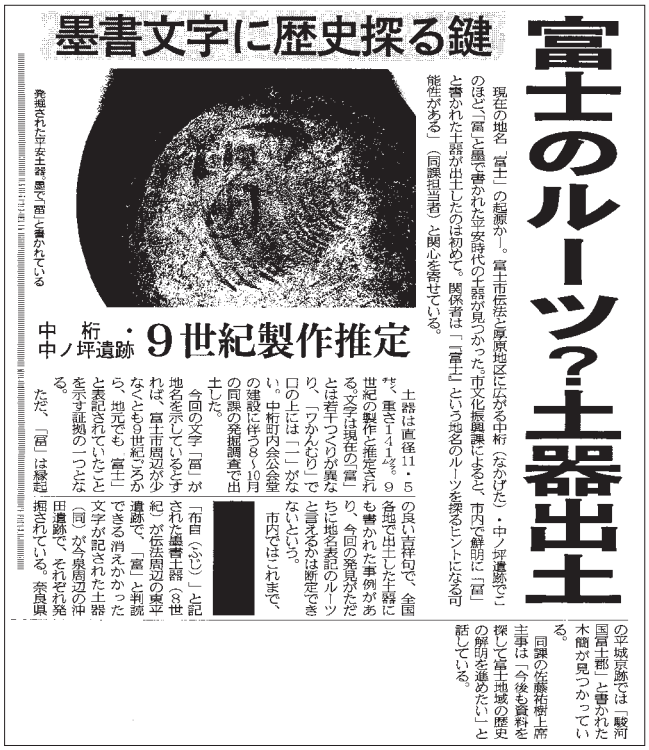
中世・近世　平成19年度より継続して確認調査を実施してきた、善得寺城跡・東泉院跡について、平成24年度は、主屋部分のトレンチ調査を実施した。平成25年度には、公園整備に伴い保護の図れない主屋部分300㎡を対象に平面的な本発掘調査を実施した。その結果、最低でも［文久二年］［寛政九年］の建物痕跡を確認する事が出来た。また、寛政年間に庭池として使用されていた掘り込みを瓦の廃棄場として利用した痕跡や、寛政二年の火災跡と推測される痕跡も注目される。平成24年度まで行った確認調査分については平成25年度末に報告書を刊行し（富士市教育委員会2014）、本発掘調査分については平成27年度に報告書を刊行する予定でいる。

元吉原宿遺跡では、16世紀の遺物が確認され、三日市廃寺跡における富士六所浅間神社本殿建替え工事に伴う確認調査において18世紀の灯明皿6枚がまとまって出土した。

参考文献

上杉　陽2013「静岡県富士市中柏原新田40「柏原遺跡」の地形地質」『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成22・23年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第54集　富士市教育委員会

富士市教育委員会2014『六所家総合調査報告書　埋蔵文化財』



富士のルーツ？土器出土

墨書文字に歴史探る鍵

中桁・中ノ坪遺跡 9世紀製作推定

現在の地名「富士」の起源か。富士市伝法と厚原地区に広がる中桁（なかけた）・中ノ坪遺跡でこのほど「富」と墨で書かれた平安時代の土器が見つかった。市文化振興課によると、市内で解読に「富」と書かれた土器が出土したのは初めて。関係者は「富士」という地名のルーツを探るヒントになる可能性がある」（同課担当者）と関心を寄せている。

土器は直径11・5㌢、高さ1・4㌢。9世紀の製作と推定され、「富」の文字は現在の「富」とは若干つくりが異なり、「ワかんむり」の口の上には「一」がない。中桁町内会公会堂の建設に伴う8～10月の同課の発掘調査で出土した。

今回の文字「富」が地名を示しているとすれば、富士周辺が少なくとも9世紀ごろから、地元でも「富士」と表記されていたこと（同）が今泉周辺の神田遺跡で、それぞれ発掘されている。奈良県の平城京跡では「駿河国富士郡」と書かれた木簡が見つかっている。

同課の佐藤祐樹上席主事は「今後も資料を探して富士地域の歴史の解明を進めたい」と話している。

「布目（ぬの）」と記された墨書土器（8世紀）が伝法周辺の東平遺跡で、「富」と判読できる消えかかった文字が記された土器。ただ、「富」は縁起

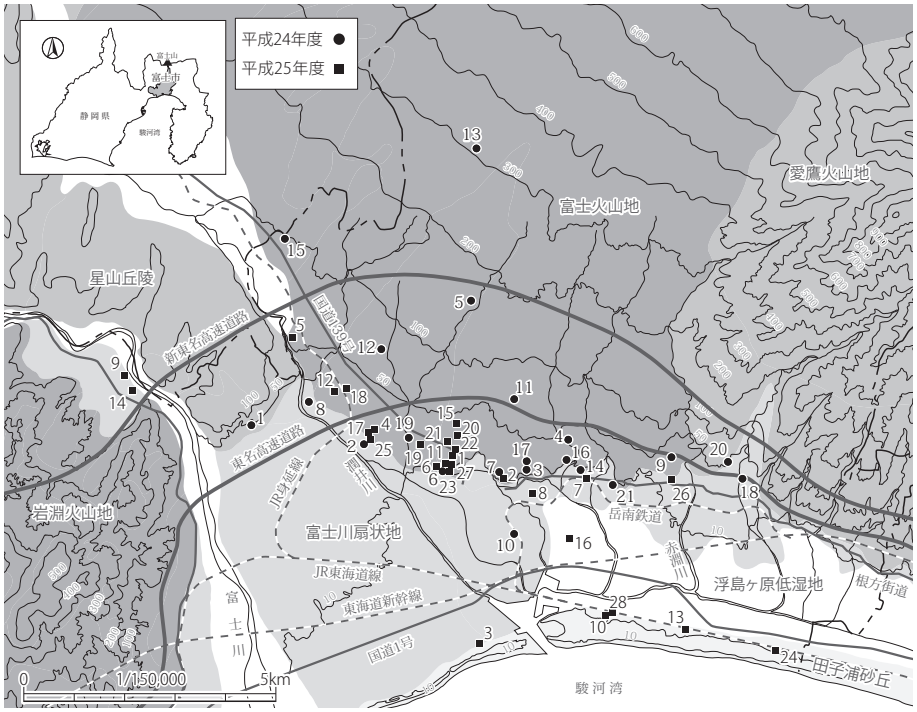
発掘された平安土器 墨で「富」と書かれている

平成24年11月10日（土曜日）　静岡新聞朝刊31面に掲載された記事（一部加工）

第3表　平成24・25年度発掘調査一覧

調査年度	所収番号		遺跡名 地区名	調査区分	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積（㎡） 調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	調査担当者
H24	第1章 第2節	1	念信園遺跡 第1地区	確認	20120416 ～20120418	岩本1964－1　外 生活介護事業所建設	2,636 21		なし	土師器	藤村・小島
H24	第1章 第2節	2	中桁・中ノ坪遺跡 第5地区	確認	20120424	伝法1320－4の内 携帯電話用無線局建設	302 24		なし	なし	藤村・若林
H24	第1章 第2節	3	舟久保遺跡 第51地区	確認	20120523 ～20120525	今泉6丁目1215－2　外 宅地分譲	1,339 103	奈良・平安	性格不明遺構	土師器	佐藤・若林
H24	第4章		コーカン畑遺跡 第2地区　1次調査	確認	20120529 ～20120601	江尾727－1 不動産売買	472 46	縄文 古墳	柱穴・不明遺構 竪穴建物跡・溝状遺構	縄文土器・石器 土師器	藤村・小島
H24	第1章 第2節	4	中島遺跡 第9地区	確認	20120604 ～20120619	原田767－1　外 共同住宅新築	937 107	縄文	竪穴建物跡・埋甕・土坑 ピット・性格不明遺構	縄文土器・石器	佐藤・若林
H24	第3章 第2節		石坂2古墳群 第2地区　3次調査	確認	20120618 ～20120724	石坂618－76 土地売買	283 18	古墳	横穴式石室 (二タ子塚第2号墳)	須恵器	藤村・小島
H24	第1章 第2節	5	井倉遺跡 第1地区	確認	20120709 ～20120710	中野413－5　外 店舗建設・駐車場造成	1,733 82	近世以降	溝	なし	佐藤・若林
H24	第5章		中桁・中ノ坪遺跡 第6地区　1次調査	確認	20120718 ～20120720	厚原427－1 公会堂建設	220 22	奈良	竪穴建物跡2軒	土師器	佐藤・若林
H24	第1章 第2節	6	三日市廃寺跡 (東平遺跡第59地区　1次調査)	確認	20120724 ～20120821	浅間本町5－1 社殿改築工事	3,300 177	古墳後期 ～奈良・平安	竪穴建物跡・ピット	須恵器・土師器 瓦	藤村・服部 小島
H24	第1章 第2節	7	善得寺城跡・東泉院跡 第2地区	確認	20120724	今泉8丁目1432－3 宅地造成	475 5		なし	なし	佐藤・若林
H24	第1章 第2節	8	沢東A遺跡 第13次調査地点	確認	20120806 ～20120809	久沢112－1　外 集合住宅新築	852 24	古墳	竪穴建物跡	土師器・須恵器・石器	佐藤・若林
H24	第4章		コーカン畑遺跡 第2地区　2次調査	本調査	20120806 ～20120927	江尾727－1 個人住宅建設	472 173	縄文 弥生 古墳～平安	集石遺構・土坑・柱穴 溝状遺構 竪穴建物跡・柱穴・溝状遺構	縄文土器・石器 土師器・須恵器	藤村・服部
H24	第5章		中桁・中ノ坪遺跡 第6地区　2次調査	本調査	20120827 ～20121009	厚原427－1 公会堂建設	220 77	奈良・平安	竪穴建物跡4軒	土師器・須恵器	佐藤・若林
H24	第1章 第2節	9	富士岡1古墳群 第13地区　1次調査	確認	20121120	比奈1747－1　外 宅地分譲	1,673 45	縄文～古墳	なし	縄文土器片 須恵器片	藤村・佐藤 若林
H24	第2章 第2節		天間沢遺跡 第33地区	確認	20121129	天間1050－1の一部 集合住宅新築	896 12		なし	なし	佐藤・小島
H24	第2章 第3節		天間沢遺跡 第34地区	確認	20121205 ～20121206	天間964－1外および官有地 宅地分譲地造成	2,158 72	縄文	なし	縄文土器	藤村・若林
H24	第1章 第2節	10	中吉原宿遺跡 第7地区	確認	20121206 ～20121207	八代町185－1の内 教育複合施設建設	8,577 51		なし	なし	佐藤・小島
H24	第1章 第2節	11	石坂7古墳群 第2地区	確認	20121207 ～20121213	今泉3743－2　外 集合住宅新築	1,975 160		なし	なし	佐藤・小島
H24	第1章 第2節	12	厚原横道下遺跡 第4地区	確認	20121211	厚原1209－1　外 宅地分譲地造成	3,847 146		なし	なし	藤村・若林
H24	別途 本報告		中桁・中ノ坪遺跡 第7地区　1次調査	確認	20130121 ～20130131	伝法1257－1　外 不動産売買	3,592 465	奈良～平安	竪穴建物跡23軒 土坑・ピット	土師器・須恵器 石器	佐藤・小島
H24	第1章 第2節	9	富士岡1古墳群 第13地区　2次調査	確認	20130128 ～20130129	比奈1747－1　外 宅地分譲	1,673 165		なし	なし	藤村・服部 若林
H24	第1章 第2節	13	大渕城跡 第1地区	確認	20130201	大淵2213－175 不動産売買	267 8		なし	なし	藤村・服部
H24	第1章 第2節	14	沖田遺跡 第148次調査地点	確認	20130205	宇東川東町168－1 不動産売買	400 3		なし	なし	佐藤・小島
H24	第3章 第3節		石坂2古墳群 第4地区	確認	20130205 ～20130207	大淵201－2　外 福祉施設建設	993 53		なし	なし	藤村・若林
H24	第1章 第2節	15	ジンゲン沢遺跡 第4地区	確認	20130214 ～20130215	天間951－1　外 宅地分譲	817 38	縄文	竪穴建物跡・溝状遺構	縄文土器・石器	藤村・若林
H24	第6章		三日市廃寺跡 (東平遺跡第60地区　1次調査)	確認	20130220	浅間上町2921－2　外 個人住宅建設	386 3	奈良・平安	竪穴建物跡	土師器・須恵器	藤村・若林
H24	第1章 第2節	16	宇東川遺跡 R地区	確認	20130220	宇東川西町577－1 不動産売買	343 9	縄文	なし	縄文土器片	佐藤
H24	第1章 第2節	17	舟久保遺跡 第52地区	確認	20130227	今泉6丁目1658－5　外 集合住宅新築	864 13		なし	なし	佐藤・若林
H24	第1章 第2節	18	神谷古墳群 第9地区	確認	20130305	中里1763－1 不動産売買	416 17		なし	なし	藤村・若林
H24	第1章 第2節	19	伝法1古墳群 (東平遺跡第70地区)	確認	20130319	伝法2700－11　外 宅地分譲	1,727 27		なし	なし	藤村・若林
H24	第1章 第2節	20	中里3古墳群 第5地区	確認	20130326	中里2150－1 農地改良	576 23		なし	なし	藤村・若林
H24	第1章 第2節	21	沖田遺跡	工事立会	20130722 20130726 20130903	比奈843－1　外 宅地造成	950	弥生後期 古墳後期 ～7世紀	竪穴建物跡2軒	弥生土器 土師器 須恵器	佐藤
H25	第1章 第3節	1	三日市廃寺跡 (東平遺跡第61地区)	確認	20130405	浅間上町2902－23の一部 宅地造成分譲	867 43	奈良・平安	竪穴建物跡・ピット	灰釉陶器 土師器・須恵器	佐藤・石川 小島・服部
H25	第2章 第4節		天間沢遺跡 第35地区	確認	20130418	天間1174－3　外 宅地造成分譲	1,985 38		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	2	善得寺城跡・東泉院跡 第3地区	確認	20130422 ～20130426	今泉8丁目1445－1の内 駐車場造成	577 76	平安	竪穴建物跡	土師器	佐藤・小島 服部
H25	第1章 第3節	3	村添遺跡 第1地区	確認	20130516	田子361 公会堂建設	1,148 15		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	4	中桁・中ノ坪遺跡 第8地区	確認	20130520 ～20130521	厚原441－3　外 宅地造成分譲	636 22	奈良・平安	ピット	土師器・須恵器	石川・服部
H25	第1章 第3節	5	林泉寺砦跡 第1地区	確認	20130522	入山瀬2丁目239－2 公会堂建設	1,363 12		なし	なし	石川・服部
H25	別途 本報告		善得寺城跡・東泉院跡 第1地区　6次調査	本調査	20130531 ～20130924	今泉8丁目1428－1　外 吉原公園再整備	300 287	近世	建物跡・ピット 土坑・性格不明遺構	陶磁器・瓦 金属製品	佐藤
H25	第7章		比奈1古墳群 第9地区　1次調査	確認	20130607 ～20130611	原田2005　外 介護老人福祉施設建設	5,154 348	縄文 古墳	古墳	縄文土器 須恵器	石川・服部
H25	第6章		三日市廃寺跡 (東平遺跡第60地区　2次調査)	本調査	20130611 ～20130709	浅間上町2921－2　外 個人住宅建設	386 99	奈良～平安	竪穴建物跡5軒 ピット5基・土坑1基	土師器・須恵器 石器	石川
H25	第1章 第3節	6	東平遺跡 東平遺跡第62地区　1次調査	確認	20130716 ～20130718	伝法2988－1　外 宅地造成	664 54	奈良・平安	土坑・ピット	土師器・須恵器 瓦	石川・服部
H25	第1章 第3節	7	沖田遺跡 第149次調査地点	確認	20130726	原田214　外 葬祭場建設	4,551 22		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	8	沖田遺跡 第150次調査地点	確認	20130722 ～20130725	今泉2丁目86－1 宅地分譲、分譲マンション建設	6,614 145	奈良・平安 弥生～古墳	水田跡	須恵器・土師器・木器 土師器	石川・服部
H25	第1章 第3節	9	中野石切場遺跡 第1地区	確認	20130730	南松野2316－20 水源地施設整備	967 44		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	10	元吉原宿遺跡 第2地区	確認	20130801 ～20130802	今井1丁目2－5 個人住宅建替	439 1		なし	なし	佐藤・小島 服部
H25	第1章 第3節	11	三日市廃寺跡 (東平遺跡第63地区)	確認	20130805 ～20130807	浅間上町2978－4　外 個人住宅建設	231 45	奈良・平安	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	石川・服部
H25	第7章		比奈1古墳群 第9地区　2次調査	確認	20130819 ～20130828	原田2028－2　外 介護老人福祉施設建設	8,314 887		なし	なし	石川・服部

調査年度	所収番号		遺跡名 地区名	調査区分	調査期間	所在地 原因・目的	対象面積（㎡） 調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	調査担当者
H25	第1章 第3節	6	東平遺跡 東平遺跡第62地区　2次調査	確認	20130828	伝法 2988－1　外 宅地造成	664 8		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	12	沢東B遺跡 隣接地（第8地区）	試掘	20130904	厚原 179－1　外 介護施設新築	1,415 10		なし	なし	石川・服部
H25	第2章 第5節		天間沢遺跡 第36地区	確認	20130909 ～20130911	天間 1263　外 宅地分譲敷地造成	2,178 82		なし	なし	石川・服部
H25	第1章 第3節	13	三新田遺跡 L地区	確認	20130918 ～20130919	檜新田 264－1　外 道路築造	740 10		なし	なし	佐藤・服部
H25	第1章 第3節	14	丸崎遺跡 第2地区	確認	20130925 ～20130927	南松野 2189－7　外 資材置場・事務所・倉庫建設	14,270 37		なし	なし	石川・服部
H25	第2章 第6節		天間沢遺跡 第37地区	確認	20131001 ～20131004	天間 1010－5 個人住宅新築	398 46	縄文	竪穴建物跡・ピット	縄文土器・石器	佐藤・小島
H25	第1章 第3節	15	滝下遺跡 K地区	確認	20131015 ～20131017	伝法 1928－2　外 宅地分譲地造成	2,991 56		なし	なし	佐藤・服部
H25	第1章 第3節	16	沖田遺跡 第151次調査地点	確認	20131021	今泉 619－1　外 事務所新築	1,728 32		なし	なし	佐藤・服部
H25	第2章 第7節		天間沢遺跡 第38地区	確認	20131029	天間 1317－1　外 賃貸アパート新築	965 9		なし	なし	佐藤・服部 小島
H25	第1章 第3節	17	中桁・中ノ坪遺跡 第9地区	確認	20131105	伝法 1268－1 不動産売買	321 31	奈良・平安	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器	佐藤・服部
H25	第1章 第3節	18	沢東B遺跡 第9地区	確認	20131107 ～20131111	厚原 364－1 駐車場整備	2,090 59		なし	なし	佐藤・小島
H25	第1章 第3節	19	東平遺跡 東平遺跡第67地区	確認	20131114	伝法 2789－1　外 宅地造成	1,334 63	奈良・平安 近世・近代	不明遺構	土師器	石川・服部 小島
H25	第1章 第3節	20	滝下遺跡 L地区	確認	20131118	伝法 2341－1　外 アパート新築	1,035 33		なし	なし	佐藤・小島
H25	第7章		比奈1古墳群 第9地区　3次調査	本調査	20131118 ～20140131	原田 1985－1の一部　外 介護老人福祉施設建設	14,666 440	古墳	無袖型横穴式石室	須恵器・金属製品 玉類	石川
H25	第1章 第3節	21	東平遺跡 第64地区	確認	20131121 ～20131129	伝法 2383－1　外 共同住宅建設	2,562 337	古墳～平安	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器 灰釉陶器	佐藤・若林
H25	別途 本報告		中桁・中ノ坪遺跡 第7地区　2次調査	本調査	20131204 ～20140221	伝法 1257－1　外 生活介護施設建設	350 318	奈良・平安	竪穴建物跡・溝状遺構 土坑・ピット	土師器・須恵器 石器	佐藤・若林
H25	第1章 第3節	22	三日市廃寺跡 （東平遺跡第65地区）	確認	20131211	浅間上町 2912－2　外 個人住宅新築	892 11	奈良・平安	なし	土師器	佐藤・小島
H25	第1章 第3節	23	三日市廃寺跡 （東平遺跡第59地区　2次調査）	確認	20131216	浅間本町 5－1 社殿改築工事	3,300 25		なし	陶器・瓦	佐藤・服部 小島
H25	第2章 第8節		天間沢遺跡 第39地区	確認	20140107 ～20140110	天間 1010－6 個人住宅新築	353 53	縄文	土坑・ピット	縄文土器・石器	佐藤・小島
H25	第7章		比奈1古墳群 第9地区　4次調査	確認	20140110 ～20140123	原田 2024　外 介護老人福祉施設建設	821 10	古墳	古墳	須恵器	石川・服部
H25	第1章 第3節	24	柏原遺跡 第8地区	確認	20140120 ～20140124	中柏原新田 191　外 貸店舗建設	1,396 82	古墳	なし	土師器	佐藤・小島
H25	第1章 第3節	25	中桁・中ノ坪遺跡 第10地区	確認	20140128 ～20140129	伝法 1285－1 貸駐車場敷地造成	2,709 49	古墳～平安	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器 埴輪	佐藤・若林
H25	第1章 第3節	26	祢宜ノ前遺跡 第5地区	確認	20140205 ～20140206	比奈 1576－12 不動産売買	236 17	弥生末 ～古墳初	なし	土師器	石川・服部
H25	第1章 第3節	27	三日市廃寺跡 （東平遺跡第66地区）	確認	20140212 ～20140214	浅間上町 2978－3 宅地造成	590 97	奈良・平安	竪穴建物跡・溝 土坑・ピット	土師器・須恵器 瓦	石川・服部
H25	第1章 第3節	28	元吉原宿遺跡 第3地区	確認	20140220 ～20140221	今井2丁目 60　外 宅地造成	1,117 6	近世	なし	陶器	石川・佐藤 小島・服部



第1図　平成24・25年度　調査地の位置と地形区分

第２節　平成 24 年度の発掘調査報告

１．念信園遺跡　第１地区

所　在　地　富士市岩本 1964 － 1　外

調 査 面 積　21㎡（対象面積　2,636㎡）

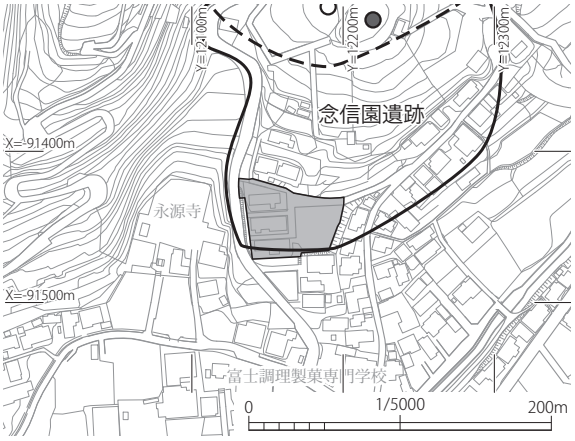
調 査 期 間　平成 24 年 4 月 16 日～ 4 月 18 日

調査の原因　生活介護事業所建設

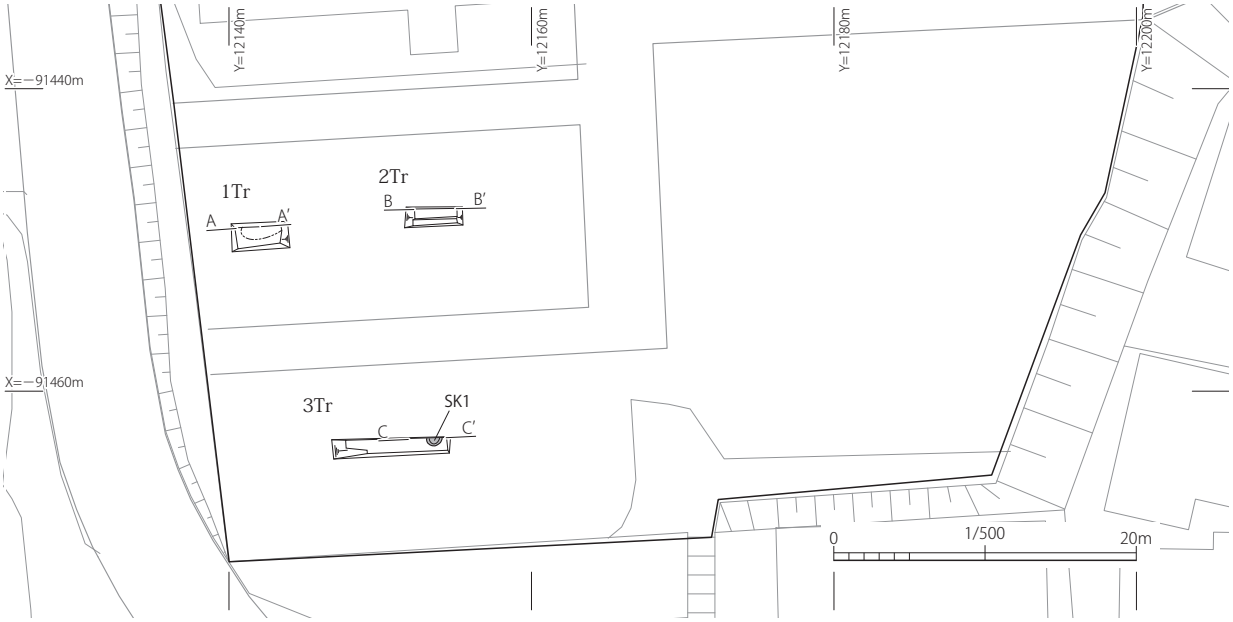
遺跡の概要　念信園遺跡は、星山丘陵の南東先端部、標高 40 ～ 60 m程に位置する遺物散布地である。遺跡の最高所となる北端の高台周辺では縄文時代早期や中期～後期、弥生時代末～古墳時代前期の土器片が多数採集されているほか、7 世紀に位置づけられる念信園古墳が発見・調査されている。また、念信園古墳調査時には 13 世紀後半の古瀬戸四耳壺・瓶子が出土したほか、その北側には五輪搭が集積された地点もあり、念信園遺跡の所在する丘陵上には隣接する永源寺に関わる廃寺や寺院内墓地が存在した可能性も高い。（佐藤 2010）

調査の概要　対象地内に 3 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　以前に存在した市営団地の建設に伴う切盛り（Ⅰ～Ⅲ層）が、調査区の大部分においてローム質の基盤層（Ⅴ層）にまで及んでいたことが確認された。2Tr では旧表土とみられる黒褐色土層（Ⅳ層）が撹乱の合間を縫って残存していたが、Ⅴ層が東側に向って高くなることが確認されたため、これより東側についてはⅤ層も一際大きく削平されているものと判断される。3Tr で浅い土坑（SK1）が検出されたが、近世以降の掘り込みと判断した。土坑や旧造成土中より土師器片が検出されており、造成以前には周辺に遺跡が存在した可能性もある。出土した土師器片は小片であったため、図化は出来なかった。



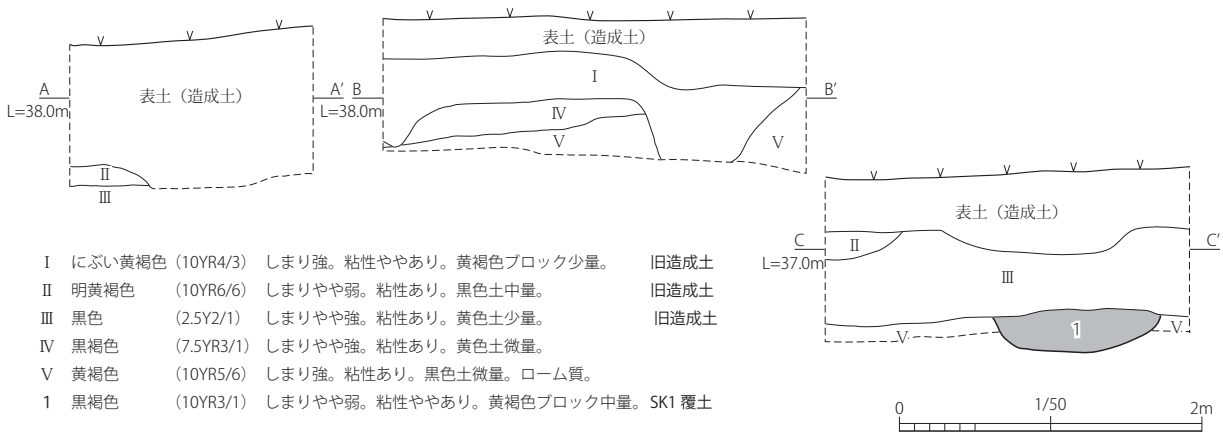
第２図　念信園遺跡第１地区　位置図



第３図　念信園遺跡第１地区　トレンチ配置図

参考文献

佐藤祐樹 2010「第４章　資料報告　1．富士市岩本出土の古瀬戸」『平成 14・20 年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』富士市教育委員会



I	にぶい黄褐色	（10YR4/3）	しまり強。粘性ややあり。黄褐色ブロック少量。	旧造成土
II	明黄褐色	（10YR6/6）	しまりやや弱。粘性あり。黒色土中量。	旧造成土
III	黒色	（2.5Y2/1）	しまりやや強。粘性あり。黄色土少量。	旧造成土
IV	黒褐色	（7.5YR3/1）	しまりやや強。粘性あり。黄色土微量。	
V	黄褐色	（10YR5/6）	しまり強。粘性あり。黒色土微量。ローム質。	
1	黒褐色	（10YR3/1）	しまりやや弱。粘性ややあり。黄褐色ブロック中量。SK1 覆土	

第４図　念信園遺跡第１地区　セクション図

２．中桁・中ノ坪遺跡　第５地区

所　在　地　富士市伝法 1320 － 4 の内

調 査 面 積　24㎡（対象面積　302㎡）

調 査 期 間　平成 24 年 4 月 24 日

調査の原因　携帯電話用無線局建設

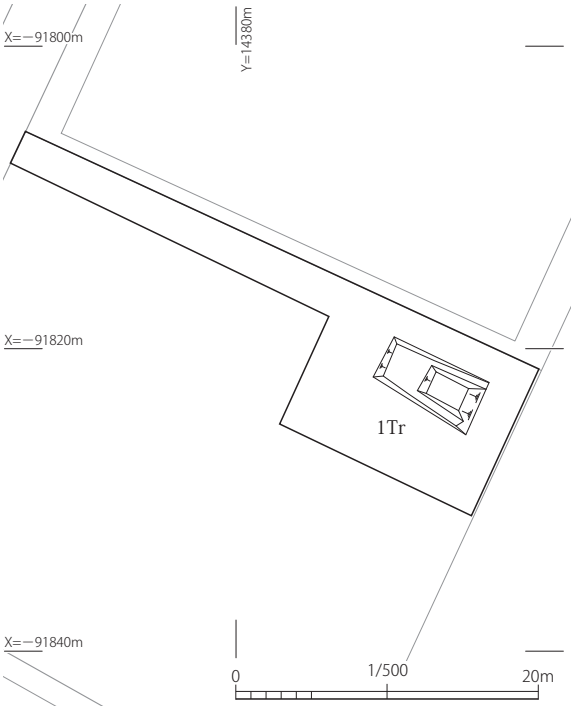
遺跡の概要　中桁・中ノ坪遺跡は、富士山南麓から延びる扇状地の南端部、潤井川東岸の標高 13 ～ 30 m程に位置する集落跡である。過去の調査において、途中に若干の空白期を挟みつつも 5 世紀から 10 世紀頃までにわたる集落の状況が明らかになっている。特に 9・10 世紀頃の竪穴建物の密集度・規格性は目覚しく、隣接する東平遺跡とも密接に関わった律令期集落の様相が明らかになってきている。今回の調査地は平成 17 年度に本発掘調査を実施した第２地区（富士市教育委員会 2007）の西側隣接部分にあたり、表層では土器片の散布も確認できる。

調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　現地表下 3.5 m程まで掘削をおこなったものの、遺構や遺物は検出されなかった。

旧水田耕作土（IV層）の下部、V層以下では大淵扇状地由来の堆積層が確認できるが、途中に低地性の分厚い粘性土層（VI層）も挟んでおり、今回の調査地が、古墳時代の集落が営まれた第２地区のような安定した土地環境ではなかったことが推定される。

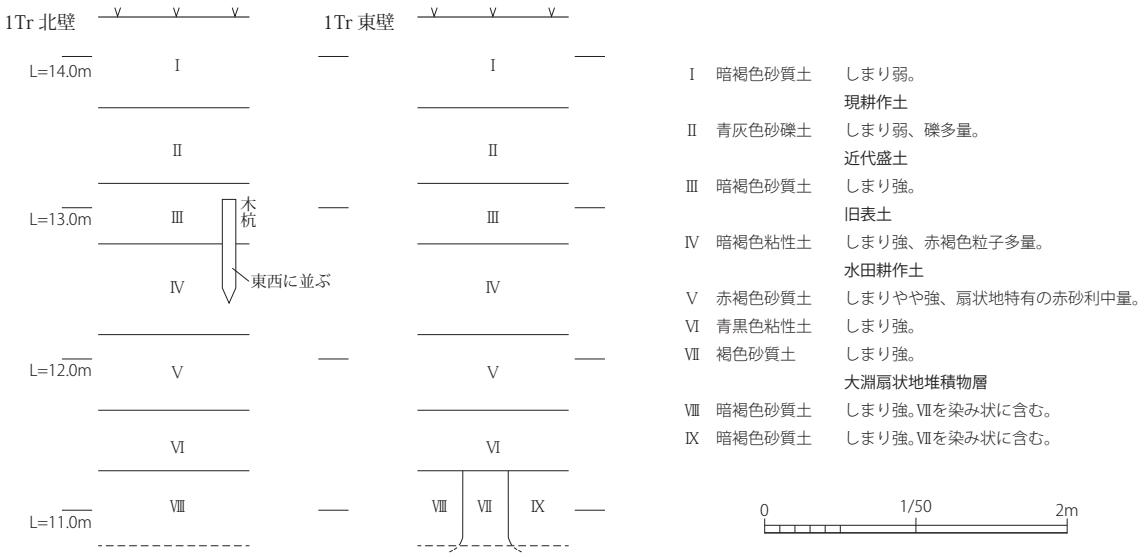
第５図　中桁・中ノ坪遺跡第５地区　位置図



第６図　中桁・中ノ坪遺跡第５地区　トレンチ配置図

参考文献

富士市教育委員会 2007『中桁・中ノ坪遺跡　第２地区』



第７図　中桁・中ノ坪遺跡第５地区　セクション図

３．舟久保遺跡　第 51 地区

所　在　地　富士市今泉６丁目 1215 － 2　外

調 査 面 積　103㎡（対象面積　1,339㎡）

調 査 期 間　平成 24 年５月 23 日～５月 25 日

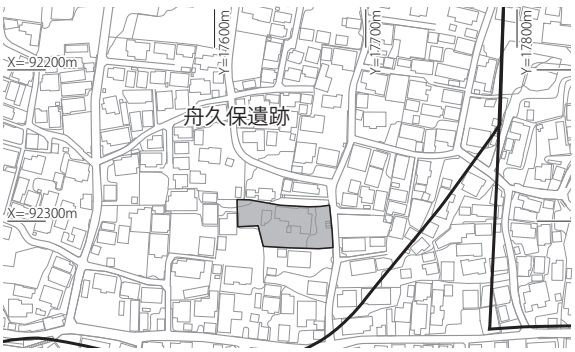
調査の原因　宅地分譲

遺跡の概要　舟久保遺跡は、富士市今泉に広がる奈良時代・平安時代を中心とする集落跡である。市立吉原第二中学校改築工事に伴って昭和 54 年に実施された発掘調査に始まり、これまでに 50 地区で調査が行われてきた。その結果、北側には遺跡が存在しないという結論に至り、平成 22 年に包蔵地範囲を大幅に縮小した。

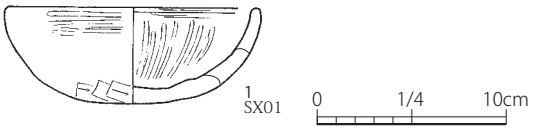
調査の概要　対象地内に４ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　東側から西側に向かって地山が傾斜することが明らかとなり、現在、対象地が平坦にみえるのは、地山が大規模に削平を受けた結果であることが分かった。そのため、遺構・遺物の検出は期待できなかったものの、一部、削平を免れた箇所において掘り込み（SX01）を検出した。ただし、規模が小さく、上面が削平を受けているため、性格は明らかとならなかった。SX01 が検出された周辺に細かくトレンチを設定し掘削したが、周辺に遺構は存在せず、SX01 以外に埋蔵文化財は残存しないと考えられる。

出 土 遺 物　SX01 から出土した土師器坏１点（第９図－１）を図示した。ケズリによって底部をつくる意図がみてとれるが、全体の器形はおおむね半球形を呈する。器壁は厚手で、口縁部がやや内湾する。磨滅により不明瞭であるが、内外面ともヘラミガキ調整が施されている。



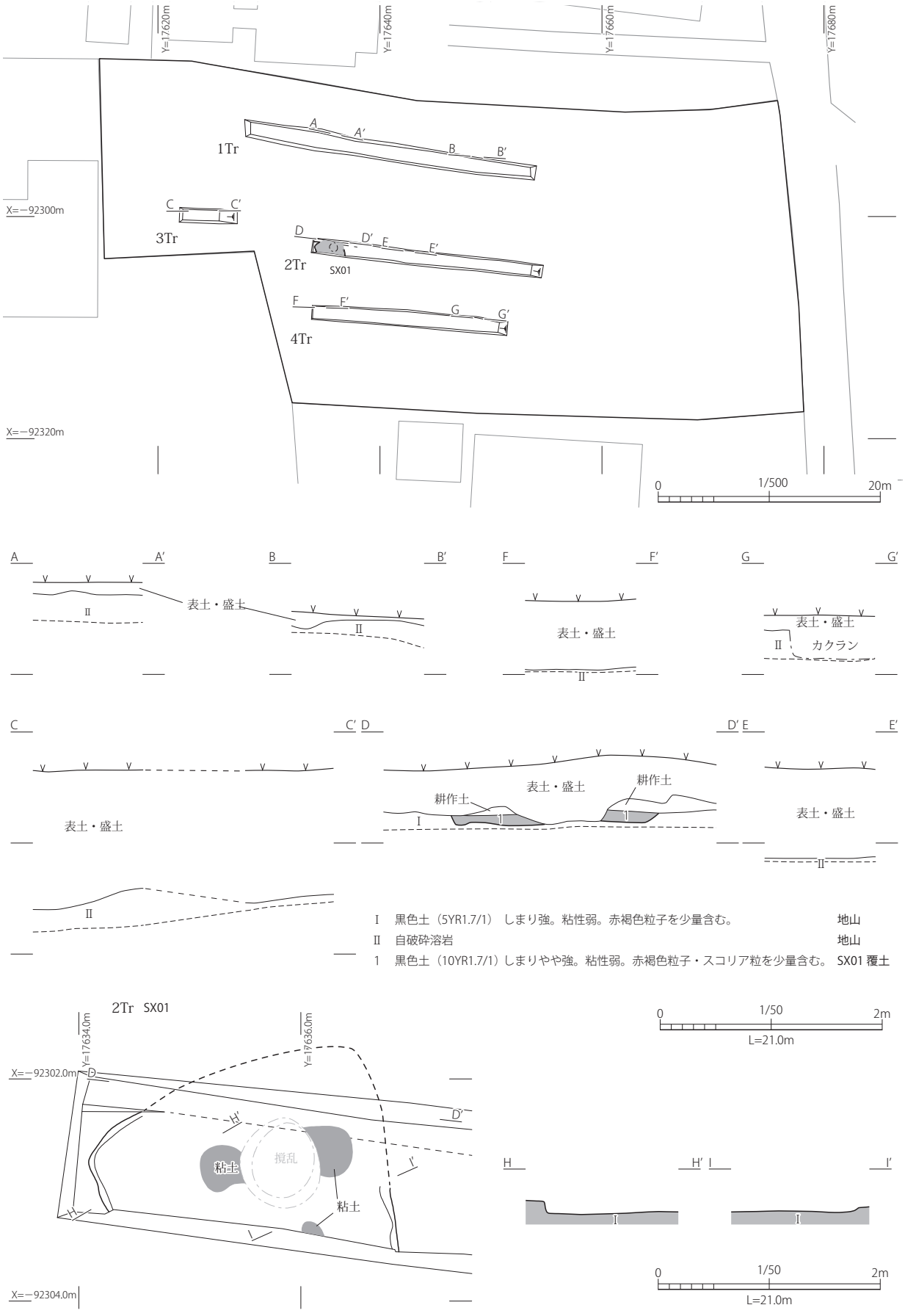
第８図　舟久保遺跡第 51 地区　位置図



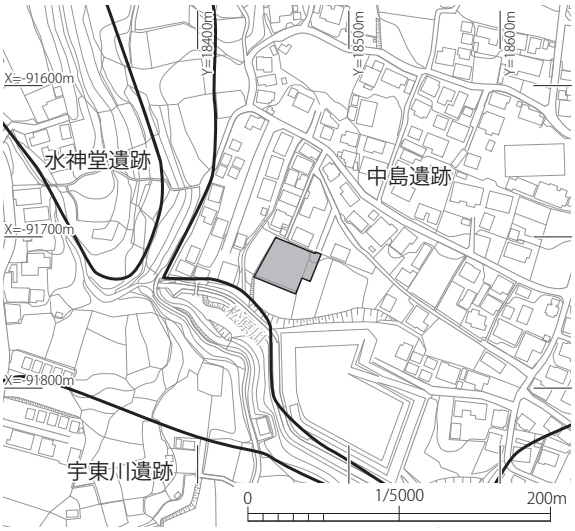
第９図　舟久保遺跡第 51 地区　出土遺物実測図

第４表　舟久保遺跡第 51 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第９図－１	R002	p.83	SX01	土師器	坏	13.4	5.1	-	良好	45%	2.5YR4/6（赤褐）	7.5YR3/3（暗褐）



第 10 図　舟久保遺跡第 51 地区　トレンチ配置図・2TrSX01 平面図・セクション図



第 11 図　中島遺跡第９地区　位置図

４．中島遺跡　第９地区

所　在　地　富士市原田 767 － 1　外

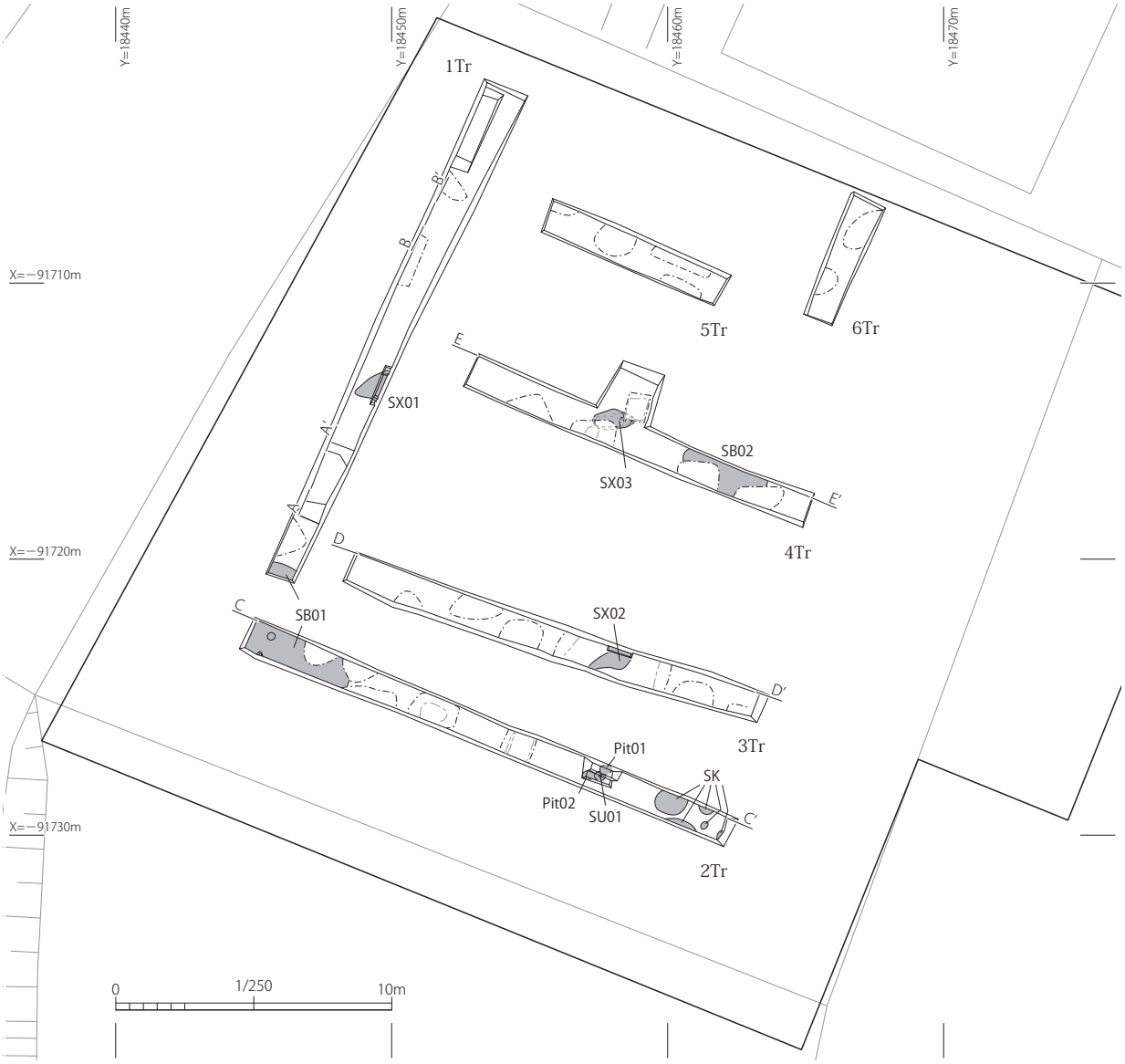
調 査 面 積　107㎡（対象面積　937㎡）

調 査 期 間　平成 24 年６月４日～６月 19 日

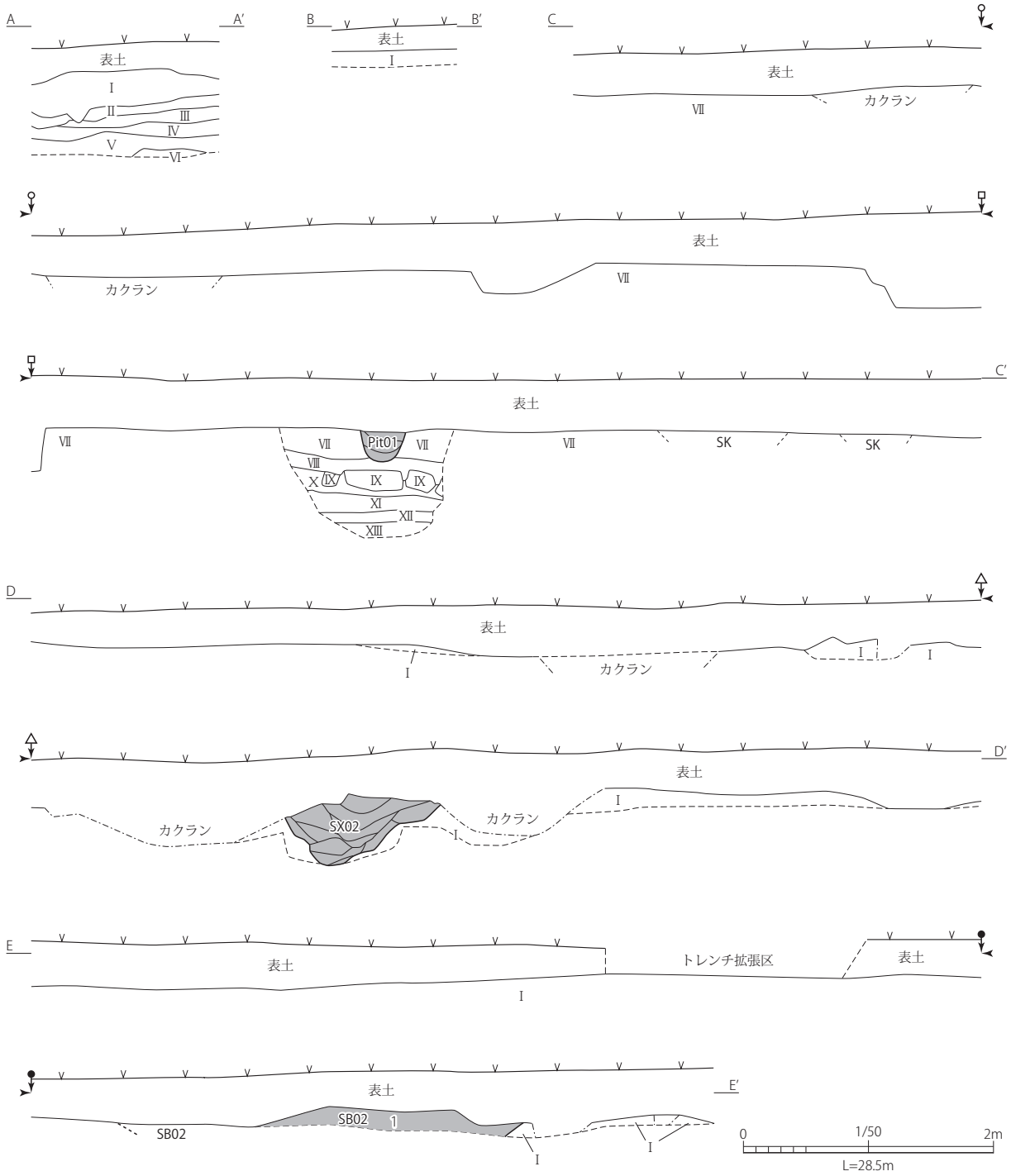
調査の原因　共同住宅新築

遺跡の概要　中島遺跡は、松原川の北東岸に広がる縄文時代・古墳時代の集落跡である。これまでの調査で縄文時代中期から後期にかけての遺構・遺物が調査されている。また、Ｓ字甕Ｂ類新段階からＣ類にかけての土器も出土している。しかし、これまでの出土遺物が整理されていないため、奈良･平安時代の状況などは不明である。

松原川を挟んで南側には宇東川遺跡が存在し、対応した集落の消長を示す可能性がある。

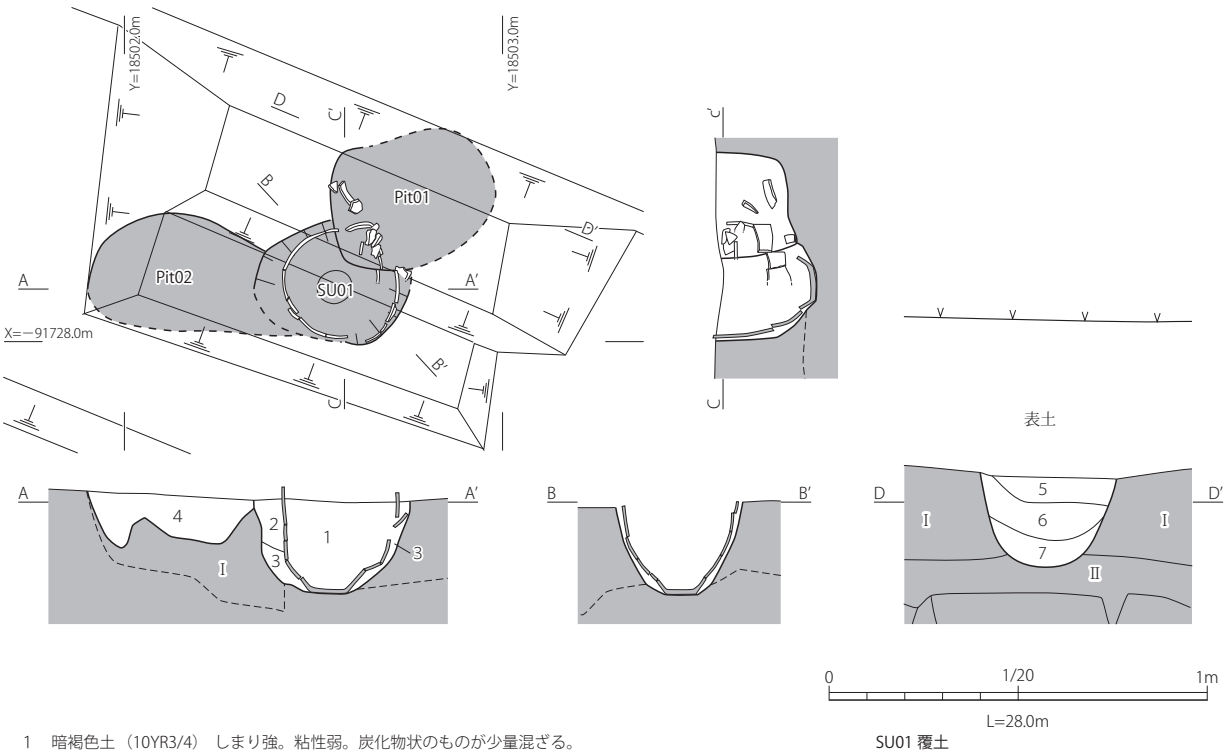


第 12 図　中島遺跡第９地区　トレンチ配置図



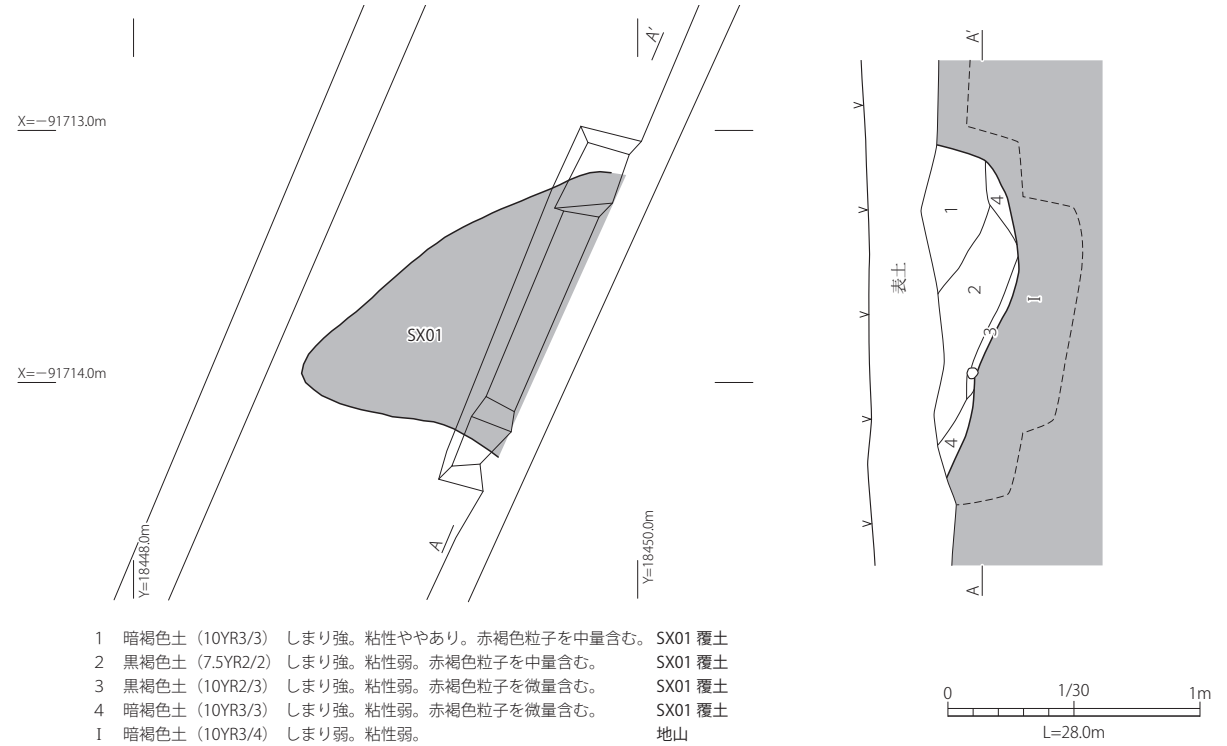
1	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性やや弱。赤褐色粒子・黒色粒子を中量含む。	SB02 覆土
I	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	地山
II	暗褐色土（7.5YR3/3）	しまり強。粘性弱。黒色溶岩粒・酸化鉄が少量混ざる。	地山
III	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強。粘性ややあり。炭化物が少量混ざる。	地山
IV	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性ややあり。石や礫が多量混ざる。	地山
V	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強。粘性なし。砂質。	地山
VI	褐色土　（10YR4/4）	しまりごく強。粘性なし。	地山
VII	褐色土　（10YR4/4）	しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子を多量、赤褐色スコリア粒を少量含む。	地山
VIII	褐色土　（10YR4/4）	しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子・赤褐色スコリア粒を少量含む。	地山
IX	暗褐色土（7.5YR3/3）	しまりごく強。粘性なし。砂質。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	地山
X	暗褐色土（7.5YR3/4）	しまり強。粘性弱。赤褐色スコリア粒・炭化物を少量含む。	地山
XI	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性ややあり。	地山
XII	暗褐色土（7.5YR3/4）	しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を少量含む。	地山
XIII	暗褐色土（10YR3/4）	しまりごく強。粘性弱。赤褐色粒子を少量含む。	地山

第 13 図　中島遺跡第９地区　セクション図



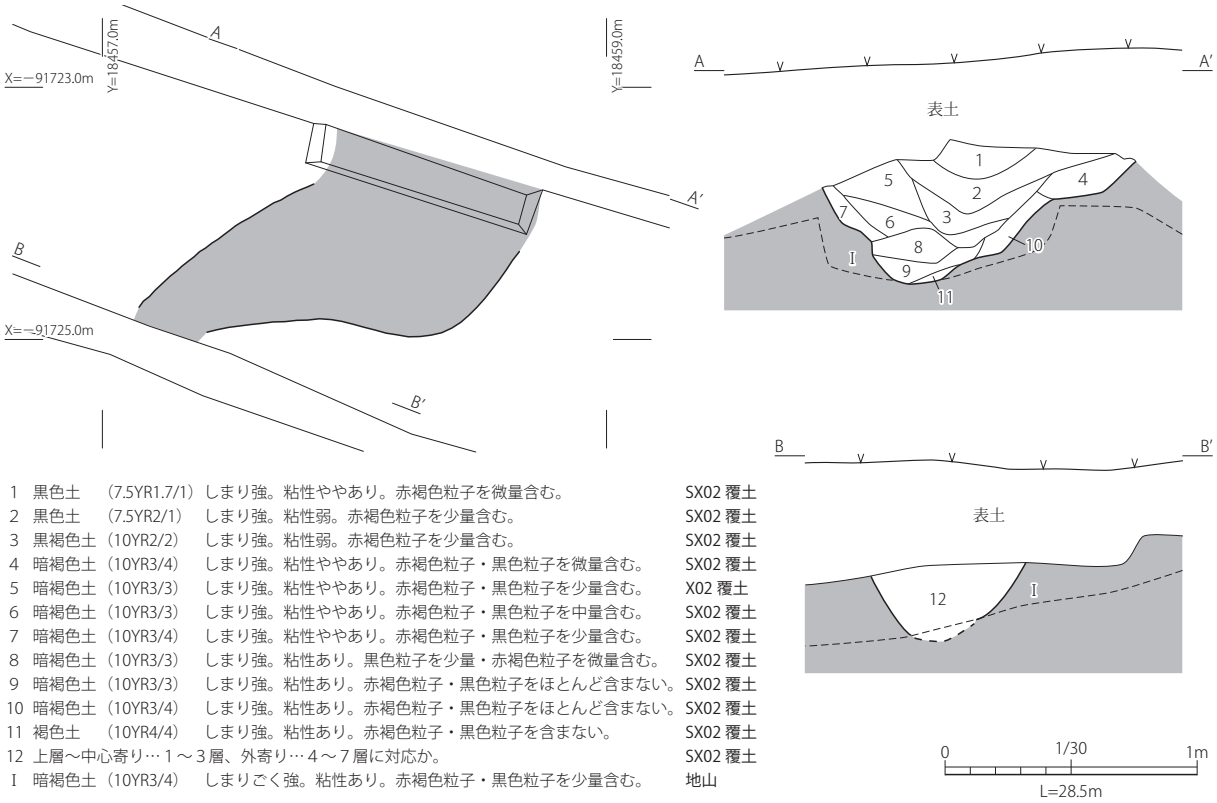
1	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性弱。炭化物状のものが少量混ざる。	SU01 覆土
2	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	SU01 掘方埋土
3	褐色土　（10YR4/4）	しまりごく強。粘性ややあり。黒色粒子を少量含む。	SU01 掘方埋土
4	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強。粘性弱。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	Pit02 覆土
5	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を多量含む。	Pit01 覆土
6	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色スコリア粒（5 層より粒大）を多量、黒色粒子少量含む。	Pit01 覆土
7	暗褐色土（10YR3/4）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色スコリア粒・黒色粒子を少量含む。	Pit01 覆土
I	褐色土　（10YR4/4）	しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子を多量、赤褐色スコリア粒を少量含む。	地山
II	褐色土　（10YR4/4）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色スコリア粒・赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	地山

第 14 図　中島遺跡第 9 地区　SU01・Pit01・Pit02　平面図・セクション図



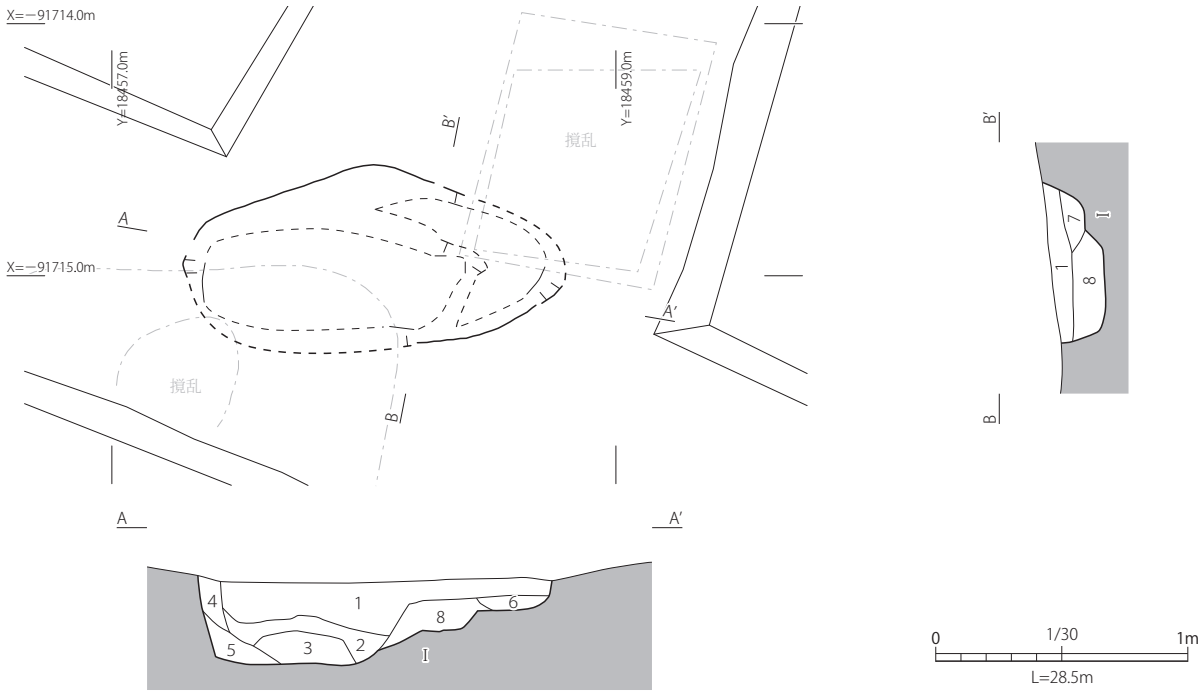
1	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子を中量含む。	SX01 覆土
2	黒褐色土（7.5YR2/2）	しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を中量含む。	SX01 覆土
3	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を微量含む。	SX01 覆土
4	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を微量含む。	SX01 覆土
I	暗褐色土（10YR3/4）	しまり弱。粘性弱。	地山

第 15 図　中島遺跡第 9 地区　SX01　平面図・セクション図



1	黒色土	（7.5YR1.7/1）しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子を微量含む。	SX02 覆土
2	黒色土	（7.5YR2/1） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を少量含む。	SX02 覆土
3	黒褐色土	（10YR2/2） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子を少量含む。	SX02 覆土
4	暗褐色土	（10YR3/4） しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を微量含む。	SX02 覆土
5	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	X02 覆土
6	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を中量含む。	SX02 覆土
7	暗褐色土	（10YR3/4） しまり強。粘性ややあり。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	SX02 覆土
8	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性あり。黒色粒子を少量・赤褐色粒子を微量含む。	SX02 覆土
9	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子をほとんど含まない。	SX02 覆土
10	暗褐色土	（10YR3/4） しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子をほとんど含まない。	SX02 覆土
11	褐色土	（10YR4/4） しまり強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子を含まない。	SX02 覆土
12	上層〜中心寄り…１〜３層、外寄り…４〜７層に対応か。		SX02 覆土
I	暗褐色土	（10YR3/4） しまりごく強。粘性あり。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	地山

第 16 図　中島遺跡第９地区　SX02　平面図・セクション図



1	黒褐色土	（10YR2/2） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子・黒色粒子を中量含む。	SX03 覆土
2	黒褐色土	（10YR2/3） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	SX03 覆土
3	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子・黒色粒子を微量含む。	SX03 覆土
4	暗褐色土	（10YR3/4） しまり強。粘性弱。黒色粒子を少量含む。	SX03 覆土
5	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性弱。黒色粒子を少量、赤褐色粒子を微量含む。	SX03 覆土
6	暗褐色土	（10YR3/3） しまり強。粘性弱。黒色粒子を微量含む。	SX03 覆土
7	黒褐色土	（10YR2/3） しまり強。粘性弱。赤褐色粒子・黒色粒子を少量含む。	SX03 覆土
8	暗褐色土	（10YR3/4） しまり強。粘性弱。黒色粒子を微量含む。	SX03 覆土

第 17 図　中島遺跡第９地区　SX03　平面図・セクション図

調査の概要　対象地内に６ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　敷地北側においては、大規模な削平を受けており、加えて耕作による影響から遺構は残存しないものと考えられる。しかし、南側においては縄文時代の竪穴建物跡と推定される遺構（SB01・02）や埋甕土坑（SU01）が存在することから、少なからず遺構・遺物が残存することが明らかとなった。

検出遺構　確認された遺構は、竪穴建物跡２軒（SB01・02）、埋甕土坑（SU01）、性格不明遺構（SX01 ～ 03）、土坑、ピットである。

このうち、２Tr の東部分において検出した SU01 を完掘した。北東部分を Pit01 に切られており、Pit01 内から破壊された埋甕の破片が出土している。

土坑の規模は、短径（南北幅）32㎝、長径（東西幅）40㎝、検出面からの深さ 28㎝を測る。土坑底面に接して、堀之内２式とみられる深鉢形土器（第 18 図－ 16）が正位で埋納されていた。土器の上部は削平により失われているが、同一個体とみられる口縁部片が１点出土した。

出土遺物　縄文土器 16 点、石器１点を図示した（第 18 図）。

１は SB01 から出土した深鉢の口縁突起部である。突起の頂部は一重の螺旋状に形づくられ、その先端にキザミとくぼみがつけられている。螺旋の中心には垂直の孔が穿たれ、螺旋の下に水平方向に穿たれた孔に貫通している。堀之内２式～加曽利Ｂ１式に位置づけられる。

２も SB01 から出土した。堀之内１式に位置づけられる胴部片である。沈線で文様帯を区画し、無文の部分と縄文を充填する部分とが認められる。丸く内湾する胴部の上部が屈曲していることから、器形は金魚鉢系か、ひさご形の可能性が考えられる。

３は曽利Ｖ式の深鉢胴部片である。地文に単節縄文が施文され、ナデによる無文の区画が認められる。

４・５は称名寺式～堀之内式のいずれかに位置づけられるとみられる深鉢の胴部片である。４は条線により施文され、５には縦方向の縄文施文が認められる。

６・11・12 は堀之内２式の土器である。６の口縁部片は無文で、緩やかに内湾し、口縁端部は面取りされる。11 の口縁部は無文で、内面が断面三角形に肥厚している。12 の胴部片には縦に３条、横に１条の沈線が認められる。

７・８は堀之内式期に位置づけられる。７の口縁部片は無文で、内面が断面三角形に肥厚し、端部は平らに整えられている。８の胴部片には縦方向の沈線による施文が認められる。

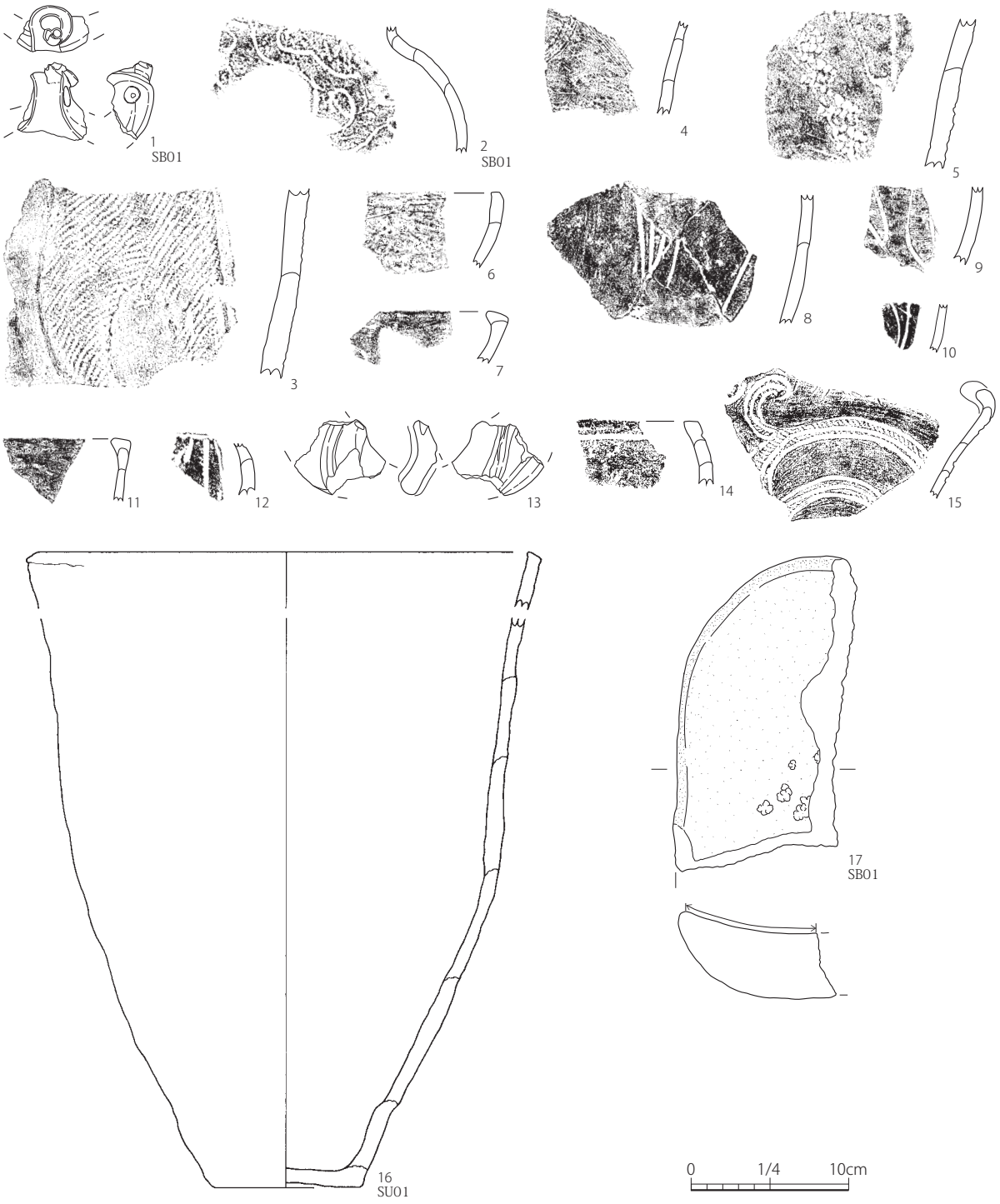
９・10・14 は後期の土器とみられるが型式の特定はできない。９の胴部片は条線文を充填する部分と無文の部分とを沈線で区画している。10 の胴部片には沈線による施文がされている。14 の口縁部は内湾し、端部を面取りしている。外面には１条の沈線が巡る。

13 は深鉢の口縁突起部とみられるが、欠損部が多く全体の形状は不明である。内外とも沈線と隆帯によって造形されている。堀之内２式～加曽利Ｂ１式に位置づけられる。

15 は堀之内２式に併行する東海西部系の深鉢口縁部である。胴部から緩やかに外反し、強く内湾する口縁部には、欠損しているが、突起がつく。胴部から口縁部にかけて、単節縄文施文後、３条の沈線で唐草のような文様を描き、縄文を磨り消している。

16 は SU01 に埋納されていた堀之内２式に位置づけられる深鉢である。口縁部片は接合しないため、図上での復元とした。底径は 9.5㎝を測り、推定器高は 40㎝ほど、推定口径は 33㎝ほどとなる。全面無文で、口縁端部を面取りしている。

17 の石皿は SB01 から出土した。輝安山岩を用い、上面を広く磨り面として使用している。



第 18 図　中島遺跡第９地区　出土遺物実測図

第５表　中島遺跡第９地区　出土遺物観察表

・縄文土器

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	型式	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 18 図－ 1	R005	p.85	SB01	縄文土器	堀之内２～加曽利 B1	深鉢	-	(5.0)	-	良好	-		10YR4/2（灰黄褐） 5YR5/4（にぶい赤褐）
第 18 図－ 2	R010	p.85	SB01	縄文土器	堀之内１	鉢	-	(8.0)	-	良好	-		10YR4/3（にぶい黄褐） 10YR5/4（にぶい黄褐）
第 18 図－ 3	R097	p.85		縄文土器	曽利Ⅴ	深鉢	-	(12.0)	-	良好	-		7.5YR6/6（橙） 7.5YR7/6（橙）
第 18 図－ 4	R031	p.85	3Tr	縄文土器	称名寺～堀之内	鉢	-	(5.9)	-	良好	-		10YR7/4（にぶい黄橙） 10YR6/4（にぶい黄橙）
第 18 図－ 5	R033・034	p.85	3Tr	縄文土器	称名寺～堀之内	鉢	-	(10.0)	-	良好	-		10YR5/4（にぶい黄褐） 10YR4/3（にぶい黄褐）
第 18 図－ 6	R065	p.85	2Tr	縄文土器	堀之内２	鉢	-	(4.8)	-	良好	-		7.5YR6/6（橙） 5YR5/8（明赤褐）
第 18 図－ 7	R044	p.85	4Tr	縄文土器	堀之内	鉢	-	(3.0)	-	良好	-		7.5YR6/6（橙） 10YR5/4（にぶい黄褐）
第 18 図－ 8	R027・028	p.85	3Tr	縄文土器	堀之内	鉢	-	(8.2)	-	良好	-		10YR6/6（明黄褐） 7.5YR6/6（橙）
第 18 図－ 9	R001	p.85		縄文土器	（後期）	鉢	-	(4.9)	-	良好	-		7.5YR5/6（明褐） 10YR6/6（明黄褐）
第 18 図－ 10	R002	p.85	1Tr	縄文土器	（後期）	鉢	-	(3.2)	-	良好	-		10YR3/3（暗褐） 10YR2/2（黒褐）
第 18 図－ 11	R043	p.85	4Tr	縄文土器	堀之内２	鉢	-	(3.9)	-	良好	-		7.5YR4/3（褐） 7.5YR5/4（にぶい褐）
第 18 図－ 12	R023	p.85	2Tr	縄文土器	堀之内２	鉢	-	(3.3)	-	良好	-		10YR4/3（にぶい黄褐） 10YR6/6（明黄褐）
第 18 図－ 13	R097	p.85		縄文土器	堀之内２～加曽利 B1	深鉢	-	(4.8)	-	良好	-		5YR6/4（にぶい橙） 5YR6/6（橙）
第 18 図－ 14	R051	p.85	表採	縄文土器	（後期）	鉢	-	(4.0)	-	良好	-		10YR4/6（褐） 7.5YR4/4（褐）
第 18 図－ 15	R098	p.85		縄文土器	東海系（堀之内２併行）	鉢	-	(7.0)	-	良好	-		10YR6/3（にぶい黄橙） 10YR5/3（にぶい黄褐）
第 18 図－ 16	R014 ～ 094	p.86	SU01	縄文土器	堀之内２	深鉢	(30.8)	(36.0)	(9.5)	良好	80%	反転復元	10YR4/4（褐） 10YR4/4（褐）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（kg）
第 18 図－ 17	R008	p.85	SB01	石製品	石皿	20.0	11.3	5.0	1.42

５．井倉遺跡　第１地区

所　在　地　富士市中野 413 － 5　外

調査の原因　店舗建設・貸駐車場造成

調 査 期 間　平成 24 年 7 月 9 日～ 7 月 10 日

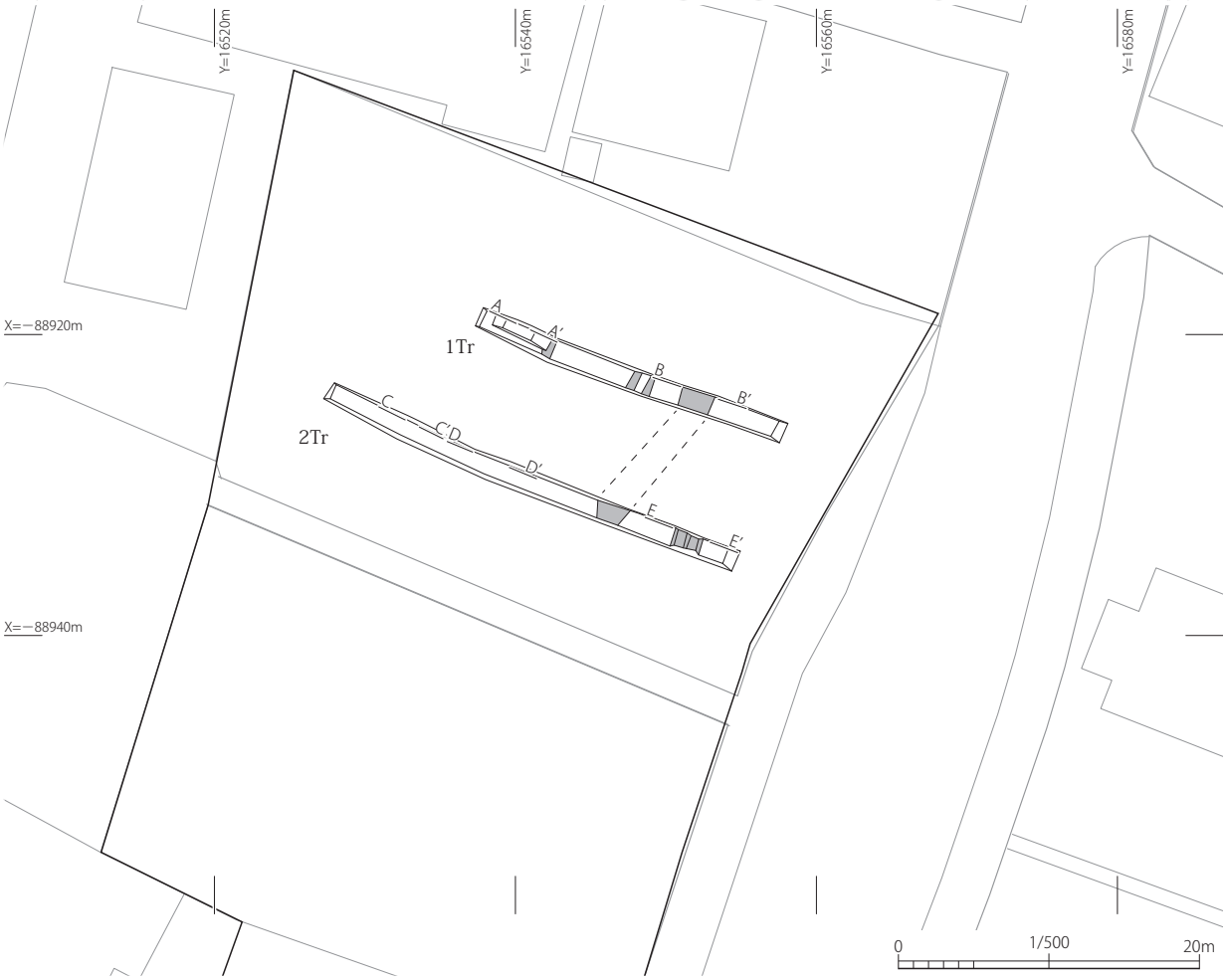
調 査 面 積　82㎡（対象面積　1,733㎡）

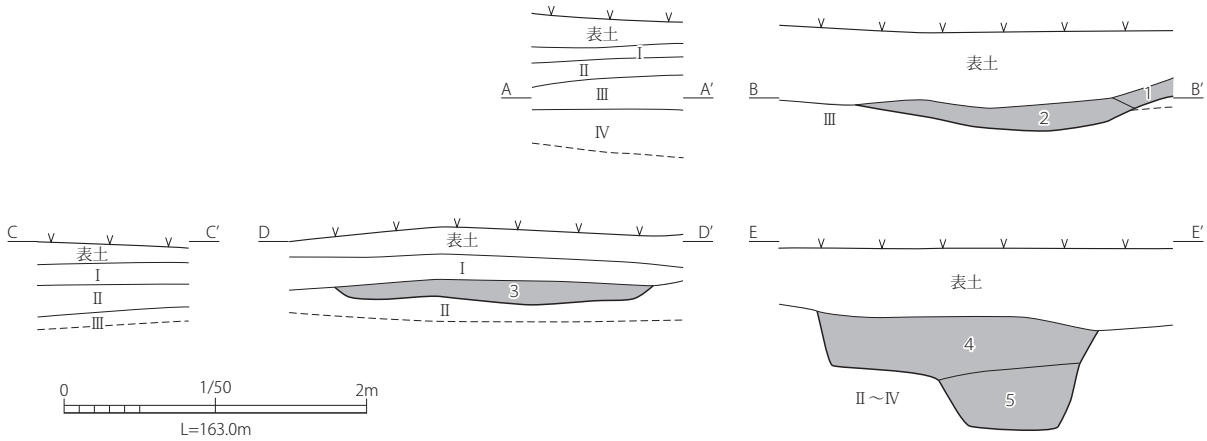
遺跡の概要　井倉遺跡は、富士山南麓に広がる扇状地上の標高 160m 程、伝法沢の西側に広がる遺物散布地である。これまで、確認調査が実施されたことはなくその実態については明らかではないが、古墳時代の土師器片が少量ながら採集されている。

第 19 図　井倉遺跡第 1 地区　位置図

調査の概要　対象地内に２ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　大淵扇状地堆積層（Ⅳ層）の上部にも黒色土の自然堆積層（Ⅰ層）が存在することから、土地は大規模な削平を受けていないことが明らかとなった。南北方向の溝が数条検出されたため、サブトレンチを設定し、土層の確認を行った。その結果、土にしまりがなく、近世・現代と考えられる茶碗の欠片が出土したことから、古墳時代の井倉遺跡には関わらないものと判断した。しかし、調査地が大淵街道沿いにあることから、街道に付随する掘り込みの可能性が考えられる。





I	黒色土	（7.5YR2/1）しまりややあり。全体的に粒子が大きく、粘性がない。径 0.5 ～ 1mm の赤色粒子あり。	
II	暗褐色土	（7.5YR3/3）しまりややあり。粘性ややあり。I 層と同様に粒子が大きい。I 層に入る赤色粒子を多量に含む。	
III	褐色土	（7.5YR4/3）しまりあり。粘性ややあり。赤色粒子を中量含む。こぶし大の石が所々に入る。	
IV	黒色砂質土	（7.5YR2/1）しまりなし。粘性なし。砂粒が大きく、サラサラする。	扇状地堆積層
1	黒褐色土	（7.5YR3/1）しまりなし。粘性なし。赤色粒子とIII層を起源とするブロックが混入する。	カクランか。
2	黒褐色土	（7.5YR3/1）しまりややあり。粘性なし。近代の茶碗片が出土。	近代以降の溝か。
3	黒色土	（7.5YR2/1）I 層よりも少し灰色がかる。しまりなし。粘性なし。赤色粒子が少量混ざる。	近世以降の溝か。
4	黒褐色土	（7.5YR3/1）しまりなし。粘性なし。赤色粒子を中量含む。	近世以降の覆土か。
5	黒褐色土	（7.5YR3/1）しまりなし。粘性なし。砂質を呈する。	地山の落ち込みか。

第 20 図　井倉遺跡第 1 地区　トレンチ配置図・セクション図

6.三日市廃寺跡（東平遺跡　第59地区－1次調査）

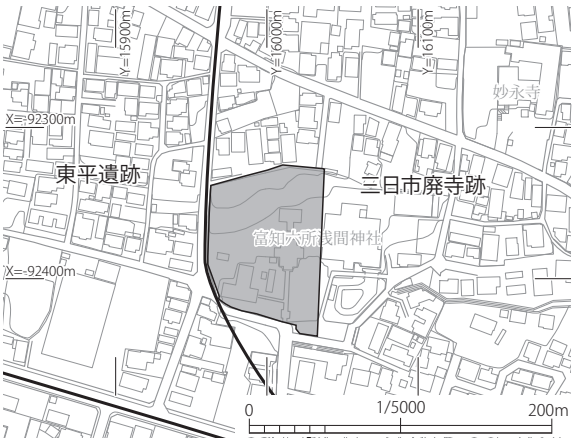
所　在　地　富士市浅間本町５－１

調査の原因　神社社殿改築工事

調 査 期 間　平成24年7月24日～8月21日

調 査 面 積　177㎡（対象面積3,300㎡）

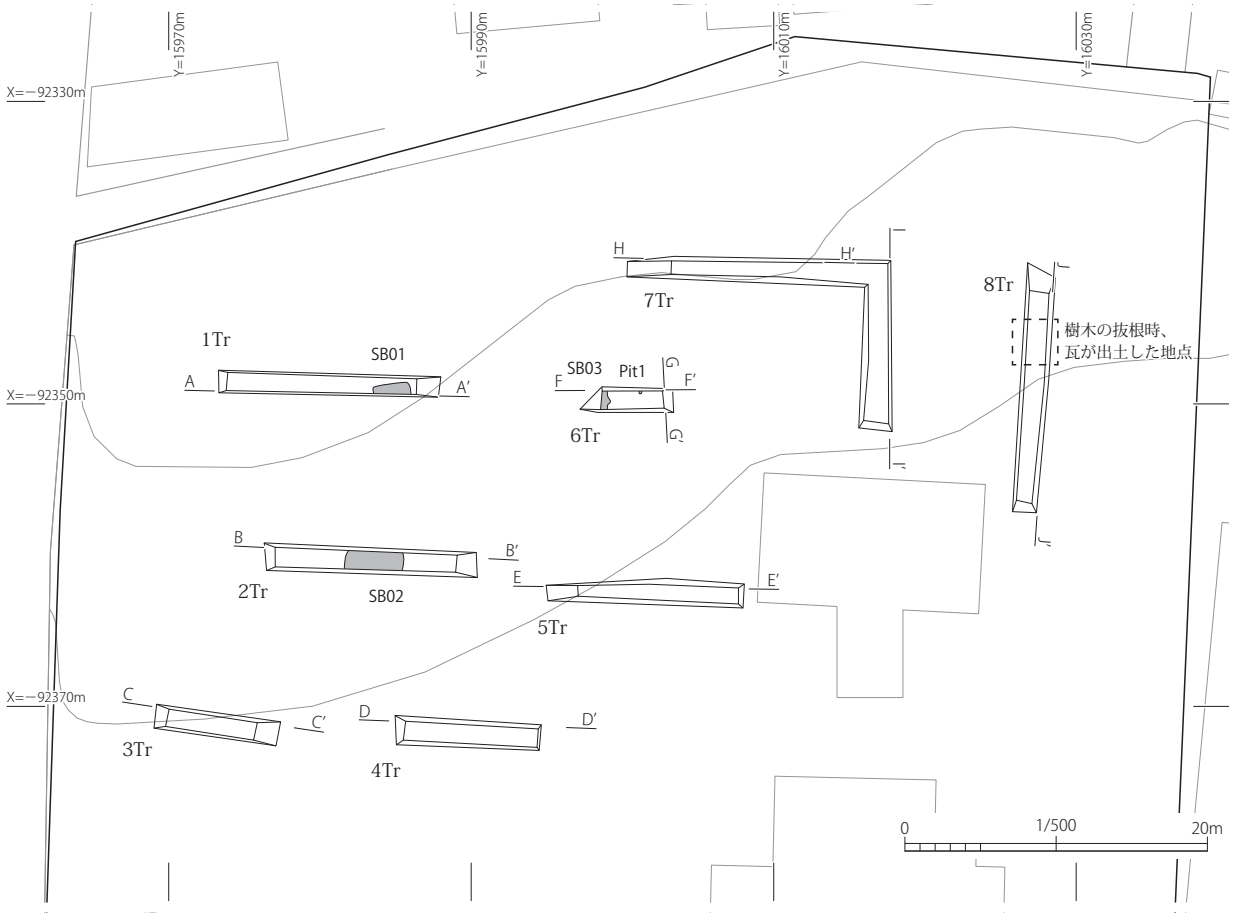
遺跡の概要　東平遺跡は、富士山南麓に広がる大淵扇状地の南端部、標高約10 m～40m程の広範囲にわたって占地する集落跡であり、各地点によって遺構の密度は異なるものの、その範囲は南北約1,400 m、東西約1,200 mに及ぶ。調査の結果、奈良～平安時代に営まれた多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡に伴って、遠江や西駿河、甲斐などの諸地域との交流を示す土師器や、「布自」・「厨」などの文字が記された墨書土器、また銙帯金具や馬具、鉄鏃といった金属製品が出土しており、官衙的性格の濃厚な計画的集落であった可能性が示されている。なお今回の調査区の北側に位置する第14地区・第16地区の調査では竪穴建物跡などの遺構とともに大量の土師器や須恵器、布目瓦が検出されており（富士市教育委員会2002）、調査区周辺は『日本三代実録』所載の定額寺である「法照寺」の有力な候補地「三日市廃寺跡」として認識されている。



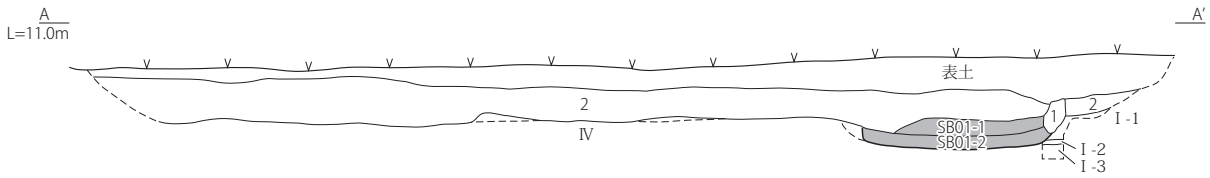
第21図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区）　位置図

調査の概要　対象地内に8ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

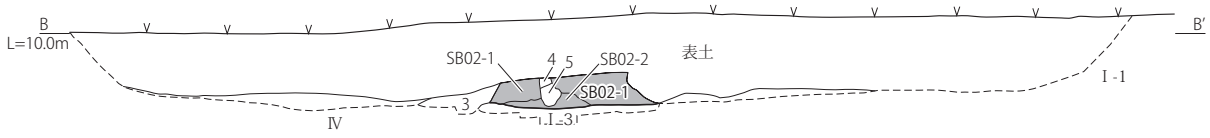
調査の結果　調査区中央部において、現地表下約1.0mから古墳時代後期～奈良・平安時代とみられる遺構（竪穴建物跡SB01 ～ 03、ピットPit01 ～ 02）が一部検



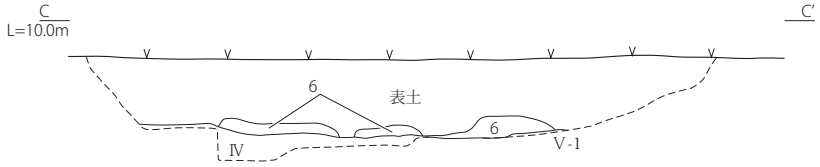
第22図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）　トレンチ配置図

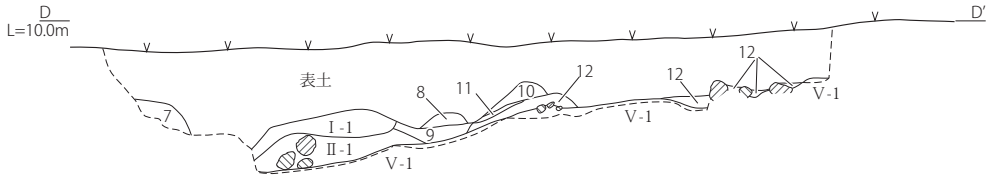


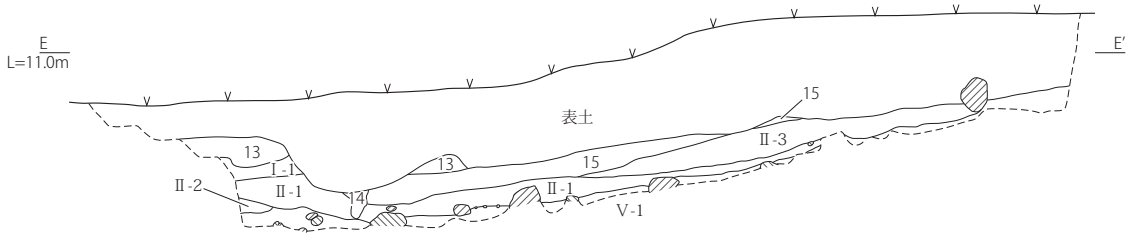
SB01-1 黒褐色粘質土（10YR2/3）しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒子微量
SB01-2 黒褐色粘質土（10YR2/3）しまりやや強、粘性ややあり。

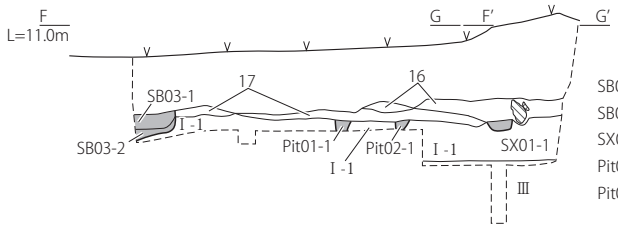


SB02-1 暗褐色粘質土（10YR3/3）しまりやや強、粘性ややあり。炭化物微量。
SB02-2 黒褐色粘質土（10YR2/2）しまりやや強、粘性ややあり。粘土微量。

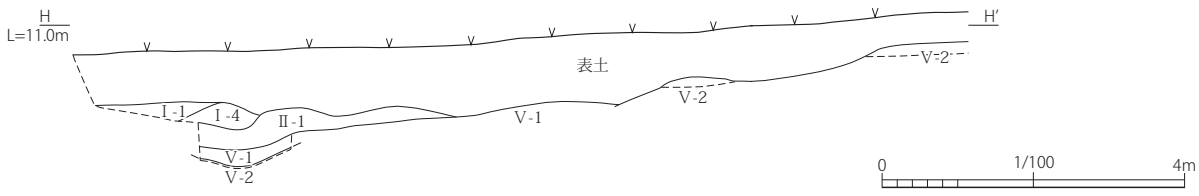




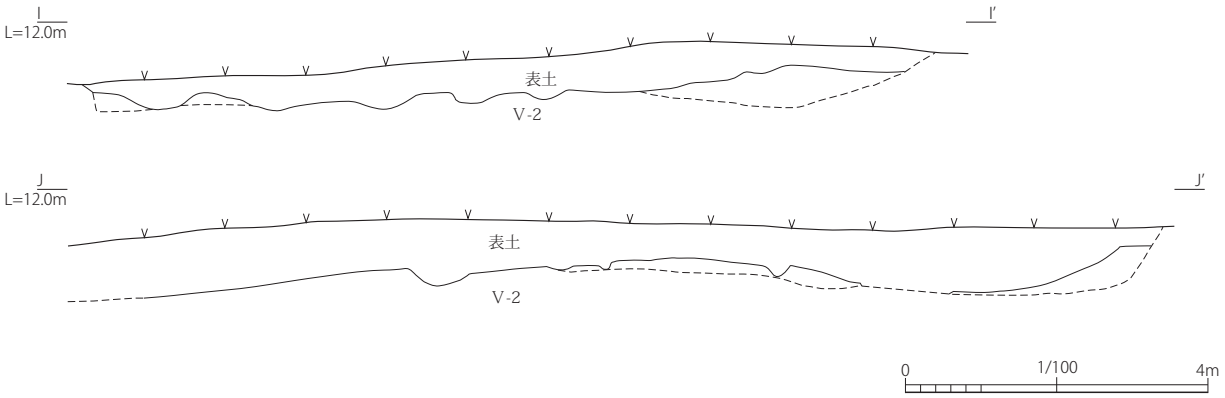




SB03-1 黒褐色粘質土（10YR2/2）しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア少量。
SB03-2 黒褐色粘質土（10YR2/3）しまりやや弱、粘性ややあり。
SX01-1 黒褐色粘性土（10YR2/3）しまりやや弱、粘性ややあり。植物根少量。
Pit01-1 黒褐色粘質土（10YR2/3）しまり弱、粘性ややあり。
Pit02-1 黒褐色粘質土（10YR2/3）しまり弱。



第 23 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 1 次調査）　セクション図　①



表土　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性あり。植物根多量。耕作土。　**造成土**
1　黒褐色粘質土　(10YR2/3)　しまり弱、粘性ややあり。黄色土ブロック多量。
2　黒褐色粘質土　(10YR2/3)　しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒子多量。角礫5～10㎜多量。
3　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性強。
4　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性ややあり。
5　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性ややあり。
6　黒褐色粘質土　(10YR2/3)　しまりやや強、粘性ややあり。黄色土ブロック微量。
7　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりややあり、粘性ややあり。黄色土ブロック微量。
8　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまり弱、粘性ややあり。
9　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまり弱、粘性やや強。
10　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまり弱、粘性ややあり。角礫10㎜微量。
11　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりややあり、粘性ややあり。黄色土ブロック微量。
12　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや強、粘性ややあり。角礫5㎜少量。
13　黒褐色粘質土　(10YR3/2)　しまりややあり、粘性ややあり。橙色スコリア微量。植物根少量。
14　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまり弱、粘性ややあり。橙色スコリア微量。植物根少量。
15　黒色粘質土　(10YR2/1)　しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア少量。植物根中量。
16　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア多量。　植物根少量。
17　黒褐色粘性土　(10YR2/3)　しまりやや弱、粘性ややあり。植物根少量。
Ⅰ-1　暗褐色粘質土　(10YR3/4)　しまりやや強、粘性やや強。橙色スコリア中量。ローム質で黄味がある。　**遺構の基盤層。**
Ⅰ-2　暗褐色砂質土　(10YR3/3)　しまり強、粘性弱。著しい硬化が認められる。上層、下層より黒味がある。
Ⅰ-3　暗褐色砂質土　(10YR3/4)　しまり強、粘性ややあり。著しい硬化が認められる。
Ⅰ-4　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア微量。角礫10～20㎜少量。
Ⅱ-1　黒色粘質土　(10YR1.7/1)　しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア少量。角礫5～10㎜少量。植物根微量。
Ⅱ-2　黒色粘質土　(10YR1.7/1)　しまりやや強、粘性ややあり。橙色スコリア微量。植物根少量。
Ⅱ-3　黒色粘質土　(10YR1.7/1)　しまりやや弱、粘性ややあり。橙色スコリア微量。植物根少量。角礫10～50㎜少量。
Ⅲ　黒褐色粘質土　(10YR2/2)　しまりやや強、粘性ややあり。上層よりやや黒味がある。
Ⅳ　暗褐色粘質土　(10YR3/4)　しまりやや強、粘性ややあり。角礫10～20㎜中量。Vより赤味がある。
Ⅴ-1　暗褐色砂質土　(10YR3/4)　しまりやや弱、粘性やや弱。角礫5～25㎜多量。Ⅰ～Ⅴ層の中で最も黄味がある。調査地で多くみられる破砕状の地山。
Ⅴ-2　暗褐色砂質土　(10YR3/4)　しまりやや弱、粘性やや弱。角礫5～25㎜多量。Ⅰ～Ⅴ層の中で最も黄味がある。調査地で多くみられる破砕状の地山。

第24図　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）　セクション図　②

第6表　三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区－1次調査）　出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第25図－1	R001	p.87	1Tr	須恵器	壺	-	(3.3)	-	良好	-	7.5YR6/1（灰）	7.5YR6/1（灰）
第25図－2	R040	p.87	1Tr	土師器	坏	-	(2.7)	-	良好	-	7.5YR4/3（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第25図－3	R037	p.87	5Tr	土師器	甕	-	(6.3)	-	良好	-	7.5YR7/6（橙）	7.5YR8/6（浅黄橙）

・瓦

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	種別	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第25図－4	№103地点	p.87		瓦	丸瓦	(11.2)	(9.2)	(1.7)	206.76
第25図－5	№103地点	p.87		瓦	丸瓦	(7.3)	(6.8)	(1.7)	114.23
第25図－6	R030	p.87	8Tr	瓦	平瓦	(7.2)	(6.8)	(2.0)	99.38
第25図－7	R041	p.87		瓦	平瓦	(12.0)	(10.2)	(2.0)	282.79

出された。また各トレンチにおいて現地表下 0.80m ～ 1.00m から当該期の土師器、須恵器、布目瓦などの遺物が確認された。

竪穴建物跡 SB01 は 1 トレンチ内で確認され、平面形状で一辺と隅部が一部検出された。SB02 はカマドの一部が2トレンチ内で確認された。出土した遺物からは、奈良・平安時代に位置づけられる。3 トレンチ西端部で SB03 が、北・東断面において Pit01・02 が確認された。

出 土 遺 物　土器 3 点、瓦 4 点を図示した。

1 は須恵器長頸壺の口縁部片である。内外面に自然釉が付着している。

2 は土師器の坏である。体部と口縁部の境に明瞭な稜をもち、口縁部は外へ開くが端部が内湾する。内外面とも丁寧なヘラミガキ調整が施される。6 世紀後半から 7 世紀前半に位置づけられる。

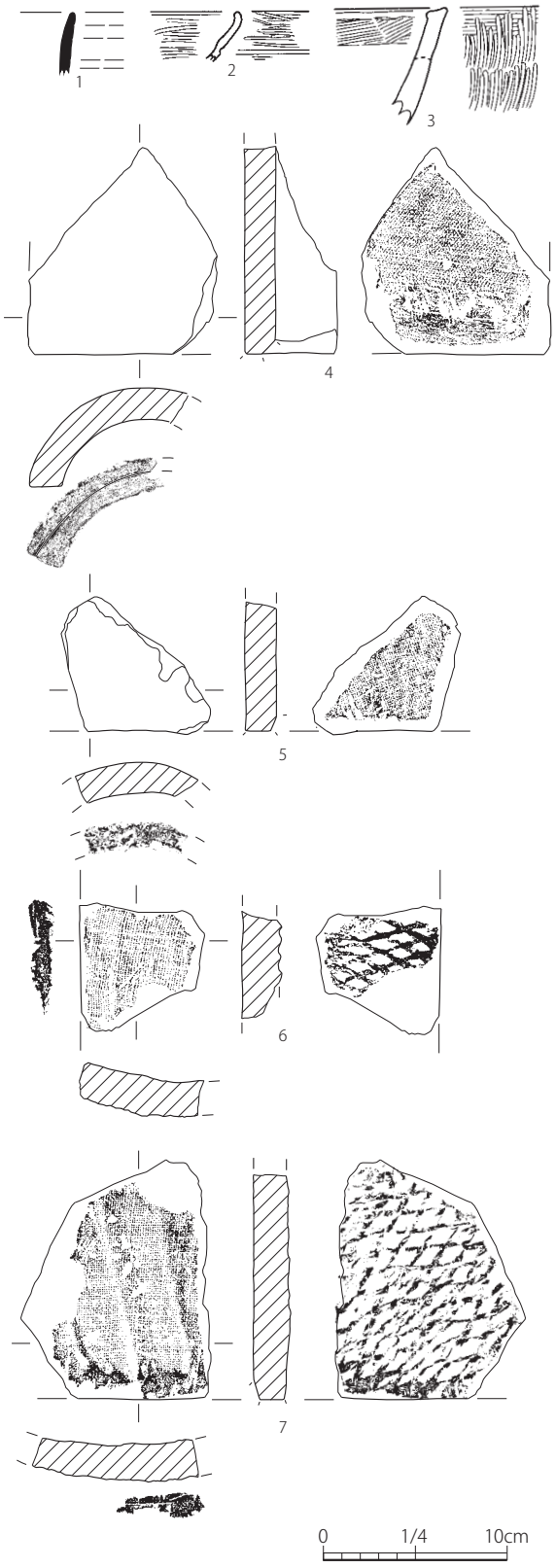
3 は土師器甕の口縁部片である。直線的に外へ開き、口唇部は内傾して面取りし、内側にわずかに肥厚させている。外面はハケ目調整後、縦方向のヘラミガキが施され、内面はヨコハケ目後ナデ調整されている。

4・5 は丸瓦片である。4 は、色調は暗灰色を呈し、凸面はミガキ調整されてやや光沢をもつ。凹面には布目痕が残り、布端の様子がみてとれる。端部はケズリ調整され、側端は側面 1 ヶ所、下端は端面と凹面の 2 ヶ所をケズっている。5 は、凸面はナデ調整、凹面は布目痕が残る。下端のケズリ調整は端面と凹面の 2 ヶ所に施されている。

6・7 の平瓦片は、凸面に斜格子の叩き目が、凹面には桶巻きの痕跡や布目痕が残る。7 の下端は端面と凹面の 2 ヶ所に、6 の側端は側面と凹面の 2 ヶ所にケズリ調整が施される。

参考文献

富士市教育委員会 2002『東平遺跡　第 16 地区（三日市廃寺跡），第 27 地区発掘調査報告書』



第 25 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 1 次調査）　出土遺物実測図

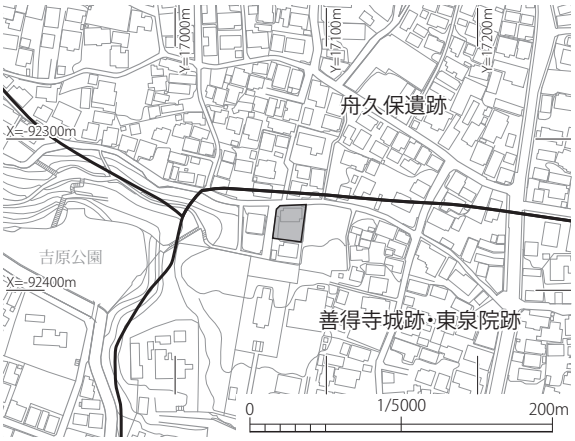
7．善得寺城跡・東泉院跡　第２地区

所　在　地　富士市今泉８丁目 1432 － 3

調 査 面 積　5㎡（対象面積　475㎡）

調査の期間　平成 24 年７月 24 日

調査の原因　宅地造成



第 26 図　善得寺城跡・東泉院跡第２地区　位置図

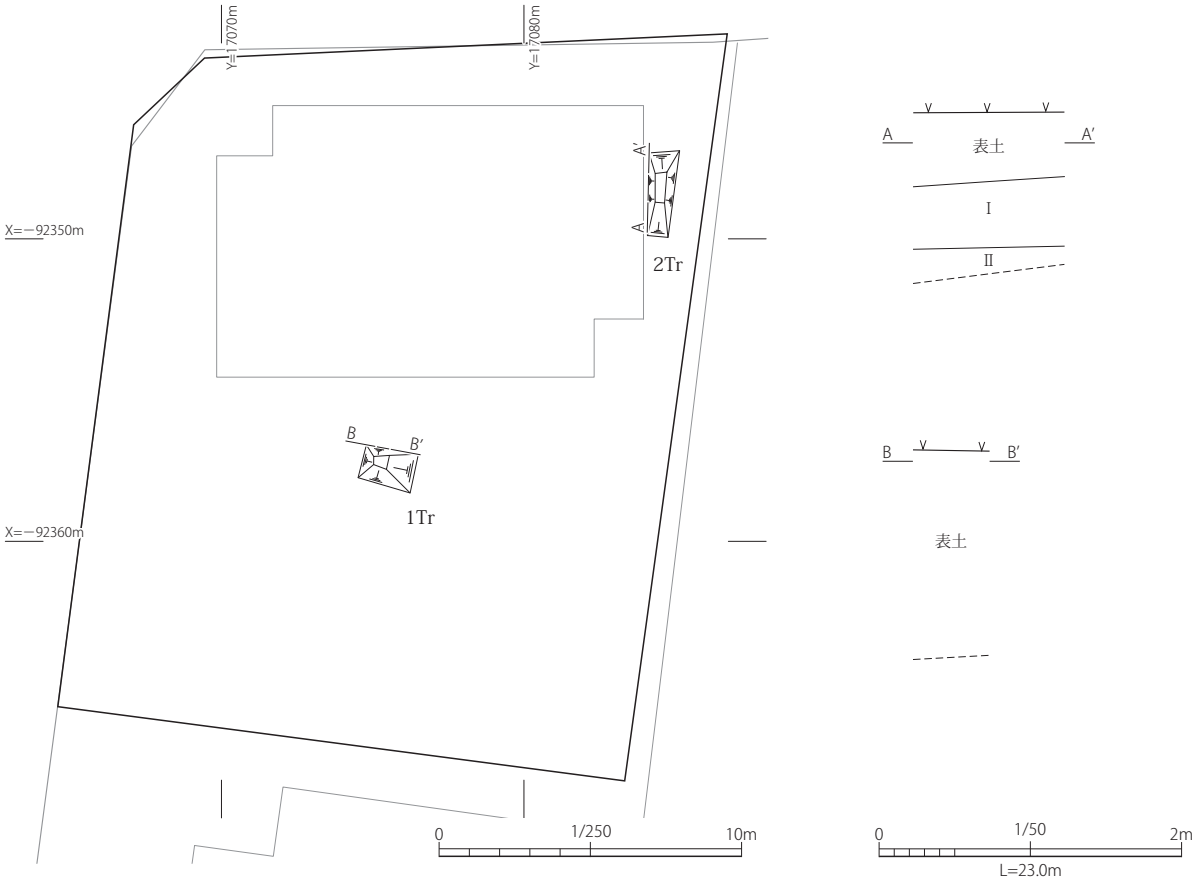
遺跡の概要　本遺跡は、中世の城郭「善得寺城跡」として包蔵地登録されているが、平成 19 年以来の周辺調査により、城郭としての痕跡は認められないことが判明している。しかし、今回の調査地の南側は、近世の寺院「東泉院」の敷地内であることが六所家調査事業より明らかとなっており（富士市教育委員会 2014）、平成 25 年６月、包蔵地の登録内容の変更が行われている（本章第４節）。

調査の概要　対象地内に２ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　１トレンチでは、現代の造成盛土が厚く存在し、地山を検出するには至らなかった。北東に設置した２トレンチでは、旧表土と考えられる土層を検出したが、遺構・遺物は確認されなかった。

参考文献

富士市教育委員会 2014『六所家総合調査報告書　埋蔵文化財』



I　黒色土　（7.5YR2/1）　しまりなし。粘性なし。径２～４㎜程度のローム粒子を含む。　旧表土

II　暗褐色土（7.5YR3/4）　しまりあり。粘性なし。径５～ 10 ㎝の溶岩礫を含む。基盤層。　地山

第 27 図　善得寺城跡・東泉院跡第２地区　トレンチ配置図・セクション図

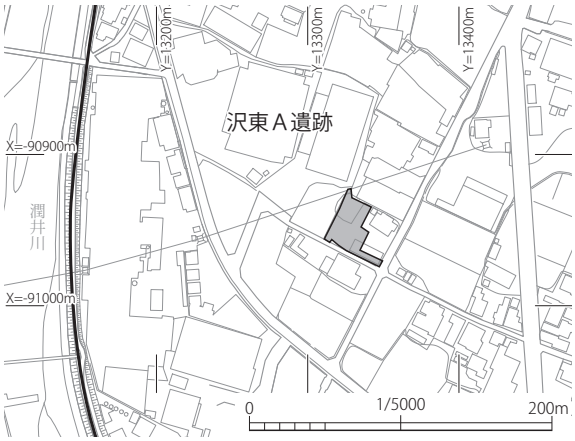
8．沢東A遺跡　第13次調査地点

所　在　地　富士市久沢112－1、－10、－11　外

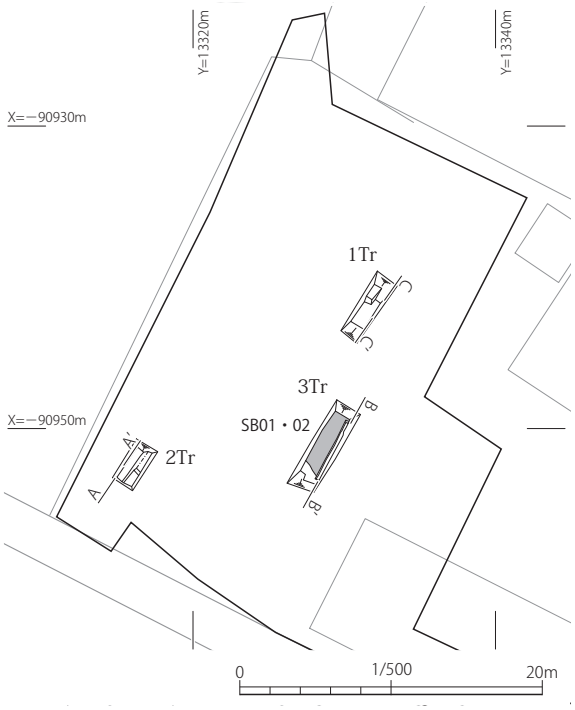
調査の原因　集合住宅新築

調 査 期 間　平成24年8月6日～8月9日

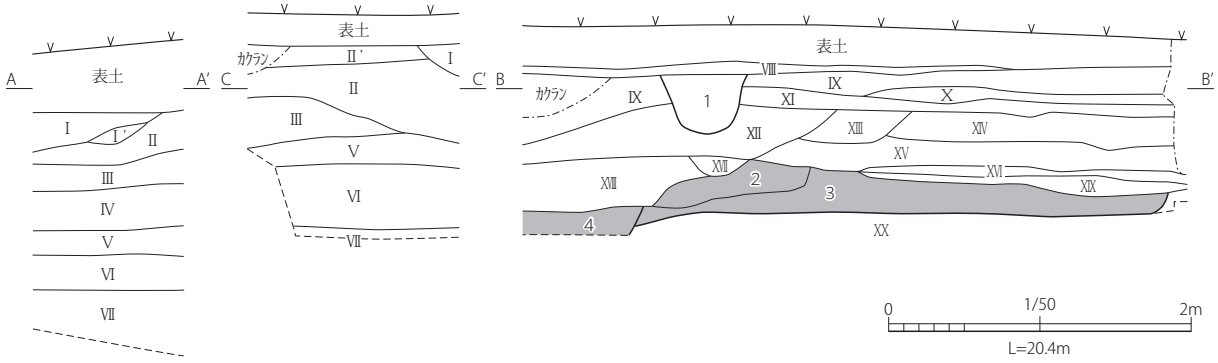
調 査 面 積　24㎡（対象面積　852㎡）



第28図　沢東A遺跡第13次調査地点　位置図



第29図　沢東A遺跡第13次調査地点　トレンチ配置図



1	黒褐色土層	(7.5YR3/1)	径2㎝程の礫を多量、炭化物を中量含む。	近代の掘り込み
2	黒色土層	(7.5YR2/1)	しまりあり。粘性あり。所々に酸化第二鉄が認められる。粘土ブロックあり。カマド付近か。	SB01覆土
3	黒褐色土層	(7.5YR3/1)	しまりあり。粘性あり。所々に酸化第二鉄がみられ、炭化物が混ざる。	SB01覆土
4	黒褐色土層	(7.5YR2/2)	しまりあり。粘性あり。酸化第二鉄はあまりみられない。	SB02覆土
Ⅰ	褐灰色土層	(5YR5/1)	しまりあり。粘性なし。	水田耕作土
Ⅰ'			Ⅰよりも酸化第二鉄を含む。	
Ⅱ	黄橙色砂礫層		しまりあり。粘性なし。上面が酸化第二鉄化している。	
Ⅱ'			Ⅱよりも酸化第二鉄を含む。	
Ⅲ	暗褐色土層		しまりあり。粘性ややあり。小石含む。所々に酸化第二鉄がみられる。	
Ⅳ	暗褐色土層		しまりあり。粘性ややあり。酸化第二鉄はみられない。	
Ⅴ	黒色シルト層		しまりあり。粘性ややあり。酸化第二鉄化が顕著。	旧表土層か
Ⅵ	礫層			扇状地堆積物層
Ⅶ	褐灰色シルト層		しまりあり。粘性あり。酸化第二鉄がみられる。	
Ⅷ	褐灰色土層	(7.5YR5/1)	しまりあり。粘性なし。酸化第二鉄化がはげしい。	水田耕作土
Ⅸ	暗褐色土層	(7.5YR3/3)	しまりあり。粘性なし。径1㎝程の小石を多量、炭を少量含む。酸化第二鉄化は弱い。	
Ⅹ	暗赤褐色土層	(5YR3/6)	しまりあり。粘性なし。径1㎝程の礫を中量含む。酸化第二鉄化が激しく、赤みを帯びる。	
Ⅺ	黒褐色土層	(7.5YR3/1)	しまりあり。粘性ややあり。酸化第二鉄化は弱い。	
Ⅻ	黒褐色土層	(5YR3/1)	しまりあり。粘性ややあり。径1㎝ほどの礫を多量含む。酸化第二鉄化が激しく全体的にオレンジ色の染みが認められる。	
ⅩⅢ	黒褐色土層	(7.5YR3/1)	しまりあり。粘性ややあり。礫は含まない。焼土および炭化物が認められる。カマドの土が二次的に移動し堆積したものと考える。	
ⅩⅣ	黒褐色土層	(7.5YR2/2)	しまりあり。粘性あり。所々に酸化第二鉄化がみられる。	
ⅩⅤ	黒褐色土層	(7.5YR2/2)	しまりあり。粘性あり。酸化第二鉄化は認められない。	
ⅩⅥ	黒色土層	(7.5YR2/1)	しまりあり。粘性ややあり。所々に酸化第二鉄化がみられる。全体的に黒みがかる。Ⅴ層に対応か。	
ⅩⅦ	黒褐色土層	(7.5YR2/2)	しまりややあり。粘性あり。所々に粘土粒子を含む。酸化第二鉄化あり。遺構覆土の可能性あり。	
ⅩⅧ	褐灰色土層	(7.5YR4/1)	しまりあり。粘性ややあり。酸化第二鉄化が最も著しく、紅色を呈する。	
ⅩⅨ	褐灰色土層	(7.5YR4/1)	しまりあり。粘性あり。所々に小石を含む。酸化第二鉄化が認められる。	
ⅩⅩ	極暗褐色土層	(7.5YR2/3)	しまりあり。粘性なし。砂質。径1㎝程の礫を多量に含む。	SB01に対する地山

第30図　沢東A遺跡第13次調査地点　セクション図

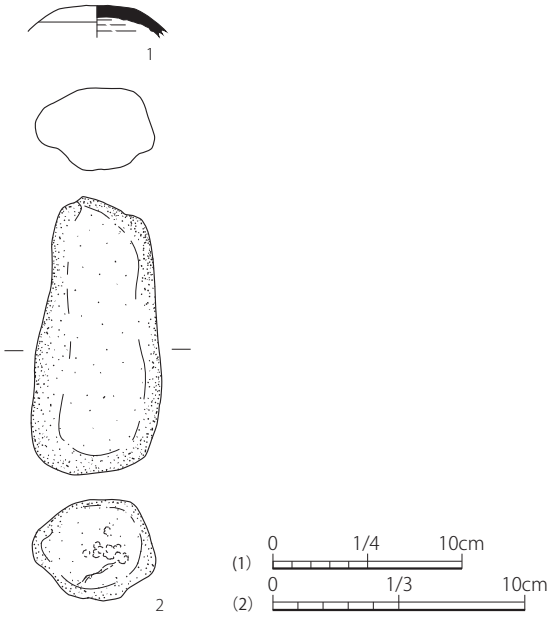
遺跡の概要　沢東Ａ遺跡は、富士山南麓に広がる大淵扇状地の西側先端部の標高 20 ～ 40m、凡夫川が潤井川に合流する地点の南側に広がる緩やかな丘陵上に立地する。遺跡は東西約 500m、南北約 950m と広大な範囲が想定されており、これまでの本調査では、古墳時代以降の竪穴建物跡の多くが切り合い、密集して存在したことが明らかとなっている。潤井川の氾濫などを想定すると、決して居住しやすい環境とは考えられないが、それでもこの土地に居住する意味があったものと考えられる。

調査の概要　対象地内に３ヶ所のトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　地表下 30㎝の水田耕作土直下において、非常に硬い扇状地堆積層が検出されたため、その上面において精査を行なったが、遺構は確認されなかった。

その後、扇状地堆積層や潤井川の氾濫によると考えられる堆積層を除去した結果、３トレンチにおいて古墳時代後期と考えられる竪穴建物跡１軒を検出した。

以上のことから、この地点では、遺跡形成前や形成途中に潤井川の氾濫等の影響を多分に受け、遺構が埋没していることが明らかとなった。



第 31 図　沢東Ａ遺跡第 13 次調査地点　出土遺物実測図

出 土 遺 物　土師器・須恵器・石器が出土し、須恵器１点、石器１点を図示した。

１は天井部にケズリを施す須恵器坏蓋で、器径・器高は不明であるが、残存部からは比較的小型で天井部が丸みをもつ器形が推定され、おおむね７世紀代（遠江編年Ⅲ期末葉～Ⅳ期）に位置づけられるようである。

２は安山岩製の磨敲石である。端面に敲打痕が、側面の１面に磨りの痕跡が認められる。

第７表　沢東Ａ遺跡第 13 次調査地点　出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 31 図－１	R001	p.88	3Tr	須恵器	坏蓋	-	（1.7）	-	良好	40%	2.5Y7/1（灰白）	5Y6/1（灰）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 31 図－２	R005	p.88	3Tr	石製品	磨敲石	11.1	5.2	4.1	377.38

９．富士岡１古墳群　第 13 地区－１次調査・２次調査

所　在　地　富士市比奈 1747 －１　外

調査の原因　宅地分譲

調 査 期 間　１次：平成 24 年 11 月 20 日

２次：平成 25 年１月 28 日～１月 29 日

調 査 面 積　１次：45㎡

２次：165㎡（対象面積　1,673㎡）

遺跡の概要　富士岡１古墳群は、花川戸・前之原を中心とする標高 18 ～ 70 ｍに群在する 20 基以上の後期古墳と、下白沢の大淵溶岩によって形成された丘陵先端の２基の後期古墳によって構成されている。

対象地内には富士岡Ｆ－第 21 号墳がかつて存在したとされるが、現状ではその痕跡を確認することはできない。西側に存在した富士岡Ｆ－第 22 号墳は平成８年度

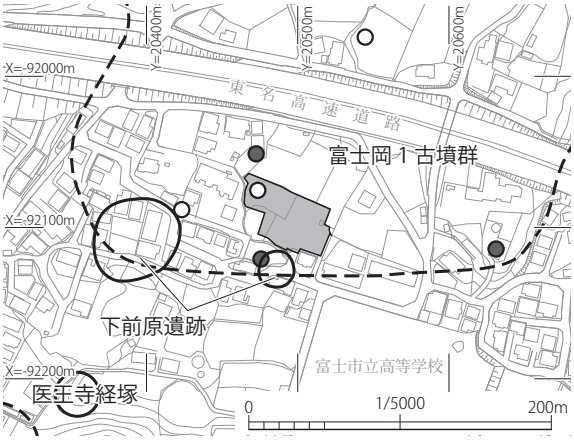
に本発掘調査をおこなっており、横穴式石室とともに鉄鏃や須恵器、灰釉陶器などの遺物が検出されている。また同調査においては平安時代とみられる竪穴建物跡も検出されており（富士市教育委員会 1998）、平成 9 年に下前原遺跡として新規登録されている。

調査の概要　1 次調査では、富士岡 F －第 21 号墳が存在したとされる調査地西側部分に 2 ヶ所のトレンチを設定し（1Tr・2Tr）、2 次調査では調査地の中央から東側に 6 ヶ所のトレンチを設定し（3Tr ～ 8Tr）、重機により掘削後、遺構・遺物の検出につとめた。

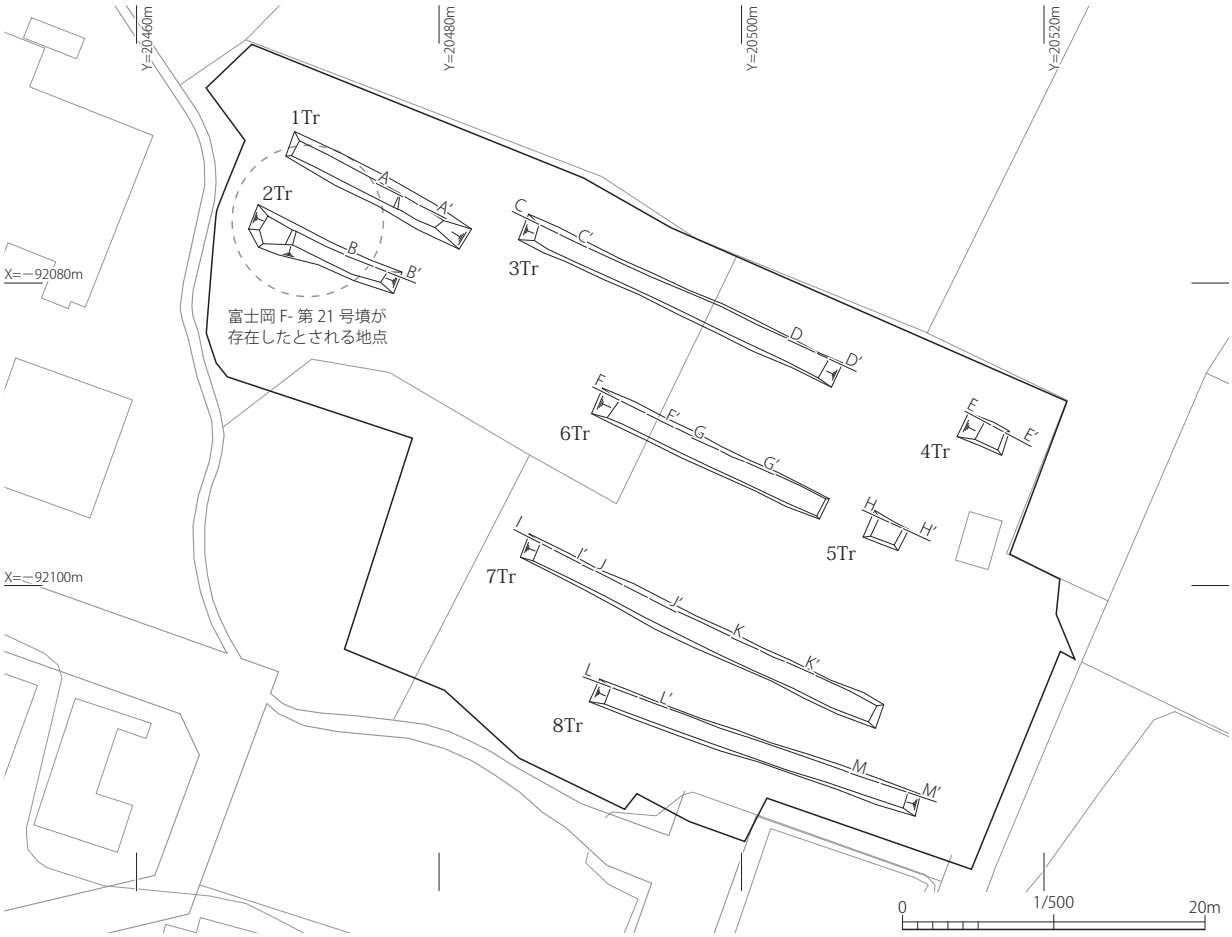
調査の結果　1 トレンチでは現地表下 1.1m にて基盤層（Ⅳ層）が確認され、その上層に大沢・大淵スコリアを含んだ古墳時代対応層が確認されたものの、目立った遺構や遺物は検出されなかった。それに対し、2 トレンチでは現地表下 0.5m において基盤層が確認されたため、当該地が新富士溶岩（曽比奈溶岩流Ⅰ 1）の影響によって起伏の激しい土地環境であったことが推定された。その凹部（1・2 トレンチ東側～ 3・6・7 トレンチ西側）には縄文時代から奈良・平安時代に対応する良好な土層堆積が認められ、縄文土器片や須恵器片等の遺物が少量出土したものの、遺構の発見には至らず、遺物の図示も出来なかった。富士岡 F －第 21 号墳については溶岩隆起の誤認定か、既に削平されたものとみられる。

参考文献

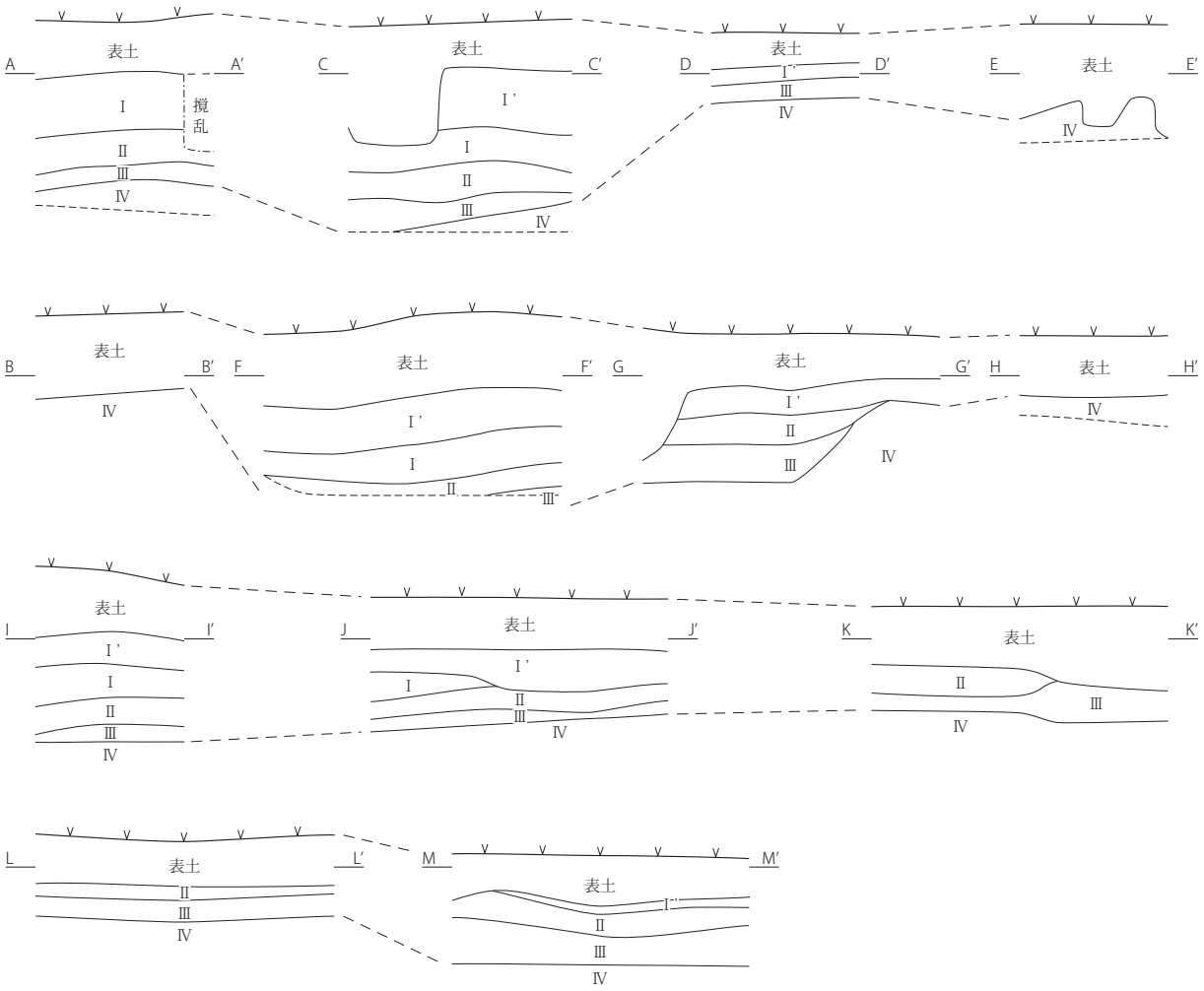
富士市教育委員会 1998『下前原遺跡・富士岡 F －第 22 号墳』



第 32 図　富士岡 1 古墳群第 13 地区　位置図



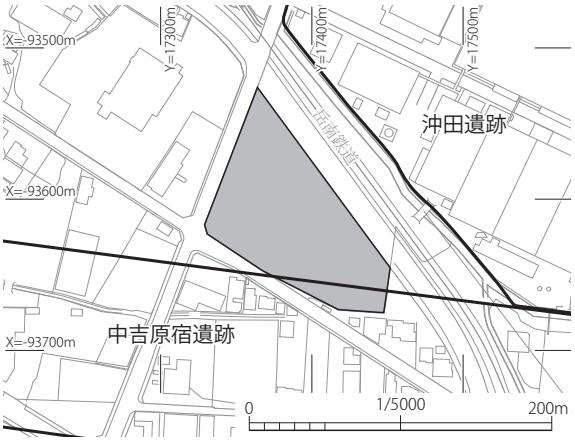
第 33 図　富士岡 1 古墳群第 13 地区　トレンチ配置図



表土　黒褐色（10YR2/2）　しまり弱、粘性弱。　　耕作土
I ’　黒褐色（10YR2/2）　しまりやや強、粘性やや強。大淵スコリア中量含む。
I　黒色　（10YR2/1）　しまりやや強、粘性弱。大淵スコリア多量、大沢スコリア微量含む。
II　黒色　（7.5YR1.7/1）しまり強、粘性やや強。大沢スコリア多量含む。
III　黒色　（7.5YR2/1）　しまり強、粘性やや強。大沢スコリア含まない。
IV　黒褐色（10YR2/2）　しまり強、粘性やや強。溶岩礫・赤褐色粒子を少量含む。

0　1/50　2m
L=38.0m

第 34 図　富士岡 1 古墳群第 13 地区　セクション図



第 35 図　中吉原宿遺跡第 7 地区　位置図

10. 中吉原宿遺跡　第 7 地区

所　在　地　富士市八代町 185 － 1 の内

調 査 面 積　51㎡（対象面積　8,577㎡）

調 査 期 間　平成 24 年 12 月 6 日～ 12 月 7 日

調査の原因　教育複合施設建設

遺跡の概要　中吉原宿遺跡は、富士川の氾濫原でも特に潤井川東岸に広がる緩扇状地上、標高 2 m程に立地する宿場跡であり、その範囲は南北約 150 m、東西約 1,000 mにわたる。東海道宿駅としての吉原宿は、まず慶長 6 年（1601）に田子の浦砂丘上に設定された宿駅に始まり（元吉原宿遺跡）、寛永 16 ～ 17 年（1639 ～

1640）に高波等の被害によって、北側の扇状地上に所替した（中吉原宿遺跡）。その後も僅か40年後の延宝８年（1680）に到来した台風により再び宿場は壊滅的な打撃を受け、翌年の天和元年（1681）に現在の吉原へ所替している（新吉原宿遺跡）。

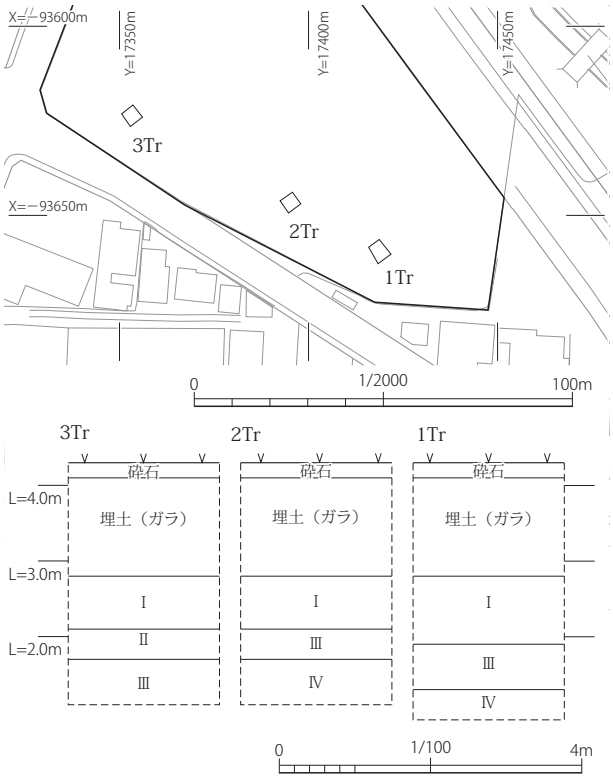
平成11年度に行われた第５地区の詳細確認調査では、土坑状の遺構に伴って17世紀中葉の陶磁器が出土しており（富士市教育委員会2002）、史料から得られた中吉原宿の年代観と矛盾しないことが考古学的に明らかとなっている。

調査の概要　対象地内に３ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　対象地の南側は中吉原宿遺跡の範囲内と考えられていたが、遺構・遺物は検出されなかった。水田耕作土の下層からは礫を含む砂層が検出され、これが高潮などによるものであれば、その下層の調査を行う必要があるが、安全上の理由から調査を断念した。

参考文献

富士市教育委員会2002『中吉原宿遺跡　中吉原宿遺跡第５地区詳細確認調査報告書』



I　ｵﾘｰﾌﾞ黒色粘質土（7.5Y2/1）　植物腐食が認められる。　旧水田耕作土
II　暗青灰色砂層　（10BG4/1）
III　暗青灰色砂層　（10BG4/1）礫（5～20㎝）多量。
IV　暗青灰色砂層　（10BG4/1）

第36図　中吉原宿遺跡第７地区　トレンチ配置図・セクション図

11．石坂７古墳群　第２地区

所　在　地　富士市今泉3743－２　外

調 査 面 積　160㎡（対象面積　1,975㎡）

調 査 期 間　平成24年12月７日～12月13日

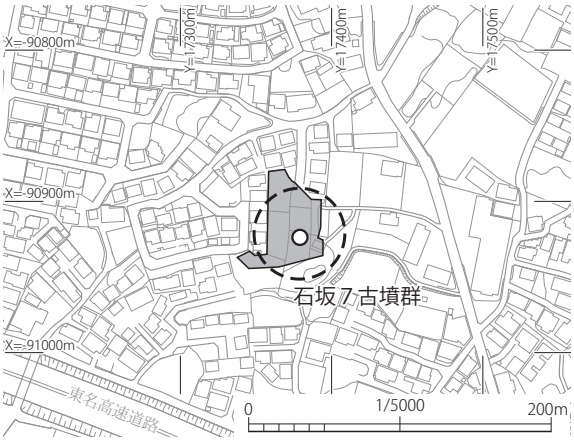
調査の原因　集合住宅新築

遺跡の概要　石坂古墳群は、石坂及び広見本町から南へ伸びる丘陵と国久保の谷部の標高20～114mに占地する16基以上の後期古墳で構成されている。石坂７古墳群は、国久保の谷の東側に位置する「石坂Ｃ－第23号墳」１基で構成される。『吉原市の古墳』によると既に削平されているものの「かわらけ」が出土したとの記録があり、石室材と考えられる溶岩が散乱していたらしい。現況では地面の盛り上がりは確認されないが、古墳の痕跡が残存している可能性もある。

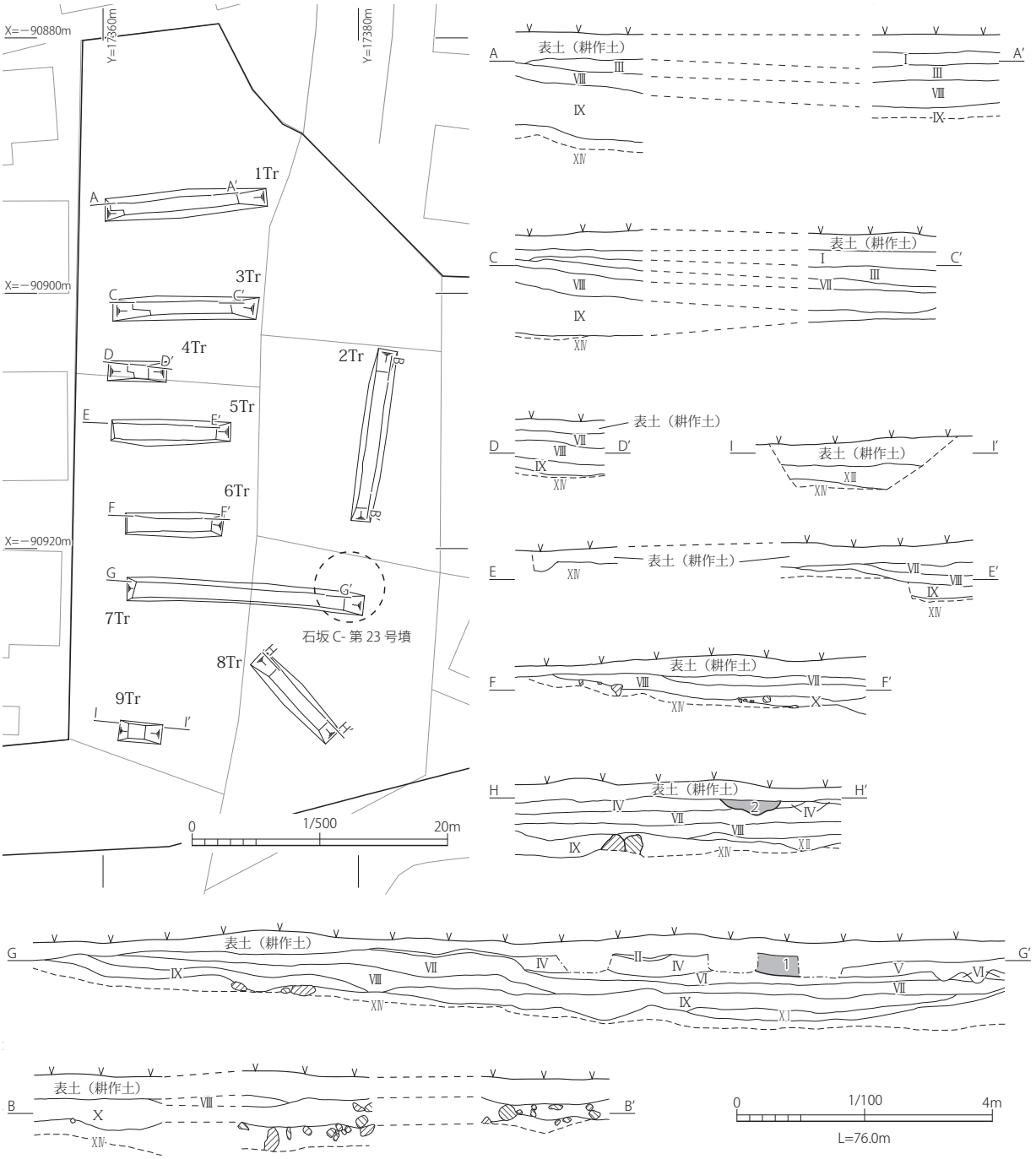
調査の概要　対象地内に９ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構・遺物は検出されなかった。周辺の宅地化が著しく地形観察は行えないが、1Tr・3Tr・5Trなどの土層観察の結果、現在平坦に見える調査地には、南北方向にいくつかの谷が存在したことが想定された。

石坂Ｃ－第23号墳が存在したと考えられていた地点にもトレンチを設定し掘削を行ったが、その痕跡を確認することは出来なかった。



第37図　石坂７古墳群第２地区　位置図



Ⅰ	黒色（10YR2/1）	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量、礫（1 cm）微量。	
Ⅱ	黒色（10YR2/1）	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量、礫（1 cm）微量。	
Ⅲ	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒子多量。	
Ⅳ	黒褐色（10YR3/2）	しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子微量、礫（1 ～ 2 cm）微量。	
Ⅴ	黒褐色（10YR3/2）	しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子中量、礫（1 ～ 2 cm）微量。	
Ⅵ	暗褐色（10YR3/4）	しまり強、粘性あり。橙色粒子中量。	
Ⅶ	黒褐色（7.5YR3/2）	しまり強、粘性ややあり。橙色粒子少量、礫（1 cm）微量。	
Ⅷ	黒褐色（10YR2/2）	しまりやや強、粘性ややあり。橙色粒子微量、礫（1 ～ 2 cm）微量。	
Ⅸ	極暗褐色（7.5YR2/3）	しまり強、粘性あり。礫（1 cm）多量。	
Ⅹ	極暗褐色（7.5YR2/3）	しまりやや弱、粘性あり。礫（15 ～ 30 cm）多量。	
ⅩⅠ	暗褐色（10YR3/3）	しまり強、粘性あり。礫（3 ～ 5 cm）中量。	
ⅩⅡ	にぶい黄褐色（10YR5/4）	しまり強、粘性あり。礫（5 cm）中量。	
ⅩⅢ	褐色（10YR4/6）	しまり強、粘性あり。礫（1 cm）少量。	
ⅩⅣ	黄褐色（10YR5/6）	しまりやや強、粘性ややあり。礫（5 ～ 20 cm）多量。	
1	黒色（10YR2/1）	しまりやや弱、粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。	SX01
2	黒褐色（10YR2/2）	しまりやや弱、粘性弱。橙色粒子微量。	SX02

第 38 図　石坂 7 古墳群第 2 地区　トレンチ配置図・セクション図

12. 厚原横道下遺跡　第 4 地区

所　在　地　富士市厚原 1209 － 1　外

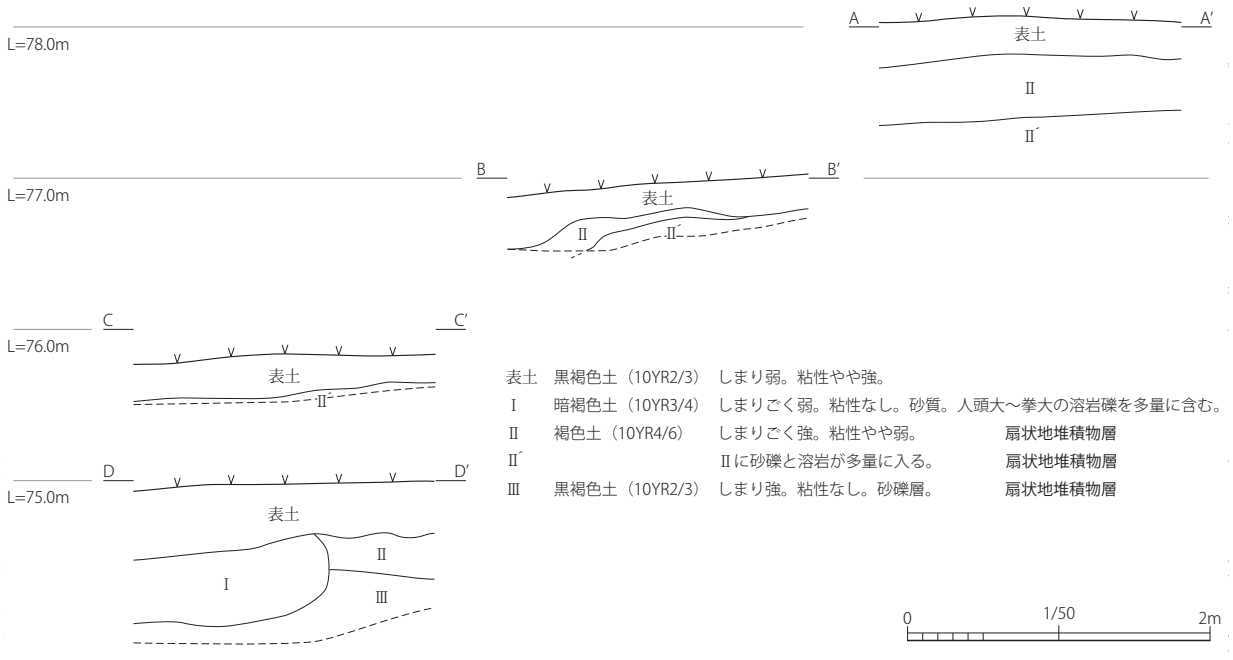
調 査 面 積　146㎡（対象面積　3,847㎡）

調 査 期 間　平成 24 年 12 月 11 日

調査の原因　宅地分譲地造成

遺跡の概要　厚原横道下遺跡は、富士山南麓に広がる扇状地上の標高 60 m程に立地する遺物散布地であり、その範囲は南北約 250 m、東西約 250 mを測る。遺物の散布量は少ないものの、表面採集できた遺物の中には、古墳時代の須恵器甕の破片が含まれている（富士市教育

第 39 図　厚原横道下遺跡第 4 地区　位置図



第 40 図　厚原横道下遺跡第 4 地区　トレンチ配置図・セクション図

委員会 1986)。周囲の遺跡状況から、古墳が存在する可能性も考えられる。これまでに 3 地区で試掘・確認調査を行っているが、遺構や遺物は検出されていない。

調査の概要　対象地内に 4 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　現地表下 0.2m ～ 0.4m において基盤層である扇状地堆積物層が確認された。この面とその下層において精査をおこなったものの、遺構や遺物の検出には至らなかった。調査対象地のうち、トレンチ調査をおこなったのは北の区画のみであるが、平成 23 年度に実施した 2 地区の調査成果（富士市教育委員会 2013）や現況観察から判断すると、残る区画についても遺構や遺物は存在しないものとみられる。

参考文献

富士市教育委員会 1986『富士市の埋蔵文化財（遺跡編）』

富士市教育委員会 2013『富士市内遺跡発掘調査報告書　―平成 22・23 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集

13. 大渕城跡　第 1 地区

所　在　地　富士市大淵 2213 － 175

調 査 面 積　8㎡（対象面積 267㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 2 月 1 日

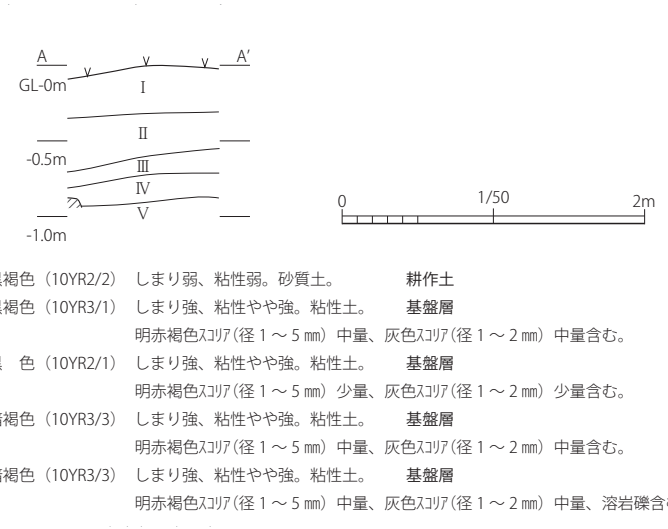
調査の原因　不動産売買

第 41 図　大渕城跡第 1 地区　位置図

遺跡の概要　大渕城跡は富士山南麓に延びる丘陵上の標高 340 m程に立地する城館跡であり、その範囲は南北約 300 m、東西約 250 mを測る。天文年間の今川・北条両氏の抗争に際し、北条氏が築いた「河東十二塁」の一つともいわれるが、記録や伝承はなく詳細は不明である。昭和 51 年に作図された縄張図によれば、南北に伸びる幅 10 ～ 40 m程の舌状丘陵上に位置し、三つの曲輪と五条以上の堀切が築かれた連郭式山城であったようである。その後の大淵団地の開発によって現在その遺構を確認することはできないが、住宅地の一部には旧地形の名残とみられる山林が残る。

調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　近代の耕作土直下において基盤層とみられる丘陵地堆積物層が検出され、さらに下層では大淵溶岩流起源とみられる溶岩礫を含んだ層を確認したが、遺構や遺物については全く検出されなかった。



Ⅰ　黒褐色（10YR2/2）　しまり弱、粘性弱。砂質土。　**耕作土**

Ⅱ　黒褐色（10YR3/1）　しまり強、粘性やや強。粘性土。　**基盤層**
明赤褐色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 5 ㎜）中量、灰色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 2 ㎜）中量含む。

Ⅲ　黒　色（10YR2/1）　しまり強、粘性やや強。粘性土。　**基盤層**
明赤褐色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 5 ㎜）少量、灰色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 2 ㎜）少量含む。

Ⅳ　暗褐色（10YR3/3）　しまり強、粘性やや強。粘性土。　**基盤層**
明赤褐色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 5 ㎜）中量、灰色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 2 ㎜）中量含む。

Ⅴ　暗褐色（10YR3/3）　しまり強、粘性やや強。粘性土。　**基盤層**
明赤褐色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 5 ㎜）中量、灰色ｽｺﾘｱ（径 1 ～ 2 ㎜）中量、溶岩礫含む。

第 42 図　大渕城跡第 1 地区　トレンチ配置図・セクション図

14. 沖田遺跡　第 148 次調査地点

所　在　地　富士市宇東川東町 168 － 1

調 査 面 積　3㎡（対象面積　400㎡）

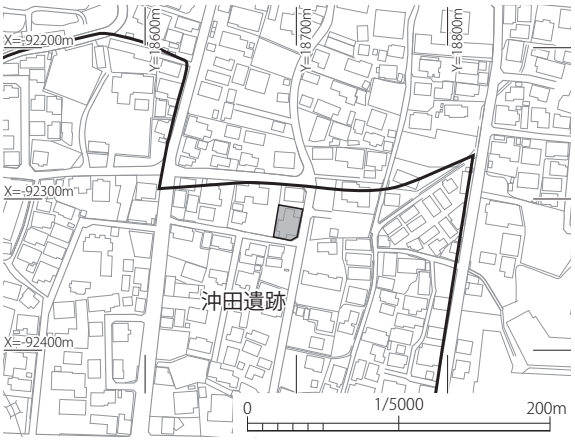
調 査 期 間　平成 25 年 2 月 5 日

調査の原因　不動産売買

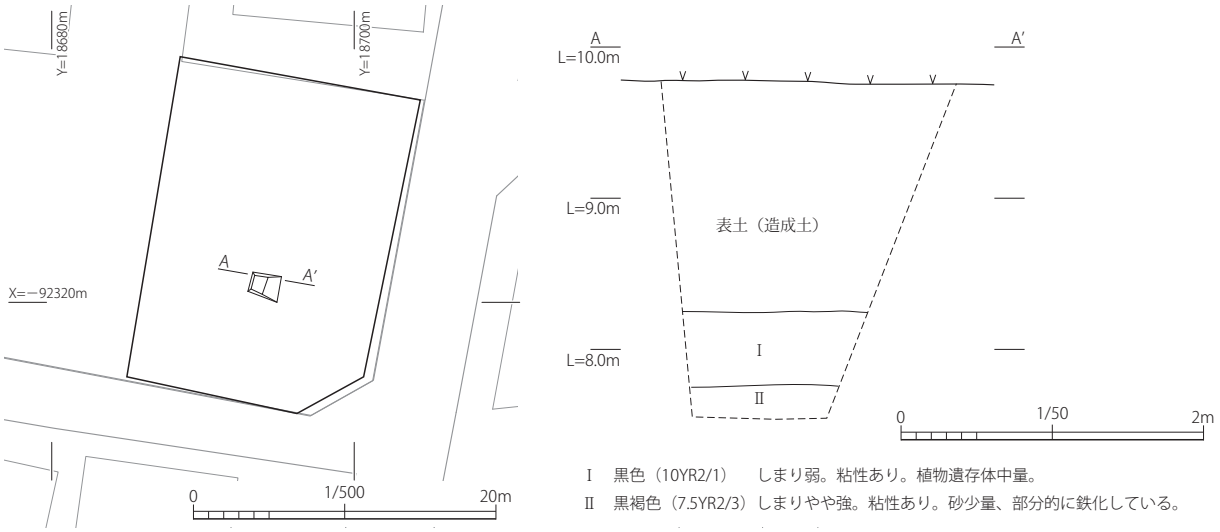
遺跡の概要　沖田遺跡は、浮島ヶ原低地の西端に立地する集落跡であり、その範囲は南北約 1.5㎞、東西約 2.5㎞の広域にわたる。昭和 20 ～ 30 年代の開発工事に伴う遺物発見等によって、弥生時代中期から奈良時代にかけての集落跡が埋没していることが想定されていたが、近年の調査によって、古墳時代や奈良～平安時代の水田遺構の検出事例が蓄積されている。後者の水田遺構には大型の畦畔を伴うものも含まれており、古代の富士郡域における条里区画を考える上で重要な資料として評価されている。

調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　地表下 1.5m で湧水が認められ、2.3m 掘削した時点で安全上の理由から調査を終了した。土層中からは、近・現代と考えられるアシ等の植物遺存体が確認されたが、それよりも古い時代の地層については検出することが出来ず、遺物も発見できなかった。



第 43 図　沖田遺跡第 148 次調査地点　位置図



I　黒色（10YR2/1）　しまり弱。粘性あり。植物遺存体中量。
II　黒褐色（7.5YR2/3）しまりやや強。粘性あり。砂少量、部分的に鉄化している。

第 44 図　沖田遺跡第 148 次調査地点　トレンチ配置図・セクション図

15. ジンゲン沢遺跡　第 4 地区

所　在　地　富士市天間 951 － 1　外

調査の原因　宅地分譲

調 査 期 間　平成 25 年 2 月 14 日～ 2 月 15 日

調 査 面 積　38㎡（対象面積　817㎡）

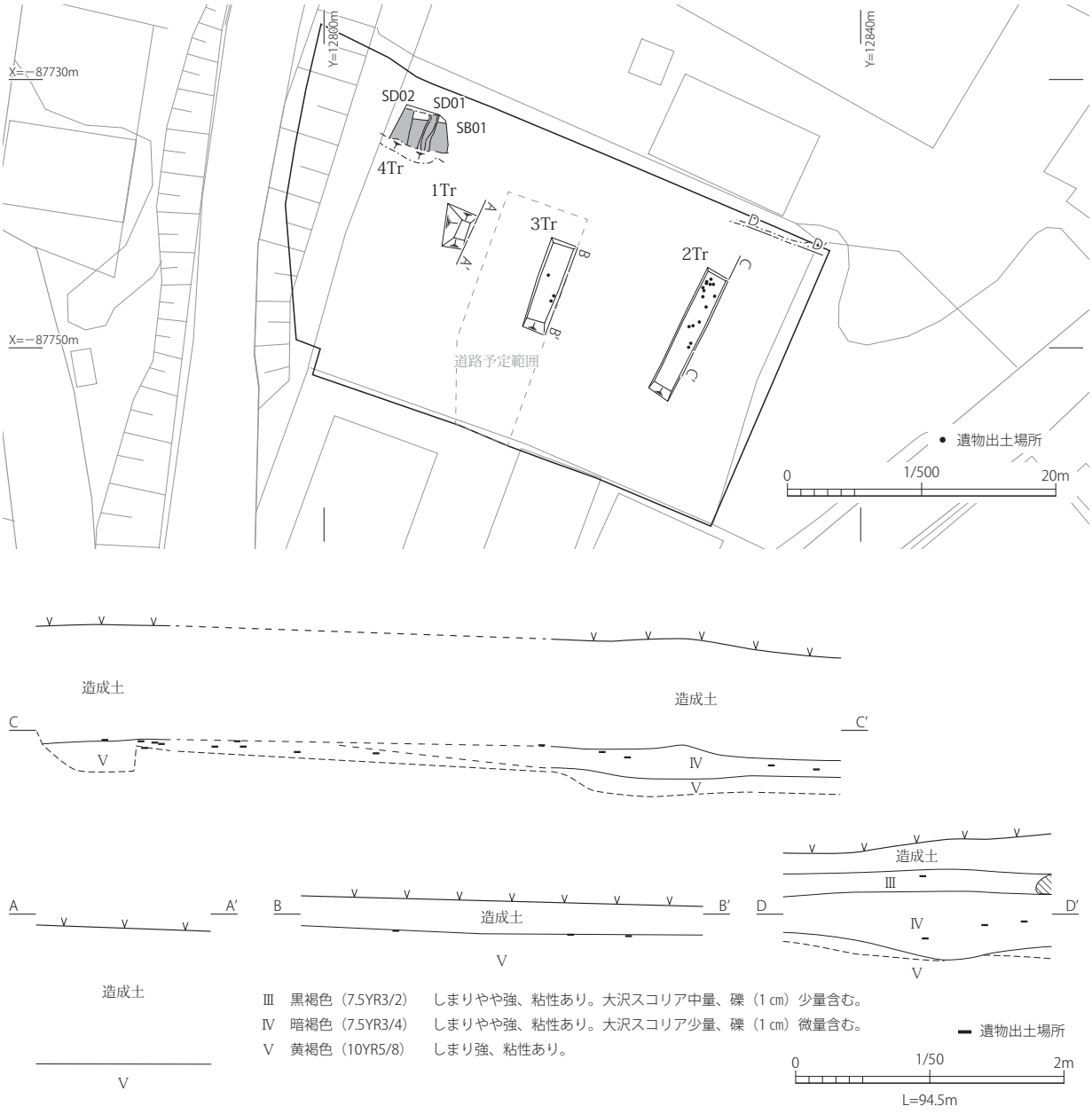
遺跡の概要　ジンゲン沢遺跡は富士山南麓から延びる丘陵を縦断する福泉川の左岸、標高 100 m程に立地する縄文時代の集落跡であり、埋没谷の東側には天間沢遺跡が所在する。平成 17･18 年に実施した本発掘調査では、縄文時代早期の土坑や中期の竪穴建物跡、配石遺構などが検出されており、報告書では中期の集落について、埋没谷を隔てて東接する天間沢遺跡に先行する集落であったことが指摘されている（富士市教育委員会 2007）。

調 査 概 要　対象地内に 4 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

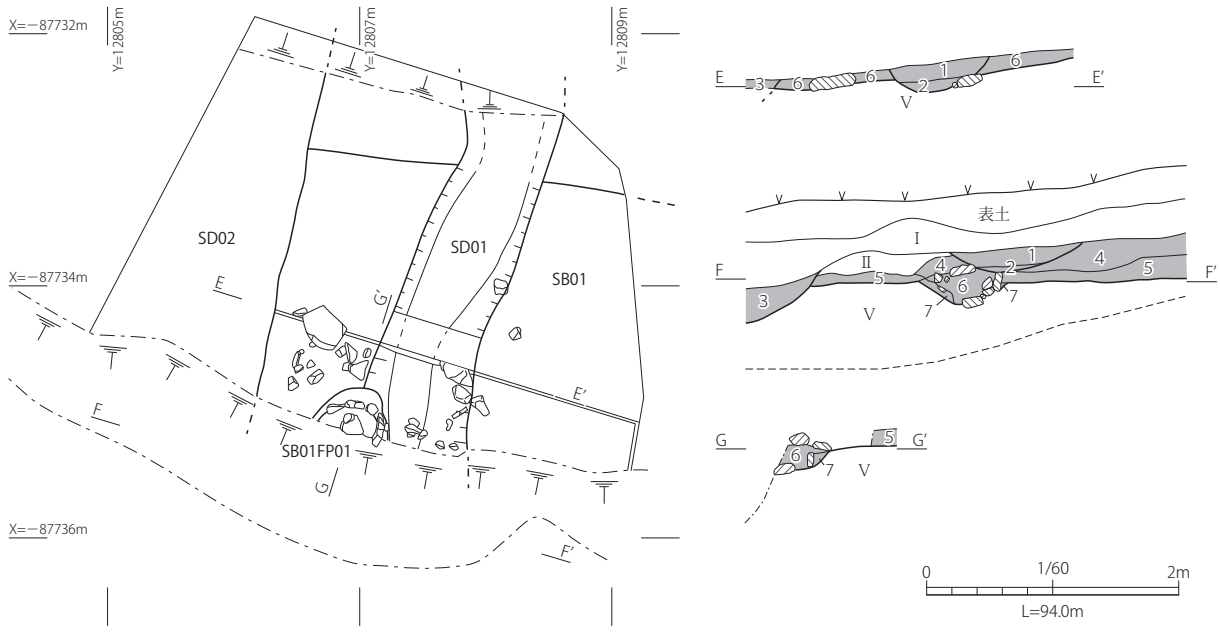
調査の結果　1Tr・3Tr においては現地表下 0.8 ～ 1.0 mまでごく最近の造成土がみとめられ、2 トレンチではその下に縄文時代の遺物を少量含む遺物包含層（Ⅳ層）

第 45 図　ジンゲン沢遺跡第 4 地区　位置図

が残存していたが、遺構は検出されなかった。調査区北西部の 4Tr では、炉を有する竪穴建物跡（SB01）の一部と、SB01 を切る 2 条の溝状遺構（SD01・02）が検出された。SB01 は北壁の一部と床面、炉のみが検出されたが、炉が建物の中央に位置するものと仮定すると、南北幅およそ 4.5 mの建物跡と推定される。確認される深さは約 35㎝で、覆土には大沢スコリアが含まれる。炉は撹乱により南半分を失っているが、南北径 62㎝、深さ 18㎝を測り、炉の石組みとみられる礫も残存していた。SD01・SD02 はともに南北方向に 2.7 m程が検出され、SD01 は幅約 80㎝、深さ約 20㎝を測り、SD02



第 46 図　ジンゲン沢遺跡第 4 地区　トレンチ配置図・セクション図



I　黒褐色（7.5YR2/1）　しまりやや弱、粘性ややあり。
　　大沢スコリア少量、礫（5㎜）少量含む。
II　極暗褐色（7.5YR2/3）しまりやや強、粘性ややあり。
　　大沢スコリア多量含む。
III　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりやや強、粘性あり。
　　大沢スコリア中量、礫（1㎝）少量含む。
IV　暗褐色（7.5YR3/4）　しまりやや強、粘性あり。
　　大沢スコリア少量、礫（1㎝）微量含む。
V　黄褐色（10YR5/8）　しまり強、粘性あり。

1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりやや弱、粘性ややあり。　SD01 覆土
　　ロームブロック少量、大沢スコリア微量含む。
2　黒色（10YR2/1）　しまり弱、粘性ややあり。　SD01 覆土
3　黒褐色（10YR2/3）　しまりやや弱、粘性ややあり。　SD02 覆土
　　黄色土中量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）しまりやや強、粘性弱。　SB01 覆土
　　大沢スコリア微量含む。
5　にぶい黄褐色（10YR4/3）しまり強、粘性あり。　SB01 覆土
　　大沢スコリア極微量、黒色土少量含む。
6　黒褐色土（5YR2/2）　しまりやや弱、粘性ややあり。　SB01FP01 覆土
　　下部にブロック状の焼土が中量堆積。
7　SB01FP01 掘方埋土

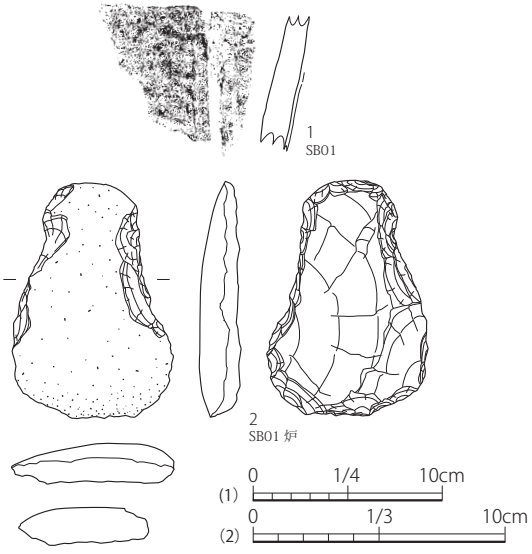
第 47 図　ジンゲン沢遺跡第 4 地区　4Tr 検出遺構　平面図・セクション図

の幅は不明であるが、確認された深さは約 30㎝である。

調査区南西から中央部については、近代以降の造成等により遺物包含層が削平されているものと考えられる。

出 土 遺 物　2 点を図示した（第 48 図）。

1 の縄文土器深鉢胴部片は SB01 から出土した。残存部の地文は無文で、縦位の隆帯を貼り付け、ナデにより断面三角形に整えている。中期曽利式に位置づけられるか。2 は SB01 の炉付近から出土した砂岩製の撥型打製石斧である。



第 48 図　ジンゲン沢遺跡第 4 地区　出土遺物実測図

参考文献

富士市教育委員会 2007『ジンゲン沢遺跡』

第 8 表　ジンゲン沢遺跡第 4 地区　出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	型式	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 48 図－ 1	R011	p.91	SB01	縄文土器	曽利？	鉢	-	(7.0)	-	良好	-	5YR5/8（明赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重さ(g)
第 48 図－ 2	R013	p.91	SB01	石製品	打製石斧	9.3	6.3	1.5	117.47

16. 宇東川遺跡　R地区

所　在　地　富士市宇東川西町 577 － 1

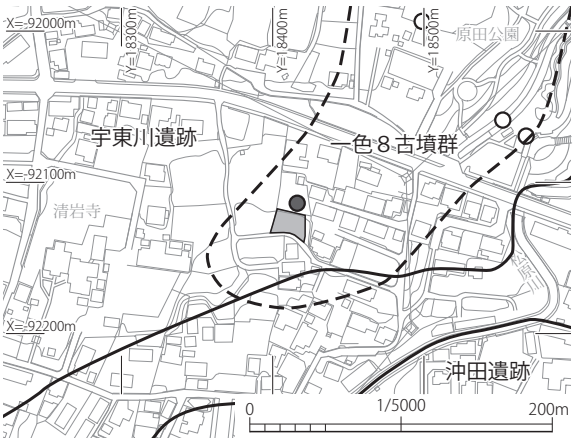
調 査 面 積　9㎡（対象面積　343㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 2 月 20 日

調 査 原 因　不動産売買

遺跡の概要　宇東川遺跡は、原田字飯森東を中心として所在し、縄文時代中～後期及び古墳～平安時代を主体とする集落跡である。また、横穴式石室を主体部とする古墳が 2 基発見されている。

本遺跡の特徴は継続性のある集落と、出土遺物の多さにあるといえる。過去に出土した土器や石器はコンテナ 300 箱以上に及び市内有数の遺物出土量を誇る。



第 49 図　宇東川遺跡R地区　位置図

平成 19 年度に本発掘調査が行われた P 地区では、縄文時代の土坑と奈良・平安時代の竪穴建物跡 3 軒および当該期の遺物が検出されている（富士市教育委員会 2009）。

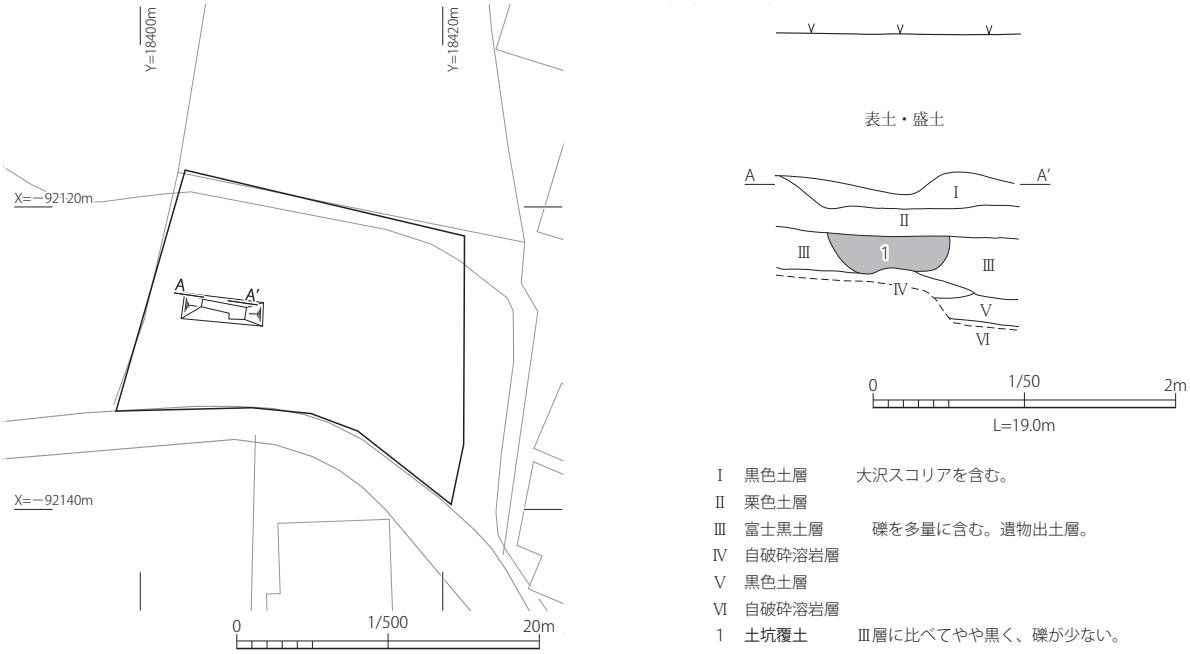
調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　地表下 1.4m で土坑らしき落ち込みを確認したが、明瞭ではない。

縄文時代の遺物包含層に対応すると考えられる土層は存在するものの、出土したのは縄文土器 1 片のみで図化は出来なかった。

参考文献

富士市教育委員会 2009『宇東川遺跡　平成 19 年度左富士臨港線街路築造工事に伴う宇東川遺跡 P 地区埋蔵文化財発掘調査報告書』



第 50 図　宇東川遺跡R地区　トレンチ配置図・セクション図

17．舟久保遺跡　第52地区

所　在　地　富士市今泉6丁目1658－5　外

調 査 面 積　13㎡（対象面積　864㎡）

調 査 期 間　平成25年2月27日

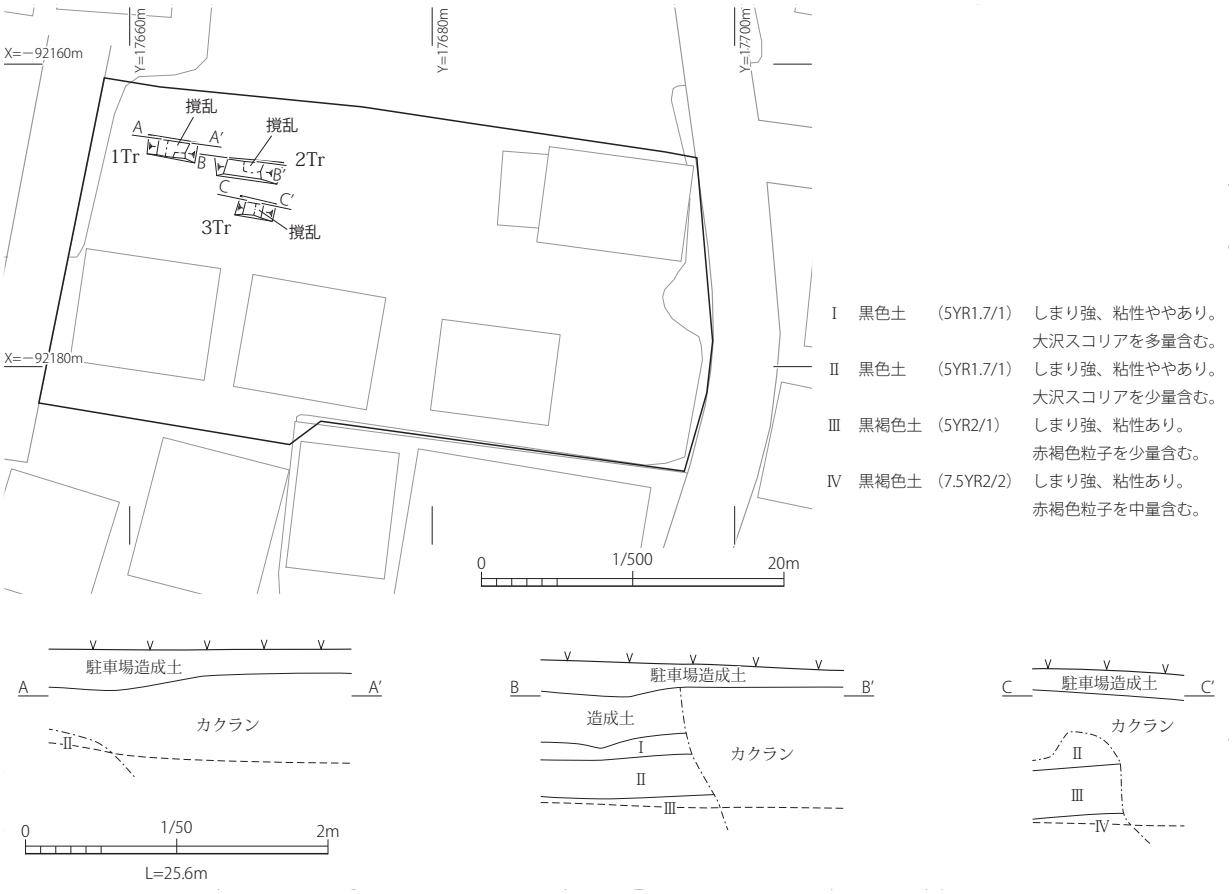
調査の原因　集合住宅新築工事

遺跡の概要　本節「3．舟久保遺跡　第51地区」(p.8)参照。

調査の概要　対象地内に3ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構・遺物は確認されなかった。土層の堆積が良好な部分は存在するものの無数の撹乱が及んでおり、かつて遺構が存在した可能性は残るが、現在は痕跡を確認することは出来ない。

第51図　舟久保遺跡第52地区　位置図



第52図　舟久保遺跡第52地区　トレンチ配置図・セクション図

18．神谷古墳群　第9地区

所　在　地　富士市中里1763－1

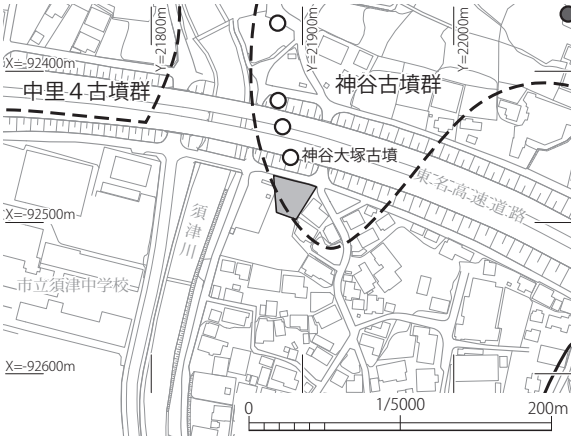
調 査 面 積　17㎡（対象面積　416㎡）

調 査 期 間　平成25年3月5日

調査の原因　不動産売買

遺跡の概要　神谷古墳群は、須津川東岸に広がる河岸段丘上の標高20～100m程に立地する古墳群である。これまでに富士市教育委員会によって須津J－第139・

140 号墳（大塚団地 1・2 号墳）や須津 J －第 10 号墳（千人塚古墳）が、旧（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所によって須津 J －第 6・118・159 号墳が発掘調査されており、6 世紀後葉頃から 7 世紀代にかけて古墳群が形成されていった状況が明らかになりつつある。なお、今回の調査地に近い東名高速道路南側法面付近にはかつて金銅装大刀や甲冑、金銅装馬具などが出土したと伝わる須津 J －第 30 号墳（神谷大塚古墳）が存在したとされる。



第 53 図　神谷古墳群第 9 地区　位置図

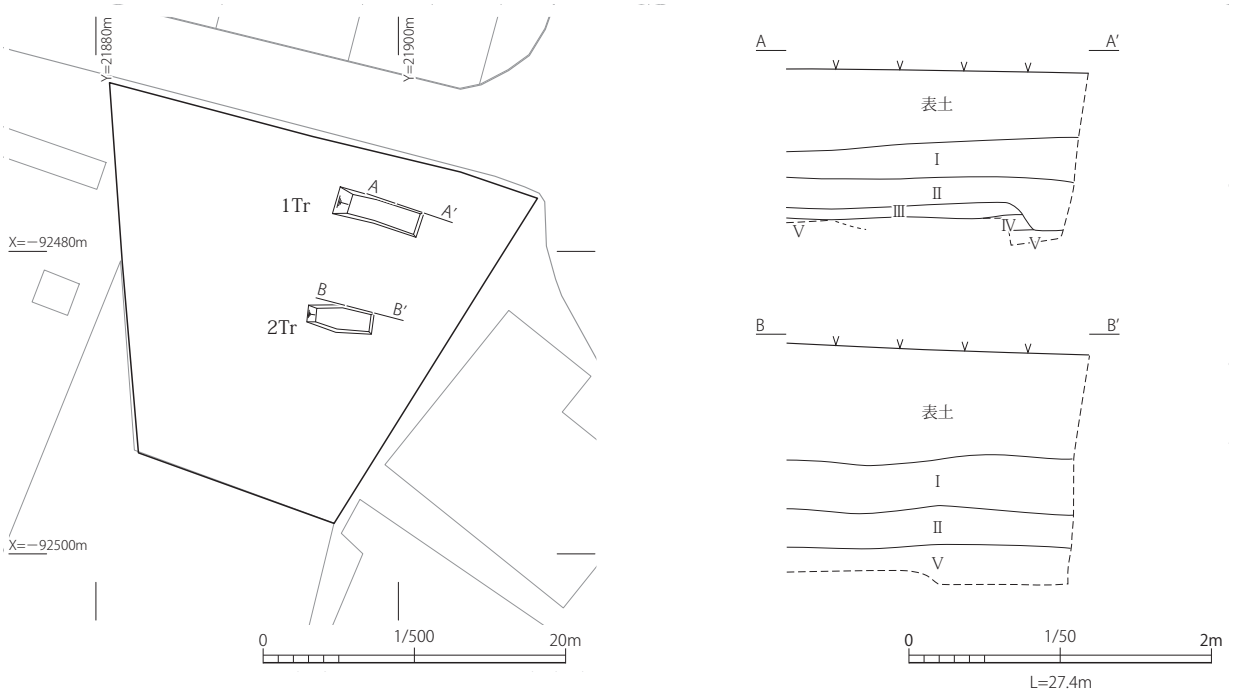
調査の概要　対象地内に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機による表土掘削の後、遺構や遺物の検出に努めた。

調査の結果　現地表下 1.0 ～ 1.5 mにおいて基盤層とみられる旧須津川河床層（Ⅴ層）が検出されたが、その間に遺構や遺物は検出されなかった。

1 トレンチの東側では固く締まった暗褐色砂質土層（Ⅳ層）が検出されており、古墳時代に古墳が築かれた地山に連なる可能性があるが、これより南側に伸びることはなく、平成 23 年度に行われた地蔵畑遺跡隣接地（第 3 地区）の試掘調査結果（富士市教育委員会 2013）を合わせて考えると、大きく東側へ広がるとみられる。Ⅳ層が当時の地山につながるとすれば、須津古墳群内でも有数の副葬品内容を誇る神谷大塚古墳が、須津川本流に直接面する河岸段丘上では最南端に築かれていたということになり、須津古墳群の景観や形成過程、群構造を考える上で、重要な知見となる。

参考文献

富士市教育委員会 2013『富士市内遺跡発掘調査報告書　―平成 22・23 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集



表土	径 10 ～ 30 ㎝の溶岩礫が混ざる。	近代造成土
Ⅰ　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）	しまり強、粘性なし。	
Ⅱ　黒褐色粘性土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。橙色スコリア粒子を極微量含む。	腐食土層
Ⅲ　暗褐色砂質土（10YR3/3）	しまりやや弱、粘性なし。	Ⅱ・Ⅳ漸移層
Ⅳ　暗褐色砂質土（10YR3/3）	しまり強、粘性なし。	古墳時代の地山か
Ⅴ　黒褐色砂質土（7.5YR2/2）	しまりやや弱、粘性なし。径 10 ～ 50 ㎝の円礫を極多量含む。	旧須津川河床

第 54 図　神谷古墳群第 9 地区　トレンチ配置図・セクション図

19. 伝法1古墳群（東平遺跡　第70地区）

所　在　地　富士市伝法2700－11　外

調 査 面 積　27㎡（対象面積1,727㎡）

調 査 期 間　平成25年3月19日

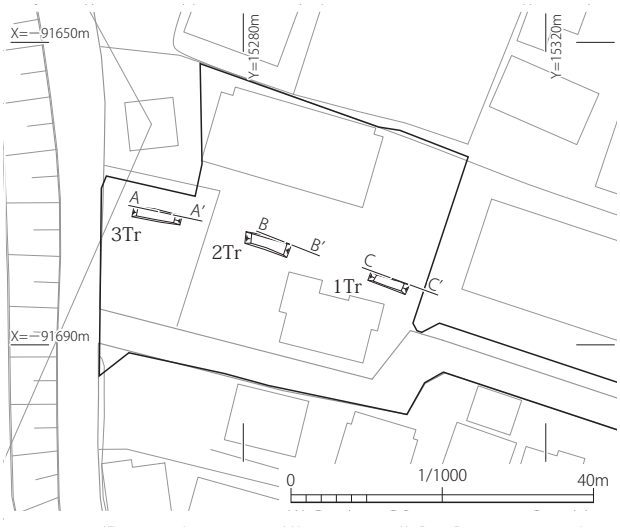
調査の原因　宅地分譲

遺跡の概要　伝法1古墳群は、富士山南麓を流れる伝法沢川の東岸、標高約10 m～40m程に分布する古墳によって構成されており、各地点によって古墳の密度は異なるものの、その範囲は南北約1,100 m、東西約400 mに及ぶ。現状で認識されている古墳の数は13基であるが、この地域が古くは「塚林」と呼ばれていたことからは、さらに多くの古墳が存在していたことが窺われる。古墳の内容について詳細が判明しているものは限られるが、古墳時代後期初頭頃に築かれた大型円墳である伊勢塚古墳を嚆矢として、方頭大刀や銙帯金具が副葬された7世紀後葉から8世紀初頭頃の西平第1号墳まで、おおよそ200年間にわたって古墳が築かれたことが判明している。

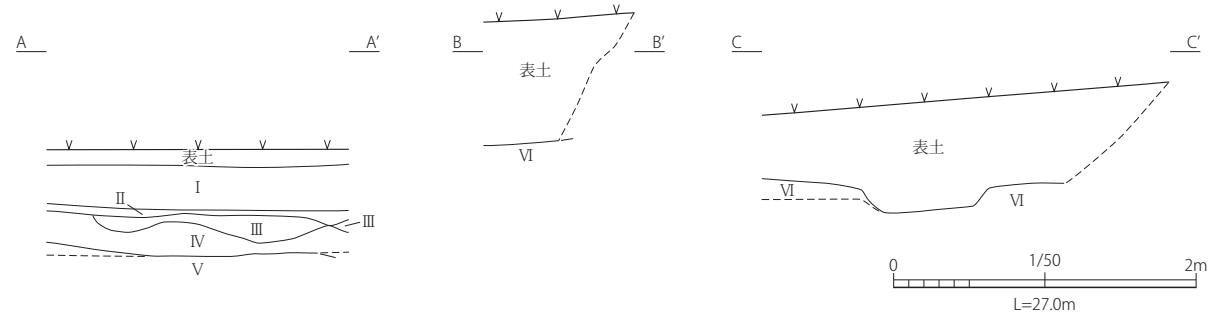
調査の概要　対象地内に3ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は全く検出されなかった。1Tr・2Trでは表土である近代耕作土直下から基盤層が検出されたため、すでに遺物包含層等が削平を受けているものと判断した。一段下がった西側部分に設定した3Trでは、伝法沢起源とみられる砂礫層やスコリアが認められており、古墳を造るには適さない地盤であると判断した。

第55図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）　位置図



第56図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）　トレンチ配置図



I	黒色砂礫	（10YR2/1）しまり弱、粘性なし。径5～20㎜の礫をごく多量、赤褐色スコリアを多量含む。	伝法沢起源の河川堆積層
II	暗褐色砂質土	（10YR3/3）しまりごく強、粘性なし。	伝法沢起源の河川堆積層
III	暗褐色砂礫	（10YR3/3）しまりやや弱、粘性なし。赤褐色スコリアを少量含む。	伝法沢起源の河川堆積層
IV	黒褐色砂	（10YR3/2）しまり強、粘性なし。	伝法沢起源の河川堆積層
V	暗褐色砂質土	（10YR3/3）しまり強、粘性なし。	伝法沢起源の河川堆積層
VI	暗褐色砂質土	（10YR3/3）しまりやや弱、粘性なし。径5～20㎜の礫を多量含む。	

第57図　伝法1古墳群（東平遺跡第70地区）　セクション図

20. 中里３古墳群　第５地区

所　在　地　富士市中里 2150 － 1

調 査 面 積　23㎡（対象面積 576㎡）

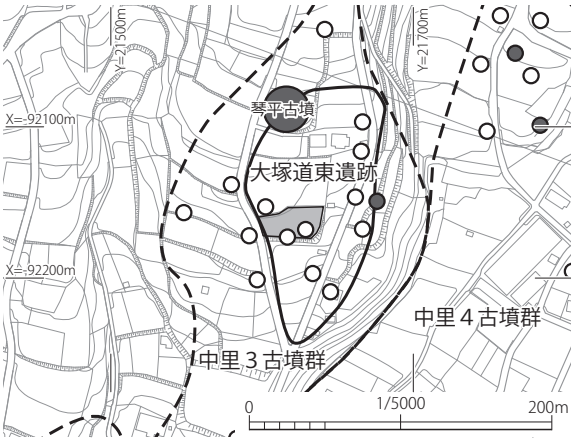
調 査 期 間　平成 25 年 3 月 26 日

調査の原因　農地改良

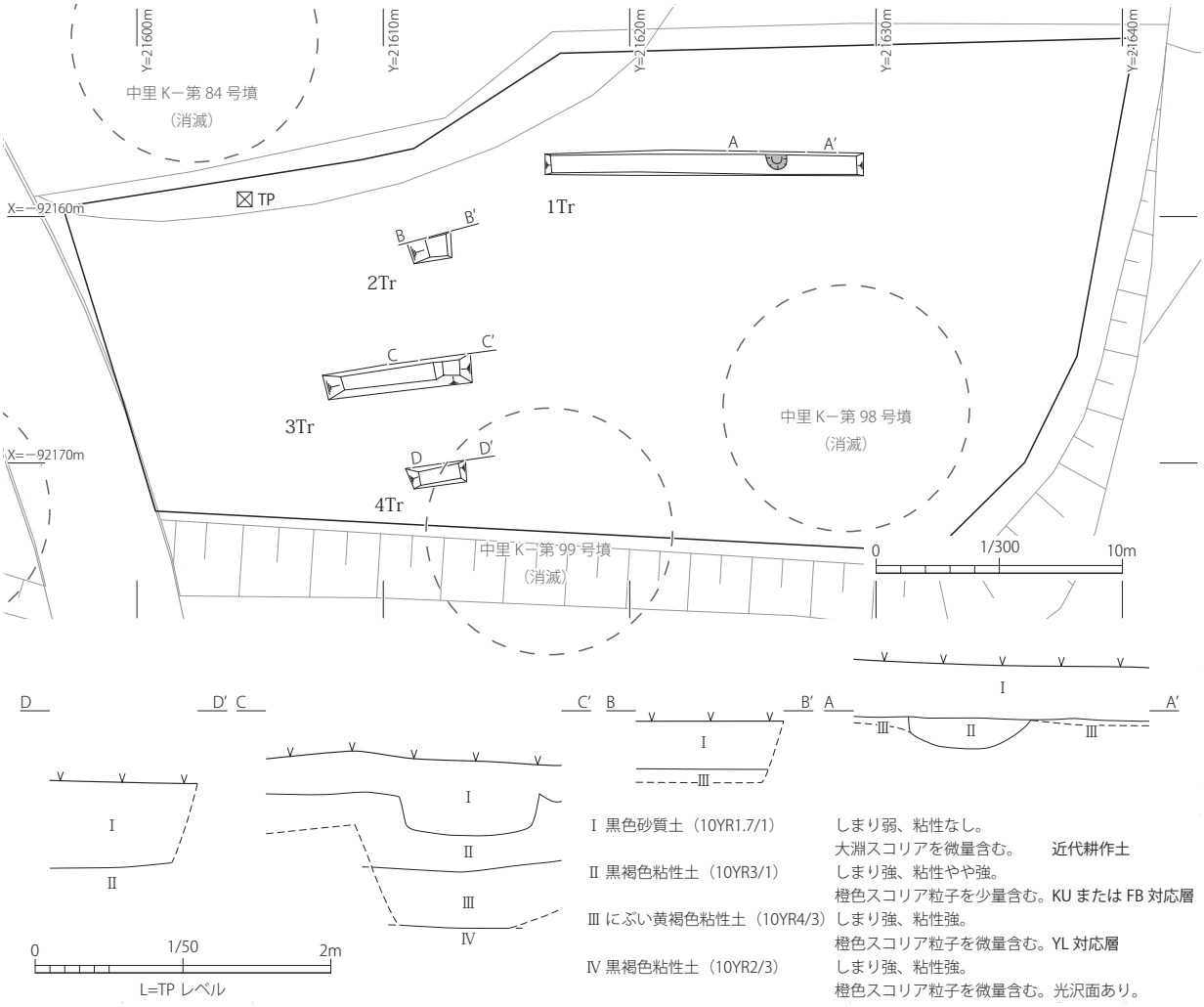
遺跡の概要　中里３古墳群は、愛鷹山南西麓を流れる須津川の西岸に発達した河岸段丘上、標高約 30 m～ 70m 程に分布する 18 基の古墳によって構成される。現存する古墳は県指定史跡である琴平古墳とその南東に位置する中里Ｋ－第 209 号墳だけであるが、銅鋺を出土した中里Ｋ－第 79 号墳（道東古墳）や、豊富な鉄製品や須恵器を出土した中里Ｋ－第 97・98・99 号墳といった６世紀後葉から７世紀代の古墳が確認されている。

調 査 概 要　対象地内に４ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構や遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は発見されなかった。近代耕作土直下より、栗色土層（KU）または富士黒土層（FB）以下のローム層が検出されたことから、古墳時代の遺物包含層等は耕作地造成の際に既に削平されているものと判断した。なお調査地が縄文時代の遺物散布地である大塚道東遺跡の範囲内にも当たるため、3Tr ではやや深く掘削したが、遺物などを検出するには至らなかった。



第 58 図　中里３古墳群第５地区　位置図



Ⅰ 黒色砂質土（10YR1.7/1）　しまり弱、粘性なし。大淵スコリアを微量含む。　近代耕作土

Ⅱ 黒褐色粘性土（10YR3/1）　しまり強、粘性やや強。橙色スコリア粒子を少量含む。KU または FB 対応層

Ⅲ にぶい黄褐色粘性土（10YR4/3）　しまり強、粘性強。橙色スコリア粒子を微量含む。YL 対応層

Ⅳ 黒褐色粘性土（10YR2/3）　しまり強、粘性強。橙色スコリア粒子を微量含む。光沢面あり。

第 59 図　中里３古墳群第５地区　トレンチ配置図・セクション図

21．沖田遺跡　（工事立会）

所　在　地　富士市比奈 843 － 1　外

対 象 面 積　950㎡

工事立会日　平成 25 年 7 月 22・26 日、9 月 3 日

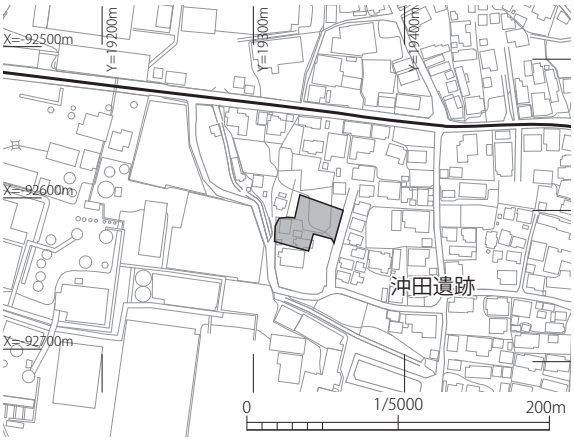
遺跡の概要　本節「14．沖田遺跡　第 148 次調査地点」(p.31）参照。

工事立会に至る経緯　平成 24 年 2 月、当該地において宅地造成工事が計画された。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「沖田遺跡」の範囲内に位置することから、2 月 14 日、「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が事業者から富士市教育委員会教育長宛に提出された。

2 月 27 日、文化財保護法 93 条に基づき、「埋蔵文化財発掘の届出書」が提出され、3 月 4 日、文化振興課はこれを静岡県教育委員会教育長宛に進達（富教文発第 555 号）するとともに、工事計画や過去の調査事例等を検討したうえで、当工事が埋蔵文化財に与える影響は無いと判断し、文化振興課職員による工事立会いを希望する旨を副申した。

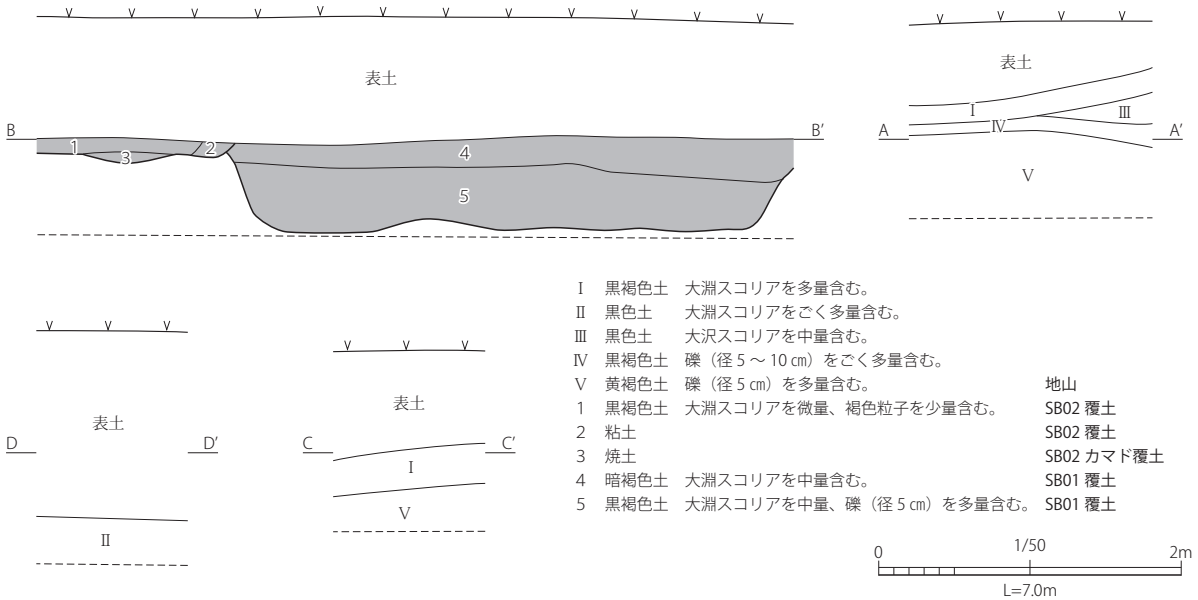
工事立会の結果　工事の進行に合わせ、7 月 22 日、7 月 26 日､9 月 3 日の 3 回にわたり工事立会いを実施した。

その結果、下水用基礎坑掘削時の土層断面観察で 2 軒の竪穴建物跡（SB01・SB02）を確認し、弥生土器・土師器・須恵器といった遺物が出土した。



第 60 図　沖田遺跡工事立会　位置図

第 61 図　沖田遺跡工事立会　平面図

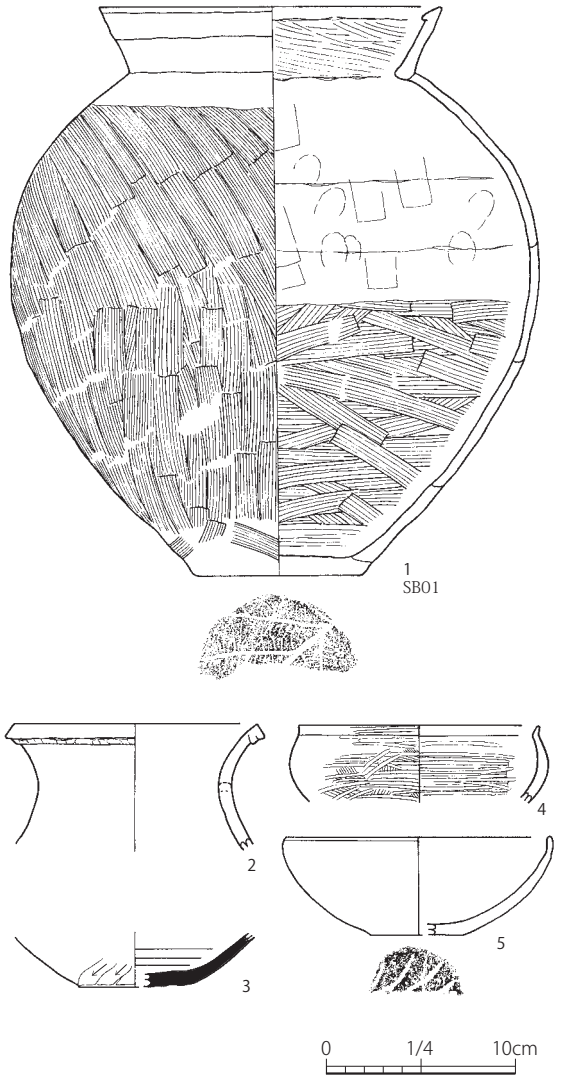


第 62 図　沖田遺跡工事立会　セクション図

出土遺物　5点図示した（第63図）。

1は土師器の駿東型甕である。口唇部は内側に肥厚させ、胴部は中位よりやや上が丸く張り球胴を呈する。胴部外面は斜ハケ目調整、内面は横ハケ目と板ナデ、ユビオサエで整形され、外面にミガキは認められない。7世紀代に位置づけられる。2は土師器壺の口縁部である。緩やかに外反して端部外面に長方形の折り返しがつく。内外面ともに施文は認められない。弥生時代終末期から古墳時代前期（大廓式期前半）に位置づけられる。

3は須恵器坏の底部片である。底部には糸切痕が未調整で残る。4の土師器坏は内湾する半球形の体部に短く直立する口縁部がつく。体部と口縁部の境は明瞭に屈曲し、口縁端部はシャープに先細りする。内外面とも細いヘラミガキ調整が施される。7世紀代に位置づけられる。5の土師器坏は底部に木葉痕を有し、体部が半球形を呈し、口縁部が内湾する、「駿豆型」の坏である。5世紀後半に位置づけられる。



第63図　沖田遺跡工事立会　出土遺物実測図

第9表　沖田遺跡工事立会　出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第63図－1	R003ほか	p.94	SB01	土師器	甕	（18.0）	（30.7）	（8.4）	良好	50%		7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR3/4（暗赤褐）
第63図－2	R001	p.94		土師器	壺	（12.8）	（6.8）	-	良好	40%	反転復元	7.5YR7/6（橙）	7.5YR7/6（橙）
第63図－3	R005	p.94		須恵器	坏	-	（2.8）	（6.0）	良好	30%	反転復元	2.5YR 7/2（灰黄）	2.5YR 7/2（灰黄）
第63図－4	R001	p.94		土師器	坏	（12.6）	（5.0）	-	良好	30%	反転復元	5YR6/6（橙）	5YR5/6（明赤褐）
第63図－5	R002	p.94		土師器	坏	（13.8）	（5.2）	（4.8）	良好	30%	反転復元	5YR6/6（橙）	7.5YR7/6（橙）

第３節　平成 25 年度の発掘調査報告

１.三日市廃寺跡　（東平遺跡　第 61 地区）

所　在　地　富士市浅間上町 2902 － 23 の一部

調査の原因　宅地造成分譲

調 査 期 間　平成 25 年４月５日

調 査 面 積　43㎡（対象面積 867㎡）

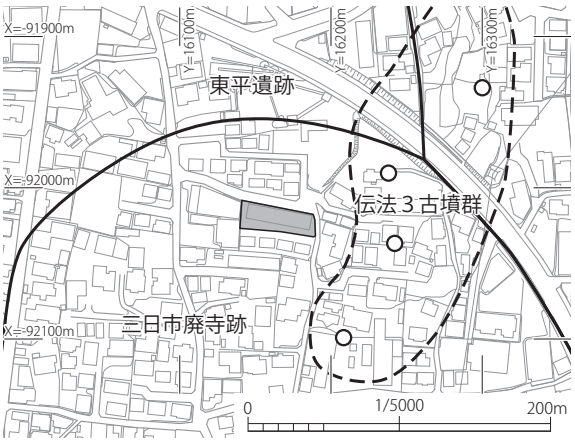
遺跡の概要　本章第２節「６.三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区）」(p.18）参照。

調査の概要　対象地内に１ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

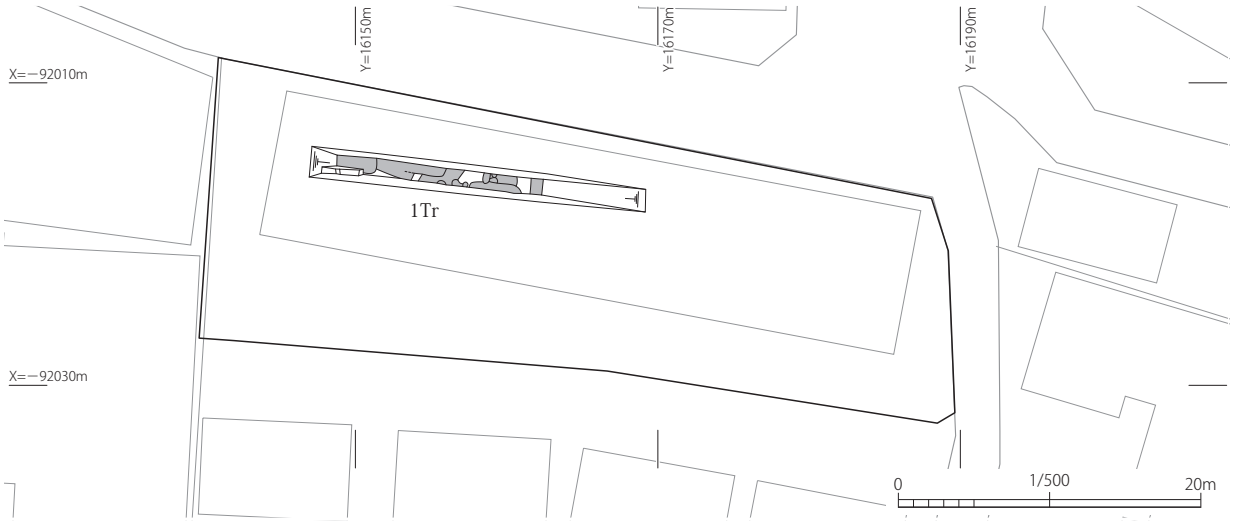
調査の結果　現地表下約 1.45m から奈良・平安時代とみられる竪穴建物跡７軒（SB01 ～ 07）、土坑４基（SK01 ～ 04）、ピット２基（Pit01 ～ 02）が検出された。また、土師器、須恵器、灰釉陶器などの遺物が確認された。

竪穴建物跡 SB05 付近ではカマドと推定される粘土ブロックが認められた。SB01 ～ 07 は建物平面の一辺のみが確認され、それぞれの建物跡に重複が認められることから、調査地全域に遺構が拡がることが推定される。

出 土 遺 物　図化できたのは土師器１点のみである（第 66 図）。体部は丸みをもち、先端が欠損しているが高台を有する坏である。内面はヘラミガキ調整され、黒色処理が施されている。



第 64 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 61 地区）　位置図

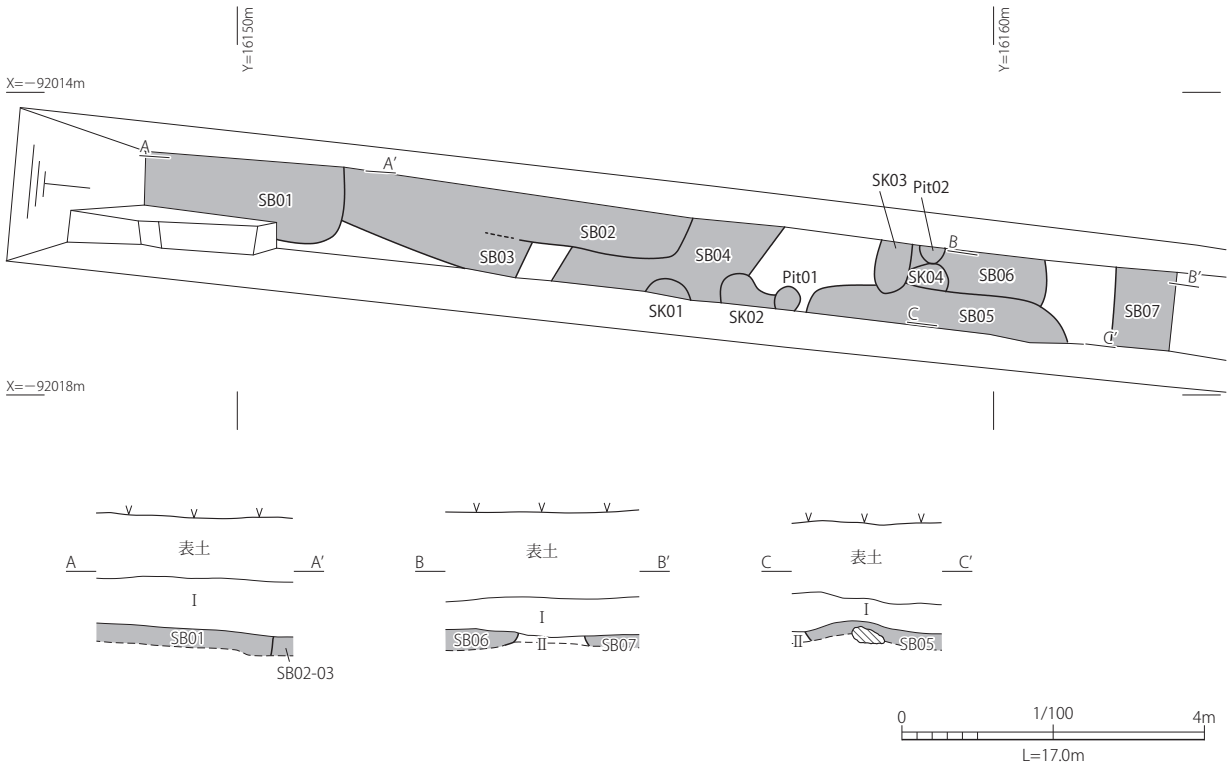


第 65 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 61 地区）　トレンチ配置図

第 66 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 61 地区）　出土遺物実測図

第 10 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 61 地区）　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 66 図－１	R006	p.95	1Tr	土師器	模倣坏	-	(2.3)	-	良好	30%	反転復元。内面黒色処理	N3/（暗灰）	10YR7/4（にぶい黄橙）



I	暗褐色土（10YR3/3）しまりあり。粘性強。礫（5cm）少量。　　造成土
II	黒褐色土（10YR2/3）しまりあり。粘性やや強。橙色粒子中量。
SB01	黒褐色土（7.5YR3/1）しまりあり。粘性やや強。礫（3 ～ 5cm）中量、橙色粒子微量。
SB02-03	黒褐色土（7.5YR3/1）しまりあり。粘性やや弱。礫（3cm）少量、橙色粒子少量。
SB06	黒褐色土（10YR3/1）しまりあり。粘性やや弱。橙色粒子少量。
SB07	黒色土　（10YR2/1）しまりあり。粘性やや弱。橙色粒子中量。
SB05	黒褐色土（10YR3/2）しまりあり。粘性やや強。礫（1cm）少量、粘土ブロック微量、橙色粒子微量。

第 67 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 61 地区）　トレンチ平面図・セクション図

2．善得寺城跡・東泉院跡　第３地区

所　在　地　富士市今泉８丁目 1445 － 1 の内

調査の原因　神社駐車場造成

調 査 期 間　平成 25 年４月 22 日～４月 26 日

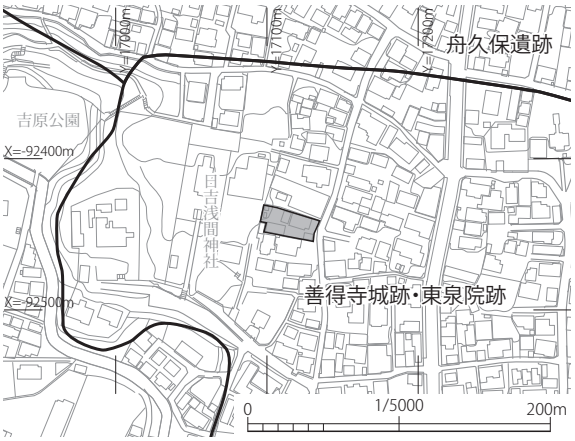
調 査 面 積　76㎡（577㎡）

遺跡の概要　本章第２節「７．善得寺城跡・東泉院跡　第２地区」(p.22) 参照。

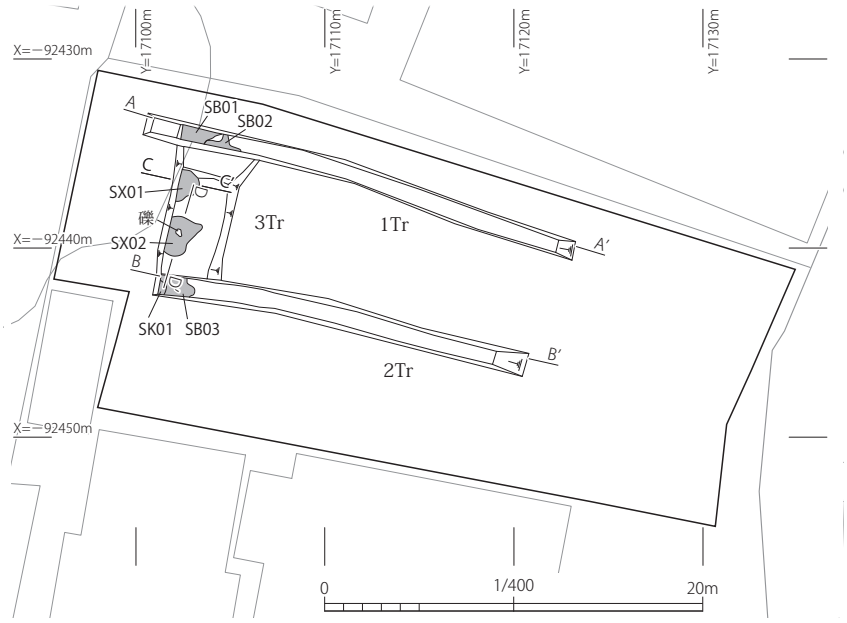
調査の概要　対象地内に３ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　1Tr・2Tr の西側では GL － 0.7 m で、平安時代の竪穴建物跡３軒（SB01 ～ 03）を検出した。特に 1Tr の SB02 ではカマドが比較的良好に遺存していた。3Tr では、中世・近世の遺構・遺物の検出を目指し、重機による面的な掘削を行った。複数の掘り込み (Pit01 ～ 07、SX01・02) が確認出来たが、近世のものとは断定できず、現段階では近・現代のものと考えておく。

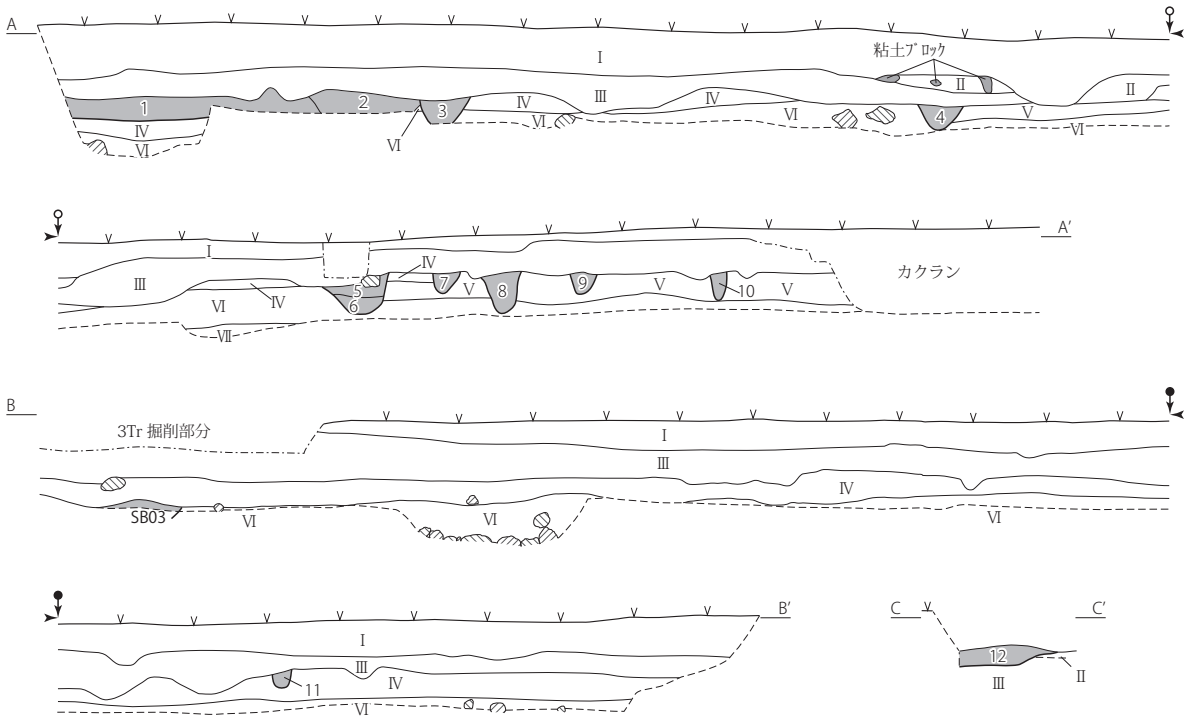
遺物としては土師器が出土したが、図示には至らなかった。



第 68 図　善得寺城跡・東泉院跡第３地区　位置図



第 69 図　善得寺城跡・東泉院跡第 3 地区　トレンチ配置図



Ⅰ	黒褐色土	しまり弱。粘性あり。礫（5 ㎜）中量。一部砂利敷き。	表土
Ⅱ	黒色土	しまりやや弱。粘性あり。15 ㎝の粘土ブロックが混入。	
Ⅲ	暗褐色	しまりやや強。粘性あり。礫（2 ～ 3 ㎝）微量。	
Ⅳ	黒褐色	しまりやや強。粘性弱。灰白色粒子多量。	
Ⅴ	黒褐色	しまりやや強。粘性弱。灰白色粒子少量。	
Ⅵ	黒色土	しまり弱。粘性弱。礫（20 ～ 30 ㎝）が乱雑に混入。	
Ⅶ	黄褐色土	しまり強。粘性あり。礫（10 ～ 20 ㎝）中量。	

1	黒色土	しまりやや弱。粘性あり。灰白色粒子微量。	SB01 覆土
2		粘土、焼土。	SB01 カマド
3	黒色土	しまりやや弱。粘性あり。灰白色粒子微量。	SB02 覆土
4	黒褐色土	しまりやや弱。粘性あり。黄色粒子多量。	Pit01 覆土
5		Ⅲ層に黒色土が少量。	Pit02 覆土
6		Ⅲ層に黒色土が多量。	Pit02 覆土
7		Ⅲ層に黒色土が少量。	Pit03 覆土
8		Ⅲ層に黒色土が多量。	Pit04 覆土
9		Ⅲ層に黒色土が少量。	Pit05 覆土
10		Ⅲ層に黒色土が少量。	Pit06 覆土
11		Ⅲ層にロームブロック微量。近代以降。	Pit07 覆土
12	黒色粘性土	しまり弱。粘性やや弱。礫 10 ～ 50 ㎜が少量。	SX01 覆土
13	黒色粘性土	しまりやや弱。粘性やや弱。	SX02 覆土
14	黒色粘性土	しまりやや弱。粘性やや強。酸化鉄が中量。	SX02 覆土

第 70 図　善得寺城跡・東泉院跡第 3 地区　セクション図

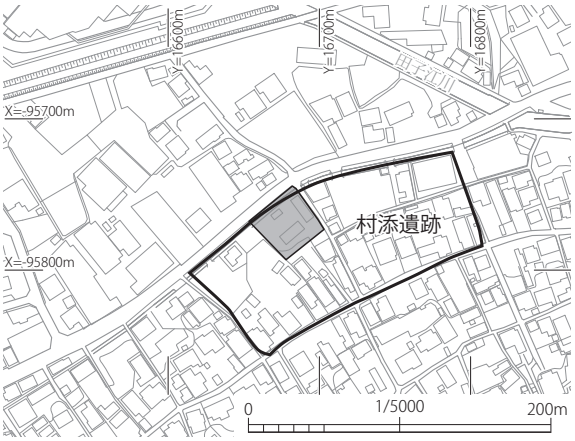
3．村添遺跡　第 1 地区

所　在　地　富士市田子 361

調 査 面 積　15㎡（対象面積 1,148㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 5 月 16 日

調査の原因　公会堂建設



第 71 図　村添遺跡第 1 地区　位置図

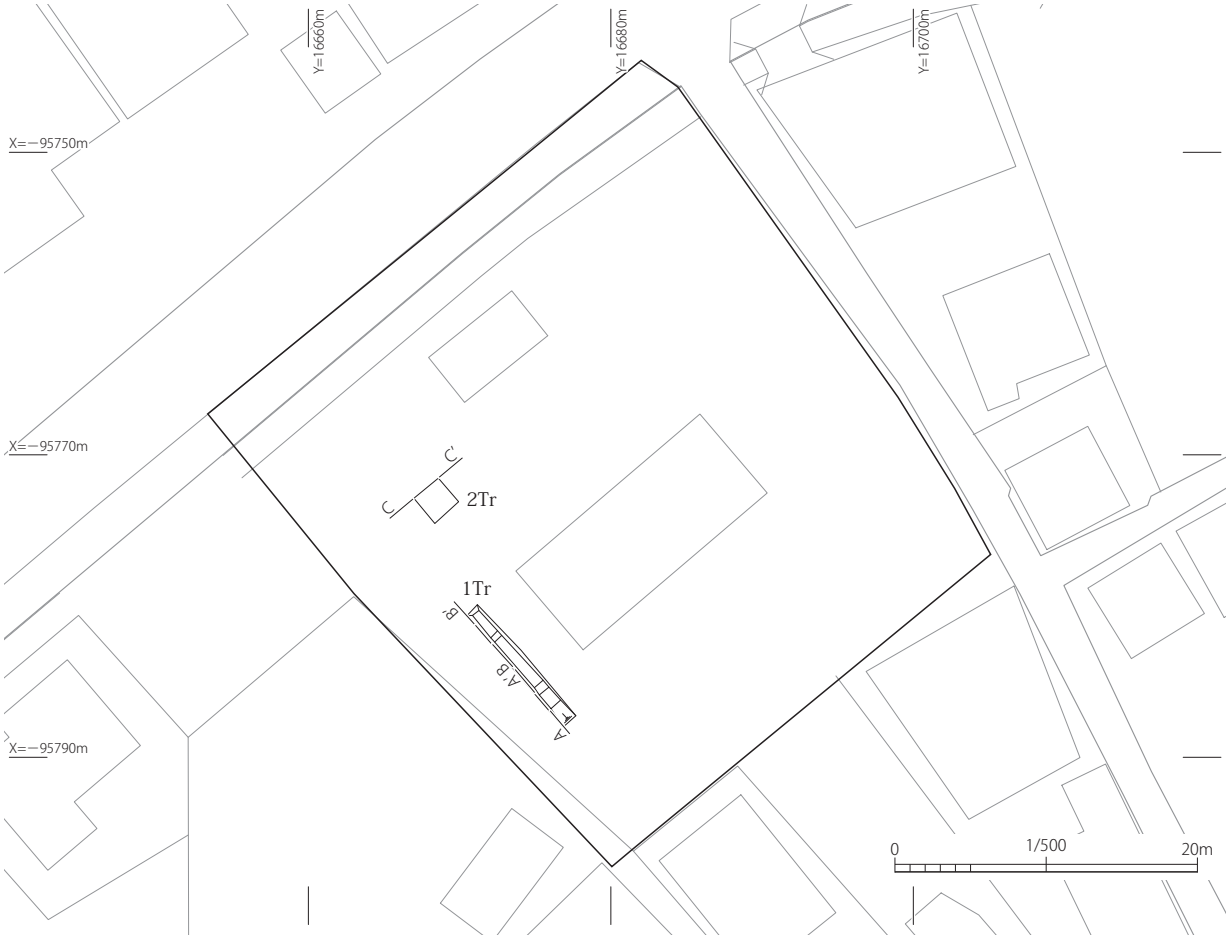
遺跡の概要　村添遺跡は田子浦砂丘上の標高 4 m程の平坦面に立地する遺物散布地で、その範囲は南北 80 m、東西 200 mを測る。

昭和 58 年に本市教育委員会が実施した市内埋蔵文化財分布調査により所在が明らかにされたが、遺物の散布量が少なく、これまでに調査も行われていなかったため、その実態は明らかでない。採集された遺物は古墳時代土師器の小破片であることから、当該期の遺跡が想定されている。

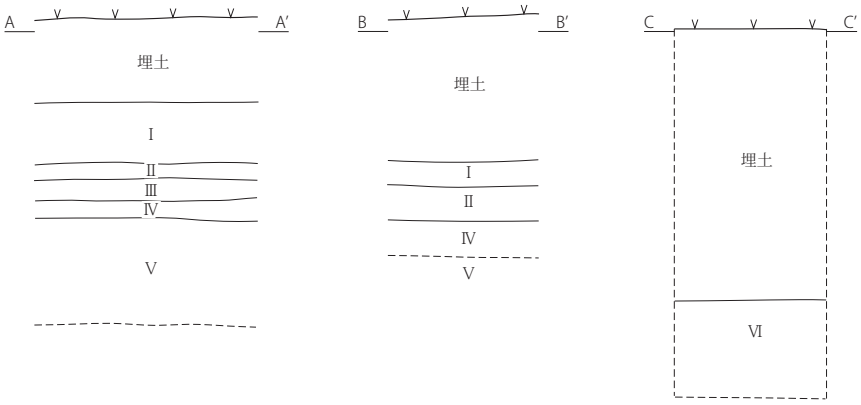
調査の概要　対象地内に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は発見されなかった。現地表下約 1.6m にある灰色砂層（Ⅴ層）で湧水がみられる。また、その砂層の堆積が厚く 80㎝を測る。

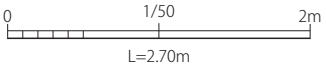
調査地の層位が砂礫層、砂層を交互に繰り返す堆積であることから、調査地周辺は富士川の旧流域地と考えられる。



第 72 図　村添遺跡第 1 地区　トレンチ配置図



I にぶい黄褐色土（10YR6/3）	粘性あり、しまり弱。砂が混入。	旧地表
II にぶい灰色砂礫層（2.5YR6/2）	粘性あり、しまり弱。1～3㎝礫少量、シルト混。	安定層
III 黄褐色砂礫層（2.5YR5/1）	粘性なし、しまり強。1～3㎝礫多量。	
IV 灰色砂層（5YR5/1）	粘性なし、しまり強。1～3㎜砂粒子で構成。 1Tr の北端部では灰色粘土ブロックが混じる。	
V 灰色砂層（5YR3/1）	粘性あり、しまり弱。1～3㎝礫少量、1～3㎜砂粒子で構成。 10㎝掘削で湧水あり。	
VI 黒褐色粘質土（5YR2/1）	粘性強、しまり弱。2～3㎝礫多量、5～10㎝礫少量。	自然池（湿地）



第 73 図　村添遺跡第 1 地区　セクション図

4．中桁・中ノ坪遺跡　第 8 地区

所　在　地　富士市厚原 441 － 3　外

調査の原因　宅地造成分譲

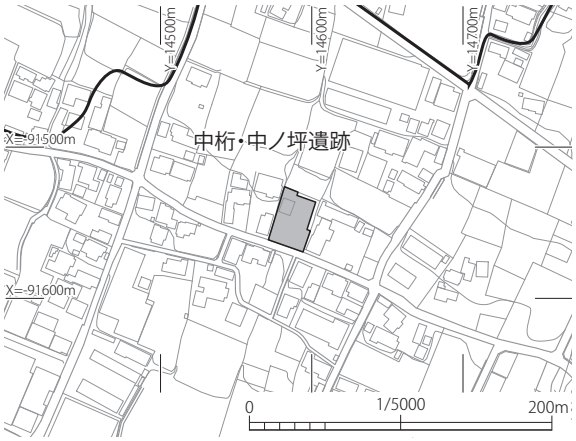
調 査 期 間　平成 25 年 5 月 20 日～ 5 月 21 日

調 査 面 積　22㎡（対象面積 636㎡）

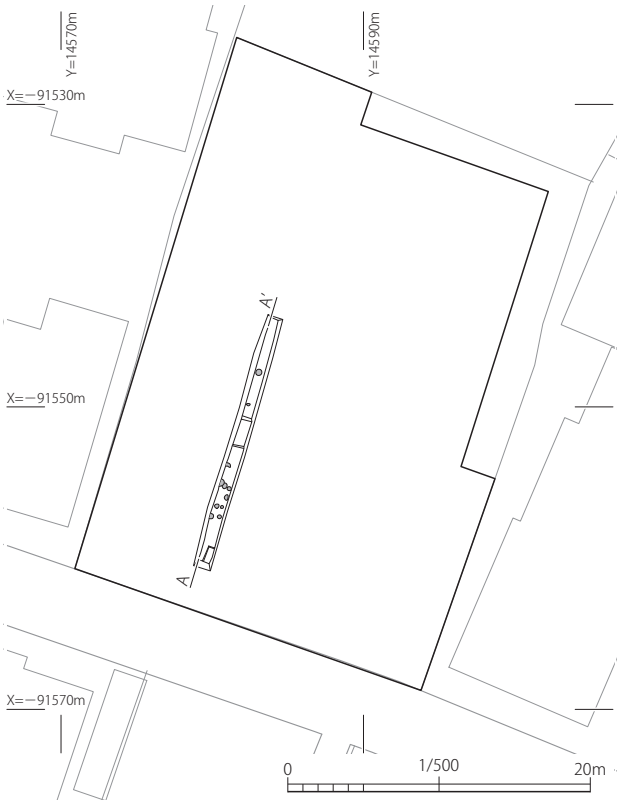
遺跡の概要　本章第 2 節「2．中桁・中ノ坪遺跡　第 5 地区」（p.7）参照。

調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

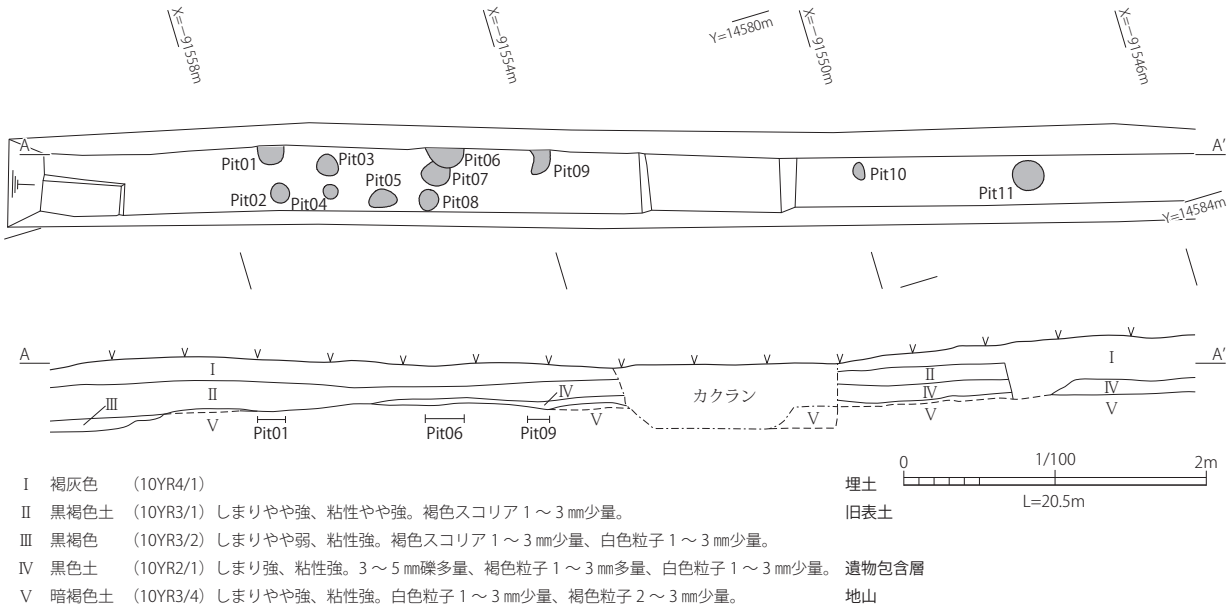
調査の結果　現地表下約 0.6m でピット等の遺構が検出され、須恵器・土師器等の遺物が出土した。中でも、奈良・平安時代の須恵器が多く出土したが、図化できるものは無かった。調査区の南端において自然傾斜の急激な落ち込みが認められることから、調査地南側には遺構・遺物の拡がりはみられないものと判断した。



第 74 図　中桁・中ノ坪遺跡第 8 地区　位置図



第 75 図　中桁・中ノ坪遺跡第 8 地区　トレンチ配置図

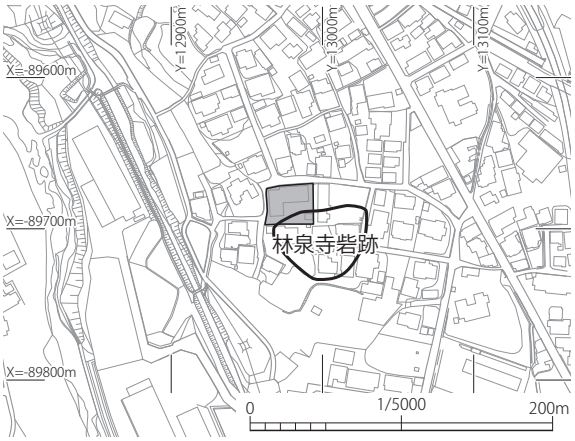


I　褐灰色　（10YR4/1）　埋土
II　黒褐色土　（10YR3/1）しまりやや強、粘性やや強。褐色スコリア 1 ～ 3 ㎜少量。　旧表土
III　黒褐色　（10YR3/2）しまりやや弱、粘性強。褐色スコリア 1 ～ 3 ㎜少量、白色粒子 1 ～ 3 ㎜少量。
IV　黒色土　（10YR2/1）しまり強、粘性強。3 ～ 5 ㎜礫多量、褐色粒子 1 ～ 3 ㎜多量、白色粒子 1 ～ 3 ㎜少量。　遺物包含層
V　暗褐色土　（10YR3/4）しまりやや強、粘性強。白色粒子 1 ～ 3 ㎜少量、褐色粒子 2 ～ 3 ㎜少量。　地山

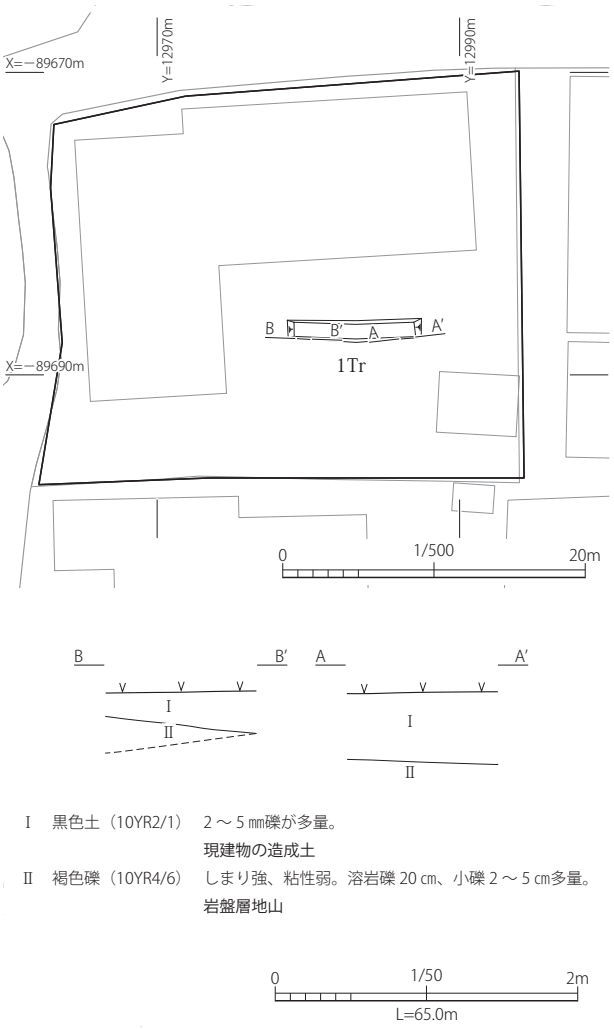
第 76 図　中桁・中ノ坪遺跡第 8 地区　トレンチ平面図・セクション図

5．林泉寺砦跡　第 1 地区

所　在　地　富士市入山瀬 2 丁目 239 － 2
調 査 面 積　12㎡（対象面積 1,363㎡）
調 査 期 間　平成 25 年 5 月 22 日
調査の原因　公会堂建設
遺跡の概要　林泉寺砦跡は富士市入山瀬の標高 65 m付近に所在したとされる中世の砦跡であるが、これまでに調査事例がなく遺跡の実態は明らかでない。
調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。
調査の結果　現地表下 0.2 ～ 0.4m で地山である褐色礫層（Ⅱ層）に達し、遺構や遺物は発見されなかった。



第 77 図　林泉寺砦跡第 1 地区　位置図



I　黒色土（10YR2/1）　2 ～ 5 ㎜礫が多量。　現建物の造成土
II　褐色礫（10YR4/6）　しまり強、粘性弱。溶岩礫 20 ㎝、小礫 2 ～ 5 ㎝多量。　岩盤層地山

第 78 図　林泉寺砦跡第 1 地区　トレンチ配置図・セクション図

6．東平遺跡　第62地区－1次調査・2次調査

所　在　地　富士市伝法2988－1　外

調査の原因　宅地造成

調 査 期 間　1次：平成25年7月16日～7月18日
　　2次：平成25年8月28日

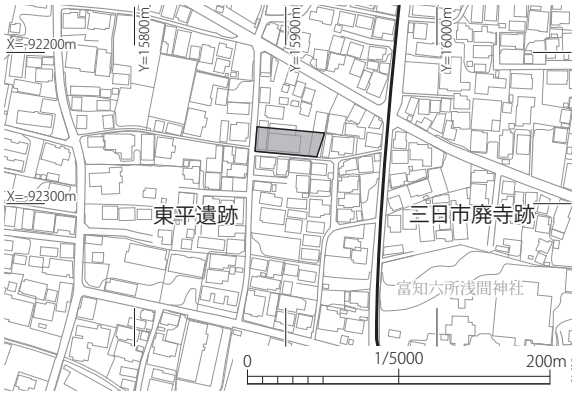
調 査 面 積　1次：54㎡　2次：8㎡（対象面積　664㎡）

遺跡の概要　本章第2節「6.三日市廃寺跡（東平遺跡第59地区）」(p.18）参照。

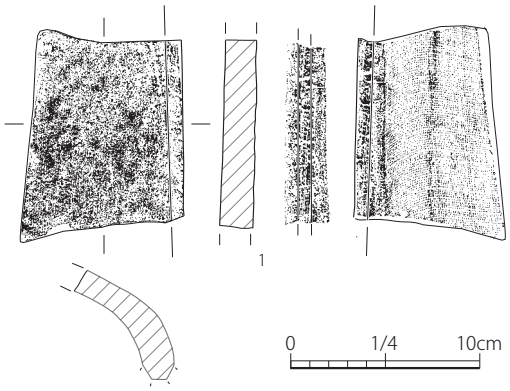
調査の概要　1次調査では東西方向のトレンチを2本(1Tr・2Tr)、2次調査では南北方向のトレンチを2本(3Tr・4Tr）設定し、重機による掘削後、人力により精査し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　現表土下は近代の建物造成または近世の耕作による撹乱を受けていたが、1Tr・2Trでは地表下0.65～0.80mで地山であるⅢ層を切り込む土坑及びピットを検出し、Ⅲ層の直上において土師器、須恵器、丸瓦が出土した。3Tr・4Trでは遺構、遺物共に確認できなかった。近現代に造成された市道との境界壁構築時にⅢ層まで削平をうけているため確認が困難ではあるが、調査区南端にて緩斜面の傾斜が大きくなることから、調査地の南には遺構・遺物の拡がりはないものと判断される。また、調査地は三日市廃寺跡と東平遺跡が隣接する地点であり、過去の調査にくらべ、遺構密度、遺物量とも少ないものの、丸瓦片が出土していることから、三日市廃寺跡の西端と位置づけられる。

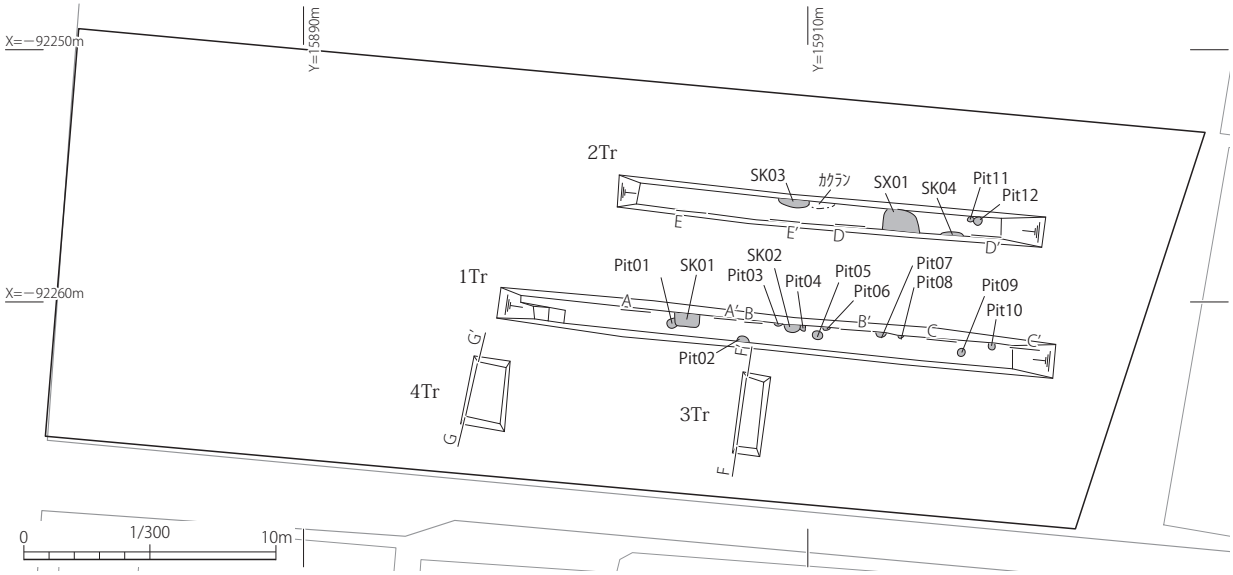
出 土 遺 物　土師器・須恵器・丸瓦が出土したが、図化できたのは丸瓦1片である（第80図－1）。凸面はナデ調整され、凹面には布目痕が残る。側端は側面と凹面側、凸面側の3面をケズリ調整している。



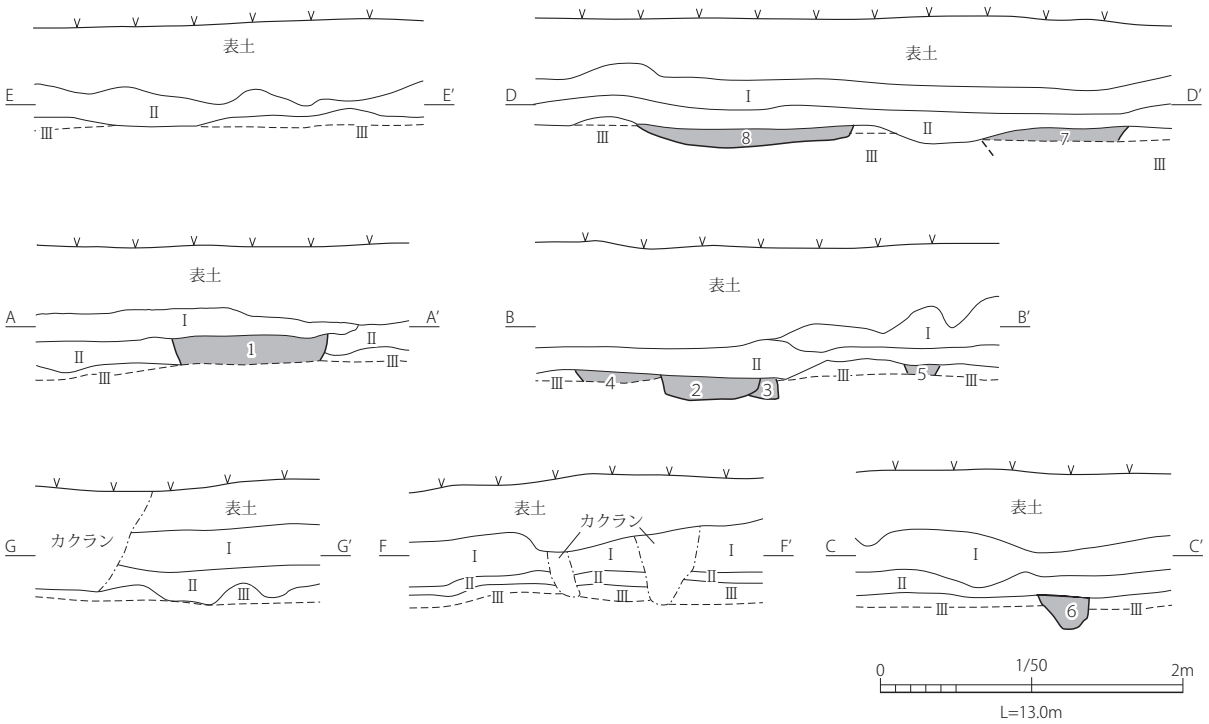
第79図　東平遺跡第62地区　位置図



第80図　東平遺跡第62地区　出土遺物実測図



第81図　東平遺跡第62地区　トレンチ配置図



Ⅰ　褐灰色　(7.5YR4/1) しまりやや強。粘性強。褐色粒子（1-3 ㎜）多量。白色粒子（1 ㎜）少量。炭化物（2-5 ㎜）少量。礫（2-5 ㎜）やや少量。
Ⅱ　灰褐色　(7.5YR4/2) しまりやや弱。粘性強。褐色粒子（1-3 ㎜）多量。白色粒子（1 ㎜）微量。炭化物（1-3 ㎜）微量。礫（1-3 ㎜）多量。地山ﾌﾞﾛｯｸ混入。
Ⅲ　黄褐色　(10YR5/6) しまり強。粘性なし。褐色粒子（1 ㎜）微量。角礫（1-3 ㎝）少量。
1　黒褐色　(10YR3/1) しまりやや弱。粘性弱。角礫（1-5 ㎜）多量。地山ﾌﾞﾛｯｸ(1-3 ㎝）多量。　SK01 覆土
2　黒褐色　(10YR3/1) しまりやや弱。粘性弱。白色粒子（1 ㎜）微量。地山ﾌﾞﾛｯｸ(1 ㎝）少量。　SK02 覆土
3　黒褐色　(10YR3/2) しまりやや弱。粘性弱。橙色粒子（1 ㎜）微量。地山ﾌﾞﾛｯｸ(1 ㎝）少量。　Pit04 覆土
4　黒褐色　(10YR3/1) しまりやや弱。粘性弱。白色粒子（1 ㎜）微量。地山ﾌﾞﾛｯｸ(1 ㎝）少量。　Pit03 覆土
5　灰黄褐色 (10YR4/2) しまり弱。粘性弱。白色粒子（1 ㎜）少量。橙色粒子（1 ㎜）微量。地山粒子全体に含む。　Pit06 覆土
6　灰黄褐色 (10YR4/2) しまりやや弱。粘性弱。白色粒子（1 ㎜）微量。橙色粒子（1 ㎜）少量。地山粒子全体に含む。　Pit10 覆土
7　黒褐色　(10YR3/1) しまりやや弱。粘性やや弱。白色粒子（1 ㎜）少量。橙色粒子（1 ㎜）少量。角礫（1 ㎜）やや少量。　SK04 覆土
8　黒褐色　(10YR3/1) しまりやや弱。粘性やや弱。白色粒子（1 ㎜）少量。橙色粒子（1 ㎜）少量。角礫（1 ㎜）やや少量。　SX01 覆土

第 82 図　東平遺跡第 62 地区　セクション図

第 11 表　東平遺跡第 62 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 80 図－ 1	R004	p.97	1Tr	瓦	丸瓦	9.7	8.0	1.9	242.33

7．沖田遺跡　149 次調査地点

所　在　地　富士市原田 214　外

調 査 面 積　22㎡（対象面積　4,551㎡）

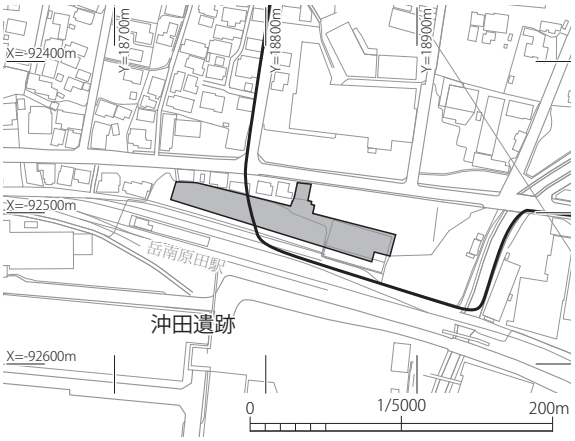
調 査 期 間　平成 25 年 7 月 26 日

調査の原因　葬祭場建設

遺跡の概要　本章第 2 節「14．沖田遺跡　第 148 次調査地点」(p.31）参照。

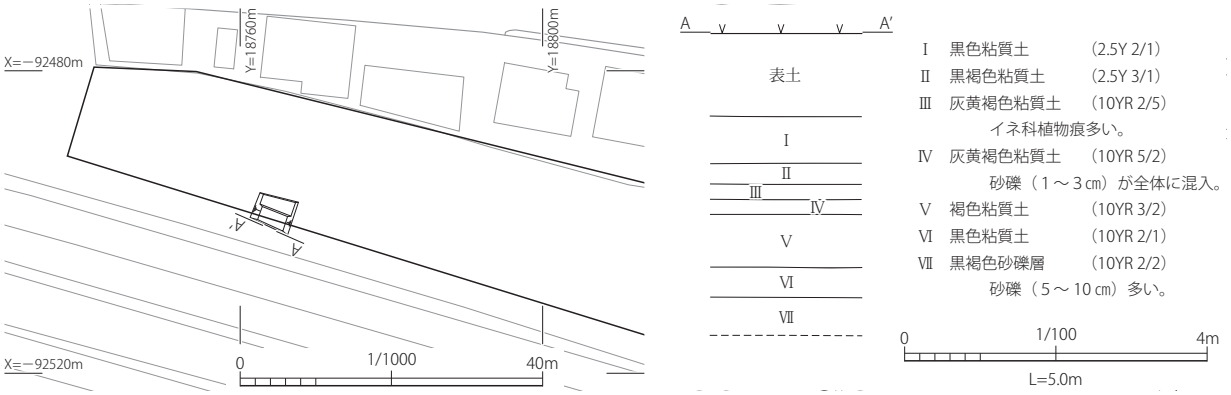
調査の概要　調査地に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は検出されなかった。地表下 1.5 mおよび 3.0 mで湧水が認められ、4.0 mまで掘削



第 83 図　沖田遺跡第 149 次調査地点　位置図

したものの、それよりも下層については、安全上の理由から調査を断念した。土層中からは近世、中世と考えられるアシ、ヨシ等のイネ科植物の痕跡が認められ、また、それ以降の層位を確認したものの、遺物が伴わないため、時期を確定できなかった。当初想定した水田遺構の痕跡も認められなかった。



第 84 図　沖田遺跡第 149 次調査地点　トレンチ配置図・セクション図

8．沖田遺跡　150 次調査地点

所　在　地　富士市今泉 2 丁目 86 － 1

調 査 面 積　145㎡（対象面積　6,614㎡）

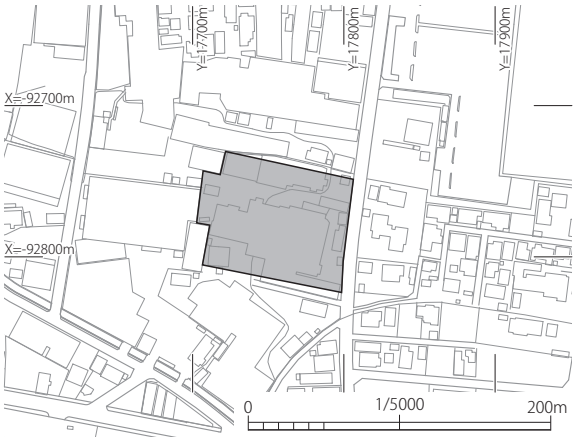
調 査 期 間　平成 25 年 7 月 22 日～ 7 月 25 日

調査の原因　宅地分譲、分譲マンション建設

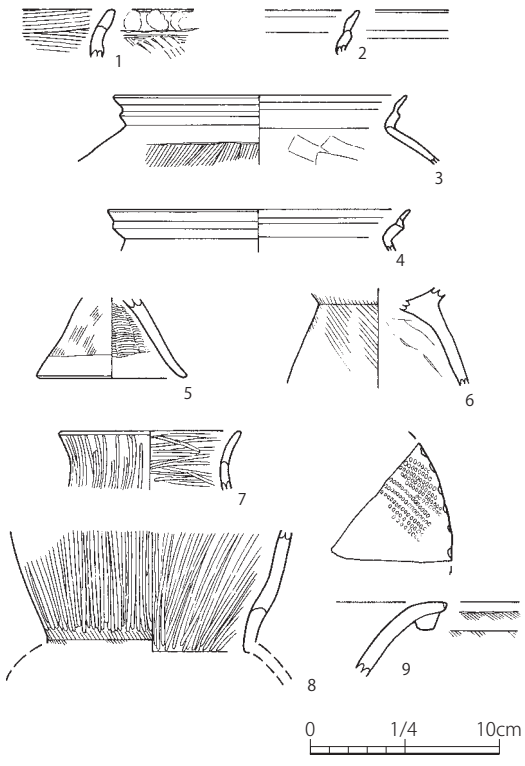
遺跡の概要　本章第 2 節「14．沖田遺跡　第 148 次調査地点」(p.31）参照。

調査の概要　調査地に 6 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　地表下 1.4 mおよび 2.4 mで湧水が認められたものの、3.0 mで奈良・平安時代と考えられる水田面が、3.4 ～ 4.0m で古墳時代の遺物包含層が確認された。その下層については安全上の理由から調査を断念した。奈良・平安時代の水田面ではイネ科植物の痕跡が認められ、その直上には河川堆積物と考えられる砂層が認められた。このことから、奈良・平安時代の水田耕作以降に河川の大規模な氾濫があり、水田を廃絶したものと考えられる。また、その結果、遺構の遺存状況は良好なものと判断される。



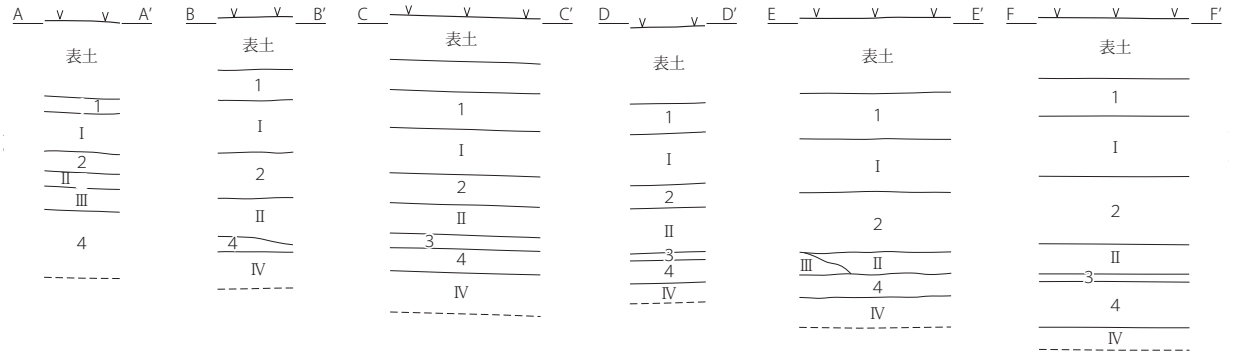
第 85 図　沖田遺跡第 150 次調査地点　位置図



第 86 図　沖田遺跡第 150 次調査地点　出土遺物実測図

出土遺物　土師器・須恵器・木器が出土し、弥生時代後期から古墳時代前期の土師器９点を図示した（第86図）。

１は甕の口縁部片で、外面には輪積みの痕跡が残り、頸部はハケ目調整され、口唇部はユビオサエされている。２～４はＳ字状口縁台付甕の口縁部である。３は頸部が強く屈曲し肩が張る形態となるとみられる。口縁部のＳ字状の屈曲は明瞭で、端部は面取りされず丸く整えられている。２と４は３に比べると口縁部の屈曲が弱いように見えるが、いずれも同時期に位置づけられると考える。５は高坏の脚部、６はＳ字甕の台部である。７は小型壺の口縁部、８は直口壺の口縁部で、いずれも内外面に丁寧なヘラミガキが施されている。９は折り返し口縁の広口壺である。折り返し部の断面は長方形を呈し、磨滅が激しく不明瞭であるが口唇部にはキザミ目が施され、口縁部内面には細縄文が施文されている。



1	黒褐色粘質土	(5YR 2/1)	近現代の水田面	
I	灰色砂質土	(7.5Y 4/1)		
2	灰オリーブ色粘質土	(5Y 4/2)	近世以降の水田面	
II	灰色砂層	(7.5Y 4/1)	砂粒子（径１～３㎜）を全体に含む。	河川氾濫の堆積
III	灰色砂礫層	(5Y 3/1)	礫径（５～10㎝）を多く含む。	河川氾濫の堆積
3	暗灰黄色粘質土	(2.5Y 5/2)	灰色シルトブロックを含み、イネ科植物痕を多く含む。	奈良・平安時代の水田耕作面
4	オリーブ黒色粘質土	(5Y 3/1)	大淵スコリア（径１～３㎝）を多量、橙色粒子（径１～３㎜）を微量に含む。	奈良・平安時代の水田面
IV	灰色砂質土	(5Y 5/1)	砂粒子（径１～３㎜）を全体に含む。	古墳時代の遺物包含層

0　1/100　4m

L=3.7m

第87図　沖田遺跡第150次調査地点　トレンチ配置図・セクション図

第 12 表　沖田遺跡第 150 次調査地点　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 86 図－ 1	R003	p.98	5Tr	土師器	甕	-	(2.4)	-	良好	-		7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）
第 86 図－ 2	R008	p.98	5Tr	土師器	S 字甕	-	(2.3)	-	良好	-		7.5YR6/2（灰褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）
第 86 図－ 3	R003	p.98	2Tr	土師器	甕	(15.4)	(3.6)	-	良好	-	反転復元	N3/（暗灰）	N3/（暗灰）
第 86 図－ 4	R008	p.98	5Tr	土師器	甕	(16.0)	(2.1)	-	良好	-	反転復元	5YR6/4（にぶい橙）	5YR7/4（にぶい橙）
第 86 図－ 5	R003	p.98	2Tr	土師器	高坏	-	(4.2)	(7.8)	良好	35%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐）	2.5YR6/8（橙）
第 86 図－ 6	R008	p.98	5Tr	土師器	S 字甕	-	(5.2)	-	良好	35%	反転復元	5YR6/4（にぶい橙）	2.5Y6/2（灰黄）
第 86 図－ 7	R008	p.98	5Tr	土師器	小型壺	(9.6)	(3.2)	-	良好	-	反転復元	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）
第 86 図－ 8	R003	p.98	2Tr	土師器	直口壺	-	(6.5)	-	良好	50%	反転復元	10YR6/2（灰黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）
第 86 図－ 9	R001	p.98	1Tr	土師器	甕	-	(4.0)	-	良好	-		10YR8/2（灰白）	10YR8/3（浅黄橙）

9．中野石切場遺跡　第 1 地区

所　在　地　富士市南松野 2316 － 20

調 査 面 積　44㎡（対象面積 967㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 7 月 30 日

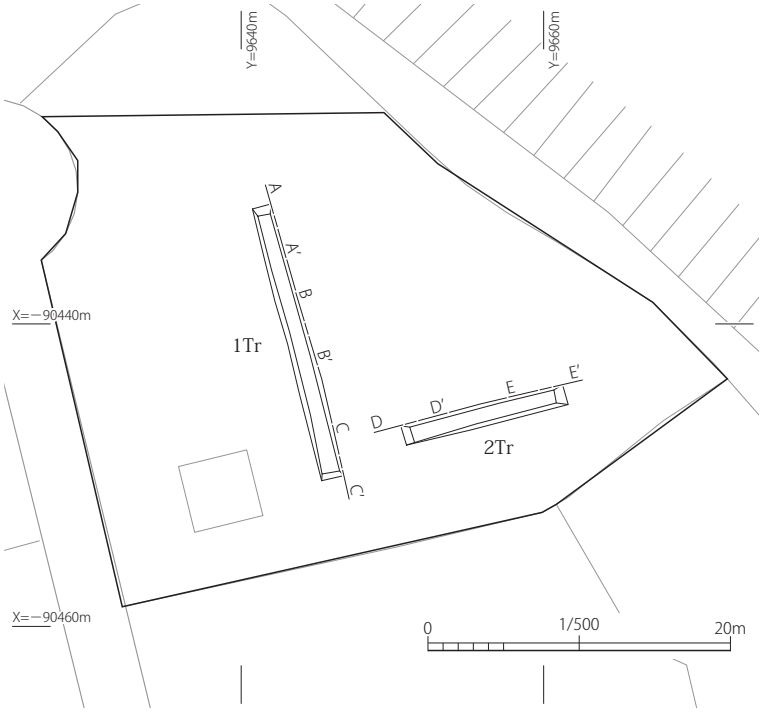
調査の原因　水源地施設整備

遺跡の概要　中野石切場遺跡は富士市南松野に所在する。富士川の西岸域に位置し、新富士造山活動期の溶岩流によって形成された中野台地南端の平坦部に立地する縄文時代中・後期および平安時代の集落跡である。これまでに 3 回の調査が実施され、台地平坦面にて平安時代前期の建物跡 5 軒を検出、（富士川町教育委員会 1997a）、台地西側縁辺部にて縄文時代中期の土器、平安時代前期の土師器、須恵器を検出している（富士川町教育委員会 1997b）。

調査の概要　調査地に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は発見されなかった。現地表下から地山にいたるまで近代の大規模な造成による撹乱をうけている状況が確認された。

第 88 図　中野石切場遺跡第 1 地区　位置図

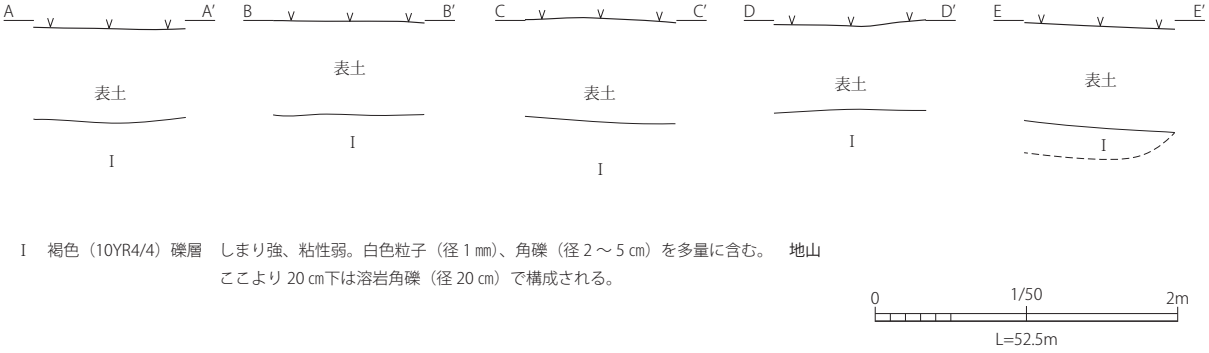


第 89 図　中野石切場遺跡第 1 地区　トレンチ配置図

参考文献

富士川町教育委員会 1997a『中野石切場遺跡』富士川町文化財報告書　第 19 号

富士川町教育委員会 1997b『中野石切場遺跡（馬込地区）』富士川町文化財報告書　第 18 号



第 90 図　中野石切場遺跡第 1 地区　セクション図

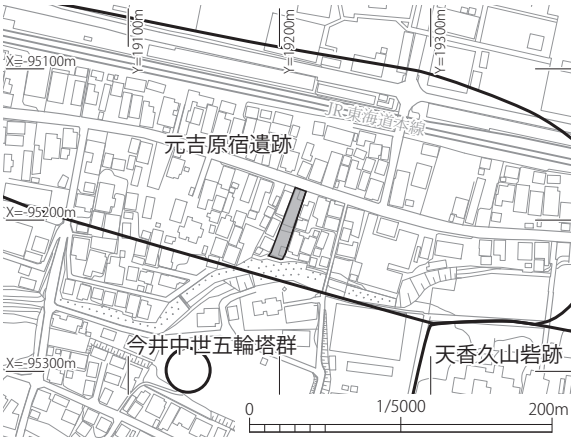
10. 元吉原宿遺跡　第 2 地区

所　在　地　富士市今井 1 丁目 2 － 5

調 査 面 積　1㎡（439㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 8 月 1 日～ 8 月 2 日

調査の原因　個人住宅建替



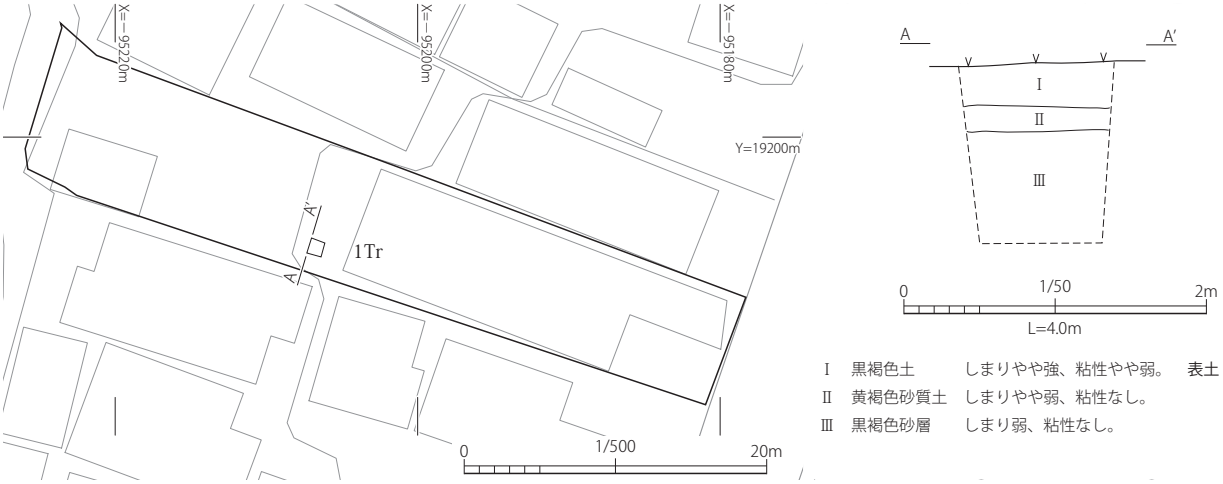
第 91 図　元吉原宿遺跡第 2 地区　位置図

遺跡の概要　元吉原宿遺跡は富士市今井の田子浦砂丘上、標高 4m 程に立地する近世の宿場跡であり、その範囲は南北 150m、東西 870m 程を測る。

東海道宿駅としての吉原宿は、慶長 6 年（1601）にこの地に設置されたことに始まるが、高波や台風等の自然災害によりその後 2 度の所替えがおこなわれており（中吉原宿遺跡、新吉原宿遺跡）、この地に吉原宿が置かれたのはおよそ 40 年間である。

調 査 概 要　調査地に 1 ヶ所のトレンチを設定し、人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　深さ 1.2m まで自然堆積の砂層が認められるのみで、遺構・遺物は発見されなかった。



第 92 図　元吉原宿遺跡第 2 地区　トレンチ配置図・セクション図

11. 三日市廃寺跡 （東平遺跡　第 63 地区）

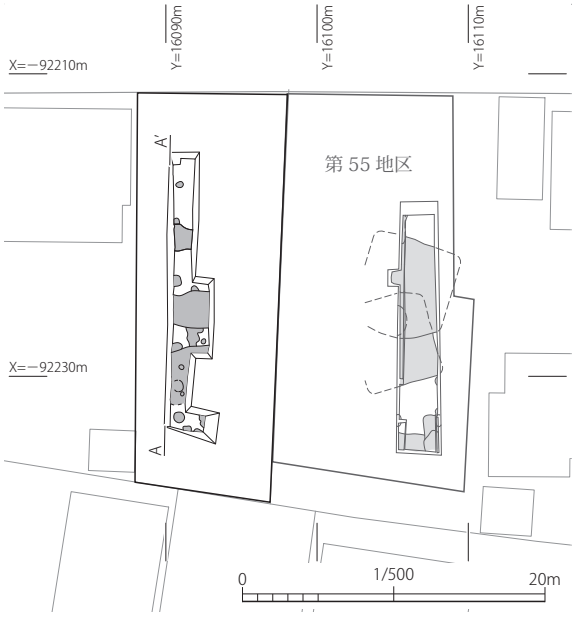
所　在　地　富士市浅間上町 2978 － 4　外

調 査 面 積　45㎡（対象面積　231㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 8 月 5 日～ 8 月 7 日

調査の原因　個人住宅建設

第 93 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）　位置図

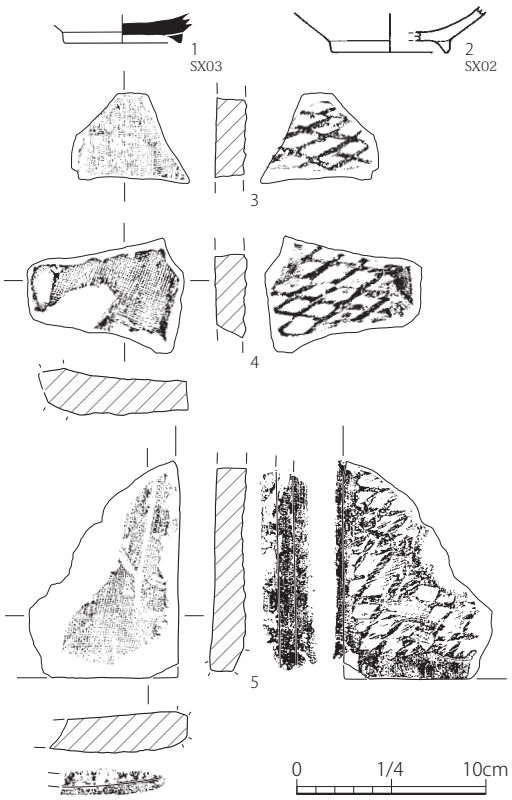


第 94 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）　トレンチ配置図

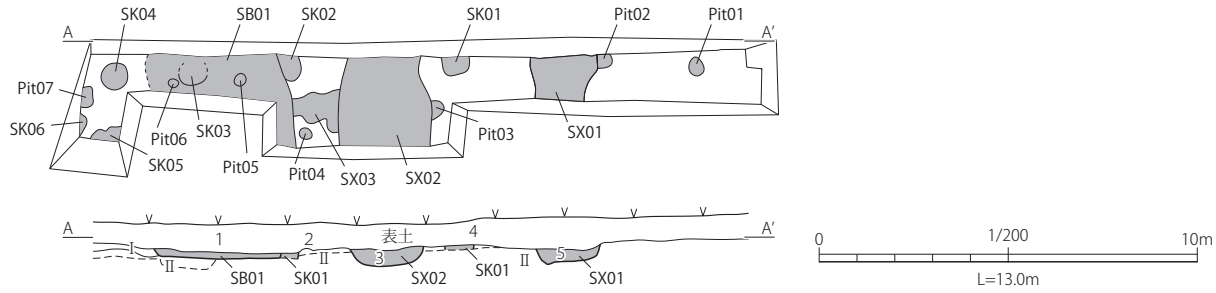
遺跡の概要　本章第 2 節「6. 三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区）」(p.18) 参照。

調査の概要　調査地に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、人力により遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果　現表土下は近代の建物造成または近世の耕作による攪乱を受けていたが、現地表下 0.8m で II 層（地山）を切り込む建物跡（SB01）、ピット（Pit01 ～ 07）、土坑（SK01 ～ 06）、性格不明遺構（SX01 ～ 03）を検



第 95 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）　出土遺物実測図



I	黒褐色（7.5YR3/1）粘質土	褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）多量、白色粒子（径 1 ㎜）少量、大淵スコリア（径 1 ㎝）少量含む。粘性弱、しまりやや弱。	
II	明褐色（7.5YR5/6）粘質土	褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）少量、礫（径 5 ㎜～ 1 ㎝）多量、全体に砂粒子を含む。	地山
1	極暗褐色（7.5YR3/2）粘質土	褐色粒子（径 1 ～ 3 ㎜）多量、白色粒子（径 1 ㎜）少量、礫（径 1 ～ 3 ㎜）多量、焼土を含む。粘性弱、しまりやや弱。	SB01 覆土
2	黒褐色（7.5YR3/1）粘質土	褐色粒子（径 1 ㎜）極少量含む。	SK02 覆土
3	褐色（7.5YR4/3）粘質土	角礫（径 5 ～ 8 ㎝）少量、褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）やや多量、白色粒子（径 1 ㎜）少量含む。粘性弱、しまりやや強。	SX02 覆土
4	褐色（7.5YR4/4）粘質土	褐色粒子（径 1 ㎜）極少量、地山砂質が多く混入。粘性なし、しまりやや弱。	SK01 覆土
5	黒褐色（7.5YR3/2）粘質土	褐色粒子（径 1 ～ 3 ㎜）多量含む。粘性弱、しまりやや強。	SX01 覆土

第 96 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 63 地区）　トレンチ平面図・セクション図

出した。また、Ⅱ層の直上にて土師器、須恵器、瓦等の遺物が出土した。

調査地の東に隣接する東平遺跡第55地区では、平成22年度に行われた確認調査において7世紀～10世紀代の建物跡が6軒検出され、多数の平瓦片が出土している（富士市教育委員会2013）。

今回の調査地は近代、近世の撹乱が顕著で遺構の残存状況は悪いものの、第55地区の状況と併せると三日市廃寺跡の中心域に接する地と推定され、三日市廃寺跡の全容を解明する上で、重要な地点と考えられる。

出土遺物　土師器・須恵器・平瓦が出土し、土器2点、瓦3点を図示した。

1は須恵器高台坏の底部である。底部外面には糸切痕が残り、断面三角形の高台が貼り付けられている。2は土師器の高台坏である。体部・底部はナデ調整され、高台を貼り付けている。3～5はいずれも凸面に斜格子の叩き目、凹面に布目痕が残る平瓦である。端部が確認できる4と5では、端部のケズリ調整が端面、凹面、凸面の3ヶ所に施されている。

参考文献

富士市教育委員会2013「第2章　東平遺跡・三日市廃寺跡の調査」『富士市内遺跡発掘調査報告書　―平成22・23年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第54集

第13表　三日市廃寺跡（東平遺跡第63地区）　出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第95図－1	R008	p.99	SX03	須恵器	坏	-	（1.5）	6.1	良好	35%	反転復元	2.5Y7/1（灰白）	2.5Y7/2（灰黄）
第95図－2	R011	p.99	1Tr	土師器	坏	-	（2.0）	（6.0）	良好	40%	反転復元	10RY7/4（にぶい黄橙）	10RY7/4（にぶい黄橙）

・瓦

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第95図－3	R011	p.99	1Tr	平瓦	4.5	5.5	1.6	51.0
第95図－4	R002	p.99	SX02	平瓦	5.5	7.7	1.6	85.39
第95図－5	R001	p.99		平瓦	11.5	7.6	1.6	158.21

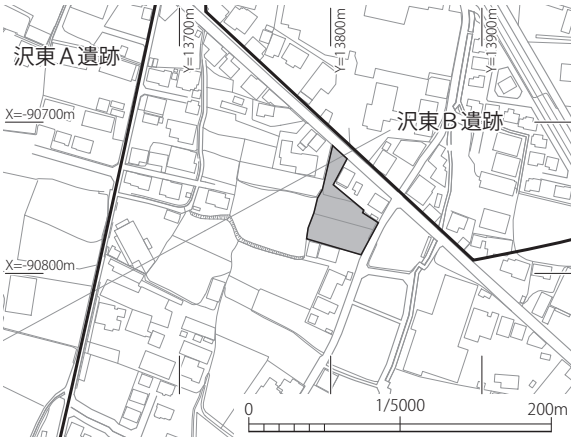
12. 包蔵地外　（沢東B遺跡　隣接地（第8地区））

所在地　富士市厚原179－1　外

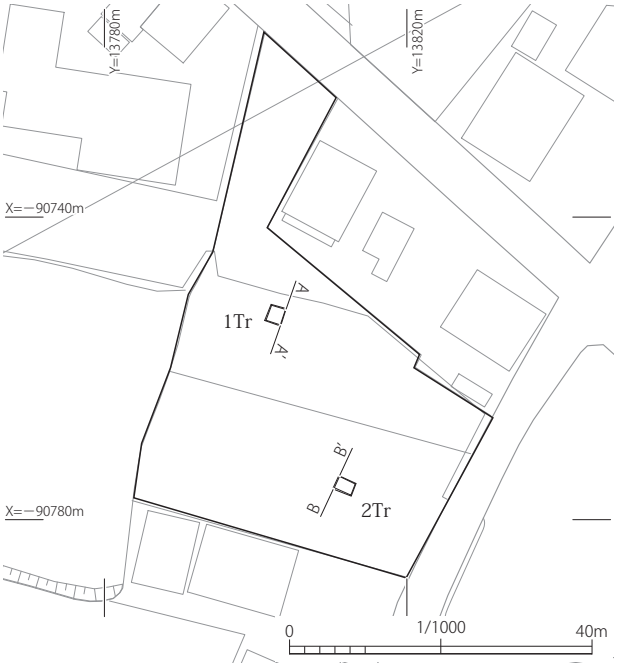
調査面積　10㎡（1,415㎡）

調査期間　平成25年9月4日

調査の原因　介護施設新築



第97図　沢東B遺跡隣接地（第8地区）　位置図



第98図　沢東B遺跡隣接地（第8地区）　トレンチ配置図

遺跡の概要　沢東Ｂ遺跡は、富士山西南麓に広がる大淵扇状地の扇端部、標高 20 ～ 40 m程に立地する古墳時代から奈良時代にかけての集落跡である。

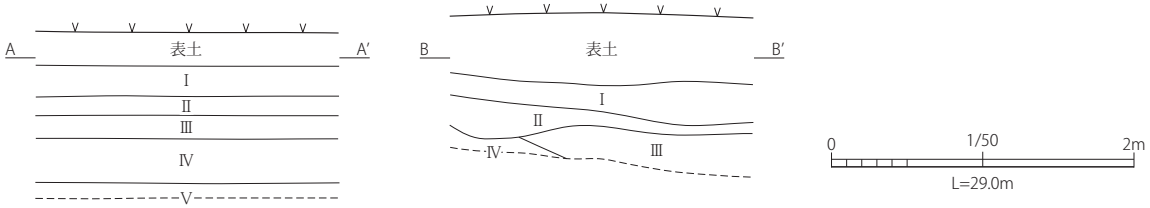
平成 9 年度に行われた発掘調査では、奈良時代の竪穴建物跡 4 軒や掘立柱建物跡 4 棟などの遺構が検出されている（富士市教育委員会 1998）。

調査の概要　対象地内に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　深さ 1.0m まで扇状地堆積物の自然堆積を確認したが、遺構・遺物は発見されなかった。

参考文献

富士市教育委員会 1998『沢東Ｂ遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』



Ⅰ　灰褐色土（7.5YR 5/2）　角礫（径 5 ㎝）少量。しまり強、粘性強。
Ⅱ　黒褐色土（7.5YR 3/1）　褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）多量、角礫（径 1 ㎝）多量。しまり強、粘性強。
Ⅲ　褐灰色土（7.5YR 4/1）　褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）極多量、礫（径 2 ～ 5 ㎜）少量、全体に砂状の褐色粒子含む。しまり強、粘性弱。
Ⅳ　黒色土（7.5YR 2/1）　褐色粒子（径 1 ～ 3 ㎜）少量、角礫（径 5 ㎜）少量。しまり弱、粘性強。
Ⅴ　褐色土（7.5YR 4/3）　褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）少量、白色粒子（径 1 ㎜）極少量。しまりやや弱、粘性強。

第 99 図　沢東Ｂ遺跡隣接地（第８地区）　セクション図

13. 三新田遺跡　Ｌ地区

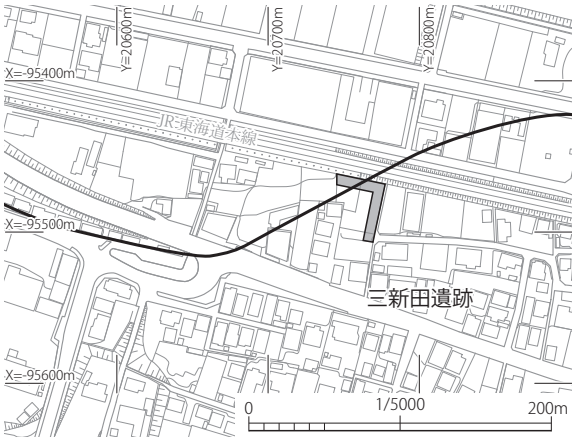
所　在　地　富士市檜新田 264 － 1　外

調 査 面 積　10㎡（740㎡）

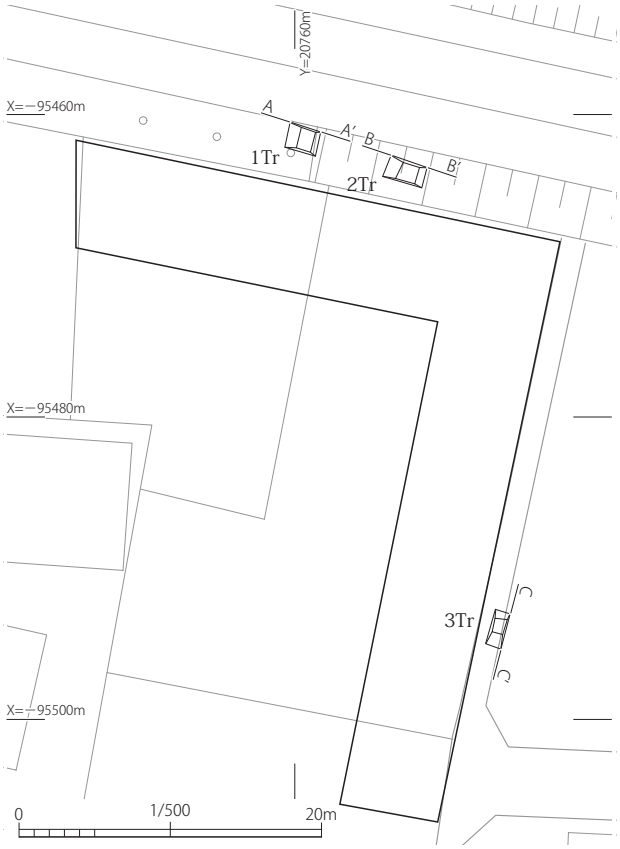
調 査 期 間　平成 25 年 9 月 18 日～ 9 月 19 日

調査の原因　道路築造

遺跡の概要　三新田遺跡は、田子浦砂丘の西側、標高約 4 m～ 6 m程に占地する集落跡であり、その範囲は南北約 250 m、東西約 1,000 mに及ぶ。これまでの調査で、



第 100 図　三新田遺跡Ｌ地区　位置図



第 101 図　三新田遺跡Ｌ地区　トレンチ配置図

弥生時代後期から古墳時代前期と、奈良時代から平安時代の大きく二時期にかけて営まれた多数の竪穴建物跡等が検出されているほか、縄文時代晩期の土器片も確認されている（富士市教育委員会 1983、2000）。

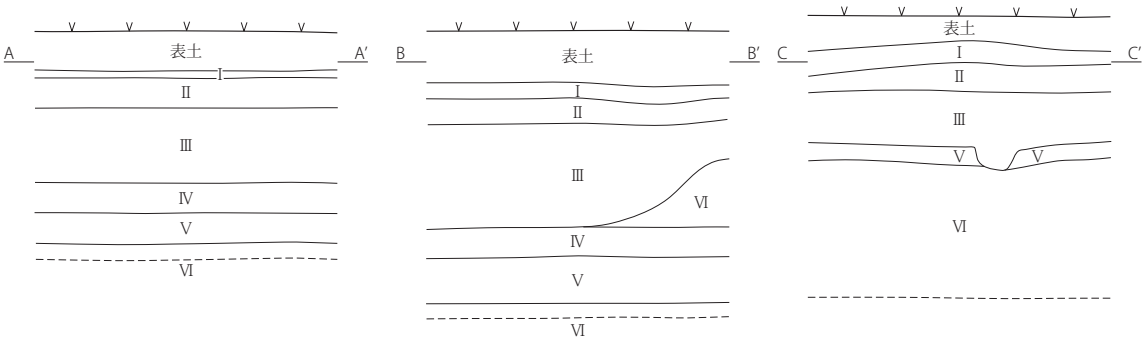
調 査 概 要　対象地内に３ヶ所のトレンチを設定し、人力による掘削･精査を行い、遺構･遺物の検出に努めた。

調査の結果　古墳時代中期後半から後期に富士山の側火山から噴出したと考えられる大淵スコリアの堆積（Ⅴ層）を確認したものの、より下層の砂層からは遺構・遺物は確認されなかった。

参考文献

富士市教育委員会 1983『三新田遺跡発掘調査報告書』

富士市教育委員会 2000『三新田遺跡（D 地区）発掘調査報告書』



表土	黒褐色（10YR2/2）粘性土	植物痕あり。しまりやや弱、粘性やや強。
Ⅰ	黄灰色（2.5Y4/1）砂	しまり、粘性なし。
Ⅱ	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土	しまり弱、粘性やや弱。
Ⅲ	オリーブ黒色（5Y2/2）砂質土	しまりやや弱、粘性やや弱。
Ⅳ	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土	しまり弱、粘性やや弱。
Ⅴ	暗褐色（10YR3/4）大淵 SC	
Ⅵ	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂	

第 102 図　三新田遺跡Ｌ地区　セクション図

14. 丸崎遺跡　第２地区

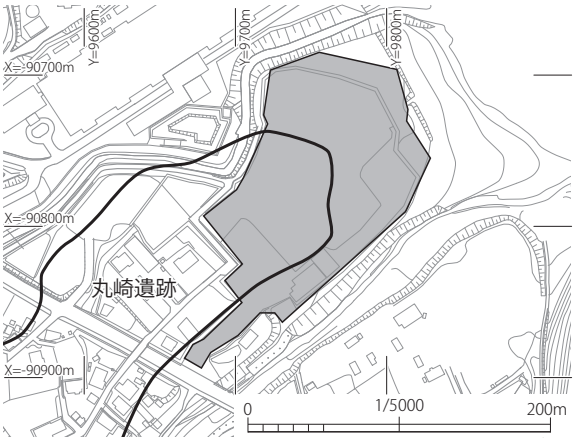
所　在　地　富士市南松野 2189 － 7　外

調 査 面 積　37㎡（対象面積　14,270㎡）

調 査 期 間　平成 25 年 9 月 25 日～ 9 月 27 日

調査の原因　資材置場・事務所・倉庫建設

遺跡の概要　丸崎遺跡は富士川の西岸域に位置し、西に岩淵火山群の山稜をのぞみ､富士川の支流である血流川、中河原川に挟まれた平地部に立地する。これまでの調査で、古墳時代前期の建物跡５軒、大正時代の瓦窯跡などを検出している。また、縄文時代前期（黒浜式）の遺物も確認されている（富士川町教育委員会 1990）。



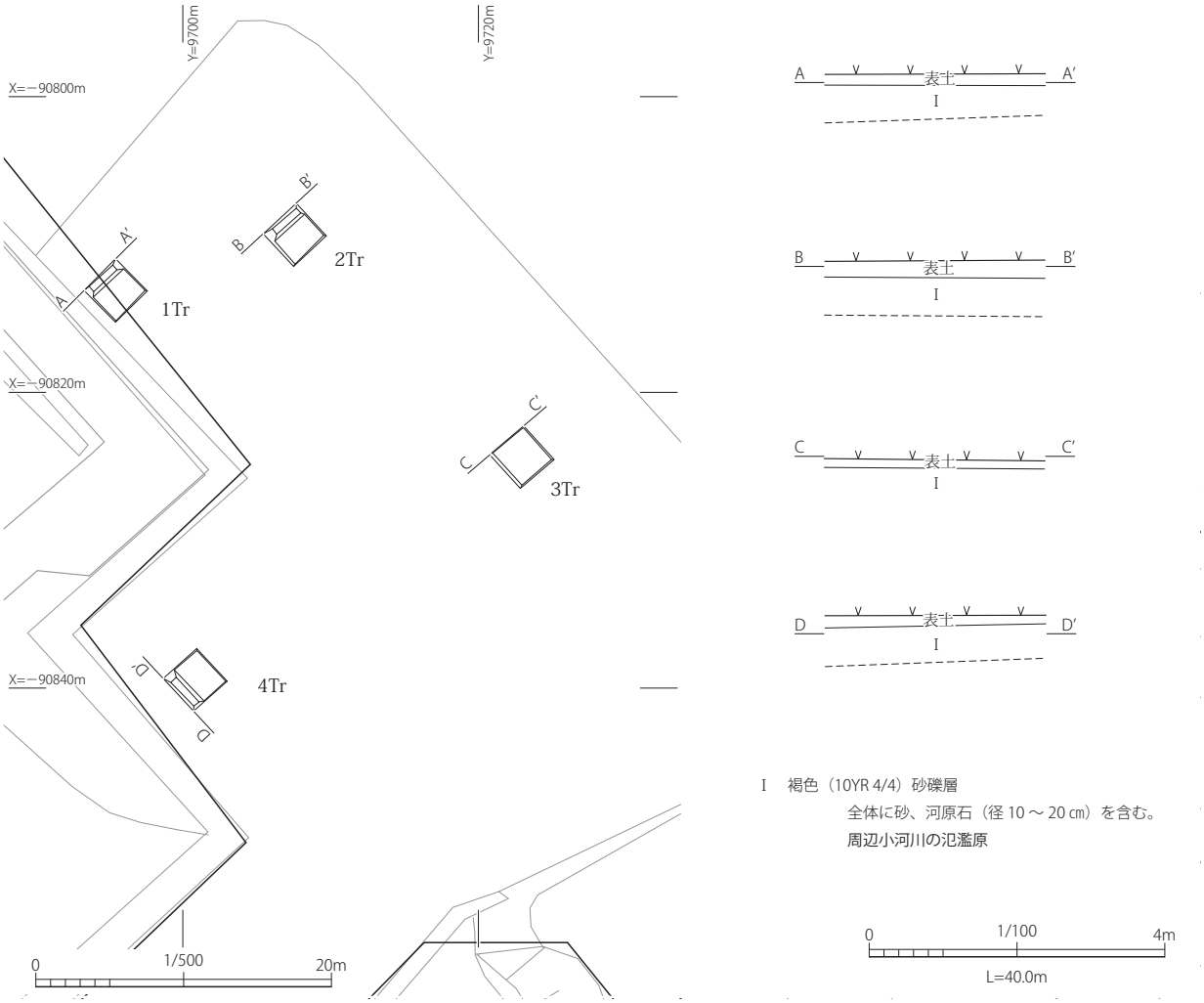
第 103 図　丸崎遺跡第２地区　位置図

調査の概要　対象地内に４ヶ所のトレンチを設定し、重機による表土掘削の後、遺構や遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構・遺物は確認されなかった。調査地は富士川及び周辺を流れる山田川､血流川に挟まれており、表土下 20㎝程度で砂礫層に到達する。砂礫層を 80㎝ほど掘削したものの、砂礫の堆積が厚く、下部に行くにしたがって礫が大きくなることから、調査地は前述した河川の氾濫原と判断した。

参考文献

富士川町教育委員会 1990『丸崎遺跡』富士川町文化財報告書　第 14 集



第 104 図　丸崎遺跡第２地区　トレンチ配置図・セクション図

15. 滝下遺跡　K地区

所　在　地　富士市伝法 1928 － 2　外

調査の原因　宅地分譲地造成

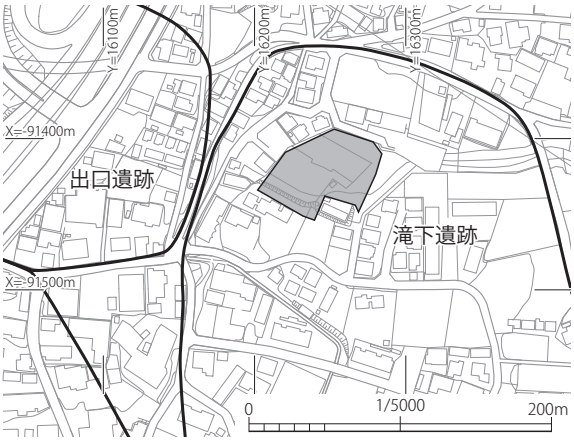
調 査 期 間　平成 25 年 10 月 15 日～ 10 月 17 日

調 査 面 積　56㎡（2,991㎡）

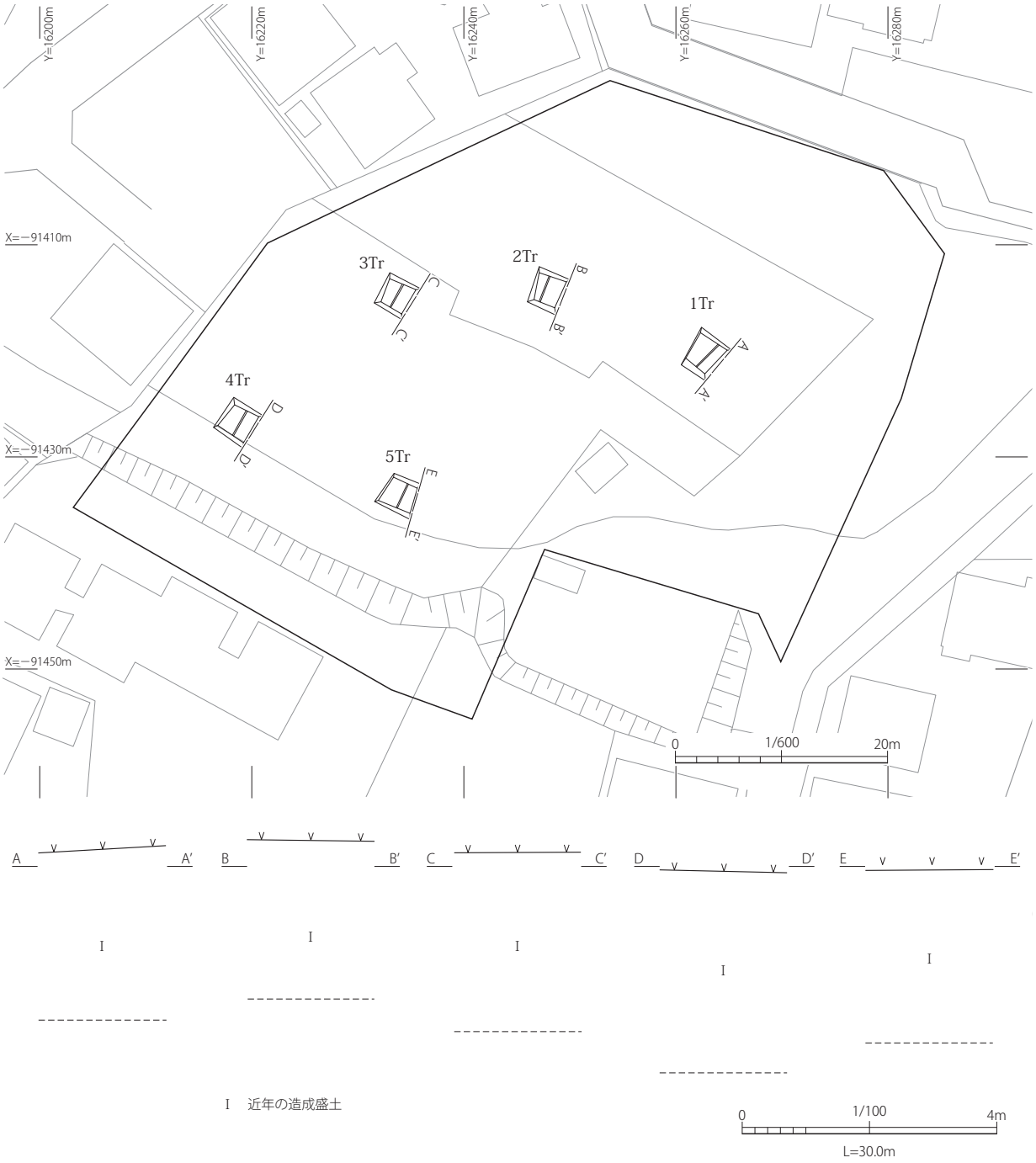
遺跡の概要　滝下遺跡は、富士山南麓に広がる大淵扇状地の南端部、標高約 30 mに占地する。遺物散布量は多量とは言えないものの縄文時代の打製石斧、奈良・平安時代にかけての土師器・須恵器などが採取されている。西南に東平遺跡、南に国久保遺跡、東に舟久保遺跡が存在し、周辺の遺跡と密接に係わり合いを持つ可能性が考えられる。

調査の概要　対象地内に５ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構・遺物は確認できなかった。調査地には深さ３m以上の近代造成盛土層が存在し、旧地表面を確認することが出来なかった。聞き取り調査では、他の場所で発生した多量の残土を埋めていると考えられる。



第 105 図　滝下遺跡Ｋ地区　位置図



第 106 図　滝下遺跡Ｋ地区　トレンチ配置図・セクション図

16. 沖田遺跡　第 151 次調査地点

所　在　地　富士市今泉 619 － 1　外

調査の原因　事務所新築

調 査 期 間　平成 25 年 10 月 21 日

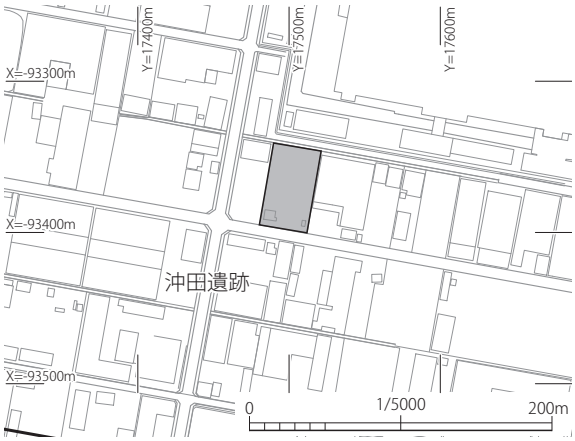
調 査 面 積　32㎡（1,728㎡）

遺跡の概要　本章第 2 節「14. 沖田遺跡　第 148 次調査地点」（p.31）参照。

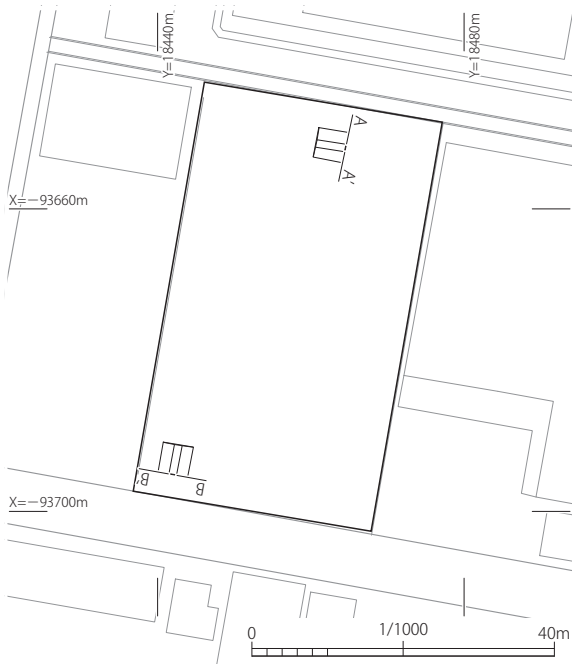
調査の概要　対象地内に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構や遺物は検出されなかった。

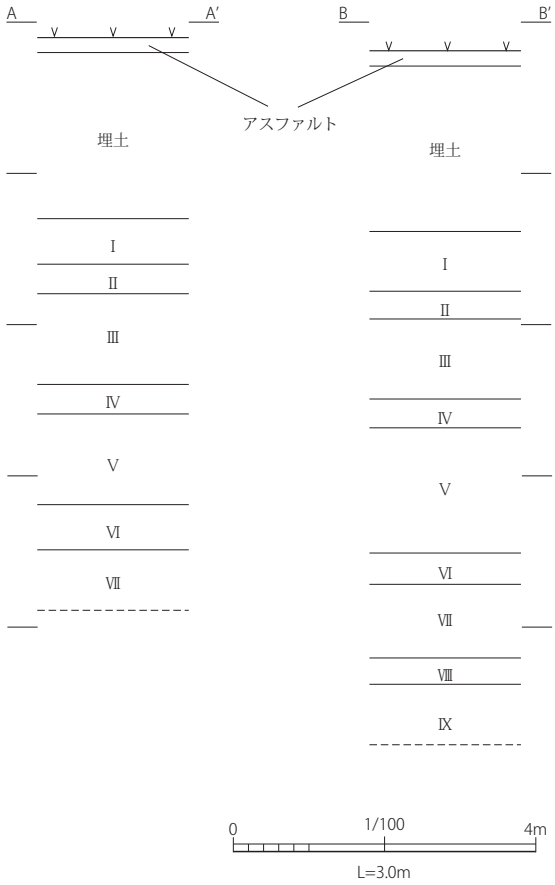
4.5 m掘削し、近世の水田耕作土と考えられる黒色土層を検出したものの、中世以前の土層を検出することは出来なかった。



第 107 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　位置図



第 108 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　トレンチ配置図



Ⅰ　灰色（5Y 4/1）粘質土
Ⅱ　オリーブ黒色（5Y 3/2）粘質土
Ⅲ　灰色（5Y 5/1）粘質土
Ⅳ　オリーブ黒色（7.5Y 3/1）粘質土
Ⅴ　灰色（5Y 5/1）粘質土
Ⅵ　オリーブ黒色（5Y 3/1）粘質土
Ⅶ　灰色（7.5Y 5/1）粘質土
Ⅷ　オリーブ黒色（7.5Y 3/1）粘質土
Ⅸ　灰色（5Y 4/1）粘質土

第 109 図　沖田遺跡第 151 次調査地点　セクション図

17．中桁・中ノ坪遺跡　第９地区

所　在　地　伝法 1268 － 1

調査の原因　不動産売買

調 査 期 間　平成 25 年 11 月 5 日

調 査 面 積　31㎡（対象面積　321㎡）

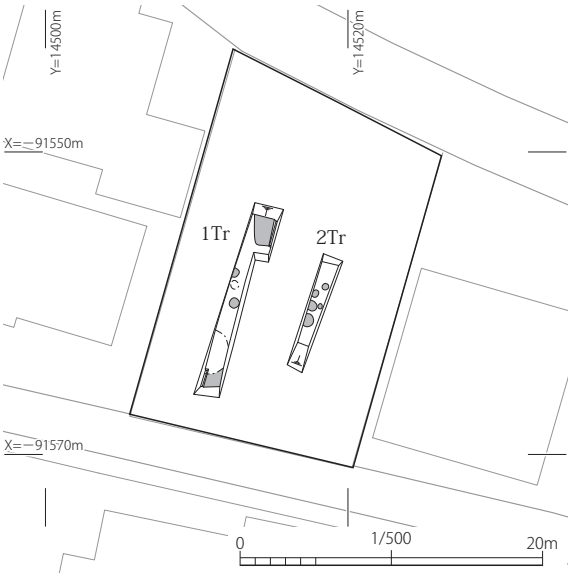
遺跡の概要　本章第２節「２．中桁・中ノ坪遺跡　第５地区」(p.7）参照。

調 査 概 要　対象地内に２ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

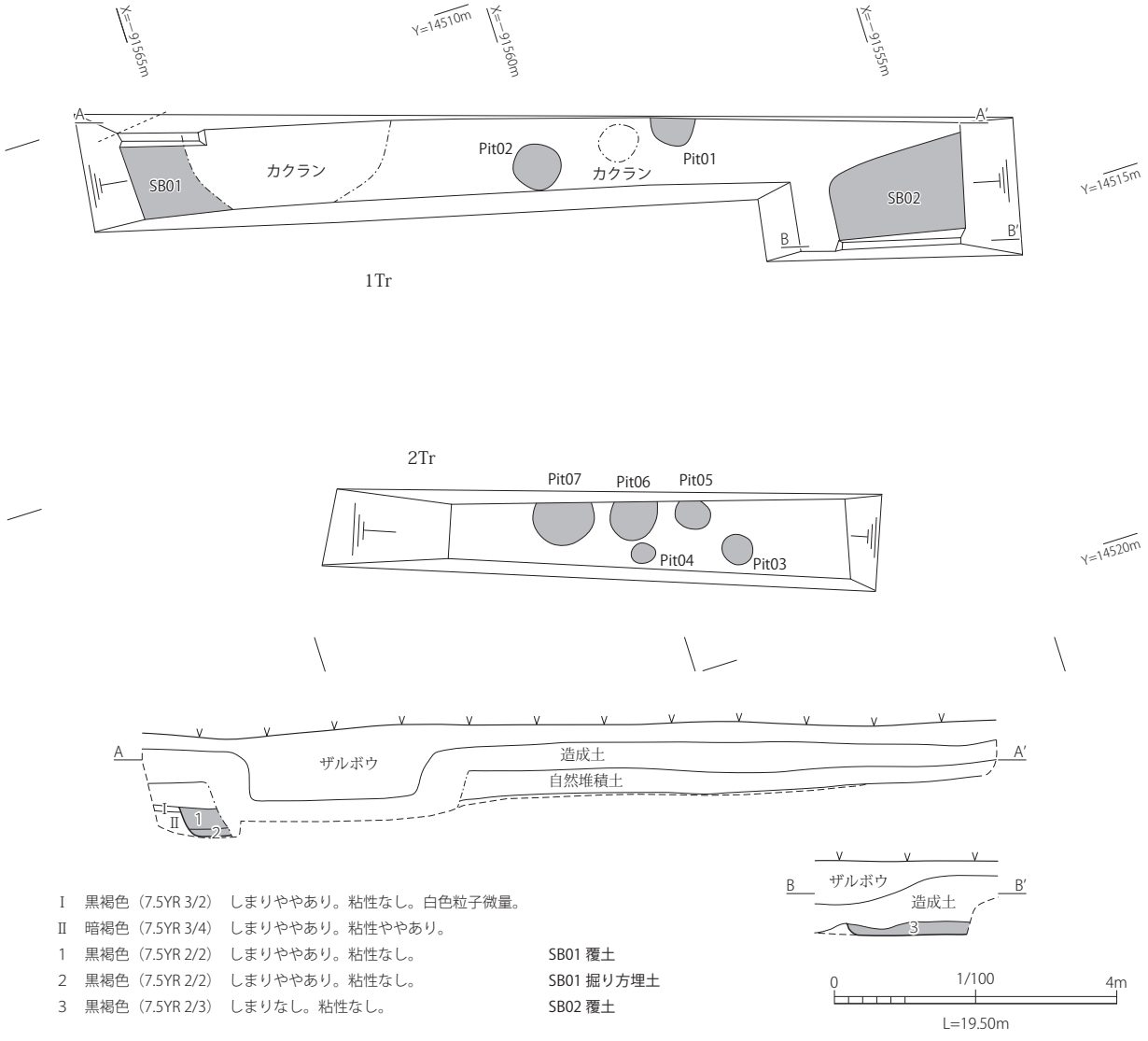
調査の結果　１トレンチにおいて地表下 90㎝より奈良

第 110 図　中桁・中ノ坪遺跡第９地区　位置図

時代から平安時代と考えられる竪穴建物跡２軒（SB01・02）を検出した。また、２トレンチからもピットが複数検出されたことから、対象地内には、面的に埋蔵文化財が残存すると考えられる。遺物は土師器・須恵器が出土したが、図化出来るものは無かった。



第 111 図　中桁・中ノ坪遺跡第９地区　トレンチ配置図



I　黒褐色（7.5YR 3/2）　しまりややあり。粘性なし。白色粒子微量。
II　暗褐色（7.5YR 3/4）　しまりややあり。粘性ややあり。
1　黒褐色（7.5YR 2/2）　しまりややあり。粘性なし。　　SB01 覆土
2　黒褐色（7.5YR 2/2）　しまりややあり。粘性なし。　　SB01 掘り方埋土
3　黒褐色（7.5YR 2/3）　しまりなし。粘性なし。　　SB02 覆土

第 112 図　中桁・中ノ坪遺跡第９地区　トレンチ平面図・セクション図

18. 沢東Ｂ遺跡　第９地区

所　在　地　富士市厚原 364 － 1

調査の原因　駐車場整備

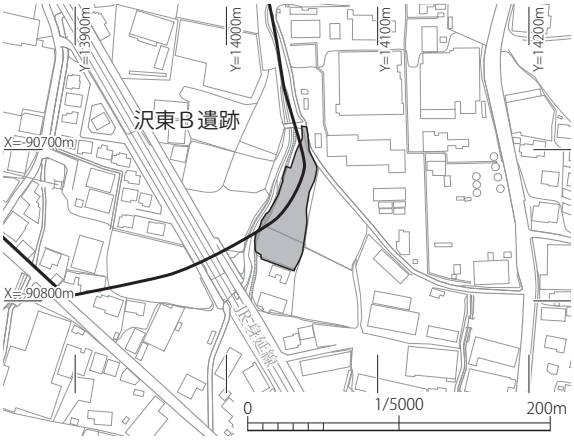
調 査 期 間　平成 25 年 11 月 7 日～ 11 月 11 日

調 査 面 積　59㎡（対象面積　2,090㎡）

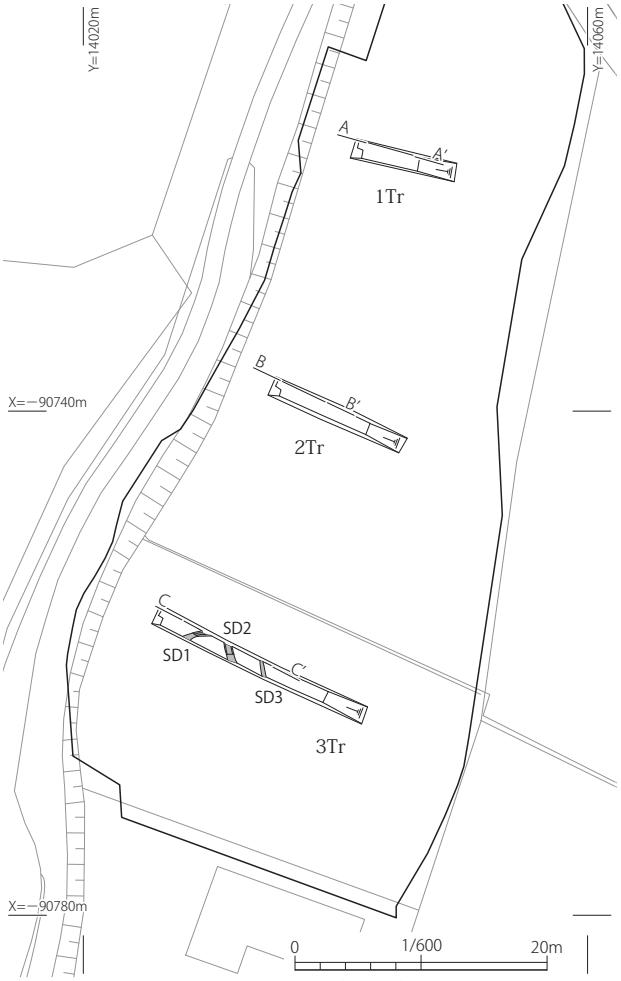
遺跡の概要　本節「12. 包蔵地外 （沢東Ｂ遺跡　隣接地（第８地区））」(p.54) 参照。

調査の概要　対象地内に３ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

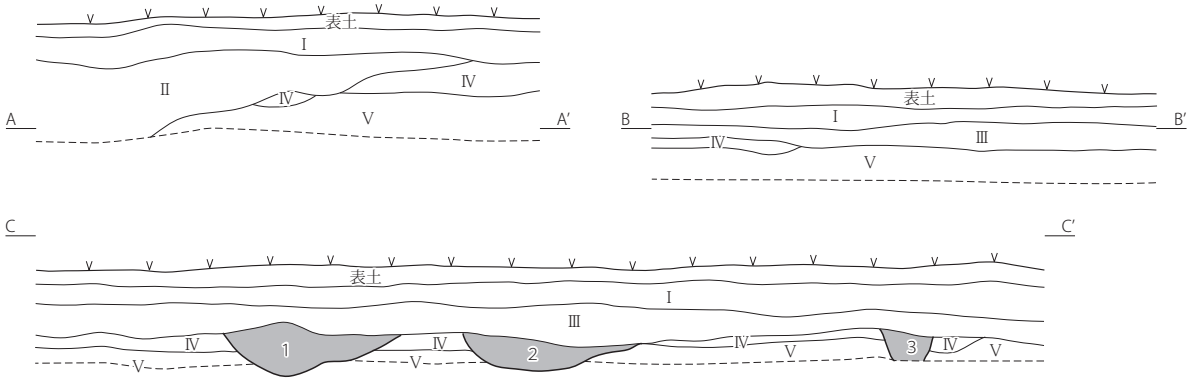
調査の結果　旧表土が部分的に残存するものの、1Tr・2Tr では遺構や遺物は確認されなかった。南に設定した 3Tr では溝状の掘り込みを３条検出した。SD1 と SD3 は覆土が似ていることや直交することから同一の掘り込みの可能性が考えられたが、周辺を含めて遺物が伴わないため、遺構として認定しないこととした。



第 113 図　沢東Ｂ遺跡第９地区　位置図



第 114 図　沢東Ｂ遺跡第９地区　トレンチ配置図



Ⅰ　暗赤褐色土（5YR3/4）　しまり強。粘性あり。鉄分を多量に含む。
Ⅱ　黒褐色土（10YR3/2）　しまりやや強。粘性あり。礫（20 ㎜）微量。橙色粒子少量。
Ⅲ　黒褐色土（7.5YR2/2）　しまりやや強。粘性ややあり。礫（10 ～ 20 ㎜）少量。橙色粒子多量。
Ⅳ　黒色土（7.5YR2/1）　しまりやや強。粘性ややあり。礫（5 ～ 10 ㎜）少量。橙色粒子中量。　旧表土
Ⅴ　褐色土（7.5YR4/4）　しまり強。粘性弱。砂多量。礫（5 ～ 10 ㎜）多量。　地山
1　黒色土（7.5YR1.7/1）　しまりやや強。粘性なし。赤色粒子多量。　SD1 覆土
2　黒色土（7.5YR1.7/1）　しまり強。粘性なし。赤色粒子なし。底面は固結して固い。　SD2 覆土
3　黒色土（7.5YR1.7/1）　しまりやや強。粘性なし。赤色粒子多量。　SD3 覆土

第 115 図　沢東Ｂ遺跡第９地区　セクション図

19. 東平遺跡　第 67 地区

所　在　地　富士市伝法 2789 － 1　外

調査の原因　宅地造成

第 116 図　東平遺跡第 67 地区　位置図

調 査 期 間　平成 25 年 11 月 14 日

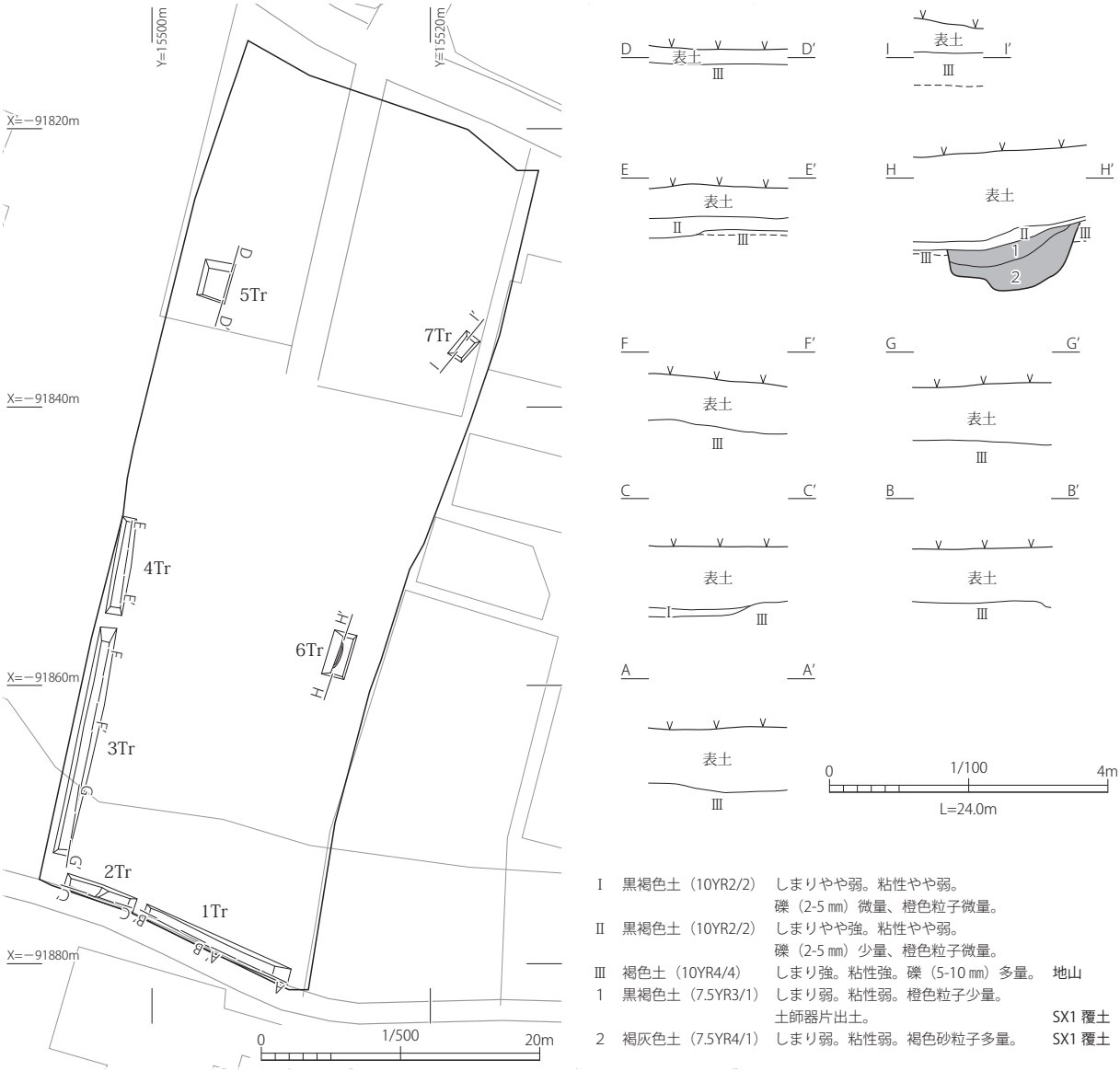
調 査 面 積　63㎡（対象面積　1,334㎡）

遺跡の概要　本章第 2 節「6. 三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区）」(p.18) 参照。

調 査 概 要　対象地内に 7 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　調査地には、かつて賃貸住宅が建設されており、その際に大規模な造成が行われたことが明らかとなった。また、6Tr において一辺 1.2 mほどの落ち込み（SX1）を検出したが、覆土の状況から近世ないしは近代以降のものと考えられる。

遺物は、土師器が出土したが図化は出来なかった。



Ⅰ　黒褐色土（10YR2/2）　しまりやや弱。粘性やや弱。礫（2-5 ㎜）微量、橙色粒子微量。

Ⅱ　黒褐色土（10YR2/2）　しまりやや強。粘性やや弱。礫（2-5 ㎜）少量、橙色粒子微量。

Ⅲ　褐色土（10YR4/4）　しまり強。粘性強。礫（5-10 ㎜）多量。　地山

1　黒褐色土（7.5YR3/1）　しまり弱。粘性弱。橙色粒子少量。土師器片出土。　SX1 覆土

2　褐灰色土（7.5YR4/1）　しまり弱。粘性弱。褐色砂粒子多量。　SX1 覆土

第 117 図　東平遺跡第 67 地区　トレンチ配置図・セクション図

20. 滝下遺跡　L地区

所　在　地　富士市伝法 2341 － 1　外

調査の原因　アパート新築

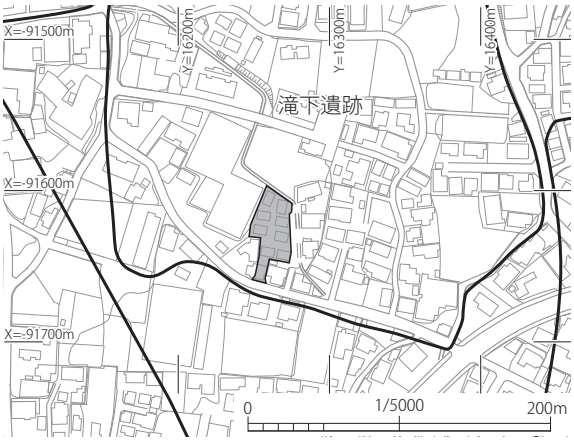
調 査 期 間　平成 25 年 11 月 18 日

調 査 面 積　33㎡（1,035㎡）

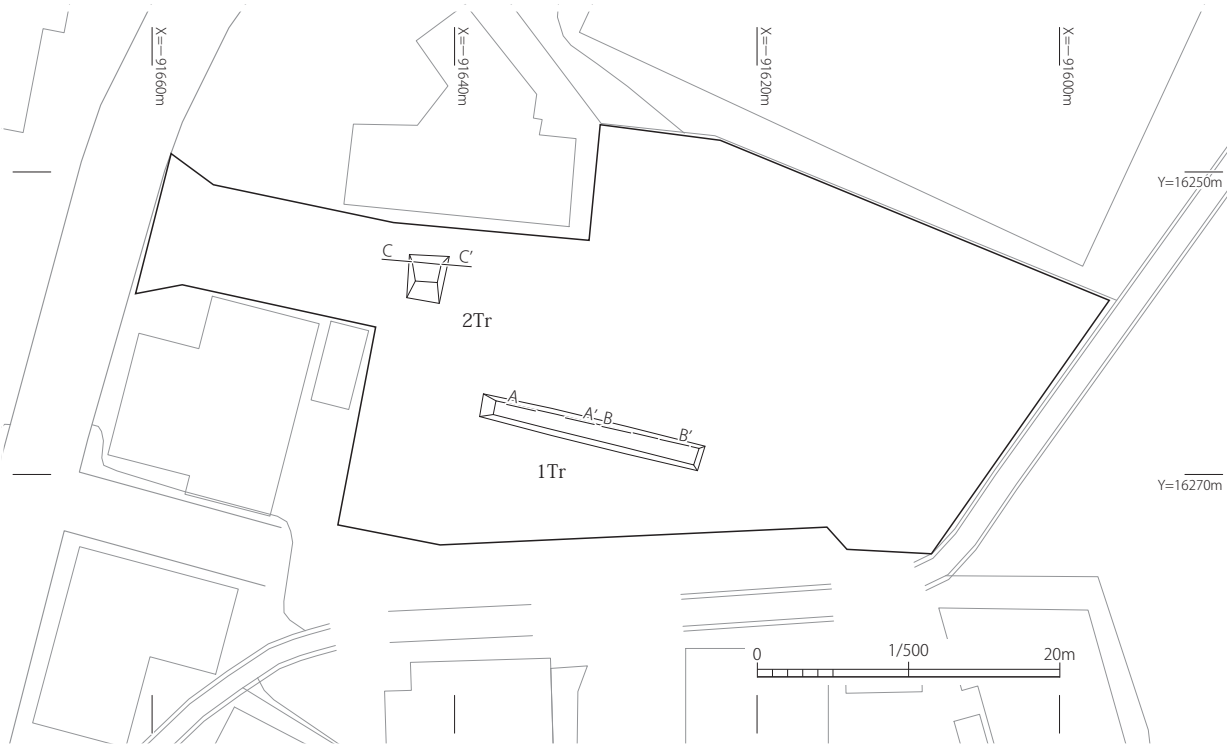
遺跡の概要　本節「15. 滝下遺跡　K地区」(p.57) 参照。

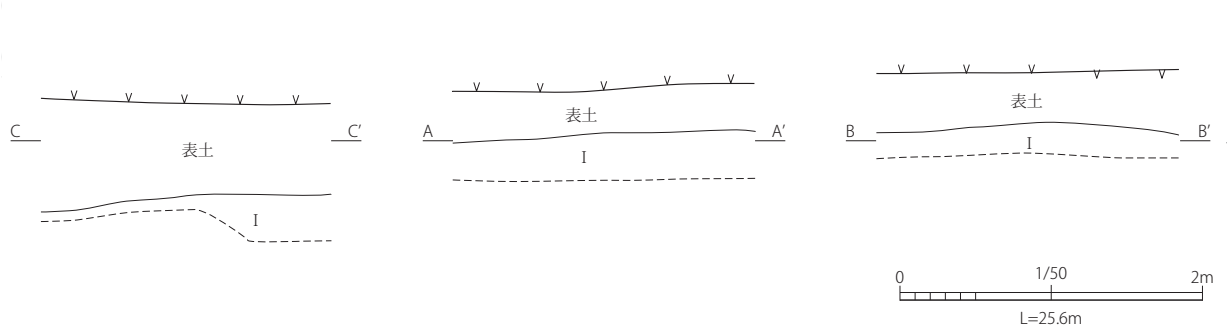
調査の概要　対象地内に 2 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　表土下に旧表土は確認されず、遺構・遺物も認められなかった。



第 118 図　滝下遺跡 L 地区　位置図





I　明褐色土（7.5YR5/6）しまり強。粘性やや弱。礫（1 ～ 2 ㎝）多量、礫（20 ～ 30 ㎝）少量。　地山

第 119 図　滝下遺跡 L 地区　トレンチ配置図・セクション図

21．東平遺跡　第 64 地区

所　在　地　富士市伝法 2383 － 1　外

調査の原因　共同住宅建設

調 査 期 間　平成 25 年 11 月 21 日～ 11 月 29 日

調 査 面 積　337㎡（対象面積 2,562㎡）

遺跡の概要　本章第２節「６．三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区）」（p.18）参照。

調査の概要　対象地内に 13 ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削･精査を行い、遺構･遺物の検出に努めた。

調査の結果　敷地全体に竪穴建物跡（SB1 ～ 21）が残存することが明らかとなった。調査地は東平第１号墳に近接した箇所にあたるが、古墳は確認されなかった。

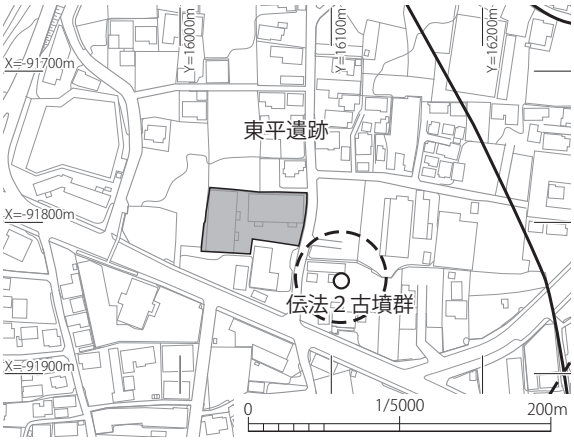
出 土 遺 物　土師器・須恵器・灰釉陶器が出土し、17 点図示した。

１は 1TrSB02 から出土した須恵器高台坏の底部片である。２は 10TrSD01 出土の須恵器高台坏の底部である。底部外面はヘラケズリ調整され、断面長方形の高台を貼り付けている。８世紀代（遠江Ⅴ期）に位置づけられる。

３は 13TrPit96 から出土した須恵器高台坏の底部片である。残存部分にケズリ調整は認められず、底部外面に断面三角形の高台を貼り付けている。

４は 11TrSD01 から出土した須恵器壺の底部である。体部は底部からあまり外へ開かずに立ち、底部はヘラケズリ調整後、断面三角形の高台を貼り付けている。底部の内外面と体部外面に自然釉が認められる。５は 7TrSB06 から出土した須恵器壺の胴部である。肩は丸く張り、自然釉がかかる。７世紀～８世紀のものか。

６は 6TrSB14 から出土した土師器甕口縁部片である。



第 120 図　東平遺跡第 64 地区　位置図

口縁端部外面をナデによりややくぼめて、口唇部を丸く整えている。

10 は 13TrSB18・19 から出土した土師器小型甕である。肩があまり張らず、胴部最大径よりも口径が大きくなる器形で、内面はナデ調整、外面はハケ目後ケズリで整えられている。７は 13TrSB16・17 から出土した土師器甕の破片である。胎土には金雲母が多く含まれ、肩がほとんど張らず、短い口縁部が直線的に外へ開く。甲斐型甕の薄口縁型と考えられ、８世紀末から９世紀中葉ごろに位置づけられる。

９は 13TrSB18･19 出土の土師器甕の破片である。頸部がくの字に屈曲し、口縁部は外反して開く。外面は斜ハケ目調整後ナデている。８は 13TrSB17 から出土した土師器小型甕の破片である。肩部は張らず、短い口縁が外反する。体部内面はヨコハケ目、外面はタテハケ目調整される。

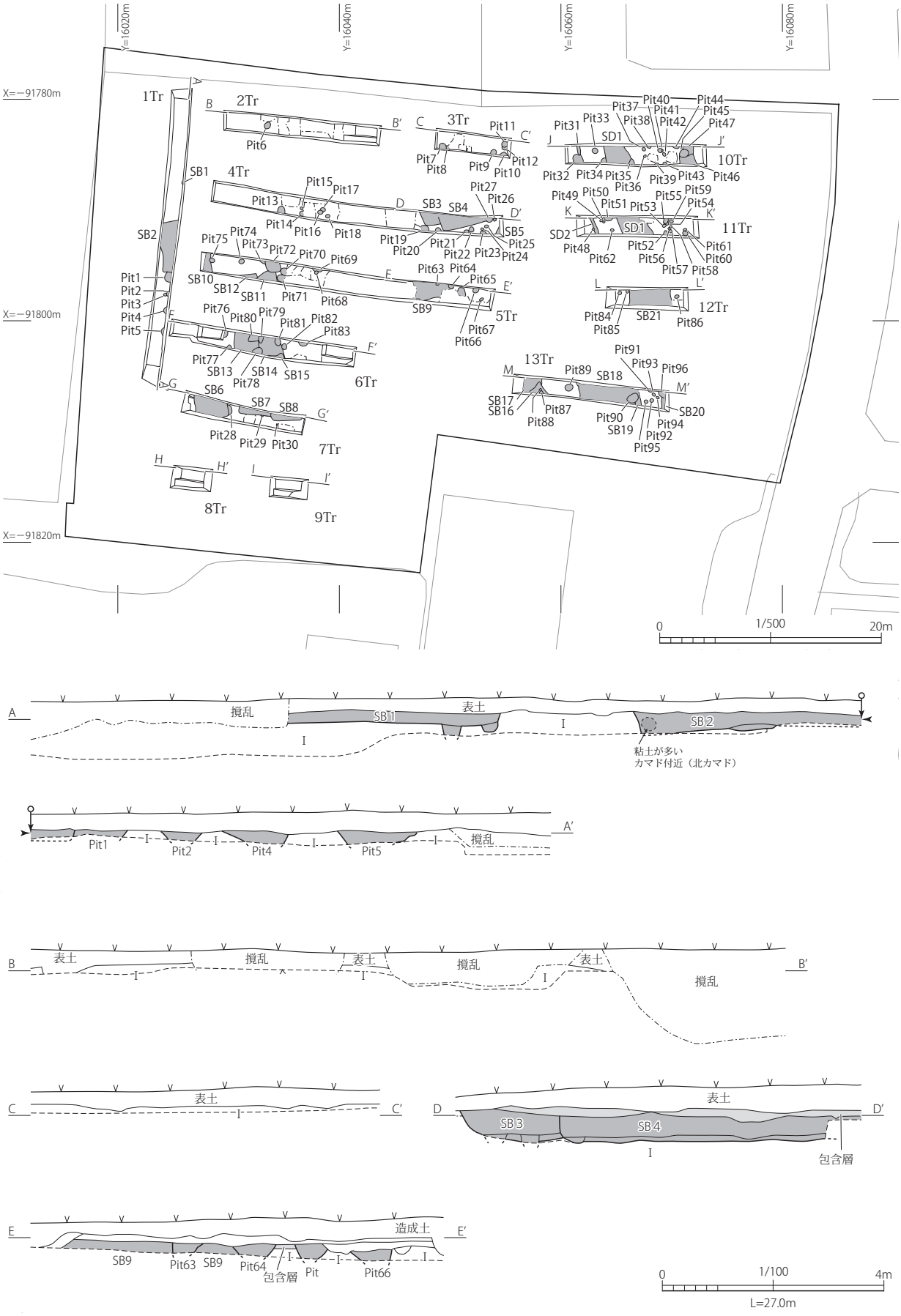
11 は 11TrSD01 から出土した土師器駿東型坏である。体部は内外面ともヘラミガキ調整され、底部内面には放射状のヘラミガキ、外面はヘラケズリ後ヘラミガキが施される。

12 は外面に墨書がある土師器坏の底部片である。4TrSB03・04 から出土した。底部は中心にヘラ切痕を残してドーナツ状にヘラケズリし、中央に墨書しているが、文字は不明である。底部内面には放射状ヘラミガキが施されている。13 も外面に墨書がある土師器坏の口縁部片である。墨書の文字は不明である。

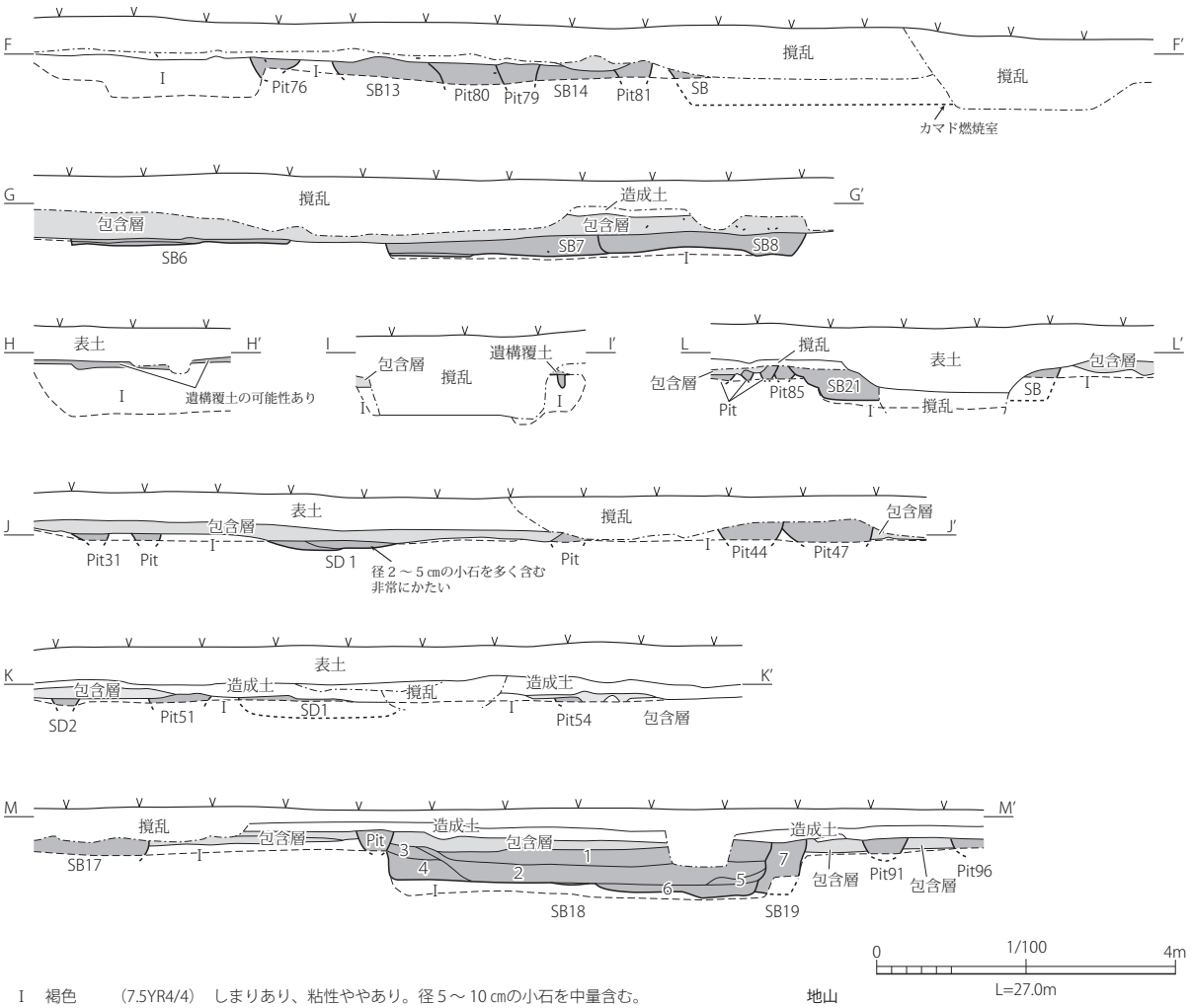
14 は 13TrSB18・19 から出土した、外面に墨書がある土師器坏の体部片である。墨書は正位で記され「具」と読める。

15 は 4Tr から出土した土師器駿東型坏である。体部は内外面ともヘラミガキ調整され、底部外面もヘラケズリ後ヘラミガキされている。16 は 7TrSB08 から出土した土師器の甲斐型皿である。体部内外面にヘラミガキや放射状暗文は認められず、体部下半には斜方向のヘラケズリ調整がされ、口縁端部は玉縁状に外反させている。9 世紀後半から 10 世紀前半に位置づけられる。

17 は 4TrSB03・04 から出土した土師器高坏脚部片である。上端は坏部との接合面で、円柱状につくったものを坏底部に接合したものとみられる。外面には丁寧な縦ヘラミガキが施されている。

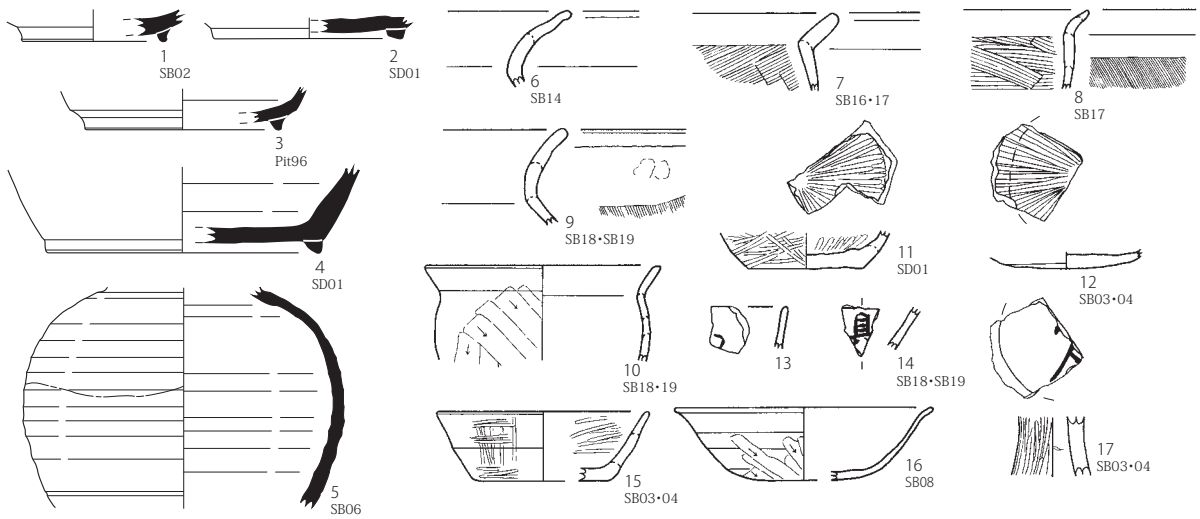


第121図　東平遺跡第64地区　トレンチ配置図・セクション図



I	褐色	(7.5YR4/4)	しまりあり、粘性ややあり。径５～10㎝の小石を中量含む。	地山
1	暗褐色	(7.5YR3/3)	しまりややあり、粘性ややあり。径２～４㎝の地山ブロックを中量含む。	SB18 覆土
2	暗褐色	(7.5YR3/3)	しまりややあり、粘性ややあり。径１～３㎝の小石を中量、地山粒子を少量含む。	SB18 覆土
3	褐色	(7.5YR4/3)	しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を中量含む。	SB18 覆土
4	褐色	(7.5YR4/3)	しまりややあり、粘性ややあり。地山粒子を中量含む。	SB18 覆土
5	明黄褐色	(10YR6/6)	しまりあり、粘性ややあり。粘土。焼土粒子を多量含む。	SB18 カマド
6	黒褐色	(7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子を多量含む。	SB18 掘り方埋土
7	暗褐色	(7.5YR3/3)	しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を中量含む。	SB19 覆土

第 122 図　東平遺跡第 64 地区　セクション図



第 123 図　東平遺跡第 64 地区　出土遺物実測図

第 14 表　東平遺跡第 64 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 123 図－ 1	R001	p.105	SB02	須恵器	高台坏	-	(1.7)	(7.5)	良好	20%	反転復元	2.5Y7/1（灰白） 2.5Y7/2（灰黄）
第 123 図－ 2	R023	p.105	SD01	須恵器	坏	-	(1.1)	(10.0)	良好	20%	反転復元	2.5Y6/1（黄灰） 2.5Y6/1（黄灰）
第 123 図－ 3	R049	p.105	Pit96	須恵器	坏	-	(2.2)	(10.2)	良好	25%	反転復元	2.5Y6/1（黄灰） 2.5Y7/1（灰白）
第 123 図－ 4	R026	p.105	SD01	須恵器	坏	-	(4.4)	(14.3)	良好	40%	反転復元	2.5Y7/1（灰白） 2.5Y7/2（灰黄）
第 123 図－ 5	R006	p.105	SB06	須恵器	壺	-	(11.6)	-	良好	40%	反転復元	7.5Y4/1（灰） 7.5Y4/1（灰）
第 123 図－ 6	R042	p.105	SB14	土師器	甕	-	(3.9)	-	良好	-		2.5Y5/2（暗灰黄） 7.5YR6/6（橙）
第 123 図－ 7	R053	p.105	SB16・17	土師器	甕	-	(4.2)	-	良好	-		5YR4/6（赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 123 図－ 8	R048	p.105	SB17	土師器	甕	-	(4.1)	-	良好	-		7.5YR5/6（明褐） 7.5YR6/6（橙）
第 123 図－ 9	R052	p.105	SB18・19	土師器	甕	-	(5.2)	-	良好	-		5YR5/6（明赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 123 図－ 10	R052	p.105	SB18・19	土師器	甕	(11.8)	(5.0)	-	良好	25%	反転復元	5YR4/6（赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 123 図－ 11	R029・030	p.105	SD01	土師器	坏	-	(1.9)	(6.0)	良好	30%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐） 2.5YR5/8（明赤褐）
第 123 図－ 12	R007	p.105	SB03・04	土師器	坏	-	(1.0)	-	良好	30%	墨書土器、反転復元	2.5YR5/6（明赤褐） 2.5YR5/6（明赤褐）
第 123 図－ 13	R051	p.105	11Tr	土師器	坏	-	(2.2)	-	良好	-	墨書土器	5YR4/6（赤褐） 5YR4/6（赤褐）
第 123 図－ 14	R052	p.105	SB18・19	土師器	坏	-	(2.25)	-	良好	-	墨書土器	7.5YR5/6（明褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 123 図－ 15	R007	p.105	SB03・04	土師器	坏	(11.3)	(3.7)	(7.0)	良好	25%	反転復元	5YR4/6（赤褐） 5YR4/6（赤褐）
第 123 図－ 16	R032	p.105	SB08	土師器	坏	(13.5)	(3.8)	(6.2)	良好	20%	反転復元	5YR5/6（明赤褐） 7.5YR6/4（にぶい橙）
第 123 図－ 17	R007	p.105	SB03・04	土師器	高坏	-	(3.1)	-	良好	50%	反転復元	2.5YR5/8（明赤褐） 2.5YR5/8（明赤褐）

22. 三日市廃寺跡　（東平遺跡　第 65 地区）

所　在　地　富士市浅間上町 2912 － 2　外

調査の原因　個人住宅新築

調 査 期 間　平成 25 年 12 月 11 日

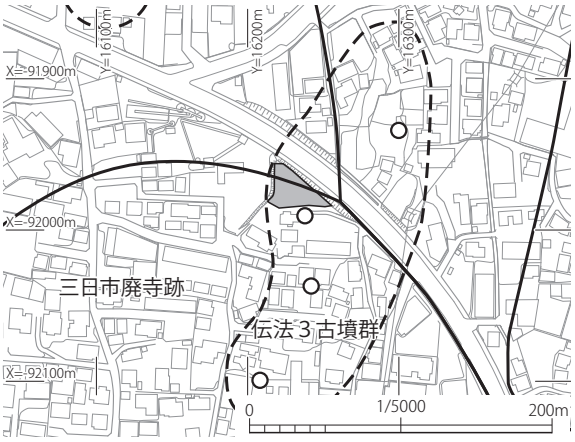
調 査 面 積　11㎡（対象面積 892㎡）

遺跡の概要　本章第 2 節「6. 三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区）」(p.18) 参照。

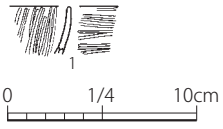
調査の概要　対象地内に 1 ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削の後に遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　地表面から 0.5 ～ 0.7m の深さで耕作土直下に地山が確認でき、旧表土は残存しないことが明らかとなった。遺物は耕作土中から出土したものであり、流れ込みと判断される。

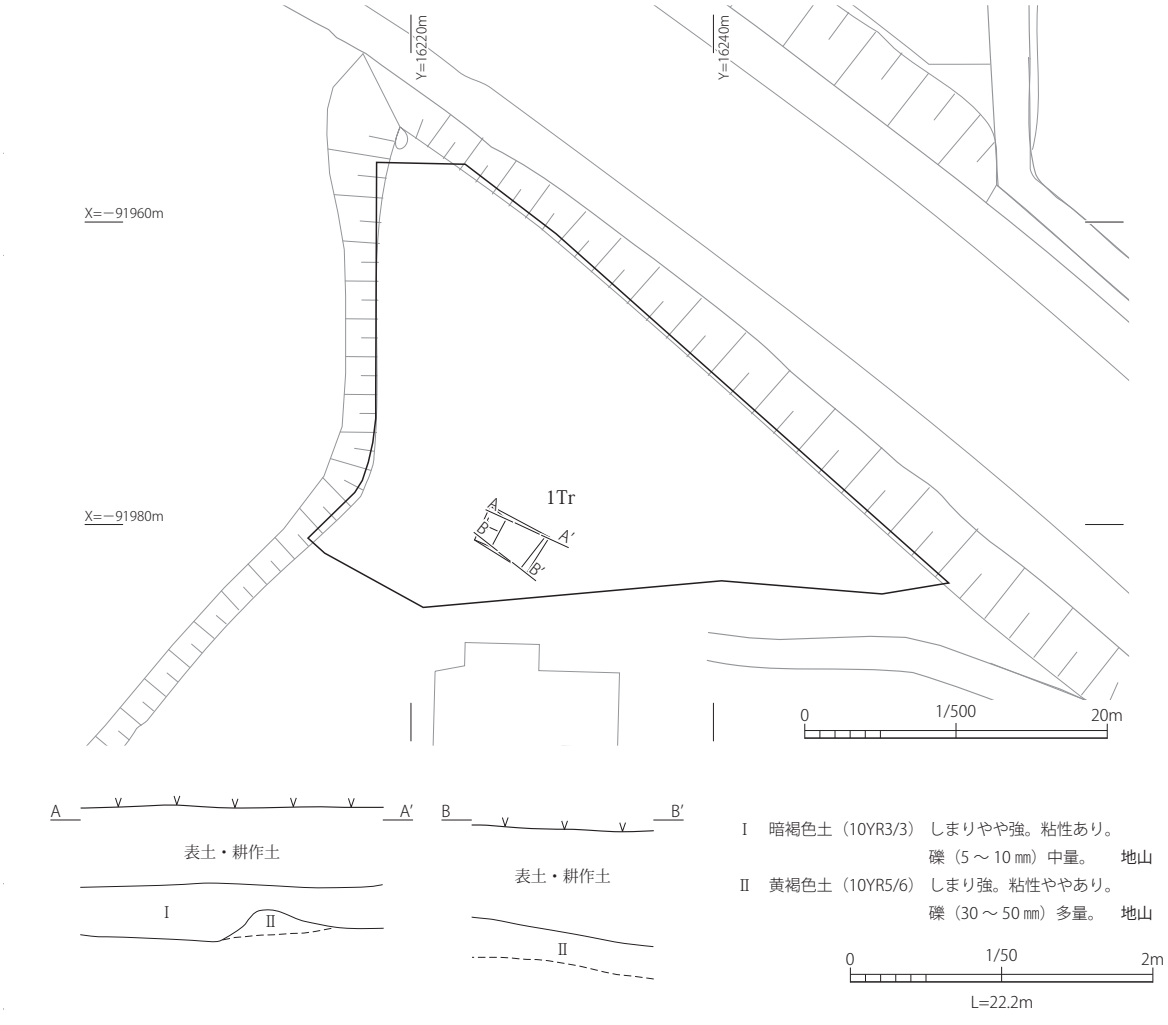
出 土 遺 物　土師器甲斐型坏の破片 1 点を図示した（第 125 図）。器壁は薄く、口縁部はやや内湾する。外面にはヨコヘラミガキ、内面にはタテヘラミガキが施される。



第 124 図　東平遺跡第 65 地区　位置図



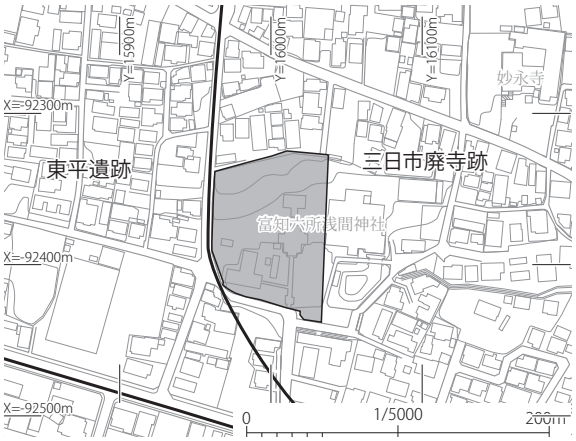
第 125 図　東平遺跡第 65 地区　出土遺物実測図



第 126 図　東平遺跡第 65 地区　トレンチ配置図・セクション図

第 15 表　東平遺跡第 65 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 125 図－ 1	R001	p.106	1Tr	土師器	坏	-	(2.5)	-	良好	-	2.5YR5/6（明赤褐）	2.5YR5/6（明赤褐）



第 127 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－２次調査）　位置図

23. 三日市廃寺跡　（東平遺跡　第 59 地区－２次調査）

所　在　地　富士市浅間本町５－１

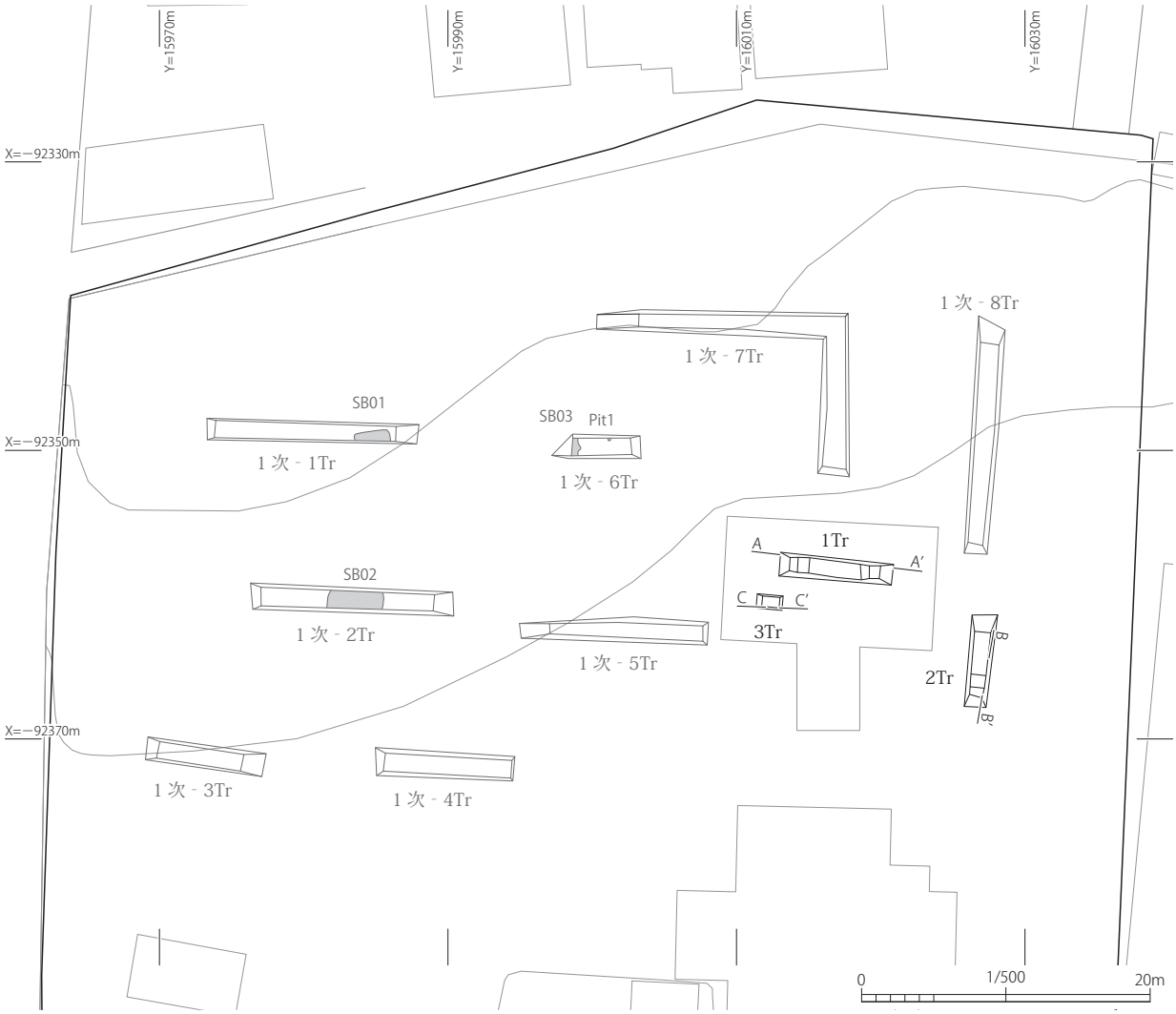
調 査 原 因　神社社殿改築

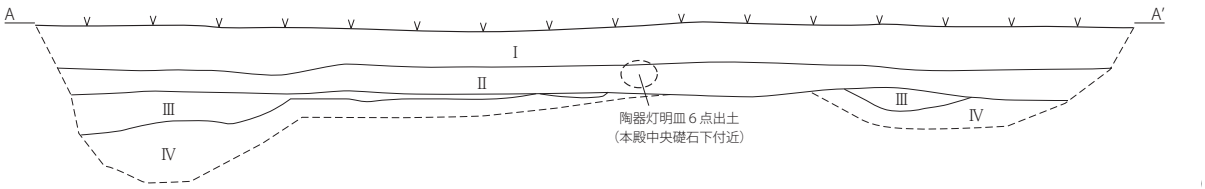
調 査 期 間　平成 25 年 12 月 16 日

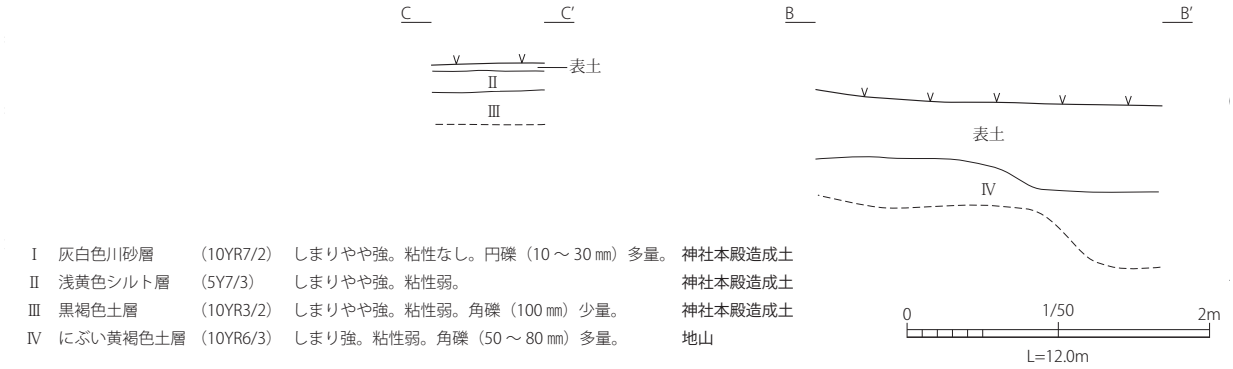
調 査 面 積　25㎡（対象面積 3,300㎡）

遺跡の概要　本章第２節「6. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 59 地区）」(p.18）参照。

調査の概要　平成 24 年度におこなった１次調査（本章第２節 6. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 59 地区－１次調査）、p.18）で、神社本殿が現存していたため調査が行えなかった場所を対象に２次調査を実施した。







Ⅰ	灰白色川砂層	（10YR7/2）	しまりやや強。粘性なし。円礫（10 ～ 30 ㎜）多量。	神社本殿造成土
Ⅱ	浅黄色シルト層	（5Y7/3）	しまりやや強。粘性弱。	神社本殿造成土
Ⅲ	黒褐色土層	（10YR3/2）	しまりやや強。粘性弱。角礫（100 ㎜）少量。	神社本殿造成土
Ⅳ	にぶい黄褐色土層	（10YR6/3）	しまり強。粘性弱。角礫（50 ～ 80 ㎜）多量。	地山

第 128 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－２次調査）　トレンチ配置図・セクション図

調査前に本殿が撤去されており、礎石が 150 ～ 160 ㎝間隔で６間 × ２間の長方形状に配置されていた。

対象範囲に３ヶ所のトレンチを設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　40 ～ 60㎝の深さで地山が確認され、その上層は本殿を造る際の造成土となり三日市廃寺跡（東平遺跡）に伴う遺構・遺物は検出されなかった。

なお、神社本殿下部は、1Tr・3Tr で確認されたⅡ層のシルト層（造成土）により基壇を構築し、礎石を固定するものとしてⅠ層の川砂層を敷き詰めている。1Tr においては、中央礎石下付近のⅡ層から陶器灯明皿６点（第 130 図－２～ 7）がまとまって出土している。

出土遺物　瓦１点、陶器６点を図示した（第 129 図・第 130 図）。

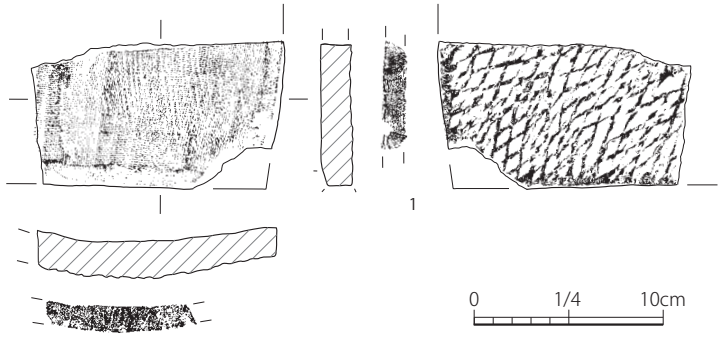
１は平瓦片である。凸面には斜格子の叩き目が、凹面には桶巻きの痕跡や布目痕が残る。

２～７は陶器の灯明皿である。撤去された神社本殿の中央礎石下付近からまとまって出土した。いずれも底部を削り込んで高台のように成形している。２には３ヶ所のトチン痕が残る。18 世紀初頭の瀬戸・美濃窯の製品である。

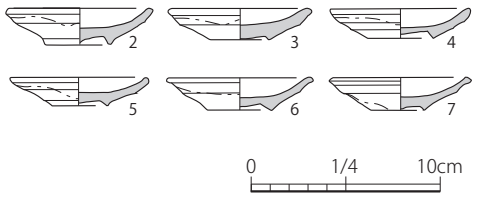
富知六所浅間神社を含む「下方五社（富士山南麓下方地域に所在する五つの神社）」の別当職を務めていた六所家から平成 18 年に富士市立博物館に寄贈された資料の中に「正徳四 (1714) 年　六所浅間宮重建上遷宮棟札」があり（井上 2009）、これらの灯明皿はこの棟札を伴う本殿造営時に埋納されたものと推測される。

参考文献

井上卓哉 2009「六所家旧蔵棟札類の概要」『平成 20 年度　館報』富士市立博物館



第 129 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－２次調査）出土遺物実測図①



第 130 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－２次調査）出土遺物実測図②

第 16 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－２次調査）　出土遺物観察表

・瓦

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 129 図－１	R003	p.106		平瓦	7.3	12.8	2.0	318.38

・陶器

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 130 図－２	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.4	1.9	3.5	良好	100%	瀬戸・美濃窯	2.5YR8/4（淡黄）	2.5YR8/3（淡黄）
第 130 図－３	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.4	1.6	3.4	良好	100%	瀬戸・美濃窯	5Y8/3（淡黄）	2.5YR8/4（淡黄）
第 130 図－４	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.4	1.6	3.4	良好	100%	瀬戸・美濃窯	5Y7/3（浅黄）	5Y7/2（灰白）
第 130 図－５	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.4	1.5	2.8	良好	100%	瀬戸・美濃窯	5Y7/3（浅黄）	5Y7/2（灰白）
第 130 図－６	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.5	1.7	3.4	良好	100%	瀬戸・美濃窯	5Y6/2（灰オリーブ）	5Y7/2（灰白）
第 130 図－７	R001	p.106	1Tr	灯明皿	7.1	1.7	2.8	良好	100%	瀬戸・美濃窯	5Y7/3（浅黄）	5Y6/3（オリーブ黄）

24．柏原遺跡　第８地区

所　在　地　富士市中柏原新田 191　外

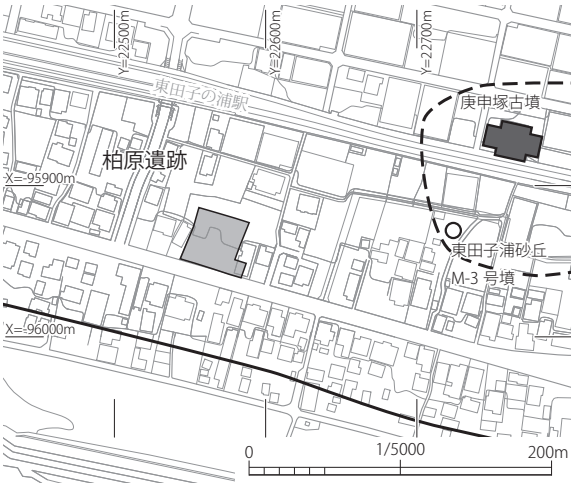
調査の原因　貸店舗建設

調 査 期 間　平成 26 年 1 月 20 日～ 1 月 24 日

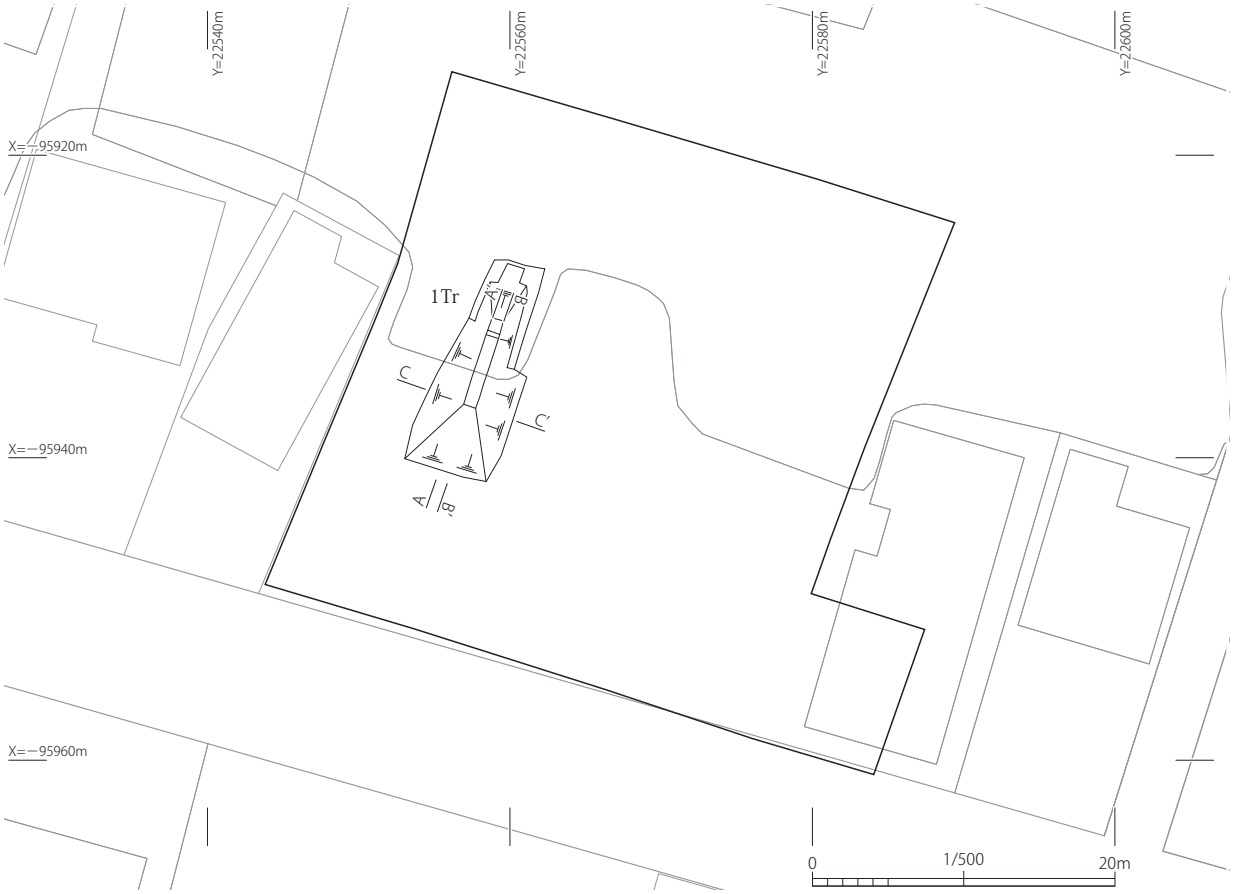
調 査 面 積　82㎡（1,396㎡）

遺跡の概要　柏原遺跡は、駿河湾と浮島ヶ原低地を隔てる田子浦砂丘上に立地する集落跡である。古墳時代から平安時代の建物跡が確認されているほか、縄文土器・弥生土器の出土もみられる。

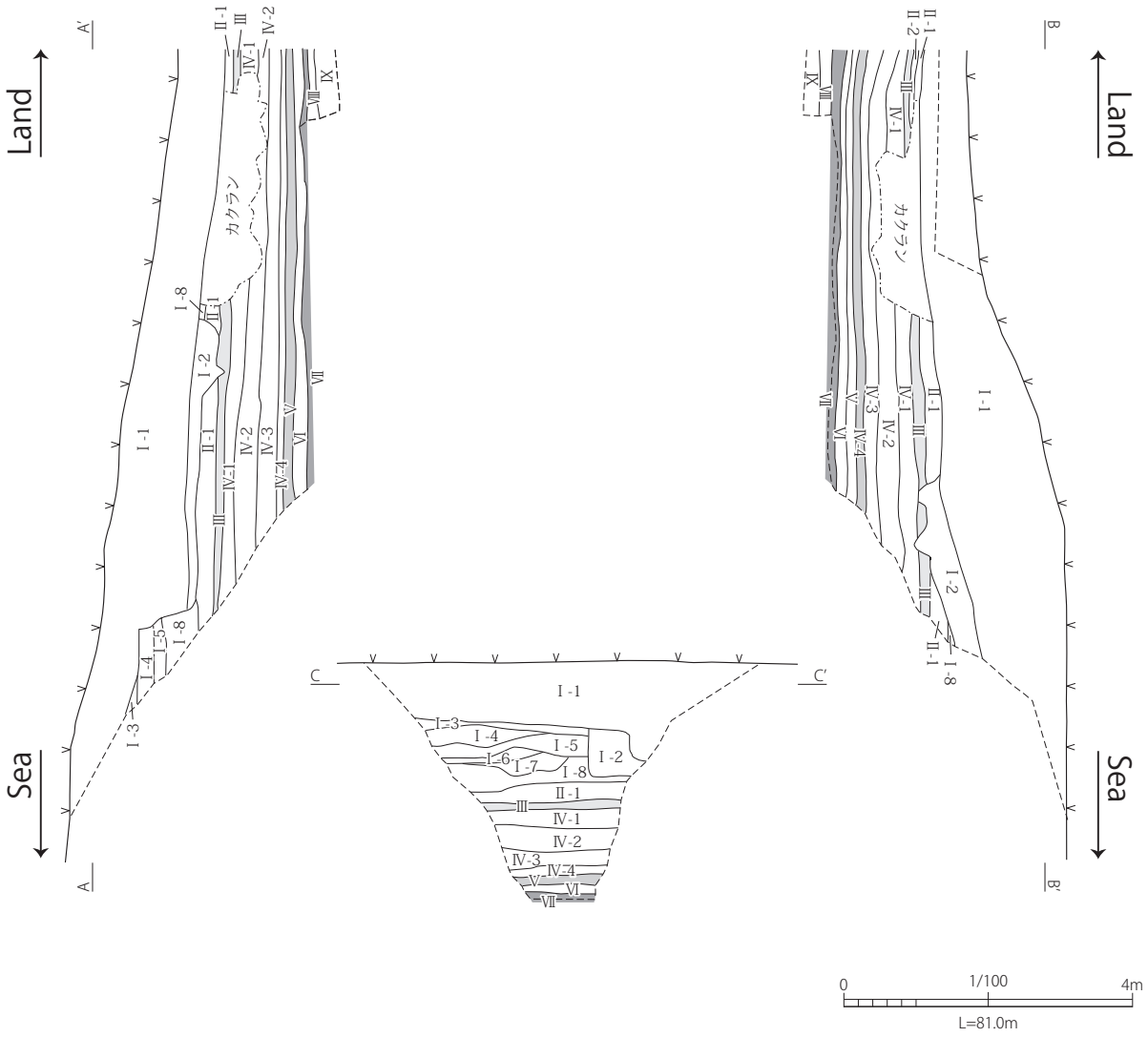
平成 23 年に実施した第 6 地区の調査では、これまでは竪穴建物跡等の遺構覆土内でしか検出されなかった大淵スコリアの純粋堆積層を、調査区のほぼ全面にわたって確認することができた（藤村・小島 2013）。大淵スコリア層の厚さは 20 ～ 30㎝を測り、その下層ではスコリアに埋没した明瞭な遺構は発見できなかったものの、調査区内の数ヶ所において土師器の甕や壺１～２個体からなる遺物集中箇所が確認された。これらの土師器は細片に破砕されて大淵スコリアに埋もれるような状況で検出されており、またいずれの土器も 5 世紀後半から 6 世紀初頭頃の形態を呈することから、当該期の富士山噴火に伴うスコリア降下の際に埋没した遺物であると考えられる。これらの土器群が明確な遺構に伴わない点から、その使用状況については検討の余地が残るものの、スコリア降下時の緊迫した状況を読みとることができる可能性がある。



第 131 図　柏原遺跡第８地区　位置図



第 132 図　柏原遺跡第８地区　トレンチ配置図



Ⅰ-1	表土		
Ⅰ-2	黒褐色砂質土層	(10YR3/2)	しまりやや弱、粘性なし。円礫（5㎜）中量。
Ⅰ-3	にぶい黄褐色粗砂層	(10YR4/2)	しまり弱、粘性なし。
Ⅰ-4	黒褐色砂質土層	(7.5YR3/2)	しまりやや強、粘性なし。円礫（5㎜）中量。
Ⅰ-5	黒褐色砂質土層	(10YR3/1)	しまりやや弱、粘性なし。円礫（5㎜）少量。
Ⅰ-6	黒褐色砂質土層	(10YR2/2)	しまりやや強、粘性なし。円礫（2～3㎜）多量。
Ⅰ-7	暗褐色粗砂層	(7.5YR3/3)	しまりやや弱、粘性なし。円礫（5㎜）少量。
Ⅰ-8	黒褐色砂質土層	(10YR3/2)	しまりやや弱、粘性やや弱。円礫（2～3㎜）多量。
Ⅱ-1	暗褐色砂質土層	(10YR3/4)	しまりやや弱、粘性なし。円礫（3～10㎜）少量、大淵スコリア微量。
Ⅱ-2	黒褐色粗砂層	(10YR3/2)	しまり弱、粘性なし。大淵スコリア微量。
Ⅲ	暗赤褐色砂質土層	(5YR3/6)	しまりやや弱、粘性なし。大淵スコリア（3-10㎜）極多量。砂中量。
Ⅳ-1	にぶい黄褐色粗砂層	(10YR5/4)	しまり弱、粘性なし。大淵スコリア粒少量。
Ⅳ-2	黒褐色粗砂層	(10YR3/2)	しまり弱、粘性なし。円礫（1-10㎜）少量。
Ⅳ-3	黒褐色粗砂層	(10YR2/3)	しまりやや弱、粘性なし。円礫（1-20㎜）少量。
Ⅳ-4	暗褐色粗砂層	(10YR3/3)	しまり弱、粘性なし。円礫（5-10㎜）多量。
Ⅴ	褐色砂質土層	(10YR4/4)	しまり強、粘性なし。円礫（1-20㎜）少量
Ⅵ	暗灰黄粗砂層	(2.5Y3/2)	しまり弱、粘性なし。
Ⅶ	黒褐色砂礫層	(10YR3/2)	しまり弱、粘性なし。円礫（30-50㎜）多量。
Ⅷ	暗褐色粗砂層	(10YR3/4)	しまり弱、粘性なし。
Ⅸ	黒褐色粗砂層	(10YR2/3)	しまり弱、粘性なし。

第133図　柏原遺跡第8地区　セクション図

調査の概要　対象地内に１ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めるとともに土層の観察を行った。

調査の結果　明確な遺構を認識することはできなかった。また、古墳時代の土器片が１点出土したものの、図示はできなかった。

第６地区で明らかとなったように、弥生時代終末期から古墳時代前期の高潮もしくは津波堆積物層（Ⅳ層）や古墳時代中期後半に富士山の側火山から噴出したと考えられる大淵スコリア層（Ⅲ層）の堆積を改めて確認した。加えて、地質調査の結果、新たに弥生時代後期ごろの災害イベントの結果と考えられる礫層（Ⅶ層）の存在が明らかとなった。現状では、高潮、津波両方の要因が考えられるが、どちらかに断定できる状況にはない。引き続き、検討を加える必要がある。

参考文献

藤村・小島 2013「第４章　柏原遺跡の調査　第３節　第６地区の調査成果」『富士市内遺跡発掘調査報告書　―平成 22･23 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集　富士市教育委員会

25．中桁・中ノ坪遺跡　第 10 地区

所　在　地　富士市伝法 1285 － 1

調査の原因　貸駐車場敷地造成

調 査 期 間　平成 26 年１月 28 日～１月 29 日

調 査 面 積　49㎡（対象面積　2,709㎡）

遺跡の概要　本章第２節「２．中桁・中ノ坪遺跡　第５地区」(p.7）参照。

調査の概要　対象地内に４ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　地表下 1.4m から竪穴建物跡（SB01 ～ 03）やピットが検出された。遺構は密集するわけではないが、敷地全体に存在するものと考えられる。７世紀の土師器や須恵器などが出土した 2Tr において、円筒埴輪と考えられる破片が出土した。

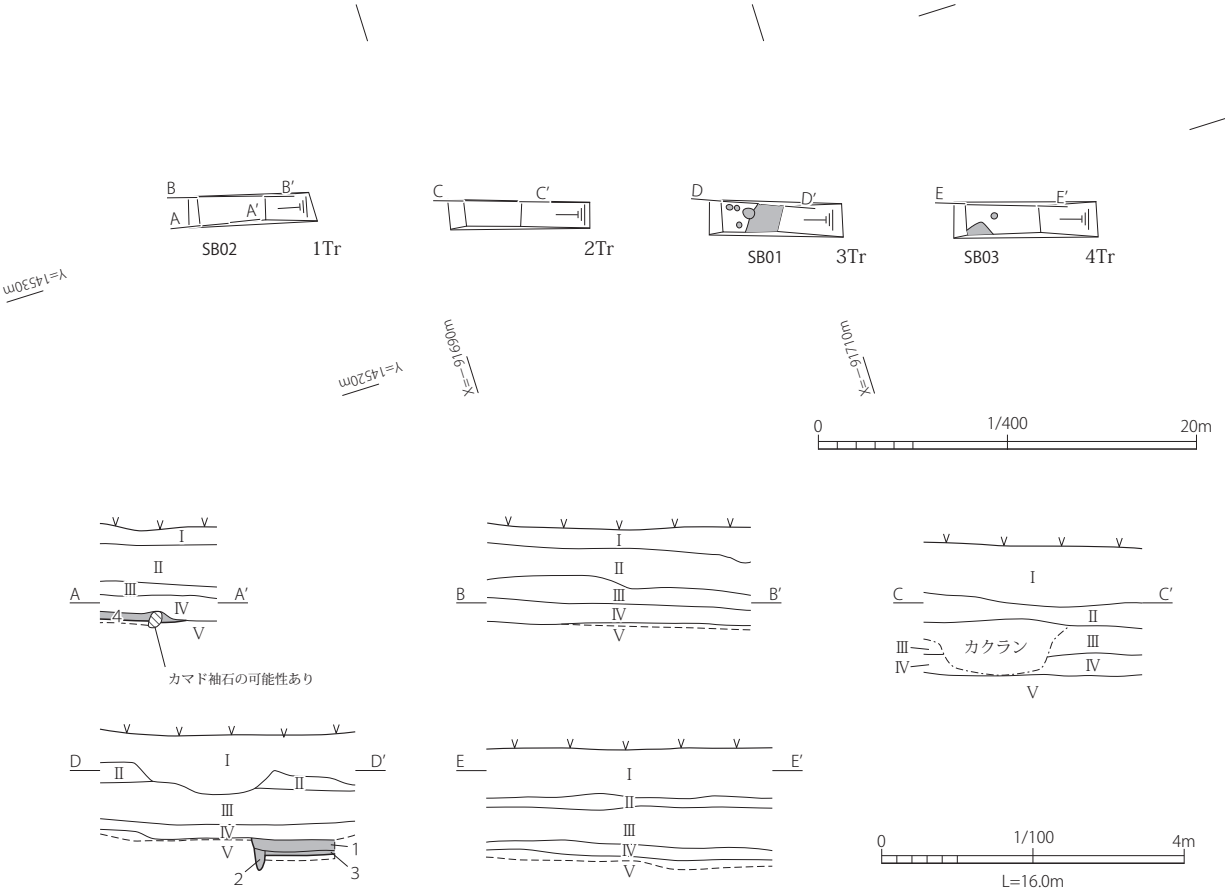
出 土 遺 物　土師器・須恵器・埴輪片が出土し、２点を図示した（第 137 図）。

１は土師器の壺と考える。器壁が厚く、小さな平底の底部と、縦長と推定される胴部の全体をナデ調整している。類例が無く、時期は不明である。

２は円筒埴輪の胴部片である。磨滅が激しいが、外面には縦方向のハケ目調整が施されている。調査地周辺に古墳の存在は確認されておらず、何故この場所から埴輪が出土したのか、明らかでない。

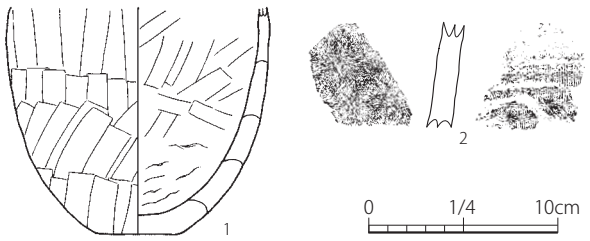
第 134 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　位置図

第 135 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　トレンチ配置図



Ⅰ	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりなし、粘性なし。ザルボウ等含む。	造成土
Ⅱ	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子中量含む。	水田耕作土
Ⅲ	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア少量、遺物少量含む。	自然堆積層
Ⅳ	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア・ローム粒子中量含む。	包含層、旧表土
Ⅴ	明黄褐色	しまりあり、粘性なし。	地山
1	黒色（7.5YR2/1）	しまりあり、粘性なし。赤色粒子中量含む。Ⅳ層よりしまりが強い。	SB01 覆土
2	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック少量含む。	SB01 壁溝覆土
3	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB01 掘方埋土
4	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりあり、粘性ややあり。粘土を染み状に含む。	SB02 カマド付近覆土

第 136 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　トレンチ平面図・セクション図



第 137 図　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　出土遺物実測図

第 17 表　中桁・中ノ坪遺跡第 10 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 137 図－ 1	R002	p.108	2Tr	土師器	壺	-	(12.0)	(4.4)	良好	45%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐）	5YR6/6（橙）
第 137 図－ 2	R002	p.108	2Tr	埴輪		-	(5.4)	-	良好	-		10YR7/4（にぶい黄橙）	7.5YR8/6（浅黄橙）

26. 祢宜ノ前遺跡　第５地区

所　在　地　富士市比奈 1576 － 12

調査の原因　不動産売買

調 査 期 間　平成 26 年２月５日～２月６日

調 査 面 積　17㎡（対象面積　236㎡）

遺跡の概要　祢宜ノ前遺跡は富士市比奈に所在する古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である。富士山麓と愛鷹山麓の境を流れる赤淵川の西岸、富士山南麓に延びる低丘陵の先端の標高 25m 程の斜面に立地し、その範囲は南北約 330m、東西約 210m を測る。

平成 17 ～ 18 年度におこなわれた第１地区の本発掘調査では、古墳時代前期と奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出されており、集落の営みが一旦断絶した様子が確認されている（富士市教育委員会 2008）。

調査の概要　対象地内に１箇所のトレンチを設定し、遺構遺物の検出に努めた。

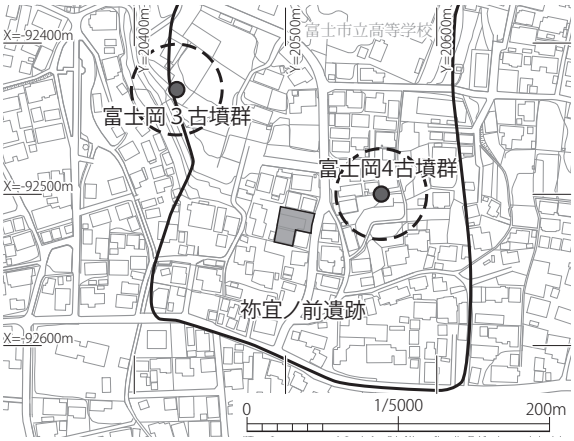
調査の結果　弥生時代末～古墳時代初頭の土師器の散布は認められたものの、遺構は検出できなかった。

調査地は近代まで畑地として耕作が行われており、トレンチ北側では遺物包含層と推定される黒褐色土の堆積が確認できたものの、全体的に近代以降の撹乱を受けていると考えられる。

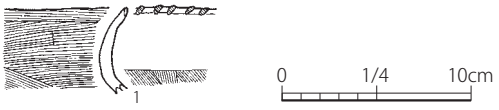
出 土 遺 物　弥生土器１点を図示した（第 139 図）。甕の口縁部片で、頸部は緩やかに屈曲し口縁部は直立気味でやや外反する。口縁端部には５㎜ほどの間隔でキザミが施されている。外面は縦ハケ目調整され、口縁部ではそれをナデ消している。口縁部内面は横ハケ目調整される。弥生時代終末期から古墳時代前期に位置づけられる。

参考文献

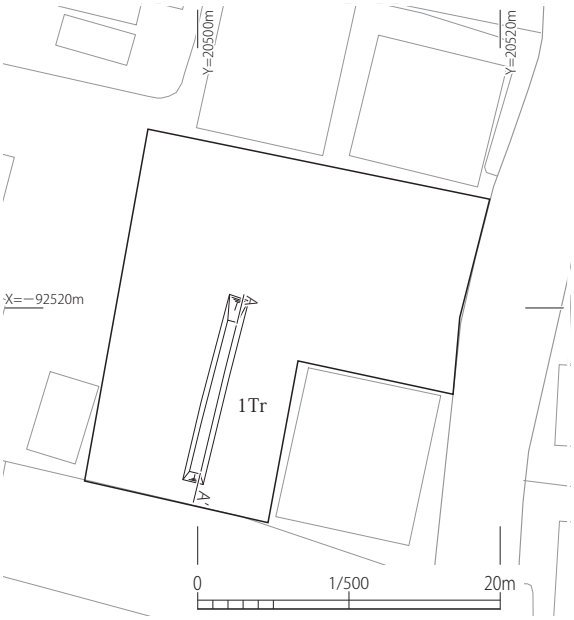
富士市教育委員会 2008『祢宜ノ前遺跡　市立吉原商業高等学校屋内運動場改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』



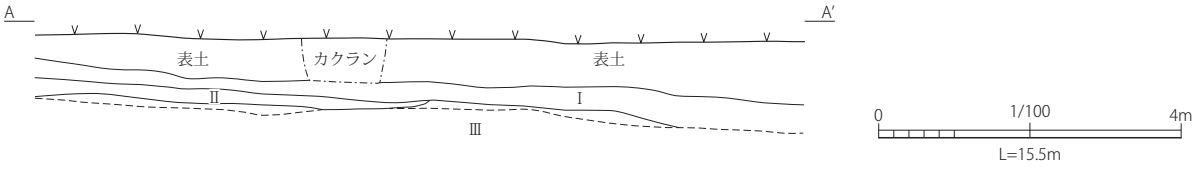
第 138 図　祢宜ノ前遺跡第５地区　位置図



第 139 図　祢宜ノ前遺跡第５地区　出土遺物実測図



第 140 図　祢宜ノ前遺跡第５地区　トレンチ配置図



Ⅰ　にぶい黄褐色土　（10YR 4/3）　しまりやや弱。粘性弱。径２～３㎝の小礫多量、炭化物多量。　近世～中世の耕作土

Ⅱ　黒褐色土　（10YR 3/1）　しまりやや弱。粘性強。橙色粒子径２～５㎜少量、炭化物少量。

Ⅲ　黄褐色土　（10YR 5/6）　しまり強。粘性強。白色粒子微量。ローム質。　地山

第 141 図　祢宜ノ前遺跡第５地区　セクション図

第 18 表　祢宜ノ前遺跡第５地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 139 図－１	R001	p.106	1Tr	土師器	甕	-	(4.5)	-	良好	-	5YR6/6（橙）	5YR5/4（にぶい赤褐）

27. 三日市廃寺跡 （東平遺跡 第 66 地区）

所 在 地　富士市浅間上町 2978 － 3

調査の原因　宅地造成

調 査 期 間　平成 26 年 2 月 12 日～ 2 月 14 日

調 査 面 積　97㎡（対象面積　590㎡）

遺跡の概要　本章第 2 節「6. 三日市廃寺跡（東平遺跡第 59 地区－ 1 次調査）」(p.18）参照。

調査の概要　対象地内に 2 箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　奈良・平安時代のカマドをもつ建物と考えられる竪穴建物跡 3 軒（SB01 ～ 03)、瓦を伴う溝状遺構（SD02・03)、土坑（SK08）を検出した。

調査地の西に隣接する第 55 地区では平成 22 年度の確認調査により瓦が集中する溝状遺構を確認しており（佐藤 2013)、位置的には今回の溝状遺構（SD01）と同一遺構と推測される。

また、調査地の 100 m南西に位置する東平遺跡第 16 地区では、掘立柱建物跡とその周囲を区画するように走る溝状遺構を確認し（富士市教育委員会 2002)、古代寺院跡の遺構の一部と推定されている。今回の溝状遺構も、同様な性格の遺構の可能性が高い。

出 土 遺 物　土師器・須恵器・瓦が出土し、土器 8 点、瓦 9 点を図示した（第 145 図・第 146 図)。

1 は 2TrSB02 から出土した須恵器坏身である。口縁部は短く内傾し、体部下半にはヘラケズリ調整が施される。7 世紀前半ごろ（遠江Ⅲ期末葉～Ⅳ期前葉）に位置づけられるか。

2 も 2TrSB02 出土の土師器駿東型甕の口縁部片である。口唇部内外面にわずかに肥厚が認められる。7 世紀代に位置づけられるか。

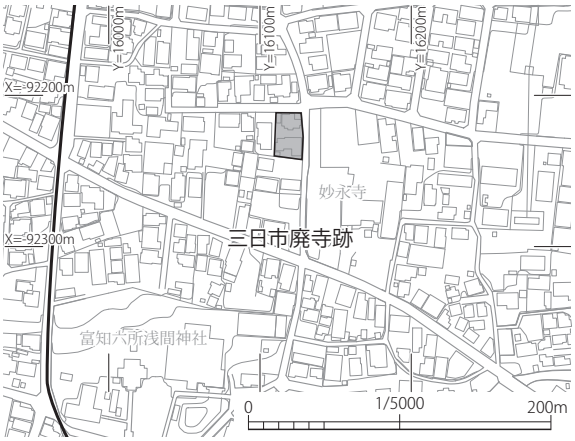
3 は 1TrSX01 出土の土師器小型甕である。肩部はあまり張らず、口縁部は内湾し内側にやや肥厚させて端部を平らに整えている。体部内面はヨコハケ目調整、外面には斜方向のヘラナデが施される。

4 は 2TrSD02 から出土した土師器坏の口縁部片である。須恵器坏蓋を模倣したもので、体部と口縁部の境には稜をもち、口縁部は外反して端部がやや内湾する。内外面をヘラミガキ調整後、赤彩が施されている。

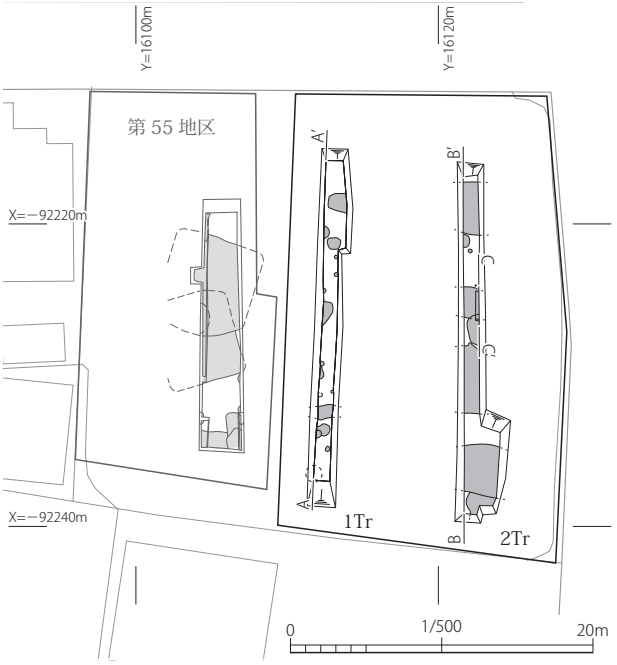
5 は 2TrSD03 から出土した土師器駿東型坏である。底部外面は全面ヘラケズリ調整され、体部内面にはヨコヘラミガキが施される。6 も SD03 出土の土師器坏の破片である。内面にはヨコヘラミガキ調整が施される。体部と口縁部の境にはナデによりわずかに稜をつくり、口縁部はやや外反して開く。7 も SD03 から出土した須恵器坏身片である。口縁部と体部の境にはわずかな稜をもち、口縁部はナデにより外反させている。

8 の土師器坏底部片は、底部外面はヘラミガキ調整、体部外面下部は斜位のヘラケズリ、体部内面には放射状ヘラミガキが施される。9 世紀代の甲斐型坏と位置づけられる。

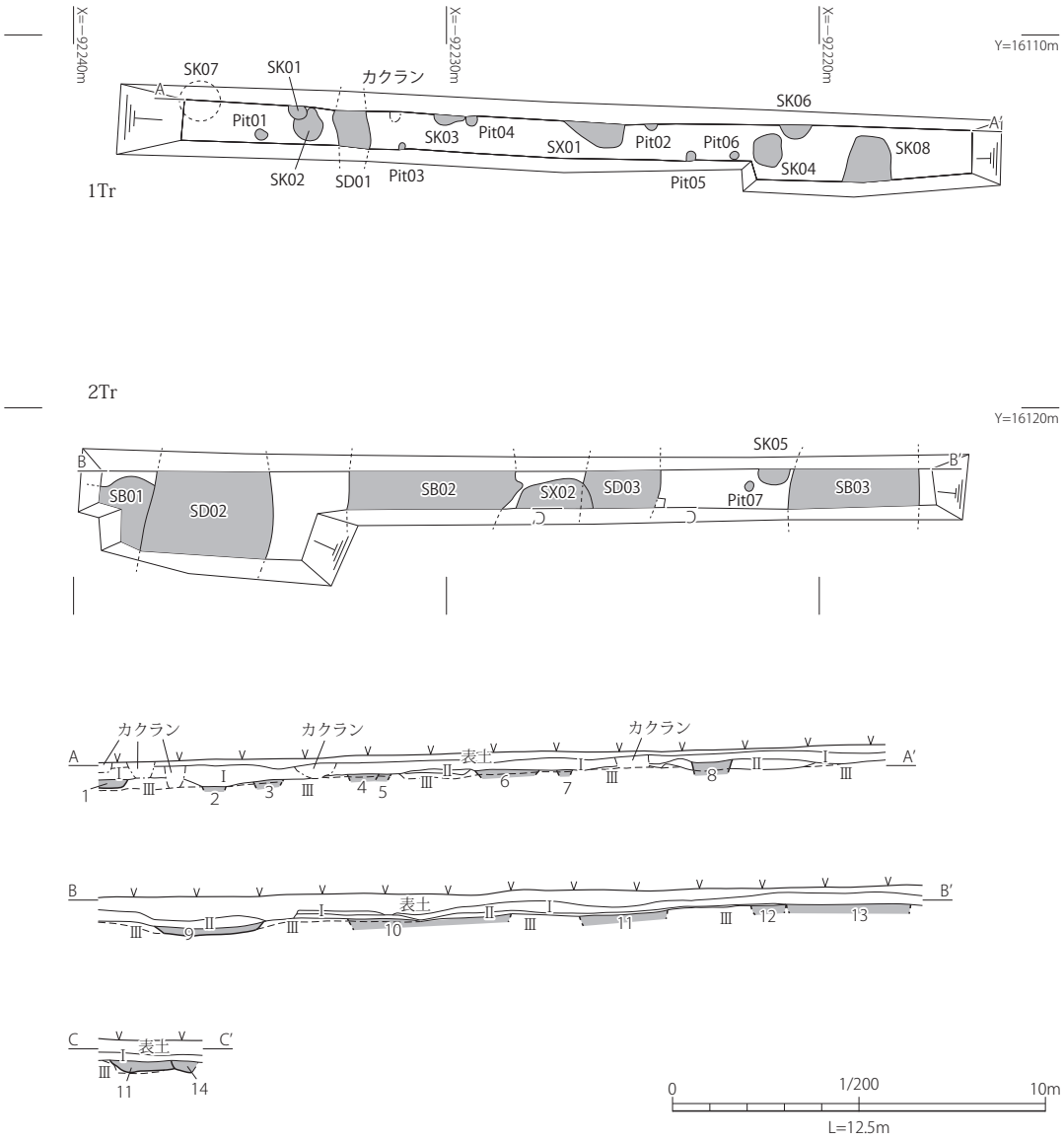
9・10 は丸瓦で、凸面はナデ調整し、凹面には布目痕が残る。いずれも端部は端面と凹面側に面をもち、ケ



第 142 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区） 位置図



第 143 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区） トレンチ配置図



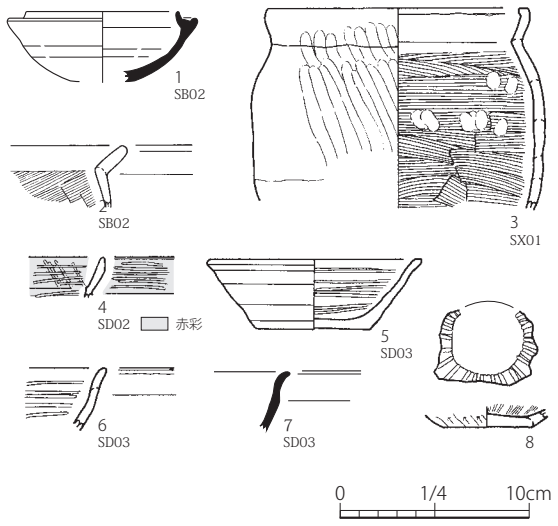
Ⅰ　暗褐色土（7.5YR 3/4）しまりやや弱。粘性やや強。礫（径 5 ～ 10 ㎜）少量、橙色粒子微量。
Ⅱ　黒褐色　（7.5YR 3/2）しまりやや強。粘性弱。礫（径 5 ～ 15 ㎜）多量。
Ⅲ　褐色　　（7.5YR 4/6）しまり強。粘性なし。砂礫（大淵扇状地堆積物）。

1	暗褐色土（10YR3/4）しまりやや強、粘性やや強。礫（径 5 ㎜）中量。	SK07 覆土
2	褐色土　（10YR4/4）しまりやや弱、粘性強。礫（径 5 ～ 10 ㎜）中量。	SK01 覆土
3	暗褐色土（10YR3/4）しまりやや弱、粘性なし。礫（径 10 ～ 30 ㎜）中量。Ⅲ層の褐色ブロック多量。瓦出土。	SD01 覆土
4	黒褐色土（10YR2/3）しまり強、粘性やや強。礫（径 5 ～ 10 ㎜）中量、橙色粒子微量。	SK03 覆土
5	黒褐色土（10YR3/2）しまりやや弱、粘性やや強。礫（径 5 ㎜）少量、橙色粒子微量。	Pit04 覆土
6	黒褐色土（7.5YR3/1）しまりやや弱、粘性やや強。礫（径 5 ㎜）中量、橙色粒子中量。	SX01 覆土
7	黒褐色土（7.5YR3/1）しまりやや弱、粘性やや強。礫（径 5 ㎜）中量、橙色粒子中量。	Pit02 覆土
8	暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱、粘性やや弱。礫（径 10 ～ 15 ㎜）中量。	SK06 覆土
9	黒褐色土（10YR3/2）しまりやや弱、粘性やや強。礫（径 5 ㎜）中量、褐色粒子少量。瓦出土。	SD02 覆土
10	暗褐色土（10YR3/4）しまりやや弱、粘性やや強。礫（径 3 ～ 5 ㎜）中量、褐色粒子多量。	SB02 覆土
11	暗褐色土（10YR3/4）しまりやや弱、粘性なし。礫（径 5 ～ 10 ㎜）多量。Ⅲ層の褐色ブロック多量。瓦出土。	SD03 覆土
12	黒褐色土（10YR3/2）しまりやや弱、粘性なし。礫（径 5 ㎜）中量、Ⅲ層の褐色ブロック少量。	SK05 覆土
13	黒褐色土（7.5YR3/2）しまりやや弱、粘性弱。礫（径 5 ～ 10 ㎜）少量、橙色粒子中量、炭化物微量。	SB03 覆土
14	黒褐色土（10YR3/2）しまりやや弱、粘性やや弱。礫（径 5 ～ 10 ㎜）中量。	SX02 覆土

第 144 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）　トレンチ平面図・セクション図

ズリ、あるいはナデ調整されている。

11 ～ 17 は平瓦で、凸面には斜格子の叩き目、凹面には桶巻きの痕跡と布目痕が残る。11 は 1TrSK08 から出土した。側面は端面と凹面側、凸面側の 3 ヶ所にケズリ調整が施されている。また、上下方向でやや厚みを増す方が、凸面の斜格子叩き目が水平方向に施されており、凹凸の両面にケズリ調整が認められるなど、製作時に下方にあった部分と考えられる。2TrSB01 から出土した 12 と、1TrSX01 から出土した 16 は、側端の端面と凸面、凹面の 3 ヶ所をケズリ調整している。13 は 1TrSK08 から出土し、上端の端面にケズリ調整が施されている。14 は 2TrSD02 から出土し、下端部の凸面、凹面、端面の 3 ヶ所にケズリ調整が施されている。15 は凸面の斜格子叩き目が水平方向に施されており、製作時にこの部分が下端にあったことが推測される。また凹面の布目痕には布端の様子を見て取ることができ、布の重なり部分であったことがわかる。2TrSD03 から出土した 17 も、斜格子叩き目が水平方向に施されており、製作時にこちらが下方であったと考えられる。下端は凹面、端面、凸面の 3 ヶ所をケズリ調整している。凹面側には布を重ねて縫い合わせた痕跡をみてとることができる。



第 145 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）　出土遺物実測図①

参考文献

佐藤祐樹 2013「第 2 章　東平遺跡・三日市廃寺跡の調査　第 3 節　第 55 地区の調査成果」『富士市内遺跡発掘調査報告書　―平成 22・23 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集　富士市教育委員会

富士市教育委員会 2002『東平遺跡　第 16 地区（三日市廃寺跡），第 27 地区発掘調査報告書』

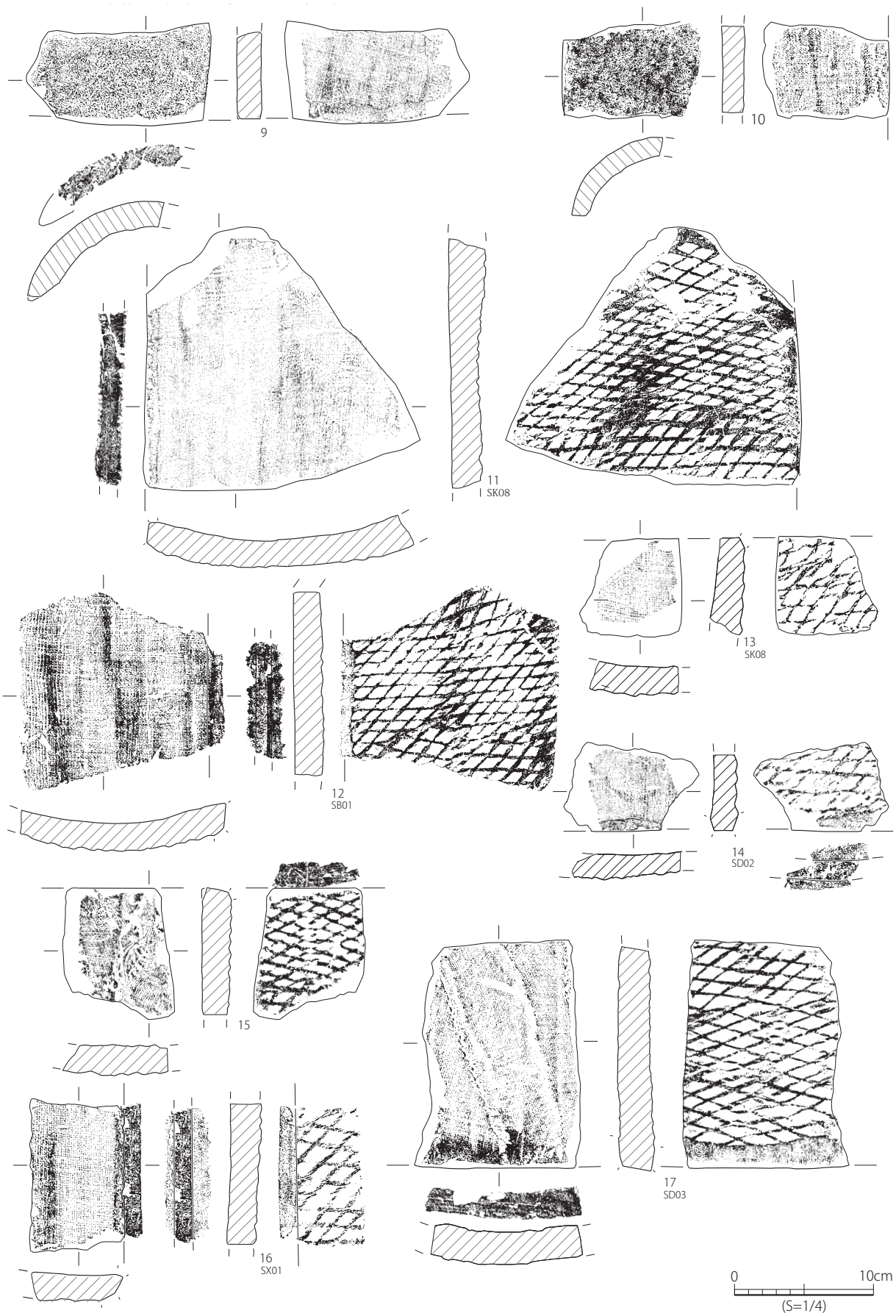
第 19 表　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）　出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 145 図－ 1	R032	p.109	SB02	須恵器	坏身	(8.0)	(3.8)	-	良好	40%	反転復元	5YR7/4（にぶい橙）	5YR8/4（淡橙）
第 145 図－ 2	R034	p.109	SB02	土師器	甕	-	(3.6)	-	良好	-		2.5YR4/8（赤褐）	2.5YR4/8（赤褐）
第 145 図－ 3	R017	p.109	SX01	土師器	甕	(13.8)	(10.5)	-	良好	30%	反転復元	10YR4/3（にぶい黄褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 145 図－ 4	R027	p.109	SD02	土師器	坏	-	(2.0)	-	良好	-		2.5YR4/6（赤褐）	2.5YR4/6（赤褐）
第 145 図－ 5	R045	p.109	SD03	土師器	坏	(11.2)	(3.7)	(6.0)	良好	35%	反転復元	5YR4/6（赤褐）	7.5YR4/4（褐）
第 145 図－ 6	R010	p.109	SD03	土師器	坏	-	(3.3)	-	良好	-		2.5YR5/6（明赤褐）	2.5YR5/6（明赤褐）
第 145 図－ 7	R010	p.109	SD03	須恵器	坏	-	(3.2)	-	良好	-		2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y7/1（灰白）
第 145 図－ 8	R046	p.109		土師器	坏	-	(0.9)	(4.6)	良好	85%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐）	5YR6/6（橙）

・瓦

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 146 図－ 9	R046	p.110		丸瓦	6.1	12.2	1.8	262.01
第 146 図－ 10	R047	p.110		丸瓦	6.8	9.5	1.6	161.27
第 146 図－ 11	R011	p.110	SK08	平瓦	17.8	18.7	2.0	945.90
第 146 図－ 12	R023	p.110	SB01	平瓦	13.2	14.5	2.0	585.61
第 146 図－ 13	R013	p.110	SK08	平瓦	6.8	6.5	2.1	112.03
第 146 図－ 14	R025	p.110	SD02	平瓦	6.0	9.2	1.6	114.0
第 146 図－ 15	R009	p.110	表採	平瓦	9.2	7.5	2.0	191.7
第 146 図－ 16	R014	p.110	SX01	平瓦	10.5	6.2	2.1	195.04
第 146 図－ 17	R043	p.110	SD03	平瓦	15.8	10.5	2.2	680.38



第 146 図　三日市廃寺跡（東平遺跡第 66 地区）　出土遺物実測図②

28. 元吉原宿遺跡　第３地区

所　在　地　富士市今井２丁目60　外

調 査 原 因　宅地造成

調 査 期 間　平成26年２月20日～２月21日

調 査 面 積　6㎡（1,117㎡）

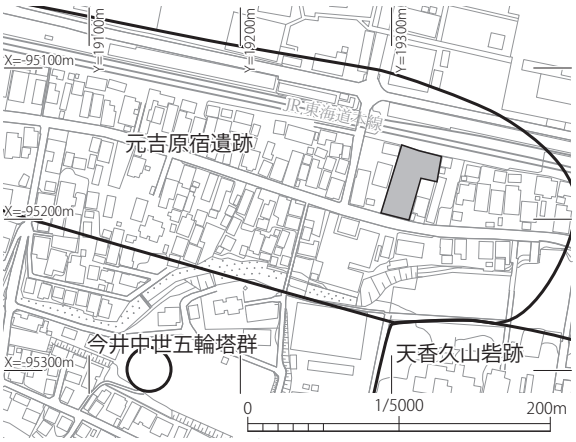
遺跡の概要　本節「10. 元吉原宿遺跡　第２地区」(p.52)参照。

調 査 概 要　対象地内に２ヶ所のトレンチを設定し、人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

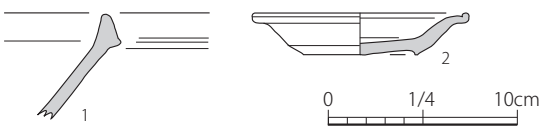
調査の結果　地表下1.5ｍで近世の陶器片を確認したが、それに伴う遺構は確認できなかった。土層堆積状況が砂層と安定層を交互に繰り返していることから、調査地は風砂、高波、あるいは津波等の自然災害の影響を受けているものと推測される。

出 土 遺 物　陶器２点を図示した。

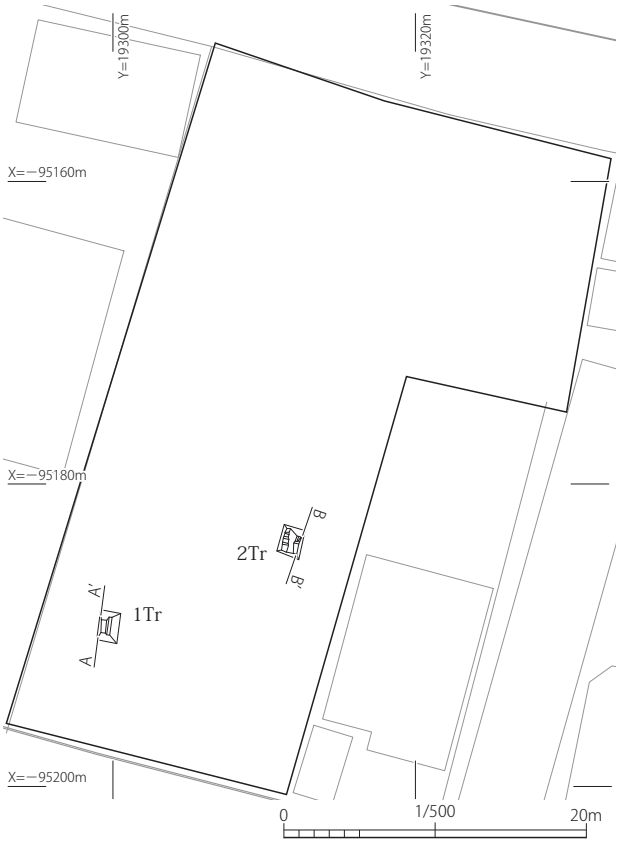
１は内外面に錆釉が施された擂鉢、２は高台内も含めて全面に緑釉が施された折縁皿である。いずれも大窯第２～３段階（16世紀半ば）の製品である。



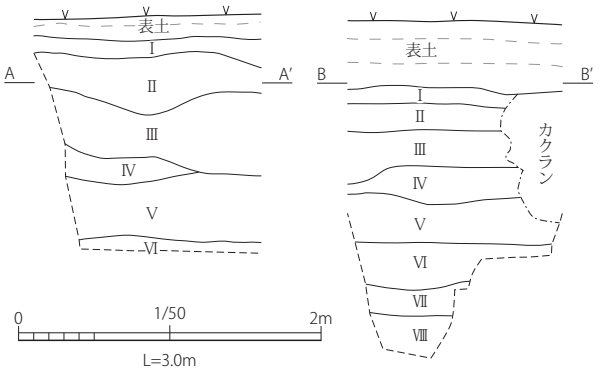
第147図　元吉原宿遺跡第３地区　位置図



第148図　元吉原宿遺跡第３地区　出土遺物実測図



第149図　元吉原宿遺跡第３地区　トレンチ配置図



Ⅰ　黒色土層（10YR2/1）　近代～現代客土
Ⅱ　暗褐色土層（10YR3/3）　近代～現代客土
Ⅲ　にぶい黄褐色土層（10YR5/3）　近代～現代客土
Ⅳ　褐灰色砂層（10YR4/1）径１㎜の砂層。粘性なし、しまり弱。
Ⅴ　にぶい黄褐色粘質土層（10YR5/4）砂多量。粘性強、しまりやや強。
Ⅵ　黒褐色粘質土層（10YR3/2）径２～５㎜の炭化物少量。粘性強、しまりやや強。近世遺物出土。　近世面
Ⅶ　黒色粘質土層（10YR2/1）シルト状。粘性強、しまり強。
Ⅷ　黄灰色砂層（2.5Y4/1）径１～３㎜の砂粒子。粘性なし、しまりやや弱。

第150図　元吉原宿遺跡第３地区　セクション図

第20表　元吉原宿遺跡第３地区　出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第148図－１	R002	p.108	1Tr	陶器	擂鉢	-	(5.6)	-	良好	-		5PB3/1（暗青灰）	5PB3/1（暗青灰）
第148図－２	R001	p.108	1Tr	陶器	折縁皿	(11.3)	(2.1)	(5.9)	良好	50%	反転復元	7.5Y7/3（浅黄）	7.5Y7/3（浅黄）

第４節　埋蔵文化財包蔵地の内容変更と新規登録

埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺跡種類等の内容については、確認調査や現地踏査により得られた情報に基づいて、随時、変更や新規登録が行われている。平成 23 年４月から平成 26 年 12 月の間に行われた、埋蔵文化財包蔵地の登録内容変更や新規登録について、ここで報告する。

なお、平成 20 年 11 月に旧富士川町と旧富士市が合併したため、平成 25 年３月に発行した『富士市埋蔵文化財分布地図』において、全ての包蔵地に新たな遺跡番号を付与している。表中に示す遺跡番号はこれに拠る。

・登録内容の変更

遺跡番号	遺跡名	変更内容	変更年月日
11	高徳坊（こうとくぼう）遺跡	包蔵地範囲を拡大（第 151 図参照）	H23.4.8
7	天間沢（てんまざわ）遺跡	包蔵地範囲を拡大（第 154 図参照）	H23.4.14
192	富士岡（ふじおかいち）１古墳群	包蔵地範囲を拡大（第 155 図参照）	H23.10.3
58	前の原（まえのはら）遺跡	包蔵地範囲を拡大（第 155 図参照） 遺跡の種類「散布地」→「集落跡・その他の墓」 遺跡の時代「縄文」→「縄文・弥生・古墳」	H24.8.24
78	境丸山（さかいまるやま）遺跡	周知の埋蔵文化財包蔵地名「丸山遺跡」から変更	H25.1.8
241	室野的場（むろのまとば）遺跡	周知の埋蔵文化財包蔵地名「的場遺跡」から変更	H25.1.8
178	比奈（ひない）１古墳群	包蔵地範囲を拡大（第 155 図参照）	H25.1.23
102	善得寺城跡（ぜんとくじじょうあと）・東泉院跡（とうせんいんあと）	周知の埋蔵文化財包蔵地名「善得寺城跡」から変更 遺跡の種類「城館跡」→「集落跡・城館跡・社寺跡」 遺跡の時代「中世」→「奈良・平安・中世・近世」	H25.6.5
44	滝下（たきした）遺跡	包蔵地範囲を縮小（第 152 図参照）	H26.5.29
127	川窪（かわくぼ）遺跡	包蔵地範囲を拡大（第 153 図参照）	H26.11.21

・新規登録古墳

古墳番号	古墳名	古墳群名	所在地	現状	登録年月日	挿図番号
638	花川戸（はなかわど）第４号墳	富士岡１古墳群	富士岡字一色	存在	H23.10.3	第 155 図
639	原田亀窪（はらだかめくぼ）第１号墳	比奈１古墳群	原田字亀窪	存在	H25.1.23	第 155 図
640	原田亀窪（はらだかめくぼ）第２号墳	比奈１古墳群	原田字亀窪	存在	H26.3.5	第 155 図

【地図の凡例】

1．範囲変更遺跡について、新規範囲を実線で、旧範囲を破線で示す。

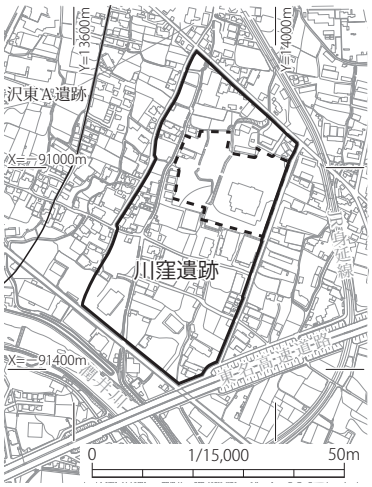
新規範囲と旧範囲が一致する部分については、実線のみで示す。

2．新規登録古墳の位置を★で示す。

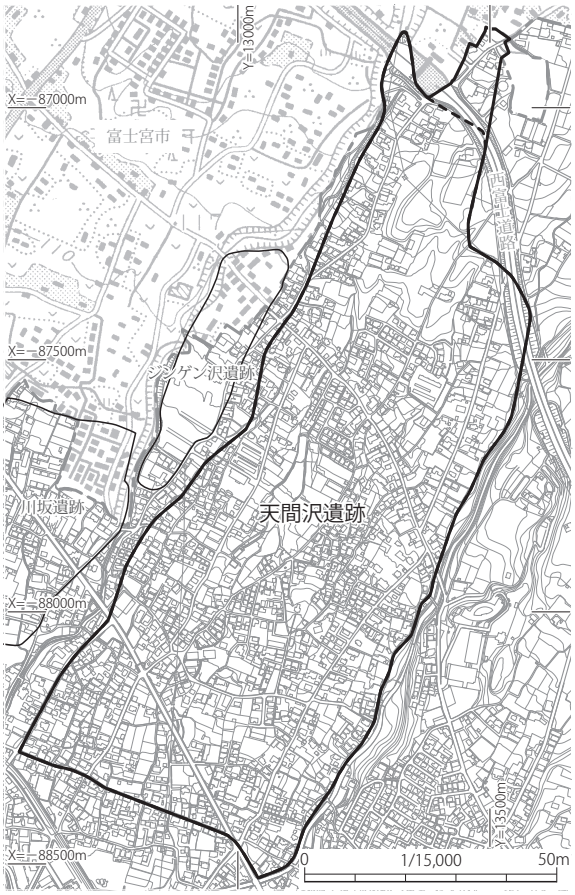
また、●は古墳が存在する（あるいはそう推定される）地点、○は現在は消滅しているがかつて古墳が存在した（あるいはそう推定される）地点を示している。

第 151 図　高徳坊遺跡

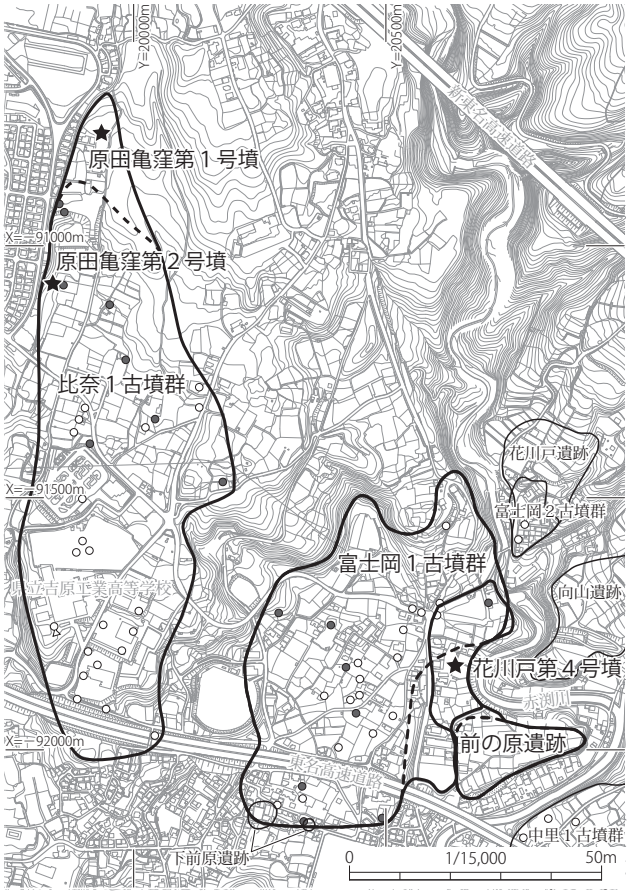
第 152 図　滝下遺跡



第 153 図　川窪遺跡



第 154 図　天間沢遺跡



第 155 図　比奈 1 古墳群、富士岡 1 古墳群、前の原遺跡

1．念信園遺跡　第1地区

1．2Tr 北壁セクション

2．3Tr 完掘（南東より）

2．中桁・中ノ坪遺跡　第5地区

1．1Tr 完掘（西から）

2．Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層平面検出状況（東から）

3．舟久保遺跡　第51地区

1．調査地全景（北西から）

2．SX01 完掘（北西から）

出土遺物

4．中島遺跡　第９地区

1．重機掘削状況

2．2・3Tr 完掘（東から）

3．2Tr（北東から）

4．SU01 検出状況（南西から）

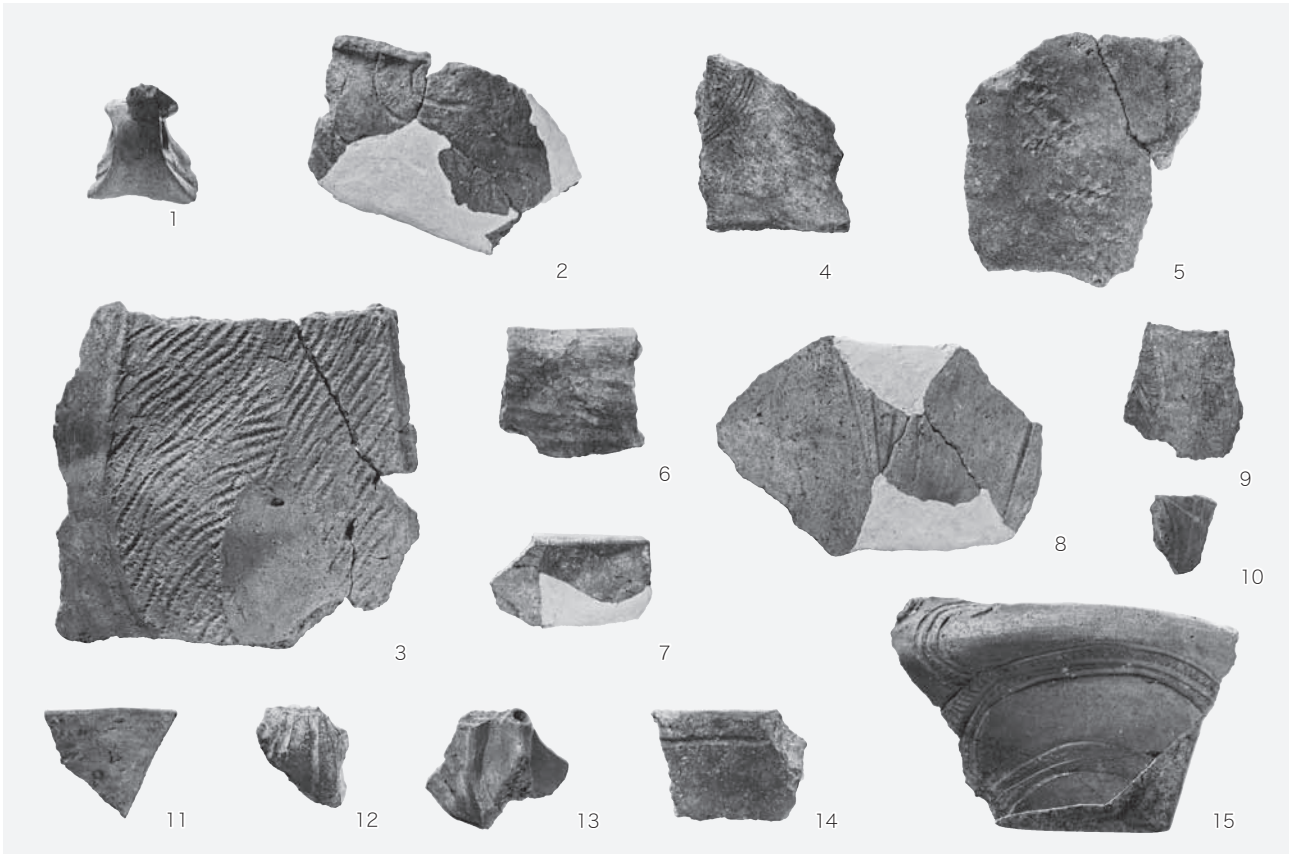
5．SX03（南西から）

6．SU01（南西から）

4．中島遺跡　第９地区

7．SU01 深鉢形土器検出状況遠景（西から）

8．SU01 深鉢形土器検出状況近景（西から）



出土遺物

4．中島遺跡　第９地区

出土遺物

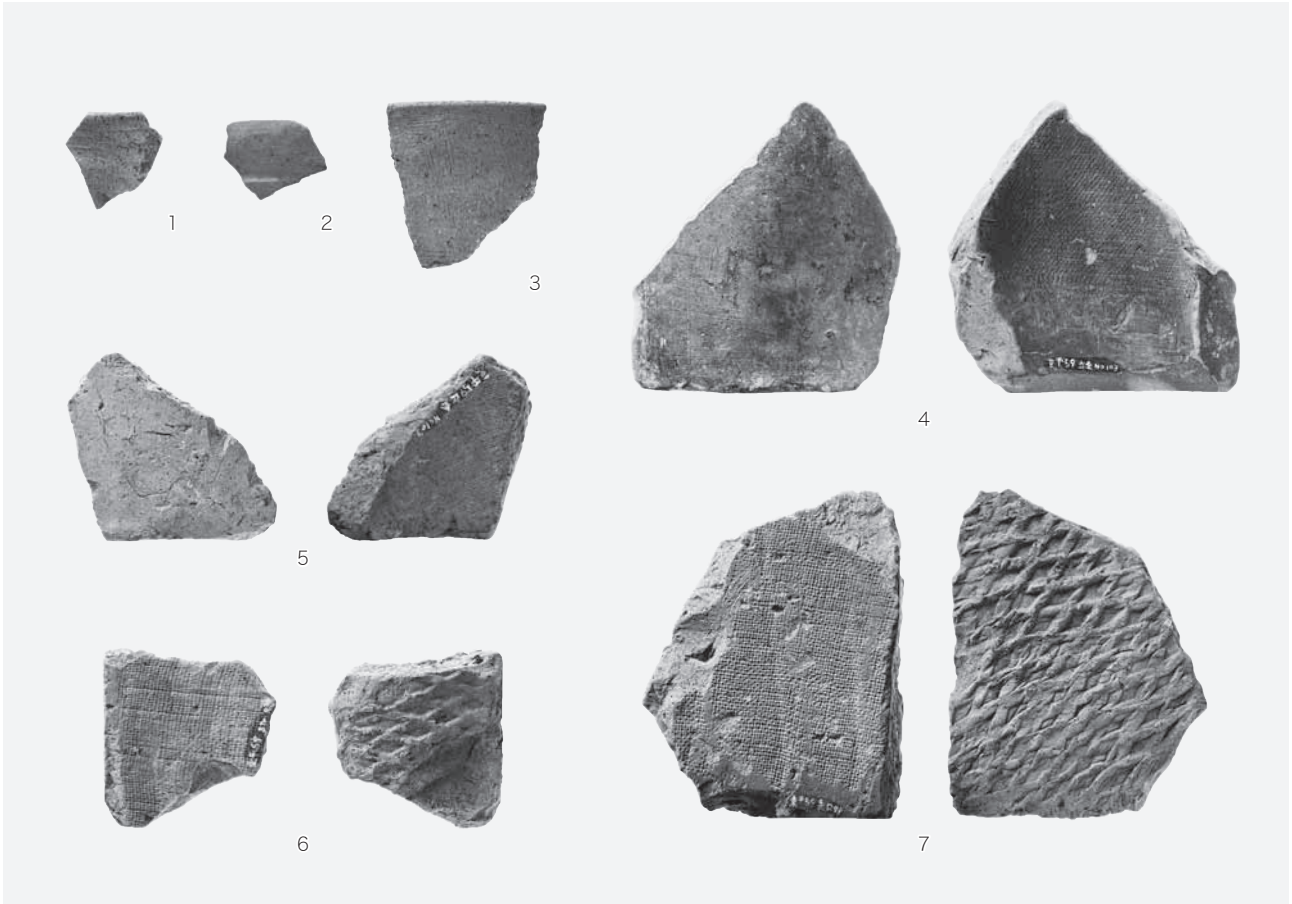
6.三日市廃寺跡（東平遺跡　第 59 地区－ 1 次調査）

1．調査地全景（南西から）

2．1TrSB01 検出状況（北から）

3．2TrSB02 検出状況（南東から）

4．6Tr 完掘（西から）



出土遺物

5．井倉遺跡　第1地区

1．1Tr 完掘（東から）

2．2Tr 北壁セクション（C－C ’）

8．沢東A遺跡　第13次調査地点

1．1Tr 完掘（北東から）

2．3TrSB 検出状況（西から）

3．2Tr 西壁セクション（A － A’）

出土遺物

7．善得寺城跡　第２地区

1．1Tr 完掘（東から）

2．2Tr 完掘（北東から）

9．富士岡１古墳群　第 13 地区

1．調査地全景（南から）

2．2Tr 完掘（南東から）

3．3Tr 完掘（西から）

4．6Tr 北壁セクション（南西から）

10．中吉原宿遺跡　第７地区

1．重機掘削

2．1Tr 土層堆積状況

11. 石坂７古墳群　第２地区

1. 1Tr 北壁セクション西端

2. 2Tr 完掘（北から）

3. 3Tr 北壁セクション

4. 7Tr 完掘（西から）

12. 厚原横道下遺跡　第４地区

1. 調査区全景（南から）

2. 1Tr 完掘（北から）

13. 大渕城跡　第１地区

1. 1Tr 西壁セクション

2. 1Tr 西壁セクション（東から）

14. 沖田遺跡　第 148 次調査地点

1. 調査地全景（南から）

2. 1Tr 北壁セクション（南から）

15. ジンゲン沢遺跡　第 4 地区

1. 2Tr 完掘（北から）

2. 2Tr 東壁北端セクション

3. SB01・SD02 セクション（F－F'、南から）

4. SB01・SD01・SD02 検出状況（南東から）

5. SB01 炉（南から）

出土遺物

16. 宇東川遺跡　R地区

1. 1Tr 完掘（南東から）

2. 1Tr 北壁セクション

17. 舟久保遺跡　第 52 地区

1. 調査地全景（西から）

2. 2Tr 完掘（南西から）

3. 3Tr 北壁セクション

4. 調査の様子

18. 神谷古墳群　第 9 地区

1. 1Tr 完掘（南西から）

2. 1Tr 北壁セクション

19．伝法１古墳群（東平遺跡　第 70 地区）

1．1Tr 北壁（南西から）

2．2Tr 完掘（東から）

3．3Tr 完掘（南東から）

20．中里３古墳群　第５地区

1．調査区と琴平古墳（南から）

2．1Tr 完掘（南西から）

3．3Tr 北壁セクション東端

21．沖田遺跡　工事立会

1．工事掘削溝南壁セクション東端

2．工事立会地全景（東から）

出土遺物

1．三日市廃寺跡（東平遺跡　第 61 地区）

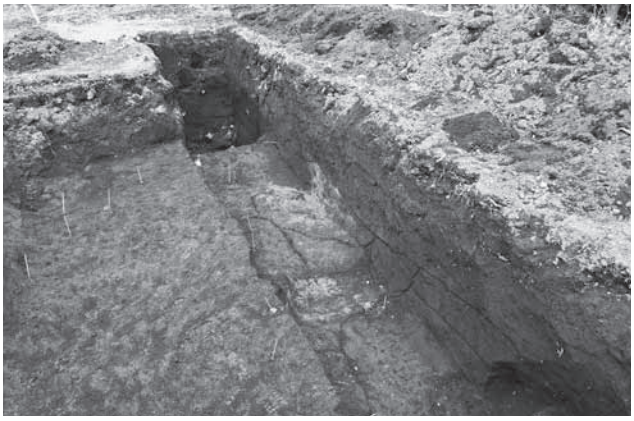
1．1Tr 完掘（西から）

2．1Tr 東端遺構検出状況（南西から）

出土遺物

2．善得寺城跡　第３地区

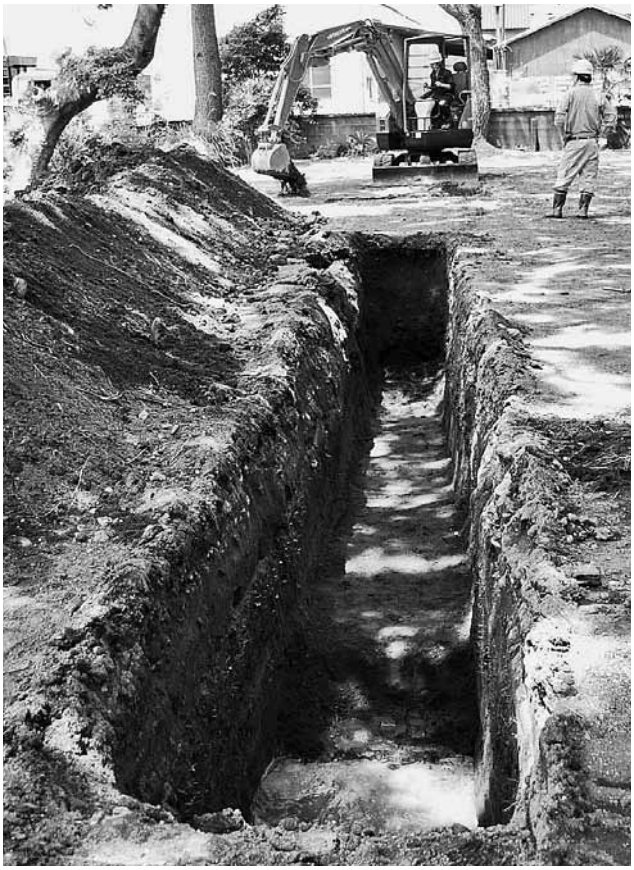
1．調査地全景（西から）



2．1TrSB01・SB02 検出（南東から）

3．2TrSB03・SK01 検出（南から）

3．村添遺跡　第1地区



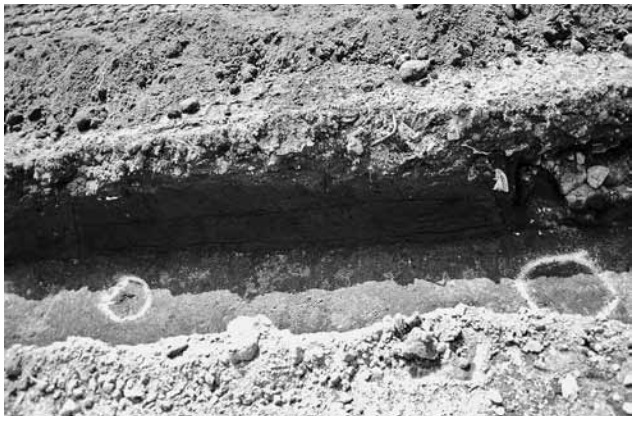
1．調査地全景（南東から）

2．1Tr（北東から）

3．2Tr 北壁

4．中桁・中ノ坪遺跡　第8地区

1．1Tr 完掘（南から）



2．Pit10・11 検出（東から）

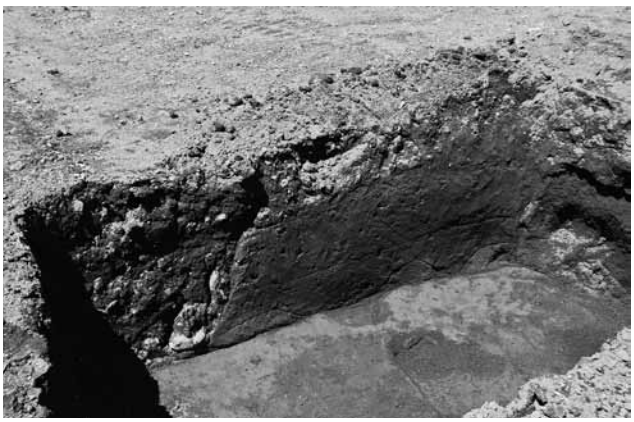
3．トレンチ西壁南端セクション

5．林泉寺砦跡　第1地区

1．1Tr 完掘（東から）

6．東平遺跡　第62地区

1．1Tr・2Tr 完掘全景（北西から）

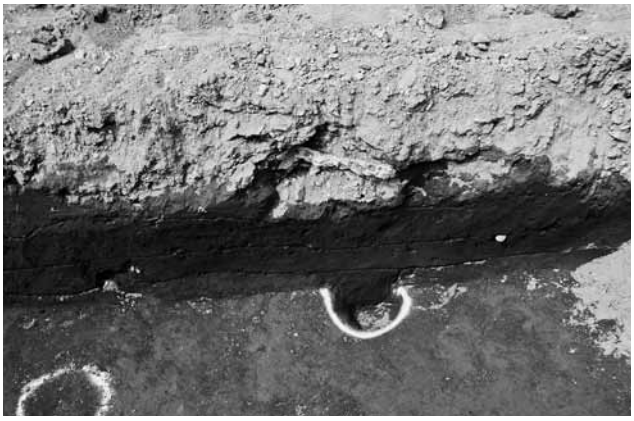


3．4Tr 西壁セクション（G－G ’）

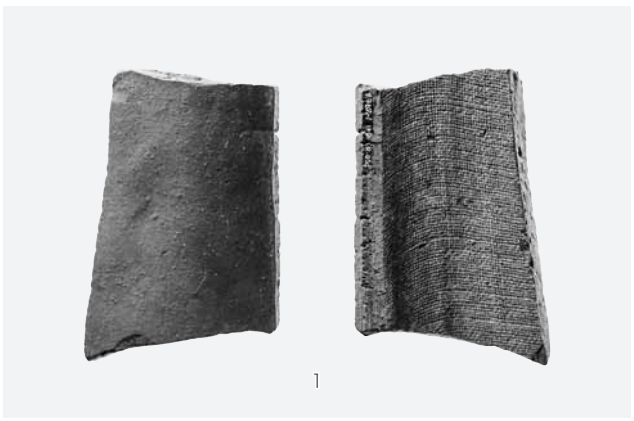
7．沖田遺跡　第149次調査地点

1．トレンチ掘削

2．トレンチ全景（北東から）



2．1Tr 北壁東端セクション（C－C ’）

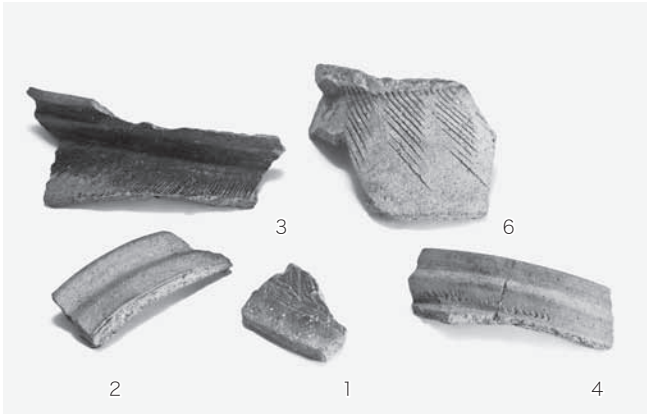


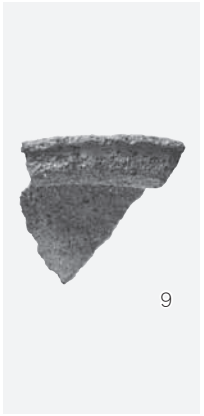
出土遺物

8．沖田遺跡　第 150 次調査地点

1．重機掘削

2．6Tr 全景





出土遺物

9．中野石切場遺跡　第 1 地区

1．1Tr 完掘（南から）

2．1Tr 南半（北西から）

3．2Tr 東端（南東から）

10. 元吉原宿遺跡　第２地区

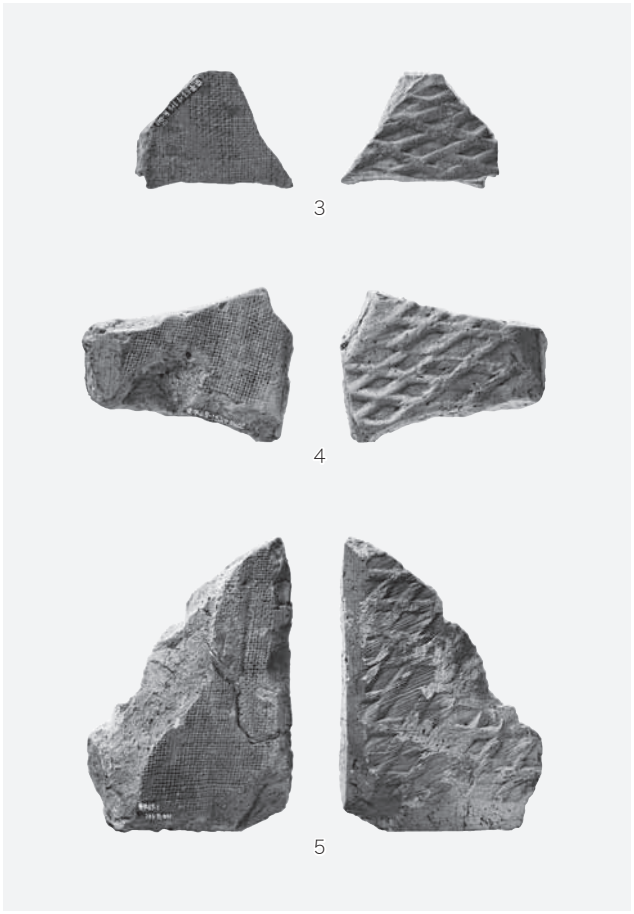
1. 1Tr 完掘（北から）

2. 1Tr 西壁セクション（東から）

11. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 63 地区）

1. 調査地全景（南から）

2. トレンチ西壁セクション（北東から）



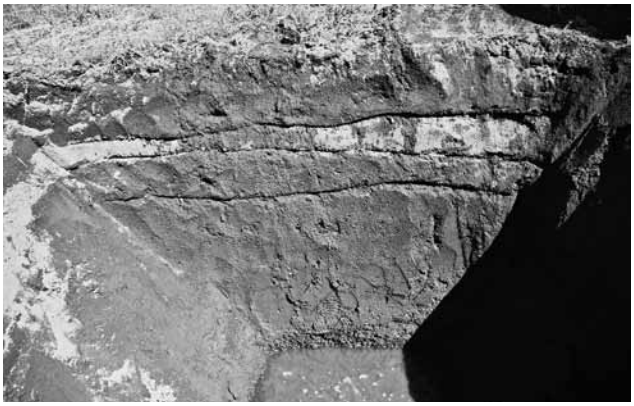
出土遺物

12. 沢東B遺跡　隣接地（第8地区）

1. 重機掘削

2. 1Tr 完掘（南西から）

13. 三新田遺跡　L地区



1. 1Tr 北壁セクション

2. 2Tr 完掘（南から）

3. 3Tr 完掘（北西から）

14. 丸崎遺跡　第2地区

1. 1Tr 完掘（南東から）

15. 滝下遺跡　K地区

1. 1Tr 完掘（北西から）

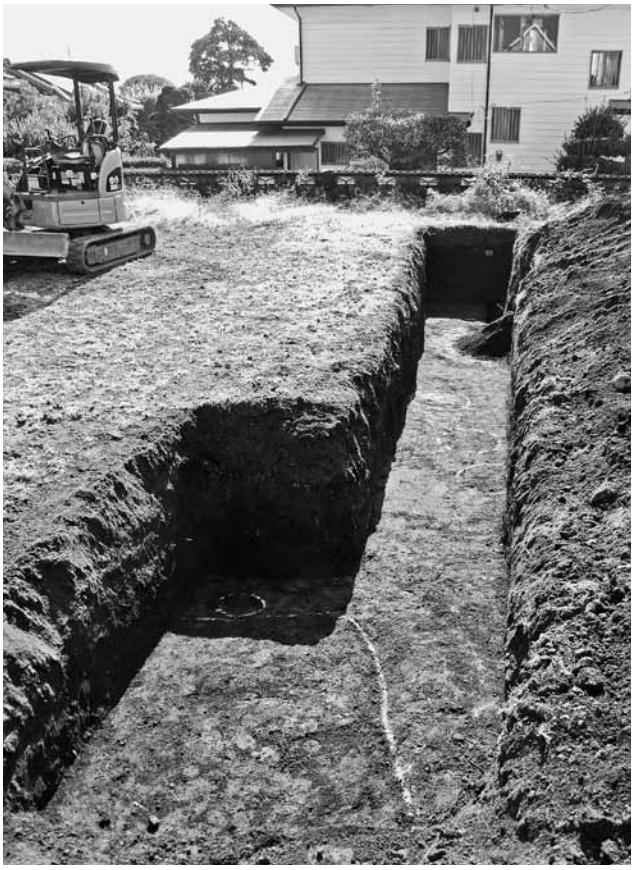
16．沖田遺跡　第 151 次調査地点

1．1Tr 東壁（西から）

20．滝下遺跡　L 地区

1．1Tr 完掘（南から）

17．中桁・中ノ坪遺跡　第 9 地区



1．1Tr 完掘（北から）

2．1TrSB01 西壁セクション南端（A－A ’）

3．1TrSB02 検出（西から）

18. 沢東B遺跡　第9地区

1. 1Tr 完掘（南西から）

2. 2Tr 北壁セクション（B－B'）

3. 3Tr 完掘（西から）

19. 東平遺跡　第67地区

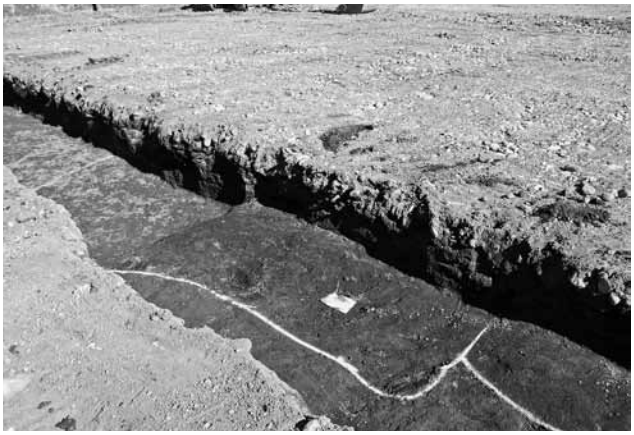
1. 3Tr 完掘（北から）

2. 5Tr 完掘

3. 6TrSX1（北東から）

21．東平遺跡　第 64 地区

1．1Tr 完掘（南から）



2．1TrSB2 検出状況（南西から）

3．4Tr 東半遺構検出（西から）

4．7Tr 遺構検出（東から）

5．7TrSB6 遺物出土状況

21. 東平遺跡　第 64 地区

6. 5Tr 全景（東から）

7. 10Tr・11Tr 全景（西から）

8. 10Tr 全景（西から）

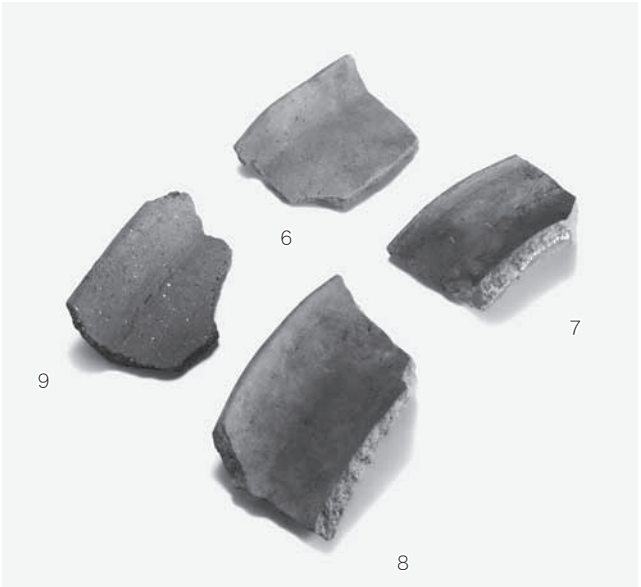
9. 11Tr 全景（東から）

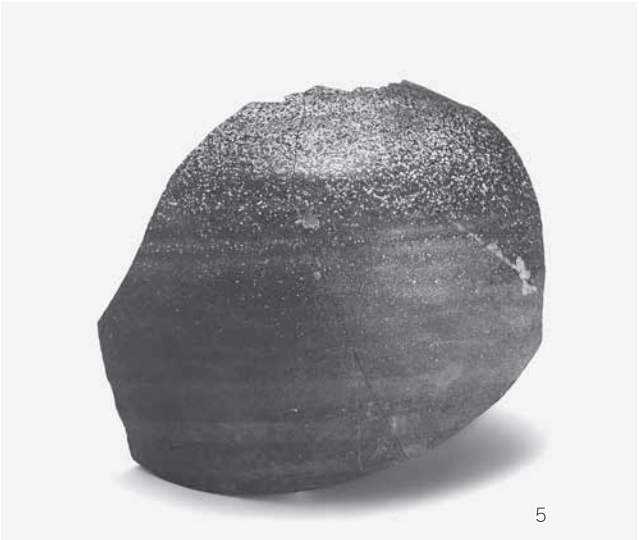
10. 13Tr 東半遺構検出（西から）

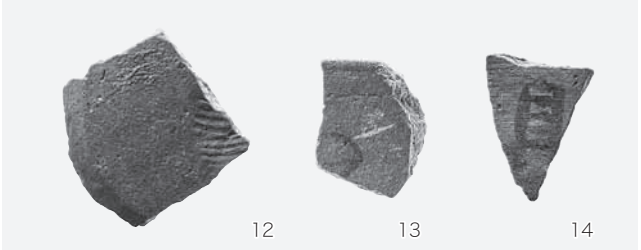
21．東平遺跡　第 64 地区

11．13Tr 完掘（南東より）

12．Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層平面検出状況（東から）







出土遺物

22. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 65 地区）

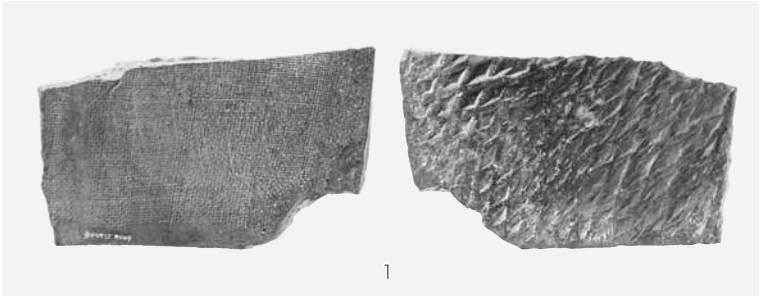
1. 1Tr 完掘（南西から）

2. 1Tr 北壁セクション

出土遺物

23. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 59 地区－ 2 次調査）

1. 1Tr 完掘（西から）



出土遺物

26. 祢宜ノ前遺跡　第 5 地区

1. 1Tr 完掘（北から）

出土遺物

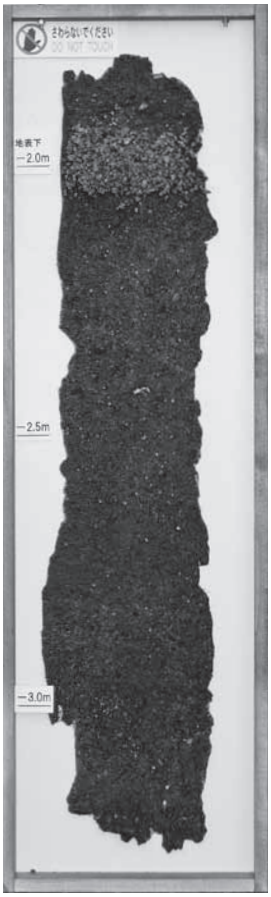
24. 柏原遺跡　第８地区

1. 1Tr 完掘（北から）

2. 1Tr 土層堆積状況

3. 地質調査の様子

4. 土層の剥ぎ取り作業

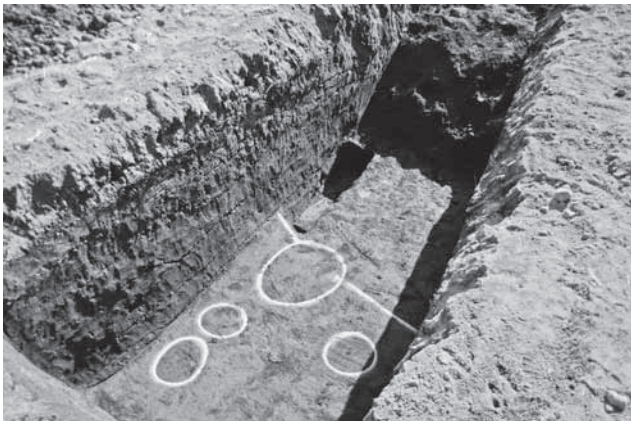


5. 土層サンプル

25. 中桁・中ノ坪遺跡　第 10 地区

1. 調査地全景（南から）

2. 4Tr 遺構検出（北西から）

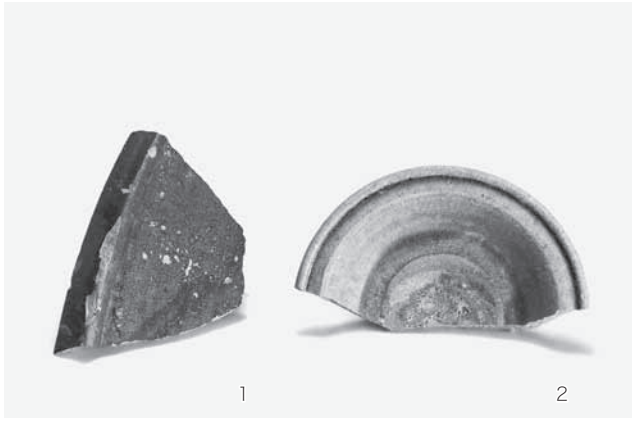


3. 3Tr 遺構検出（北西から）

出土遺物

28. 元吉原宿遺跡　第 3 地区

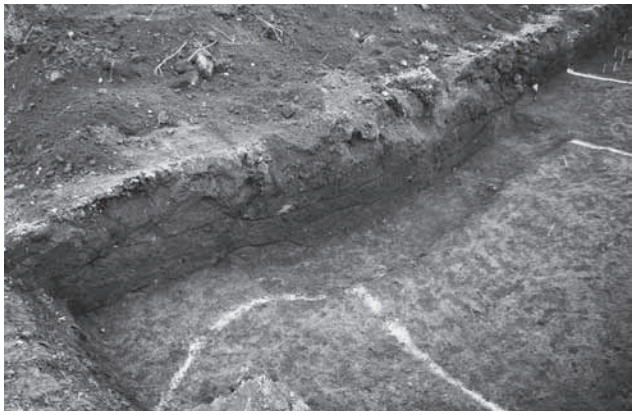
1. 2Tr 完掘（南西から）



出土遺物

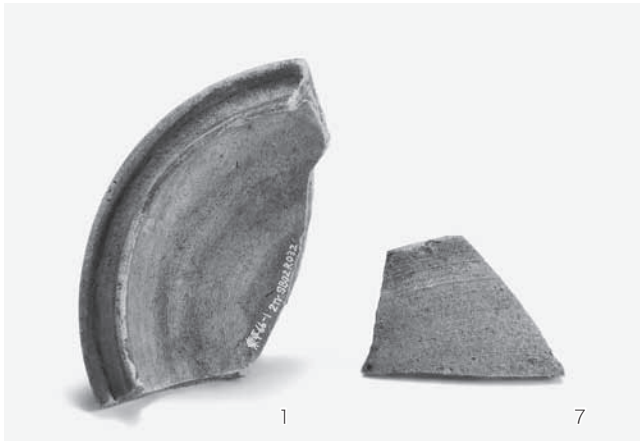
27. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 66 地区）

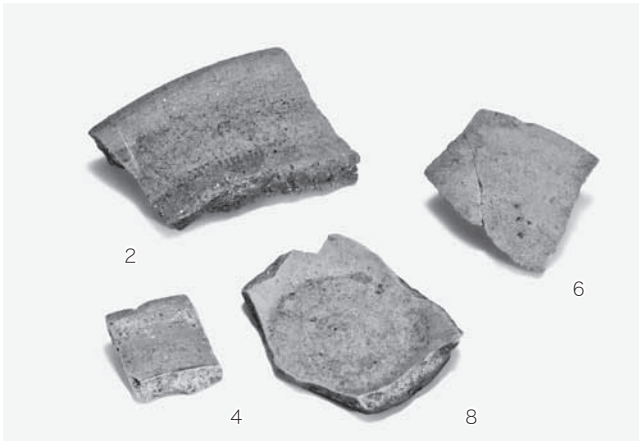
1. 1Tr 全景（南東から）



2. 2Tr 西壁セクション（南端）

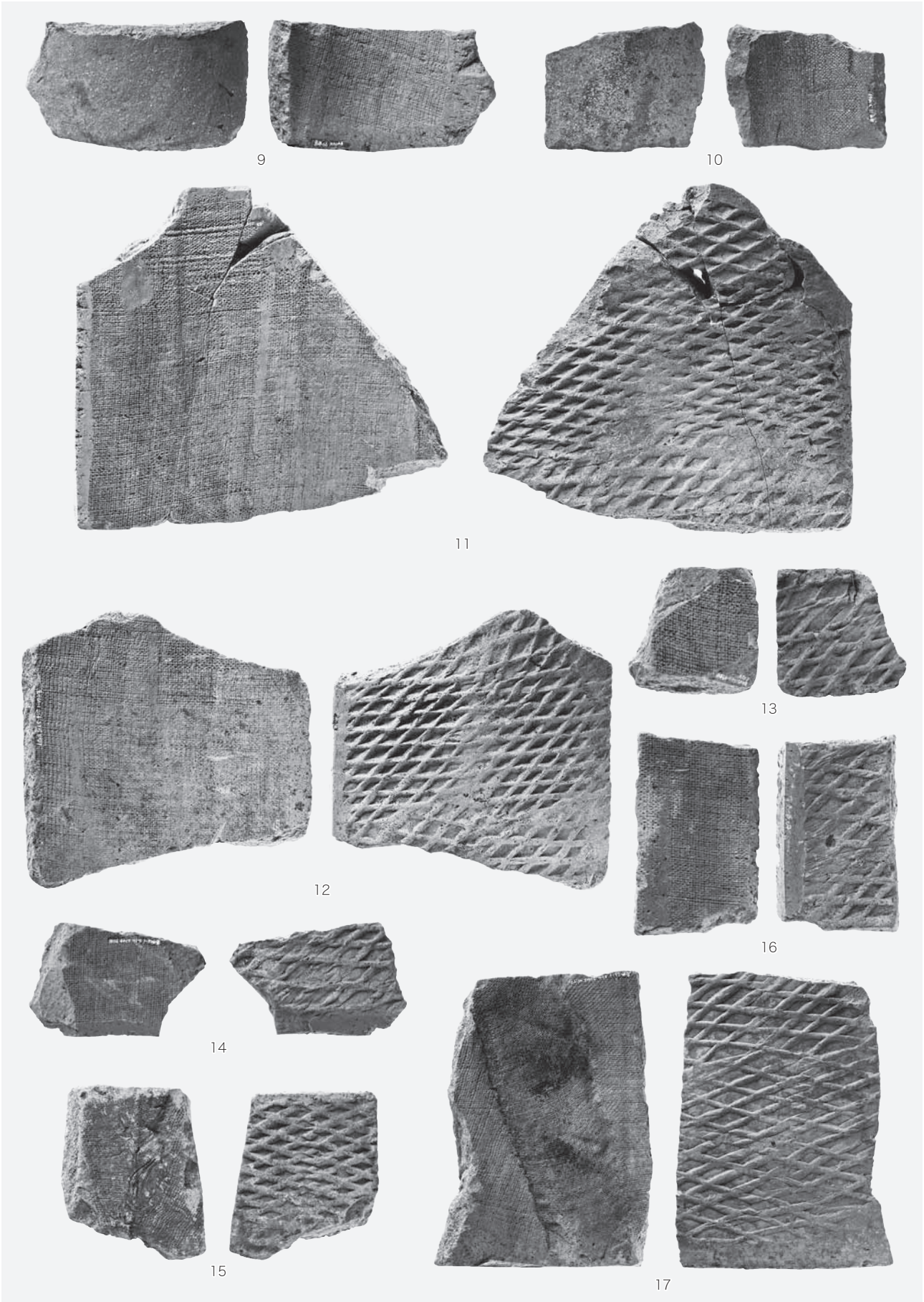
3. 2Tr 全景（北から）





出土遺物

27. 三日市廃寺跡（東平遺跡　第 66 地区）



出土遺物

第２章　天間沢遺跡の調査

第１節　天間沢遺跡の概要

第１項　遺跡の立地

天間沢遺跡は富士山の南麓に延びる低丘陵上、北から南へ流下する福泉川と天間沢に挟まれた標高 70 ～ 150m の地に立地する、縄文時代中・後期および古墳時代の集落跡である。その範囲は広く、東西約 600m、南北約 1,200m を測る。

これまでに行われた発掘調査により、天間沢遺跡の基本層序については、以下のように捉えられている。

表土層：盛土・現耕作土・旧耕作土

古墳時代前期の遺構覆土

Ⅰ　大沢ラピリ層：黒褐色。緻密なスコリア粒子で極めて硬くしまる。

縄文時代中・後期の包含層

Ⅱ　栗色土層（KU）：黒褐色。橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ（カワゴ平パミス）を少量含む。しまりはやや強い。

縄文時代早・前期の包含層

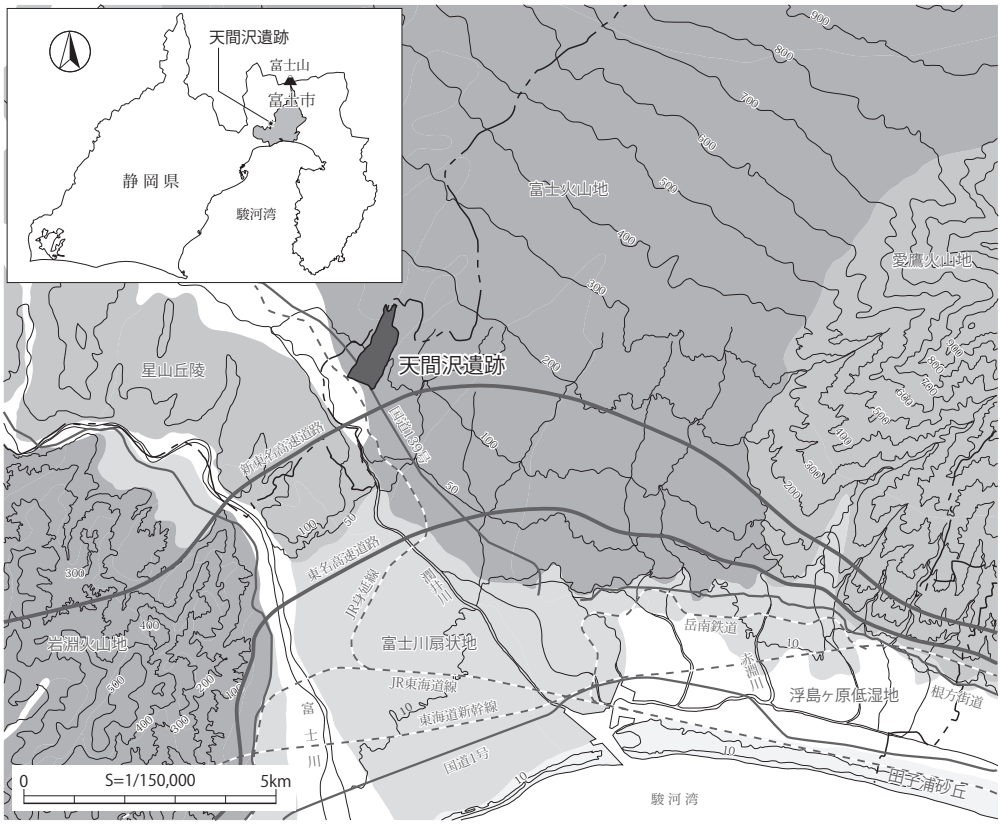
Ⅲ　富士黒土層（FB）：黒色。橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。

Ⅳ　漸移層（Zn）：暗褐色。褐色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

旧石器時代の包含層

Ⅴ　休場層（YL）：明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

Ⅵ　古富士泥流層上層か：巨礫層主体となり粘性が強くなる。水分を多く含み、しばらく放置すると礫間に水が溜まる。



第 156 図　天間沢遺跡の位置と周辺地形図

第2項　過去の調査

天間沢遺跡が発見されたのは、昭和2～3年のことで、富士宮市域を中心に遺跡踏査・遺物収集を行っていた岳南考古学会の佐野武勇氏が、旧鷹岡町天間沢字横道の畑を踏査し多数の縄文土器・石器を確認したことによる。その後も多くの研究者や学生により遺跡踏査が行われたが、小規模ながら初めての発掘調査（現・第6地区－1次調査）が行われたのは、発見から30年以上が経過した昭和35年のことであった。

開発に伴う本発掘調査が相次いだのは昭和40年代である。道路建設に伴う1地区、市立幼稚園建設に伴う2地区、市営団地建設に伴う3地区、ボーリング場建設に伴う23地区と、近接した地区で縄文時代中・後期および古墳時代初頭の集落跡が検出され、とりわけ縄文時代中期の遺物出土量が際立っていたことから、当地域における当該期の中核的な遺跡と捉えられてきた。

その後も、平成26年3月までに、39地区48回に及ぶ発掘調査が行われ、調査成果が積み重ねられている。

第157図　天間沢遺跡　調査履歴図

第 21 表　天間沢遺跡調査履歴

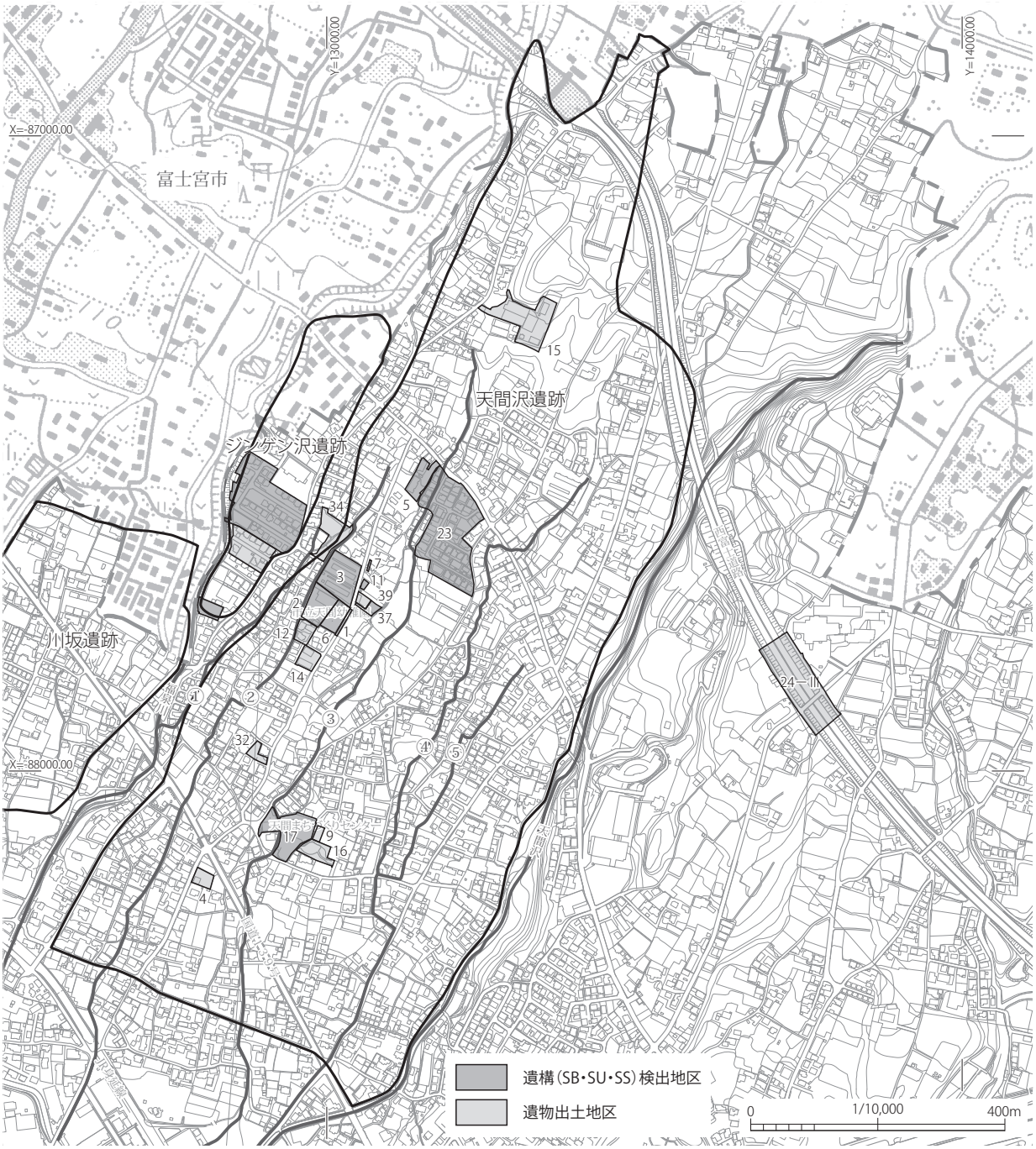
調査年度	地区・次 (旧地区名)	調査種類	調査期間	所在地 調査の契機	対象面積（㎡） 調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	文献
S35	6 地区－ 1 次 (第 1 次　F 地区の一部)	学術調査	1960****	天間 1048 － 1 学術調査	100	縄文中期	配石遺構		
S44	1 地区 (第 2 次　A 地区)	本調査	19700323 ～ 19700405	天間 1048　外 市道高屋天間沢線建設	300	縄文中期 古墳初頭	配石遺構 建物跡 2	縄文土器・石器 土師器	2
S46	2 地区 (第 3 次　B 地区)	本調査	19710910 ～ 19711028	天間 1047 － 1 市立天間幼稚園建設	2,600	縄文中期	配石遺構・土坑 5・建物跡 1	縄文土器・石器	2
S46	3 地区 (第 4 次　C 地区)	本調査	19711224 ～ 19720627	天間 1045 － 1　外 市営住宅天間団地建設	3,400	縄文中期 古墳初頭	建物跡 11・土坑 15 建物跡 3	縄文土器・石器 土師器	2
S46	23 地区－ 1 次 (第 5 次　横道下地区第 1 次)	本調査	19711224 ～ 19720215	天間 995 ボーリング場建設	500	縄文中～後期 古墳初頭	配石遺構・建物跡 1 建物跡 6	縄文土器・石器 土師器	2
S47	4 地区 (第 6 次　D 地区)	試掘	19721224 ～ 19721229	天間 577 － 1 遺跡範囲確認	100	縄文中期 律令期？	ピット状遺構	縄文土器 土師器	
S47	5 地区－ 1 次 (第 6 次　E 地区)	試掘	19730325 ～ 19730329	天間 988 － 1 遺跡範囲確認	50	縄文中期 古墳初頭	ピット状遺構 溝状遺構	縄文土器	
S53	6 地区－ 2 次 (第 7 次　F 地区)	試掘	19781002 ～ 19781202	天間 1048 － 1 市立天間幼稚園拡張	1,053	縄文中期	土坑 30・建物跡 2 集石遺構 4	縄文土器・石器	1 2
S54	24 地区 (第Ⅰ～Ⅴ地点)	試掘	19791006 ～ 19791116	久沢　外 西富士道路建設		縄文 弥生	なし	縄文土器・石器・有孔磨製石鏃	3
S58	17 地区－ 1 次 (Q 地区)	試掘	19830418 ～ 19830419	天間 1106 － 1 天間公民館建設	1,142 125		なし	なし	
S58	7 地区 (第 8 次　G 地区)	試掘	19831024 ～ 19831028	天間 1045 － 5 遺跡範囲確認	50	縄文 古墳	配石遺構 1・埋甕 1・土坑 2 ピット 2	縄文土器	
S58	8 地区 (第 8 次　H 地区)	試掘	19831107 ～ 19831112	天間 1130 － 1 遺跡範囲確認	50	古墳	竪穴建物跡 1		
S58	9 地区 (第 8 次　I 地区)	試掘	19831114 ～ 19831117	天間 1121 遺跡範囲確認	50	縄文	なし	縄文土器	
S58	10 地区 (第 8 次　J 地区)	試掘	19831118 ～ 19831122	天間 528・529 遺跡範囲確認	50	律令期	なし	土師器・須恵器	
S59	11 地区 (K 地区)	試掘	19841015 ～ 19841031	天間 1011 － 1 分布確認調査	200	縄文	建物跡 5・土坑	縄文土器	
S61	12 地区 (L 地区)	試掘	19860905 ～ 19860910	天間 1062 － 3 宅地造成	750 300	縄文 古墳以降	土坑 5 溝状遺構 1	縄文土器・黒曜石・打製石斧	
S62	13 地区 (M 地区)	試掘	19870511 ～ 19870515	天間 1312 － 1　外 宅地造成	2,579 150	縄文	土坑 2	無し（周辺から縄文土器・土師器出土）	
S62	23 地区－ 2 次 (横道下地区第 2 次)	試掘	19870907 ～ 19870921	天間 999　外 宅地造成	7,000 400	縄文	埋甕 1・土坑 1・配石遺構 1	縄文土器・石斧	
H01	14 地区 (N 地区)	試掘	19890605 ～ 19890622	天間 1061 － 1　外 宅地造成	968 367	縄文 古墳初頭	竪穴住居跡 1・ピット 1	縄文土器・石鏃・石斧 土師器	
H01	15 地区 (O 地区)	試掘	19890905 ～ 19890913	天間 1896 － 2　外 農産物集出荷場住宅建設	4,758 660	縄文 中・近世	土坑 2	縄文土器片	
H03	16 地区 (P 地区)	試掘	19911202 ～ 19911211	天間 1120 － 4 天間沢遺跡公園整備	1,329 495	縄文 古墳	竪穴建物跡	縄文土器・黒曜石 土師器	
H03	17 地区－ 2 次 (Q 地区)	試掘	19911219	天間 1115 － 1　外 天間公民館駐車場造成	648		なし	なし	
H03	18 地区 (R 地区)	試掘	19920316 ～ 19920319	天間 1943 － 1 送電線鉄塔建設	144 22		なし	なし	
H04	19 地区 (S 地区)	試掘	19920708 ～ 19920710	天間 1001 － 4 共同住宅建設	905 65		なし	なし	
H04	20 地区 (T 地区)	試掘	19911013 ～ 19921026	天間 1127 － 1　外 共同住宅建設	960 312		なし	なし	
H04	21 地区 (U 地区)	試掘	19921020 ～ 19921027	天間 591 － 1 倉庫・事務所建設	2,915 194		なし	なし	
H04	22 地区 (V 地区)	試掘	19930225	天間 1785 － 21 送電線鉄塔建設	144 40		なし	なし	
H05	5 地区－ 2 次 (E － 2 地区)	試掘	19930420 ～ 19930428	天間 988 － 8　外 共同住宅敷地造成	1,274 170	縄文 古墳	土坑・ピット 溝状遺構	縄文土器	
H05	5 地区－ 3 次 (E － 2 地区)	本調査	19930524 ～ 19930705	天間 988 － 8　外 共同住宅敷地造成	1,274 300	縄文 古墳	土坑・炉跡・埋甕 ピット状遺構・溝状遺構	縄文土器・石器	
H14	17 地区－ 3 次 (Q 地区－ 1 次)	試掘	20020508 ～ 20020520	天間 1117 － 1　外 天間公民館増築	1,633 365	縄文 古墳	埋甕	縄文土器・石器 土師器	4
H14	17 地区－ 4 次 (Q 地区－ 2 次)	本調査	20020527 ～ 20020701	天間 1117 － 1　外 天間公民館増築	800 683	縄文 古墳	土坑	縄文土器 土師器	
H14	25 地区 (Y 地区)	試掘	20020823	天間 590 － 1　外 共同住宅建設	635 90		なし	なし	4
H17	26 地区 (Z 地区)	試掘	20060302	天間 937 － 1 宅地造成	839 26		なし	なし	5
H19	27 地区－ 1 次	試掘	20080318 ～ 20080326	天間 1238 － 1　外 宅地造成	3,266 87	古墳	竪穴建物跡 2・溝状遺構 1	土師器	6
H20	27 地区－ 2 次	試掘	20081107	天間 1238 － 1　外 宅地造成	2,665 27		なし	なし	4
H20	28 地区	試掘	20080521 ～ 20080522	天間 1167 － 1　外 集合住宅建設	995 56		なし	なし	4
H20	29 地区	試掘	20081215 ～ 20081222	天間 1189 － 1　外 宅地造成	4,000 209		なし	なし	4
H21	27 地区－ 3 次	試掘	20090406	天間 1242　外 集合住宅建設	1,866 13		なし	なし	7
H22	30 地区	試掘	20110126	天間 625 － 10　外 不動産売買	342 8		なし	なし	8
H23	31 地区	試掘	20110411	天間 1168 － 6　外 集合住宅建設	635 14		なし	なし	8
H23	32 地区	試掘	20110603	天間 1096 － 1　外 集合住宅建設	628 19	縄文	なし	土器	8
H24	33 地区	確認	20121129	天間 1050 － 1 の一部 集合住宅新築	896 12		なし	なし	本書
H24	34 地区	確認	20121205 ～ 20121206	天間 964 － 1 外 および官有地 宅地造成	2,158 72	縄文	なし	縄文土器	本書
H25	35 地区	確認	20130418	天間 1174 － 3　外 宅地造成	1,985 38		なし	なし	本書
H25	36 地区	確認	20130909 ～ 20130911	天間 1263　外 宅地造成	2,178 82		なし	なし	本書
H25	37 地区	確認	20131001 ～ 20131004	天間 1010 － 5 個人住宅建設	398 46	縄文	竪穴建物跡・ピット	縄文土器、石器	本書
H25	38 地区	確認	20131029	天間 1317 － 1　外 共同住宅建設	965 9		なし	なし	本書
H25	39 地区	確認	20140117 ～ 20140110	天間 1010 － 6 個人住宅建設	353 53	縄文	土坑・ピット	縄文土器、石器	本書

文献 1　『天間沢遺跡第 7 次（F 地区）発掘調査概報』(1979)
2　『天間沢遺跡Ⅰ　遺構編』(1984)・『天間沢遺跡Ⅱ　遺物・考察編』(1985)
3　『西富士道路（富士地区）・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』「天間地区」(1981)
4　『平成 14・20 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
文献 5　『平成 17・18 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』富教委 (2008)
6　『平成 15・19 年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
7　『平成 21 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
8　『富士市内遺跡発掘調査報告書－平成 22・23 年度－』(2013)

第３項　遺跡の分布状況

これまでの調査成果から、天間沢遺跡における遺跡の分布状況について整理するために、縄文時代と古墳時代それぞれについて、遺構・遺物の出土地区を第 158 図・第 159 図に示し、遺構（SB・SU）の検出数を第 22 表にまとめた。天間沢遺跡の基盤層である古富士泥流層は不透水層であるため、天間沢遺跡内には湧水地点が複数存在し、福泉川・天間沢と併行して複数の沢が流れている。遺跡の分布状況を見ていくにあたり、便宜上これらの沢に西から①～⑤の番号を振った。

縄文時代　第 158 図からは、比較的広範囲にわたり遺物が出土していることが見て取れる。遺構についてもそれなりの範囲に分布しているように見えるが、その検出数は意外に少ない。第 158 図には、西に近接して立地するジンゲン沢遺跡についても示した。ジンゲン沢遺跡では、標高 100m 程に位置する第３地区で天間沢遺跡に先行する縄文時代中期前半（藤内式期）を含む建物跡が３軒（富士市教育委員会 2007）、標高 90m 程に位置



第 158 図　天間沢遺跡　縄文時代の遺跡分布状況

する第４地区で中期の建物跡１軒が検出されている（本書第１章第２節 15、p.31）。

このように、遺構・遺物の分布は広範囲に認められるものの、天間沢遺跡で検出されている竪穴建物跡（SB）20 軒のうち 19 軒、埋甕土坑（SU）14 基のうち 11 基が、沢②と③の間の標高 100m 付近（第１・２・３・６・７・11・37 地区）に集中していることから、当該期の遺跡の中心はこのあたりにあったものと考えられる（第 160 図）。

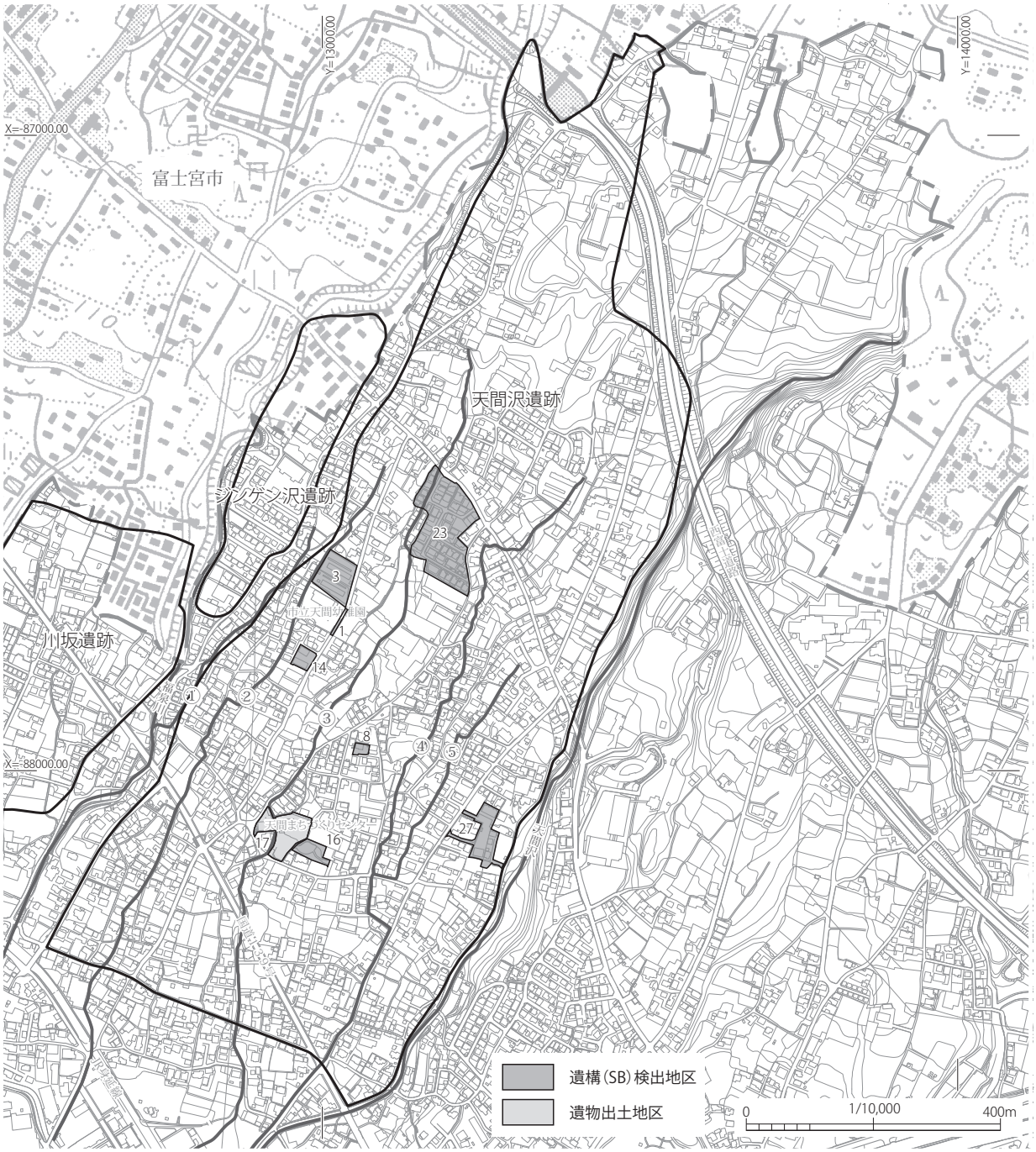
第 22 表　天間沢遺跡　時代別検出遺構数

・縄文時代

地区	SB（軒）	SU（基）
１・２・３・６	13	10
11	5	−
23	1	1
37	1	−
5	−	1
7	−	1
17	−	1
計	20	14

・古墳時代

地区	SB（軒）
23	6
3	3
1	2
27	2
8	1
14	1
16	1
計	16

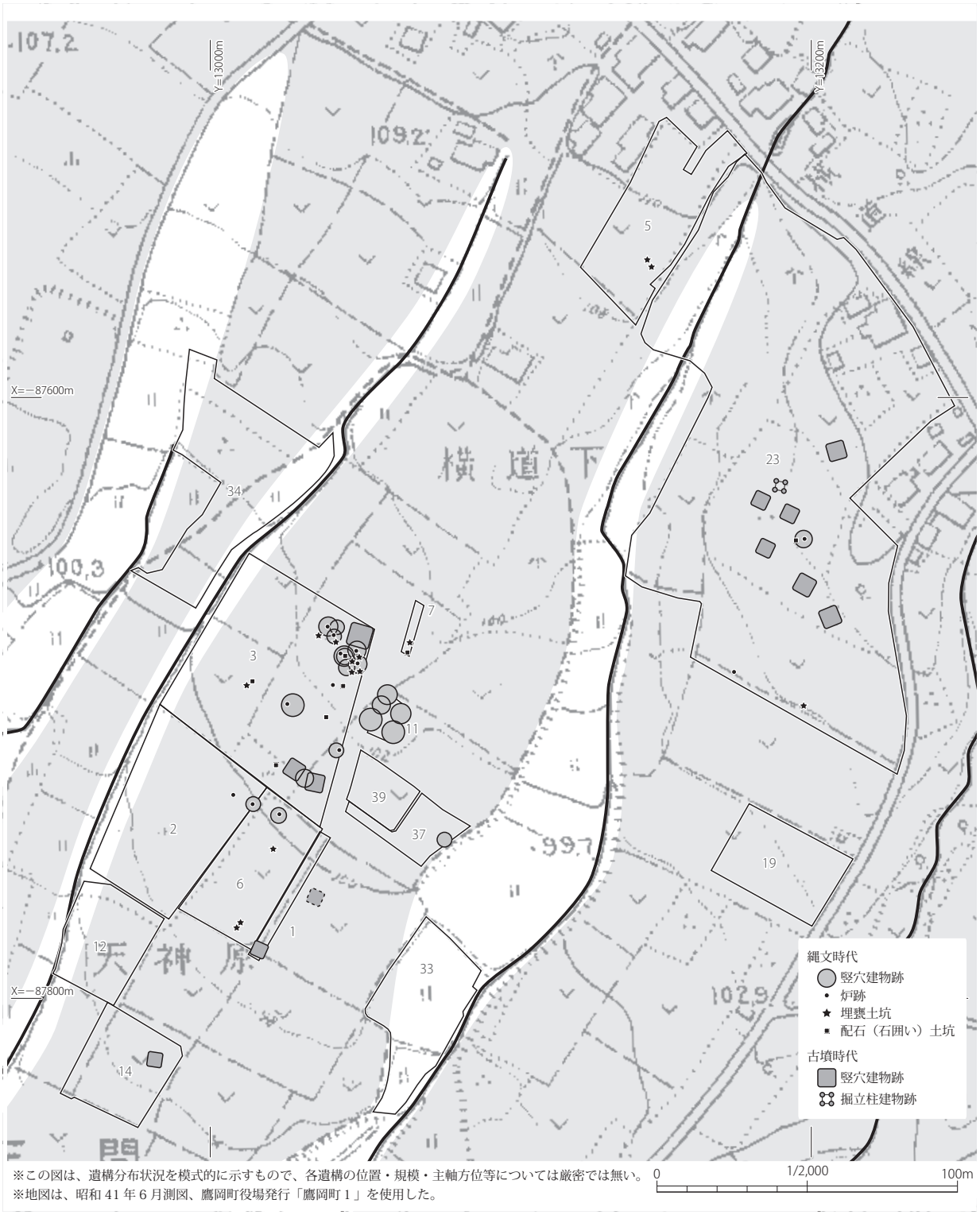


第 159 図　天間沢遺跡　古墳時代の遺跡分布状況

古墳時代　天間沢遺跡で確認されている古墳時代の遺構・遺物は前期に位置づけられるものである。竪穴建物跡（SB）は、検出総数16軒のうち、5軒が縄文時代の中心地と重なる1・3地区にあり、6軒が沢③を挟んで北東に位置する23地区にあるなど、縄文時代と同様に集中して検出されている地点も見られるが、分布範囲は沢②と天間沢の間の標高85～110mほどにあり、集落は比較的広範囲にわたって営まれていたものと考えられる。

参考文献

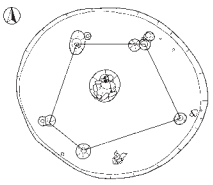
富士市教育委員会2007『ジンゲン沢遺跡』



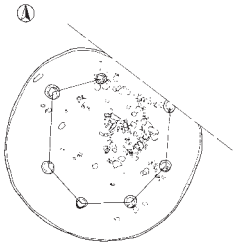
※この図は、遺構分布状況を模式的に示すもので、各遺構の位置・規模・主軸方位等については厳密では無い。
※地図は、昭和41年6月測図、鷹岡町役場発行「鷹岡町1」を使用した。

第160図　天間沢遺跡　中心地の遺構分布状況

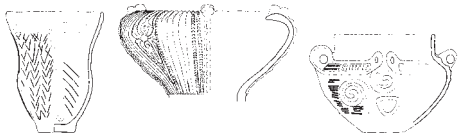
・縄文時代



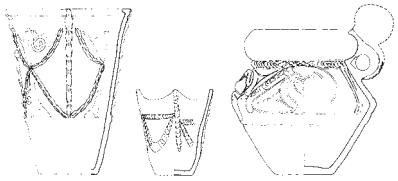
2・6地区　3号住



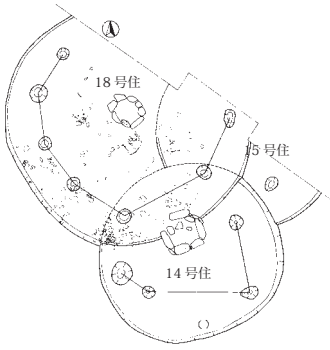
6地区　21号住



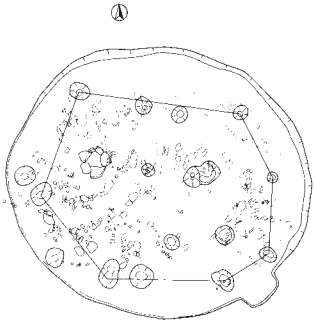
2・6地区　3号住出土遺物



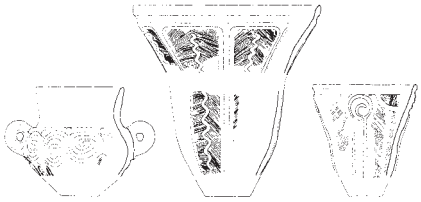
6地区　21号住出土遺物



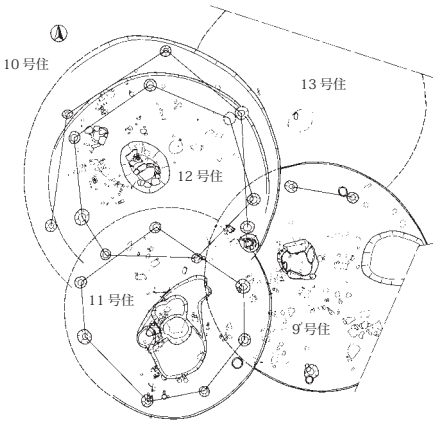
3地区　14・15・18号住



3地区　19号住

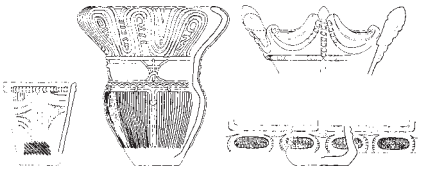


3地区　11号住出土遺物



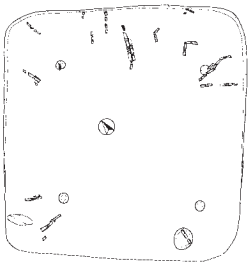
3地区　9～13号住

3地区　14号住出土遺物



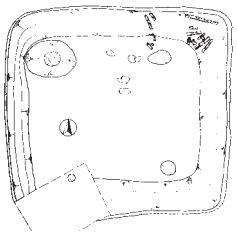
3地区　19号住出土遺物

・古墳時代

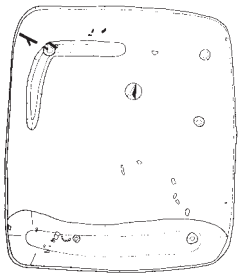


23地区　1号住

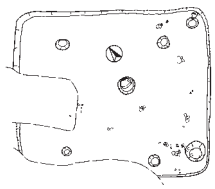
23地区　5号住



23地区　3号住



23地区　7号住



1地区　1号住

1地区　1号住出土遺物

23地区　3号住出土遺物

23地区　7号住出土遺物

遺物　0　1/15　50cm　　遺構　0　1/200　10m

第161図　天間沢遺跡　主な遺構・遺物

第2節　第33地区の調査成果

調査に至る経緯　平成24年9月、集合住宅新築工事に伴い、事業者から工務所を通じて富士市天間字横道下1050－1の一部（896㎡）について埋蔵文化財の照会がなされた。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第93条に基づく届出の必要があること、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを工務所に伝えた。

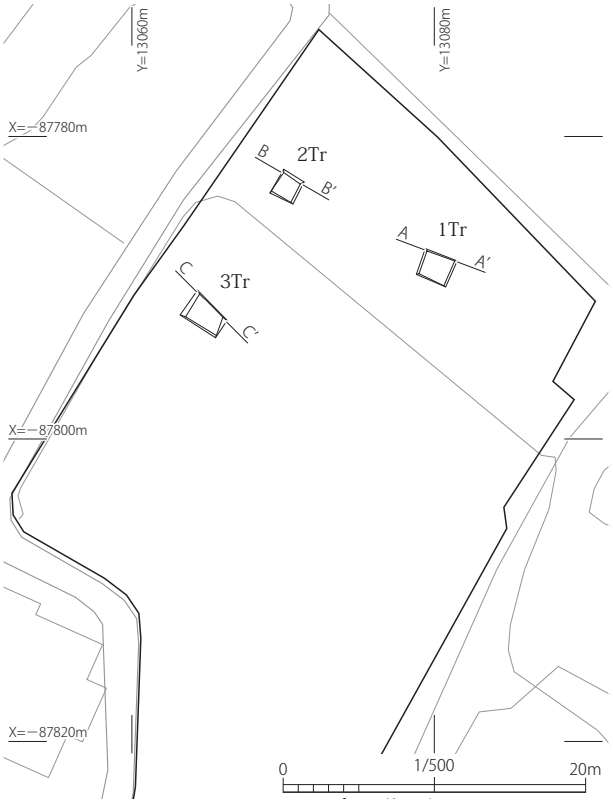
9月10日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、11月29日、文化振興課により確認調査が実施された。

調査の概要　調査地に3ヶ所のトレンチ（総面積12㎡）を設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

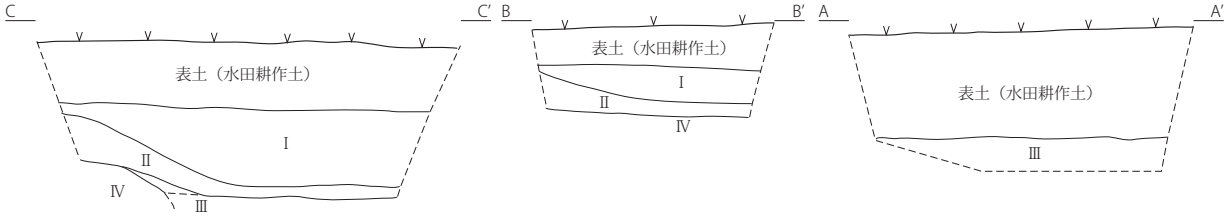
調査の結果　地表下0.6～1.0mまで掘削し、自然堆積土層（Ⅰ～Ⅳ層）が確認できたが、遺構および遺物は検出されなかった。土層観察の結果、調査地は、南北方向に延びる谷の落ち際から谷底にかけての場所であることが明らかとなった。

12月5日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第425号）を提出し、同日、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出書」（富教文発第426号）を進達した。12月13日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第1311号）、平成25年5月22日、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構・遺物は確認されなかった。

第162図　天間沢遺跡第33地区　位置図



第163図　天間沢遺跡第33地区　トレンチ配置図



Ⅰ　黒色土層　（7.5YR2/1）　しまりやや弱。粘性弱。褐色土少量。
Ⅱ　褐色土層　（10YR4/4）　しまりやや弱。粘性弱。
Ⅲ　黄褐色砂礫層（2.5YR5/4）　しまり弱。粘性なし。礫（2～3㎝）が主に堆積。
Ⅳ　黄褐色土層　（10YR5/8）　しまり強。粘性なし。溶岩礫混入。

第164図　天間沢遺跡第33地区　セクション図

第３節　第 34 地区の調査成果

調査に至る経緯　平成 24 年 11 月、宅地分譲地造成工事に伴い、事業者から工務所を通じて富士市天間字堰戸 964 － 1 外 5 筆および官有地（2,158㎡）について埋蔵文化財の照会がなされた。当該地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第 93 条に基づく届出の必要があること、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを工務所に伝えた。

11 月 12 日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、12 月 5 日～12 月 6 日にかけて、文化振興課により確認調査が実施された。

調査の概要　調査地に 5 ヶ所のトレンチ（総面積 72㎡）を設定し、重機による掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

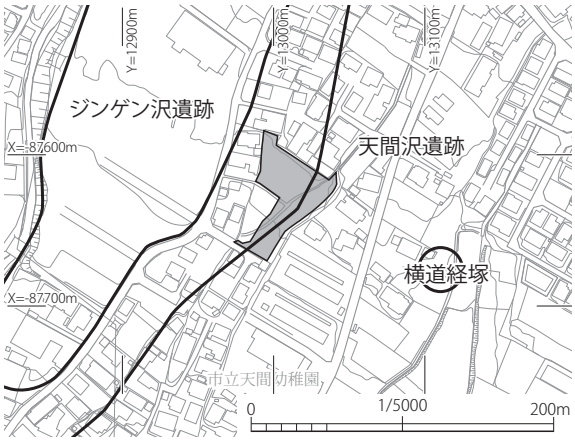
調査の結果　1Tr・2Tr・4Tr の東側に旧地形の落ち込みが確認され、5Tr 東側から 4Tr 西側にかけても谷状の落ち込みが確認されたことから、調査地には南北方向に延びる埋没谷が 2 本存在することが明らかとなった。

古富士溶岩層とみられるⅤ層上面において縄文土器片が少量出土したが、谷の上流または東側からの流れ込みと考えられる。調査地南東部分についても、1Tr・4Tr で検出された谷が広がってくることから、調査地内に遺跡が存在する可能性はないものと考えられる。

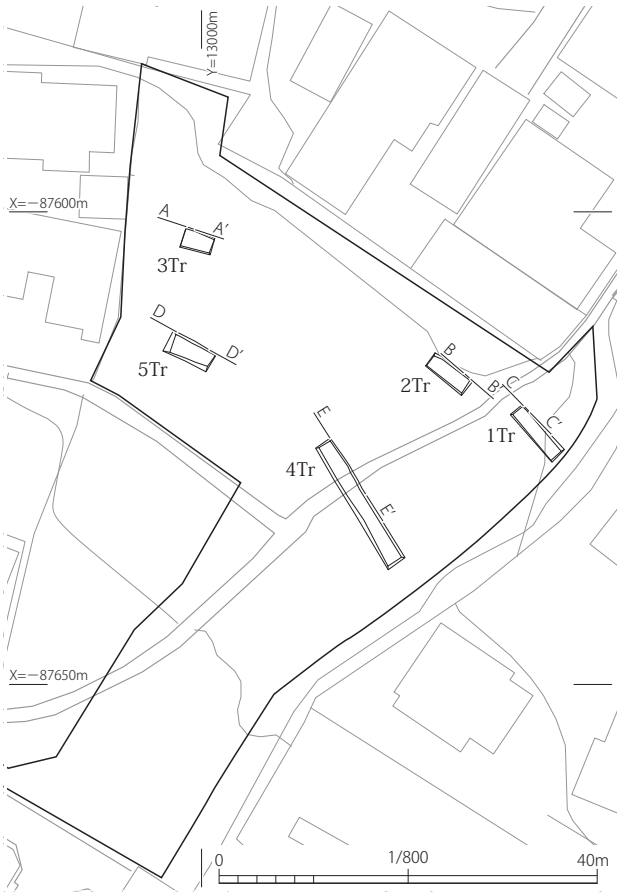
12 月 7 日、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第 430 号）を、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 430 － 2 号）を提出した。出土した縄文土器は胴部片であったが、図示は出来なかった。

12 月 11 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 436 号）を提出し、同日、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出書」（富教文発第 427 号）を進達した。

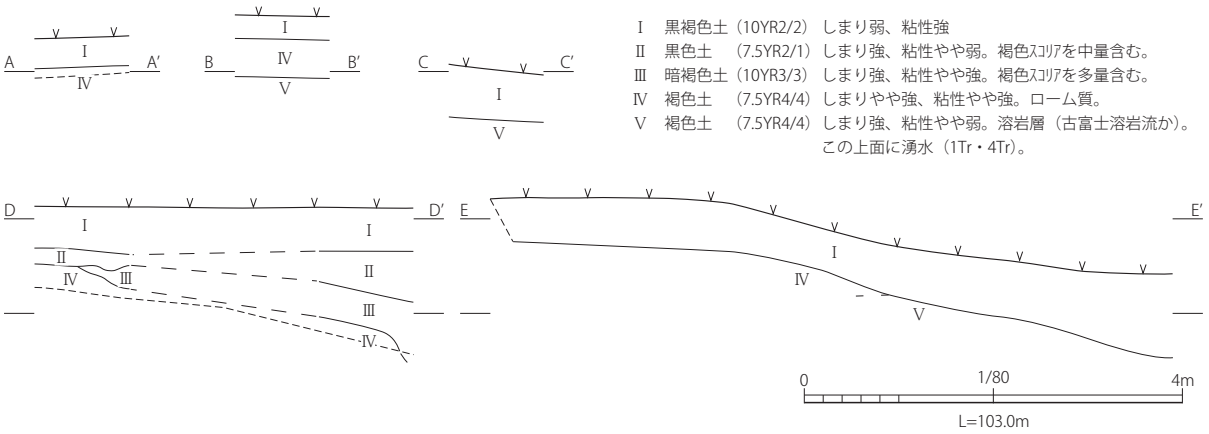
平成 25 年 1 月 28 日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第 1348 号）、工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構・遺物は確認されなかった。



第 165 図　天間沢遺跡第 34 地区　位置図



第 166 図　天間沢遺跡第 34 地区　トレンチ配置図



Ⅰ　黒褐色土（10YR2/2）しまり弱、粘性強
Ⅱ　黒色土　（7.5YR2/1）しまり強、粘性やや弱。褐色ｽｺﾘｱを中量含む。
Ⅲ　暗褐色土（10YR3/3）しまり強、粘性やや強。褐色ｽｺﾘｱを多量含む。
Ⅳ　褐色土　（7.5YR4/4）しまりやや強、粘性やや強。ローム質。
Ⅴ　褐色土　（7.5YR4/4）しまり強、粘性やや弱。溶岩層（古富士溶岩流か）。
この上面に湧水（1Tr・4Tr）。

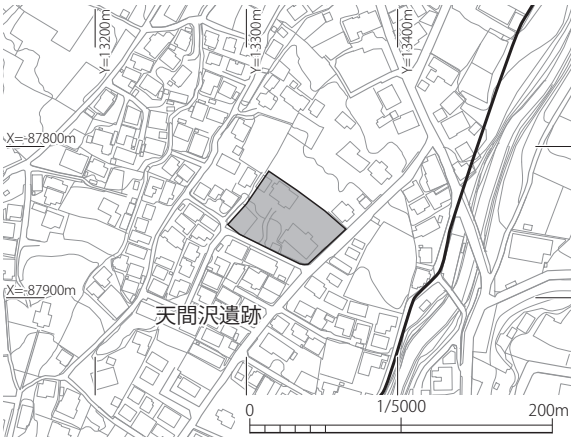
第 167 図　天間沢遺跡第 34 地区　セクション図

第 4 節　第 35 地区の調査成果

調査に至る経緯　平成 25 年 4 月、周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたる富士市天間字天神原 1174 － 3 外 5 筆（1,985㎡）において計画された宅地分譲地造成工事に伴い、4 月 16 日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、4 月 18 日、文化振興課により確認調査が実施された。

調査の概要　調査地に 2 ヶ所のトレンチ（総面積 38㎡）を設定し、重機により掘削後、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　北側に設定した 2Tr では、現地表下約 20 ～ 30cm で黒色土（Ⅰ層）、暗褐色土（Ⅲ層、栗色土層対応、縄文包含層）、褐色土（Ⅳ層、休場層対応）の堆積が認められたが、遺構および遺物は確認されなかった。



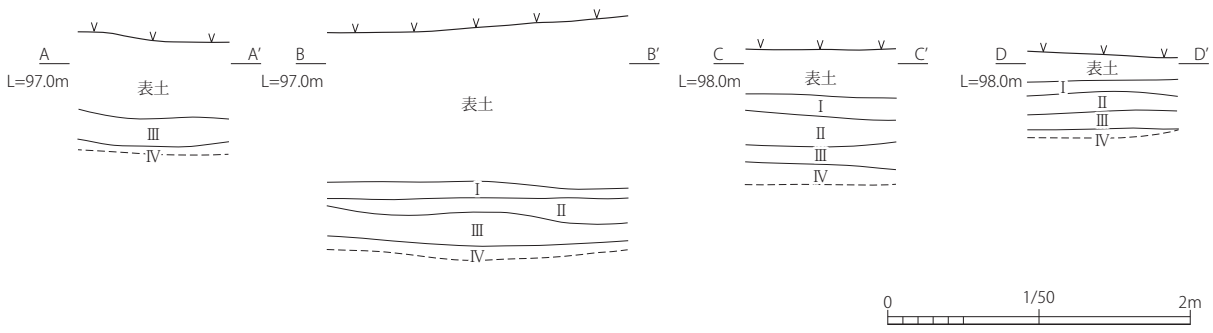
第 168 図　天間沢遺跡第 35 地区　位置図

土層観察の結果、調査地の地山（Ⅳ層）が北東から南西に向けて傾斜していることが確認された。

4 月 26 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 73 号）を提出し、同日、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出書」（富教文発第 74 号）を進達した。

5 月 13 日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第 277 号）、工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構・遺物は確認されなかった。

第 169 図　天間沢遺跡第 35 地区　トレンチ配置図



Ⅰ　黒色土　(7.5YR 2/1)　粘性やや強。しまりあり。赤色粒子 1 ～ 3 ㎜多量、白色粒子 1 ㎜少量、礫 1 ～ 2cm 少量。
Ⅱ　黒褐色土 (7.5YR 3/1)　粘性やや強。しまりややあり。赤色粒子 1 ～ 3 ㎜少量、白色粒子 1 ㎜少量、礫 2 ～ 5 ㎜少量。
Ⅲ　暗褐色土 (7.5YR 3/3)　粘性強。しまりややあり。赤色粒子 2 ～ 5 ㎜極少量、白色粒子 1 ㎜極少量、礫 1 ～ 3 ㎜少量。栗色土。
Ⅳ　褐色土　(7.5YR 4/4)　粘性強。しまりあり。赤色粒子 1 ～ 3 ㎜少量、白色粒子 1 ㎜極少量。休場対応。

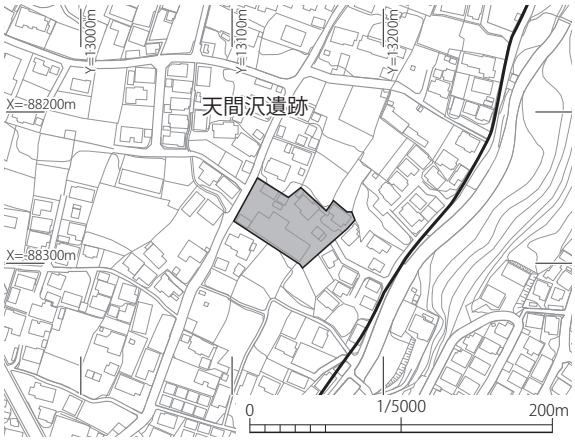
第 170 図　天間沢遺跡第 35 地区　セクション図

第 5 節　第 36 地区の調査成果

調査に至る経緯　平成 25 年 6 月、宅地分譲地造成工事に伴い、事業者から富士市天間字丹所 1263 外 7 筆 (2,178㎡) について埋蔵文化財の照会がなされた。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第 93 条に基づく届出の必要があること、また、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを事業者に伝えた。

6 月 19 日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、9 月 9 日～ 11 日にかけて、文化振興課により確認調査が実施された。



第 171 図　天間沢遺跡第 36 地区　位置図

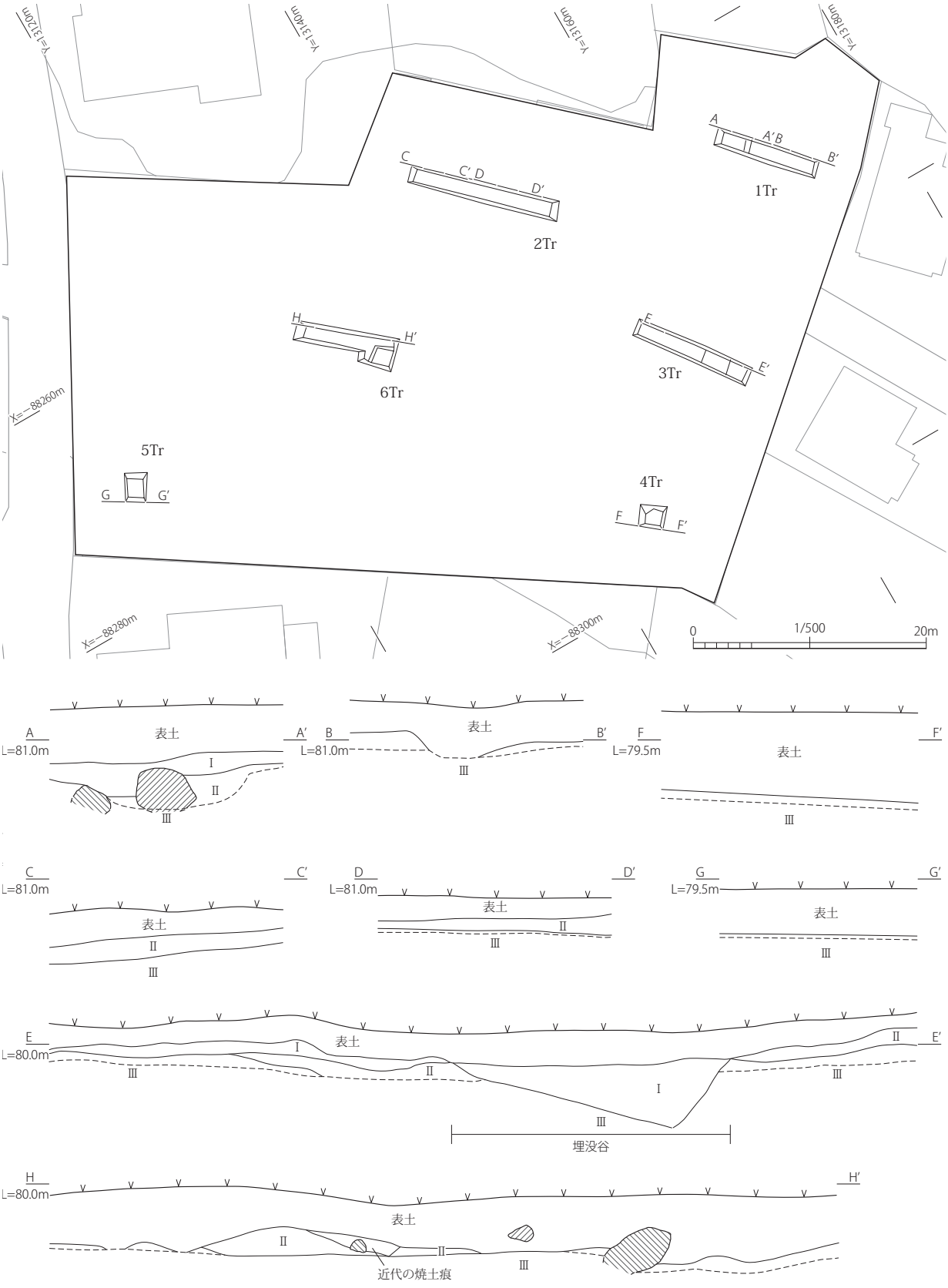
調査の概要　調査地に 6 ヶ所のトレンチ（総面積 82㎡）を設定し、重機による表土掘削後、遺構や遺物の検出に努めた。

調査の結果　遺構・遺物は確認されなかった。

かつて工場が所在していた調査地の南半は、現地表下 80cm まで建物基礎工事に伴う撹乱および、地山（Ⅲ層）にまで達していた。北半は旧地表下 30cm 程度で地山に達することから、包含層等はすでに大部分が削平されたものと考えられる。

9 月 25 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 398 号）を提出し、9 月 26 日、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財発掘の届出書」（富教文発第 400 号）を進達した。

10 月 4 日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第 1130 号）、工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構・遺物は確認されなかった。



Ⅰ　黒色土　（10YR 2/1）　褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）多量。
Ⅱ　褐色土　（10YR 4/4）　褐色粒子（径 2 ～ 5 ㎜）少量、白色粒子（径 1 ㎜）少量。
Ⅲ　黄褐色土（10YR 5/6）　角礫（径 30 ㎝）が混入。

0　1/50　2m

第 172 図　天間沢遺跡第 36 地区　トレンチ配置図・セクション図

第６節　第 37 地区の調査成果

調査に至る経緯　平成 25 年８月、個人住宅新築工事に伴い、事業者から工務所を通じて富士市天間字横道下 1010 － 5（398㎡）について埋蔵文化財の照会がなされた。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第 93 条に基づく届出の必要があること、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを工務所に伝えた。

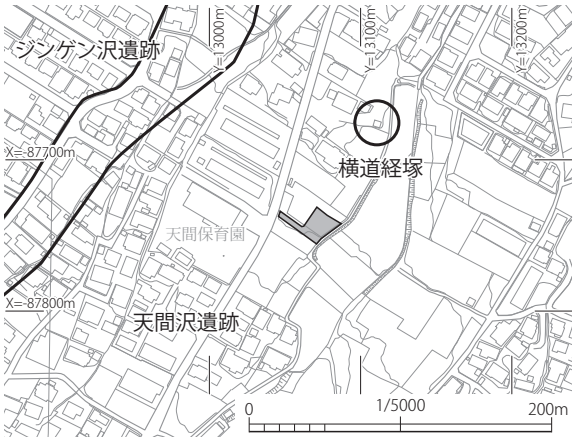
８月 25 日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、10 月１日～ 10 月４日にかけて、文化振興課により確認調査が実施された。

調査の概要　調査地に３ヶ所のトレンチ（総面積 46㎡）を設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　２Tr において竪穴建物跡と考えられるプラン（SB01）を検出した。また、１Tr においても包含層中より縄文土器が多数出土した。

調査地西側は削平を受けているため遺構・遺物は残存せず、谷に向かって傾斜し始める東側部分にのみ遺跡が残存することが明らかとなった。

10 月８日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 425 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発 425 － 2 号）を提出し、10 月９日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 444 号）を提出した。



第 173 図　天間沢遺跡第 37 地区　位置図

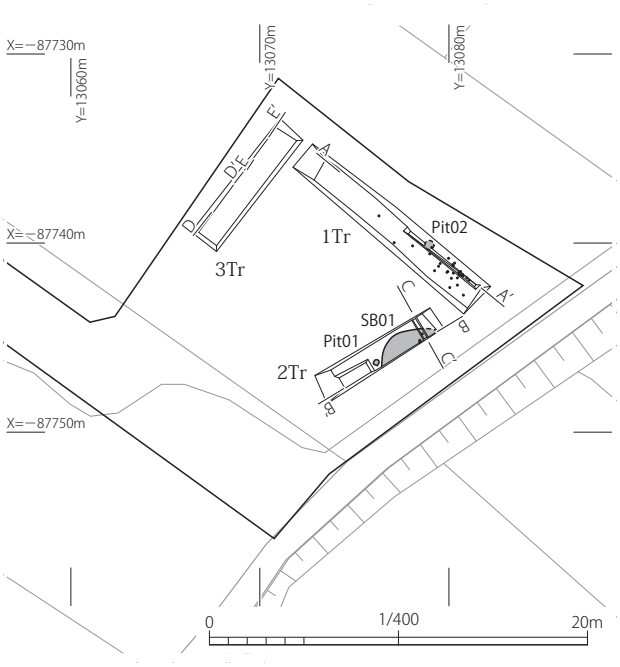
建物部分については保護層が確保されるため、擁壁部分について、11 月 18 日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知された（教文第 1358 号の 2）。

平成 26 年１月 31 日、文化振興課職員により工事立会いが実施され、遺物が出土したため、２月５日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 635 号）を提出した。

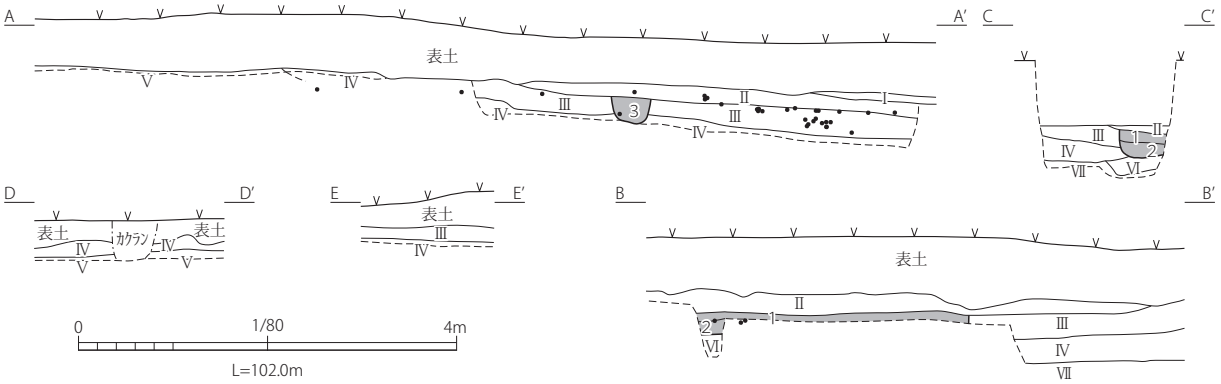
検出遺構　2Tr の北半で弧状のプランが検出され、部分的に掘り下げたところ、Ⅲ・Ⅳ層を掘り込み黒褐色粘質土を覆土とする縄文時代の竪穴建物跡（SB01）と確認された。検出されたプランがごく一部分であるためその規模は不明であるが、平面形は円形を呈するとみられ、残存部からは直径 3.6m 以上と推定される。検出面からの深さは 30㎝ほどを測る。出土遺物（第 176 図－ 11）から、縄文時代中期（曽利Ⅲ式期）の建物跡と考えられる。

出土遺物　縄文土器・石器が出土し、縄文土器 15 点、石器１点を図示した（第 176 図）。

１～５は中期勝坂式の土器である。１は勝坂３式（井

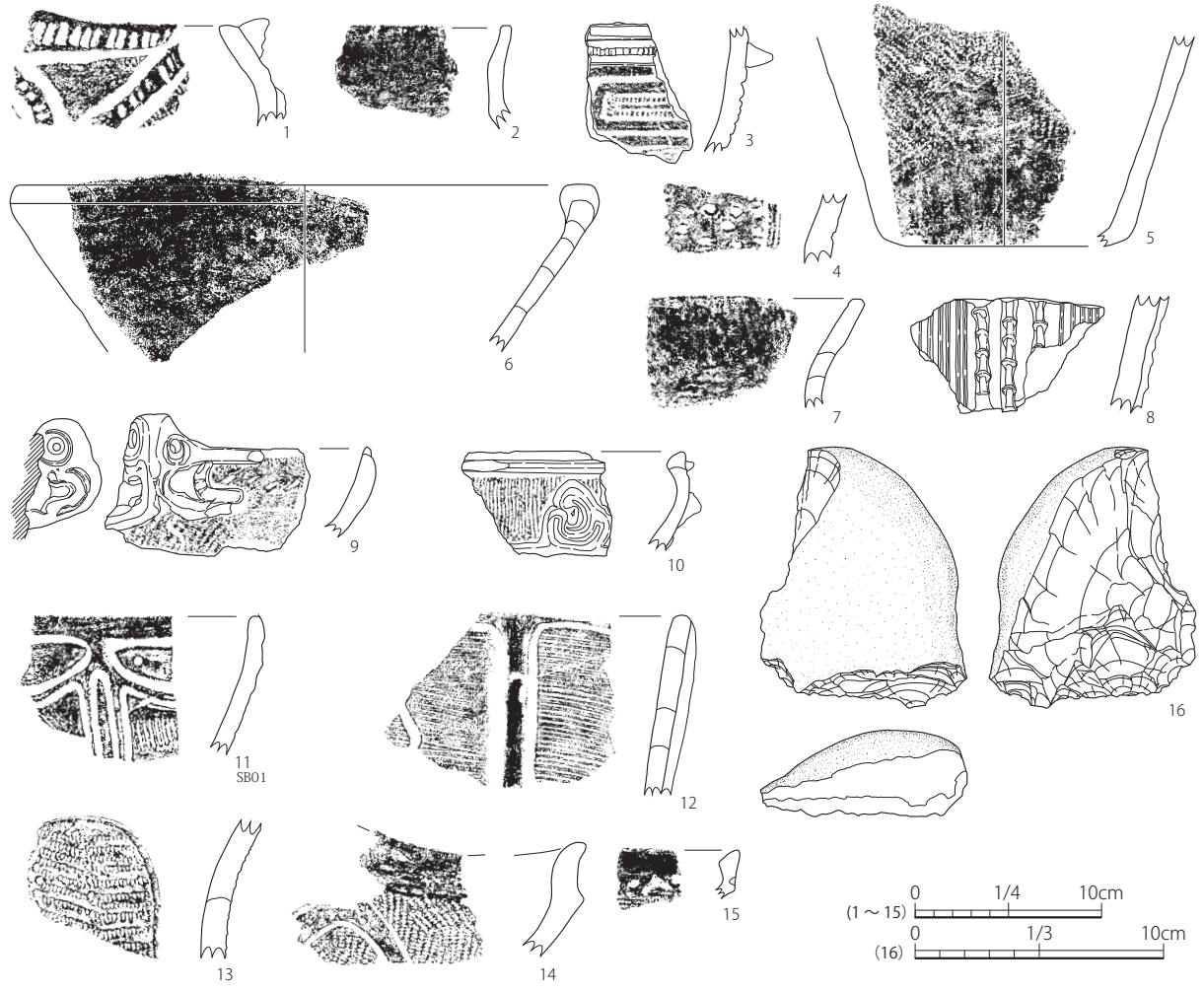


第 174 図　天間沢遺跡第 37 地区　トレンチ配置図



Ⅰ	黒褐色粘質土（10YR2/3）	しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（2～6㎜）微量。	
Ⅱ	黒褐色粘質土（10YR2/3）	しまり弱。粘性やや弱。橙色粒子（3～8㎜）中量。	
Ⅲ	黒褐色粘質土（10YR2/3）	しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（2～10㎜）少量。	
Ⅳ	暗褐色粘質土（10YR3/3）	しまりやや弱。粘性やや強。橙色粒子（2～3㎜）微量。炭化物（2～5㎜）微量。	
Ⅴ	暗褐色粘質土（10YR3/4）	しまりやや弱。粘性やや強。橙色粒子（3～8㎜）少量。炭化物（5㎜）微量。	
Ⅵ	黒褐色粘質土（10YR2/3）	しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（2～10㎜）微量。褐色粒子（10～12㎜）微量。	
Ⅶ	黄褐色粘質土（2.5Y5/6）	しまり強。粘性やや強。礫（5～15㎜）多量。	
1	黒褐色粘質土（7.5YR2/2）	しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（5～8㎜）少量。	SB01 覆土
2	黒褐色粘質土（7.5YR2/2）	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子（1～2㎜）微量。褐色粒子（8～12㎜）微量。	SB01 覆土
3	黒褐色粘質土（10YR2/3）	しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（5～10㎜）少量。	Pit02 覆土

第 175 図　天間沢遺跡第 37 地区　セクション図



第 176 図　天間沢遺跡第 37 地区　出土遺物実測図

戸尻式）の波状口縁で、端部外面に断面三角形の幅広の隆帯が貼り付けられ、その下部も幅の広い貼付隆帯と隆帯に沿う沈線で区画している。隆帯にはキザミが施される。3の胴部片には断面三角形で高さのある隆帯が巡り、隆帯の頂部にはキザミがつく。胴部は半截竹管による平行沈線で方形に区画され、区画内の細隆帯にもキザミがつく。4の胴部片は沈線区画内にランダムな刺突が施文され、5の胴部は縄文を地文としている。

6～8は曽利Ⅰ式に位置づけられる。8の深鉢胴部片には、縦方向に3本の隆帯が貼り付けられ、隆帯上には半截竹管による押引文が施される。縦位の条線文を地文とする。

9は曽利Ⅰ～Ⅱ式に位置づけられる深鉢の波状口縁の突起部で、縄文を地文とし、口縁部は貼付隆帯で区画されて刺突文が施文され、隆帯は突起部の装飾へとつながる。10は曽利Ⅱ～Ⅲ式に位置づけられ、貼付隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には隆帯による楕円形のモチーフが貼り付けられる。地文は縄文である。11は2TrのSB01から出土した曽利Ⅲ式の深鉢口縁部である。棒状工具による沈線で区画し、櫛歯状工具による条線文を施文している。

12・13は曽利Ⅳ式の土器である。12には口縁部文様帯が無く、沈線によるコの字状区画の中には横位の条線文を地文とし、蛇行沈線文が垂下する。13の胴部片は沈線による区画の中に、棒状工具と櫛歯状工具による刺突文が施文されている。

14は曽利Ⅳ～Ⅴ式に位置づけられる。波状口縁で口縁部は無文である。胴部は沈線で区画し、縄文を充填している。15は曽利Ⅴ式の口縁部片で、口縁部には棒状工具による刺突が施され、胴部地文は縄文である。

16は頁岩を用いた礫斧である。

第23表　天間沢遺跡第37地区　出土遺物観察表

・縄文土器

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	型式	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第176図－1	R034	PL.4	1Tr	勝坂3（井戸尻）	鉢	-	(5.3)	-	良好	-	7.5YR4/3（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第176図－2	R022	PL.4	1Tr	勝坂	鉢	-	(5.7)	-	良好	-	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）
第176図－3	R022	PL.4	1Tr	勝坂	鉢	-	(6.5)	-	良好	-	7.5YR4/3（褐）	5YR5/6（明赤褐）
第176図－4	R022	PL.4	1Tr	勝坂	鉢	-	(3.5)	-	良好	-	5YR4/6（赤褐）	7.5YR4/4（褐）
第176図－5	R031	PL.4	1Tr	勝坂	鉢	-	(11.0)	(10.2)	良好	25%	10YR6/4（にぶい黄橙）	2.5YR5/6（明赤褐）
第176図－6	R025	PL.4	1Tr	曽利Ⅰ	浅鉢	(30.6)	(9.0)	-	良好	25%	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR4/3（褐）
第176図－7	R032	PL.4	1Tr	曽利Ⅰ	鉢	-	(5.8)	-	良好	-	7.5YR4/3（褐）	7.5YR3/2（黒褐）
第176図－8	R029	PL.4	1Tr	曽利Ⅰ	鉢	-	(6.4)	-	良好	-	10YR8/4（浅黄橙）	10YR4/3（にぶい黄褐）
第176図－9	R043	PL.4		曽利Ⅰ～Ⅱ	深鉢	-	(6.2)	-	良好	-	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/6（橙）
第176図－10	R042	PL.4		曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	-	(5.3)	-	良好	-	7.5YR6/6（橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第176図－11	R018・019	PL.4	SB01	曽利Ⅲ	鉢	-	(7.5)	-	良好	-	10YR4/3（にぶい黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）
第176図－12	R006	PL.4	1Tr	曽利Ⅳ	鉢	-	(9.2)	-	良好	-	7.5YR6/6（橙）	10YR4/3（にぶい黄褐）
第176図－13	R042	PL.4		曽利Ⅳ	鉢	-	(7.6)	-	良好	-	2.5Y5/3（黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第176図－14	R043	PL.4		曽利Ⅳ～Ⅴ	鉢	-	(6.5)	-	良好	-	5Y4/6（赤褐）	7.5YR4/3（褐）
第176図－15	R042	PL.4		曽利Ⅴ	鉢	-	(7.6)	-	良好	-	7.5YR6/6（橙）	5YR5/6（明赤褐）

・石製品

挿図番号	R番号	写真図版	遺構名	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第176図－16	R023	PL.4	2Tr	礫斧	10.3	8.3	3.5	331.60

第7節　第38地区の調査成果

調査に至る経緯　平成25年10月、賃貸アパート新築工事に伴い、事業者から工務所を通じて富士市天間字丹所1317－1外3筆（965㎡）について埋蔵文化財の照会がなされた。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第93条に基づく届出の必要があること、また、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを工務所に伝えた。10月3日、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、10月29日、文化振興課により確認調査が実施された。

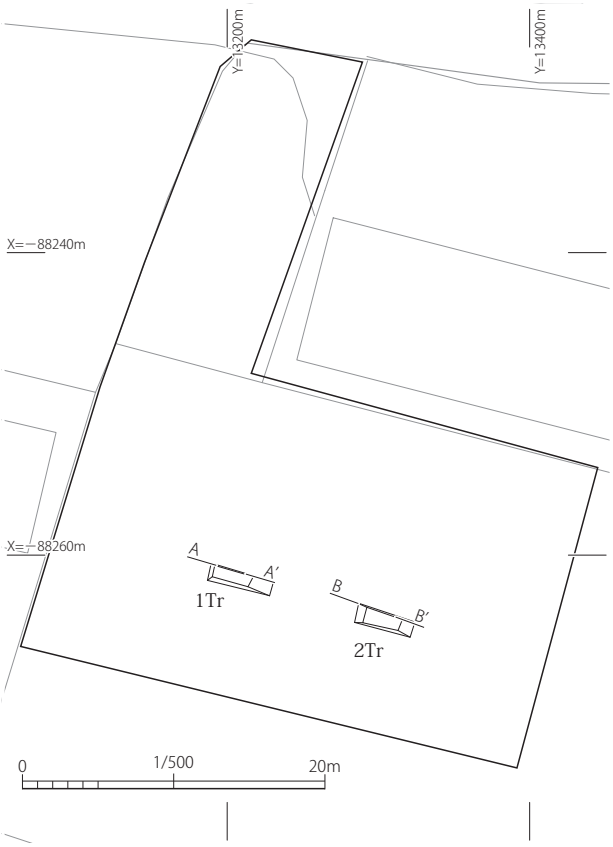
調査の概要　調査地に2ヶ所のトレンチ（総面積9㎡）を設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　自然堆積層（Ⅰ～Ⅳ層）が確認され、調査地が後世の改変を受けていないことが明らかとなったが、遺構・遺物とも検出されなかった。

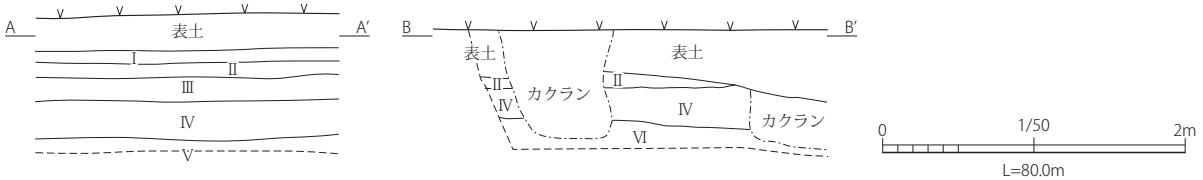
11月1日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第475号）を提出した。

平成26年2月21日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第1849号の2）、工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構および遺物は確認されなかった。

第177図　天間沢遺跡第38地区　位置図



第178図　天間沢遺跡第38地区　トレンチ配置図



Ⅰ	黒色土層　(10YR1.7/1)	直径1～2㎜の赤褐色ｽｺﾘｱを含む。白色ﾊﾟﾐｽ少量。	マサ土
Ⅱ	黒褐色土層（7.5YR3/2）	直径2～3㎜の赤褐色ｽｺﾘｱを少量含む。	
Ⅲ	褐色土層　(10YR2/3)	直径2㎜の以下の赤褐色ｽｺﾘｱを極少量含む。黒褐色土がﾊﾟｯﾁ状に入る。	栗色土層対応？
Ⅳ	黒褐色土層（10YR2/2）	直径2㎜の以下の赤褐色ｽｺﾘｱを極少量含む。上層の褐色土から下層の黒褐色土層へ漸移的に変化	富士黒土層に対応か？
Ⅴ	黒褐色土層（10YR2/3）	直径2～3㎜の赤褐色 / 赤色ｽｺﾘｱを含む。	漸移層に対応か？
Ⅵ	明褐色土層（7.5YR5/8）	直径2～3㎜の赤褐色ｽｺﾘｱを少量含む。直径3～7㎜の発泡の進んだ暗赤褐色ｽｺﾘｱを含む。粘性が非常に強い。	休場層対応か？

第179図　天間沢遺跡第38地区　セクション図

第８節　第 39 地区の調査成果

調査に至る経緯　平成 25 年 12 月、個人住宅新築工事に伴い、事業者から工務所を通じて富士市天間字横道下 1010 － 6（353㎡）について埋蔵文化財の照会がなされた。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」の範囲内にあたることから、文化財保護法第 93 条に基づく届出の必要があること、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを工務所に伝えた。

同月、事業者から富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、平成 26 年 1 月 7 日～ 1 月 10 日にかけて、文化振興課により確認調査が実施された。

調査の概要　調査地に２ヶ所のトレンチ（総面積 53㎡）を設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果　土層観察の結果、地山（Ⅳ層）は西側に向かって傾斜していることが確認された。

1 Tr の西側において、地表面から 0.7m 程の深さで土坑・ピットがⅣ層を掘り込んで検出され、包含層（Ⅲ層）から縄文土器・石器が出土した。

調査地西側では、包含層（Ⅲ層）が地表面から 50cm 程の深さで検出されたが、調査地東側は削平を受けており、包含層は残存していない。

平成 26 年 1 月 15 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発 594 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発 594 － 2 号）を提出した。

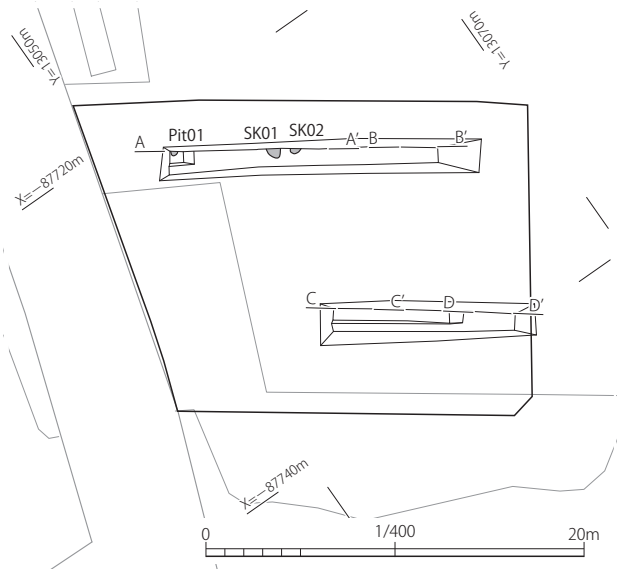
1 月 20 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 602 号）を提出し、4 月 18 日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知された（教文第 182 号の 2)。工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際には遺構および遺物は確認されなかった。

出土遺物　縄文土器６点を図示した（第 183 図)。

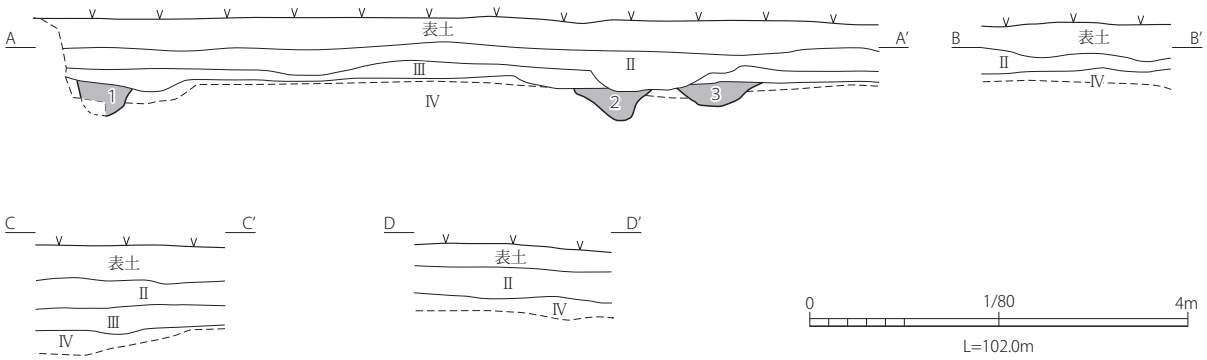
１・２は勝坂３式（井戸尻式）の深鉢口縁部である。１はソロバン玉のように口縁部が大きく内折し、キザミが施される縦位の隆帯３本とＸ字形の貼付隆帯が施文されている。２は内湾する口縁部に円形の突起がつき、胴部文様は幅広の沈線による区画内に縄文が充填されているようである。

３は曽利Ⅰ式の深鉢口縁部である。無文で、口唇部内側を断面三角形に肥厚させている。４は曽利Ⅳ式の胴部片で、沈線による区画内に縄文を充填している。５・６は曽利Ⅴ式の深鉢である。口縁部には幅広で浅い沈線が２条巡り、胴部地文はハの字文である。

第 180 図　天間沢遺跡第 39 地区　位置図

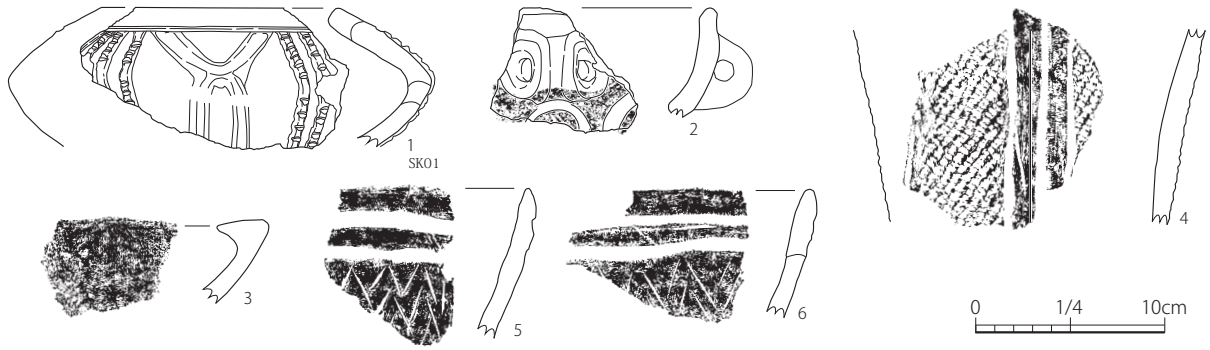


第 181 図　天間沢遺跡第 39 地区　トレンチ配置図



Ⅱ　黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまり弱。粘性やや弱。橙色粒子（3 ～ 8 ㎜）中量。
Ⅲ　黒褐色粘質土（10YR2/3）　しまりやや弱。粘性やや弱。橙色粒子（2 ～ 10 ㎜）少量。
Ⅳ　暗褐色粘質土（10YR3/3）　しまりやや弱。粘性やや強。橙色粒子（2 ～ 3 ㎜）微量。炭化物（2 ～ 5 ㎜）微量。
1　暗褐色粘質土（7.5YR3/3）　しまりやや強。粘性あり。礫（30 ～ 50 ㎜）少量。焼土、炭化物微量。　Pit01 覆土
2　黒色粘質土　（10YR2/1）　しまりやや強。粘性やや強。炭化物少量。　SK01 覆土
3　黒色粘質土　（10YR2/1）　しまりやや強。粘性やや強。炭化物少量。　SK02 覆土

第 182 図　天間沢遺跡第 39 地区　セクション図



第 183 図　天間沢遺跡第 39 地区　出土遺物実測図

第 24 表　天間沢遺跡第 39 地区　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	型式	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 183 図－ 1	R001・011	PL.5	SK01	縄文土器	勝坂 3（井戸尻）	深鉢	（12.4）	（7.5）	-	良好	30%	反転復元	10YR3/3（暗褐） 2.5YR5/6（明赤褐）
第 183 図－ 2	R006	PL.5	1Tr	縄文土器	勝坂 3（井戸尻）	深鉢	-	（5.2）	-	良好	-		10YR6/4（にぶい黄橙） 10YR5/4（にぶい黄褐）
第 183 図－ 3	R001	PL.5	1Tr	縄文土器	曽利 I	深鉢	-	（4.3）	-	良好	-		10YR7/4（にぶい黄橙） 10YR6/4（にぶい黄橙）
第 183 図－ 4	R012	PL.5	1Tr	縄文土器	曽利Ⅳ	深鉢	-	（9.6）	-	良好	-		5YR5/6（明赤褐） 7.5YR6/6（橙）
第 183 図－ 5	R005	PL.5	1Tr	縄文土器	曽利Ⅴ	鉢	-	（7.8）	-	良好	-		5YR4/6（赤褐） 5YR4/3（にぶい赤褐）
第 183 図－ 6	R001	PL.5	1Tr	縄文土器	曽利Ⅴ	鉢	-	（7.0）	-	良好	-		2.5Y7/3（浅黄） 2.5Y6/3（にぶい黄）

第３章　石坂２古墳群の調査

第１節　石坂２古墳群の概要

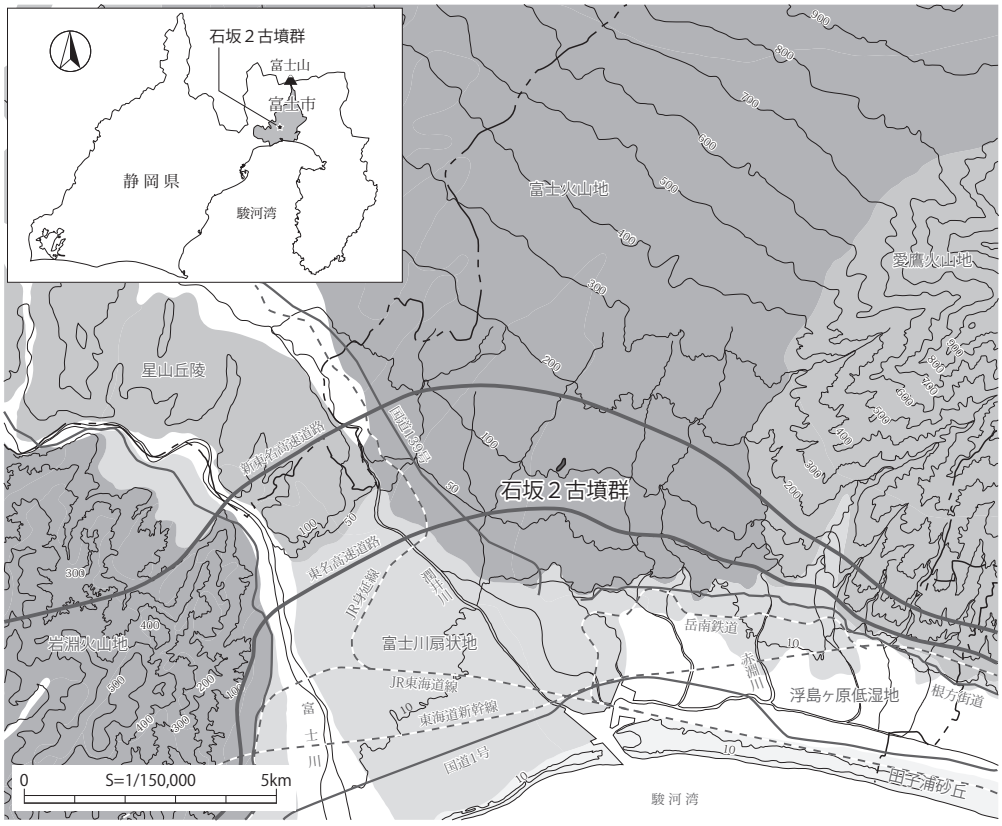
石坂２古墳群は、富士山南麓から延びる丘陵上の標高 105 ～ 120 m程に立地する３基の古墳（石坂Ｃ－第 11・25・26 号墳）で構成される。石坂Ｃ－第 11 号墳は宅地開発によりすでに消滅しているが、第 25 号墳（二タ子塚第１号墳）、第 26 号墳（二タ子塚第２号墳）の２基は主体部である横穴式石室と墳丘が残存している。過去の調査で二タ子塚第１号墳では全長 7.2 m、二タ子塚第２号墳では全長 9.0 mの横穴式石室が検出されており、比較的大型の石室を有する古墳であることが判明している（富士市教育委員会 1988）。

石坂２古墳群の周辺には、古墳時代後期～終末期に位置づけられる多くの古墳が確認されている。これらの古墳は、首長墳と位置づけられる伊勢塚古墳を始めとし、金銅製の鈴が出土した横沢古墳や多様な鉄製品が出土した中原第４号墳など伝法沢川沿いに築かれた６世紀～７世紀初頭の古墳群と、銅製帯金具・蕨手刀・金銅製方頭柄頭が出土した西平第１号墳や、銀象嵌大刀・丁字形利器が出土した東平第１号墳、ガラス製雁木玉・鉄鐸が出土した国久保古墳など、伝法沢川東岸の伝法・石坂地区に広く分布する７世紀以降の古墳群とに大別される。造墓原理や群構成が大きく変質する７世紀初頭に画期を認め、これ以降「王権等の地域を越えた権力による直接的な古墳群被葬者集団の把握や秩序化が行われた」（藤村 2011）と考えられている。

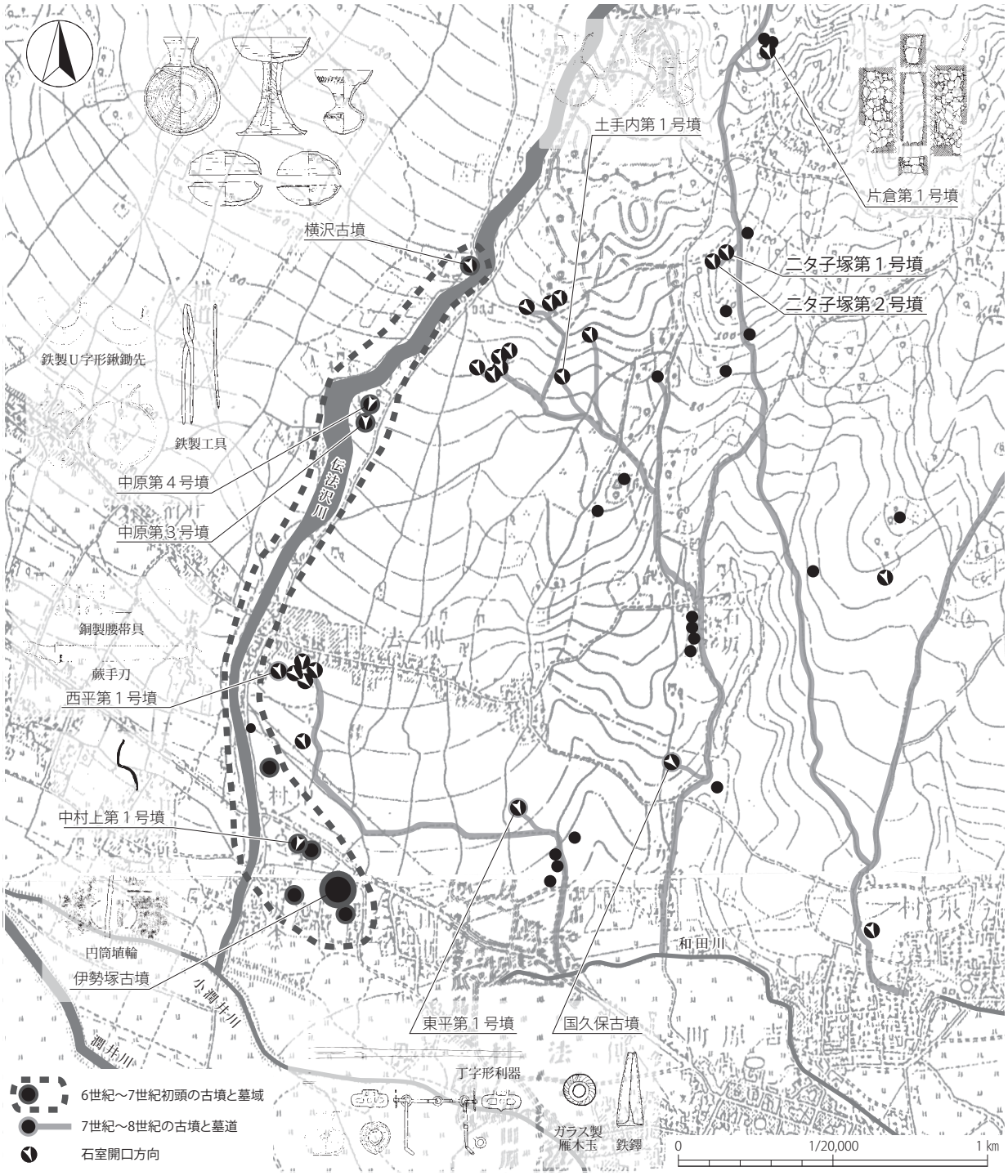
参考文献

富士市教育委員会 1988『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』

藤村　翔 2011「第３章 第４節 ４．伝法古墳群の構造と展開」『平成 13 年度富士市内遺跡・伝法 国久保古墳　埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市教育委員会



第 184 図　石坂２古墳群の位置と周辺地形図



第 185 図　石坂２古墳群周辺の主な古墳

第２節　第２地区（二タ子塚第２号墳）の調査成果

第１項　調査に至る経緯

平成 24 年５月、事業者は富士市石坂字二タ子 618 － 76（283㎡）において、土地の売買をおこなうための見切・造成工事を計画し、５月 28 日、文化振興課へ埋蔵文化財の照会が行われた。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「石坂２古墳群」

の範囲内にあたり、現存する石坂Ｃ－第 26 号墳（二タ子塚第２号墳）の南東に隣接していることから、古墳墳丘の範囲および南側への関連遺構の拡がりを確認する調査が必要であることを事業者に伝えた。

６月１日、富士市教育委員会教育長宛に事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が、土地所有者から「発掘調査承諾書」が提出され、文化振興課により確認調査を実施することとなった。

第２項　調査の経過

確認調査は６月 18 日から７月 24 日にかけて行った。

墳丘および周辺の清掃と現況測量を行った後、石室の主軸ライン（N － 17.48° －W）を基準とする調査グリッドを組み、調査地内に３ヶ所のトレンチ（総面積 18.494㎡）を設定して、重機および人力による掘削後、土層観察と精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、二タ子塚第２号墳の石室全長は 9.5 mを測ることが判明し、富士市域では、船津に所在する寺の上第１号墳、三ツ沢の実円寺西第１号墳、須津の千人塚古墳、比奈の大坂上古墳に次ぐ規模の大型石室墳であることが確認された。また、古墳の東側では古墳に関連する遺構が現況の土地境界を越えて開発予定地へ延びるという状況が確認された。遺物はコンテナ１箱の須恵器が出土し、７月 30 日、静岡県教育委員会宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第 217 号）を、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 217 － 2 号）を提出した。８月７日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 234 号）を提出した。

確認調査の結果を受けて、事業者が古墳に影響を及ぼさない工事計画を決定し、文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を提出したため、10 月 30 日、これを静岡県教育委員会教育長宛に進達した（富教文発第 376 号）。11 月６日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知された（教文第 1134 号）。11 月 19 日、文化振興課職員により工事立会いを実施し、１層（近代以降の盛土）中から須恵器片を採集した。

第３項　遺構

１・２トレンチの北端において、横穴式石室の入口部分に相当する、前庭側壁とみられる石積みが検出された。これにより、奥壁から前庭側壁南端までの石室全長は 9.5 mを測ることが判明した。

墳丘南側や西側（１・３トレンチ）では近代以降の盛土や石積みが石室石積み付近まで及んでおり（表土・１層）、古墳に伴う遺構は検出されなかった。一方、東側（２トレンチ）には古い時期とみられる墳丘崩落土・石材（２層）が多量の須恵器片とともに堆積しており、古墳に関連する遺構が東側へ拡がる状況が確認された。

第４項　遺物

須恵器 26 点を図示した（第 191 図）。

１～６は蓋である。いずれも天井部はヘラケズリされ、１・３の摘みは中央が盛り上がった円盤状を呈し、２の摘みは１・３よりも小型で上面が丸みをもつ。

７～ 13 は高台坏である。７～９は底部のみの残存である。いずれも底部が床と接するほどに丸みをもつ形態となるようで、底部外面をヘラケズリし、高台を貼り付けている。体部が残る 10 ～ 13 では、10・12 は底部と胴部の境が強く屈曲して体部が直線的に外へ開き、11・13 は底部と胴部の境の屈曲が 10・12 ほど明瞭でなく、体部はやや丸みをもって外へ開き、口唇部は外へ摘み出すように整えられている。

14 は坏の口縁部片、15 は長頸壺の頸部、16 は平瓶の肩部片である。17 の底部片には、剥離しているが高台が貼り付けられた痕跡が認められる。

18 ～ 26 は大型の甕である。18 ～ 20 は口縁部で、19 は端部に粘土を貼り付けて内外に肥厚させ、外面にクシ状工具で刺突文を巡らせている。20 の外面には沈線、クシ状工具による刺突文、波状文が巡る。21 は頸部片、22 ～ 26 は胴部片である。

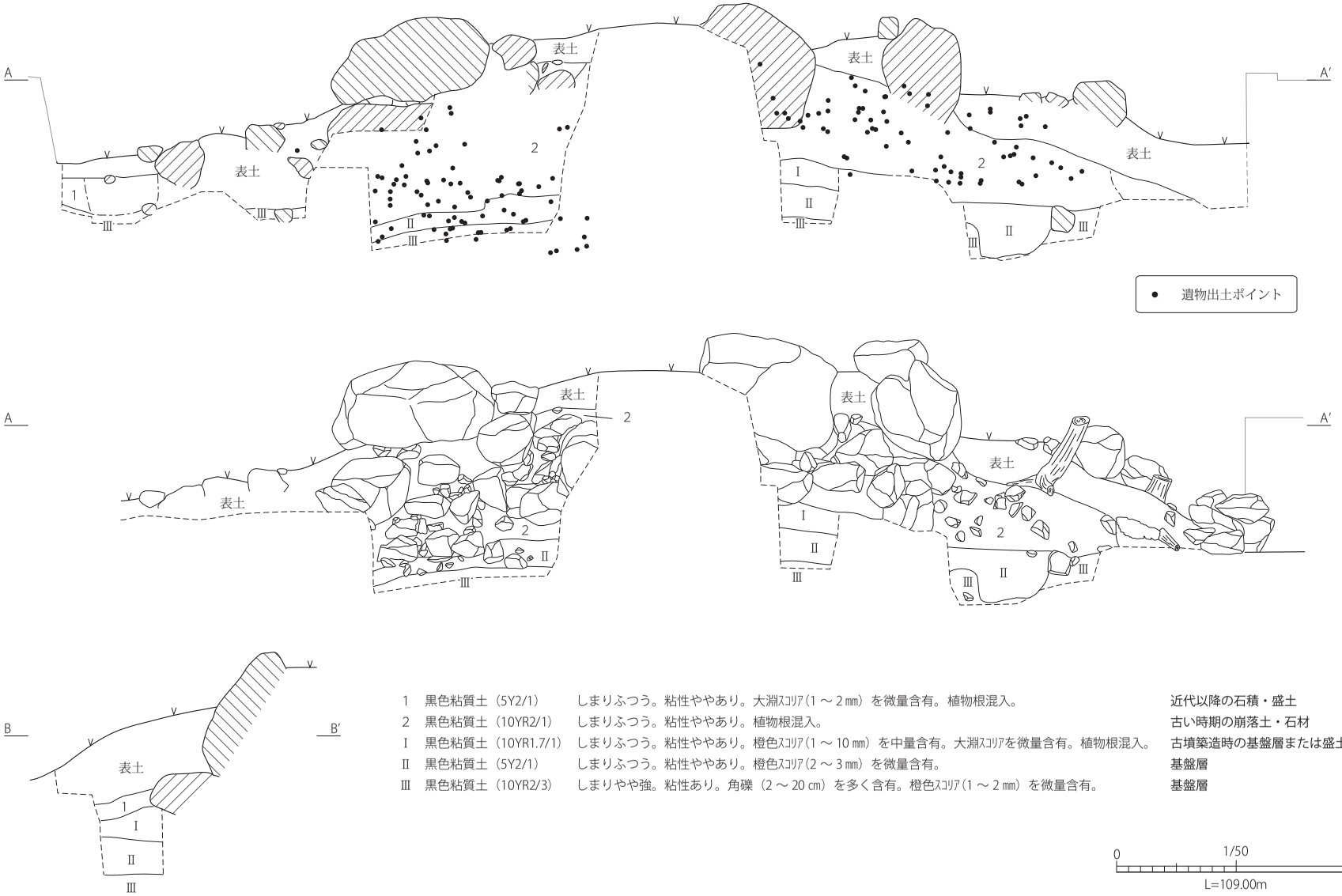
第 186 図　石坂２古墳群第２地区　位置図

第187図　二タ子塚第2号墳　墳丘平面図・エレベーション図

※　土層注記は第 190 図を参照。

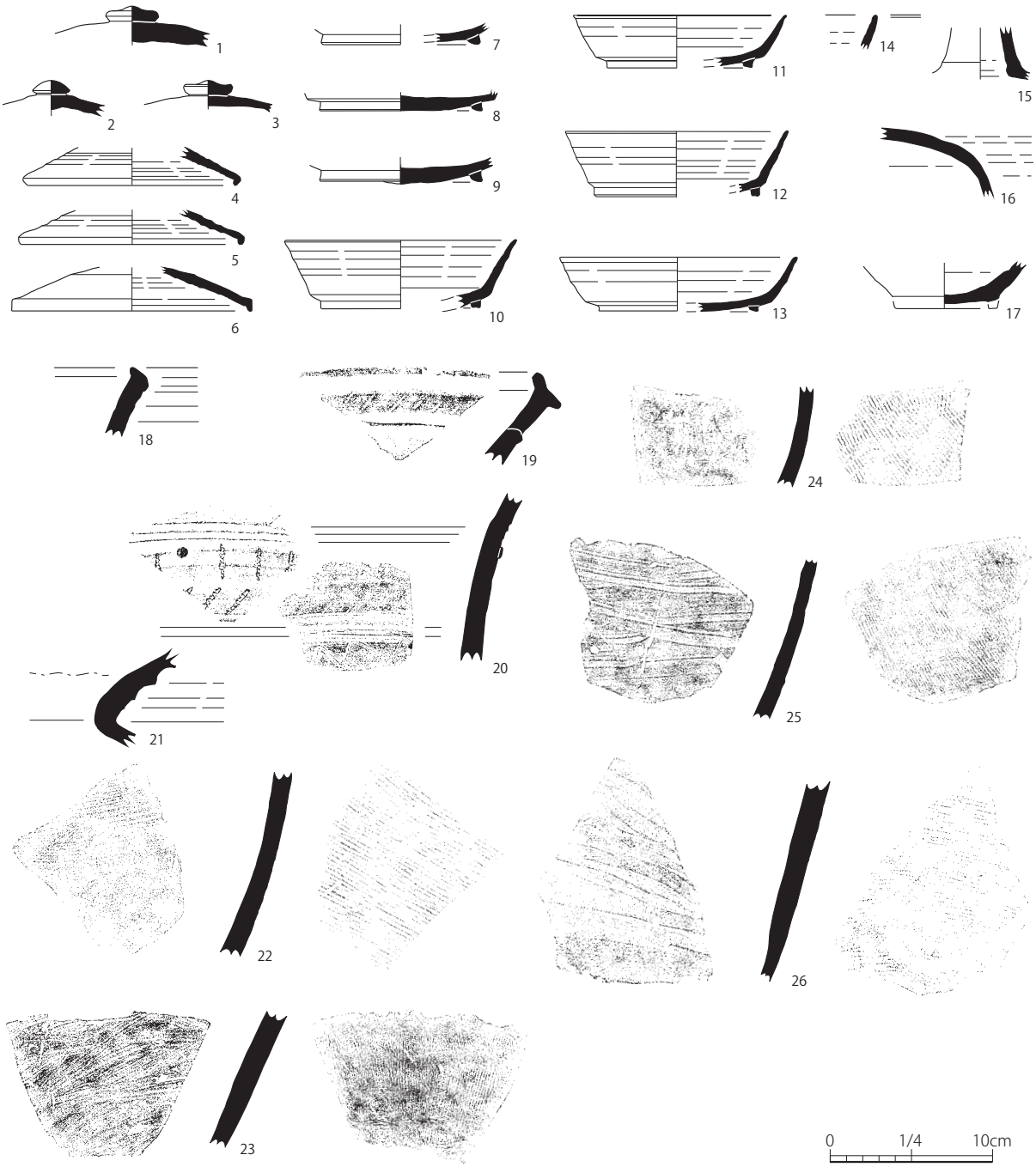
第 188 図　二タ子塚第２号墳　トレンチ配置図・主軸セクション図

第 189 図　二タ子塚第２号墳　トレンチ平面図



1	黒色粘質土（5Y2/1）	しまりふつう。粘性ややあり。大淵ｽｺﾘｱ（1 ～ 2 ㎜）を微量含有。植物根混入。	近代以降の石積・盛土
2	黒色粘質土（10YR2/1）	しまりふつう。粘性ややあり。植物根混入。	古い時期の崩落土・石材
Ⅰ	黒色粘質土（10YR1.7/1）	しまりふつう。粘性ややあり。橙色ｽｺﾘｱ（1 ～ 10 ㎜）を中量含有。大淵ｽｺﾘｱを微量含有。植物根混入。	古墳築造時の基盤層または盛土
Ⅱ	黒色粘質土（5Y2/1）	しまりふつう。粘性ややあり。橙色ｽｺﾘｱ（2 ～ 3 ㎜）を微量含有。	基盤層
Ⅲ	黒色粘質土（10YR2/3）	しまりやや強。粘性あり。角礫（2 ～ 20 ㎝）を多く含有。橙色ｽｺﾘｱ（1 ～ 2 ㎜）を微量含有。	基盤層

第 190 図　ニタ子塚第２号墳　セクション図



第 191 図　二タ子塚第２号墳　出土遺物実測図

第 25 表　二タ子塚第２号墳　出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 191 図－ 1	R002	PL.12	1Tr	須恵器	坏蓋	-	(2.4)	-	良好	-		2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y6/2（灰黄）
第 191 図－ 2	R122	PL.12	2Tr	須恵器	坏蓋	-	(2.35)	-	良好	-	反転復元	5Y6/1（灰）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 3	R152	PL.12	2Tr	須恵器	坏蓋	-	(1.9)	-	良好	-		2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y7/2（灰黄）
第 191 図－ 4	R109	PL.12	2Tr	須恵器	坏蓋	(12.8)	(2.3)	-	良好	25%	反転復元	5Y5/1（灰）	5Y5/1（灰）
第 191 図－ 5	R159	PL.12	1Tr	須恵器	坏蓋	(13.3)	(2.2)	-	良好	30%	反転復元	2.5Y5/1（黄灰）	2.5Y6/1（黄灰）
第 191 図－ 6	R156	PL.12	2Tr	須恵器	坏蓋	(14.7)	(2.6)	-	良好	35%	反転復元	2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y6/2（灰黄）
第 191 図－ 7	R126	PL.12	2Tr	須恵器	高台	-	(1.2)	(9.7)	良好	30%	反転復元	5Y7/2（灰白）	2.5Y7/2（灰黄）
第 191 図－ 8	R077	PL.12	2Tr	須恵器	高台	-	(1.1)	(9.8)	良好	25%	反転復元	5Y5/1（灰）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 9	R129	PL.12	2Tr	須恵器	高台	-	(1.6)	(9.3)	良好	40%	反転復元	5Y5/1（灰）	2.5Y7/2（灰黄）

挿図番号	R 番号	写真図版	遺構名	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 191 図－ 10	R006	PL.12	1Tr	須恵器	高台坏	(14.2)	(4.2)	(9.8)	良好	30%	反転復元	5Y6/1（灰）	2.5Y6/2（灰黄）
第 191 図－ 11	R032	PL.12	1Tr	須恵器	高台坏	(13.5)	(3.2)	(9.4)	良好	20%	反転復元	5Y5/1（灰）	N4/（灰）
第 191 図－ 12	R160	PL.12	1Tr	須恵器	高台坏	(13.8)	(4.0)	(9.8)	良好	20%	反転復元	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y6/2（灰黄）
第 191 図－ 13	R113	PL.12	2Tr	須恵器	高台坏	(15.3)	(3.3)	(10.6)	良好	30%	反転復元	5Y5/1（灰）	5Y4/1（灰）
第 191 図－ 14	R056	PL.12	1Tr	須恵器	坏	-	(2.05)	-	良好	-		5Y6/1（灰）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 15	R028	PL.12	1Tr	須恵器	長頸壺	-	(3.1)	-	良好	30%	反転復元	2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y7/2（灰黄）
第 191 図－ 16	R121	PL.12	2Tr	須恵器	平瓶	-	(4.1)	-	良好	-		2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y7/2（灰黄）
第 191 図－ 17	R027	PL.12	1Tr	須恵器	高台	-	(2.5)	-	良好	30%	反転復元	2.5Y6/1（黄灰）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 18	R100	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(4.2)	-	良好	-		5Y5/1（灰）	5Y4/1（灰）
第 191 図－ 19	R141	PL.12	1Tr	須恵器	甕	-	(5.7)	-	良好	-		5Y6/1（灰）	5Y5/1（灰）
第 191 図－ 20	R001・102	PL.12	1Tr	須恵器	甕	-	(10.2)	-	良好	-		2.5Y6/2（灰黄）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 21	R163	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(5.5)	-	良好	30%		2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y6/1（黄灰）
第 191 図－ 22	R099	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(11.2)	-	良好	-		2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y6/1（黄灰）
第 191 図－ 23	R100	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(8.3)	-	良好	-		2.5Y5/1（黄灰）	5Y6/1（灰）
第 191 図－ 24	R123	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(6.1)	-	良好	-		2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y7/1（灰白）
第 191 図－ 25	R099	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(9.7)	-	良好	-		2.5Y5/1（黄灰）	5Y5/1（灰）
第 191 図－ 26	R112	PL.12	2Tr	須恵器	甕	-	(12.2)	-	良好	-		2.5Y6/2（灰黄）	5Y6/1（灰）

第３節　第４地区の調査成果

第１項　調査に至る経緯

平成25年１月、事業者は富士市大淵201－２　外(993㎡）において、福祉施設建設事業を計画し、１月９日、工務所を通じて文化振興課へ埋蔵文化財の照会が行われた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「石坂２古墳群」の範囲内にあたり、当該地の東には現存する石坂Ｃ－第25号墳（二タ子塚第１号墳）が隣接し、南には石坂Ｃ－第26号墳（二タ子塚第２号墳）が存在していることから、確認調査が必要であることを工務所に伝えた。１月18日、富士市教育委員会教育長宛に事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が、土地所有者から「発掘調査承諾書」が提出され、文化振興課により確認調査を実施することとなった。

第２項　調査の経過

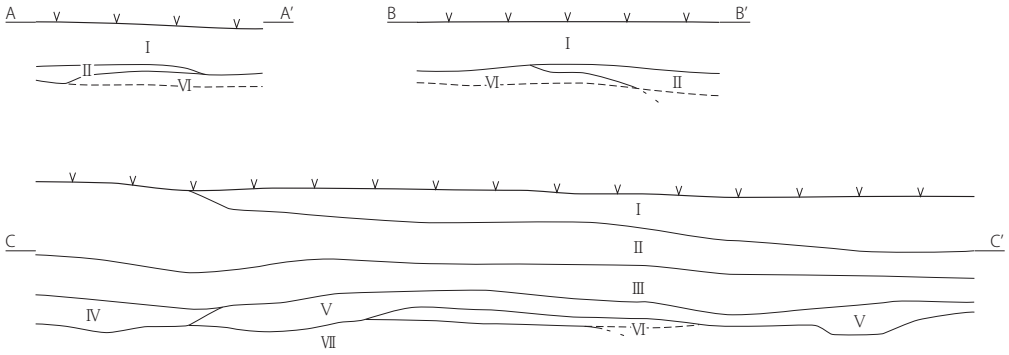
確認調査は平成25年２月５日から２月７日にかけて行った。二タ子塚第１号墳に近接する部分を含め、対象地内に５ヶ所のトレンチ（総面積53㎡）を設定して、重機による表土掘削後、人力により精査を行い遺構や遺物の検出につとめた。

その結果、明確な遺構や遺物は検出されなかったが、１トレンチ東端において基盤層の落ち込みと石材がみとめられた。落ち込み内の堆積土（Ⅳ層）が古墳時代の覆土とするには躊躇されるため、遺構としては認定しなかったが、傾斜自体は古墳築造時の旧地形や造作を反映している可能性がある。なお、各トレンチにおける耕作土や基盤層（Ⅵ～Ⅷ層）の状況から、東側や南側に立地する古墳に向って傾斜が下っていく旧地形を復元することができる。二タ子塚第１号墳・第２号墳は、当該地を北東から南西方向に縦断する尾根をそれぞれ後背部に共有しており、２つの古墳が並ぶように築造されていた状況が改めて確認された。

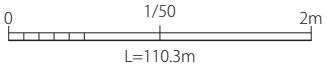
２月14日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第527号）を提出した。文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の

第192図　石坂２古墳群第４地区　位置図

届出書」が事業者から提出されたため、3月4日、これを静岡県教育委員会教育長宛に進達した（富教文発第554号）。3月26日、静岡県教育委員会教育長より「工事立会いの実施」の指示が通知され（教文第1732号）、工事着工後、文化振興課職員により工事立会いが実施されたが、その際にも遺構や遺物は確認されなかった。



Ⅰ　黒褐色（10YR2/2）　しまり弱、粘性なし。　駐車場造成の砕石層
Ⅱ　黒　色（7.5YR2/1）　しまり強、粘性やや強。　近代耕作土・造成土
Ⅲ　黒褐色（10YR2/2）　しまりやや強、粘性やや強。　近代耕作土・造成土
Ⅳ　黒褐色（10YR2/2）　しまり強、粘性強。径1～2㎝の小礫を中量含む。
Ⅴ　黒　色（10YR2/1）　しまり強、粘性強。径1～5㎜の橙色スコリアを少量含む。
Ⅵ　黒褐色（10YR3/2）　しまり強、粘性やや強。径1～5㎜の橙色スコリアを中量含む。径10㎝ほどの溶岩礫が混ざる。
Ⅶ　暗褐色（10YR3/4）　しまり強、粘性やや強。径1～5㎜の橙色スコリアを中量含む。径10㎝ほどの溶岩礫が混ざる。
Ⅷ　暗褐色（10YR3/3）　しまり強、粘性弱。硬く締まった溶岩層。



第193図　石坂2古墳群第4地区　トレンチ配置図・セクション図

第４章　コーカン畑遺跡　第２地区の調査

第１節　調査に至る経緯

事業者は、平成 24 年度に富士市江尾字久保上 727-1 の土地を取得し個人住宅新築工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「コーカン畑遺跡」の範囲内にあたることから、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを事業者及び土地所有者に伝えたところ、不動産売買に伴い土地所有者から平成 24 年５月 16 日、富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」及び「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて、文化振興課による確認調査（第１次調査）が実施されることとなった。

第２節　調査の経緯

確認調査　平成 24 年５月 29 日～６月１日に行った。調査地に２ヶ所のトレンチ（総面積 45.539㎡）を設定し、重機による掘削後、人力により精査し、遺構・遺物の検出につとめた。その結果、１トレンチにおいて地表下 10 ～ 30㎝で覆土に大淵スコリアの単層が堆積している古墳時代の竪穴建物跡を検出した。加えて２トレンチからは土師器、須恵器等とともに竪穴建物跡のカマドが確認された。さらに、これら古墳時代の遺構検出面の下層には、縄文土器を包含する灰黄褐色土層（FB）が堆積し、その下面（地表下約 50cm）において縄文時代のピットを検出した。

６月４日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 118 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第 118-2 号）を提出した。

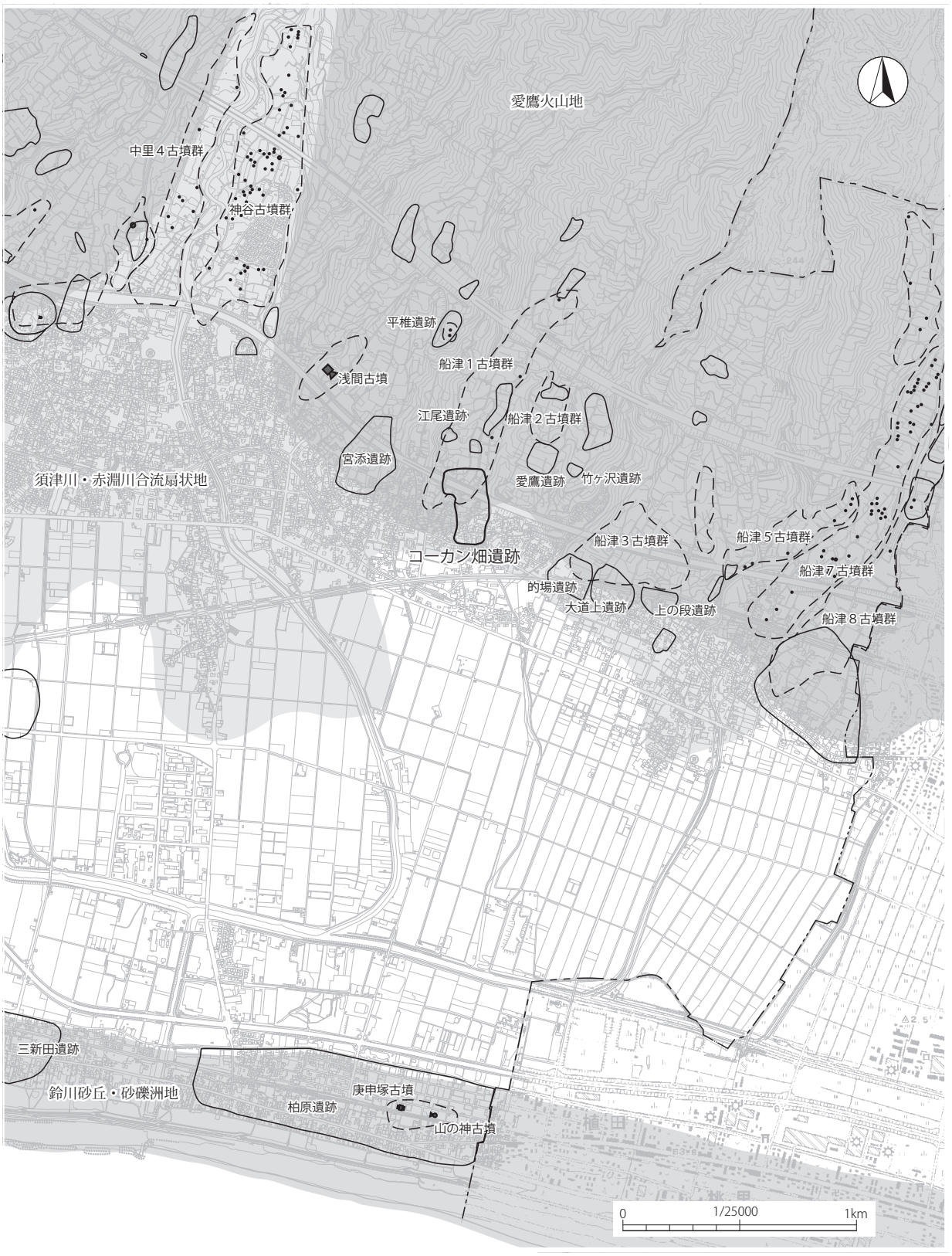
６月７日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」を提出し、７月 12 日に文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県教育委員会教育長宛に進達（富教文発第 192 号）した。

確認調査の結果、調査地全域に遺構が存在する可能性が高く、また、工事により遺跡保護層の確保が難しいと判断されることから、７月 24 日、静岡県教育委員会教育長から住宅の基礎工部分と土地南側の擁壁設置工部分について本発掘調査を実施するように指示があり（教文第 601 号の２）、これを事業者に伝達（富教文発第 226 号）した。８月１日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」が、事業者及び土地所有者から「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長宛に提出され、本発掘調査（第２次調査）が実施されることとなった。

本発掘調査　平成 24 年８月６日～９月 27 日に行った。擁壁設置工部分（Ⅰ区）と住宅の基礎工部分（Ⅱ区）の範囲（173.13㎡）を調査区とした。重機による表土掘削後、人力により第１面の遺構・遺物を検出し、測量・実測・写真撮影等の記録作業を行い、第１面の調査終了後、第２面として褐色土層（Ⅳ層）上面まで人力により掘削し、縄文時代以前の遺構・遺物の検出を行った。

調査の結果、第１面においては、弥生時代の遺構として認識される溝状遺構（SD2）や、古墳時代後期以降の竪穴建物跡６軒を検出・完掘した。また、第２面においては縄文時代の集石遺構１基、土坑、ピットなどを検出・完掘した。遺物は灰黄褐色土層（Ⅲ層）の下層から多く出土し、縄文土器、石器のほか黒曜石、焼石が出土した。

10 月３日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 314 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」を提出し、10 月 18 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 348 号）を提出した。



第 194 図　コーカン畑遺跡位置図

第３節　立地と基本土層

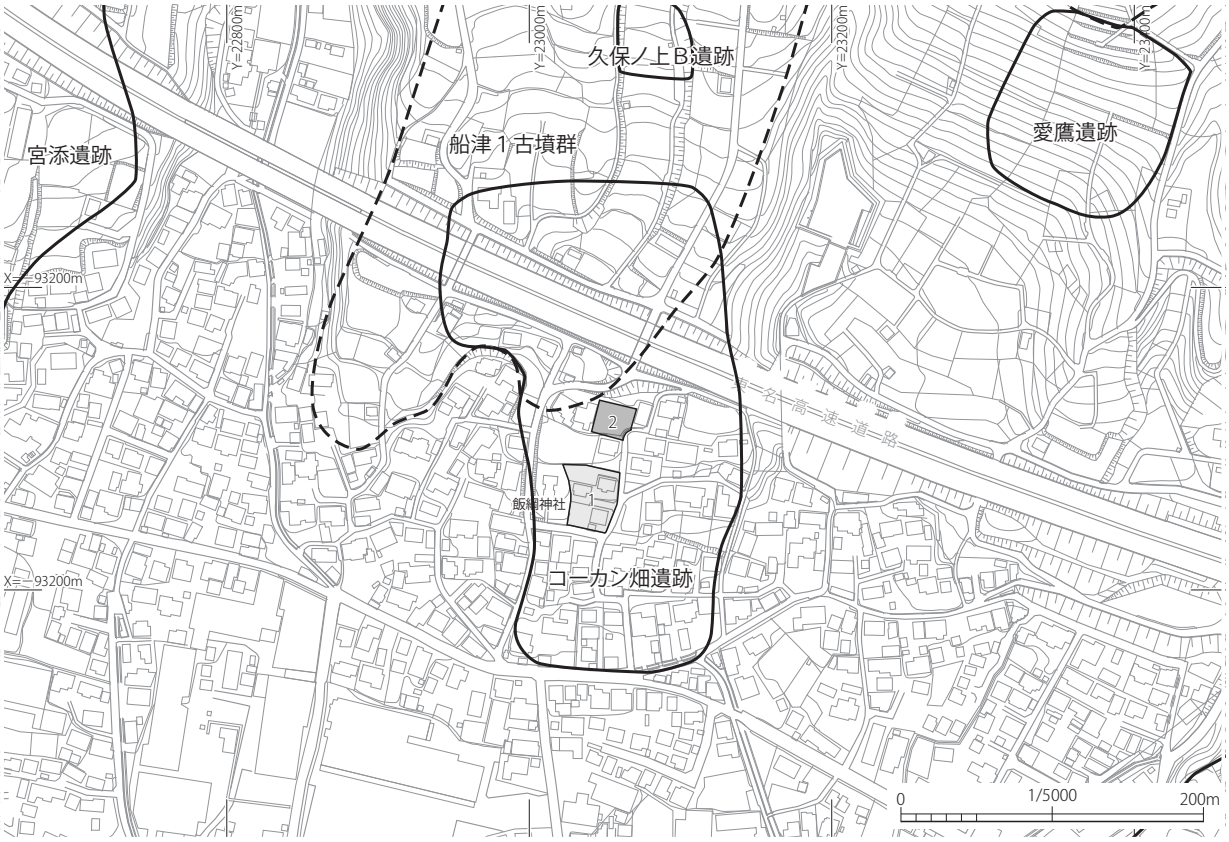
立地と環境　コーカン畑遺跡の立地する愛鷹山麓は富士火山の南南東、箱根火山の西に接した成層火山で、富士市の赤淵川を境に富士火山の溶岩の影響を受けていないため、愛鷹ロームの堆積が安定しており、旧石器時代の遺跡が多数発見されている。愛鷹山麓は多くの小河川により侵食を受けた谷が多数存在している。前述の赤淵川をはじめ、西から須津川、春山川、高橋川など比較的、谷幅のある河川が浮島ヶ原低地に注ぎ込みラグーンを形成している。コーカン畑遺跡は浮島ヶ原低地の北、丘陵先端の標高 20 m前後に立地する縄文時代から平安時代にかけての集落遺跡である。

コーカン畑遺跡は、長らくその実態が明らかではなかったが平成 21 年度にはじめて行われた調査により、古墳時代から平安時代の竪穴建物跡９軒を含む集落跡が検出されている（富士市教育委員会 2010）。

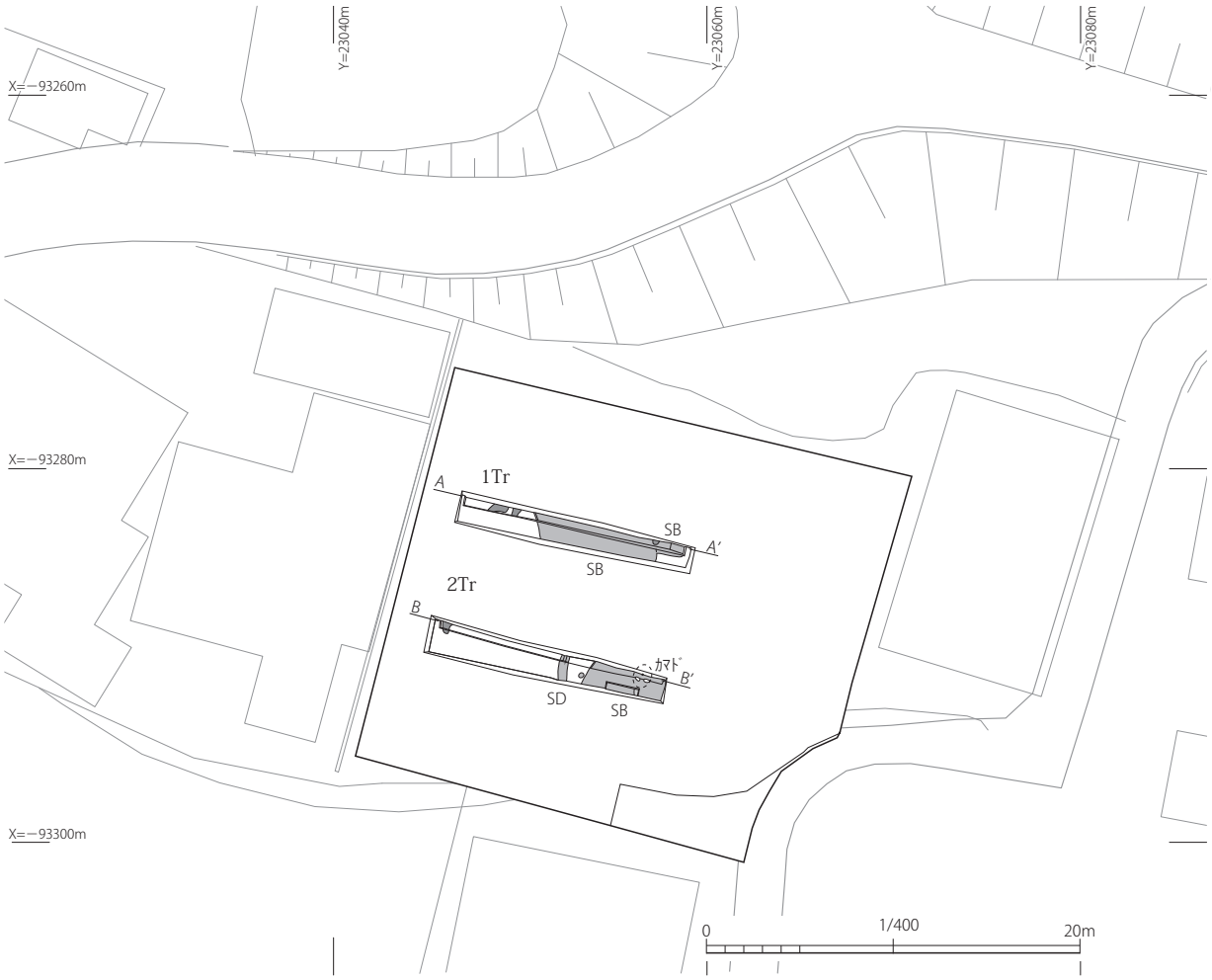
基本土層　Ⅰ層は表土である。Ⅱ層は黒褐色土層で、橙色スコリア（大沢スコリア）を含む。大淵スコリア降下以前の堆積土層と認識される。ただし、削平を受けており部分的にしか残存しない。本来、Ⅱ層の上層には、大淵スコリアを多量に含む自然堆積層が存在したはずだが、削平のため認められない。Ⅲ層は富士黒対応層である灰黄褐色土層。この下層に縄文時代の遺物を包含する。Ⅳ層は休場対応層である。

参考文献

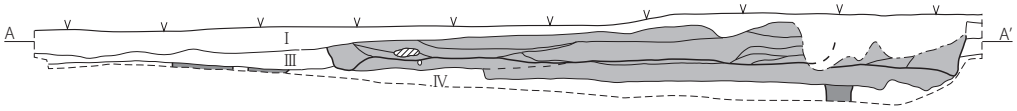
富士市教育委員会 2010『コーカン畑遺跡』



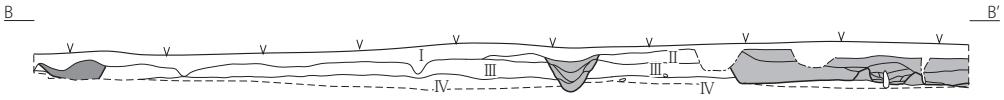
第 195 図　調査地位置図

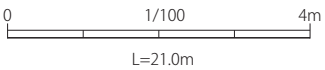


1Tr 北壁東西セクション



2Tr 北壁東西セクション



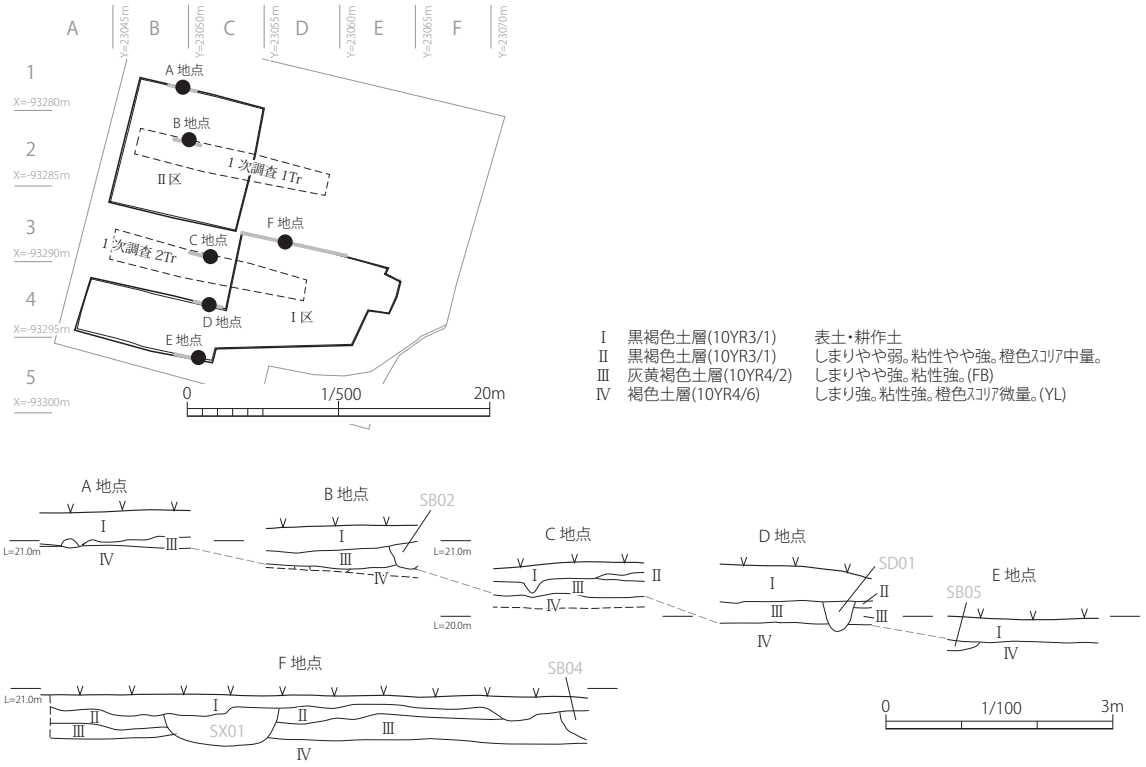


I	黒褐色土層(10YR3/1)	表土・耕作土
II	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや弱。粘性やや強。橙色ｽｺﾘｱ中量。
III	灰黄褐色土層(10YR4/2)	しまりやや強。粘性強。(FB)
IV	褐色土層(10YR4/6)	しまり強。粘性強。橙色ｽｺﾘｱ微量。(YL)

縄文時代の遺構

古墳時代以降の遺構

第196図　1次調査　トレンチ平面図・セクション図



第 197 図　基本土層図

第 4 節　縄文時代の遺構と遺物

集石遺構

SS101

遺構（第 198 図）

位置：調査区Ⅱ区　C2 グリッド

主軸：不明

残存状況：形状は楕円形を呈し、長軸 98cm、短軸 82cm、深さ 15cm を測る。遺構内に 10cm 前後の多量の礫が集石し、殆どの礫は焼けた状態で検出された。

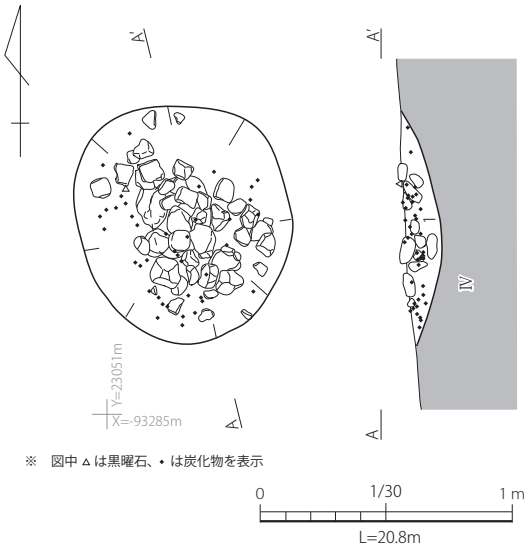
覆土：黒褐色土で、礫のほか炭化物粒も多数混入している。

出土遺物

　図化出来た資料はないが、黒曜石の出土が確認されている。

所見

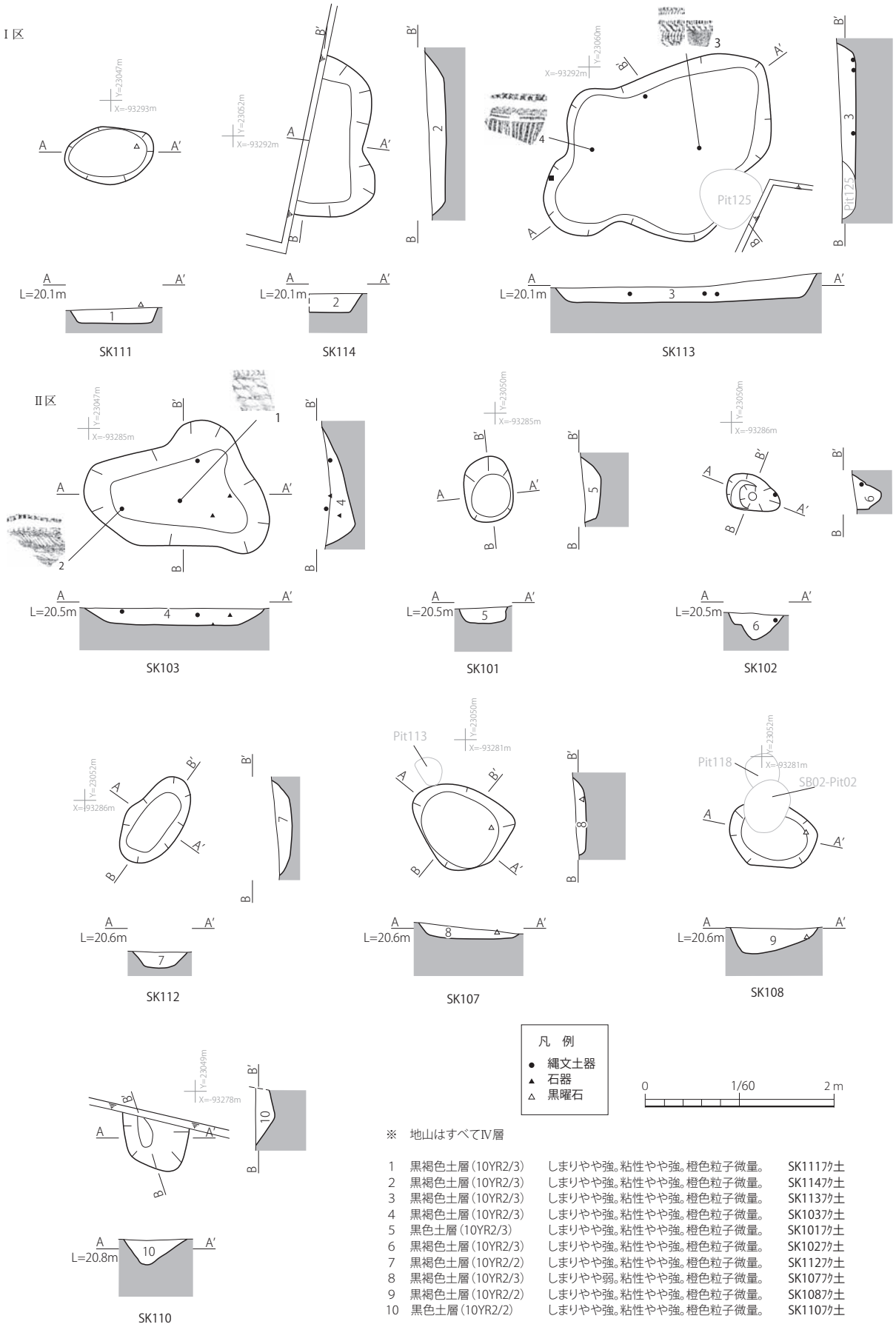
　時期は明らかではないが、縄文時代の集石土坑と考えられる。



1　黒褐色土層　しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。　SS101ﾌｸ土
(10YR2/2)　炭化物が上位に中量含む。

第 198 図　SS01

第199図　縄文時代　遺構全体図



※ 地山はすべてⅣ層

1	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK111ﾌﾟﾗﾝ土
2	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK114ﾌﾟﾗﾝ土
3	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK113ﾌﾟﾗﾝ土
4	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK103ﾌﾟﾗﾝ土
5	黒色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK101ﾌﾟﾗﾝ土
6	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK102ﾌﾟﾗﾝ土
7	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK112ﾌﾟﾗﾝ土
8	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK107ﾌﾟﾗﾝ土
9	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK108ﾌﾟﾗﾝ土
10	黒色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。橙色粒子微量。	SK110ﾌﾟﾗﾝ土

第 200 図　縄文時代　土坑

土坑

遺構（第 200 図）

縄文時代の土坑は、10 基検出した。形状、規模については第 26 表のとおりとなる。

出土遺物（第 202 図）

SK103 の遺物２点（１・2）、SK113 の遺物２点（３・４）を図示した。１・２は塩屋中層式の土器である。ともに貝殻腹縁文を施し、全体的に薄く成形している。３・４は五領ヶ台式である。

ピット

遺構（第 201 図）

縄文時代のピットは、11 基検出した。形状、規模については第 26 表のとおりとなる。

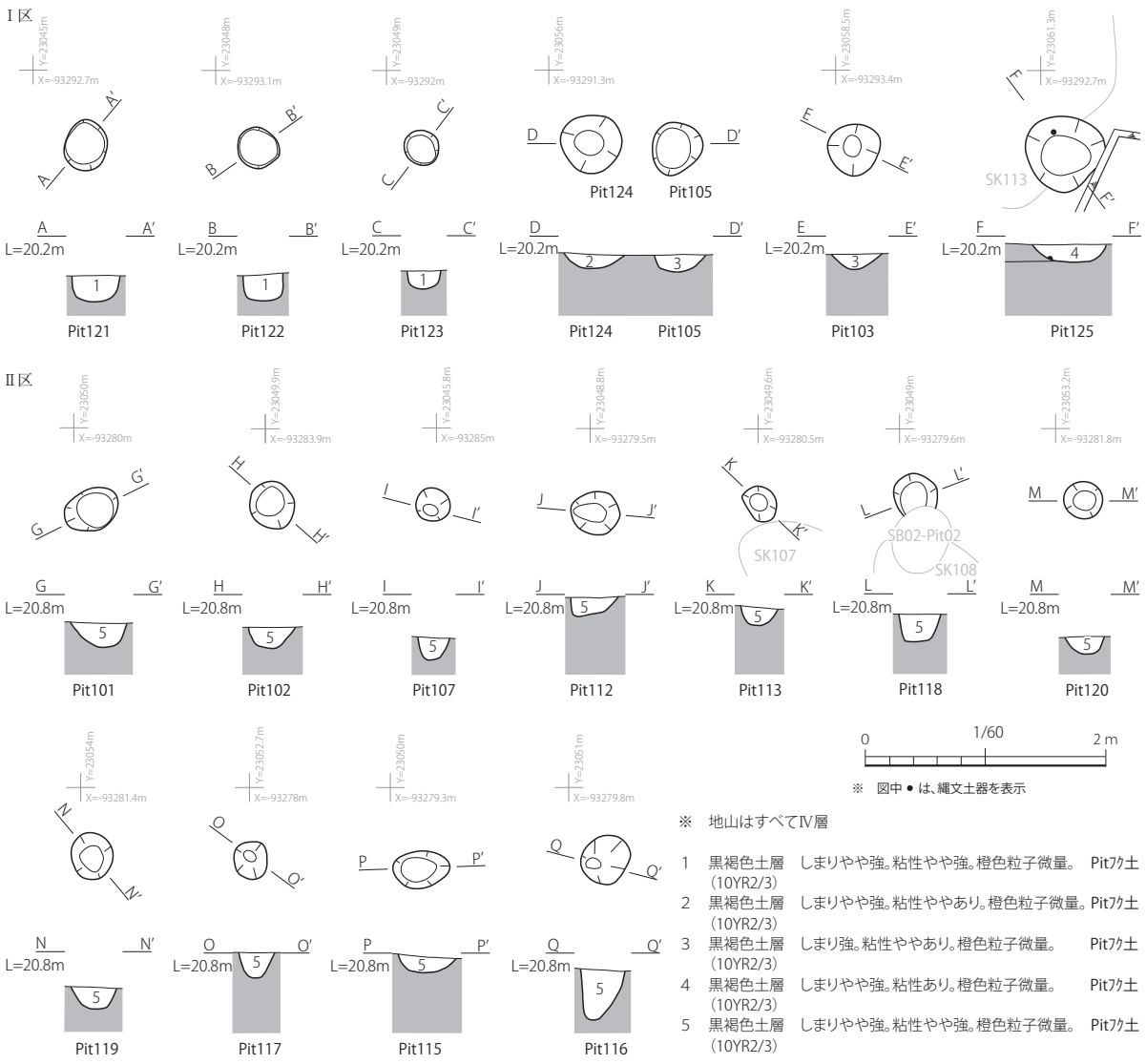
出土遺物（第 202 図）

５は Pit105 の遺物で諸磯ｂ式、６は Pit120 の遺物で諸磯ｂ式の破片と考えられる。

遺構外出土遺物（第 203 図・第 204 図）

１・２は条痕文系土器である打越式の破片である。いずれも貝殻腹縁文の引きずり手法で鋸歯状文が施される。

３～ 24 は諸磯ｂ式である。３は口縁部に横位の半裁竹管状工具による沈線が施される。４には、地文縄文が認められる。５は口唇部に半裁竹管連続押捺をもち、折り返し口縁となる。６は縄文施文のみで、口唇部に指押しが見られる。７から９はいずれも連続半裁竹管文が施される。10 から 15 は地文の上に横位の連続半裁竹管



第 201 図　縄文時代　ピット

文が、16・17・20 はさらに縦位の連続半裁竹管文が見られる。18 には渦巻き状の竹管文、22 には円形の竹管文が見られる。

25 ～ 28 は諸磯 c 式である。25 は半裁竹管状工具により縦位、横位の順に沈潜が施される。26 から 28 には円形貼付文に矢羽状の沈線が施される。

29 ～ 59 は五領ヶ台式である。9 は横位の半裁竹管状工具による沈線を施し、口唇部にも線状の刻みを施す。30・31 は、縦位、横位の順に沈線を施し、31 は若干内湾する口縁部に棒状工具による刻みが施される。35 は口唇部に半裁竹管状工具による刻みが施されている。37・39 は口唇部、口縁部に横、斜め、縦の粘土紐を貼り付け、横位の粘土紐の上を指でつまんでいる。38 にも横位粘土紐の摘み上げが施されるが、粘土紐の上下にもわずかなくぼみが認められる。40 は、半裁竹管状工具により、横位の区画を作り、その上に刺突を施す。43 から 46 も半裁竹管状工具による沈線が各方向に認められる。47 は連続爪形文が帯状に施されている。49 から 56 は地文に粘土紐を貼り付け指で摘みあげている。

60 から 62 は北裏 c 式である。60 は横位に連続爪形文で区画し、その内部に上下相互に刺突を施している。61 は、蒲鉾状沈線で区画した上に刺突を施している。

63 ～ 67 は北白川 c 式である。横位に半裁竹管状工具により細かな刺突が認められる。

68 は称名寺式、69・70 は堀之内式の破片である。

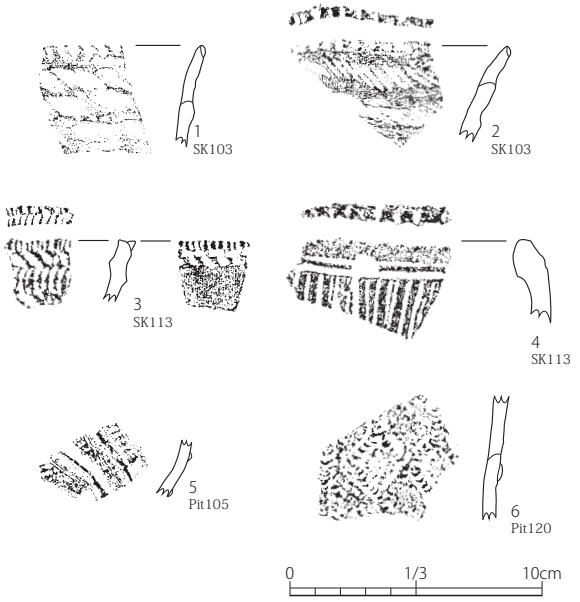
第 26 表　縄文時代　土坑・ピット一覧

・土坑

遺構番号	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）			遺物
				長軸	短軸	深さ	
SK101	Ⅱ区	B3	楕円形	69	53	18	
SK102	Ⅱ区	C3	楕円形	60	38	28	
SK103	Ⅱ区	B3	不整楕円形	202	137	29	第 202 図－ 1・2
SK107	Ⅱ区	B2	楕円形	106	84	13	
SK108	Ⅱ区	C2	楕円形	93	68	26	
SK110	Ⅱ区	B1	楕円形	76	(46)	24	
SK111	Ⅰ区	B4	楕円形	96	64	16	
SK112	Ⅱ区	C3	楕円形	102	57	17	
SK113	Ⅰ区	E4	不整楕円形	280	200	17	第 202 図－ 3・4
SK114	Ⅰ区	C4	不整楕円形	174	(70)	20	

・ピット

遺構番号	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）			遺物
				長軸	短軸	深さ	
Pit101	Ⅱ区	C2	楕円形	47	35	20	
Pit102	Ⅱ区	B2	円形	39	37	20	
Pit103	Ⅰ区	D4	円形	45	43	14	
Pit105	Ⅰ区	D4	円形	45	43	15	第 202 図－ 5
Pit107	Ⅱ区	B3	円形	28	27	19	
Pit112	Ⅱ区	B2	楕円形	40	36	14	
Pit113	Ⅱ区	B2	楕円形	31	24	15	
Pit115	Ⅱ区	C2	楕円形	49	31	14	
Pit116	Ⅱ区	C2	楕円形	41	36	41	
Pit117	Ⅱ区	C1	楕円形	31	27	21	
Pit118	Ⅱ区	C2	円形	36	35	23	
Pit119	Ⅱ区	C2	円形	38	36	18	
Pit120	Ⅱ区	C2	円形	33	32	15	第 202 図－ 6
Pit121	Ⅰ区	B4	楕円形	40	36	22	
Pit122	Ⅰ区	B4	円形	35	33	22	
Pit123	Ⅰ区	B4	円形	31	28	15	
Pit124	Ⅰ区	D4	円形	51	50	12	
Pit125	Ⅰ区	E4	円形	63	60	15	



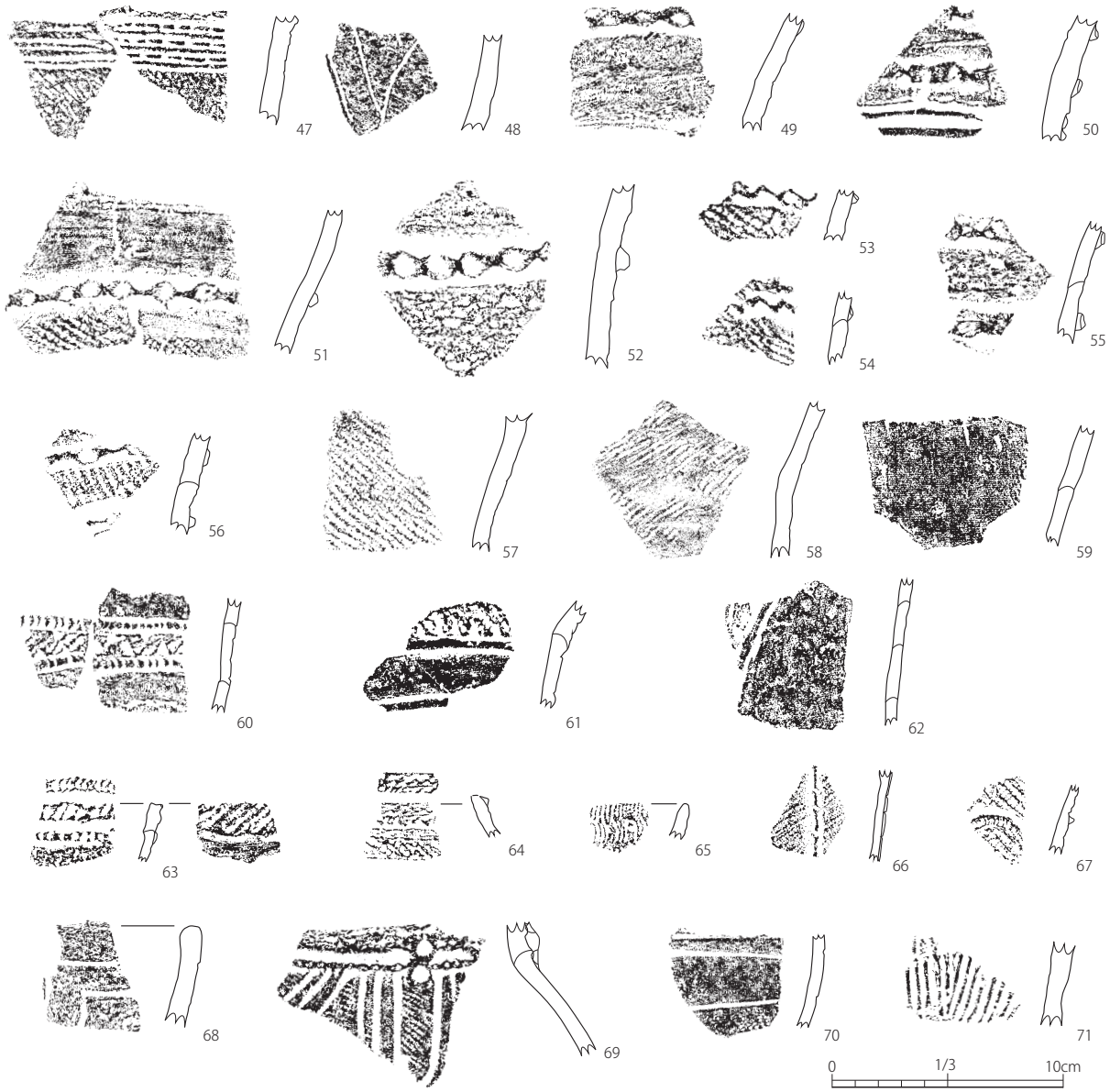
第 202 図　縄文時代　遺構出土遺物

第 27 表　縄文遺構出土遺物観察表

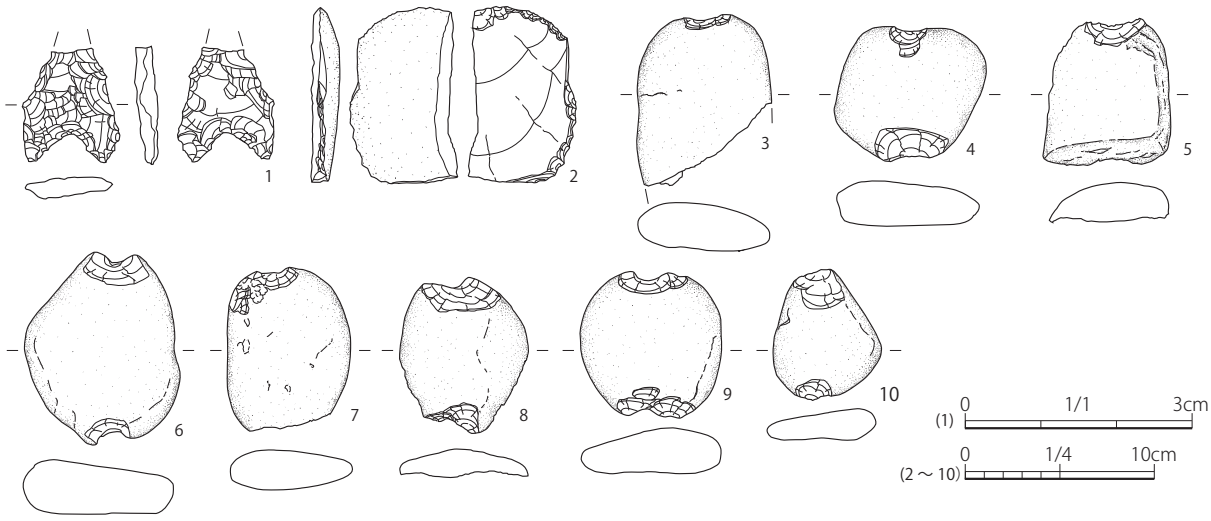
・縄文土器

挿図番号	遺構名	R 番号	写真図版	細別	型式	法量（cm）			焼成	残存率	内面色調	外面色調
						口径	器高	底径				
第 202 図－ 1	SK103	R312	PL.22	深鉢	塩屋中層		(4.0)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR6/6（橙）
第 202 図－ 2	SK103	R256	PL.22	深鉢	塩屋中層		(3.8)		良好		5YR5/6（明赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 202 図－ 3	SK113	R311	PL.22	鉢	五領ヶ台		(2.3)		良好		7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）
第 202 図－ 4	SK113	R314	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(3.5)		良好		5YR4/6（赤褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 202 図－ 5	Pit105	R307	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.4)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 202 図－ 6	Pit120	R251	PL.22	鉢	諸磯 b		(4.9)		良好		7.5YR3/1（黒褐）	7.5YR4/3（褐）

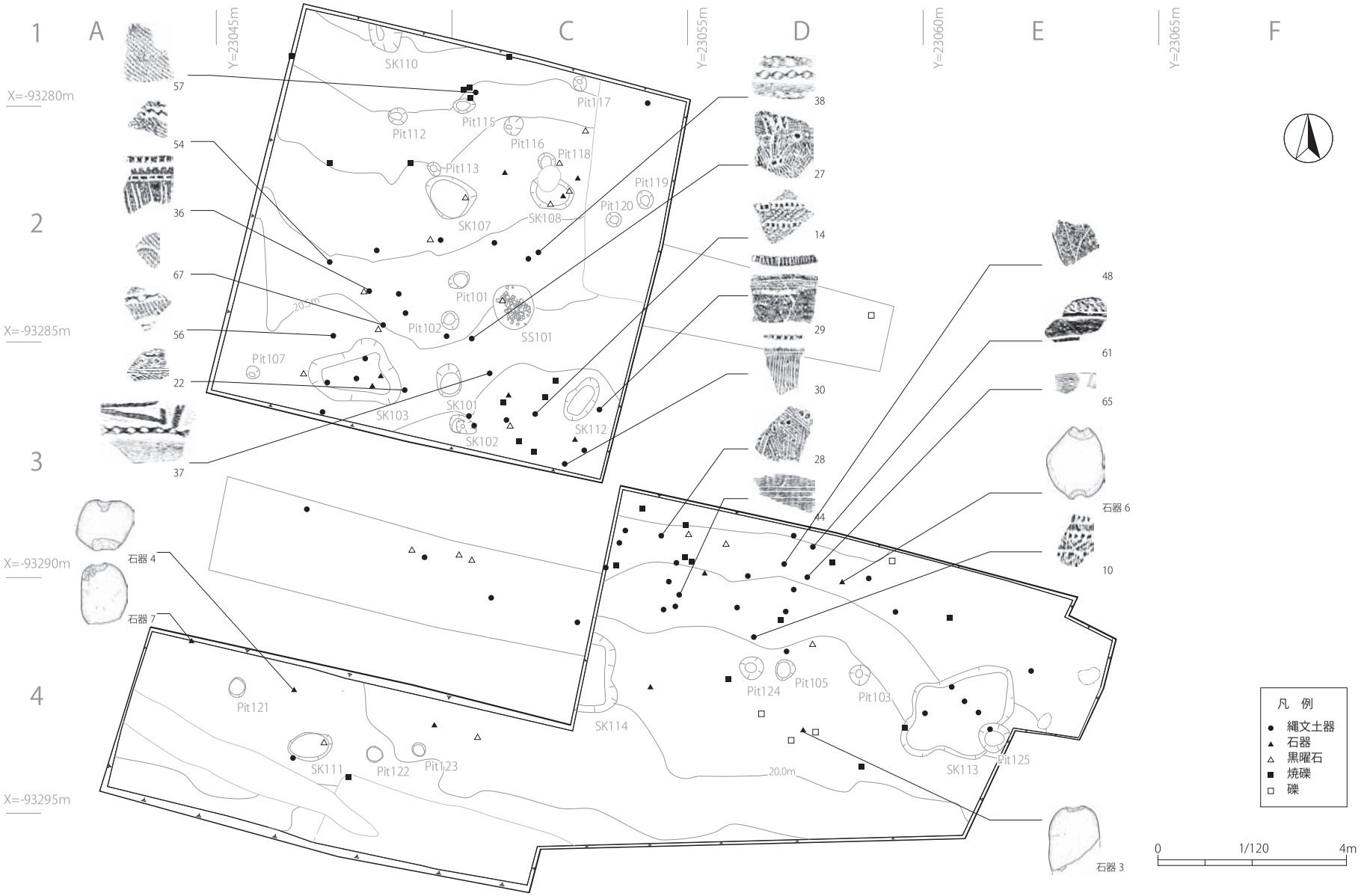
第 203 図　縄文時代遺構外出土遺物　①（縄文土器）



第 204 図　縄文時代遺構外出土遺物　②（縄文土器）



第 205 図　縄文時代遺構外出土遺物　③（石器）



第 206 図　縄文時代　遺物・礫出土状況図

第 28 表　遺構外出土遺物観察表

・縄文土器

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	型式	法量（cm）			焼成	残存率	内面色調	外面色調
					口径	器高	底径				
第 203 図－ 1	R022	PL.22	深鉢	打越		(3.3)		良好		5YR4/6（赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）
第 203 図－ 2	R202	PL.22	深鉢	打越		(2.6)		良好		5YR5/6（明赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 203 図－ 3	R304	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.2)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 203 図－ 4	R131	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.5)		良好		10YR6/6（明黄褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）
第 203 図－ 5	R328	PL.22	深鉢	諸磯 b		(1.8)		良好		2.5Y3/3（暗オリーブ褐）	2.5Y3/1（黒褐）
第 203 図－ 6	R242	PL.22	深鉢	諸磯 b		(3.2)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 7	R260	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.0)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 8	R319	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.8)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	5Y3/1（オリーブ黒）
第 203 図－ 9	R054	PL.22	深鉢	諸磯 b		(2.5)		良好		7.5YR4/6（褐）	7.5YR4/6（褐）
第 203 図－ 10	R091、172	PL.22	深鉢	諸磯 b		(5.5)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）
第 203 図－ 11	R084	PL.22	深鉢	諸磯 b		(3.3)		良好		5YR4/4（にぶい赤褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 12	R038	PL.22	鉢	諸磯 b		(3.5)		良好		7.5YR4/4（褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）
第 203 図－ 13	R031、061	PL.22	深鉢	諸磯 b		(4.7)		良好		5YR5/6（明赤褐）	7.5YR5/6（明褐）
第 203 図－ 14	R170	PL.22	深鉢	諸磯 b		(4.7)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 15	R211	PL.22	鉢	諸磯 b		(4.0)		良好		7.5YR4/4（褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 16	R127	PL.22	鉢	諸磯 b		(4.2)		良好		5YR5/6（明赤褐）	2.5Y5/8（明赤褐）
第 203 図－ 17	R210	PL.22	深鉢	諸磯 b		(3.8)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 18	R122	PL.22	鉢	諸磯 b		(2.7)		良好		5YR5/6（明赤褐）	2.5Y3/3（暗オリーブ褐）
第 203 図－ 19	R320	PL.22	浅鉢	諸磯 b		(2.2)		良好		5YR6/8（橙）	5YR6/6（橙）
第 203 図－ 20	R003	PL.22	鉢	諸磯 b		(5.5)		良好		7.5YR3/2（黒褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 203 図－ 21	R319	PL.22	鉢	諸磯 b		(4.3)		良好		10YR3/1（黒褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）
第 203 図－ 22	R216	PL.22	鉢	諸磯 b		(3.9)		良好		5YR4/8（赤褐）	2.5Y4/2（暗灰黄）
第 203 図－ 23	R013	PL.22	深鉢	諸磯 b		(3.3)		良好		10YR4/3（にぶい黄褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 24	R009	PL.22	底部	諸磯 b		(3.3)	(4.8)	良好	35%	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）
第 203 図－ 25	R003、004	PL.22	深鉢	諸磯 c		(3.6)		良好		10YR2/2（黒褐）	5YR4/6（赤褐）
第 203 図－ 26	R008	PL.22	深鉢	諸磯 c		(4.8)		良好		7.5YR4/3（褐）	7.5YR4/4（褐）
第 203 図－ 27	R321	PL.22	深鉢	諸磯 c		(7.5)		良好		7.5YR3/3（暗褐）	7.5YR3/4（暗褐）
第 203 図－ 28	R254	PL.22	深鉢	諸磯 c		(6.0)		良好		7.5YR3/3（暗褐）	7.5YR3/4（暗褐）
第 203 図－ 29	R194	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(5.0)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR4/3（にぶい黄褐）
第 203 図－ 30	R279	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(4.7)		良好		2.5Y3/2（黒褐）	10YR3/3（暗褐）
第 203 図－ 31	R328	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(3.5)		良好		5YR4/4（にぶい赤褐）	7.5YR3/3（暗褐）
第 203 図－ 32	R304	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(2.9)		良好		5YR4/6（赤褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 33	R209	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(3.5)		良好		7.5YR4/6（褐）	10YR4/2（灰黄褐）
第 203 図－ 34	R320	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(2.5)		良好		5YR5/6（明赤褐）	10YR3/3（暗褐）
第 203 図－ 35	R233	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(1.5)		良好		10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）
第 203 図－ 36	R215	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(3.8)		良好		2.5YR5/6（明赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）
第 203 図－ 37	R217	PL.22	深鉢	五領ヶ台		(5.9)		良好		7.5YR4/4（褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 38	R302	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.0)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 203 図－ 39	R206	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.2)		良好		7.5YR4/6（褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 203 図－ 40	R226、235	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(2.2)		良好		7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 203 図－ 41	R209	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.3)		良好		5YR4/6（赤褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 42	R100	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(2.8)		良好		7.5YR4/4（褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 43	R319	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(2.6)		良好		10YR3/3（暗褐）	7.5YR4/4（褐）
第 203 図－ 44	R267	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(3.0)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR4/3（褐）
第 203 図－ 45	R107	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(2.8)		良好		5YR4/6（赤褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 203 図－ 46	R126	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(6.0)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	7.5YR4/3（褐）
第 204 図－ 47	R329	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.8)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）
第 204 図－ 48	R316	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.2)		良好		7.5YR4/6（褐）	7.5YR4/3（褐）
第 204 図－ 49	R238	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(5.0)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR4/3（褐）
第 204 図－ 50	R010	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(5.4)		良好		2.5Y3/2（黒褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 204 図－ 51	R022	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(6.4)		良好		7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR3/4（暗褐）
第 204 図－ 52	R123	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(8.4)		良好		10YR6/6（明黄褐）	10YR6/4（にぶい黄褐）
第 204 図－ 53	R101	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(2.2)		良好		7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 204 図－ 54	R184	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(3.2)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	7.5YR4/6（褐）
第 204 図－ 55	R084	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(5.3)		良好		7.5YR4/3（褐）	7.5YR4/3（褐）
第 204 図－ 56	R285	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(4.4)		良好		5YR5/6（明赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	型式	法量（cm）			焼成	残存率	内面色調	外面色調
					口径	器高	底径				
第 204 図－ 57	R230	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(6.2)		良好		5YR5/6（明赤褐）	10YR5/4（にぶい黄褐）
第 204 図－ 58	R339	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(6.8)		良好		10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）
第 204 図－ 59	R148	PL.23	深鉢	五領ヶ台		(5.1)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR4/3（にぶい黄褐）
第 204 図－ 60	R012、037	PL.23	深鉢	北裏 c		(4.7)		良好		10YR7/4（にぶい黄褐）	2.5Y6/3（にぶい黄）
第 204 図－ 61	R069、269	PL.23	深鉢	北裏 c		(4.7)		良好		10YR6/4（にぶい黄褐）	10YR4/3（にぶい黄褐）
第 204 図－ 62	R025	PL.23	深鉢	北裏 c		(6.4)		良好		2.5Y3/2（黒褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）
第 204 図－ 63	R233	PL.23	鉢	北白川 c		(1.8)		良好		2.5Y6/2（灰黄）	2.5Y6/2（灰黄）
第 204 図－ 64	R004	PL.23	鉢	北白川 c		(1.5)		良好		5YR4/6（赤褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 204 図－ 65	R274	PL.23	鉢	北白川 c		(2.5)		良好		10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄褐）
第 204 図－ 66	R209	PL.23	深鉢	北白川 c		(4.9)		良好		2.5Y7/3（浅黄）	2.5Y5/2（暗灰黄）
第 204 図－ 67	R315	PL.23	深鉢	北白川 c		(3.0)		良好		10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）
第 204 図－ 68	R195	PL.23	鉢	称名寺 2		(4.4)		良好		7.5YR6/4（にぶい橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）
第 204 図－ 69	R001	PL.23	深鉢	堀之内		(5.5)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR4/6（褐）
第 204 図－ 70	R101	PL.23	深鉢	堀之内 2		(4.0)		良好		10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR4/6（褐）
第 204 図－ 71	R211	PL.23	鉢	不明		(3.5)		良好		10YR6/4（にぶい黄褐）	2.5Y3/1（黒褐）

・石器

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 205 図－ 1	R244	PL.20	石鏃	1.5	1.35	0.27	0.51
第 205 図－ 2	R246	PL.20	サイドスクレーパー	9.2	5.7	1.5	101.7
第 205 図－ 3	R277	PL.20	石錘	8.9	7.1	2.6	223.3
第 205 図－ 4	R160	PL.20	石錘	7.1	8.0	2.4	181.0
第 205 図－ 5	R024	PL.20	石錘	7.7	6.8	2.1	161.3
第 205 図－ 6	R275	PL.20	石錘	10.2	8.1	2.9	312.3
第 205 図－ 7	R124	PL.20	石錘	8.3	6.5	2.1	194.0
第 205 図－ 8	R255	PL.20	石錘	8.3	6.8	1.5	84.4
第 205 図－ 9	R129	PL.20	石錘	7.7	7.4	2.4	204.8
第 205 図－ 10	R237	PL.20	石錘	6.8	5.7	1.7	74.42

第 5 節　弥生時代以降の遺構と遺物

竪穴建物跡

SB01

遺構（第 208 図）

位置：調査区 I 区　B4・B5 グリッド

重複関係：（古）SD02 → SB01 → SB05（新）

主軸方位：N － 23° － E

残存状況：南側及び東側は調査区外のため北西部分を検出したのみであるが、平面方形を呈すると推定できる。全体の規模は不明であるが、検出部分で主軸（南北）幅 1.5m、直交（東西）幅 5.2m、深さ 15㎝を測る。

覆土：大淵スコリアが混じる黒褐色土。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

床：検出範囲内では貼り床は確認されなかった。

カマド：検出範囲内では確認されなかった。

出土遺物（第 209 図）

土師器 3 点を図示した。1 は甕の口縁部、2 は駿東甕の肩部の破片で、内外面共に細かなハケ目調整を施し、外面頸部付近にはヘラミガキが施される。

所見

出土遺物から 7 世紀後半から 8 世紀の建物跡と考えられる。

第 207 図　弥生時代以降　遺構全体図

SB05

遺構（第 208 図）

位置：調査区 I 区　B4・B5 グリッド

重複関係：（古）SD02 → SB01 → SB05（新）

主軸方位：N － 6 ° － E

残存状況：調査区南端において北東コーナー部分のみ検出した。全体の規模は不明であるが、検出部分から平面形は方形を呈すると推定できる。検出部で主軸（南北）幅 0.65m、直交（東西）幅 2.5m を測る。

覆土：遺構の上層部は削平されているため、覆土は殆ど残存せず、掘り方埋土のみが認められる。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

床：検出範囲全体に 15cm 程の厚さで掘方埋土が貼られていた。

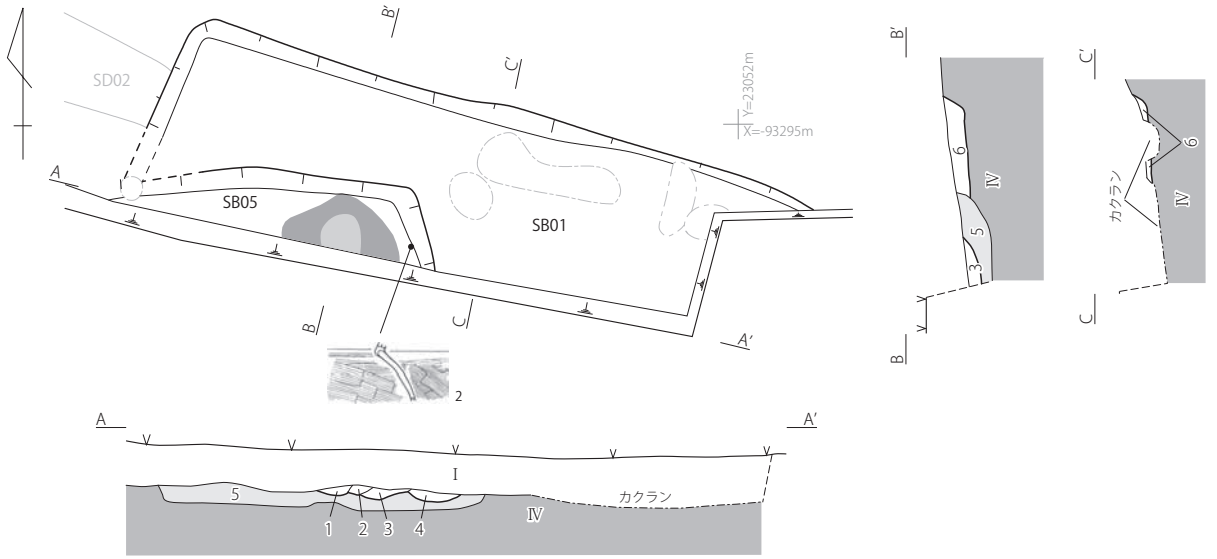
カマド：北壁の東端に設けられていた。上面は削平され殆ど残存せず、粘土と燃焼室の焼土を検出したのみで形状などは不明。

出土遺物

　図化出来た資料はない。

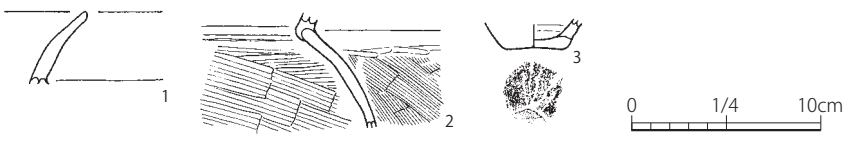
所見

　SB01 との重複関係から 8 世紀以降の建物跡と考えられる。



1	褐色土層(10YR4/6)	しまりやや強。粘性やや弱。焼土少量。白色粒子少量。	SB05ｶﾏﾄﾞﾌｸ土
2	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB05ｶﾏﾄﾞﾌｸ土
3	焼土	しまりやや強。粘性なし。	SB05ｶﾏﾄﾞ燃焼室
4	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや弱。粘土多量。焼土多量。	SB05ｶﾏﾄﾞﾌｸ土
5	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB05掘方埋土
6	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB01ﾌｸ土

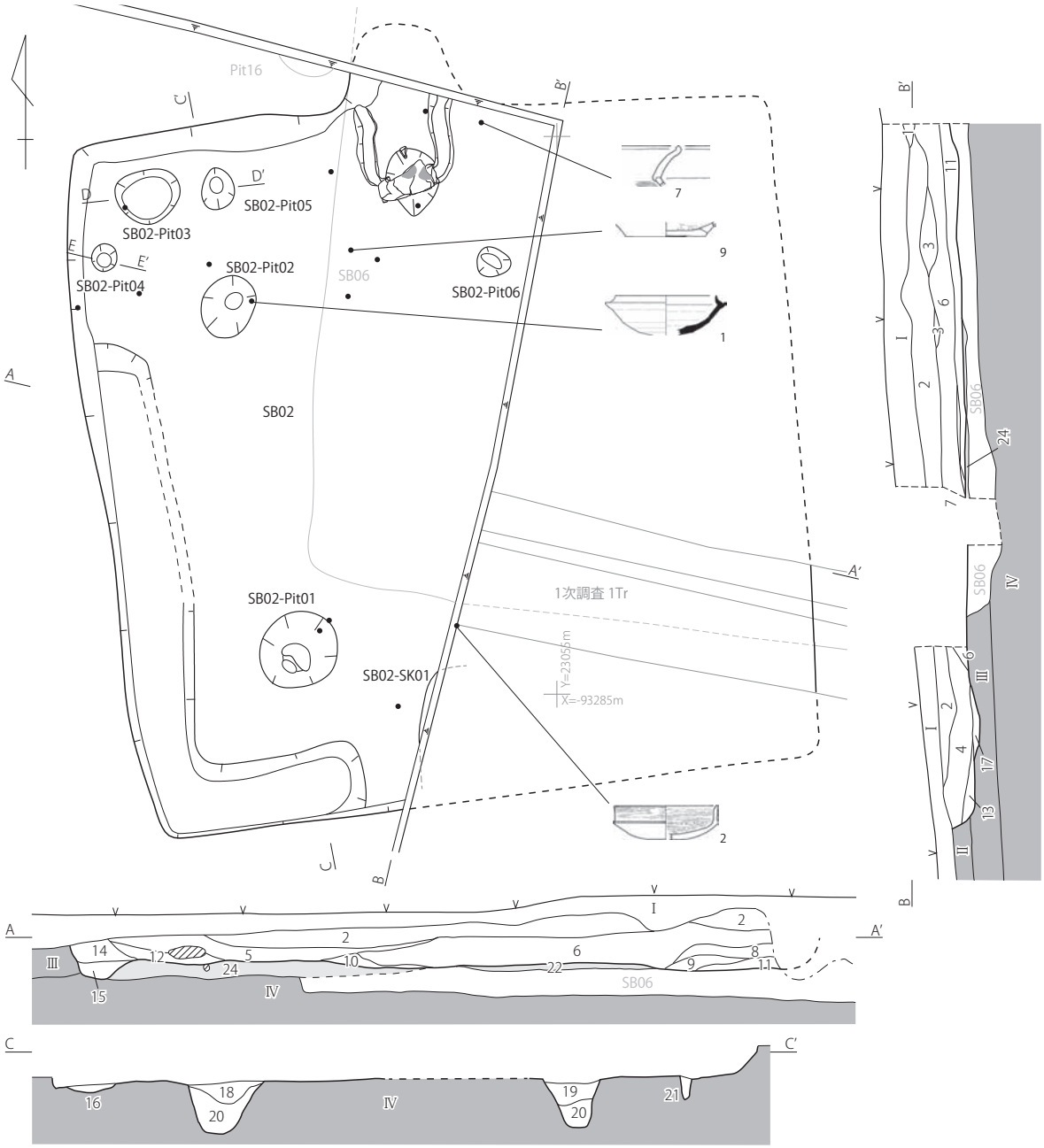
第 208 図　SB01・SB05

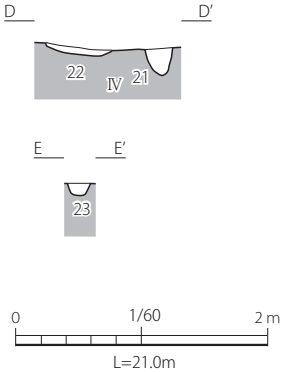


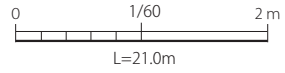
第 209 図　SB01　出土遺物

第 29 表　SB01 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	内面色調	外面色調
第 209 図－ 1	R072	PL.20	土師器	甕		(3.8)		良好		2.5YR5/6（明赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 209 図－ 2	R072、080	PL.20	土師器	甕		(8.2)		良好	20%	5YR5/6（明赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）
第 209 図－ 3	R072	PL.20	土師器	小型品		(1.3)	(3.0)	良好	50%	7.5YR4/3（褐）	5YR5/6（明赤褐）







1	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子多量。	SB02ﾌｸ土
2	黒褐色土層(10YR3/2)	しまり弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ多量。橙色ｽｺﾘｱ中量。	SB02ﾌｸ土
3	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子中量。	SB02ﾌｸ土
4	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子中量。	SB02ﾌｸ土
5	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや強。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02ﾌｸ土
6	黒褐色土層(10YR3/2)	しまり弱。粘性なし。大淵ｽｺﾘｱ極多量（一部硬化）。	SB02ﾌｸ土
7	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや強。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02ﾌｸ土
8	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ少量。	SB02ﾌｸ土
9	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02ﾌｸ土
10	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02ﾌｸ土
11	黒褐色土層(10YR2/2)	しまり弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ極多量（一部硬化）。白色粒子微量。	SB02ﾌｸ土
12	黒褐色土層(10YR3/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ中量。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ少量。	SB02ﾌｸ土
13	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB02ﾌｸ土
14	黒褐色土層(10YR3/2)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ中量。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ少量。	SB02ﾌｸ土
15	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子少量。	SB02壁溝ﾌｸ土
16	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性なし。大淵ｽｺﾘｱ少量。	SB02壁溝ﾌｸ土
17	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB02-SK01ﾌｸ土
18	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや弱。粘性弱。焼土微量。	SB02-Pit01ﾌｸ土
19	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや弱。粘性弱。粘土少量。	SB02-Pit02ﾌｸ土
20	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性弱。焼土微量。	SB02-Pit01,Pit02ﾌｸ土
21	黒褐色土層(10YR2/2)	しまり弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ微量。粘土微量。	SB02-Pit05ﾌｸ土
22	黒褐色土層(10YR2/2)	しまり弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02-Pit03ﾌｸ土
23	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子微量。	SB02-Pit04ﾌｸ土
24	黒色土層(10YR2/1)	しまり極めて強。粘性強。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB02掘方埋土

第 210 図　SB02

SB02

遺構（第 210 図・第 211 図）

位置：調査区Ⅱ区　C2・C3 グリッド

重複関係：（古）SB06 → SB02（新）

主軸方位：N － 6 ° － E

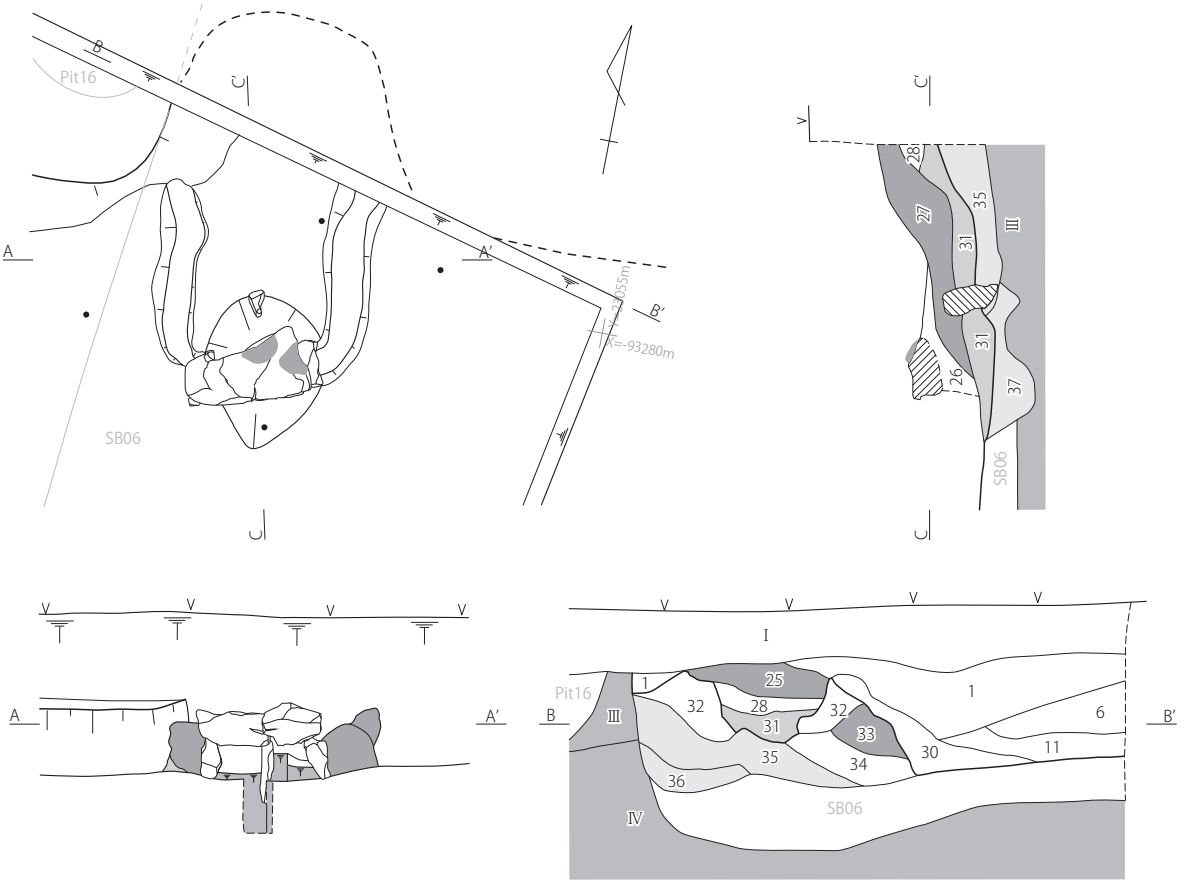
残存状況：確認調査において確認された竪穴建物跡で、遺構の西側が本調査対象となった。確認調査の成果と合わせると平面形は方形を呈し、主軸（南北）幅 6.2m、直交（東西）幅 6.3m、深さ 50cm を測る。

覆土：大淵スコリアを含む黒褐色土で、大淵スコリアの単層と認識された層が複数回にわたり堆積している（2・6・11 層）。

壁溝：西壁から南西コーナーにかけて幅 60cm を測る浅い壁溝を検出した。

柱穴：調査範囲内で 6 基のピットを検出した。SB02-Pit01、SB02-Pit02 は主柱穴と考えられ、SB02-Pit02 からは須恵器坏身が出土している（第 212 図－ 1）。

その他の遺構：建物跡中央南側の位置に土坑の立ち上が



25	褐色土層(7.5YR4/6)	しまりやや弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ中量。白色粒子少量	SB02ｶﾏﾄﾞ ﾌｸ土
26	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ中量。白色粒子少量	SB02ｶﾏﾄﾞ ﾌｸ土
27	にぶい黄褐色粘土層(10YR6/4)	しまり強。粘性やや強。	SB02ｶﾏﾄﾞ 崩落土
28	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや弱。白色粒子少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 崩落土
29	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性やや強。白色粒子少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ ﾌｸ土
30	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。白色粒子少量。粘土多量。焼土中量。炭化物微量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 崩落土
31	焼土層(2.5YR5/8)	しまりやや強。粘性やや強。白色粒子少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 燃焼室
32	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ中量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 袖
33	にぶい黄褐色粘土層(10YR6/3)	しまり強。粘性強。白色粒子少量	SB02ｶﾏﾄﾞ 袖
34	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ中量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 袖
35	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ多量。白色粒子少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 構築土
36	黒色土層(10YR2/1)	しまり弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ微量。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。	SB02ｶﾏﾄﾞ 構築土
37	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや弱。白色粒子少量。粘土多量	SB02ｶﾏﾄﾞ 掘方埋土

第 211 図　SB02 カマド

りの一部を確認した。検出範囲がわずかであるが、入り口施設に係る掘り込みの可能性が考えられる。

床：厚さ 15cm 程度の堀方埋土が建物跡の中央から西側にかけて貼られていた。

カマド：建物跡の北壁中央に配置されているものと推定される。北側の煙道部付近は調査区外となり、検出した範囲での規模は全長（最大値）1.30m、中央外寸幅 0.90m、中央内寸幅 0.50m を測る。遺存状態は良好で、両側の袖、支脚石が残存し、両袖の端部には芯材として石が配置され、この上に平石を高架して焚口を構成していた。

出土遺物（第 212 図）

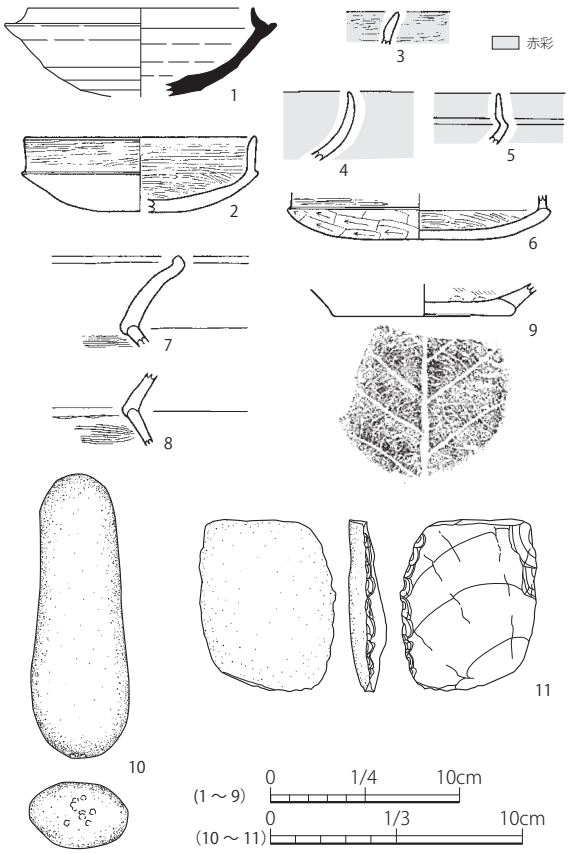
須恵器 1 点、土師器 8 点、石器 2 点を図示した。1 は SB02-Pit02 の覆土から出土した須恵器の坏であり、受け部がほぼ水平方向に伸び器壁が厚い。2 から 6 は土師器の坏の破片である。2・5・6 は須恵器の坏蓋を模倣した形態で、特に 2 は比較的忠実に模倣している。ミガキ調整も丁寧に施される。3・4・5 は赤彩が施されている。7・8 は甕の破片で、7 は口唇端部がつまみ上げられている。

所見

出土遺物から 7 世紀の建物跡と考えられるが、覆土中に大淵スコリアの単層が認識された。これまで大淵スコリアの降下は古墳時代中期末（TK23・TK47）と考えられており、矛盾する見解だが、大淵スコリアと呼称されてきたテフラが複数存在する可能性がある（上杉 2013）。

参考文献

上杉　陽 2013「静岡県富士市中柏原新田 40『柏原遺跡』の地形地質」『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 22・23 年度―』富士市教育委員会



第 212 図　SB02 出土遺物

第 30 表　SB02 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	法量（cm） 口径	器高	底径	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 212 図－ 1	R079	PL.20	須恵器	坏	(11.9)	(4.6)		良好	45%	反転復元	2.5Y5/1（黄灰）	5Y5/1（灰）
第 212 図－ 2	R021	PL.20	土師器	坏	(12.0)	(3.9)		良好	45%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐）	5YR6/6（橙）
第 212 図－ 3	R064	PL.20	土師器	坏		(1.7)		良好		内外面赤彩	2.5YR5/6（明赤褐）	2.5YR5/6（明赤褐）
第 212 図－ 4	R015、038、045	PL.20	土師器	坏		(3.6)		良好		内外面赤彩	10R4/6（赤）	10R4/6（赤）
第 212 図－ 5	R081	PL.20	土師器	坏		(2.6)		良好		外面赤彩	N2/（黒）	2.5YR5/6（明赤褐）
第 212 図－ 6	R018	PL.20	土師器	坏		(2.4)		良好	40%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐）	2.5YR6/6（橙）
第 212 図－ 7	R042	PL.20	土師器	甕		(4.7)		良好			5YR5/6（明赤褐）	10YR5/2（灰黄褐）
第 212 図－ 8	R038	PL.20	土師器	甕		(3.95)		良好			5YR5/6（明赤褐）	5YR5/6（明赤褐）
第 212 図－ 9	R040	PL.20	土師器	甕		(1.7)	(9.4)	良好	70%		7.5YR7/4（にぶい橙）	5YR6/6（橙）

・石器

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 212 図－ 10	R187	PL.20	ハンマー	11.3	3.8	2.6	169.5
第 212 図－ 11	R187	PL.20	サイドスクレーパー	6.8	5.4	1.5	60.6

SB06

遺構（第 213 図）

位置：調査区Ⅱ区　C2・C3 グリッド

重複関係：（古）SB06 → SB02（新）

主軸方位：N － 5° － E

残存状況：SB02 と重複する竪穴建物跡で確認調査において南東コーナー部分を検出した。本調査の検出範囲では、SB02 により上面が削平されており、覆土は殆ど残存せず掘方埋土のみが検出された。全体の規模は不明であるが、平面形は方形を呈すると考えられ、残存部で主軸（南北）幅 4.5m、直交（東西）6.1m を測る。検出範囲内では、カマド、壁溝は確認されなかった。

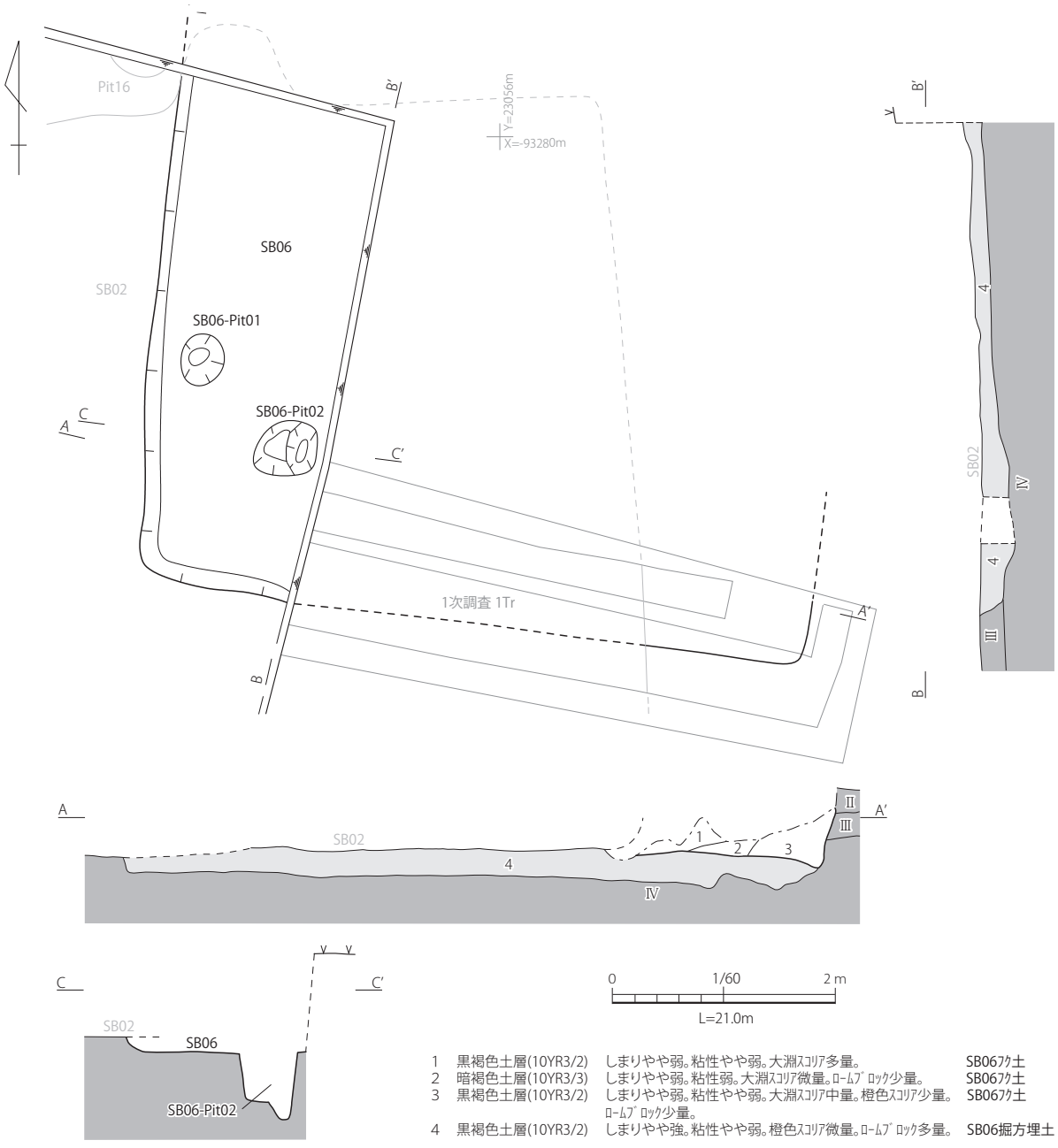
覆土：東端部においてのみ残存し、主に大淵スコリアを含む黒褐色土であった。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：２基のピットを検出した。SB06-Pit02 はその形状から主柱穴として認識される。

床：厚さ 25cm 程度の掘方埋土が貼られていた。掘方埋土には大淵スコリアは混入しない。

カマド：検出範囲では確認できなかった。



第 213 図　SB06

1	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや弱。粘性やや強。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB03ﾌｸ土
2	灰黄褐色土層(10YR5/2)	しまりやや弱。粘性強。大淵ｽｺﾘｱ少量。	SB03ﾌｸ土
3	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ中量。	SB03ﾌｸ土
4	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB03ﾌｸ土
5	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや極弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ微量	SB03-Pit03ﾌｸ土
6	暗褐色土層(10YR3/4)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子少量。	SB03-Pit04ﾌｸ土
7	暗褐色土層(10YR3/4)	しまり弱。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子少量。	SB03-Pit04ﾌｸ土
8	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや極弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ微量	SB03-Pit02ﾌｸ土
9	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性やや極弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ微量	SB03-Pit05ﾌｸ土
10	にぶい黄褐色粘土層(10YR5/4)	しまり強。粘性強。大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土、黒褐色ﾌﾞﾛｯｸ混入	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
11	にぶい黄褐色粘土層(10YR6/4)	しまり強。粘性強。大淵ｽｺﾘｱ微量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
12	明褐色粘土層(7.5YR5/6)	しまり強。粘性強。大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土多量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
13	明赤褐色粘土層(10YR6/6)	しまり強。粘性やや強。焼土少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
14	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ少量。灰、焼土、粘土混入	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
15	黒色土層(10YR2/1)	しまり強。粘性強。	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
16	焼土層(5YR4/8)	しまり強。粘性強。灰混入	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
17	明赤褐色土層(2.5YR5/8)	しまりやや強。粘性強。大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土混入	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
18	灰白色土層(2.5Y7/1)	しまり弱。粘性なし。焼土少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ灰
19	黄褐色粘土層(2.5Y5/3)	しまり強。粘性強。燃焼室側は被熱し赤褐色を呈する。	SB03ｶﾏﾄﾞ袖
20	黄褐色粘土層(2.5Y5/3)	しまり強。粘性強。上面は被熱し赤褐色を呈する。	SB03ｶﾏﾄﾞ構築土
21	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや強。	SB03ｶﾏﾄﾞ構築土
22	焼土層(5YR4/8)	しまりやや強。粘性やや弱。黒褐色土、粘土多量。	SB03ﾌｸ土
23	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色ｽｺﾘｱ極微量。白色粒子微量	SB03掘方埋土

0 1/60 2m
L=20.6m

第214図　SB03

出土遺物

図化出来た資料はない。

所見

SB02 との重複関係から 7 世紀以前の建物跡であると考えられる。

SB03

遺構（第 214 図・第 215 図）

位置：調査区 I 区　C4・D4 グリッド

重複関係：（古）SD05 → SB03（新）

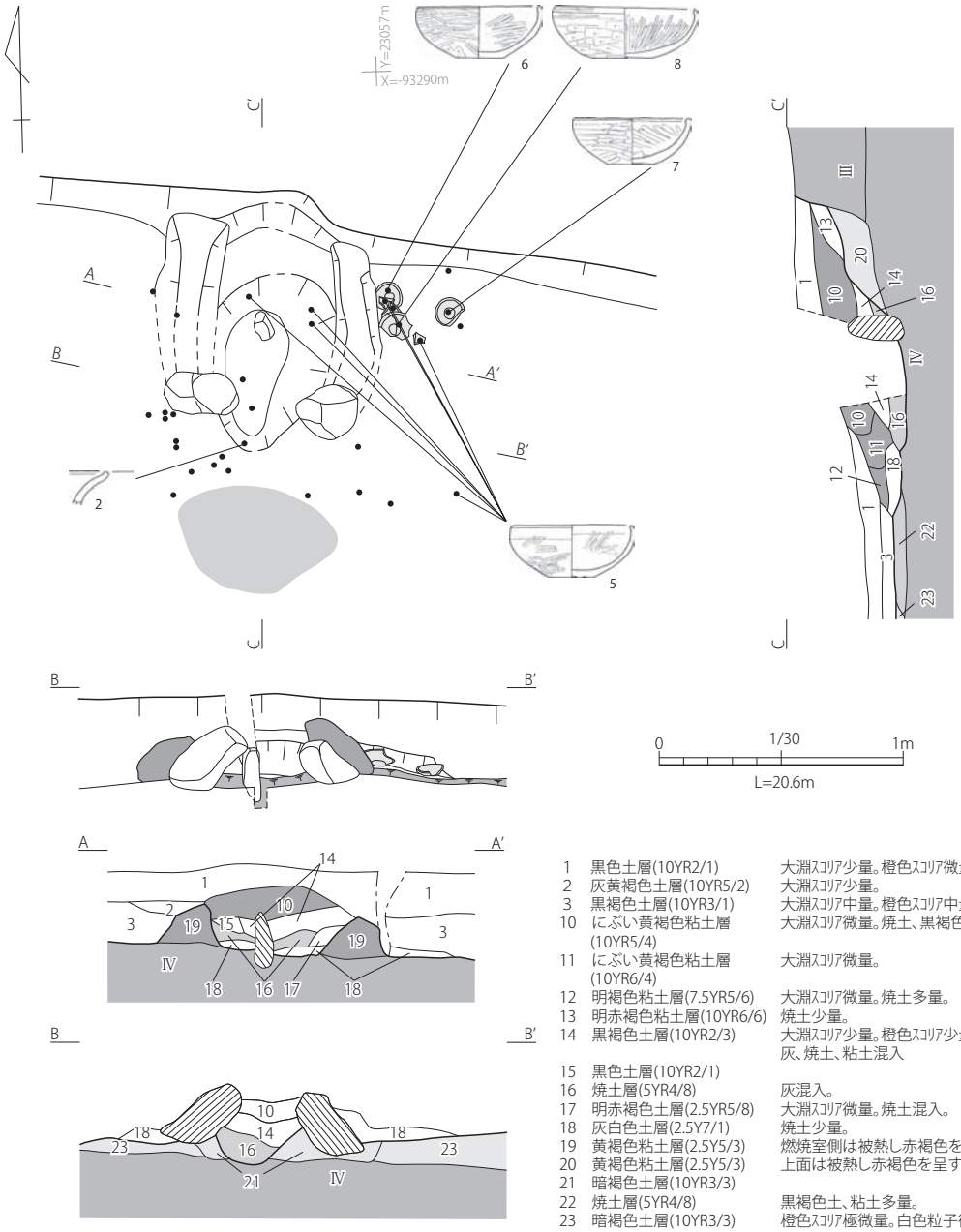
主軸方位：N － 10° － E

残存状況：南側は撹乱により削平されているものの、北側については比較的良好に遺存する。平面形は方形を呈し、残存部で主軸（南北）4.3m、直交（東西）5.8m、深さ 40cm を測る。

覆土：大淵スコリアを含む黒褐色土。

壁溝：明瞭ではないが、東壁沿いに幅 40cm を測る浅い壁溝を検出した。

柱穴：5 基のピットを検出し、SB03-Pit03、SB03-Pit04 は主柱穴と考えられる。



1	黒色土層(10YR2/1)	大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ微量。	SB03ｶﾏﾄﾞ土
2	灰黄褐色土層(10YR5/2)	大淵ｽｺﾘｱ少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ土
3	黒褐色土層(10YR3/1)	大淵ｽｺﾘｱ中量。橙色ｽｺﾘｱ中量。	SB03ｶﾏﾄﾞ土
10	にぶい黄褐色粘土層(10YR5/4)	大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土、黒褐色土混入。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
11	にぶい黄褐色粘土層(10YR6/4)	大淵ｽｺﾘｱ微量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
12	明褐色粘土層(7.5YR5/6)	大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土多量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
13	明赤褐色粘土層(10YR6/6)	焼土少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
14	黒褐色土層(10YR2/3)	大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色ｽｺﾘｱ少量。灰、焼土、粘土混入	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
15	黒色土層(10YR2/1)		SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
16	焼土層(5YR4/8)	灰混入。	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
17	明赤褐色土層(2.5YR5/8)	大淵ｽｺﾘｱ微量。焼土混入。	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
18	灰白色土層(2.5Y7/1)	焼土少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ灰
19	黄褐色粘土層(2.5Y5/3)	燃焼室側は被熱し赤褐色を呈する。	SB03ｶﾏﾄﾞ袖
20	黄褐色粘土層(2.5Y5/3)	上面は被熱し赤褐色を呈する。	SB03ｶﾏﾄﾞ構築土
21	暗褐色土層(10YR3/3)		SB03ｶﾏﾄﾞ構築土
22	焼土層(5YR4/8)	黒褐色土、粘土多量。	SB03ｶｸ土
23	暗褐色土層(10YR3/3)	橙色ｽｺﾘｱ極微量。白色粒子微量。	SB03掘方埋土

第 215 図　SB03 カマド

床：建物跡の東側に部分的に堀方埋土が貼られていた。

カマド：建物跡の北壁中央に位置する。遺存状態は良好で、両側の袖、支脚石が残存し、両袖の端部には芯材として石が配置されていた。規模は全長 1.10m、中央外寸幅 0.90m、中央内寸幅 0.50m を測る。焚口の南側の床面は被熱により焼土となっていた。

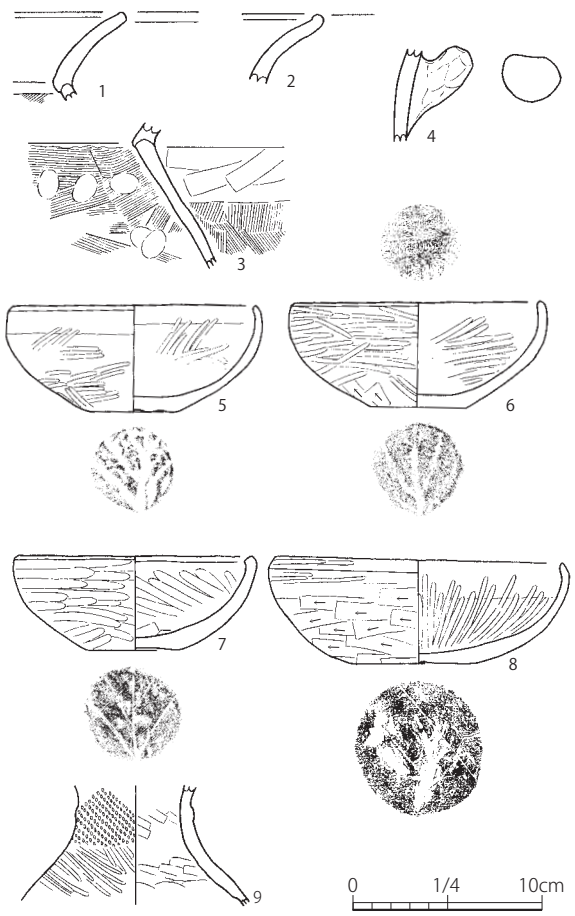
出土遺物（第 216 図）

土師器 8 点、弥生土器 1 点を図示した。遺物はカマドの焚口周辺から多く出土し、カマド右袖においては土師器の坏（5～8）がまとまって出土している。

1・2 は甕の口縁部で 2 は口唇端部が若干上方につまみ上げられている。3 は甕の肩部の破片で内外面ともに細かなハケ目調整が施されている。4 は甑のつまみと考えられる。5 から 8 は「駿豆型」の坏である。胎土に白色粒子を多量に含み、小さな底部に木葉痕を残す。底部ヘラケズリの後、内外面共にヘラミガキ調整される。

所見

出土遺物より、古墳時代中期末から後期初頭の建物跡と考えられる。



第 216 図　SB03 出土遺物

第 31 表　SB03 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	法量（cm） 口径	器高	底径	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 216 図－ 1	R050	PL.21	土師器	甕		(4.8)		良好			10YR7/4（にぶい黄橙） 7.5YR7/4（にぶい橙）
第 216 図－ 2	R093	PL.21	土師器	甕		(3.5)		良好			7.5YR6/4（にぶい橙） 7.5YR6/4（にぶい橙）
第 216 図－ 3	R116、139、152	PL.21	土師器	甕		(7.5)		良好	20%		5YR5/6（明赤褐） 5YR6/6（橙）
第 216 図－ 4	R055	PL.21	土師器	甑		(4.7)		良好			10YR7/4（にぶい黄橙） 7.5YR7/4（にぶい橙）
第 216 図－ 5	R070、112、119、120、121、136、147、148	PL.21	土師器	坏	12.9	5.7	4.4	良好	85%		5YR6/6（橙） 7.5YR7/6（橙）
第 216 図－ 6	R149	PL.21	土師器	坏	12.9	5.75	5.0	良好	85%		5YR6/6（橙） 5YR7/6（橙）
第 216 図－ 7	R135	PL.21	土師器	坏	12.2	4.9	4.95	良好	80%		2.5YR6/6（橙） 5YR6/6（橙）
第 216 図－ 8	R032、146	PL.21	土師器	坏	15.0	5.7		良好	80%		7.5YR7/6（橙） 7.5YR7/6（橙）
第 216 図－ 9	R046、049	PL.21	弥生土器	壺		(6.0)		良好		反転復元	2.5YR6/3（にぶい橙） 7.5YR6/6（橙）

SB04

遺構（第 217 図・第 218 図）

位置：調査区 I 区　E4 グリッド

重複関係：（古）SD05 → SB04（新）

主軸方位：N － 105° － E

残存状況：北側は調査区域外のため建物跡の南側部分のみを検出した。平面形は方形を呈すると推定され、東西 3.95m、検出範囲で南北 2.90m、深さ 30cm を測る。

覆土：大淵スコリアを含む黒褐色土。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：ピットは 1 基のみ検出した。

床：遺構全体に 10cm 程の厚さで掘方埋土が貼られていた。

カマド：建物跡の東壁南端寄りに位置する。右袖の一部と燃焼室内の支脚石を検出したが､遺存状態が悪く形状、規模等は不明。カマドの前側（西側）の床面には浅い掘り込み（SB04-SK01、SK02、SK03）がありカマド掘り方とも考えられる。

出土遺物（第 219 図）

土師器 9 点、石器 1 点を図示した。1 から 4、5、8、9 はいずれも遠江系の水平口縁甕の破片である。胎土が白く器壁は薄く、細かなハケ目が施されている。

所見

出土遺物から 8 世紀の建物跡と考えられる。

溝状遺構

SD01

遺構（第 221 図）

位置：調査区 I 区　C4 グリッド

主軸方位：N － 8° － E

残存状況：形状は南北方向に延びる直線状で、全長は最大値で 4.90m 、幅 0.50m を測る。断面形は V 字状を呈し、深さは 45cm を測る。確認調査で検出した溝状遺構につながると考えられる。

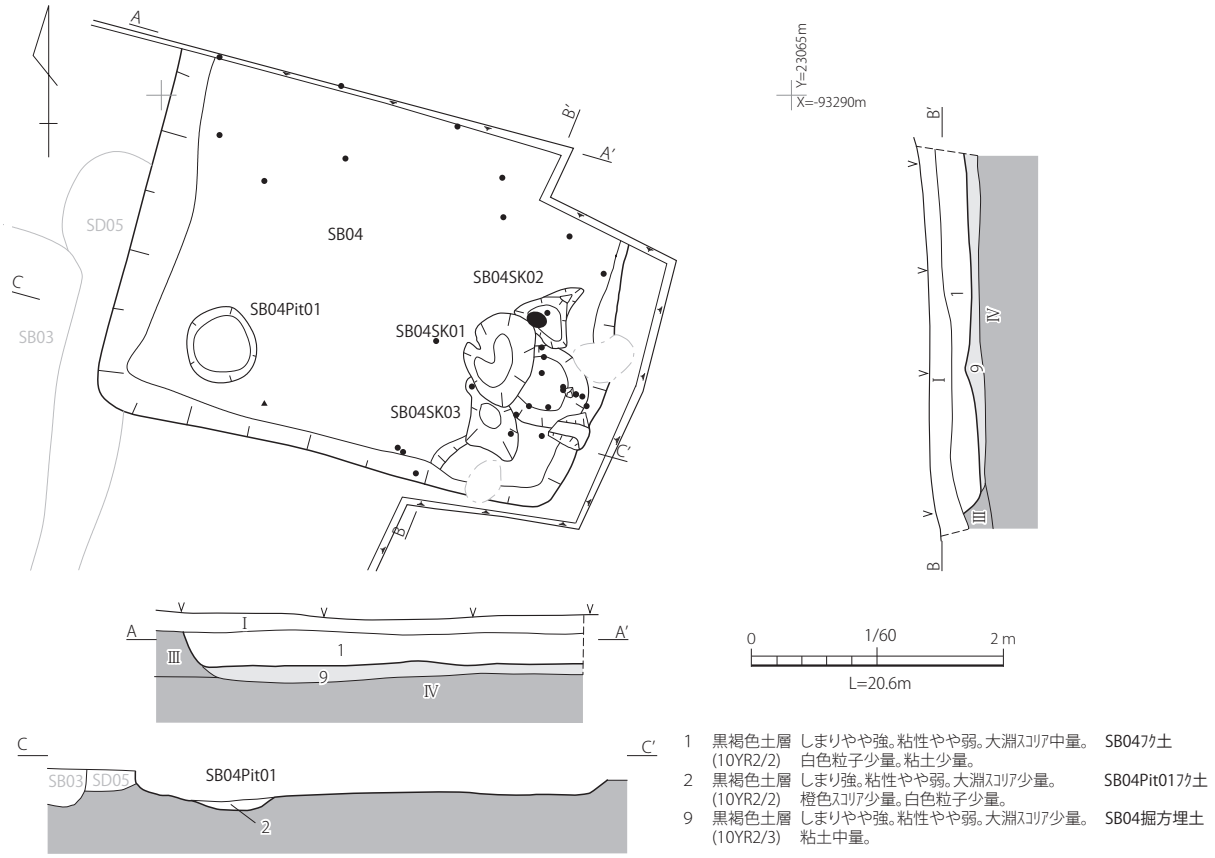
覆土：主に黒褐色土で、南側の上層部に大淵スコリアの混入が認められるが下層には混入しない。

出土遺物

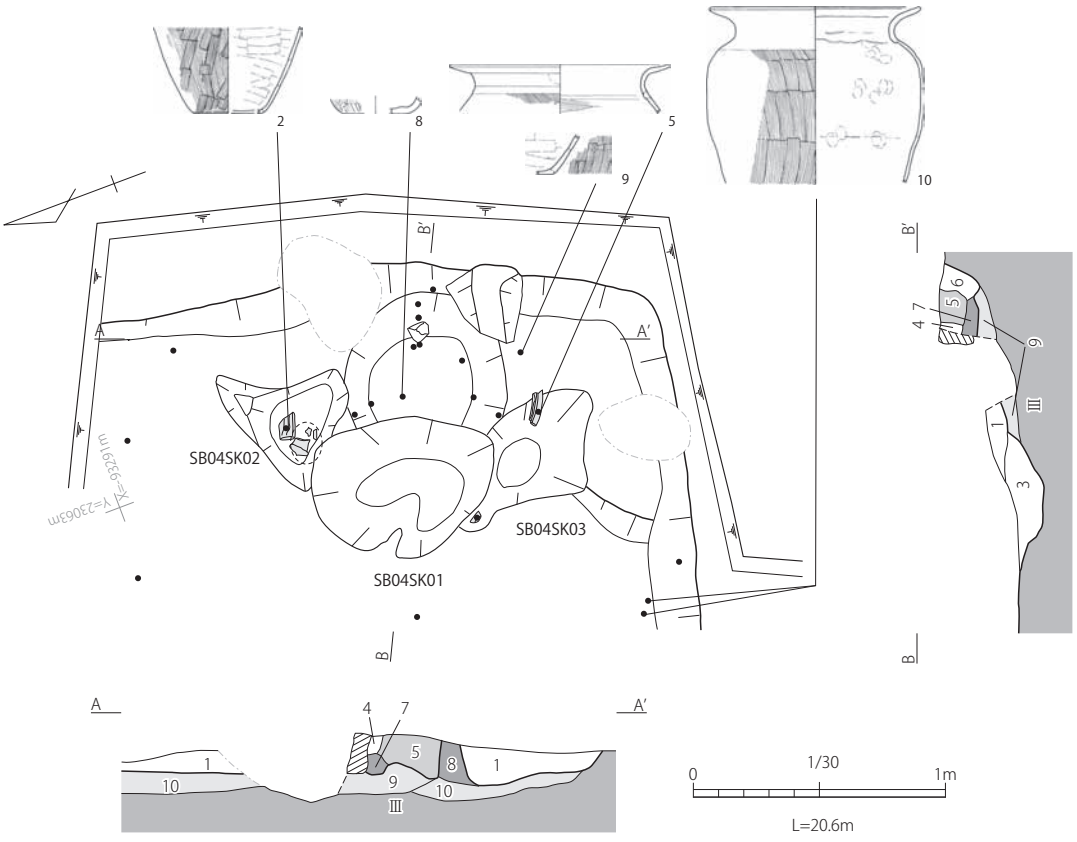
図化出来た資料はない。

所見

時期は明らかでない。

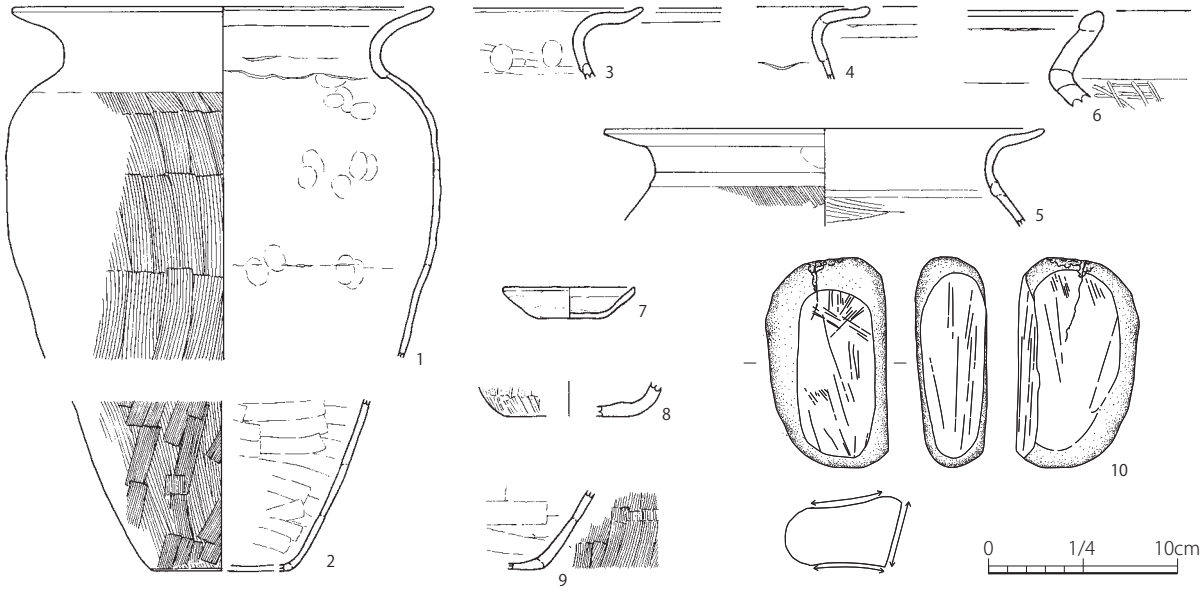


第 217 図　SB04



1	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。白色粒子少量。粘土少量	SB04ﾌｸ土
3	にぶい黄褐色土層(10YR5/3)	しまり強。粘性強。粘土多量。焼土中量	SB04SK01ﾌｸ土
4	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや弱。粘性やや弱。	SB04ｶﾏﾄﾞ燃焼室
5	焼土層(7.5YR4/6)	しまり弱。粘性やや強。	SB04ｶﾏﾄﾞ燃焼室
6	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや強。	SB04ｶﾏﾄﾞ燃焼室
7	暗褐色土層(10YR3/3)	しまりやや弱。粘性やや強。粘土多量。	SB04ｶﾏﾄﾞ燃焼室
8	にぶい黄褐色粘土層(10YR4/3)	しまりやや強。粘性やや強。燃焼室側が被熱。	SB04ｶﾏﾄﾞ袖
9	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性やや弱。	SB04ｶﾏﾄﾞ掘方埋土
10	黒褐色土層(10YR2/3)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ少量。粘土中量。	SB04掘方埋土

第 218 図　SB04 カマド



第 219 図　SB04 出土遺物

第 32 表　コーカン畑遺跡第 2 地区　SB04 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	法量（cm） 口径	器高	底径	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 219 図－ 1	R025	PL.21	土師器	甕	(21.9)	(18.5)		良好	35%	反転復元	7.5YR5/4（にぶい褐） 5YR5/4（にぶい赤褐）
第 219 図－ 2	R341	PL.21	土師器	甕		(9.0)	(7.3)	良好	30%	反転復元	7.5YR8/4（浅黄橙） 7.5YR6/6（橙）
第 219 図－ 3	R343	PL.21	土師器	甕	(24.2)	(3.7)		良好			10YR6/3（にぶい黄橙） 2.5Y7/2（灰黄）
第 219 図－ 4	R327	PL.21	土師器	甕		(3.8)		良好	15%		10YR7/3（にぶい黄褐） 10YR6/4（にぶい黄褐）
第 219 図－ 5	R347	PL.21	土師器	甕	(22.8)	(5.1)		良好	20%	反転復元 水平口縁甕	7.5YR7/4（にぶい橙） 7.5YR7/4（にぶい橙）
第 219 図－ 6	R057	PL.21	土師器	甕	(22.2)	(5.2)		良好	15%		5YR4/4（にぶい赤褐） 5YR4/3（にぶい赤褐）
第 219 図－ 7	R336	PL.21	土師器	坏	(7.0)	(1.6)		良好	50%	反転復元 手づくね	7.5YR7/6（橙） 7.5YR7/6（橙）
第 219 図－ 8	R335	PL.21	土師器	甕		(1.5)	(6.8)	良好	20%	反転復元	7YR6/2（橙） 7YR6/2（橙）
第 219 図－ 9	R345	PL.21	土師器	甕		(4.2)		良好			10YR5/2（灰黄褐） 7.5YR6/4（にぶい橙）

・石器

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 219 図－ 10	R078	PL.21	砥石	11.1	7.6	3.8	403.64

SD02

遺構（第 223 図）

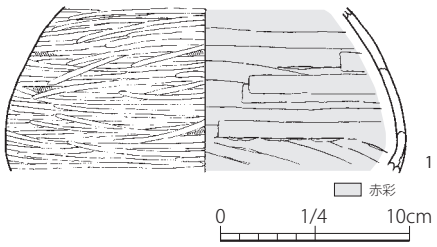
位置：調査区 I 区　A4・B4 グリッド

重複関係：（古）SD02 → SB05 → SB01（新）

主軸方位：N － 62° － W

残存状況：東西方向に直線的に延びる。西側は調査区域外となる。全長は検出範囲で 6.0m 、幅 0.85m、深さ 40cm を測る。断面形は逆台形を呈し、底面において広い箇所では幅 50cm を測る。

覆土：大淵スコリアが混入しない黒色土。



第 220 図　SD02 出土遺物

第 33 表　コーカン畑遺跡第 2 地区　SD02 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	法量（cm） 口径	器高	底径	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 220 図－ 1	R098	PL.20	土師器	壺		(8.3)		良好	40%	反転復元 内面赤彩	7.5YR6/4（にぶい橙） 5YR6/8（橙）

出土遺物（第 220 図）

弥生土器 1 点を図示した。後期の壺で胴部下半から頸部の手前までの破片である。

所見

出土遺物より弥生時代後期の遺構と考えられる。

SD05

遺構（第 222 図）

位置：調査区 I 区　D4 グリッド

重複関係：（古）SD05 → SB03、SD05 → SB04（新）

主軸方位：N － 62° － W

残存状況：東西方向に延びる不整形な直線を呈し、全長 4.20m 、最大幅で 0.60m、深さ 15cm を測る。

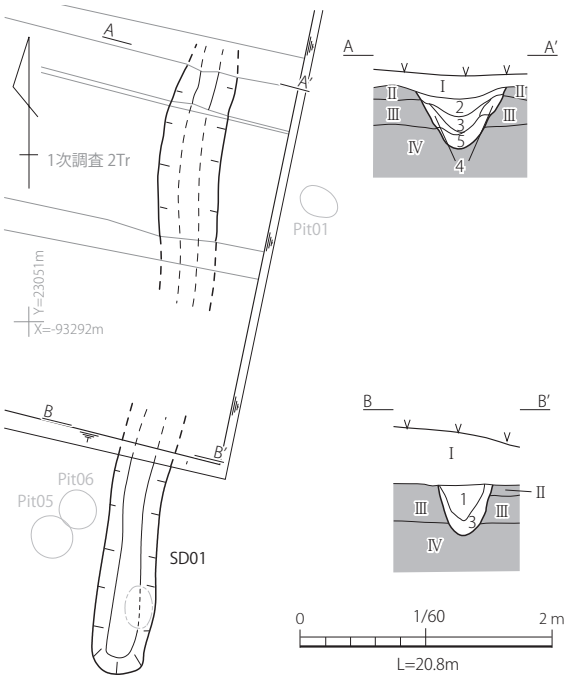
覆土：大淵スコリアが混入しない黒褐色土。

出土遺物

図化出来た資料はない。

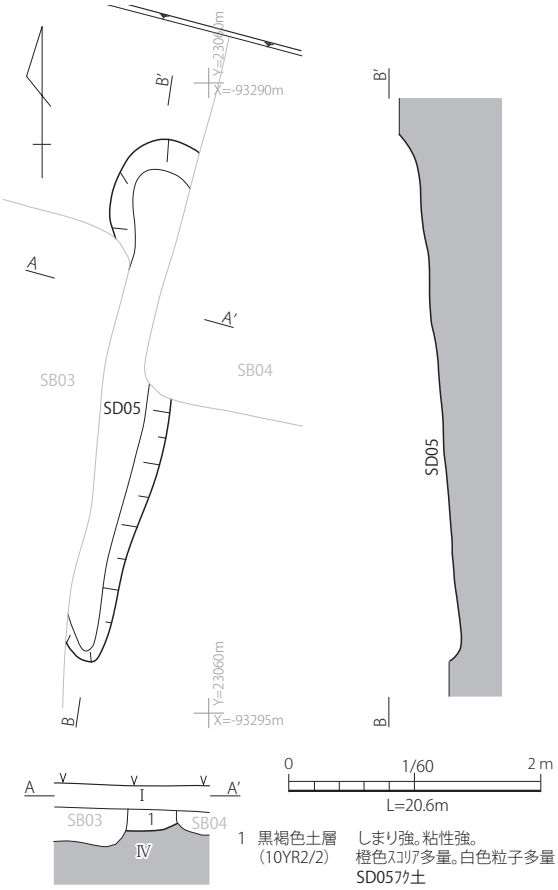
所見

SB03 との重複関係から古墳時代後期以前の遺構と考えられる。



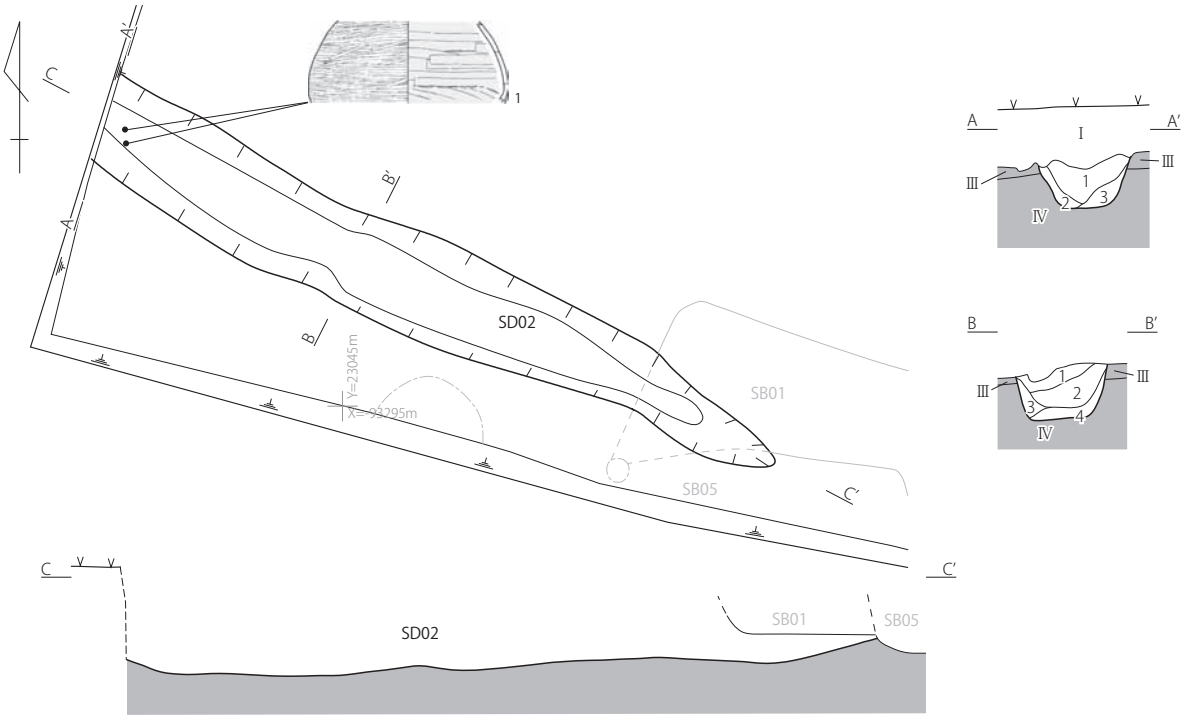
1	黒色土層 (10YR2/1)	しまりやや強。粘性やや弱。大淵ｽｺﾘｱ中量。 橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子微量。	SD01ﾌｸ土
2	黒褐色土層 (10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ多量。	SD01ﾌｸ土
3	黒褐色土層 (10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ多量。	SD01ﾌｸ土
4	黒褐色土層 (10YR2/2)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ中量。	SD01ﾌｸ土
5	暗褐色土層 (10YR3/3)	しまりやや強。粘性やや強。橙色ｽｺﾘｱ少量。 ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ中量。	SD01ﾌｸ土

第 221 図　SD01



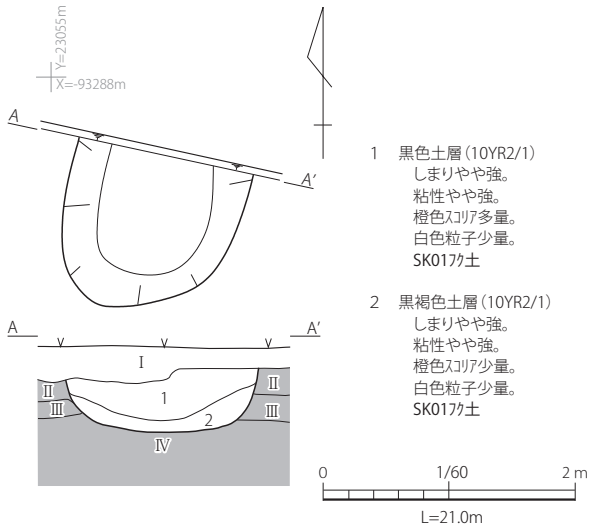
1　黒褐色土層 (10YR2/2)　しまり強。粘性強。 橙色ｽｺﾘｱ多量。白色粒子多量 SD05ﾌｸ土

第 222 図　SD05



1	灰黄褐色土層(10YR4/2)	しまり弱。粘性なし。橙色ｽｺﾘｱ微量。白色粒子微量。	SD02ﾌｸ土
2	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ中量。白色粒子中量。	SD02ﾌｸ土
3	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ多量。白色粒子中量。	SD02ﾌｸ土
4	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。ﾛｰﾑ中量。	SD02ﾌｸ土
5	黒褐色土層(10YR3/1)	しまりやや強。粘性やや弱。橙色ｽｺﾘｱ少量。白色粒子微量。ﾛｰﾑ多量。	SD02ﾌｸ土

第 223 図　SD02



第 224 図　SK01

第 34 表　弥生時代以降　ピット一覧

遺構番号	調査区	グリッド	平面形	規模（cm）			遺物
				長軸	短軸	深さ	
Pit01	Ⅰ区	C4	楕円形	32	25	31	
Pit02	Ⅰ区	B4	円形	33	30	18	
Pit03	Ⅰ区	C4	円形	28	25	35	
Pit04	Ⅰ区	C4	楕円形	47	40	13	
Pit05	Ⅰ区	C4	円形	33	31	25	
Pit06	Ⅰ区	C4	円形	30	29	19	
Pit09	Ⅰ区	D4	楕円形	28	24	10	
Pit10	Ⅰ区	D4	楕円形	36	29	13	
Pit13	Ⅱ区	B2	円形	42	41	28	
Pit14	Ⅰ区	D4	楕円形	39	32	21	
Pit16	Ⅱ区	C1	楕円形	64	(13)	32	

土坑

SK01

遺構（第 224 図）

位置：調査区Ⅰ区　D3 グリッド

主軸方位：不明

残存状況：楕円形を呈するが、北側が調査区域外となり全体の形状は不明。全長は最大値で 1.25m 、幅は 1.4 m、深さ 35cm を測る。

覆土：大淵スコリアが混入しない黒褐色土。

出土遺物

図化出来た資料はない。

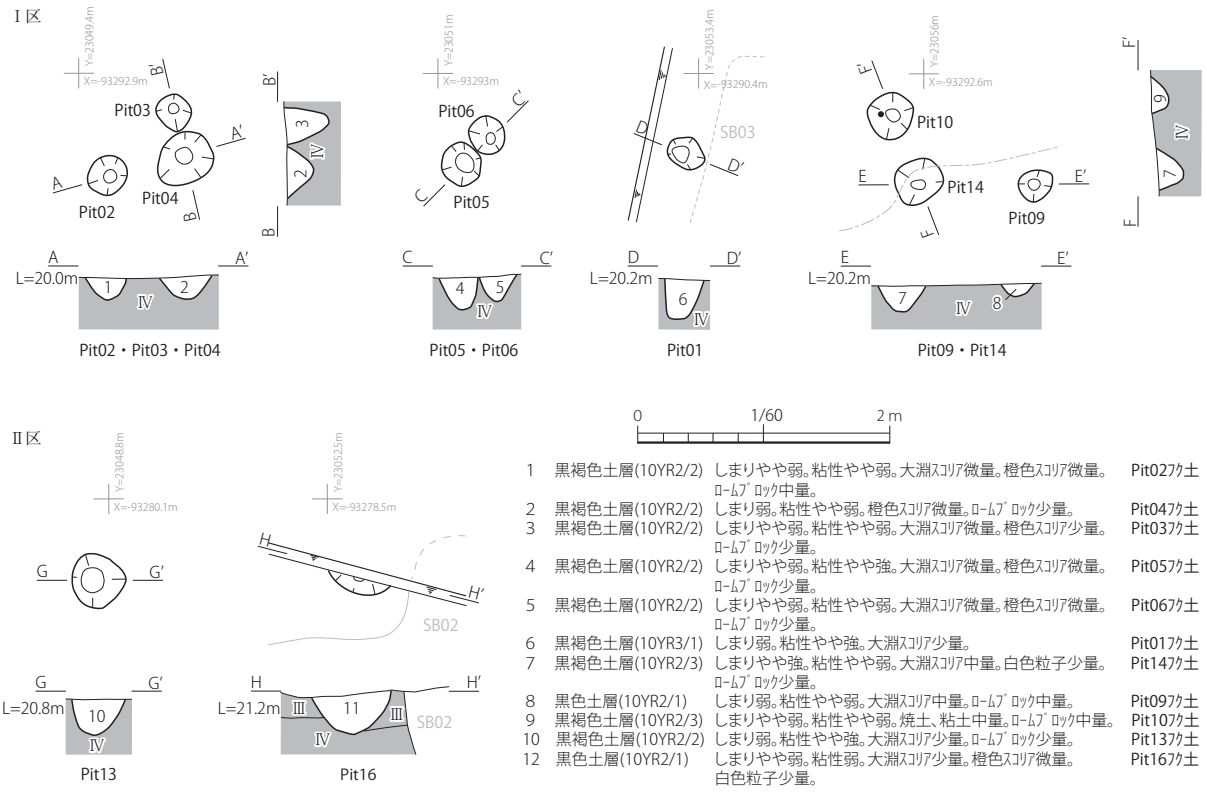
ピット

遺構（第 225 図）

弥生時代以降のピットは、11 基検出した。形状、規模については第 34 表のとおりとなる。

出土遺物

図化出来た資料はない。



第 225 図　弥生時代以降　ピット

第6節　まとめ

縄文時代　今回の調査では集石土坑のほか10基の土坑を検出した。特に注目されるのが、SK103から出土した早期末の塩屋中層式の土器である。富士市内では星山丘陵上において、入海Ⅱ式、石山式の土器が認められている。また、愛鷹山麓では向山遺跡においても条痕文系土器が出土している。今回の調査地は標高20ｍ前後と比較的低い丘陵末端ではあるが、縄文時代早期の動態を知るうえで貴重な成果といえる。

弥生時代　弥生時代後期の溝を1条検出した。第1地区においても土坑から弥生時代後期雌鹿塚Ⅰ式の壺が出土しており、同じく丘陵末端の境的場遺跡や宮添遺跡と共に浮島ヶ原低地縁辺において集落が展開していた様子が伺える。

古墳時代　前期・中期前半の遺構は認められず、集

第35表　検出遺構一覧

・1面

種　別	遺構名	調査区	備考
竪穴建物跡	SB01	Ⅰ区	
	SB02	Ⅱ区	試掘 SB01・02
	SB03	Ⅰ区	試掘 SB03
	SB04	Ⅰ区	
	SB05	Ⅰ区	
	SB06	Ⅱ区	試掘 SB01・02
溝状遺構	SD01	Ⅰ区	試掘 SD01
	SD02	Ⅰ区	
	SD03	Ⅱ区	削除
	SD04	Ⅱ区	削除
	SD05	Ⅰ区	
土坑	SK01	Ⅰ区	ｶｸﾗﾝに変更
	SK02	Ⅰ区	ｶｸﾗﾝに変更
Pit	Pit01	Ⅰ区	
	Pit02	Ⅰ区	
	Pit03	Ⅰ区	
	Pit04	Ⅰ区	
	Pit05	Ⅰ区	
	Pit06	Ⅰ区	
	Pit07	Ⅰ区	SB03-Pit05 に変更
	Pit08	Ⅰ区	SB03-Pit04 に変更
	Pit09	Ⅰ区	
	Pit10	Ⅰ区	
	Pit11	Ⅰ区	SB03-Pit03 に変更
	Pit12	Ⅰ区	SB03-Pit02 に変更
	Pit13	Ⅰ区	
	Pit14	Ⅰ区	
	Pit15	Ⅱ区	削除
	Pit16	Ⅰ区	
不明遺構	SX01	Ⅰ区	
	SX02	Ⅰ区	削除

・2面

種　別	遺構名	調査区	備考
土坑	SK101	Ⅱ区	
	SK102	Ⅱ区	
	SK103	Ⅱ区	
	SK104	Ⅱ区	削除
	SK105	Ⅱ区	削除
	SK106	Ⅱ区	削除
	SK107	Ⅱ区	
	SK108	Ⅱ区	
	SK109	Ⅱ区	削除
	SK110	Ⅱ区	
	SK111	Ⅰ区	
	SK112	Ⅱ区	
	SK113	Ⅰ区	
	SK114	Ⅰ区	
	SK115	Ⅰ区	削除
Pit	Pit101	Ⅱ区	
	Pit102	Ⅱ区	
	Pit103	Ⅰ区	
	Pit104	Ⅰ区	削除
	Pit105	Ⅰ区	
	Pit106	Ⅰ区	削除
	Pit107	Ⅰ区	
	Pit108	Ⅱ区	削除
	Pit109	Ⅱ区	削除
	Pit110	Ⅱ区	削除
	Pit111	Ⅱ区	削除
	Pit112	Ⅱ区	
	Pit113	Ⅱ区	
	Pit114	Ⅱ区	削除
	Pit115	Ⅱ区	
	Pit116	Ⅱ区	
	Pit117	Ⅱ区	
	Pit118	Ⅱ区	
	Pit119	Ⅱ区	
	Pit120	Ⅱ区	
	Pit121	Ⅰ区	
	Pit122	Ⅰ区	
	Pit123	Ⅰ区	
	Pit124	Ⅰ区	
	Pit125	Ⅰ区	
集石遺構	SS101	Ⅱ区	

落が再開するのは中期末から後期初頭と考えられる。SB03 はその頃の遺構と捉えられ、カマドの形状や再開時期など宮添遺跡と同じ動態を示す。

また、「大淵スコリア」の降下時期と性格を考える上で SB02 の調査成果は興味深い。SB02 は出土遺物から７世紀の竪穴建物跡と考えられるが、覆土に一見、大淵スコリアと認識できるスコリアの単層が堆積しているのである。これまで、大淵スコリアは TK23・TK47 期に降下したと考えてきたが、「大淵スコリア」として認識されるスコリア群は一枚ではなく、AD350、AD500、AD600 の少なくとも３枚のスコリア層が存在したと考えられる可能性が出てきた（上杉 2013）。

７世紀以降　今回の調査では８世紀の竪穴建物跡は検出されたものの９世紀の遺構は明確ではない。ただし、１地区では 10 世紀の遺構が検出されており、宮添遺跡同様､時期ごとに遺跡の規模に波はあったとしても、10 世紀まで継続して展開した遺跡であったことが明らかとなった。

参考文献

上杉　陽 2013「静岡県富士市中柏原新田 40「柏原遺跡」の地形地質」『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 22・23 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集　富士市教育委員会

第５章　中桁・中ノ坪遺跡　第６地区の調査

第１節　中桁・中ノ坪遺跡の概要

中桁・中ノ坪遺跡は、富士市伝法に所在する古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である。

平成 26 年３月までに、10 地区において発掘調査が実施されている。確認されている最古の遺構・遺物は５世紀後葉に位置づけられており（富士市教育委員会 2004）、それ以降、若干の空白期を挟みながら、10 世紀前葉(O-53 窯式期)頃まで集落が営まれたとみられる。

中桁・中ノ坪遺跡の周辺には、北西から南東方向へ流下する潤井川に沿って、多くの遺跡が所在している。西には、古墳時代中期後半（TK208 型式併行期）から奈良時代にかけて集落が営まれた沢東Ａ遺跡、奈良時代の集落跡である沢東Ｂ遺跡、古墳時代前期の遺構・遺物と奈良時代の遺物、11 世紀の建物跡が確認されている川窪遺跡（富士市教育委員会 2008）が立地する。東に位置する東平遺跡は、古墳時代後期から７世紀には集落と墓域として、８世紀からは富士郡衙の中枢域とみられる大規模な集落と寺院（三日市廃寺跡）として機能するが、10 世紀には衰退するようである。

沢東Ａ遺跡、中桁・中ノ坪遺跡、東平遺跡などの消長の様子からは、この地域の統率・支配の在り方の変遷を窺い知ることができると考えられる。

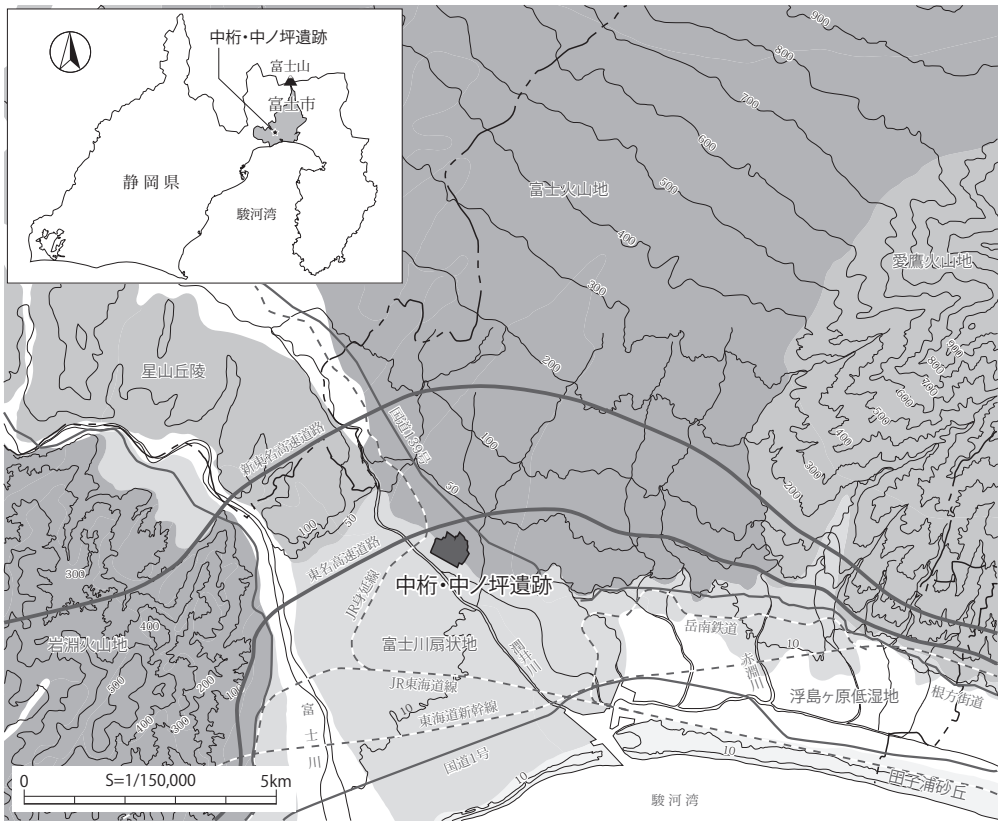
参考文献

富士市教育委員会 2004『中桁遺跡』

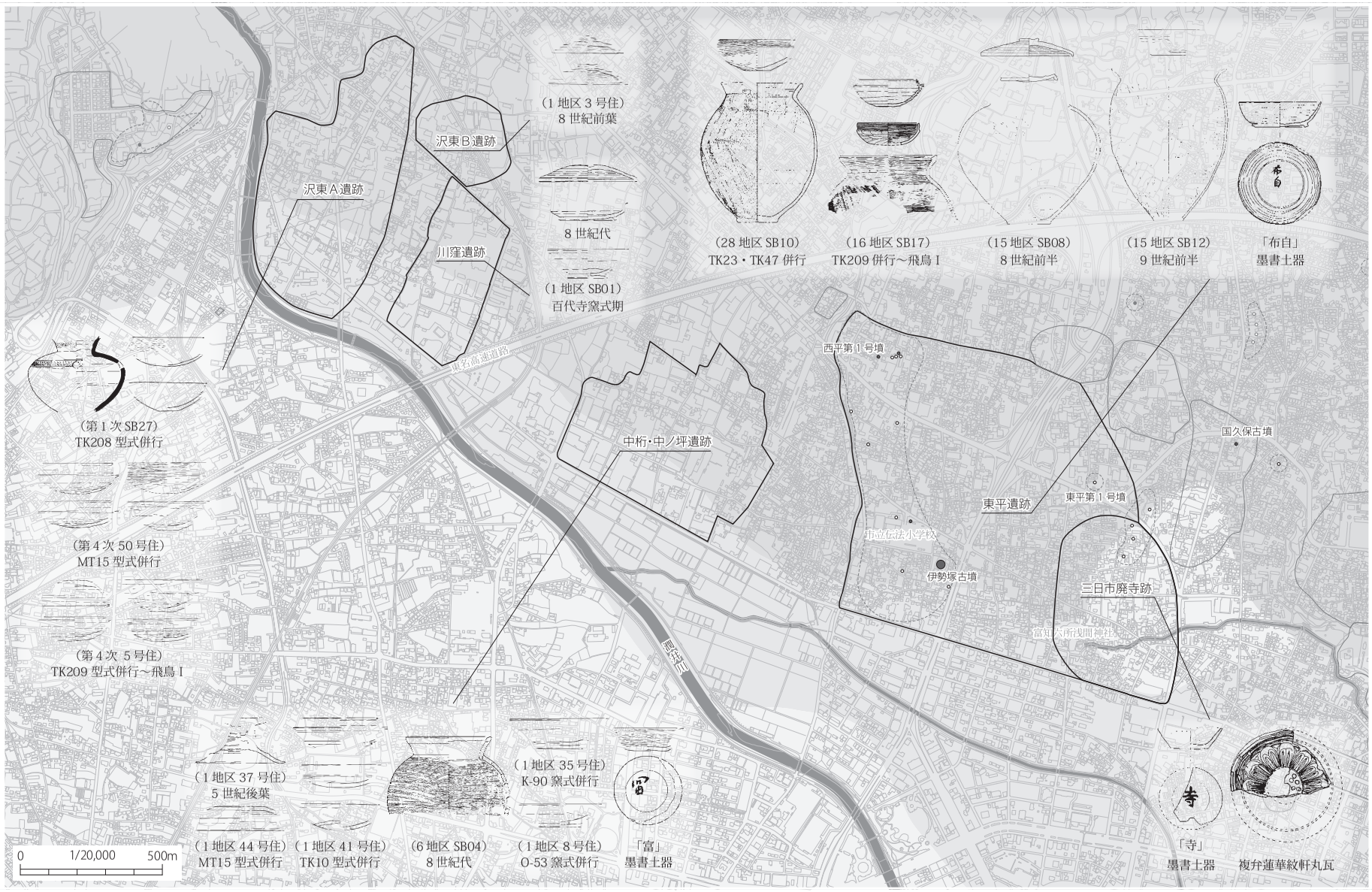
富士市教育委員会 2008『平成 17・18 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』

富士市教育委員会 2013『富士市内遺跡発掘調査報告書　－平成 22・23 年度－』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集

富士市教育委員会 2014『沢東Ａ遺跡 第１次』富士市埋蔵文化財調査報告　第 56 集



第 226 図　中桁・中ノ坪遺跡の位置と周辺地形図



第 227 図　中桁・中ノ坪遺跡　周辺の状況

第２節　第６地区の調査成果

第１項　調査に至る経緯と経過

調査に至る経緯　富士市厚原の中桁町内会では、平成 24 年度に既存公会堂の西側、富士市厚原 427 － 1（220.42㎡）に新たな公会堂を建設することとなった。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「中桁･中ノ坪遺跡」の範囲内にあたることから、工事着工前に確認調査を実施する必要があることを公会堂建設委員に伝えた。平成 24 年 5 月 22 日、富士市教育委員会教育長宛に中桁町内会長から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が、土地所有者から「発掘調査承諾書」が提出された。

これを受けて、7 月 18 日～ 7 月 20 日にかけて、文化振興課による確認調査（第 1 次調査）が実施された。

確認調査　確認調査では調査地に T 字型のトレンチ（総面積 22.084㎡）を設定し、重機による掘削後、人力により精査し、遺構・遺物の検出につとめた。その結果、地表下 20 ～ 30㎝で奈良時代の竪穴建物跡を 2 軒検出し、土師器などの遺物も出土した。

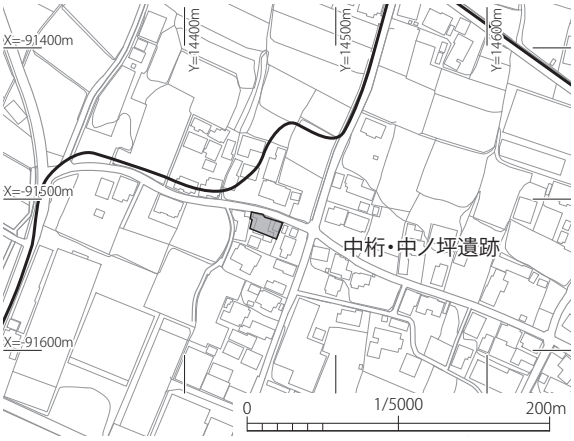
7 月 27 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 216 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第 216 － 2 号）を提出した。8 月 2 日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」を提出し、8 月 23 日に文化財保護法第 93 条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県教育委員会教育長宛に進達（富教文発第 267 号）した。

調査地全域に遺構が存在する可能性が高く、また、工事計画によると遺跡保護層の確保が難しいと判断されることから、8 月 24 日、静岡県教育委員会教育長から建物建設部分について「本発掘調査を実施」の指示が通知（教文第 784 号の 2）され、これを事業者に伝達（富教文発第 288 号）した。事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」が、土地所有者から「発掘調査承諾書」が富士市教育委員会教育長宛に提出され、8 月 27 日～ 10 月 9 日にかけて、文化振興課により本発掘調査（第 2 次調査）が実施された。

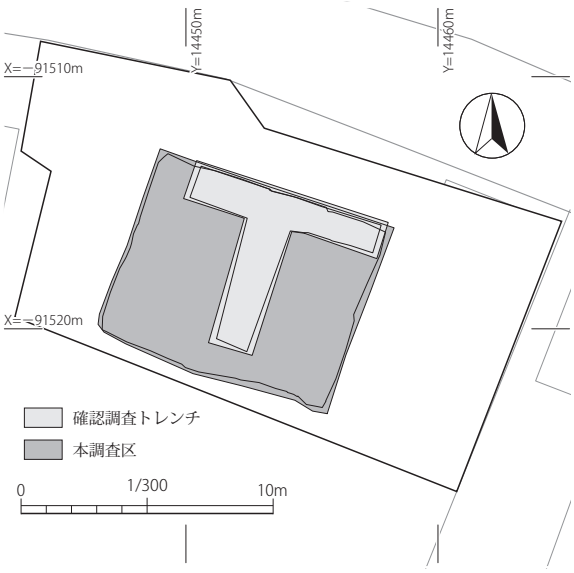
本発掘調査　本発掘調査は建物が建設される範囲（76.9㎡）を調査区とし、重機による表土掘削後、人力により遺構・遺物を検出し、測量・実測・写真撮影等の記録作業を行った。

本発掘調査の結果、8 世紀～ 9 世紀に位置づけられる竪穴建物跡 4 軒（SB01 ～ 04）の他、土坑、ピットなどを検出・完掘した。また、コンテナ 2 箱分の土師器・須恵器が出土した。その中には底面に「冨」の墨書がされた土師器坏が含まれていた。

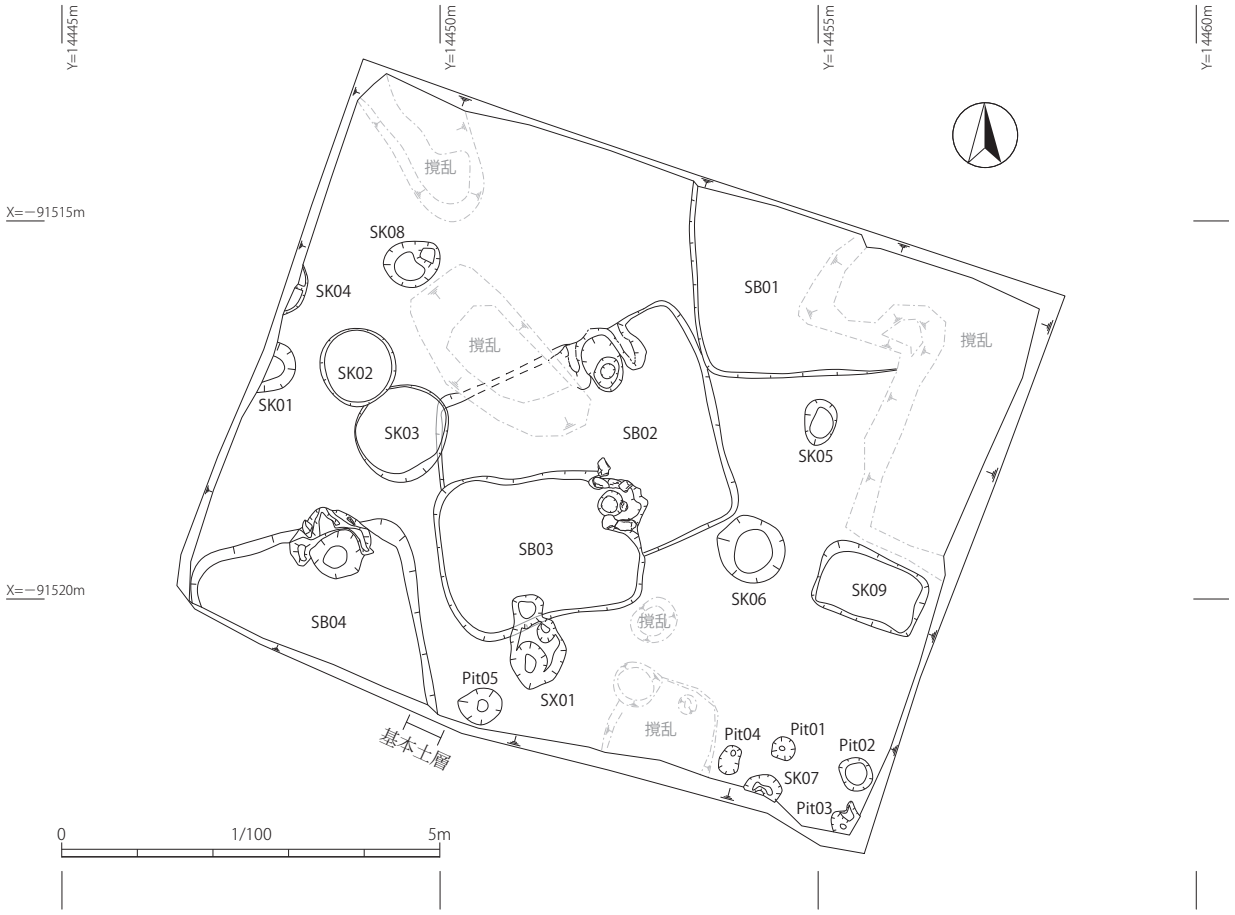
10 月 11 日､富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第 331 号）を、静岡県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財保管証」を提出し、同日、静岡県教育委員会教育長および事業者に「発掘調査結果概要」（富教文発第 332 号）を提出した。



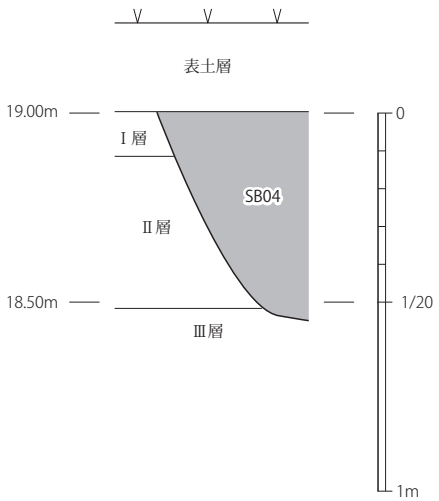
第 228 図　調査地位置図



第 229 図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図



第 230 図　本調査区全体図



第 231 図　基本土層図

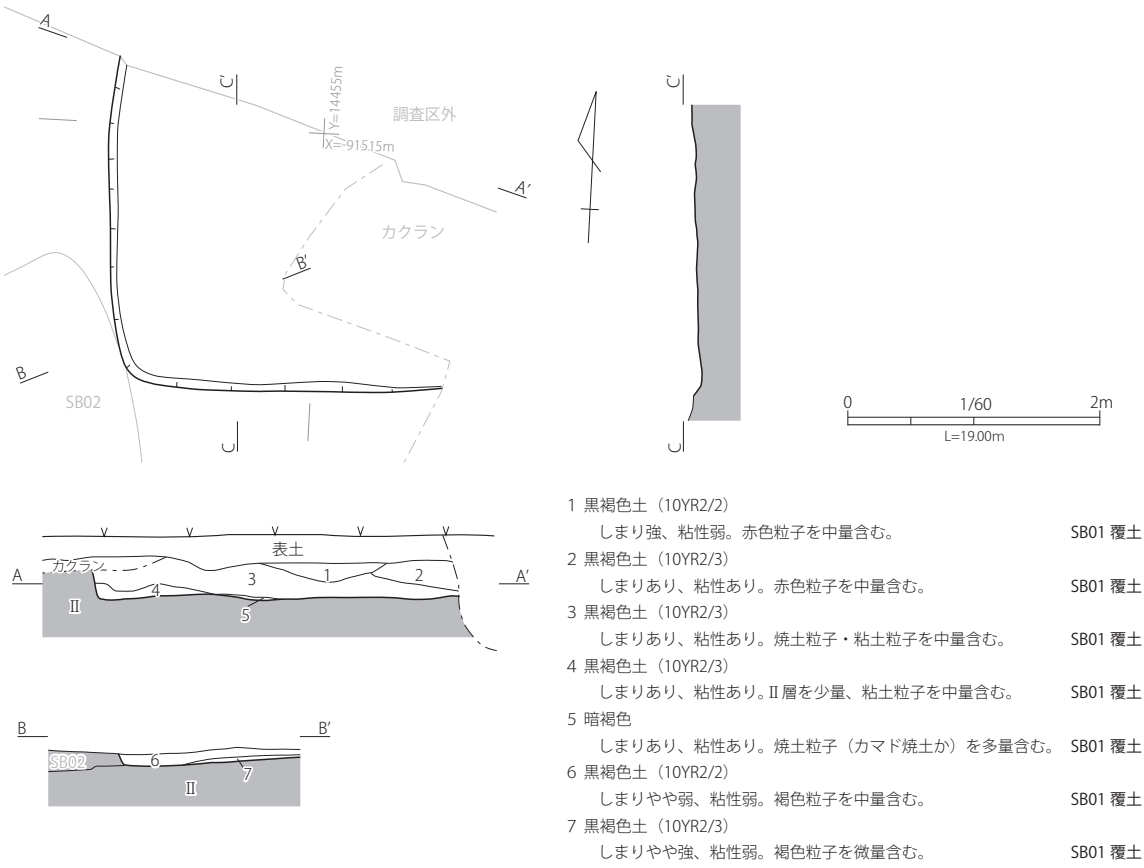
第２項　基本層序

中桁・中ノ坪遺跡第６地区の基本土層図を第 231 図に示した。土層注記は以下のとおりである。

Ⅰ層　黒色土　　しまり強、粘性やや強。
　　褐色粒子を多量に含む。
Ⅱ層　暗褐色土　しまり強、粘性やや強。
　　ローム質。小礫が混ざる。
Ⅲ層　黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。
　　砂質。赤褐色粒子をごく多量に含む。
　　大淵扇状地堆積物層

本遺跡はⅢ層（大淵扇状地堆積物層）を地盤とする。

遺構は表土層直下のⅠ層から掘り込まれているが、大半の遺構の検出は、調査区をⅡ層上面まで掘り下げて行った。



1 黒褐色土（10YR2/2）
　しまり強、粘性弱。赤色粒子を中量含む。　SB01 覆土
2 黒褐色土（10YR2/3）
　しまりあり、粘性あり。赤色粒子を中量含む。　SB01 覆土
3 黒褐色土（10YR2/3）
　しまりあり、粘性あり。焼土粒子・粘土粒子を中量含む。　SB01 覆土
4 黒褐色土（10YR2/3）
　しまりあり、粘性あり。Ⅱ層を少量、粘土粒子を中量含む。　SB01 覆土
5 暗褐色
　しまりあり、粘性あり。焼土粒子（カマド焼土か）を多量含む。　SB01 覆土
6 黒褐色土（10YR2/2）
　しまりやや弱、粘性弱。褐色粒子を中量含む。　SB01 覆土
7 黒褐色土（10YR2/3）
　しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を微量含む。　SB01 覆土

第 232 図　SB01

第３項　遺構と遺物

竪穴建物跡

SB01（第 232 図）

位置：調査区の北東寄りに位置する。

重複関係：（古）SB02 → SB01（新）

主軸方位：N － 3.00° － W

残存状況：北側は調査区外にあり、東側は撹乱により切られているため、全体の規模は不明であるが、検出部分から平面形は方形を呈すると推定できる。残存部で主軸（南北）幅 2.60m、直交（東西）幅 2.60m を測る。

　覆土は、残りのよい北側では 30㎝ほどの深さがあるが、南側は削平されており 5㎝ほどしか残存していなかった。

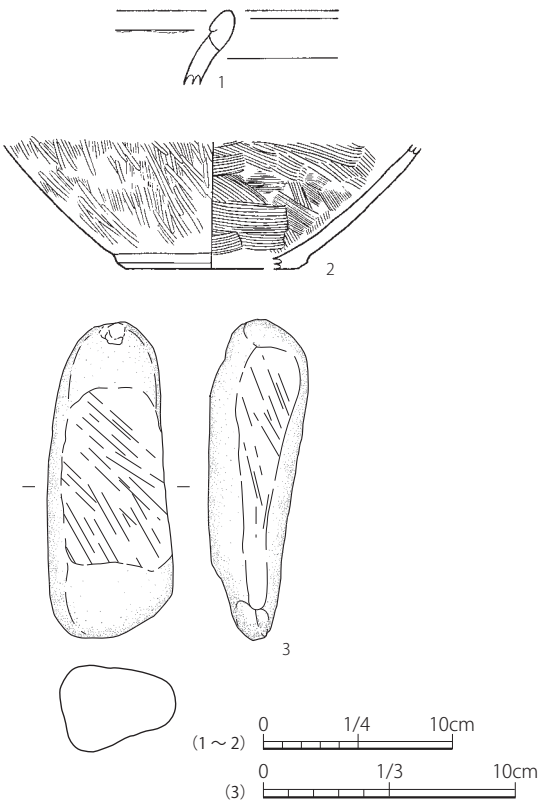
覆土：黒褐色土の自然堆積である。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

その他の遺構：確認されなかった。

床：掘り方に土を入れて床面としている部分が一部で認められたが、大部分は掘り方をそのまま床面としていた。



第 233 図　SB01 出土遺物実測図

カマド：検出範囲では確認されなかったが、覆土に焼土粒子・粘土粒子が含まれる（3層～5層）ことから、北壁か東壁にカマドが設けられていたものと考えられる。
出土遺物：土師器2点（1・2）、石器1点（3）を図示した（第233図）。土師器は共に駿東甕の破片で、1は口縁部、2は底部付近である。2の外面はハケ目調整の後、斜め方向のヘラミガキを細かく行っている。8世紀中葉頃と考えられる。
時期：出土遺物の時期から、8世紀中葉頃の建物跡と考えられ、遺構の切り合い関係からはSB02より新しい遺構と考えられる。

第36表　SB01出土遺物観察表

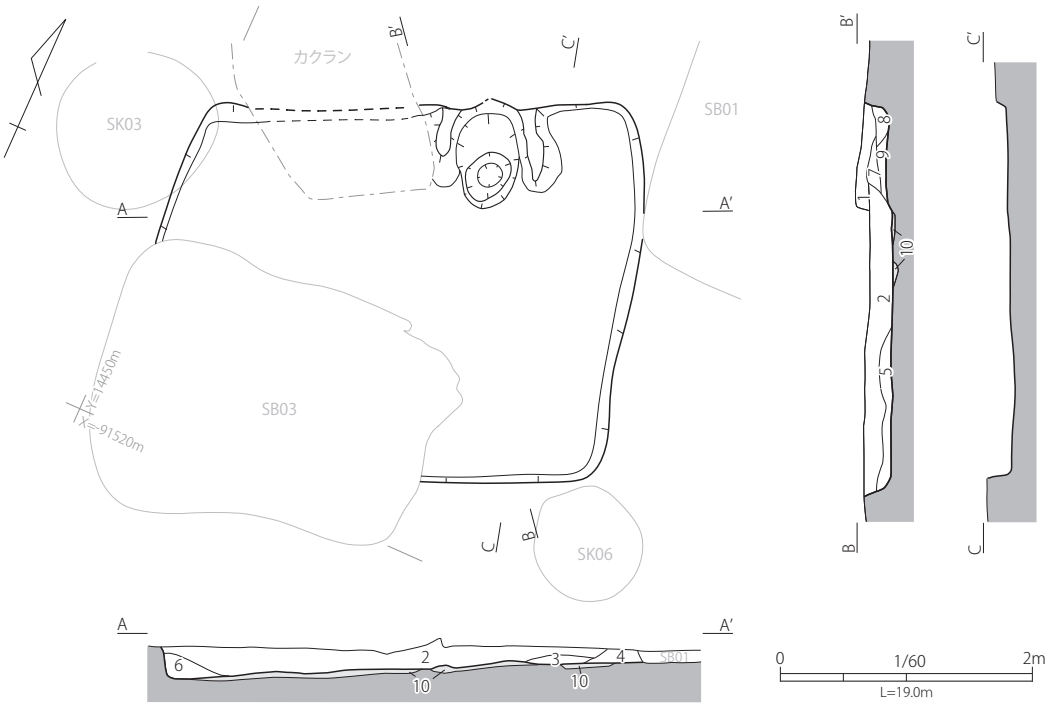
・土器

挿図番号	R番号	写真図版	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第233図－1	R004	PL.32	土師器	甕	-	（5.9）	-	良好	-		5YR4/4（にぶい赤褐） 5YR4/4（にぶい赤褐）
第233図－2	R004	PL.32	土師器	甕	-	（6.5）	-	良好	20%	反転復元	7.5YR4/3（褐） 7.5YR4/3（褐）

・石製品

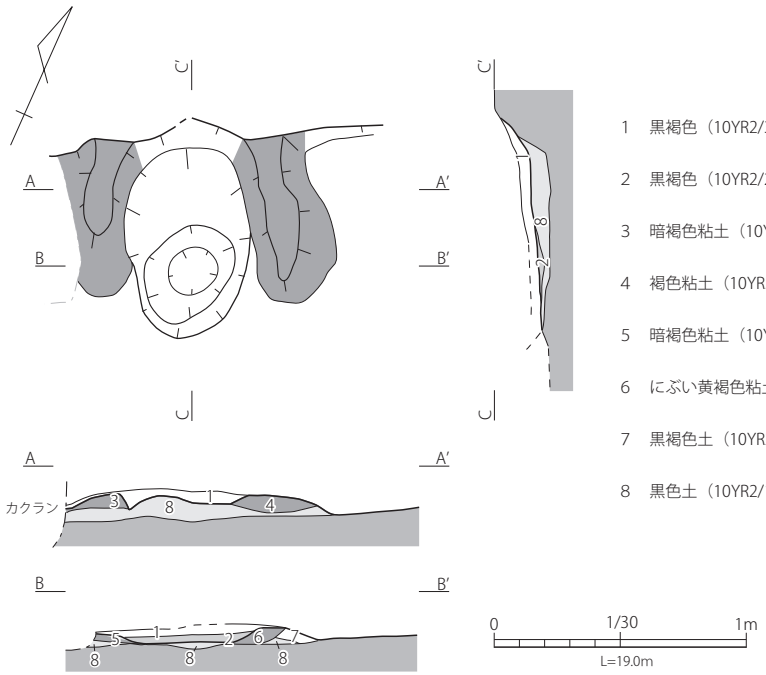
挿図番号	R番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第233図－3	R004	PL.32	砥石	12.5	5.0	4.0	299.47

SB02（第234図・第235図・第236図）
位置：調査区中央に位置する。
重複関係：（古）SB02→SB01・SB03・SK03（新）
主軸方位：N－24.0°－W
残存状況：南西コーナーをSB03に切られ、北壁とカマドの一部は撹乱により失われている。また、北西コーナーをSK03が切っているが、本建物跡のほうが深いためプランは確認できた。建物跡の規模は、主軸（南北）幅3.00m、直交（東西）幅3.80mを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。検出面からの深さは26㎝である。
覆土：黒褐色土・暗褐色土の自然堆積である。
壁溝：確認されなかった。
柱穴：確認されなかった。
その他の遺構：確認されなかった。
床：掘り方に黒褐色土を敷いて床面をつくっていた。
カマド：北壁のやや東寄りに設けられていた。袖の基底部と燃焼室のみが残存し、左袖の一部は撹乱により失われている。
　カマド上面からは破砕された遠江型水平口縁甕が出土しており、カマド廃絶時の祭祀行為の跡とみられる。
　カマドの規模は検出部分で全長88㎝、幅102㎝、燃焼室幅50㎝を測る。カマド袖の芯材などは確認されず、カマド掘り方の上に混ざりのある粘土を置いて袖を作り、燃焼室は掘り方をそのまま用いている。燃焼室の覆土には焼土や炭化物が多く含まれ、燃焼室内からは土器（須恵器無台坏、第237図－8）も出土している。これはカマド使用時のものとみられる。
出土遺物：土師器7点（1～7）、須恵器1点（8）を図示した（第237図）。
　1～7は、いずれも遠江系の甕の破片と考えられるが、雲母粒子を含む点では共通するものの、白色系（1～4・7）と褐色系（5・6）の胎土のものに分かれる。2は小型の甕もしくは鉢とされるもので、他は水平口縁甕である。非常に細かいハケ目を斜め方向に施したのち、口縁部から頸部にかけて丁寧に横ナデを施す。内面にハケ目は施さず、指オサエもしくは、板ナデ調整が認められるのみである。
　8は軟質の須恵器で碗形の坏身である。
　いずれも、8世紀中葉の遺物と考えられる。
時期：出土遺物の時期から、8世紀中葉に位置づけられ、遺構の切り合い関係からはSB01よりも古い遺構と考えられる。



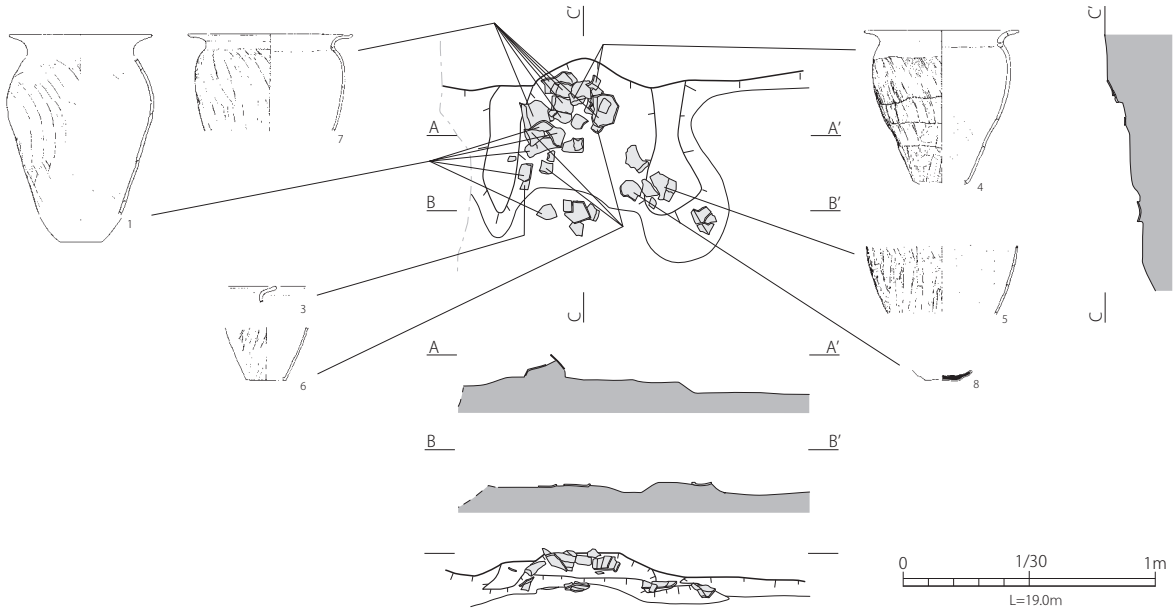
1	黒褐色土（10YR2/3）しまり強、粘性やや強。褐色粒子を多量含む。	SB02 覆土
2	黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を多量含む。地山の褐色土がブロック状に混ざる。	SB02 覆土
3	黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を中量含む。	SB02 覆土
4	黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を少量含む。	SB02 覆土
5	黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を微量含む。地山の褐色土が混ざる。	SB02 覆土
6	黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	SB02 覆土
7	暗褐色土（10YR3/3）しまり強、粘性やや強。褐色粒子を中量、黄褐色粘土を多量含む。	SB02 覆土
8	黒褐色土（10YR2/3）しまり強、粘性やや弱。褐色粒子を中量含む。	SB02 覆土
9	暗褐色土（10YR3/3）しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を中量含む。	SB02 覆土
10	黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を少量含む。地山の褐色土が混ざる。	SB02 掘り方埋土

第 234 図　SB02

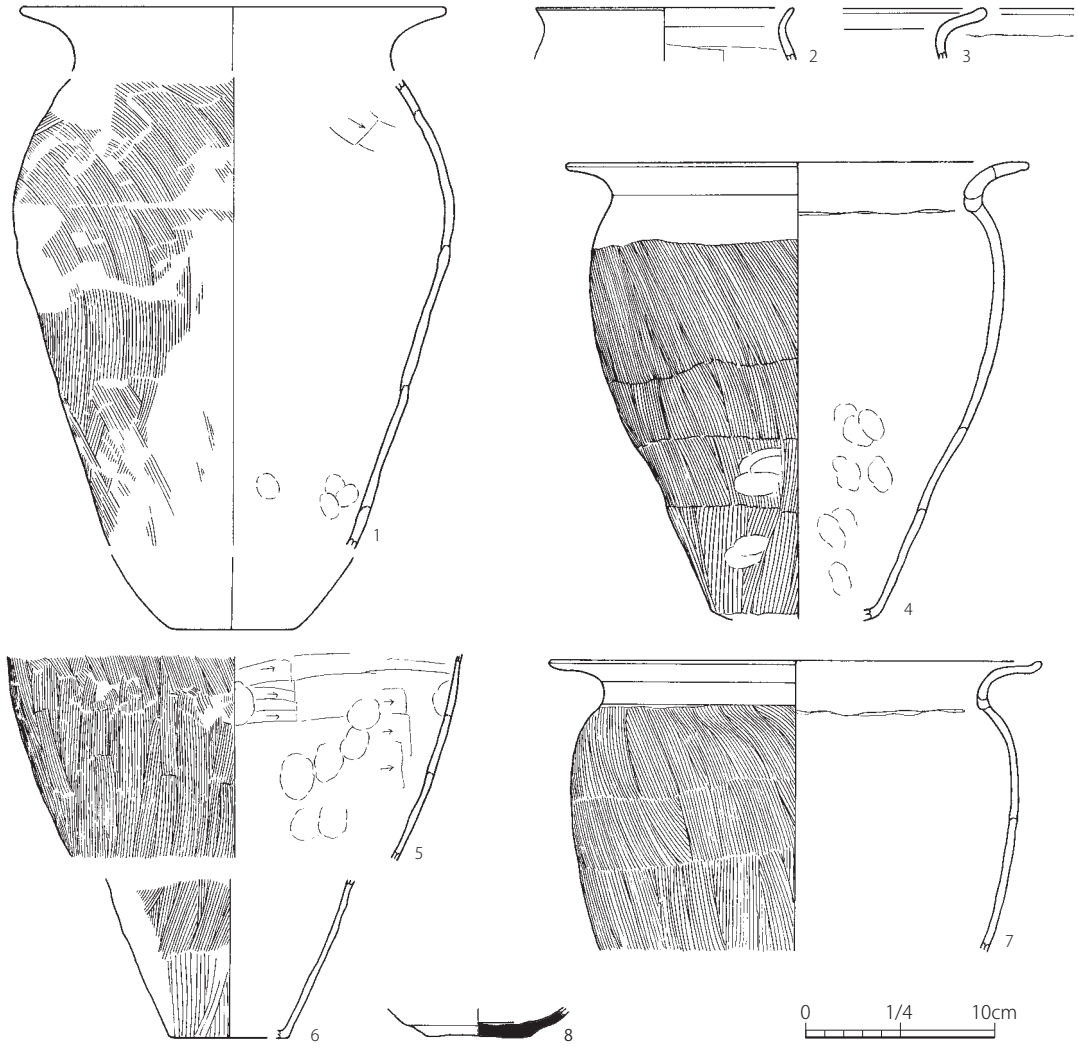


1	黒褐色（10YR2/3）	しまり中、粘性中。 粘土粒子・焼土粒子中量含む。	カマド覆土
2	黒褐色（10YR2/2）	しまり中、粘性中。 焼土をごく多量含む。	燃焼室覆土
3	暗褐色粘土（10YR3/4）	しまり強、粘性中。 部分的に黒色土を染み状に含む。	袖構築土
4	褐色粘土（10YR3/3）	しまり強、粘性中。 部分的に黒色土を染み状に含む。	袖構築土
5	暗褐色粘土（10YR3/4）	しまり強、粘性中。 部分的に黒色土を染み状に含む。	袖構築土
6	にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）	しまり強、粘性中。 部分的に黒色土を染み状に含む。	袖構築土
7	黒褐色土（10YR2/2）	しまり中、粘性中。 粘土を染み状に含む。	袖構築土
8	黒色土（10YR2/1）	しまり中、粘性中。 小石をところどころに含む。	掘り方埋土

第 235 図　SB02 カマド



第 236 図　SB02 カマド遺物出土状況図



第 237 図　SB02 出土遺物実測図

第 37 表　SB02 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 237 図－ 1	R030・032・034 036・047・058	PL.31	土師器	甕	-	(24.75)	-	良好	45%	反転復元	10YR7/3（にぶい黄橙） 10YR7/3（にぶい黄橙）
第 237 図－ 2	R053	PL.31	土師器	甕	(13.4)	(2.8)	-	良好	20%	反転復元	2.5Y8/3（淡黄） 2.5Y8/3（淡黄）
第 237 図－ 3	R006・035	PL.31	土師器	甕	(23.6)	(2.8)	-	良好	-		2.5Y7/4（浅黄） 2.5Y7/4（浅黄）
第 237 図－ 4	R022	PL.31	土師器	甕	(24.3)	(24.1)	(8.7)	良好	45%	反転復元	10YR7/4（にぶい黄橙） 10YR7/4（にぶい黄橙）
第 237 図－ 5	R039・040	PL.31	土師器	甕	-	(10.7)	-	良好	20%	反転復元	7.5YR5/4（にぶい褐） 7.5YR5/3（にぶい褐）
第 237 図－ 6	R025・031・054	PL.31	土師器	甕	-	(8.3)	(6.3)	良好	30%	反転復元	2.5YR6/6（橙） 2.5YR5/6（明赤褐）
第 237 図－ 7	R028・029・042・059	PL.31	土師器	甕	(25.3)	(15.4)	-	良好	65%	反転復元	10YR7/4（にぶい黄橙） 7.5YR7/4（にぶい橙）
第 237 図－ 8	R051	PL.31	須恵器	坏	-	(1.5)	(5.5)	良好	70%	反転復元	5Y6/2（灰オリーブ） 5Y6/2（灰オリーブ）

SB03（第 238 図・第 239 図・第 241 図）

位置：調査区の中央やや南寄りに位置する。

重複関係：（古）SB02 → SB03 → SX01（新）

主軸方位：N － 80.5° － E

残存状況：南壁の一部を SX01 に切られるが、他は良好に残存していた。主軸（東西）幅 2.68m、直交（南北）幅 2.18m を測る小規模の建物跡で、平面形は主軸方向にやや長い方形を呈する。検出面からの深さは 30㎝ほどである。

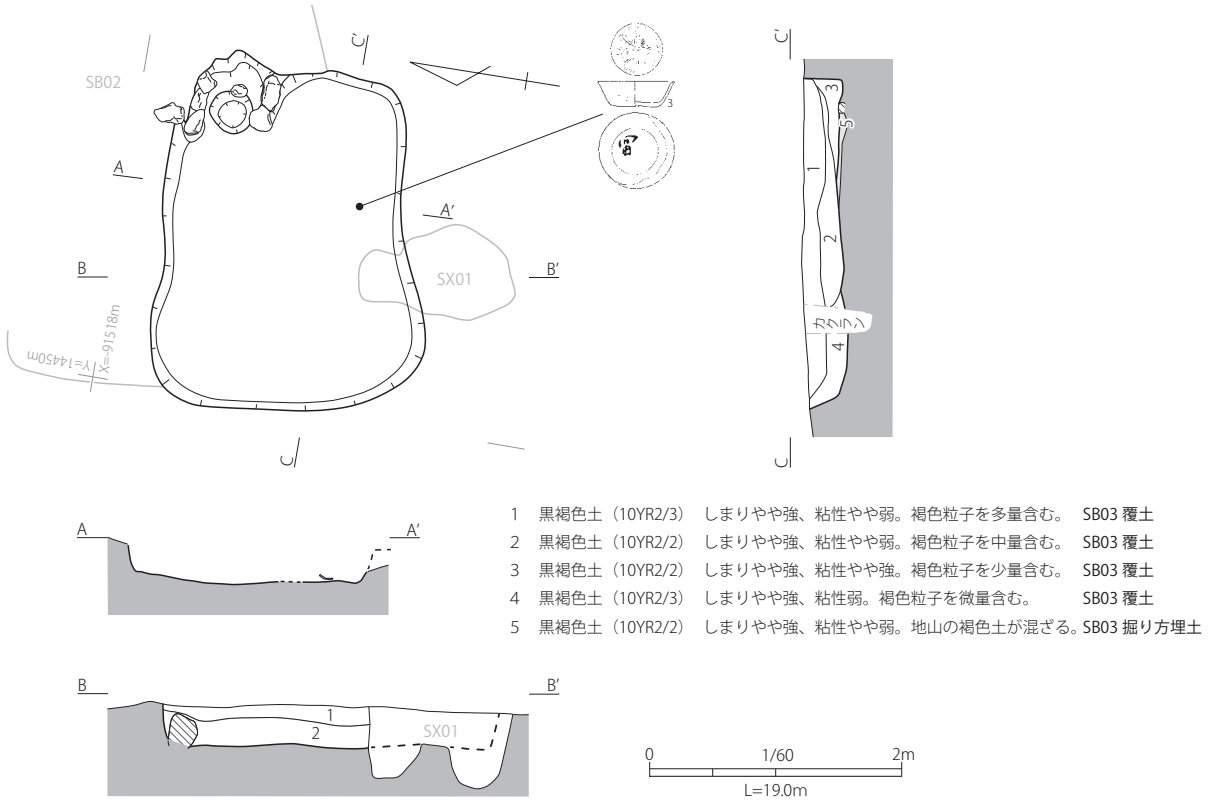
覆土：黒褐色土の自然堆積である。

壁溝：確認されなかった。

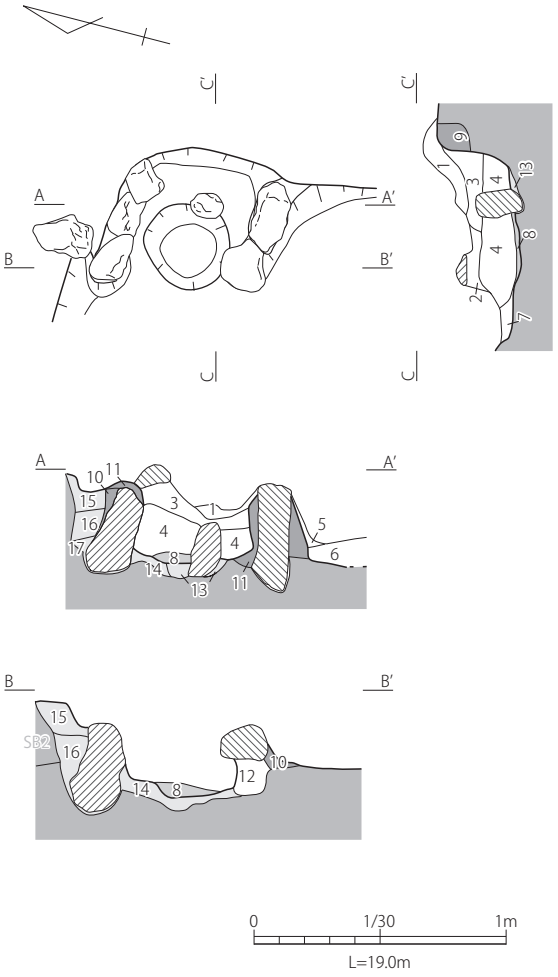
柱穴：確認されなかった。

その他の遺構：東壁中央付近において粘土塊と土師器甕の破片が出土しており、カマドの造り替えや粘土の貯蔵場所、あるいは南側に切り合う別の建物跡が存在した可能性などが考えられる。

床：一部に掘り方埋土が認められるが、大部分が掘り方を床面としていた。

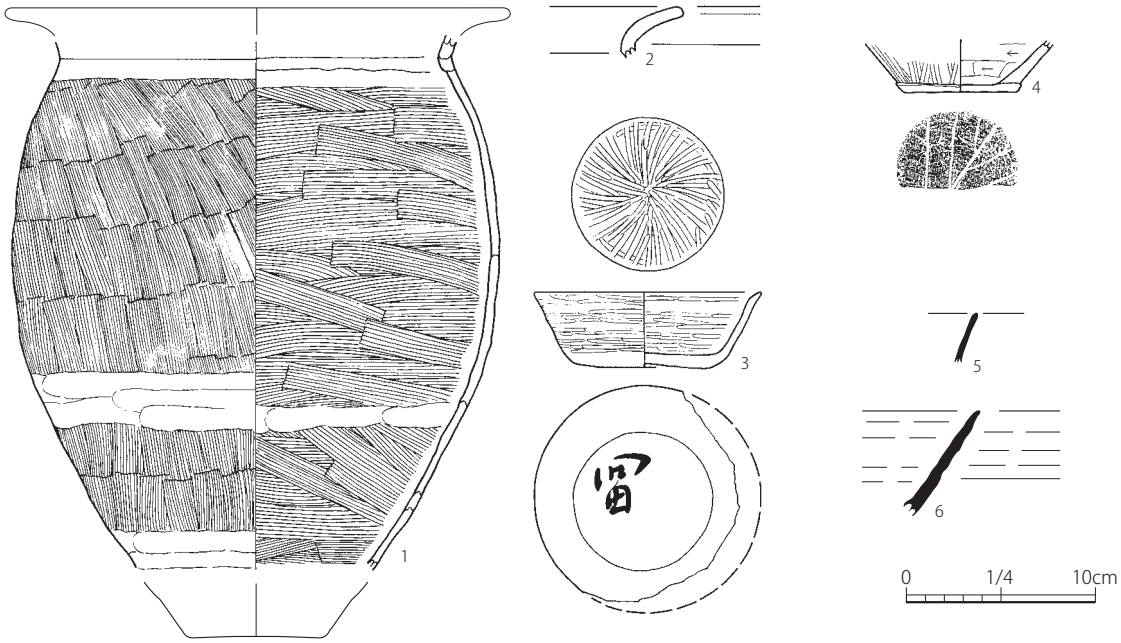


第 238 図　SB03



1　黒褐色土（7.5YR2/2）
　しまりやや強、粘性弱。粘土・焼土を少量含む。　カマド覆土
2　暗褐色粘土（10YR3/4）
　しまりやや強、粘性弱。　カマド天井部崩落
3　黒褐色土（7.5YR3/1）
　しまり普通、粘性弱。粘土粒子を多量含む。　カマド覆土
4　褐灰色土（7.5YR4/1）
　しまり強、粘性普通。粘土を染み状に含む。下部に焼土粒子多量。カマド覆土
5　黒褐色土（7.5YR3/1）
　しまりなし、粘性弱。粘土をブロック状に多量含む。　カマド袖崩落土
6　黒褐色土（7.5YR3/1）
　しまり普通、粘性普通。粘土を少量含む。　カマド覆土
7　黒褐色土（10YR2/2）
　しまりやや強、粘性普通。褐色粒子少量。地山の暗褐色土が混ざる。カマド覆土
8　褐色焼土（7.5YR4/4）
　しまりやや弱、粘性やや弱。　燃焼室覆土
9　黒褐色土（10YR2/2）
　しまりやや強、粘性普通。にぶい黄褐色粘土が多量混ざる。　カマド構築土
10　黒褐色土（10YR3/2）
　しまり強、粘性弱。にぶい黄褐色粘土が多量混ざる。　カマド袖構築土
11　にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）
　しまり強、粘性弱。　カマド袖構築土
12　暗褐色土（10YR3/4）
　しまりごく強、粘性弱。地山由来の土。　カマド袖構築土
13　暗褐色土（10YR3/4）
　しまり強、粘性やや強。　支脚石据付の土
14　黒褐色土（10YR2/3）
　しまり強、粘性弱。地山の褐色土に黒褐色土が多く混ざる。　カマド掘り方埋土
15　黒褐色土（10YR2/3）
　しまり強、粘性やや弱。褐色粒子を少量含む。　カマド掘り方埋土
16　黒褐色土（10YR2/2）
　しまり強、粘性やや弱。　カマド掘り方埋土
17　暗褐色土（10YR3/4）
　しまりやや強、粘性弱。地山由来の土。　カマド掘り方埋土

第 239 図　SB03 カマド

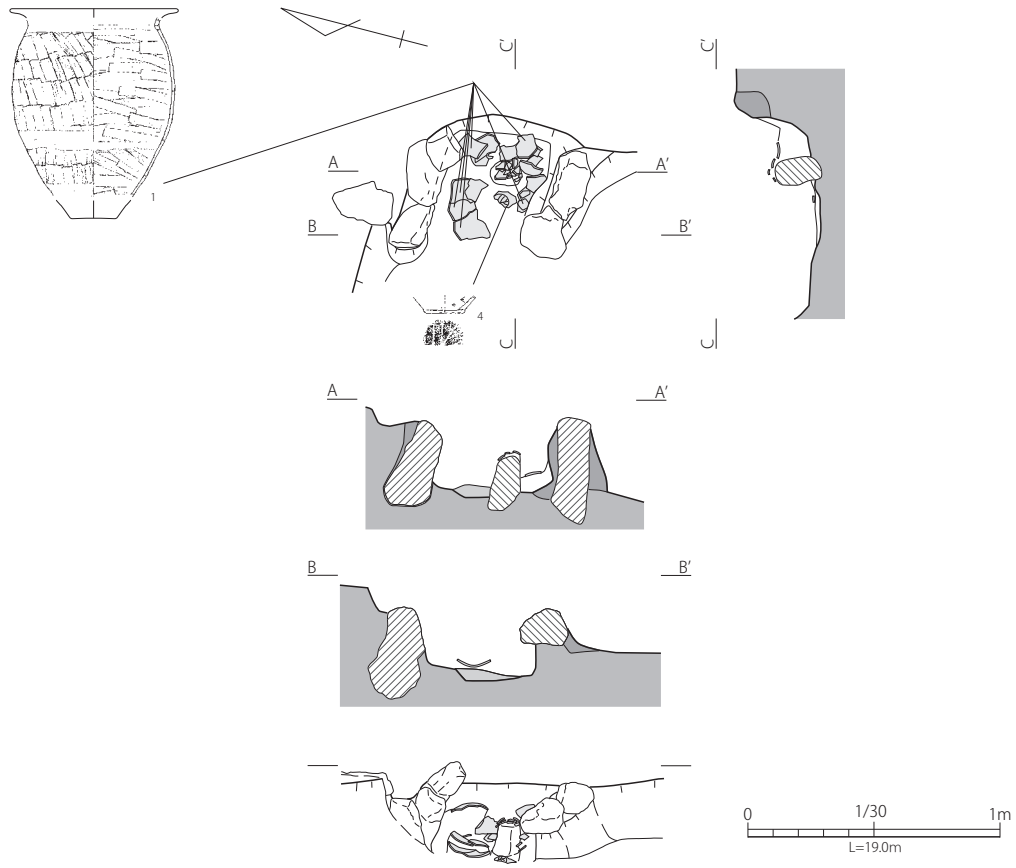


第 240 図　SB03 出土遺物実測図

カマド：東壁の北隅に設けられていた。カマドの規模は全長 68㎝、幅 80㎝、燃焼室幅 46㎝を測る。溶岩を多用して作られており、両袖の芯材として溶岩を前後に２石ずつ並べ、燃焼室の支脚にも溶岩を据えている。いずれも掘り方が深く掘り込まれ、丁寧に造られている様子を見て取ることが出来る。燃焼室内からは、破砕した土師器の駿東型長胴甕と須恵器が出土している。

出土遺物：土師器４点（１～４）、須恵器２点（５・６）を図示した（第 240 図）。１・２・４はいずれも駿東甕の中でも長胴を呈するもので、同一個体の可能性が考えられる。粘土を積み上げる際に、底部上端、胴部下半、頸部で乾燥工程を置き、その箇所を内外面ともにハケ目を消すようにナデ消している。３は坏の破片で内外面ともに横方向のヘラミガキが丁寧に施される。底部外面に「富」の墨書きが認められる。５は箱型の坏、６は有台の坏と考えられる。いずれも９世紀前葉の遺物と考えられる。

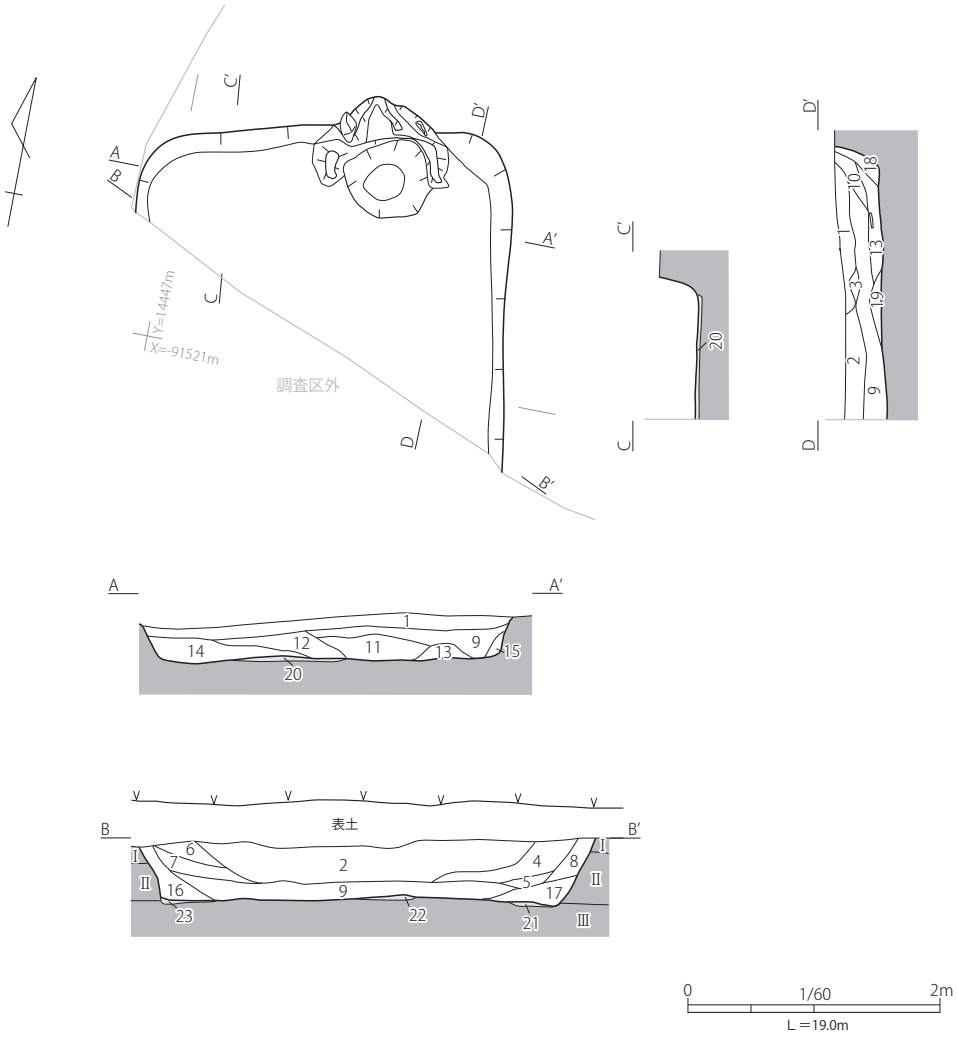
時期：出土遺物の時期から、本建物跡は９世紀前葉に位置づけられる。



第 241 図　SB03 カマド遺物出土状況図

第 38 表　SB03 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径（㎝）	器高（㎝）	底径（㎝）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 240 図－ 1	R060・062・063・065 084・095・096・100	PL.32	土師器	甕	-	(27.8)	-	良好	85%		2.5YR4/8（赤褐） 2.5YR5/6（明赤褐）
第 240 図－ 2	R066	PL.32	土師器	甕	-	(2.7)	-	良好	-		5YR5/6（明赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 240 図－ 3	R019	PL.32	土師器	坏	11.8	3.8	7.4	良好	75%	墨書土器 一部反転復元	5YR5/6（明赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第 240 図－ 4	R067	PL.32	土師器	壺	-	(2.8)	(5.7)	良好	55%	反転復元	2.5YR5/6（明赤褐） 7.5YR6/6（橙）
第 240 図－ 5	R006	PL.32	須恵器	坏	-	(2.5)	-	良好	-		N5/（灰） N5/（灰）
第 240 図－ 6	R006・007	PL.32	須恵器	坏	-	(5.4)	-	良好	-		5Y6/1（灰） 5Y6/1（灰）



1	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を微量含む。	SB04 覆土
2	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
3	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや強、粘性やや強。黄褐色粘土・褐色粒子を微量含む。	SB04 覆土
4	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。黄褐色粒子を多量、褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
5	黒色土（7.5YR2/1）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
6	黒色土（7.5YR2/1）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量、小石を少量含む。	SB04 覆土
7	黒色土（7.5YR2/1）	しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子・小石を少量含む。	SB04 覆土
8	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
9	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子・小石を少量含む。	SB04 覆土
10	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
11	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。黄褐色粘土をブロック状に多量、褐色粒子を少量含む。	SB04 覆土
12	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を少量含む。	SB04 覆土
13	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を少量含む。	SB04 覆土
14	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を多量含む。	SB04 覆土
15	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を少量、炭化物を微量含む。地山の褐色土が混ざる。	SB04 覆土
16	黒色土（10YR1.7/1）	しまり強、粘性やや弱。褐色粒子を少量、小石を多量含む。	SB04 覆土
17	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	SB04 覆土
18	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや弱、粘性やや強。地山の褐色土が少量混ざる。	SB04 覆土
19	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。褐色粒子を多量含む。黄褐色粘土が全体に散る。	SB04 覆土
20	黒色土（10YR2/1）	しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を微量、小礫を少量含む。	SB04 掘り方埋土
21	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強、粘性弱。地山の褐色土に黒色土が混ざる。	SB04 掘り方埋土
22	黒褐色土（10YR2/2）	しまり強、粘性やや強。地山の褐色土がブロック状に少量混ざる。	SB04 掘り方埋土
23	黒褐色土（10YR2/2）	しまり強、粘性やや強。地山の褐色土が多量混ざる。	SB04 掘り方埋土

第 242 図　SB04

SB04（第 242 図・第 243 図）

位置：調査区の南西隅に位置する。

重複関係：なし

主軸方位：N － 11.0° － W

残存状況：南側が調査区外にあるため全体の規模は不明であるが、検出部分から主軸（南北）残存幅 2.70m、直交（東西）幅 2.96m を測り、平面形は方形を呈するものと推定できる。覆土の残りがよく、検出面からの深さが 50㎝を測ることから、上面の削平は少ないものと考えられる。

覆土：黒褐色土・黒色土の自然堆積である。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

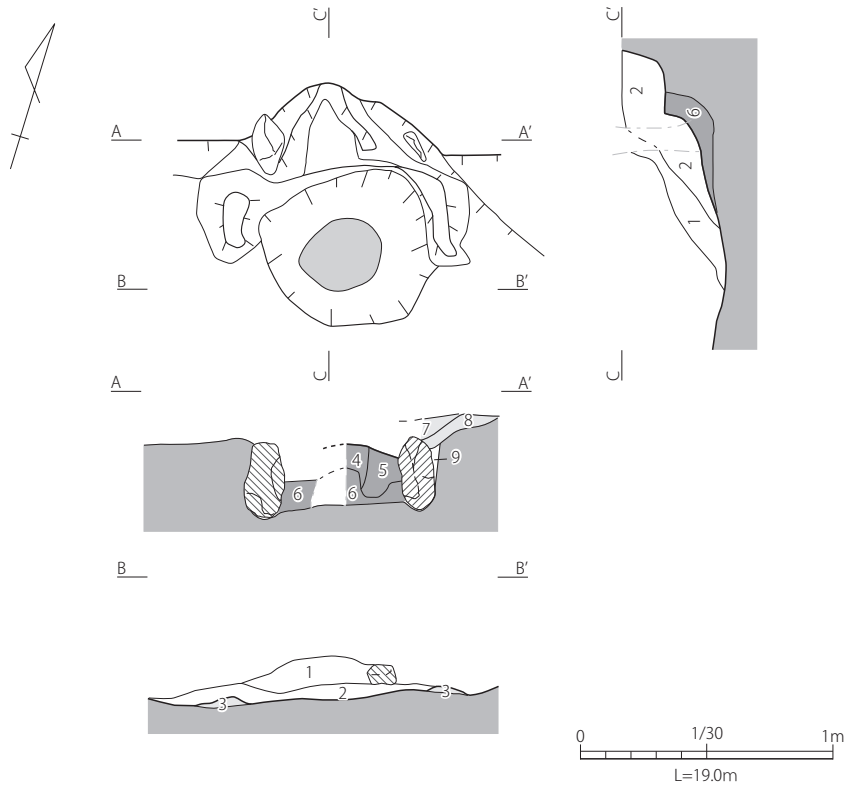
その他の遺構：東壁の中央付近に粘土の塊と土師器駿東型甕の大きめの破片が複数認められた。

床：掘り方埋土が一部に認められるが、大部分は掘り方を床面としている。

カマド：北壁のやや東寄りに設けられていた。規模は全長 96㎝、幅 108㎝、燃焼室幅 65㎝を測る。カマド袖の芯材には SB03 のような溶岩ではなく丸みのある大きな石を用いている。粘土を比較的多量に使ってつくられており、下部の粘土には混ざりが多いが、上部にはきれいな粘土が使われている。

出土遺物：灰釉陶器２点（1・2）、須恵器５点（3～7）、土師器７点（8～14）、石器１点（15）を図示した（第 244 図）。

１は坏、２は壺の破片と考えられるが、時期は明らかでない。３・４は摘みを有する蓋で、３は比較的高さが



1	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや弱、粘性やや強。にぶい黄褐色粘土をブロック状に多量、褐色粒子を少量含む。	カマド構築土崩落土
2	にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）	しまりやや強、粘性やや弱。	カマド構築土崩落土
3	にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）	しまりやや強、粘性やや強。	カマド袖構築土
4	にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）	しまりごく強、粘性弱。黒褐色土がブロック状に混ざる。	カマド構築土
5	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強、粘性やや弱。にぶい黄褐色粘土に黒褐色土が多く混ざる。	カマド構築土
6	暗褐色土（10YR3/3）	しまりごく強、粘性弱。にぶい黄褐色粘土が混ざる。	カマド構築土
7	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。	カマド掘り方埋土
8	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を少量含む。地山の褐色土が多く混ざる。	カマド掘り方埋土
9	黒褐色土（10YR2/3）	しまり強、粘性弱。	カマド掘り方埋土

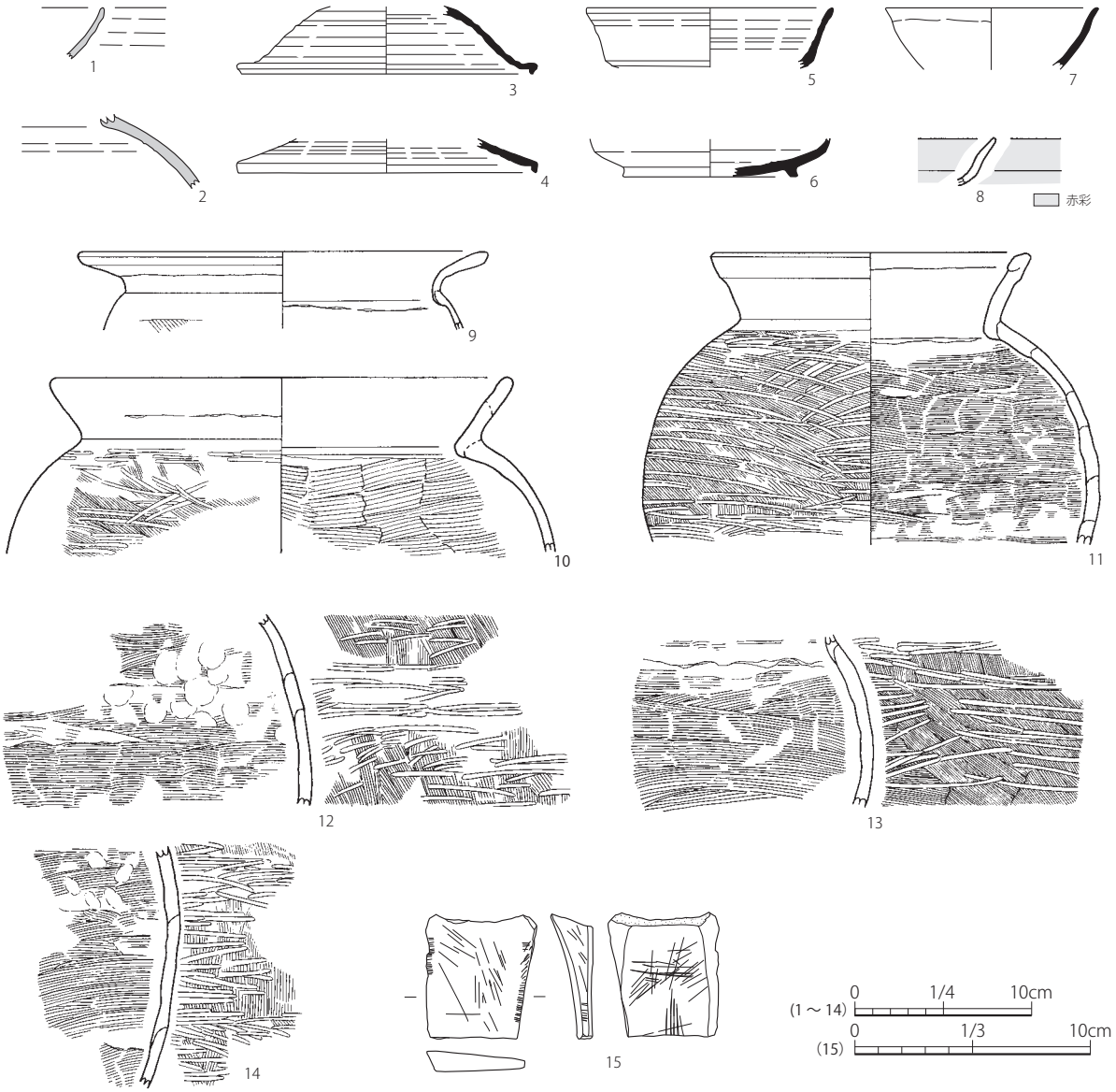
第 243 図　SB04 カマド

有り、端部付近で強く反りかえる。５・６は有台の箱坏、７は軟質の須恵器である。

８の土師器は内外面ともに赤色処理されている。遠江系の坏の可能性が考えられる。９は遠江系の水平口縁甕の破片だが、胎土に雲母粒子を含まず、器厚も厚いことから、遠江産ではない可能性が高い。

11 ～ 14 はいずれも駿東甕の破片で、ハケ目調整の後、特徴的なヘラミガキが認められる。

時期：出土遺物から、本建物跡は８世紀代に位置づけられる。



第 244 図　SB04 出土遺物実測図

第 39 表　SB04 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 244 図－ 1	R007	PL.33	灰釉陶器	坏	-	(3.0)	-	良好	-		2.5Y7/1（灰白）	2.5Y7/1（灰白）
第 244 図－ 2	R007	PL.33	灰釉陶器	壺	-	(4.2)	-	良好	-		2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y7/2（灰黄）
第 244 図－ 3	R007	PL.33	須恵器	坏蓋	(16.5)	(3.8)	-	良好	25%	反転復元	5Y6/1（灰）	5Y5/1（灰）
第 244 図－ 4	R007	PL.33	須恵器	坏蓋	(16.9)	(1.9)	-	良好	-	反転復元	2.5Y7/1（灰白）	2.5Y7/1（灰白）
第 244 図－ 5	R007	PL.33	須恵器	坏	(13.7)	(3.4)	-	良好	25%	反転復元	5Y6/1（灰）	5Y6/1（灰）
第 244 図－ 6	R007	PL.33	須恵器	坏	-	(2.2)	(9.7)	良好	20%	反転復元	5Y6/1（灰）	5Y7/1（灰白）
第 244 図－ 7	R007	PL.33	須恵器	坏	(11.7)	(3.5)	-	良好	20%	反転復元	5Y7/2（灰白）	5Y7/1（灰白）
第 244 図－ 8	R007	PL.33	土師器	坏	-	(2.7)	-	良好	-	内外赤彩	7.5YR7/4（にぶい橙）	7.5YR7/4（にぶい橙）
第 244 図－ 9	R007	PL.33	土師器	甕	(22.4)	(4.4)	-	良好	20%	反転復元	10YR6/4（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）
第 244 図－ 10	R007	PL.33	土師器	長胴甕	(25.0)	(9.8)	-	良好	-	反転復元	5YR4/6（赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 244 図－ 11	R007・020	PL.33	土師器	球胴甕	(17.6)	(16.4)	-	良好	25%	反転復元	5YR4/6（赤褐）	5YR4/6（赤褐）
第 244 図－ 12	R007・015	PL.33	土師器	長胴甕	-	(10.8)	-	良好	-		5YR4/3（にぶい赤褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）
第 244 図－ 13	R007・015・098	PL.33	土師器	球胴甕	-	(9.7)	-	良好	-		5YR4/4（にぶい赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）
第 244 図－ 14	R007・021	PL.33	土師器	長胴甕	-	(13.6)	-	良好	-		5YR4/4（にぶい赤褐）	5YR4/4（にぶい赤褐）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 244 図－ 15	R007	PL.33	砥石	5.4	4.7	1.8	39.53

性格不明遺構

SX01（第 246 図）

位置：調査区の南側中央に位置する。

重複関係：（古）SB03 → SX01（新）

残存状況：長軸（南北長）121cm、短軸（東西長）75cm、最深 60cmを測る。平面形は不定形で底部の 3 ヶ所が深く落ち込んでいる。SB03 の南壁を切って掘り込まれている。

出土遺物：1 点図示した（第 245 図）。灰釉陶器の破片だが、時期は不明である。

土坑・ピット

9 基の土坑（SK01 ～ 09）と 5 基のピット（Pit01 ～ 05）を検出した（第 246 図）。このうち建物跡と切り合うのは SK03 のみで、SB02 の北西角を切って掘り込まれている。

いずれも配置に規則性は見出せず、性格は明らかでない。

第 245 図　SX01 出土遺物実測図

第 40 表　SX01 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調	外面色調
第 245 図－ 1	R008	PL.31	灰釉陶器	碗	-	(3.0)	(5.2)	良好	-	反転復元	2.5Y7/2（灰黄）	2.5Y7/2（灰黄）

1	黒色土（10YR2/1）	しまりやや弱、粘性弱。
2	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや弱、粘性弱。黄褐色粒子を微量含む。
3	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや弱、粘性弱。黄褐色粒子を微量含む。
4	黒褐色土（10YR3/1）	しまりやや強、粘性弱。黄褐色粒子を少量含む。
5	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。黄褐色粒子を微量含む。
6	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや強、粘性弱。黄褐色粒子・小石を微量含む。
7	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。
8	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を微量、ブロック状のⅡ層を含む。
9	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや強、粘性弱。褐色粒子・小石を少量含む。
10	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや弱、粘性やや強。褐色粒子・炭化物を微量、ブロック状のⅡ層を含む。
11	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子を微量含む。
12	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや弱、粘性弱。褐色粒子を微量含む。
13	黒色土（7.5YR2/1）	しまりやや強、粘性やや強。Ⅱ層を部分的に染み状に含む。
14	黒褐色土（7.5YR2/2）	しまりやや強、粘性やや強。13層よりⅡ層の混ざりが多い。
15	黒褐色土（10YR2/2）	しまりやや弱、粘性やや弱。褐色粒子を少量含む。

SX01 覆土
SK01 覆土
SK04 覆土
SK02 覆土
SK03 覆土
SK05 覆土
SK06 覆土
SK07 覆土
SK08 覆土
SK09 覆土
Pit01 覆土
Pit02 覆土
Pit04 柱痕
Pit04 柱痕埋土
Pit05 覆土

第246図　SX・SK・Pit

第６章　三日市廃寺跡（東平遺跡 第60地区）の調査

第１節　東平遺跡・三日市廃寺跡の概要

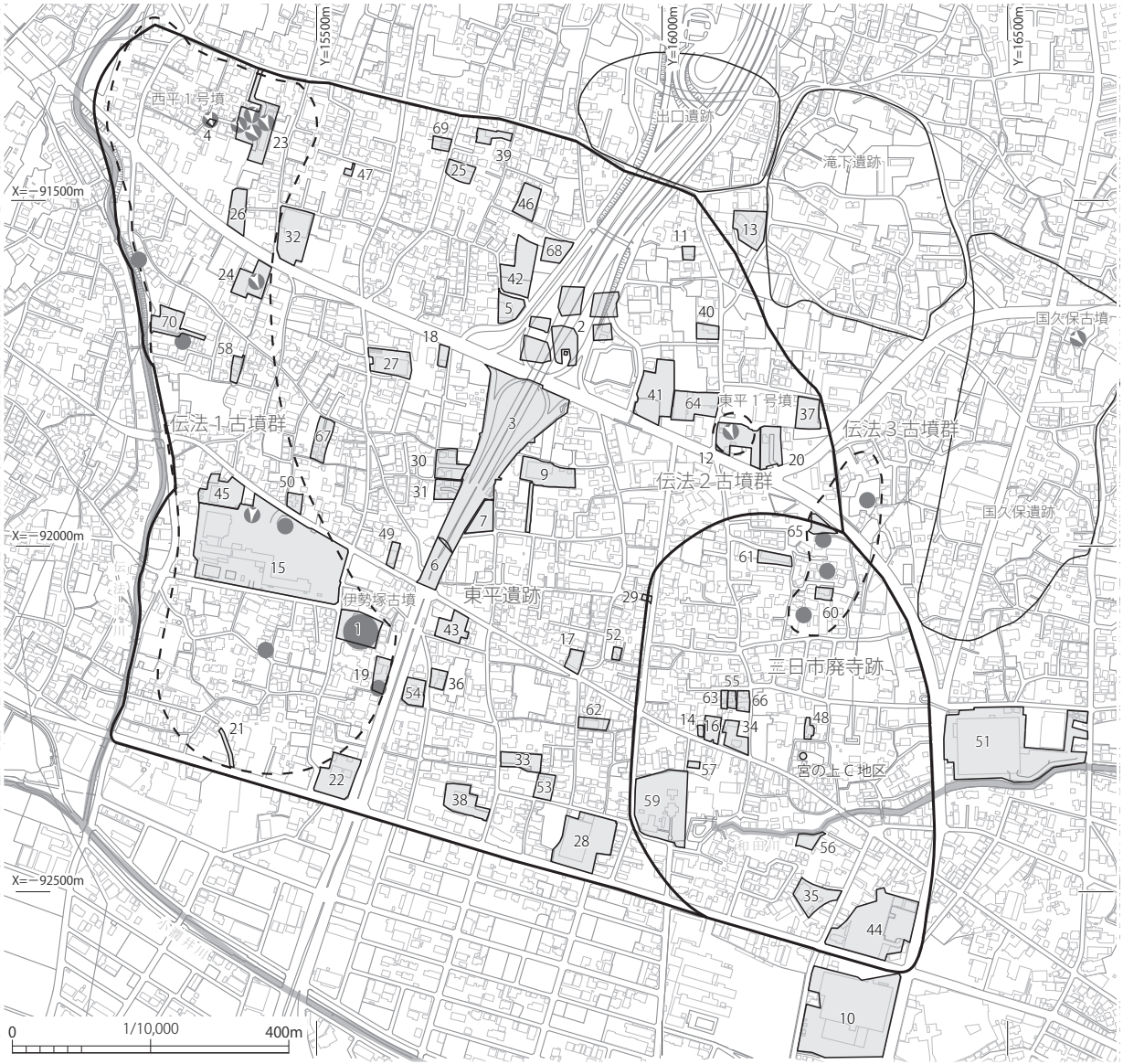
東平遺跡は、富士山南麓の大淵扇状地上に立地する８～９世紀を主体とする集落跡であり、富士郡衙の中枢と考えられている遺跡である。また、三日市廃寺跡は東平遺跡と包蔵地範囲が隣接する社寺跡であるが、郡衙周辺寺院がここに存在した可能性が考えられており、この二つの遺跡を切り離して考えることは出来ない。

東平遺跡および三日市廃寺跡ではこれまでに多くの発掘調査が行われており、その地区地点は67箇所に及ぶ（平成26年3月時点、第247図）。

両遺跡の詳細については別にまとめられている（佐藤2013）ため、そちらを参照されたい。

参考文献

佐藤祐樹 2013「第２章　第１節　東平遺跡・三日市廃寺跡の概要」『富士市内遺跡発掘調査報告書 －平成22・23年度－』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集　富士市教育委員会



第247図　東平遺跡の調査区

第２節　第 60 地区の調査成果

第１項　調査の経緯と経過

事業者は、当該地における個人住宅の新築工事を計画し、平成 25 年２月７日、富士市教育委員会文化振興課では、施工業者より埋蔵文化財に対する照会を受けた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「三日市廃寺跡」に含まれており、工事計画によっては確認調査が必要となる旨を回答した。その後、「埋蔵文化財発掘の届出書」、「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出されたため、文化振興課による確認調査を行うこととなった。

確認調査は平成 25 年２月 20 日に行った。対象地内に１ヶ所トレンチを設定し、人力による掘削の後、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、現地表下 0.6 mから竪穴建物跡の一部が検出された。

その後、事業者より文化財保護法第 93 条に基づく届出がなされ、静岡県教育委員会に申達した。平成 25 年５月 30 日付で、遺跡の保護が図れない範囲について本発掘調査を実施するよう指示があった。これを受け、平成 25 年６月５日付で事業者より富士市教育委員会に発掘調査依頼書が提出され、本発掘調査が実施されることとなった。

本発掘調査は、平成 25 年６月 11 日から７月９日に行い、竪穴建物跡５軒を検出・完掘した。

第２項　調査成果

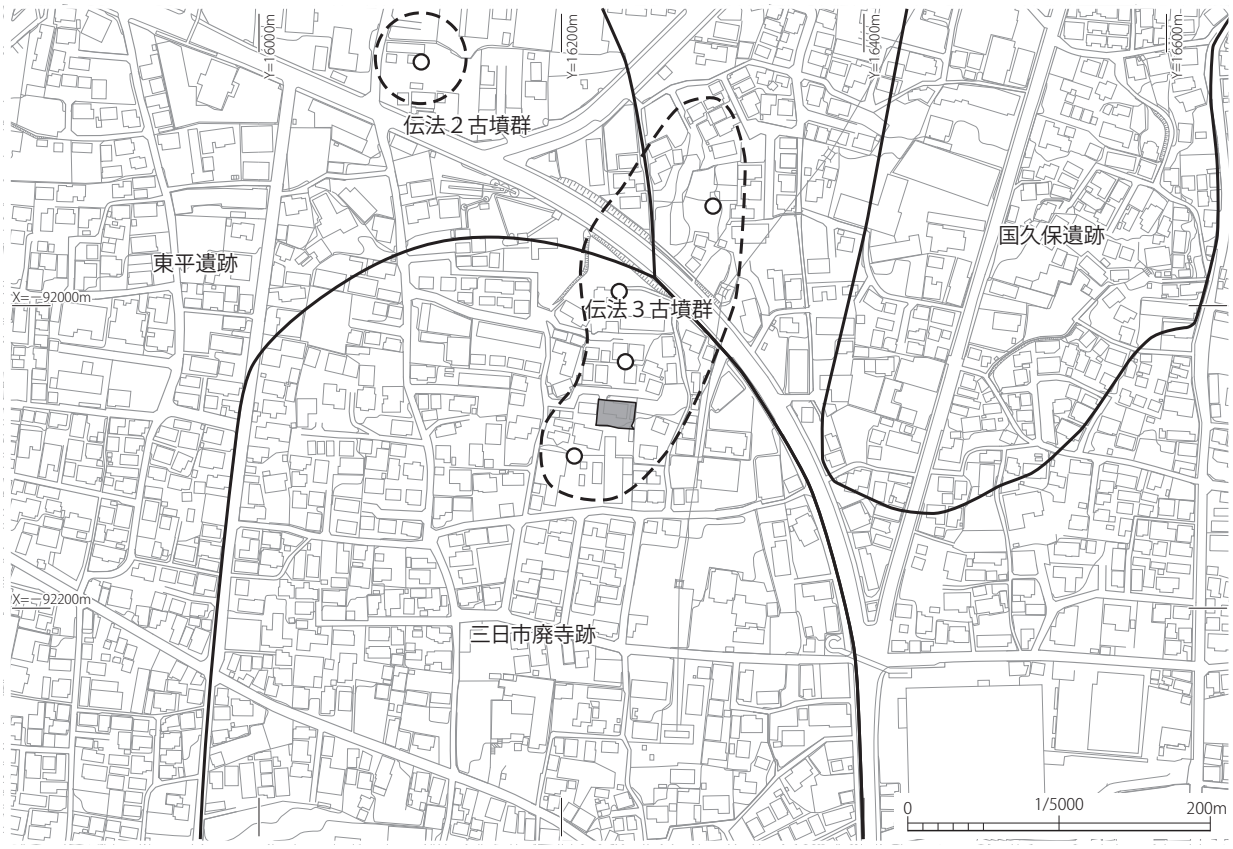
ＳＢ０１

遺構（第 252 図）

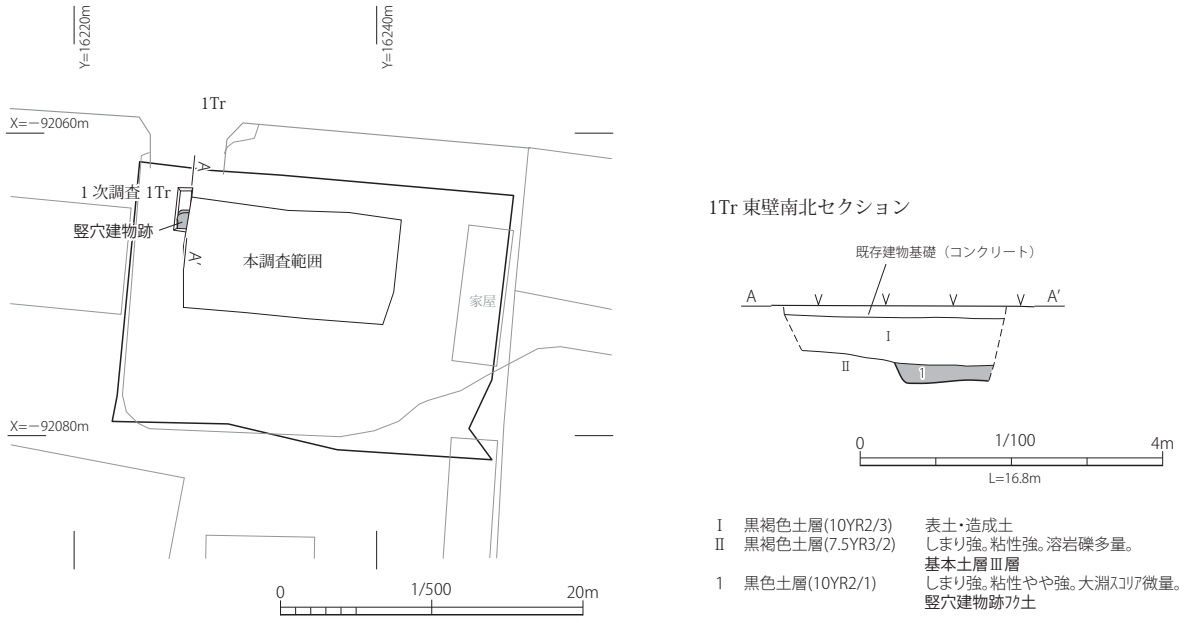
重複関係：（古）SB01 → SB02（新）

主軸方位：Ｎ－７°－Ｅ

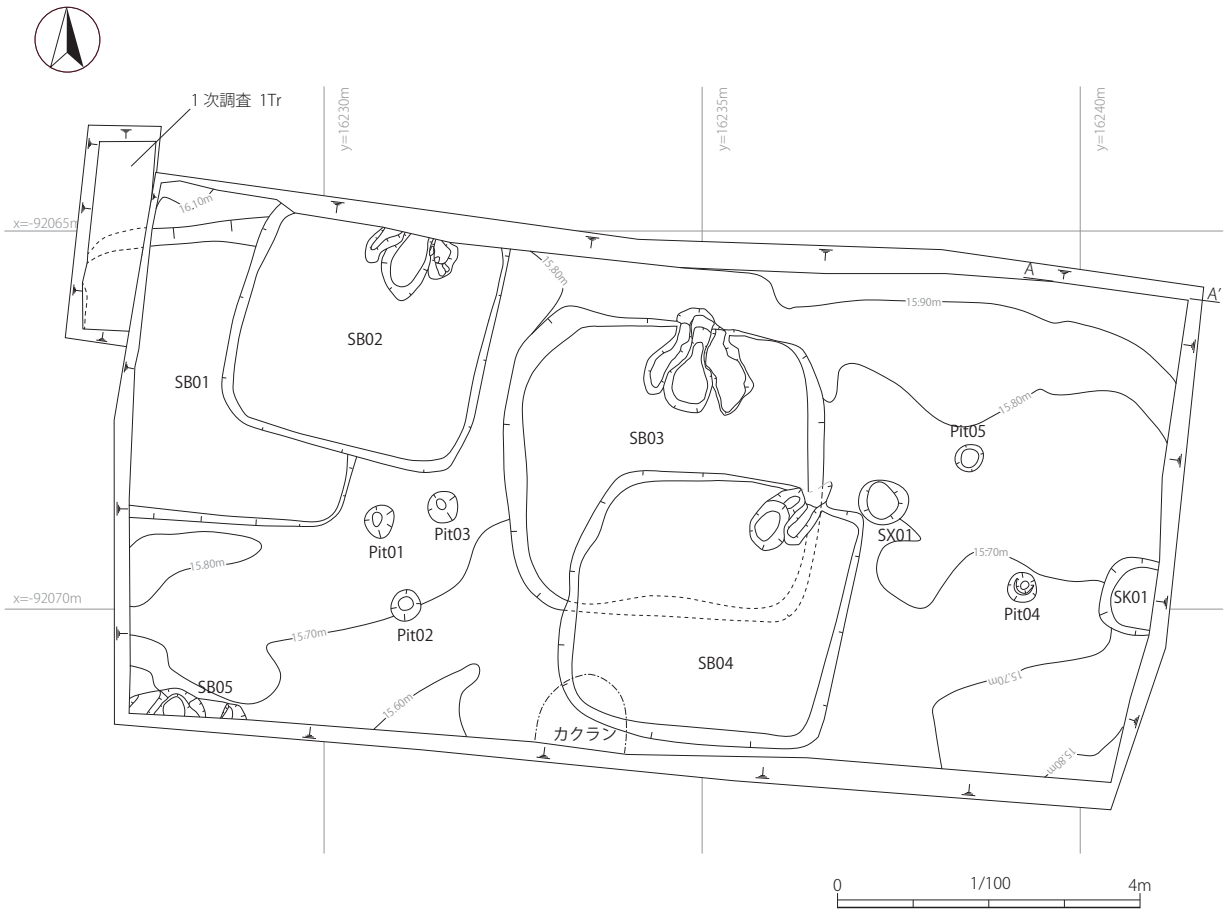
残存状況：北東側を SB02 に切られており、西側は調査区外のため、本調査では未検出。ただし、確認調査時に SB01 の北西コーナーと考えられるプランを検出している。主軸（南北）幅 4.1 m、直交（東西）幅は 4.0m（復元）、深さ 10cm を測る。



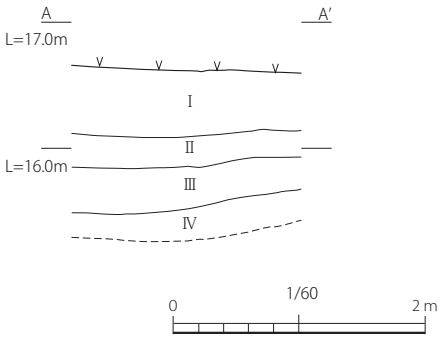
第 248 図　調査地位置図



第 249 図　1 次調査　平面図・セクション図



第 250 図　2 次調査　全体図



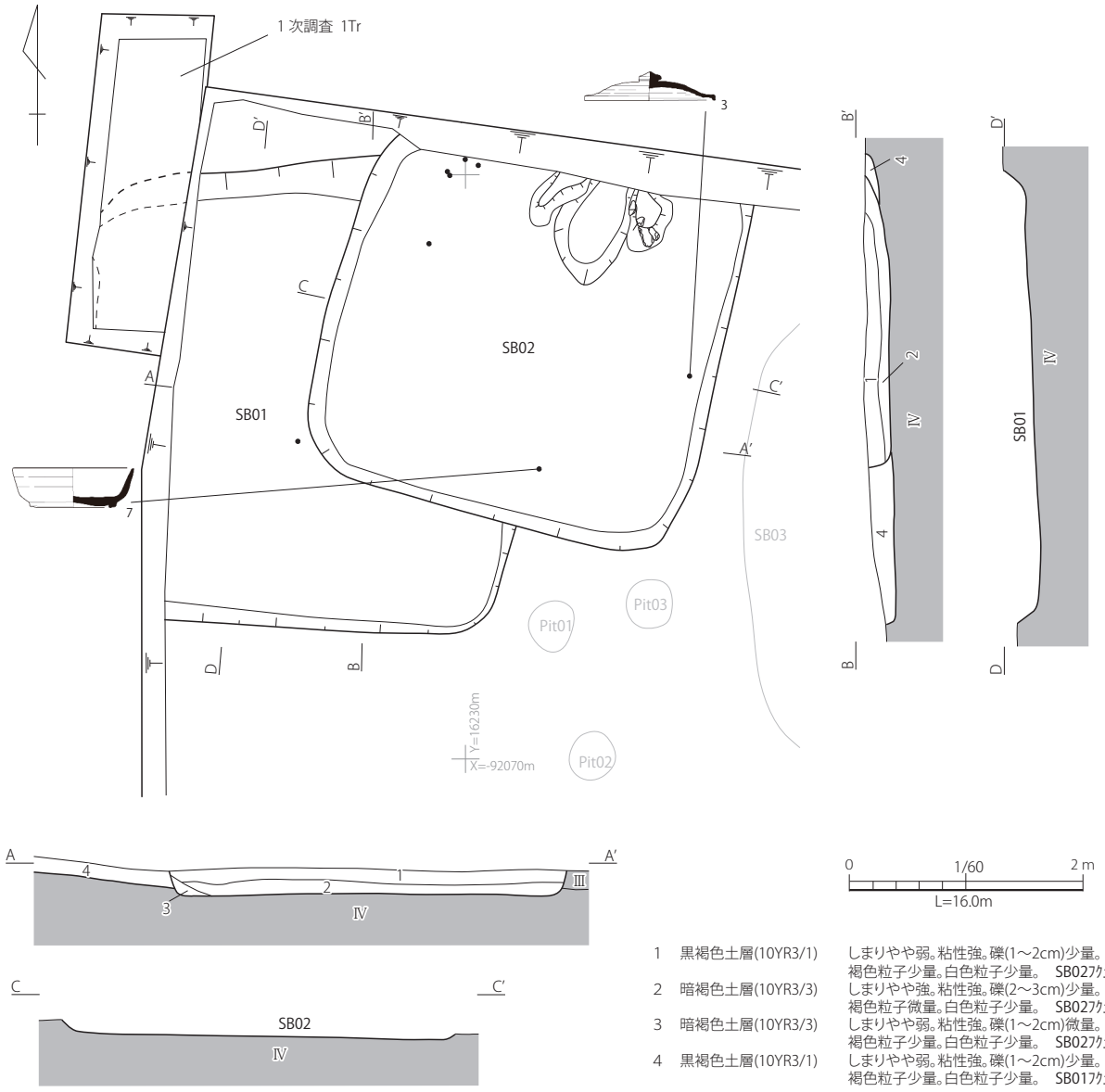
Ⅰ　表土
Ⅱ　黒色土層 (10YR2/1)　しまりやや強。粘性強。褐色粒子 (1 ～ 3mm) 少量。
Ⅲ　黒褐色土層 (7.5YR3/2)　しまりやや強。粘性弱。溶岩角礫 (5mm) 多量。
Ⅳ　にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)　しまり強。粘性やや弱。溶岩角礫 (2 ～ 5cm) 中量。
橙色粒子 (1 ～ 3mm) 少量。白色粒子 (1mm) 少量。

第 251 図　基本土層

覆土：礫（１～２cm）を含む黒褐色土層。自然堆積層。
壁溝：確認されなかった。
柱穴：確認されなかった。
床：貼り床はなく、掘り方が床面となる。
カマド：確認されなかった。

出土遺物（第 253 図）

須恵器６点、土師器１点を図示した。１～３・６は摘み蓋の破片と考えられる。１の摘みは扁平な形態を示す。４は有台坏身の破片で坏部の傾斜の変る部分の内側に高台をつけている。内外面のノタメは明瞭ではない。５はハソウの破片である。ロクロ整形後、ドーナツ状の粘土を貼り付け、その後、外側から内側に向かって穿孔して



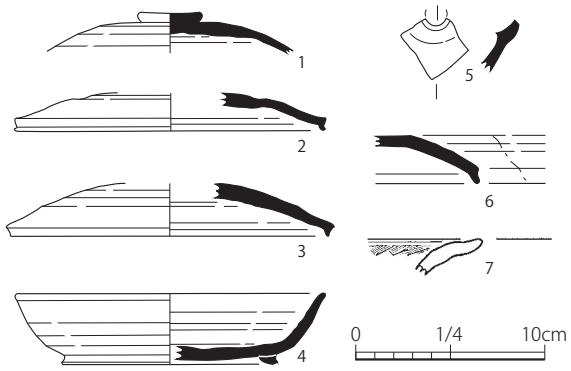
1　黒褐色土層(10YR3/1)　しまりやや弱。粘性強。礫(1～2cm)少量。褐色粒子少量。白色粒子少量。　SB02ｶｸ土
2　暗褐色土層(10YR3/3)　しまりやや強。粘性強。礫(2～3cm)少量。褐色粒子微量。白色粒子少量。　SB02ｶｸ土
3　暗褐色土層(10YR3/3)　しまりやや弱。粘性強。礫(1～2cm)微量。褐色粒子少量。白色粒子少量。　SB02ｶｸ土
4　黒褐色土層(10YR3/1)　しまりやや弱。粘性強。礫(1～2cm)少量。褐色粒子少量。白色粒子少量。　SB01ｶｸ土

第 252 図　SB01・SB02

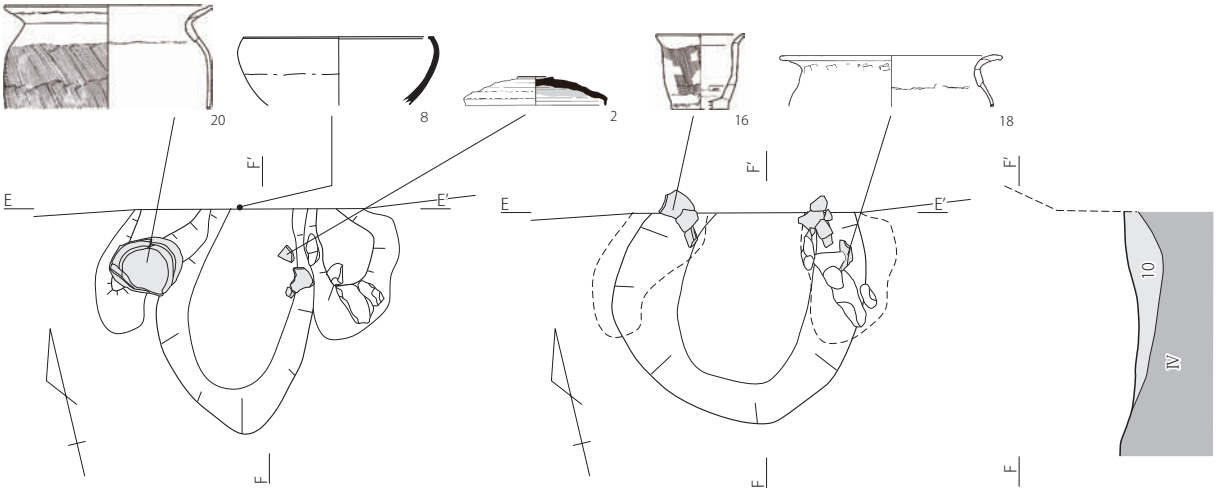
いる。７は遠江系の水平口縁甕の破片である。口縁部ヨコナデの後、板状工具による部分的なハケ目調整を施す。

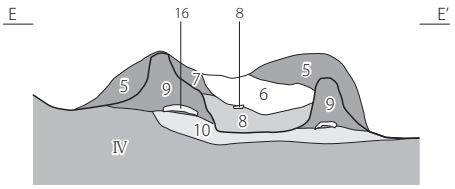
所見

出土遺物から８世紀前半と考えられる。



第 253 図　SB01　出土遺物





5	にぶい黄橙色粘土層(10YR7/4)	しまり弱。粘性弱。焼土少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ崩落土
6	にぶい黄橙色土層(10YR7/4)	しまり弱。粘性弱。粘土少量。焼土少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ燃焼室
7	にぶい黄橙色土層(10YR7/4)	しまり弱。粘性弱。粘土多量。焼土少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ燃焼室
8	焼土層(10YR6/4)	しまり強。粘性弱。炭化物少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ燃焼室
9	黄橙色粘土層(10YR8/6)	しまり強。粘性弱。黒褐色土少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ袖
10	にぶい黄橙色土層(10YR7/4)	しまり強。粘性弱。粘土多量。	B02ｶﾏﾄﾞ掘方埋土

第 254 図　SB02　カマド

第 41 表　SB01 出土遺物観察表

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 253 図－ 1	R020	PL.40	須恵器	坏蓋	-	(2.1)	-	良好	60%	反転復元	2.5Y6/1（黄灰） 5Y6/1（灰）
第 253 図－ 2	R006、025	PL.40	須恵器	坏蓋	(16.2)	(2.0)	-	良好	25%	反転復元	2.5Y5/1（黄灰） 2.5Y6/1（黄灰）
第 253 図－ 3	R010	PL.40	須恵器	坏蓋	(16.7)	(2.8)	-	良好	15%	反転復元	2.5Y7/2（灰黄） 2.5Y7/2（灰黄）
第 253 図－ 4	R009	PL.40	須恵器	坏	(16.2)	(3.75)	-	良好	20%	反転復元	2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y7/1（灰白）
第 253 図－ 5	R001	PL.40	須恵器	ハソウ	-	(2.7)	-	良好	-		2.5Y6/1（黄灰） 2.5Y7/1（灰白）
第 253 図－ 6	R003、014	PL.40	須恵器	坏蓋	-	(2.5)	-	良好	-		2.5Y7/1（灰白） 7.5YR5/2（灰オリーブ）
第 253 図－ 7	R023	PL.40	土師器	甕	-	(1.85)	-	良好	-		10YR7/4（にぶい黄橙） 10YR6/4（にぶい黄橙）

ＳＢ０２

遺構（第 252 図・第 254 図）

重複関係：（古）SB01 → SB02（新）

主軸方位：N － 12° － E

残存状況：北側が調査区外のため検出されなかったものの、他は良好に残存する。隅丸方形を呈し、主軸（南北）幅 3.0m（残存）、直交（東西）幅 3.4m、深さ 25cm を測る。

覆土：礫（１～２cm）を含む黒褐色・暗褐色土層。自然堆積層。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

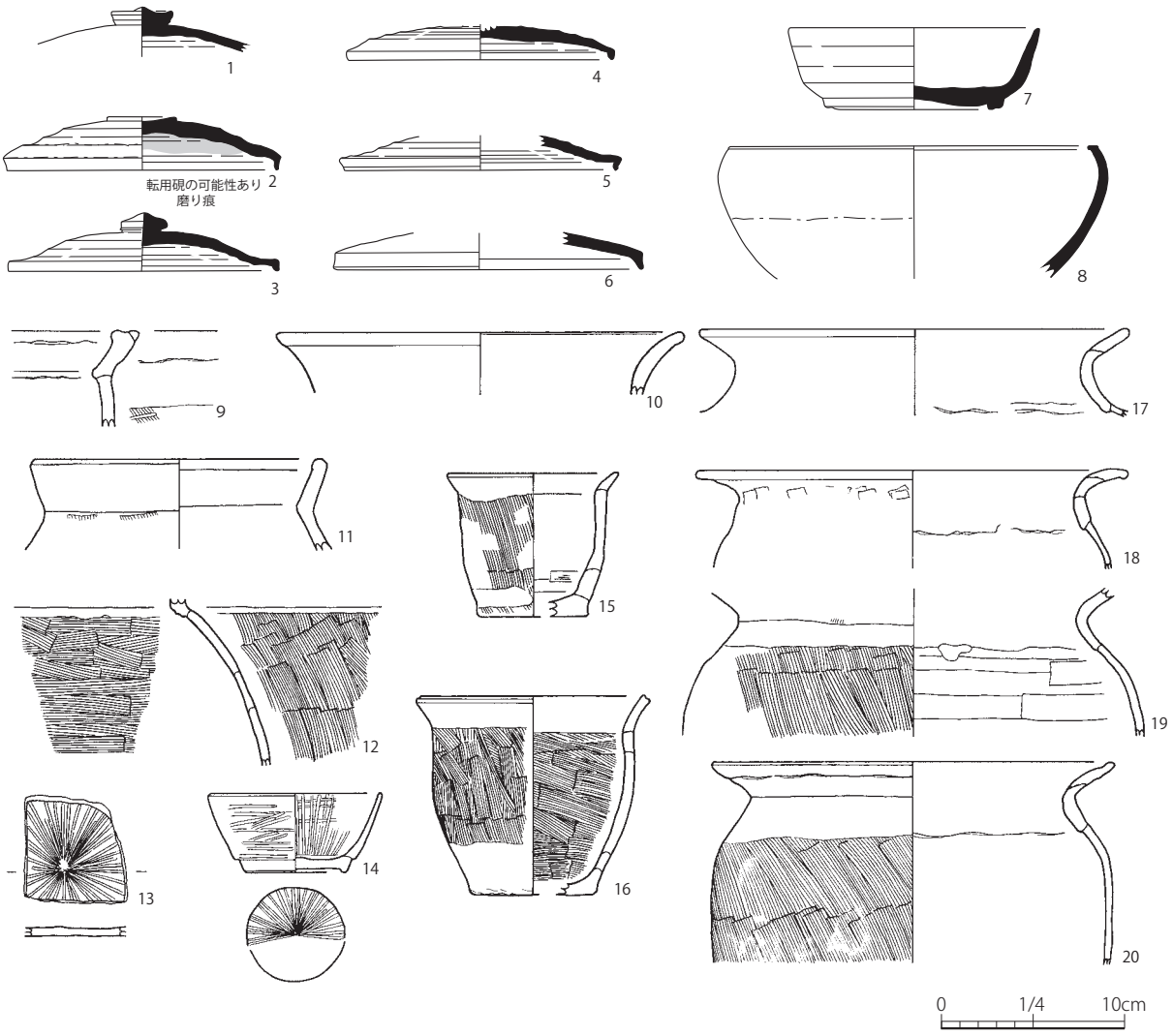
床：貼り床はなく、掘り方が床面となる。

カマド：北壁やや西側で検出。北側は調査区外のため、全体の規模は不明。比較的良好に残存し、両袖ともに黄橙色粘土を使って構築される。左袖上面から土師器甕(20)、燃焼室内から須恵器摘み蓋（２）が出土している。また、袖構築の粘土中から土師器（16、18）など比較的多くの土器が出土しており、構築時に意識的に入れられたものと考えられる。

主軸長（南北）90cm（残存）、中央内寸幅 65cm、中央外寸幅 117cm を測る。

出土遺物（第 255 図）

須恵器８点、土師器 11 点を図示した。１～６は摘み蓋の破片である。１の摘みは扁平で中心部分のみ摘みあがる。全体的に自然釉が認められる。２の内面には光沢が認められることから転用硯の可能性が考えられる。７は有台坏身で、全体的に調整が丁寧でない。底部が若干



第 255 図　SB02　出土遺物

へこみ、扁平な高台がつく。8は瓦鉢と考えられる。口唇部より幅4cmには自然釉が認められ、重ね焼きしたために釉の下端は直線的になっている。

9・12は駿東球胴甕、10は駿東長胴甕、11はやや小型の駿東甕である。15・16は大小セットとなるような甕である。胎土は在地の胎土を使用しており、調整も一般的な甕と変らないハケ目調整だがミガキは施されない。13は皿の底部の破片で見込みに放射状のミガキが認められる。精製された胎土を使用し非常に丁寧に作られている。14は藤枝市助宗窯の削りだし高台の須恵器を模倣した土師器である。精製された胎土が使用され、ロクロ整形の後、鋭利な工具により、高台部分が削りだされている。内外面共に丁寧なヘラミガキ調整が施される。17～20は遠江系の水平口縁甕である。頸部付近で乾燥工程をおき、比較的厚い粘土で口縁部を成形している。

所見

出土遺物より8世紀中葉頃と考えられる。

第42表　SB02出土遺物観察表

挿図番号	R番号	写真図版	種別	細別	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第255図－1	R024	PL.40	須恵器	坏蓋	-	(2.4)	-	良好	65%	反転復元	2.5Y7/1（灰白） 2.5Y8/3（淡黄）
第255図－2	R045、046、054、057	PL.40	須恵器	坏蓋	(14.8)	(2.7)	-	良好	45%	反転復元	5Y5/1（灰） 5Y5/1（灰）
第255図－3	R039、069	PL.40	須恵器	坏蓋	(14.5)	(3.2)	-	良好	45%	反転復元	5Y7/1（灰白） 2.5Y 7/2（灰黄）
第255図－4	R010、039	PL.40	須恵器	坏蓋	(14.3)	(1.9)	-	良好	40%	反転復元	2.5Y6/1（黄灰） 2.5Y5/1（黄灰）
第255図－5	R024	PL.40	須恵器	坏蓋	(14.7)	(1.9)	-	良好	30%	反転復元	5Y6/1（灰） 5Y6/1（灰）
第255図－6	R039	PL.40	須恵器	坏蓋	(16.5)	(2.0)	-	良好	30%	反転復元	2.5Y7/1（灰白） 2.5Y7/2（灰黄）
第255図－7	R075	PL.40	須恵器	坏	(13.4)	(4.5)	(9.4)	良好	60%	反転復元	2.5Y7/2（灰黄） 2.5Y7/1（灰白）
第255図－8	R001、006、054	PL.40	須恵器	瓦鉢	(20.0)	(7.25)	-	良好	20%	反転復元	2.5Y4/2（暗灰黄） 2.5Y5/2（暗灰黄）
第255図－9	R039	PL.41	土師器	甕	-	(5.2)	-	良好	-		5YR4/3（にぶい赤褐） 5YR4/4（にぶい赤褐）
第255図－10	R030、031、032、041	PL.41	土師器	甕	(21.7)	(3.4)	-	良好	70%	反転復元	5YR5/6（明赤褐） 5YR5/6（明赤褐）
第255図－11	R041	PL.41	土師器	甕	(15.6)	(5.0)	-	良好	65%		5YR4/3（にぶい赤褐） 5YR4/6（赤褐）
第255図－12	R028、029、033	PL.41	土師器	甕	-	(9.0)	-	良好	-		2.5Y5/6（明赤褐） 2.5Y5/6（明赤褐）
第255図－13	R039	PL.41	土師器	皿	-	(0.5)	-	良好	-		5YR6/6（橙） 5YR6/6（橙）
第255図－14	R010、074	PL.41	土師器	坏	(9.0)	(4.3)	(5.3)	良好	40%	反転復元	5YR5/6（明赤褐） 5YR6/8（橙）
第255図－15	R039、041、072、073	PL.40	土師器	小型甕	(10.2)	(7.8)	(6.8)	良好	45%	反転復元	7.5YR5/4（にぶい褐） 10YR5/3（にぶい黄褐）
第255図－16	R041、094	PL.40	土師器	小型甕	(13.3)	(11.0)	(7.5)	良好	45%	反転復元	2.5Y4/6（赤褐） 2.5Y5/6（明赤褐）
第255図－17	R039	PL.41	土師器	甕	(23.4)	(4.4)	-	良好	25%	反転復元	7.5YR8/4（浅黄橙） 7.5YR6/4（にぶい橙）
第255図－18	R087	PL.41	土師器	甕	(23.3)	(5.3)	-	良好	25%	反転復元	7.5YR7/4（にぶい橙） 7.5YR7/4（にぶい橙）
第255図－19	R041、054	PL.41	土師器	甕	-	(8.1)	-	良好	-	反転復元	10YR5/2（灰黄褐） 10YR7/4（にぶい黄橙）
第255図－20	R047	PL.41	土師器	甕	(21.8)	(11.0)	-	良好	70%		10YR6/4（にぶい黄橙） 7.5YR7/6（橙）

ＳＢ０３

遺構（第 256 図・第 257 図）

重複関係：（古）SB04 → SB03（新）

主軸方位：Ｎ－２°－Ｅ

残存状況：比較的良好に遺存し、平面は隅丸方形を呈する。主軸（南北）幅 4.1m、直交（東西）幅 4.2m、深さ 60cm を測る。

覆土:大淵スコリアを少量含む黒褐色土層。自然堆積層。

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

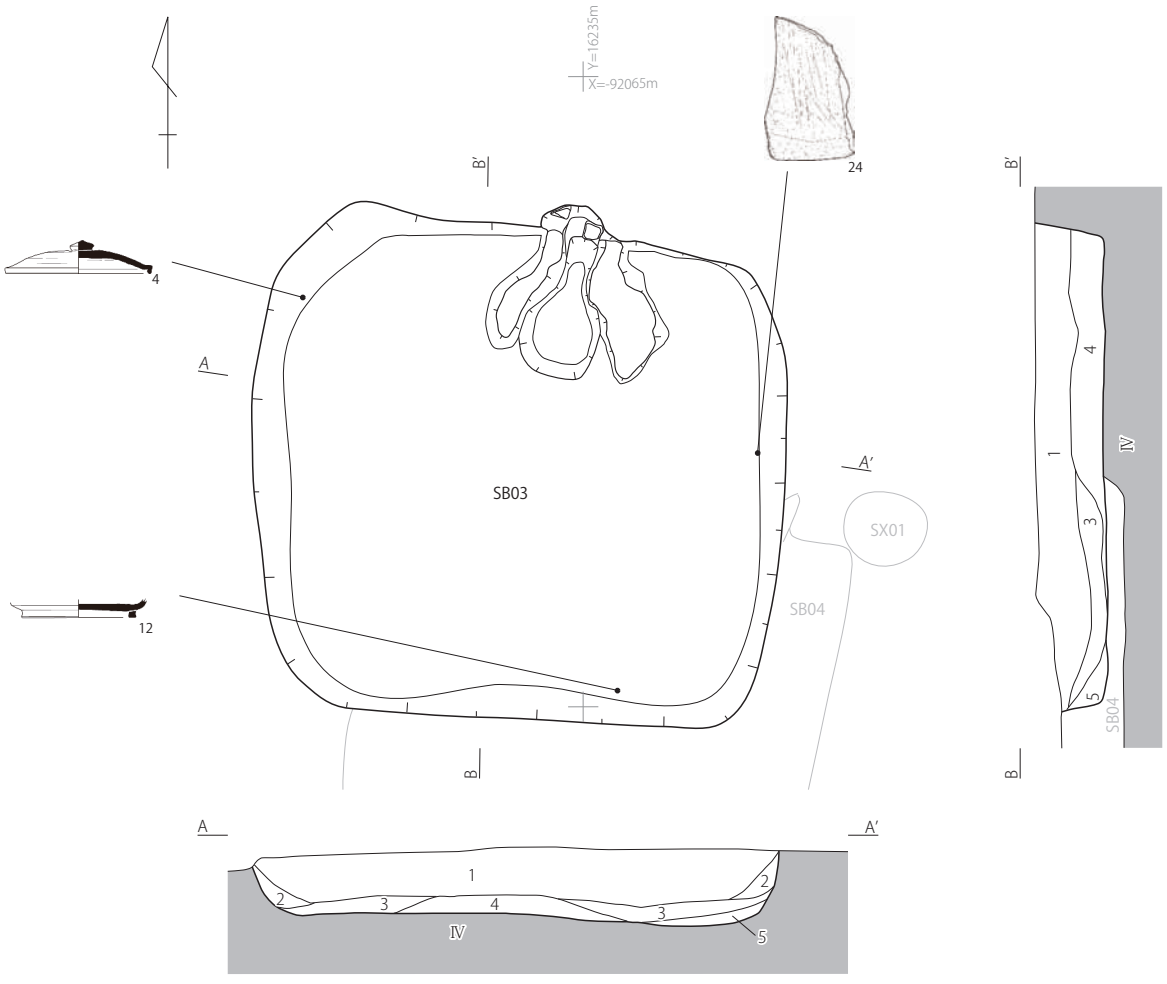
床：貼り床はなく、掘り方が床面となる。

カマド：北壁中央に存在。両袖、燃焼室ともに良好に残存し、両袖ともににぶい黄色粘土を使って構築される。芯材は確認されていない。主軸長（南北）136cm、中央内寸幅 60cm、中央外寸幅 145cm を測る。

出土遺物（第 258 図）

須恵器 12 点、土師器 10 点、砥石 1 点を図示した。１～５は摘み蓋である。残存する摘みはいずれも宝珠形を呈する。６は壺の頸部、７は盤状高坏の破片の可能性が考えられるが、確証がない。８は碗形坏身、９・10 は箱坏の破片と考えられる。８の底部調整が比較的荒く平坦ではない。一方、９の底部は回転ヘラにより、丁寧に切り離されている。11 は有台坏身、12 は他の有台坏身と比べて厚く高台径が大きく、有台皿の可能性が考えられる。底部には十字の窯印が認められる。

13 ～ 17 は胎土からいずれも遠江系の甕と考えられる。全体的に器壁が薄く作られている。18 ～ 20 は駿東甕の破片で頸部付近にヘラミガキが認められる。21

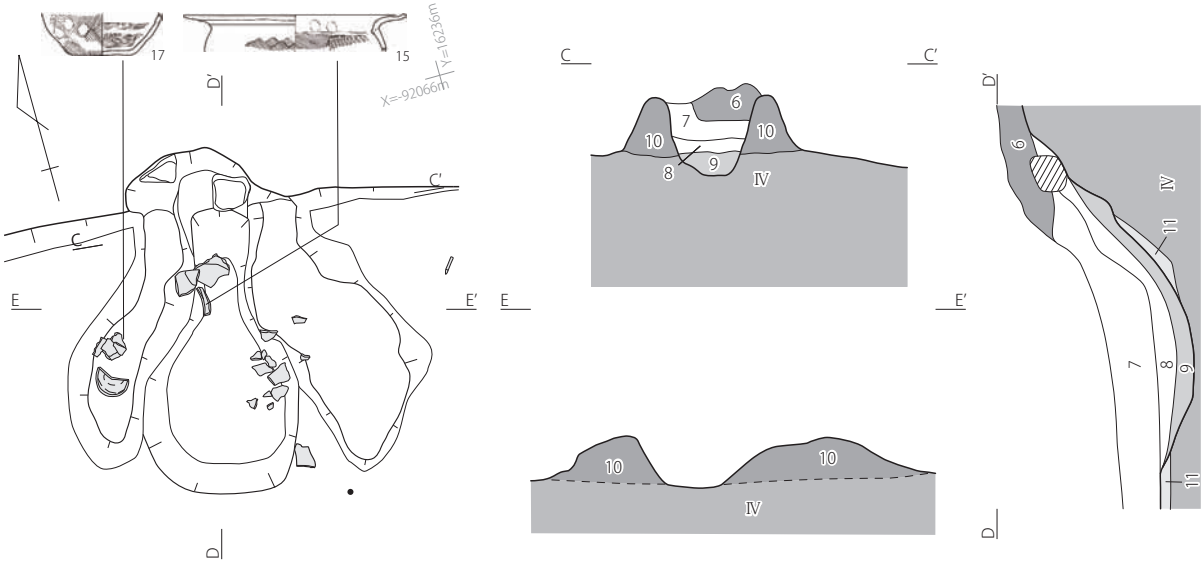


1	黒褐色土層(10YR2/2)	しまりやや弱。粘性強。褐色粒子少量。大淵ｽｺﾘｱ少量。白色粒子少量。	SB03ﾌｸ土
2	黒褐色土層(10YR3/2)	しまり弱。粘性強。褐色粒子少量。白色粒子少量。焼土、粘土少量。	SB03ﾌｸ土
3	黒褐色土層(2.5Y3/1)	しまりやや強。粘性強。褐色粒子微量。白色粒子少量。粘土少量。礫(2～5cm)少量。	SB03ﾌｸ土
4	黒褐色土層(2.5Y3/2)	しまりやや弱。粘性強。焼土、粘土多量。	SB03ﾌｸ土
5	黒色土層(2.5Y2/1)	しまりやや弱。粘性強。焼土、粘土中量。	SB03ﾌｸ土

0　1/60　2 m

L=16.0m

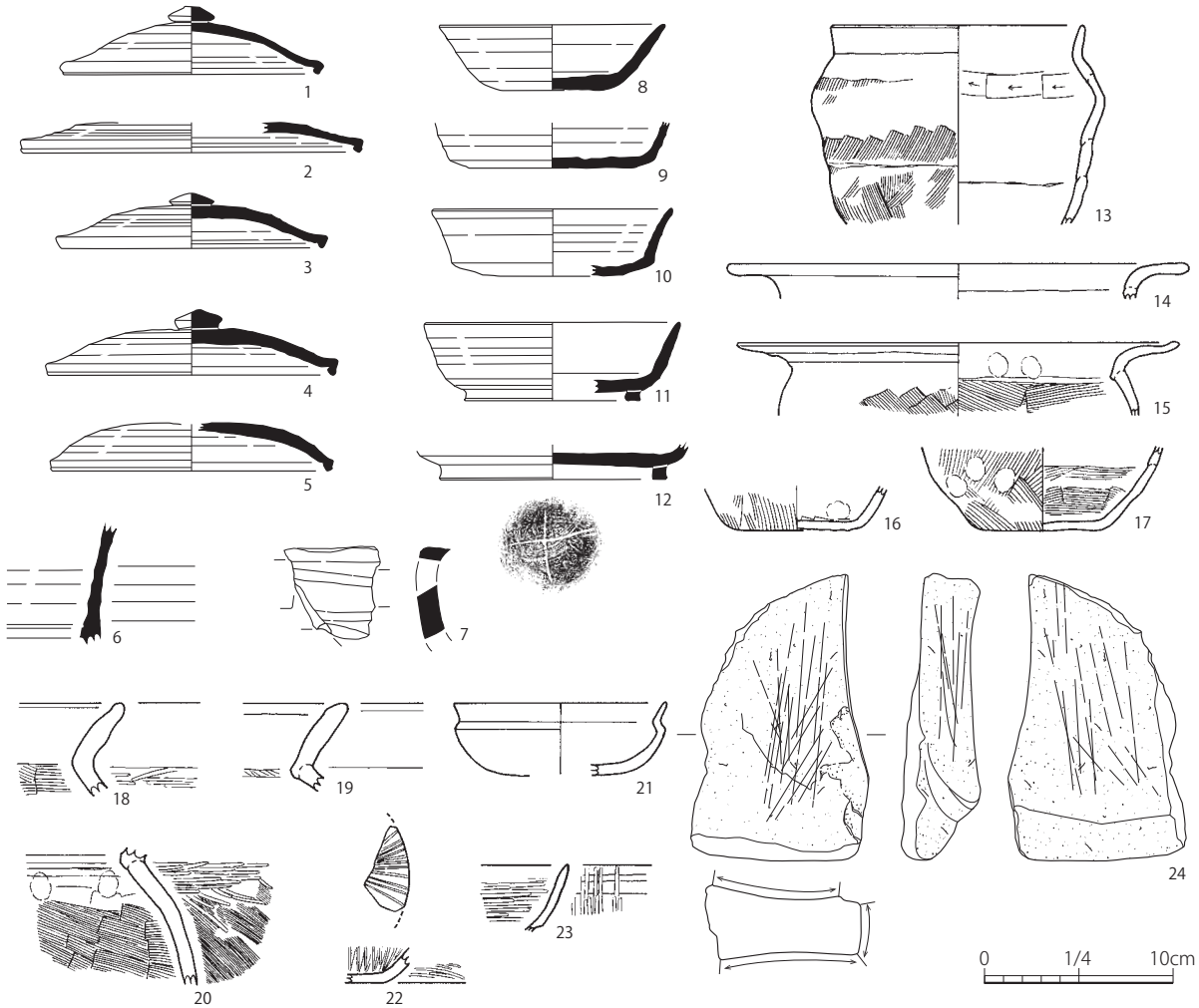
第 256 図　SB03



6	暗灰黄色粘土層(2.5Y5/2)	しまりやや弱。粘性強。礫(1～3mm)少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
7	黄褐色土層(2.5Y5/3)	しまりやや強。粘性やや強。粘土ﾌﾞﾛｯｸ多量。礫(1～3mm)少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ崩落土
8	黄褐色土層(2.5Y5/4)	しまりやや強。粘性やや強。粘土ﾌﾞﾛｯｸ多量。焼土少量。	SB03ｶﾏﾄ燃焼室
9	焼土層(7.5YR5/6)	しまり弱。粘性やや強。炭化物多量。	SB03ｶﾏﾄﾞ燃焼室
10	にぶい黄色粘土層(2.5Y6/4)	しまり強。粘性弱。粘性弱。	SB03ｶﾏﾄﾞ袖
11	黒色土層(2.5Y2/1)	しまり強。粘性強。橙色粒子少量。白色粒子少量。	SB03ｶﾏﾄﾞ掘方埋土

0 1/30 1 m
L=16.0m

第 257 図　SB03　カマド



第 258 図　SB03　出土遺物

は須恵器模倣の流れを汲む坏で底部には木葉痕が認められる。23 は SB02 の 14 と同じく、削りだし高台坏を模倣した土師器である。SB02 のものと法量は等しいが、外面のヘラミガキの方向が異なるため、別個体と考えた。

所見

出土遺物より 8 世紀中葉と考えられる。

ＳＢ０４

遺構（第 259 図）

重複関係：（古）SB04 → SB03（新）

主軸方位：N － 12° － E

残存状況：北西コーナーは SB03 に切られているものの、床面が SB03 の床面より低いため、立ち上がりは遺存する。主軸（南北）幅 3.6m、直交（東西）幅 3.7m、深

第 43 表　SB03 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 258 図－ 1	R017	PL.42	須恵器	坏蓋	(13.4)	(3.6)	-	良好	40%	反転復元	2.5Y 7/1（灰白） 5Y 7/1（灰白）
第 258 図－ 2	R018	PL.42	須恵器	坏蓋	(17.8)	(1.6)	-	良好	15%	反転復元	7.5Y5/1（灰） 7.5Y5/1（灰）
第 258 図－ 3	R083	PL.42	須恵器	坏蓋	(13.8)	(2.9)	-	良好	60%	反転復元	7.5Y5/1（灰） 5YR6/1（灰）
第 258 図－ 4	R068	PL.42	須恵器	坏蓋	15.0	3.45	-	良好	100%		2.5Y 7/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 258 図－ 5	R043	PL.42	須恵器	坏蓋	(15.8)	(2.5)	-	良好	25%	反転復元	7.5Y5/1（灰） 5YR6/1（灰）
第 258 図－ 6	R016	PL.42	須恵器	長頸壺	-	(6.3)	-	良好	-		2.5Y 7/1（灰白） 2.5Y 7/1（灰白）
第 258 図－ 7	R021	PL.42	須恵器	高坏	-	(4.8)	-	良好	-	脚部	5Y 7/1（灰白） 2.5Y5/1（黄灰）
第 258 図－ 8	R044	PL.42	須恵器	坏	(11.8)	(3.5)	(5.2)	良好	35%	反転復元	5YR6/1（灰） 5YR7/1（灰白）
第 258 図－ 9	R035	PL.42	須恵器	坏	-	(2.4)	(8.7)	良好	25%	反転復元	7.5Y6/1（灰） 7.5Y7/1（灰白）
第 258 図－ 10	R038	PL.42	須恵器	坏	(12.6)	(3.6)	-	良好	20%	反転復元	5Y6/1（灰） N6/（灰）
第 258 図－ 11	R013、015、040	PL.42	須恵器	坏	(13.4)	(4.15)	(9.1)	良好	30%	反転復元	N6/（灰） N 7/（灰白）
第 258 図－ 12	R066	PL.42	須恵器	皿	-	(1.85)	(11.9)	良好	95%		N5/（灰） 10YR5/1（褐灰）
第 258 図－ 13	R007、044、055	PL.43	土師器	甕	(13.1)	(10.5)	-	良好	60%	遠江系 反転復元	10YR8/3（浅黄橙） 10YR8/4（浅黄橙）
第 258 図－ 14	R005、007	PL.42	土師器	甕	(24.0)	(1.9)	-	良好	45%	反転復元	7.5YR6/4（にぶい橙） 7.5YR6/4（にぶい橙）
第 258 図－ 15	R080	PL.42	土師器	甕	(23.0)	(3.9)	-	良好	25%	反転復元	7.5YR7/4（にぶい橙） 7.5YR7/6（橙）
第 258 図－ 16	R036、053	PL.42	土師器	甕	-	(2.4)	-	良好	65%	反転復元	10YR5/2（灰黄褐） 10YR7/4（にぶい黄橙）
第 258 図－ 17	R011、084、085	PL.42	土師器	甕	-	(4.4)	(5.8)	良好	40%	水平口縁 反転復元	10YR7/3（にぶい黄橙） 7.5YR6/3（にぶい褐）
第 258 図－ 18	R005	PL.42	土師器	甕	-	(4.95)	-	良好	-		5YR5/6（明赤褐） 5YR6/6（橙）
第 258 図－ 19	R007、018、036	PL.42	土師器	甕	-	(4.6)	-	良好	-		2.5YR4/4（にぶい赤褐） 2.5YR4/3（にぶい赤褐）
第 258 図－ 20	R035、053	PL.42	土師器	甕	-	(7.3)	-	良好	-		7.5YR5/4（にぶい褐） 7.5YR5/4（にぶい褐）
第 258 図－ 21	R013、021、064	PL.43	土師器	坏	(11.0)	(3.85)	-	良好	35%	反転復元	2.5YR6/8（橙） 2.5YR6/8（橙）
第 258 図－ 22	R016	PL.43	土師器	坏	-	(1.9)	-	良好	-	甲斐型	5YR6/6（橙） 5YR6/6（橙）
第 258 図－ 23	R005	PL.43	土師器	坏	-	(3.5)	-	良好	-		2.5Y6/8（橙） 2.5Y6/8（橙）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
第 258 図－ 24	R065	PL.43	砥石	15.1	9.0	3.8	736.45

さ 52cm を測る。

覆土：黒褐色土層。自然堆積層

壁溝：確認されなかった。

柱穴：確認されなかった。

床：貼り床はなく、掘り方が床面となる。

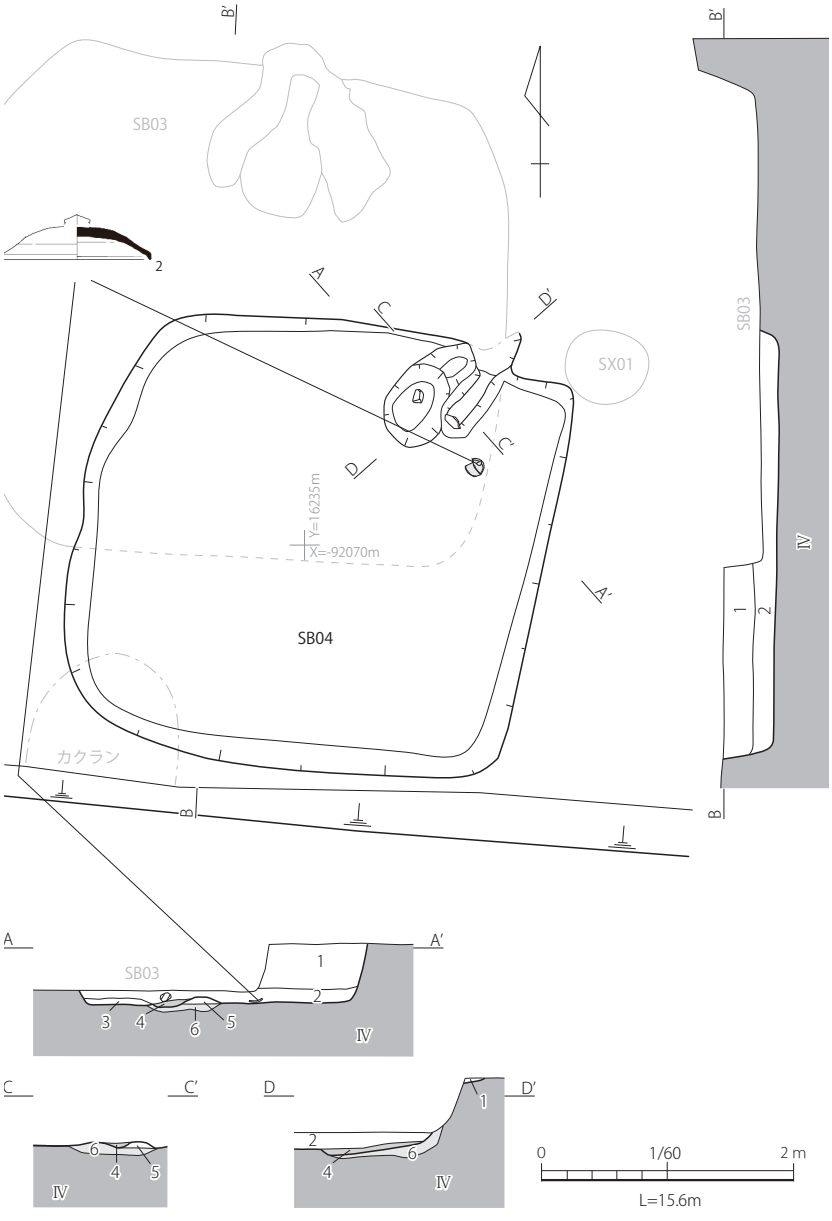
カマド：北壁中央よりやや東側に存在する。建物主軸とカマド主軸は平行しない。袖は右袖のみ残存する。主軸長（南北）100cm を測る。

出土遺物（第 260 図）

須恵器４点、鉄鏃１点を図示した。１～３は摘み蓋、４は碗形坏身である。５は尖根式五角形鏃である。残存長 9.1㎝を測り、茎部が一部欠損している。身部はホームベース状の五角形で、刃部はふくらが張らず、直線的である。茎関は棘関となる。

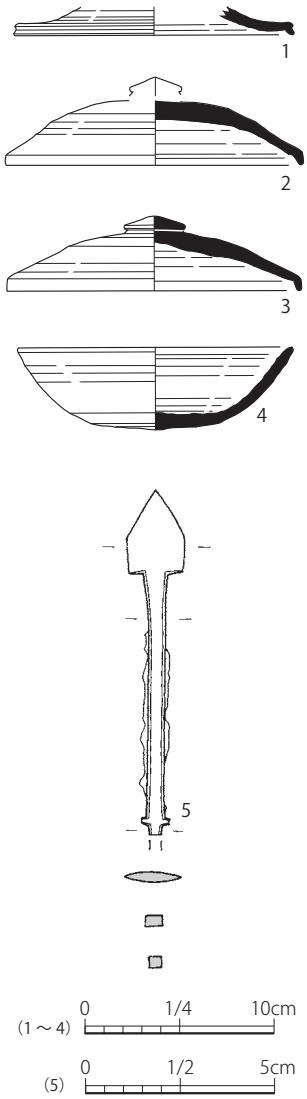
所見

出土遺物より、８世紀と考えられる。



1　黒褐色土層（10YR3/1）　しまりやや弱。粘性強。褐色粒子中量。白色粒子少量。　SB04ﾌｸ土
2　黒褐色土層（10YR2/2）　しまり強。粘性強。褐色粒子多量。白色粒子微量。　SB04ﾌｸ土
3　にぶい黄褐色土層（10YR5/3）　しまり強。粘性強。粘土多量。黒色土多量。　SB04ｶﾏﾄﾞ崩落土
4　焼土層（5YR3/4）　しまりやや弱。粘性弱。　SB04ｶﾏﾄ燃焼室
5　黒褐色土層（2.5Y3/2）　しまりやや弱。粘性やや弱。粘土ﾌﾞﾛｯｸ多量。褐色粒子中量。　SB04ｶﾏﾄﾞ袖
6　にぶい黄色土層（2.5Y6/4）　しまり強。粘性強。粘土多量。黒色土中量。焼土少量。　SB04ｶﾏﾄﾞ掘方埋土

第 259 図　SB04



第 260 図　SB04　出土遺物

ＳＢ０５

遺構（第 261 図）

重複関係：なし

主軸方位：不明

残存状況：調査区の南西コーナーにおいて、カマドの一部を検出したのみで大部分は調査区外のため詳細は不明である。

所見

遺物が出土しなかったため、時期は明らかでない。

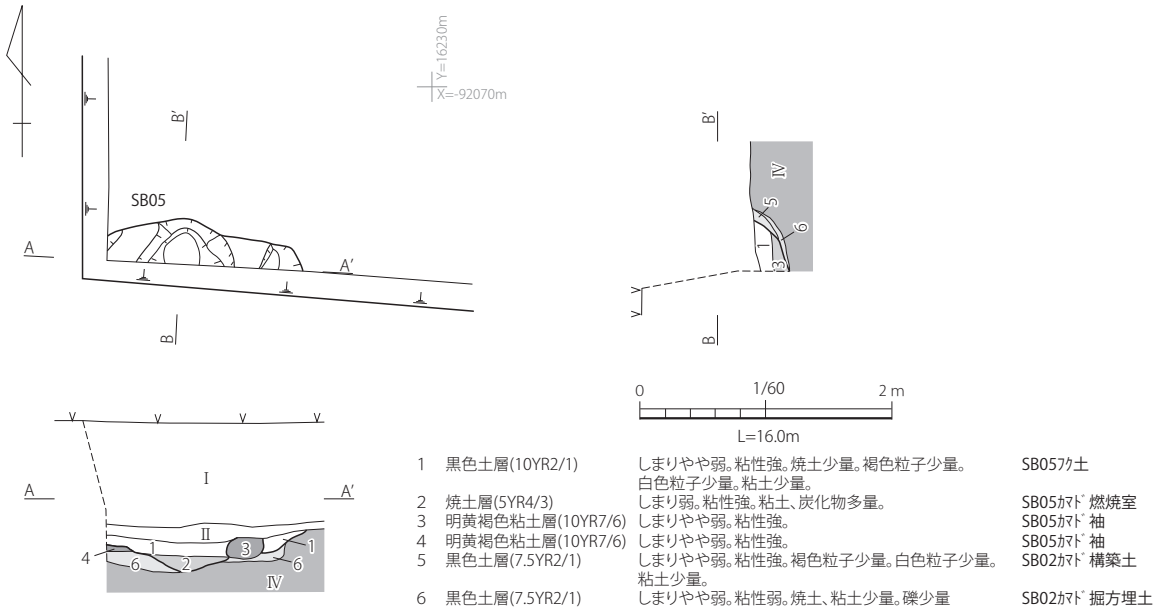
その他の遺構（第 262 図・第 263 図・第 264 図）

土坑 1 基（SK01）、ピット 5 基（Pit01 ～ 05）、性格不明遺構 1 基（SX01）を検出した。

SX01 は、SB03 の東側、SB04 カマドの東側に位置し、炭化材を多量に含む焼土層であることから、前述の建物跡との関係が想定される。

表採遺物（第 265 図）

1 は弥生時代後期から終末期の甕の破片である。東平遺跡ではこれまでに数例が認められる。2 は須恵器の大甕、3 は磨り石である。



1	黒色土層(10YR2/1)	しまりやや弱。粘性強。焼土少量。褐色粒子少量。白色粒子少量。粘土少量。	SB05ﾌｸ土
2	焼土層(5YR4/3)	しまり弱。粘性強。粘土、炭化物多量。	SB05ｶﾏﾄﾞ燃焼室
3	明黄褐色粘土層(10YR7/6)	しまりやや弱。粘性強。	SB05ｶﾏﾄﾞ袖
4	明黄褐色粘土層(10YR7/6)	しまりやや弱。粘性強。	SB05ｶﾏﾄﾞ袖
5	黒色土層(7.5YR2/1)	しまりやや弱。粘性強。褐色粒子少量。白色粒子少量。粘土少量。	SB02ｶﾏﾄﾞ構築土
6	黒色土層(7.5YR2/1)	しまりやや弱。粘性弱。焼土、粘土少量。礫少量	SB02ｶﾏﾄﾞ掘方埋土

第 261 図　SB05

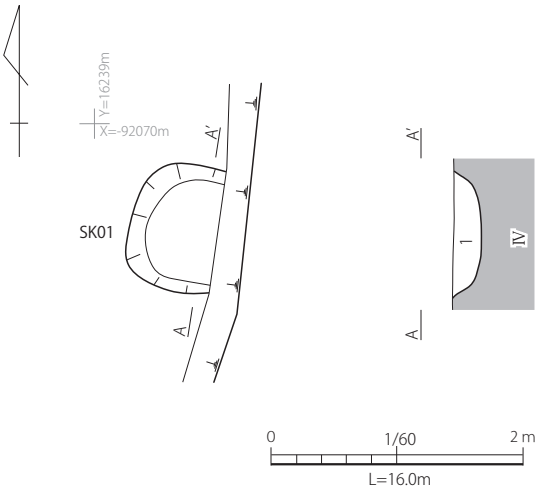
第 44 表　SB04 出土遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 260 図－ 1	R098	PL.43	須恵器	坏蓋	(14.6)	(1.5)	-	良好	10%	反転復元	2.5Y5/1（黄灰） 2.5Y5/2（暗黄灰）
第 260 図－ 2	R100	PL.43	須恵器	坏蓋	(15.5)	(3.4)	-	良好	95%		N4/（灰） N7/（灰白）
第 260 図－ 3	R001、060、062	PL.43	須恵器	坏蓋	(15.4)	(4.0)	-	良好	70%	反転復元	5Y6/1（灰） 5Y6/1（灰）
第 260 図－ 4	R062、097	PL.43	須恵器	坏	(14.4)	(4.35)	-	良好	30%	反転復元	2.5Y 7/2（灰黄） 2.5Y8/1（灰白）

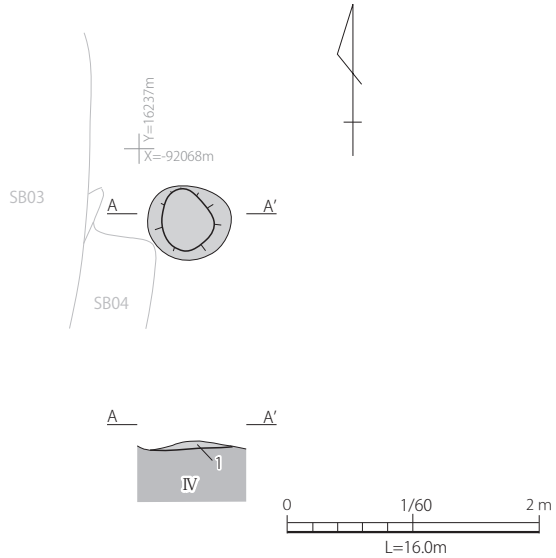
・鉄製品

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	残存長 (cm)	身部長 (cm)	身部幅 (cm)	身部厚 (cm)	頸部長 (cm)	茎部長 (cm)	重さ (g)	備考
第 260 図－ 5	R097	PL.43	鉄鏃	9.1	2.2	1.4	0.25	6.6	0.3	9.00	尖根五角形式



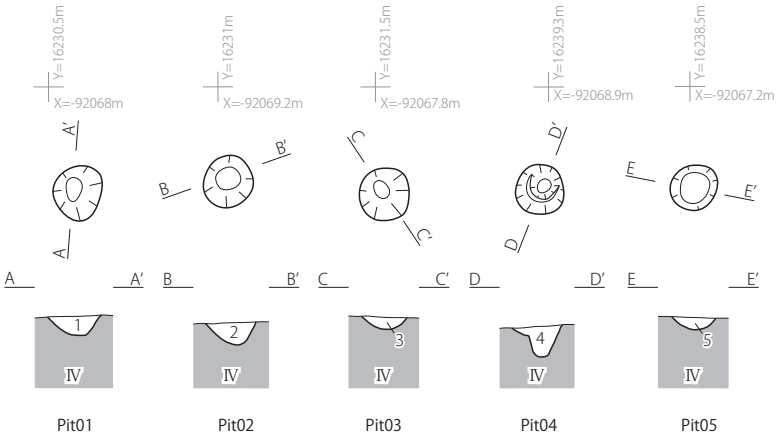
1　黒褐色土層(7.5YR3/1)　しまり弱。粘性弱。橙色粒子少量。白色粒子少量。 SK01ﾌｸ土
礫(1～3mm)少量。焼土、炭化物少量。

第 262 図　SK01

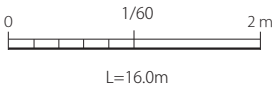


1　焼土層(7.5YR5/6)　しまり弱。粘性やや強。炭化物多量。 SX01ﾌｸ土

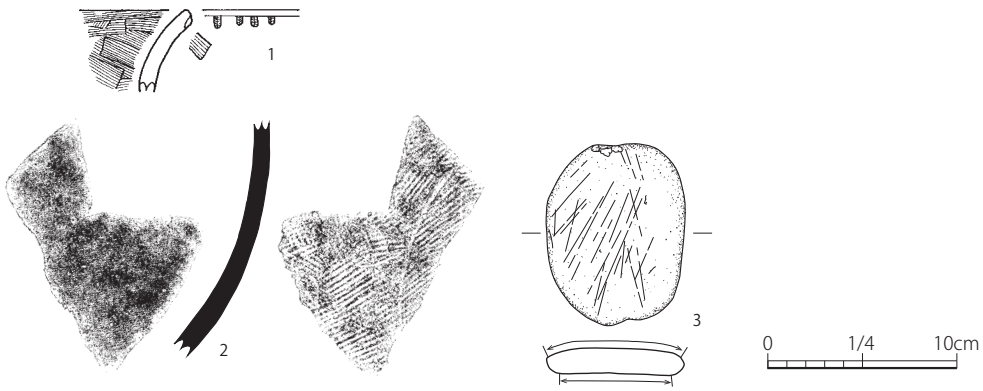
第 263 図　SX01



1　黒褐色土層 しまりやや弱。粘性強。　Pit01ﾌｸ土
(7.5YR3/1)　赤色粒子少量。黄褐色土少量。
2　黒褐色土層 しまりやや弱。粘性弱。　Pit02ﾌｸ土
(7.5YR3/1)　赤色粒子少量。黄褐色土少量。
3　黒色土層　しまりやや弱。粘性弱。　Pit03ﾌｸ土
(7.5YR2/1)　橙色粒子少量。黄褐色土少量。
4　黒褐色土層 しまりやや弱。粘性強。　Pit04ﾌｸ土
(7.5YR3/1)　橙色粒子少量。白色粒子少量。
5　黒褐色土層 しまりやや弱。粘性強。　Pit05ﾌｸ土
(7.5YR3/1)　大淵ｽｺﾘｱ少量。橙色粒子多量。



第 264 図　Pit01 ～ 05



第 265 図　表採遺物

第 45 表　SK・Pit・SX　規模等一覧表

遺構名	平面形	規模（cm）			出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		
SK01	楕円形	100	70	22		
Pit01	円形	42	38	15		
Pit02	円形	40	40	17		
Pit03	円形	42	42	27		
Pit04	円形	40	38	25		
Pit05	円形	30	36	10		
SX01	円形	66	58	6		焼土溜り

第 46 表　表採遺物観察表

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 265 図－ 1	R001	PL.43	土師器	甕	-	（4.3）	-	良好	-	弥生土器	5YR6/8（橙） 7.5YR6/6（橙）
第 265 図－ 2	R001、066	PL.43	須恵器	甕	-	（12.3）	-	良好	-		5Y7/2（灰白） 5Y7/1（灰白）

・石製品

挿図番号	R 番号	写真図版	細別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）
第 265 図－ 3	R006	PL.43	磨り石	9.5	7.3	1.3	158.82

第７章　比奈１古墳群　第９地区の調査

第１節　調査の経緯と経過

1. 調査依頼

事業者は、当該地における特別養護老人ホームの建設を計画した。このため、工務所を通じ、平成 24 年 11 月 7 日、富士市教育委員会文化振興課へ当該地の埋蔵文化財の照会をした。該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「比奈１古墳群」の範囲内にあたり、対象地内に比奈 G- 第 74 号墳が存在することが判明したため、事前に確認調査が必要の旨を、回答した。これを受け、平成 25 年 5 月 22 日付で、事業者は文化振興課へ「埋蔵文化財試掘確認依頼書」、「発掘調査承諾書」を提出した。

2. 第１次調査（第 267 図）

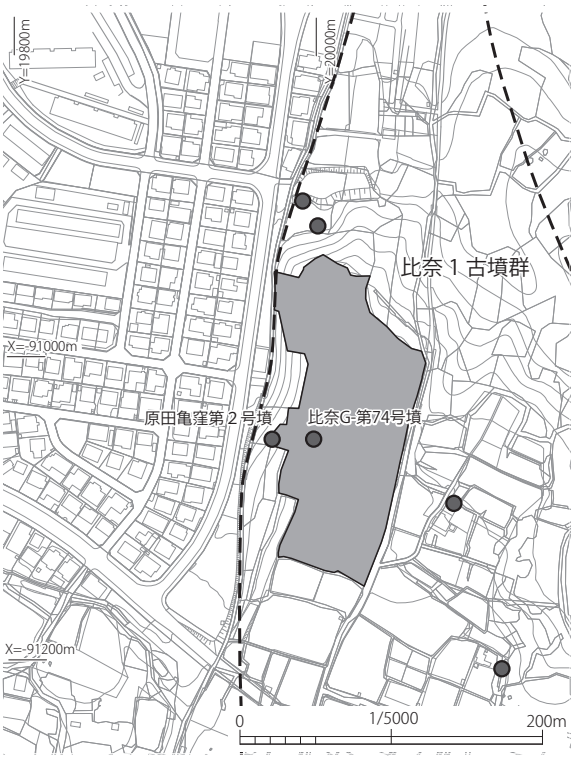
調査地は 14,666㎡の広大な面積をもつ。このため、建設事業の進捗状況を考慮し、確認調査を２度に分けて実施することとなった。平成 25 年 6 月 7 ～ 11 日に行われた第１次調査では、老人ホーム建物部分と貯水池建設予定地 5,154㎡の確認調査を実施した。調査地内にある比奈 G- 第 74 号墳と推定される石列を確認するため、十字トレンチを設定、また、併せて調査地内に 6 箇所のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認に努めた。その結果、比奈 G- 第 74 号墳は全長５ｍほどの横穴系埋葬施設を主体部とする古墳であることを確認した。

3. 第２次調査（第 267 図）

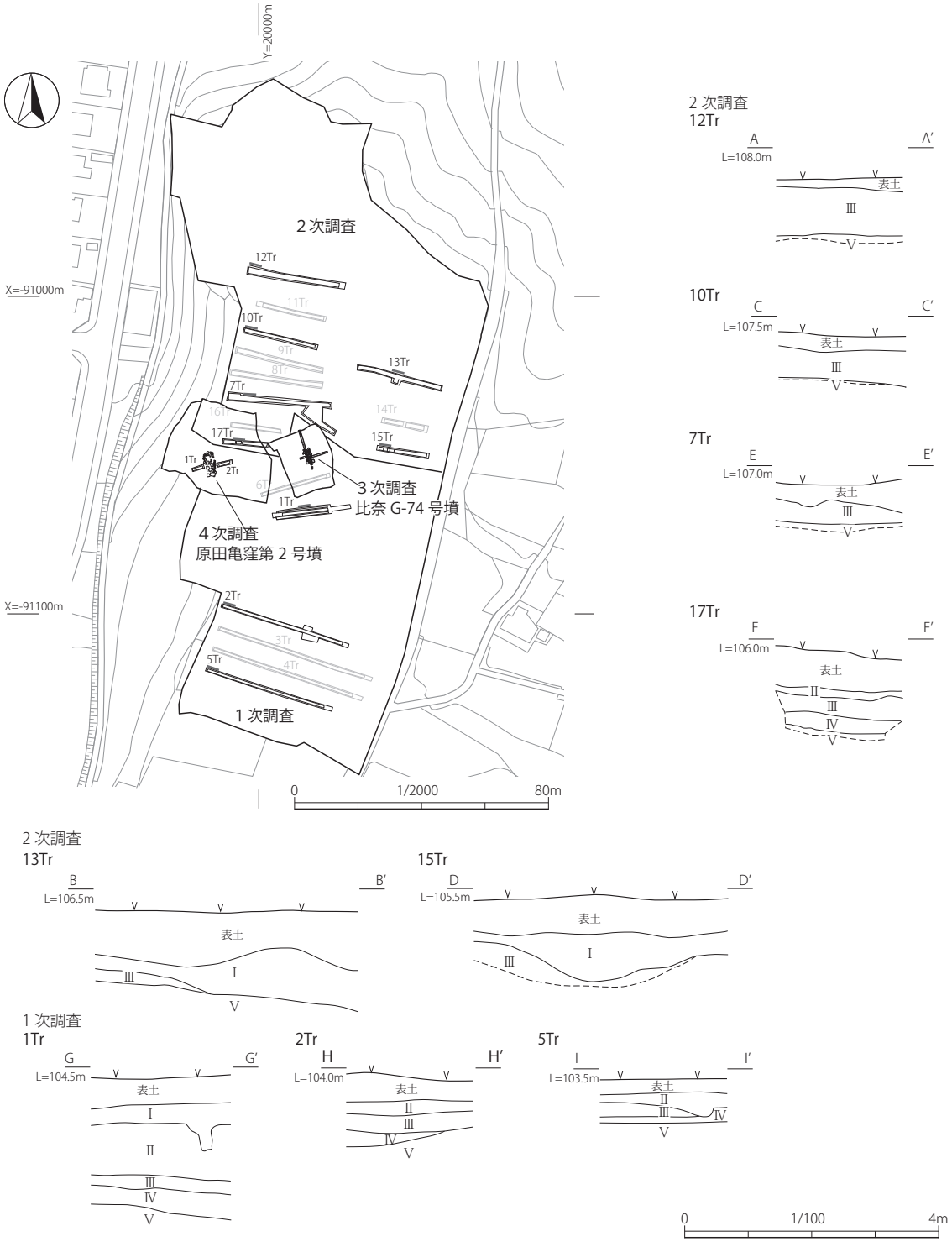
第２次調査は平成 25 年 8 月 19 ～ 28 日に実施した。調査は第１次調査地以外を対象とした。対象地内に 11 箇所のトレンチを設定し、遺構、遺物の検出に努めたが、検出できなかった。しかし、調査によって当該地東側地域（13Tr、15Tr）周辺に古墳時代以前の浅い谷が南北に走ることが明らかとなった。古墳の南側にも２ｍ程の段差が確認されていることも併せ、古墳が築造時に微高地の末端部に位置していたことが判明した。

4. 第３次調査

第 1･2 次調査成果について平成 25 年 9 月 4 日付で、事業者、県教育委員会に終了報告書を提出した（富教文発第 372 号）。この結果を踏まえ、建物本体予定地にあたる比奈 G- 第 74 号墳の取り扱いについて事業者と協議を重ねた。事業者からは事業計画変更が困難で、現状保存が不可能であることから本発掘調査を実施したいとの意向があった。協議と並行して埋蔵文化財の届出を静岡県教育委員会に進達し、県とも取り扱いについて調整した結果、本発掘調査の指示が出された。このため、事業者は平成 25 年 10 月 9 日付で埋蔵文化財本発掘調査依頼書を富士市教育委員会に提出した。その後、10 月 31 日に事業者と事業事務受任者並びに富士市、富士市教育委員会にて 4 者協定を、11 月 7 日に事業者及び富士市にて委託契約を締結し、比奈 G- 第 74 号墳を含む対象地 440㎡の記録保存調査を実施することとなった。調査は平成 25 年 11 月 18 日～平成 26 年 1 月 31 日まで行った。

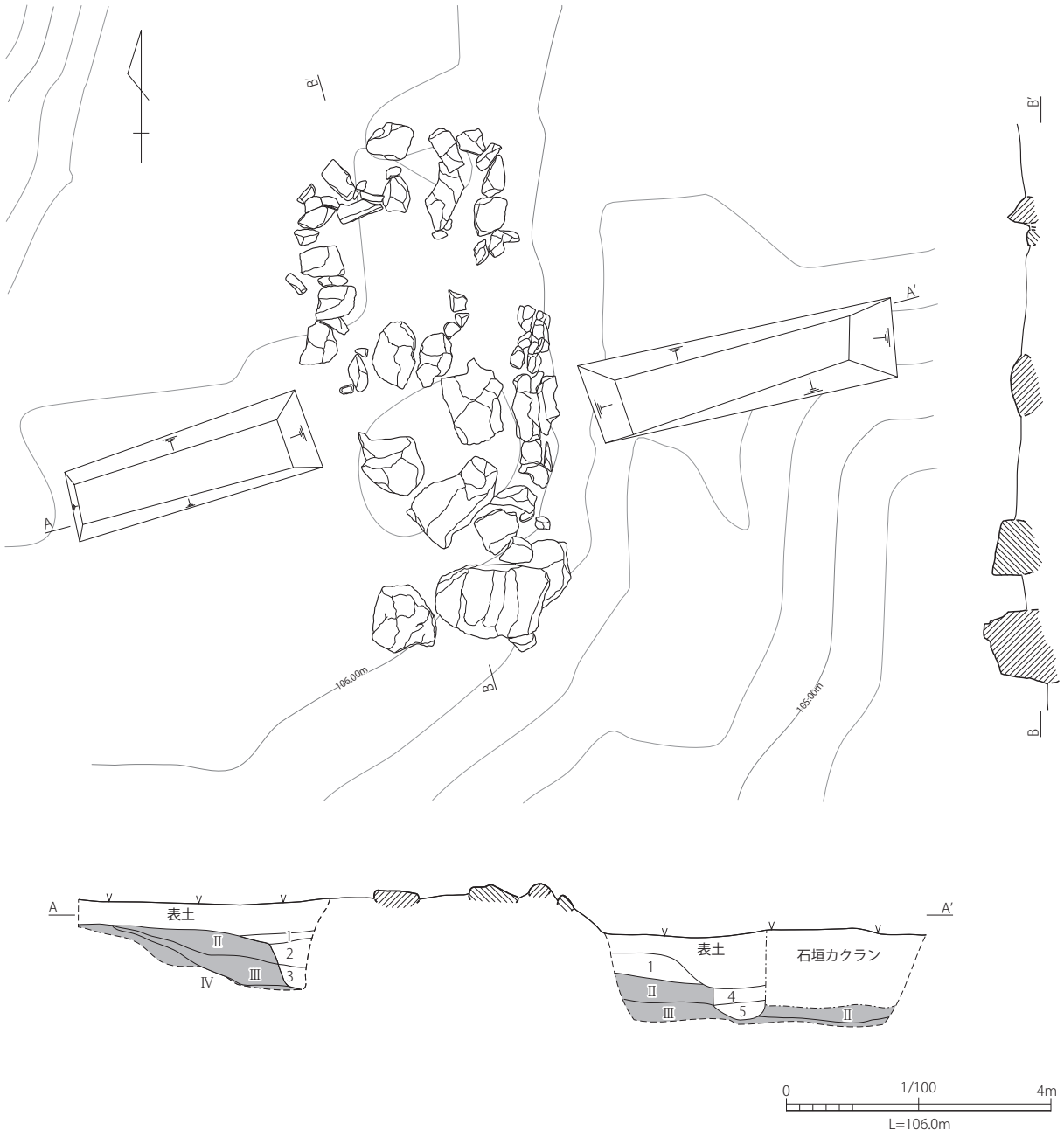


第 266 図　調査地位置図



Ⅰ　黒褐色土（7.5YR3/2）しまりやや強。粘性ややあり。径 5 ～ 10mm の大淵 SC 極多量。
Ⅱ　黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強。粘性やや強。　大沢 SC 多量。
Ⅲ　黒褐色土（10YR2/2）しまり強。　粘性やや強。　大沢 SC 少量。
Ⅳ　黒褐色土（10YR2/1）しまりやや強。粘性あり。　カワゴ平パーミス少量。橙色粒子微量。
Ⅴ　暗褐色土（10YR3/3）しまり強。　粘性あり。　径 50 ～ 100mm の角礫、橙色粒子微量。

第 267 図　1 ～ 4 次調査トレンチ配置図・セクション図



1	黒色 (10YR2/1)	しまり弱。	粘性強。	径 1 ～ 3cm の大淵 SC 少量。径 10cm の角礫少量。	墳丘盛土
2	黒褐色（10YR 2/2）	しまり強。	粘性弱。	径 1 ～ 3cm の大淵 SC 多量。径 1 ～ 3cm の褐色粒子少量。	石室裏込土
3	黒褐色（10YR 2/2）	しまり弱。	粘性強。	径 3 ～ 5cm の大沢 SC（橙色粒子）多量。径 1mm の白色粒子（カワゴ平パミス）少量。	石室裏込土
4	黒褐色（10YR 2/1）	しまり強。	粘性強。	径 1mm 白色粒子（カワゴ平パミス）多量。径 5 ～ 10cm の角礫、多量。	
5	黒褐色（10YR 2/1）	しまり強。	粘性弱。	径 1 ～ 3cm の大淵 SC 多量。径 2 ～ 5mm の大沢 SC（橙色粒子）多量。	
Ⅰ	黒褐色土（7.5YR3/2）	しまりやや強。	粘性ややあり。	径 5 ～ 10mm の大淵 SC 極多量。	
Ⅱ	黒褐色土（10YR2/3）	しまりやや強。	粘性やや強。	大沢 SC 粒子多量。	
Ⅲ	黒褐色土（10YR2/2）	しまり強。	粘性やや強。	大沢 SC 粒子少量。	
Ⅴ	暗褐色土（10YR3/3）	しまり強。	粘性あり。	径 50 ～ 100mm の角礫、橙色粒子微量。	

第 268 図　原田亀窪第 2 号墳　現況図・セクション図

5. 第 4 次調査（第 267 図・第 268 図）

比奈 G- 第 74 号墳調査中、平行して行われた工事の工事立会において、比奈 G- 第 74 号墳の西 30 m付近に石列を発見した。その旨を事業者に報告し、対応を協議した。富士市教育委員会から古墳である可能性が高いことを伝え、平成 26 年 1 月 10 日～ 23 日にかけて確認調査を実施した。調査は石列の精査を行ない、また、石列が内部主体である石室であることを確認するため、石列に直交するようにトレンチを設定し、周溝、石室墓坑等の検出に努めた。結果、1 トレンチで石室墓坑を、2 トレンチで周溝を、両トレンチともに墳丘の残存部を確認した。このため同石列が残存長 7 mほどの横穴式石室をもつ古墳であることが明らかとなった。

その後、事業者に報告し、対応を協議した結果、同古墳の保存を計ることとなった。保護は石室を中心とした半径 20 mに盛り土を施す措置を行った。

なお、第 1 章第 4 節の通り、この古墳は原田亀窪第 2 号墳と命名し、新規登録を行っている。

第 2 節　遺跡の立地と調査履歴

1. 遺跡の位置

比奈古墳群は富士山南麓東端、富士市東部を南北に縦貫する赤渕川西岸の丘陵平坦部とそこから連続する南側斜面に位置する。地質的には富士火山地東端に立地する。

本古墳群は消滅した古墳を含め 35 基で構成されている。現在、便宜上、分布のまとまりから古墳群を 7 つのグループに分けている。丘陵縁辺部及び丘陵下の平坦部、それに連続する南斜面に分布するグループを 1 古墳群とし、丘陵平坦部西側のグループを 2・3 古墳群、西側南斜面を 4 古墳群、南側斜面部を 5・6・7 古墳群としている。

本古墳を包括する比奈 1 古墳群は、比奈古墳群中では最大数のまとまりをもち、後述する「東坂古墳」周辺にその分布が集中する。ただし、前節でも触れたように比奈G - 第 74 号墳が立地する丘陵平坦部は浅い小谷が埋没して形成されたもので、古墳の造営時期には幾筋もの細い谷と尾根がある複雑な地形であったことが推測される。いくつかの古墳はこの痩せ尾根上に分布していたものと考えられる。

本古墳群周辺は奥津域として市内でも古墳が多く分布する地域でもある。本古墳群西側、富士山東麓の丘陵斜面には、市内でも大型の無袖形横穴式石室をもつ「実円寺西第 1 号墳」を含む一色古墳群が所在する。また、本古墳群と谷を挟む赤渕川西岸、丘陵緩斜面には「富士岡 1 古墳群」が所在する。さらに赤渕川東岸を流れる須津川周辺にも多くの古墳が確認され、須津川西岸域には総数 84 基を数える「中里古墳群」、東岸域には総数 124 基を数える「船津古墳群」が分布する。

2. 調査履歴

本古墳群は消滅した古墳が多い。後述する東坂古墳、大坂上古墳等で本発掘調査を実施している。また、調査によって、近年、新規発見された古墳もある。

東坂古墳（比奈 G －第 1 号墳）

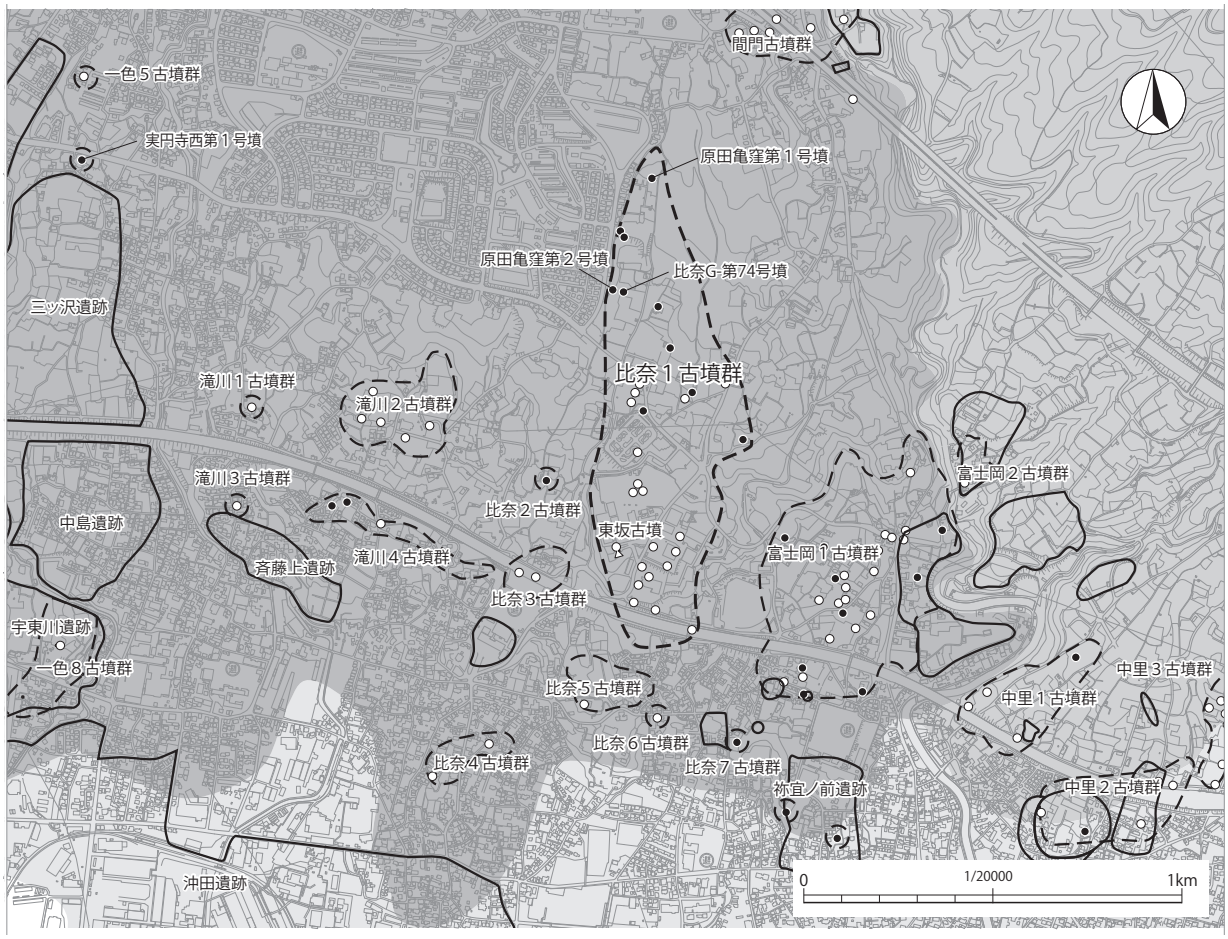
比奈 1 古墳群内、丘陵平坦部南端に位置していた。昭和 32 年、静岡県立吉原工業高等学校建設時に発見され、発掘調査が実施された。墳丘は著しく削平されていたが、全長 58 ～ 60 mを測る前方後円墳であることが確認されている。調査報告によると、主体部は長さ 7.6 m、幅 1.0 mの範囲で粘土床が確認され、そこから、大刀、内行花文鏡、四獣鏡、琴柱形石製品、石釧、玉類等が出土した。築造時期は出土遺物から 4 世紀後半と考えられている。

大坂上古墳（比奈 G －第 28 号墳）

「東坂古墳」と同様に工業高等学校建設時に調査が実施された。墳丘等の外部施設は削平され、確認できなかったものの、石室残存長 9.65 m、幅 1.9 m、高さ 1.8 mを測る大型の無袖形横穴式石室を検出した。遺物は石室内から大刀、方頭柄頭、足金物、両頭金具、鉄鏃、須恵器等が出土している。ハソウ、長頸壺等の遺物年代から 7 世紀後半以降に造営されたものと考えられる。

赫夜姫古墳（比奈 G- 第 40 号墳）

東坂古墳の南西緩斜面には比奈 3 古墳群がある。この群内にある本墳は、東名高速道路建設時に発掘調査が実施された。古墳は残存していた周溝の形状から 10 ～



第 269 図　周辺遺跡分布図

第 47 表　比奈古墳群　調査履歴一覧

古墳群名	地区名 (古墳名)	調査 年度	調査 種類	調査期間	所在地 調査の契機	対象面積（㎡） 調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	報告書
比奈１古墳群	第１地区 (№ 145 大坂上古墳)	S32	本 調査	S32.9	比奈字大坂上 2300 県立吉原工業高校建設		古墳	大型円墳 無袖型横穴式石室	大刀・須恵器 鉄鏃・灰釉陶器	
比奈１古墳群	第２地区 (№ 149 東坂古墳)	S39	本 調査	S39.8	比奈字大坂上 2300　外 県立吉原工業高校建設		古墳	前方後円墳 粘土床・割竹型木棺	鏡・大刀・玉類 琴柱形石製品	
比奈１古墳群	第３地区	H08	工事 立会	H8.11.18	比奈地先 市道改良	875				
比奈１古墳群	第４地区	H08	試掘	H8.12.24	比奈字馬乗石 1929　外 分布確認調査	23,366				
比奈１古墳群	第３地区	H09	工事 立会	H9	比奈 2323-2 地先 市道改良					
比奈１古墳群	第５地区－１次	H11	試掘	H11.10.14 ～ 10.26	原田字石切平 1980　外 農道整備	6,543 513				
比奈１古墳群	第５地区－２次	H13	試掘	H13.8.20 ～ 8.24	原田 1985-1 外 農道整備	932 227				富士市教育委員会（2011a）
比奈１古墳群	第３地区	H13	試掘	H14.1.23 ～ 1.24	比奈 2622 市道改良	1,060 10				富士市教育委員会（2011a）
比奈１古墳群	第６地区 - １次	H14	試掘	H14.6.19 ～ 6.28	比奈字馬背久保 1948-1　外 代替農地造成	3,937 341		なし	なし	富士市教育委員会（2010）
比奈１古墳群	第７地区－１次 (№ 632 石切平第１号墳) (№ 633 赫夜姫第２号墳)	H14	試掘	H14.8.5 ～ 8.12	原田字石切 1954-1　外 自動車学校移転地造成	22,600 916	古墳	横穴式石室２基		富士市教育委員会（2004）
比奈１古墳群	第７地区－２次 (№ 633 赫夜姫第２号墳)	H14	本 調査	H14.11.1 ～ 12.11	原田赫夜姫 2224-1　外 自動車学校移転地造成	275 275	古墳	横穴式石室	須恵器 鉄鏃・耳環	富士市教育委員会（2004）
比奈１古墳群	第６地区 - ２次	H14	試掘	H14.6.19 ～ 6.28	比奈字馬乗石 1930-1　外 代替農地造成	7,560 516		なし	なし	富士市教育委員会（2010）
比奈１古墳群	第８地区（隣接地）	H22	試掘	H22.12.7	比奈 2523-1 不動産売買	1,439 83		なし	なし	
比奈１古墳群	第９地区－１次	H25	確認	H25.6.4 ～ 6.11	原田字石切平 2005　外 介護老人福祉施設建設	5,154 348	縄文 古墳	古墳	縄文土器 須恵器	
比奈１古墳群	第９地区－２次	H25	確認	H25.8.19 ～ 8.28	原田字亀窪 2028-2　外 介護老人福祉施設建設	8,314 887		なし	なし	
比奈１古墳群	第９地区－３次	H25	本 調査	H25.11.18 ～ H26.1.31	原田字石切平 1985-1 の一部　外 介護老人福祉施設建設	14,666 440	古墳	無袖型横穴式石室	須恵器 金属製品・玉類	
比奈１古墳群	第９地区－４次	H25	確認	H26.1.10 ～ 1.23	原田字石切平 2024　外 介護老人福祉施設建設	821 10	古墳	古墳	須恵器	
比奈３古墳群	１地区 (№ 158 赫夜姫古墳)	S39	本 調査	S39.8.2 ～ 8.10	比奈字赫夜姫 東名高速道路建設			小判型楕円形の円墳 無袖型横穴式石室	馬具・須恵器 鉄鏃・灰釉陶器	
比奈５古墳群	第１地区－１次	H21	試掘	H21.5.19 ～ 5.20	比奈 1341-1　外 公園整備	5,333 132		なし	なし	富士市教育委員会（2011b）
比奈５古墳群	第１地区－２次	H21	試掘	H21.11.25 ～ 11.26	比奈 1341-1　外 公園整備	5,333 148		なし	なし	富士市教育委員会（2011b）
比奈５古墳群	第１地区－３次	H22	試掘	H22.10.15 ～ 10.22	比奈 2038　外 公園整備	7,600 400		なし	なし	

15 mの楕円形を呈する墳丘をもち、内部主体は全長 9.3 m、幅 1.25 mを測る無袖形横穴式石室であった。出土遺物から大坂上古墳と同様な造営時期と考えられる。

赫夜姫第２号墳

東坂古墳の北側、平坦部から斜面に向かう端部に位置していた。平成 14 年 11 月～ 12 月にかけて自動車学校の移転に伴い調査を実施した。墳丘、周溝等の外部施設は近世の削平により消失していたものの、残存長 4.30 m、石室中央で幅 1.00 mの無袖形横穴式石室を確認した。遺物は須恵器平瓶、耳環、刀子、鉄鏃が出土している。須恵器、鉄鏃の年代観から造営時期を７世紀前半と考えられている。

原田亀窪第１号墳

発見の経緯　平成 25 年１月、近隣住民より富士市原田字亀窪に古墳と推測される石積みが露頭しているとの情報を得た。発見者によると当該地は雑木林だったが、耕作地として利用するため木が伐採された後、石積を確認したとのことであった。文化振興課職員が現地に赴き、踏査したところ、石積みが横穴式石室であることを確認した。古墳は新規に発見されたことから、「原田亀窪第１号墳」と呼称し、同古墳の新規登録について静岡県教育委員会文化財保護課と協議を開始した。また、併せて比奈１古墳群の範囲内に隣接することから、同古墳群の範囲を拡大し、古墳を包括するよう範囲変更の協議も行った。結果、同年１月 23 日に原田亀窪第１号墳の登録並びに比奈１古墳群の範囲が変更された（教文第 1465 号）。

古墳の現況　原田亀窪第１号墳は、比奈 G- 第 74 号墳の北側 200 m、標高 120 mの丘陵縁辺部に立地する。古墳は石室天井石及び側壁の南側が露出していた。従って墳丘の封土は流出し、現状を留めてはいない。また、周辺を近年の造成土が覆い、周溝等の外部施設は現状では確認できない。

石室は閉塞石が崩れていたものの、南に開口する横穴式石室と考えられる。現状での規模は石室長 5.8 m、幅は側壁の遺存する中央部で 3.8 mを測る。天井石、側壁の石材は比奈 G- 第 74 号墳、原田亀窪第２号墳と同様、周辺で産出する自破砕溶岩の角礫を使用している。開口部の側壁は大型角礫を用い、現地表から２段を積み上げていた。平坦面を東西側壁で南に揃えていることから、後述する比奈 G- 第 74 号墳にみられるように玄門を意識している可能性が高い。北側では鏡石を思わせる扁平な石があり、天井石との高さから奥壁２段目と推測される。多少の崩れはあるものの、全体的に天井石まで遺存することから石室の残存状況は良好と考えられる。

第３節　比奈Ｇ－第 74 号墳の調査成果

1. 古墳の現況（第 270 図・第 271 図）

比奈 G- 第 74 号墳は畑地内に、石室の一部が露出していた。このため、近隣住民からも古墳として認識されていたようで、昭和 63 年に刊行された『富士市の埋蔵文化財（古墳編）』にもその記載がみられる。周辺は畑地として利用され、古墳の南側には畑の境界として石垣が積まれていた。

古墳は富士山西南麓に広がる丘陵南西に形成された小谷の平坦地、標高 105 m付近に位置している。本古墳北側の丘陵上の平坦部には原田亀窪第１号墳が、東側に 30 mほど離れた丘陵東斜面裾部には主軸長７m程度の石室をもつ原田亀窪第２号墳が所在する。

2. 墳丘の構造（第 270 図・第 271 図）

墳丘　古墳周辺は畑地となり、近世の開墾等による撹乱、削平のため、大部分を消失していた。確認調査の結果、埋葬施設である石室周辺西側及び北側にてその一部が確認できたに過ぎない。石室主軸及び直交方位に設定したトレンチの状況から、第 270 図第３層及び第４層を墳丘盛土と想定している。この盛土は石室墓坑を覆い、石室墓坑直上であることから墳丘盛土であった可能性が高い。墳丘を構成する土は地山に含む大淵スコリアを多量に含んでいたことが特徴として挙げられる。

周溝　周溝は東、北側で確認された。東側部分で検出面からわずか 5cm と浅く、北東でもＶ層の地山が露出し、周溝の外径は不明瞭であった。ただし、周溝内径では

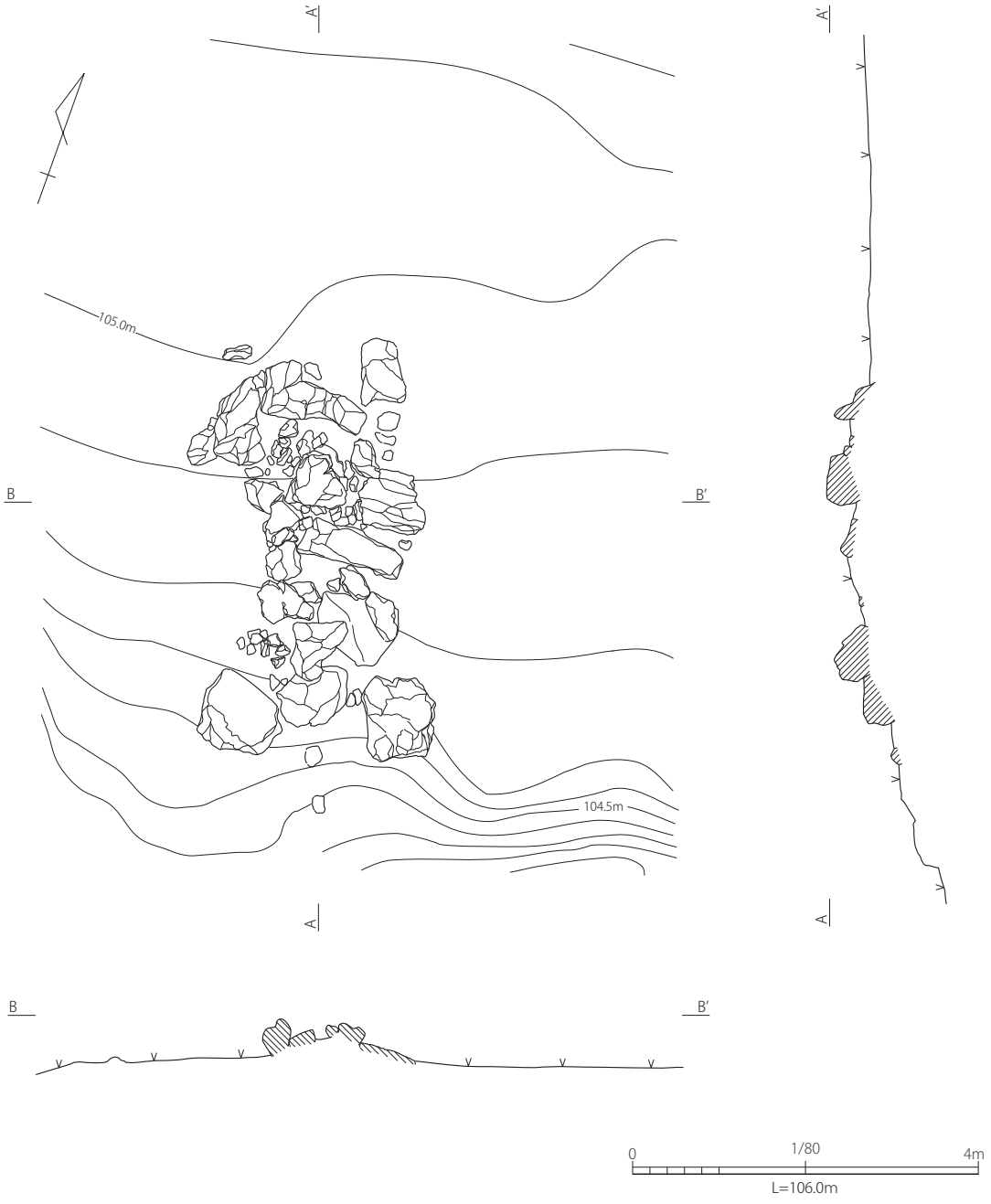
5cm の掘り込みが確認できた。このため、周溝内径から墳形・規模を推測すると東西 5.40 m、南北 8.60 m の長楕円形を呈していたものと考えられる。

3. 埋葬施設の構造（第 272 ～ 275 図）

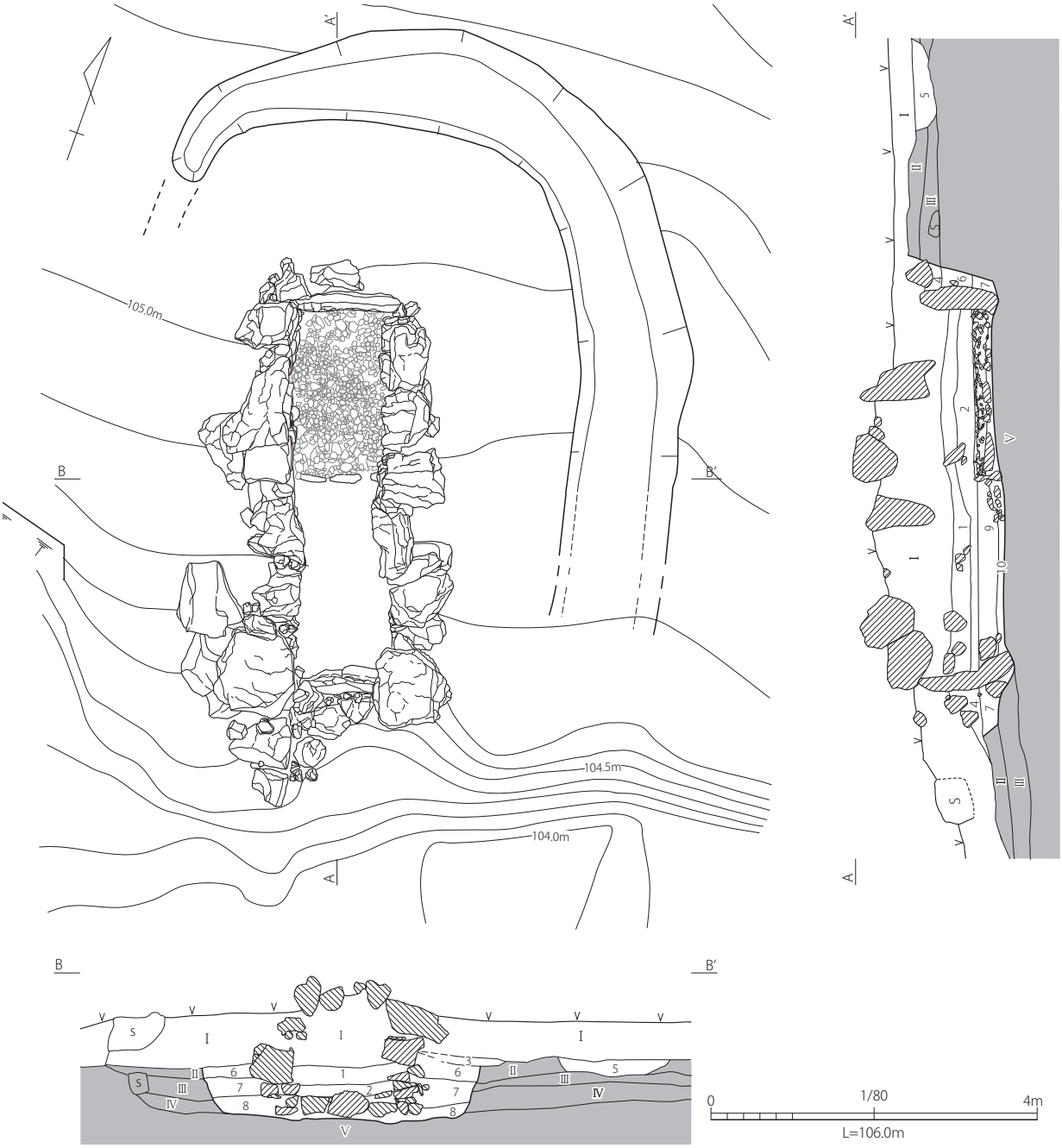
形状・規模　埋葬施設は段構造を有する無袖形横穴式石室である。石室は奥壁側主軸が磁北に対して 19.6 度西に振れ、やや南東方向に開口する。石室石材はすべて富士山南麓域で産出する自破砕溶岩の角礫である。

石室規模は石室残存長 6.75 m、玄室長 4.46 m、玄室幅は奥壁側で 1.02 m、中央部で 1.20 m、閉塞部付近で 1.05 mを測る。平面プランは玄室中央部でやや胴の張る長方形を呈する。

墓坑　墓坑は、全長で 5.86 m、中央部幅 3.47 m、深さは墓坑底面まで奥壁側で 0.65 m、閉塞側で 0.44 m を測る。側壁の遺存状況が良く、墳丘盛土が 3 段目側壁を覆っていたことから、墓坑上面は削平を受けず、築造当初の現況を保持していたものと判断した。また、側



第 270 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　現況図・断面図



1 黒褐色土 (10YR2/3)	粘性弱。	しまり弱。		石室内覆土
2 黒褐色土 (10YR2/3)	粘性やや弱。	しまりやや弱。	径 2 ～ 10mm 橙色粒子やや多。	石室内覆土
3 黒褐色土 (10YR2/2)	粘性やや弱。	しまりやや弱。	径 3~5mm の大淵 SC 極多。	墳丘盛土
4 黒色土 (10YR2/1)	粘性弱。	しまりやや弱。		盛土
5 黒褐色土 (10YR2/1)	粘性やや弱。	しまりやや弱。	径 2~5mm の大淵 SC やや多。径 1~2mm の橙色粒子やや多。	周溝覆土
6 黒色土 (2.5Y2/1)	粘性やや強。	しまりやや弱。	径 5~8mm の大淵 SC やや多。	石室裏込
7 黒色土 (7.5YR1.7/1)	粘性やや弱。	しまりやや強。	径 2~5mm の大淵 SC やや多。	石室裏込
8 黒色土 (7.5YR1.7/1)	粘性やや強。	しまりやや強。	径 2~5mm の大淵 SC やや少。	石室裏込
9 黒褐色土 (10YR2/2)	粘性やや弱。	しまりやや弱。	径 1~3mm の大淵 SC 少。	第 1 床面構築時の埋土
10 黒褐色土 (10YR2/1)	粘性強。	しまりやや弱。	径 7~10mm の大淵 SC 微。	第 2 床面構築時の埋土
Ⅰ表土				
Ⅱ黒褐色土 (10YR2/3)	粘性強。	しまりやや強。	径 2~7mm の大淵 SC 多。	
Ⅲ黒褐色土 (10YR2/2)	粘性強。	しまり強。	径 2~6mm の橙色 SC 少。	
Ⅳ黒褐色土 (10YR2/1)	粘性強。	しまりやや強。	径 1~3mmの橙色 SC 少。	
Ⅴ暗褐色土 (10YR3/3)	粘性強。	しまり強。	径 50~10mm 角礫。	

第 271 図　比奈G－第 74 号墳　検出状況図

壁が基底石から２段目まで、奥壁は先端を除いてほぼ墓坑内に収まる構造と考えられる。なお、開口部東側、石室玄門にあたる部分で地山を削り、テラス状の高まりがみられた。後述するが、この部分に石室基底石や詰石が見当たらず、石を使わずに他の基底石を意識し形成したものと推測される。

奥壁・側壁　奥壁は１段分が残存していた。高さ 0.9 m、幅 1.56 mの大型石材を鏡石として広口縦位に据えていた。残存側壁の最大高が石室床面から 1.25 mあること、奥壁裏に控積みと考えられる石がみられたことから、本来は２段程度の石積であったと想定される。第 270 図の主軸断面奥壁側に直立した石は古墳検出時に既に動かされていたが、現存する１段目奥壁との設置面があい、側壁の最大高と高さが近似することから、本来この石が２段目奥壁であった可能性が高い。

側壁は３～４段目まで残存し、上面床面から西側壁で高さ 1.25 m、東側壁で 1.16 mを測る。側壁は上段にいくに従い、若干持ち送り気味となる。石積みは、東西側壁共に基底石から３段目まで小口積みを主体とし、一部石材の長手部分を石室内側に向ける平手積みとしている。側壁基底石に比べ、上段の石材が大きくなる傾向にあり、特に石室開口部の側壁は玄門部を意識し、石積の中で最も大型の石を２段、積み上げていた。側壁裏込は石を用いず、土を互層状に入れ、側壁の安定を図っていた。ただし、裏込土は地山に含まれる大淵スコリアを多く含み、これによって裏込石と同様な効果を図ったものと推測される。

段構造（框石）・前庭部施設　石室開口部に高さ 1.14 m、幅 1.00 mの扁平な礫を広口縦位に樹立し、一見すると鏡石に見える。墓坑底面を掘り込み、基底石のようにすえていた。また、２～３段目の両側壁との隙間に小礫を充填し、側壁と固定されていた。さらに礫を固定するため、土と礫によって安定を図っていた。このため、この石は埋葬に際して開閉しないことを前提としていたことが明らかである。また、石の大半が埋まり、上端 40cm が露出した状況で検出された。石室内では床面からこの石の上端まで 70cm ～ 90cm ほどの段差が生じることから、本石室が段構造をもつものと判断した。また、第２床面検出時に框石北、石室主軸上に幅 60cm の石を確認した。上端に平坦面を向け、下部の安定を図るため床面上に詰石を施していたことから、この石が石室へ降りるためのステップ的な機能を有していたと推測される。

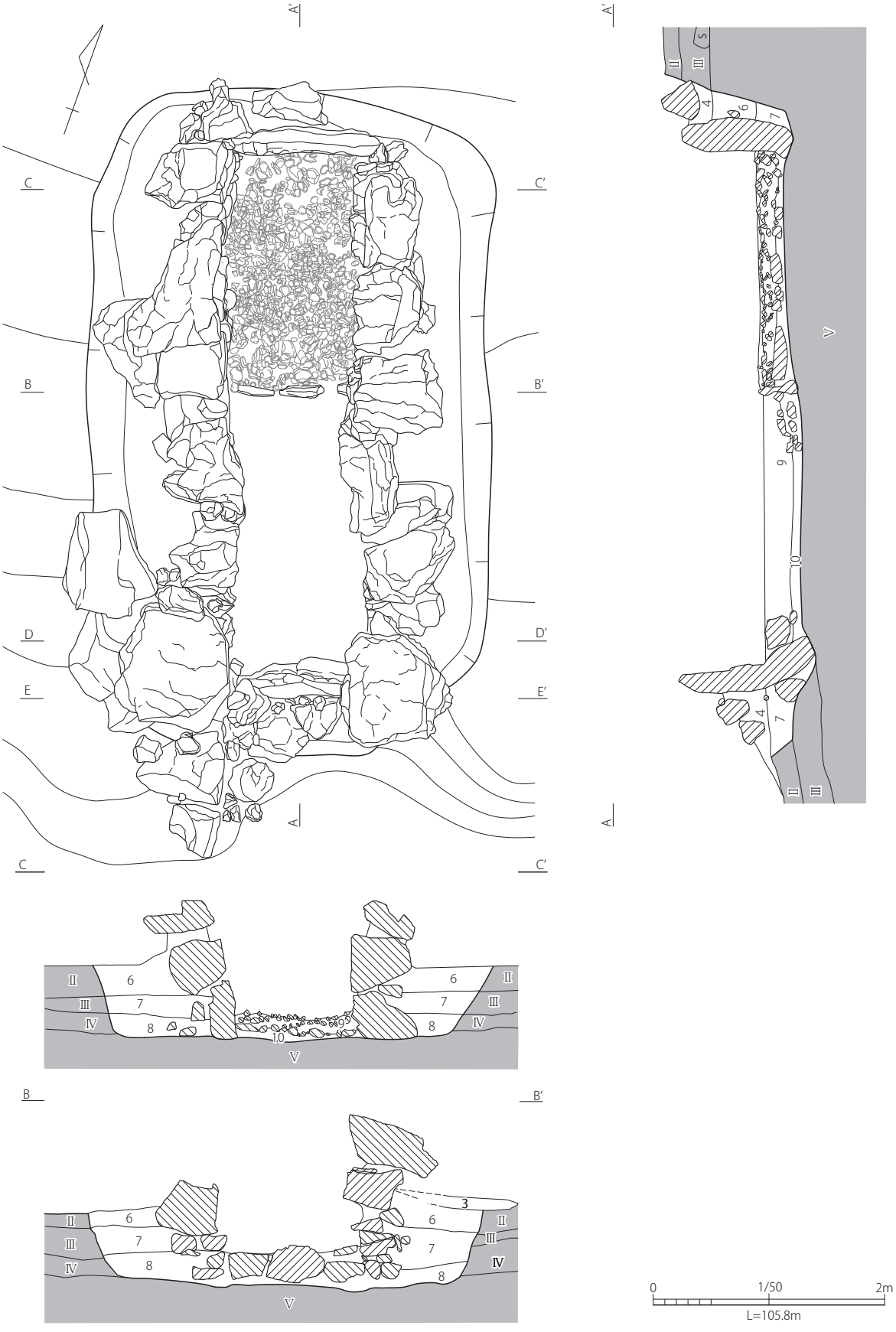
前庭施設については後世の畑作により石垣が作られ、破壊されていたが、一部、その残存部分を確認した。基底石のみではあったが、前庭側壁としての西側壁が閉塞部より南に向かい 60cm 程続いていた。

床面　床面は２面を確認した。なお、便宜上、検出順に上層の床面を第１床面、下層の床面を第２床面と呼称する。第１床面では石室中央部付近に屍床仕切石を挟み、北側のみ敷石が認められた。敷石は盗掘もしくは後世の撹乱の影響からか 10 ～ 20cm の角礫が散在した状況でみられた。第２床面は敷石が屍床仕切石を挟んで北側前面、南側でも屍床仕切石から南 90cm まで隙間なく施されていた。敷石は20cm 大の角礫を用いるが、屍床仕切石より北側 1.10 mまで 30 ～ 50cm の平板な石を用いていた。また、第２床面では屍床仕切石を境に北側と南側で 15cm 程の段差がみられた。

屍床仕切石は板状石３枚を横口横位に設置していた。この仕切石は、墓坑に埋められていたことから、敷石設置前に布設されていたものと考えられる。屍床仕切石から北側は底面が高くなることから、床面敷石の状況とも併せ、北側を棺座のような埋葬空間として捉え、用途を区分していた可能性が考えられる。

石室の構築　側壁基底石をみると、石室中央部（屍床仕切石設置位置付近）で配列に差異が認められる。右側壁で仕切石の北側に、左側壁では南側に大型で扁平な礫が配置される。この石を基準として、開口部側、奥壁側から中央部に配置されていたことが推測される。また、奥壁は自立させ、その後、両側壁に基底石を配置している。２段目もやはり、屍床仕切石を挟み、指標となる石を積み、開口部、奥壁側から中央部に向かって積み上げる。ただし、東西側壁では積み上げ方法に違いが生じる。両側壁の横目地を観察すると、西側壁が奥壁一段目の高さに併せて水平に積み上げているのに対し、左側壁は奥壁、開口部から中央に向かって斜めに積み上げを行い、３段目で大型礫を用い、奥壁の高さに近接させている。

框石は奥壁と同様に墓坑基底面を掘りくぼめ、自立させ、２段目を積み上げた段階で、両側壁間に小礫にて詰石し、側壁と固定し、安定を図っていた。この部分は前述のごとく、左側壁で埋土と地山によって基底石の代わりとし、西側壁は小礫を用い、その後、２段目にあたる



*土層注記は第271図と共通

第 272 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　横穴式石室検出状況図（第 1 床面）

大型礫を積み上げていた。大型礫を用いること、縦方向2段目以降の積み上げ時に中央部と同様、積み上げの指標を果たしていたものと考えられる。

4. 遺物の出土状況（第276図・第277図）

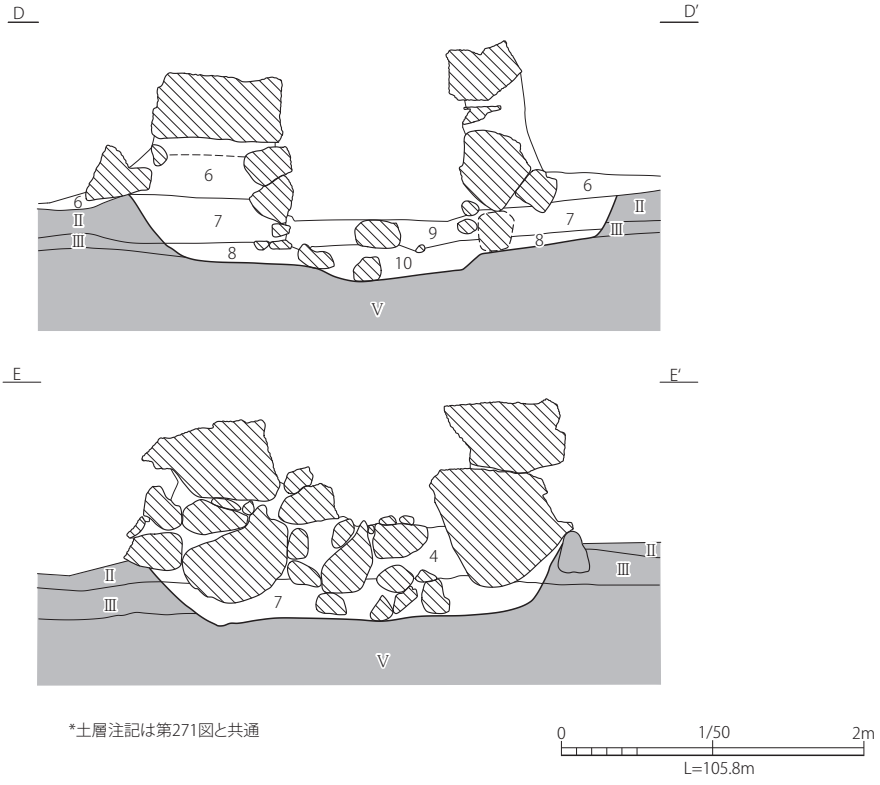
比奈G-第74号墳では床面が2面確認できたが、石室内の遺物はすべて第2床面からの出土であった。第1床面は、敷石が散在している状況から、後世の撹乱、盗掘等の影響を受けているために遺物が出土していなかったと考えられる。なお、前庭部では、開口部付近から土器の出土が認められた。

石室内　第2床面のみに認められ、刀装具、刀子、鉄鏃、ガラス小玉が出土したが、遺物量は少ない。足金物（2）は奥壁南から出土したものの他は、屍床仕切石付近にその分布が集中する。仕切石より北側にある大型な敷石周辺で装身具であるガラス丸玉（18～20・22）が、近接した右側壁では足金物（1）、刀子（7・8）、平根式長三角形鏃（10）が出土している。仕切石南側ではやはり右側壁に近接して平根式腸抉長三角形鏃（12）、尖根式鑿箭鏃（15）、片刃鏃（16）、刀装具である縁金具（4）、鞘尻金具（5）がまとまって出土している。遺物量も少なく、玉類や鉄製品の一部は石室内に散在していたが、鉄製品は仕切石周辺の右側壁際に出土していることから、追葬時に遺物の片付けが行われた可能性が高い。また、一部鉄鏃が床面下に達しているが、これは片付け時、床面敷石の隙間に落ち込んだものと考えられる。なお、須恵器坏（4）と考えられる小破片が石室内覆土から出土しているが、石室内遺物との時期差があるため、石室崩落時に流入したものと判断した。

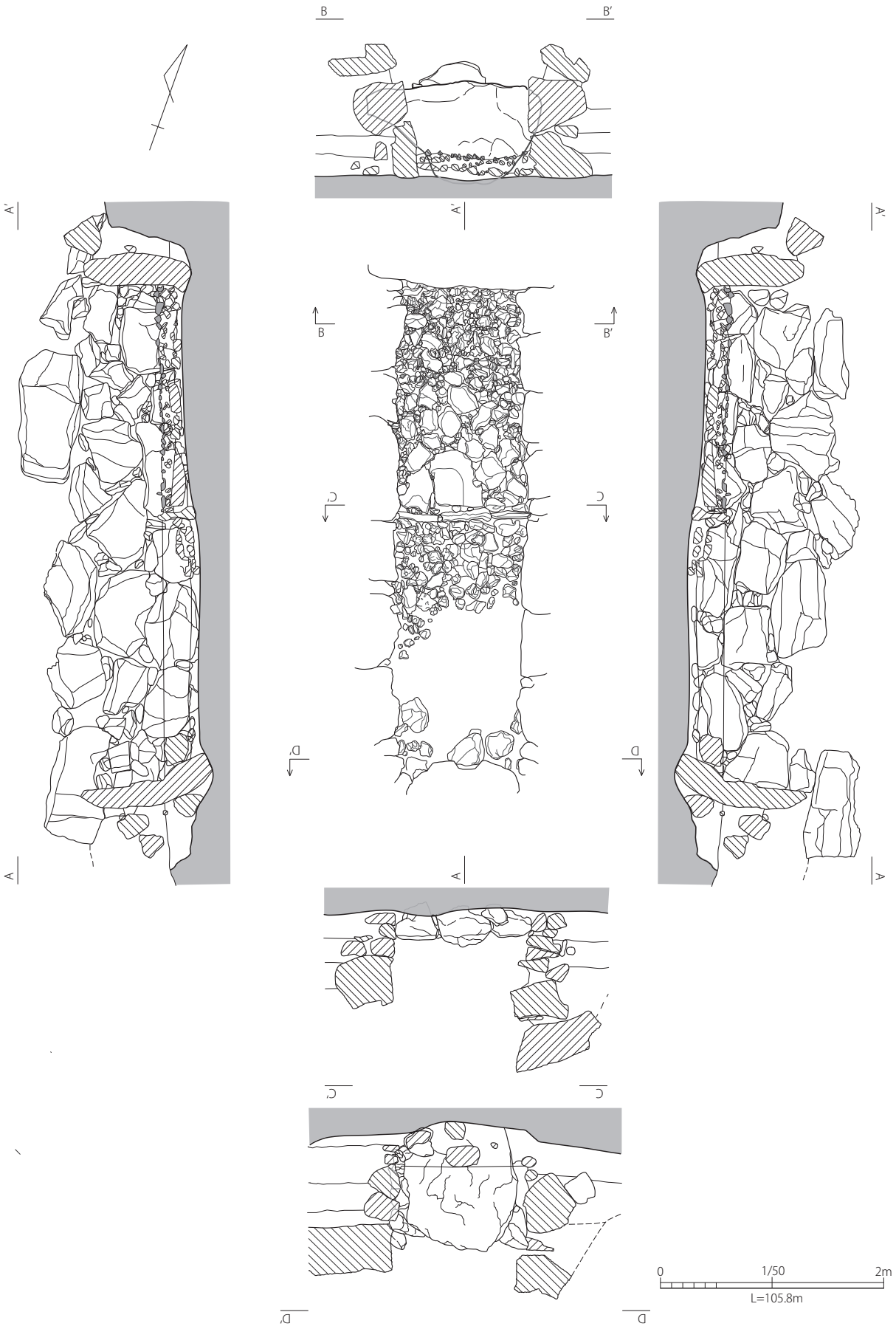
石室外　玄門部西側壁周辺で、須恵器が認められた。須恵器蓋2点（1・2）は石室玄門部側壁と前庭側壁と推測される石列部分の隙間で、須恵器甕口縁部（8）は前庭部分から出土している。また、石室周辺の撹乱土からは須恵器蓋（3）、高台坏（3）、坏（5）、甕（10～14）がみられた。いずれも破砕された状況にあり、その出土位置から追葬時やその後の墓前祭祀時に供献された可能性が高い。

5. 出土遺物

刀装具（第278図）　1～5は刀装具である。1･2は鉄製吊手孔足金物で、1は全長4.4cm、内径3.2cm、幅推定2.2cm、内径幅1.8cmを測る。2も同程度の大き



第273図　比奈G－第74号墳　横穴式石室断面図

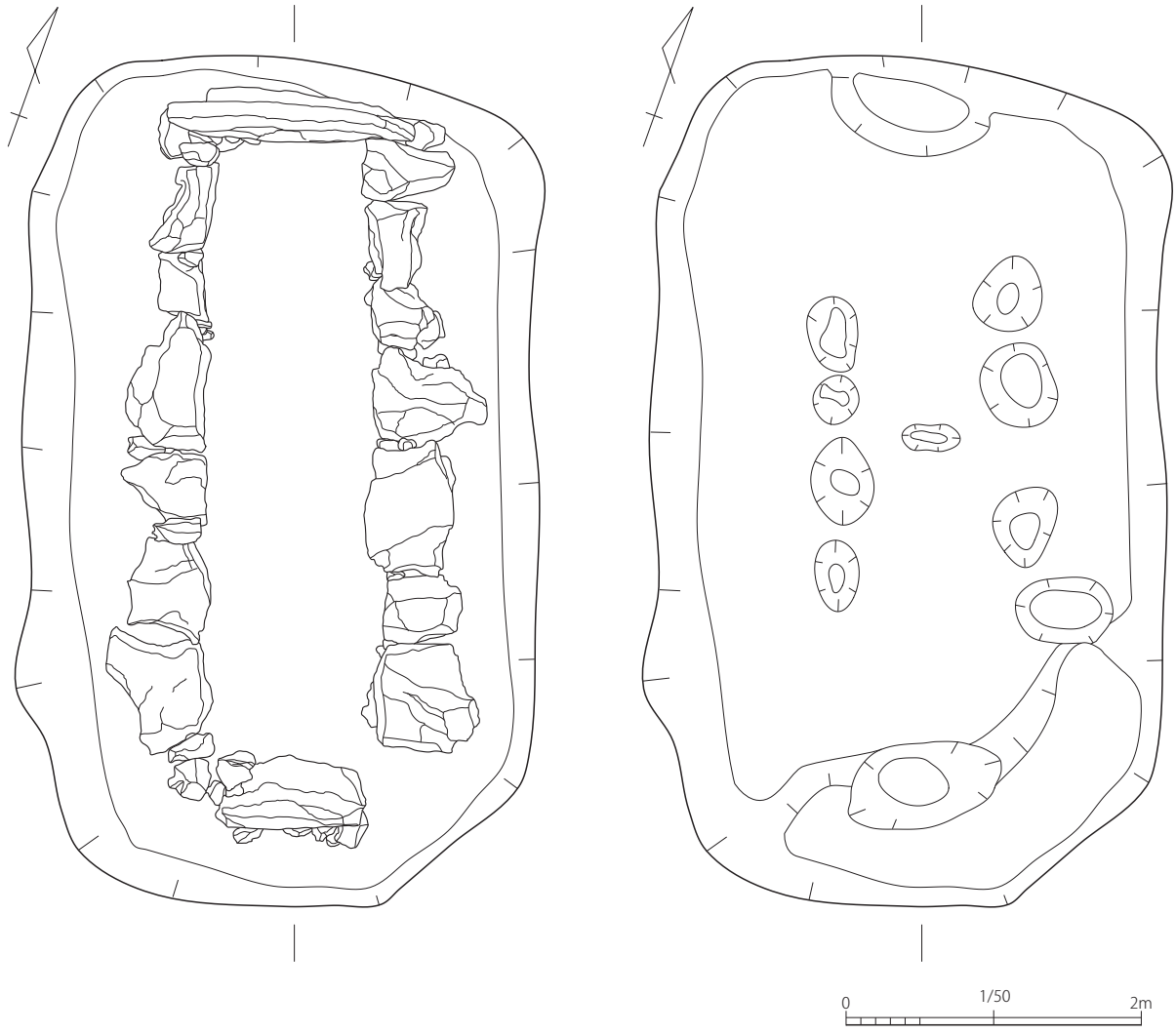


第 274 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　横穴式石室展開図（第２床面）

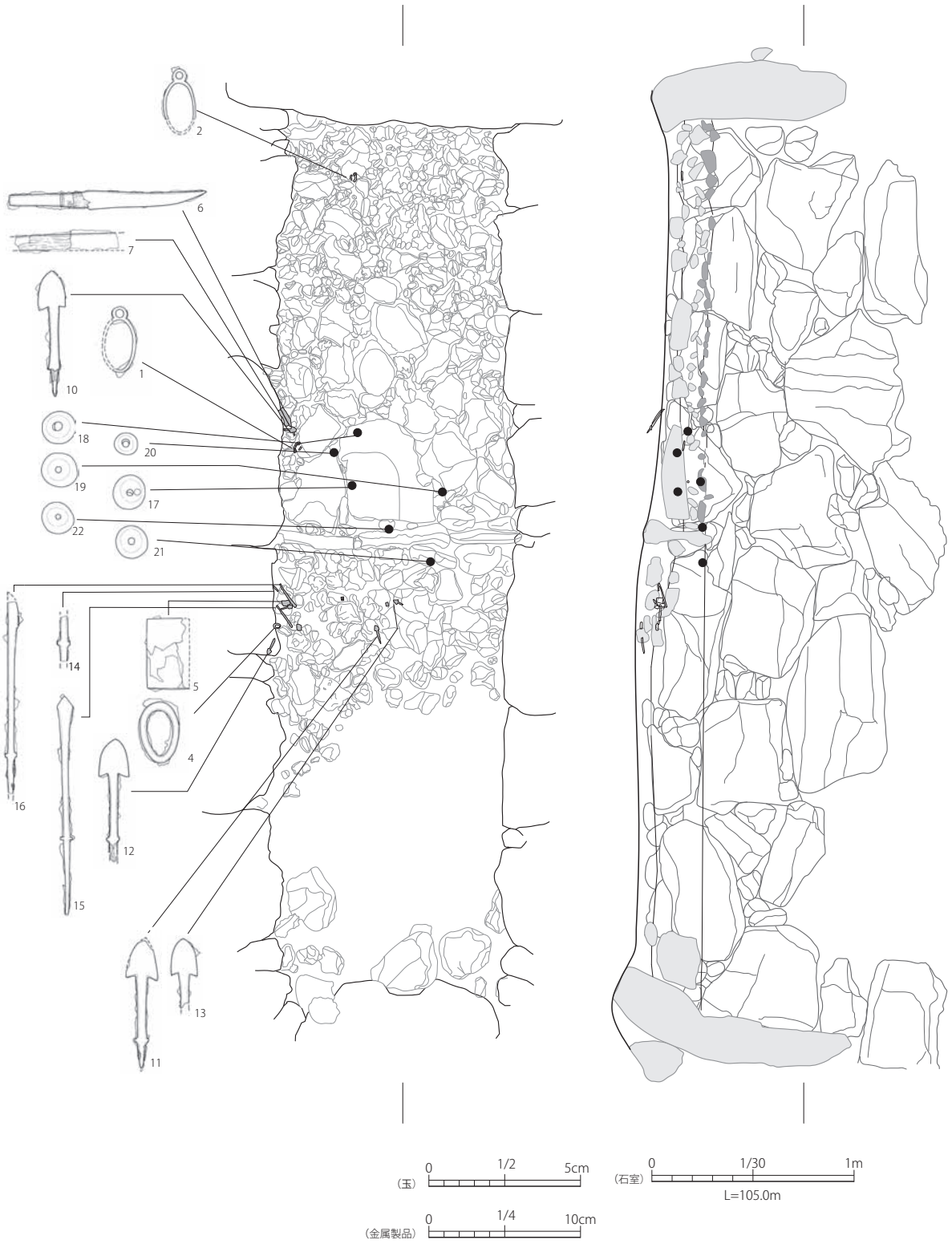
さであり、かつ内径 3.3cm と近接しているから、同一の刀に付属していた可能性が考えられる。なお、鉄製足金物の類例は少ない（注 1）。3 は鉄製柄縁装具（鉚）で全長 3.3cm、幅 2.1cm で、内部に柄の痕跡とみられる木質が付着している。4 は鉄製縁金具（切羽）と推定され、全長 4.0cm、幅 2.6cm、厚さ 0.5cm を測る。 5 は銅製鞘尻金具で、全長 4.8cm、幅 2.7cm、断面は長径 2.8cm、短径 1.5cm の倒卵形となる。厚さ 1㎜の銅板を筒状に折り曲げ、蝋付け等の処理を行ったものと考えられるが、欠損部があり、接合部は定かでない。底部については腐食が激しいものの、接合痕は認められ、蝋付け処理を施したものと推測される。また、内面には鞘の木質が残る。前節で述べたように、刀装具は追葬時の遺物の片付けにより、原位置を保っていないが、それぞれの内径長が 2.7 ～ 3.3cm、内径幅が 1.3 ～ 1.7cm と近接していることから、同一の大刀に付属する可能性も考えられる。

刀子（第 278 図） 6 ～ 8 は刀子である。6 は全長 12.9cm、刀部 7.8cm、幅 1.2cm で完形である。関は刀部、棟側共に撫関で、茎は茎尻に向かい若干幅を狭め、また、樹皮巻きが遺存する。刀部がやや内湾することから、研ぎ減りした可能性がある。7 は茎から刀部の残存で、茎部に木質が残る。8 は茎部のみで、木質が残る。

鉄鏃（第 278 図） 9 ～ 16 は鉄鏃である。9 ～ 13 までは平根式ですべて腸抉三角形鏃となり、ふくらが張り、五角形鏃に近い形状をもつ。全長も 8.1 ～ 8.3cm、身部長 2,4 ～ 2.5cm と均一である。9・11・12 は茎関で棘関となる。10 のみ角関となる。14 は頚部～茎部のみ



第 275 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　横穴式石室基底石配置図・墓坑図



第 276 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　横穴式石室床面遺物出土状況図

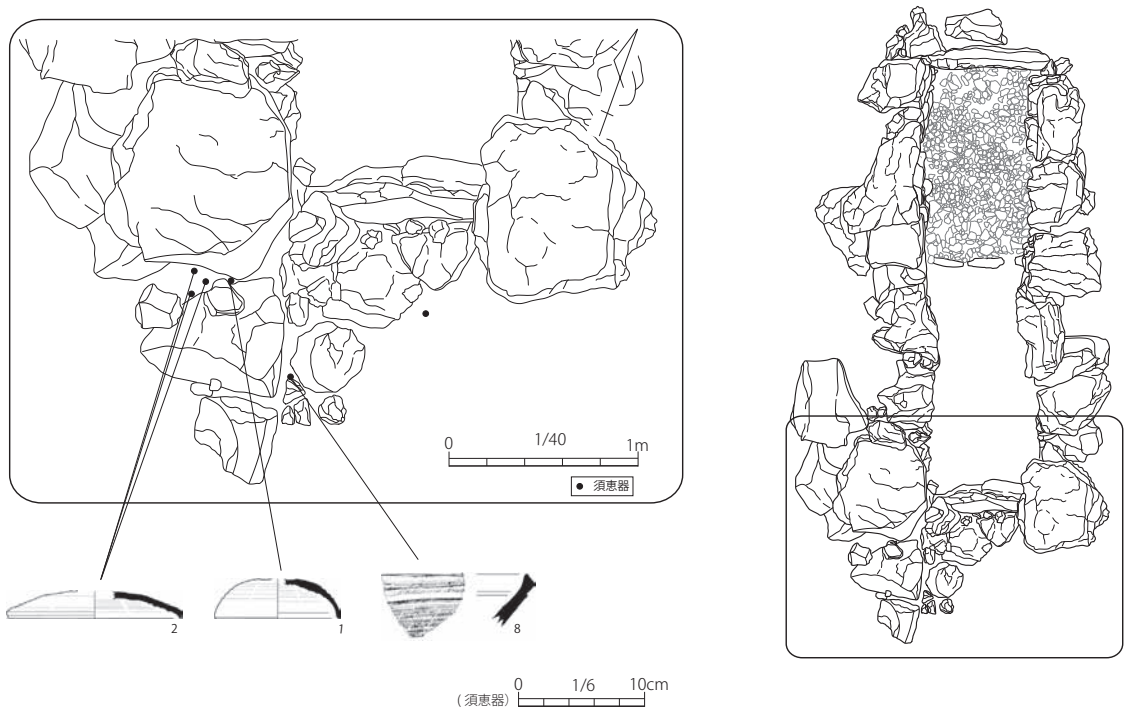
で、茎部の関は棘関である。平根式腸抉三角形鏃は遠江Ⅱ期後から出土がみられるが、本墳に近似する形状として富士市・谷津原第12号墳、富士市・花川戸第1号墳に類例が求められる。これらの古墳は第Ⅳ期前葉（飛鳥Ⅰ）に造営時期が当てはめられる。

15・16は尖根式で、15は鑿箭鏃となる。鏃身から頚部への明瞭な関がなく、頚部から徐々に幅広となり、端刃となる。16は片刃箭鏃で先端部が欠損しているが、刀部の関は撫関と考えられるが、明瞭ではない。15,16共に茎関で、茎部は木質が遺存する。鑿箭鏃は富士市国久保古墳に近似する例があり、棘関が退化していないことから遠江Ⅲ期後葉～Ⅳ期前葉（TK209～飛鳥Ⅱ期）に比定されている。16の片刃箭鏃も同時期に帰属するものと考えられる。

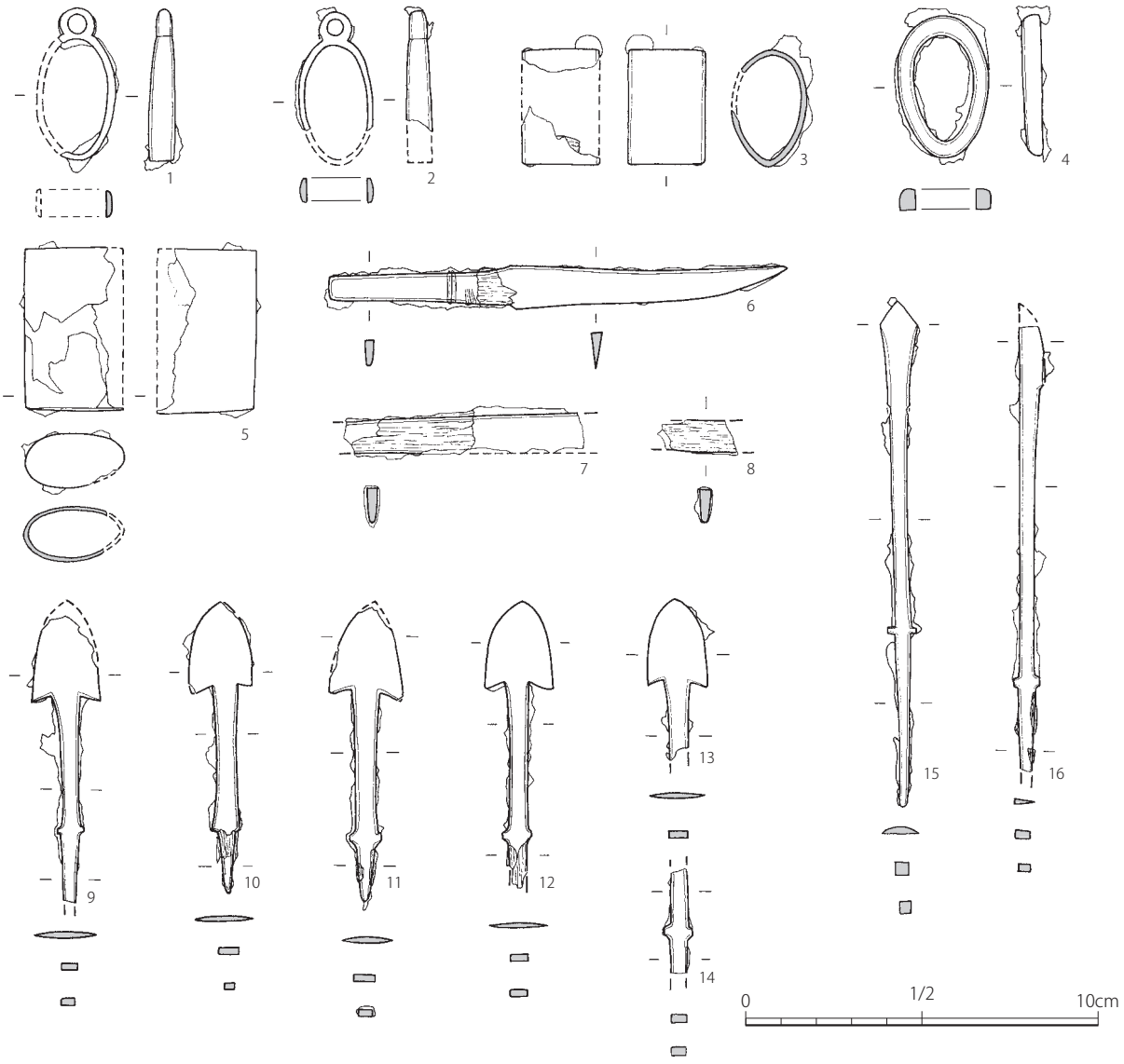
玉類（第279図） 石室内より7点が出土した。23のみ石室内の覆土で、他は石室床面からの出土である。すべてガラス製小玉で径0.75～0.9cm、高さ0.5～0.6cm、色調は濃青色を呈する。20のみ径0.55cm、高さ0.4cmと小振りで、色調も淡青色を呈する。小玉はすべて上下面に平坦面を有し、18、22では穿孔以外に貫通する部分が確認できることから、菅引き技法によって作られた可能性が高い。

土器（第280図） 土器はすべて須恵器で、坏蓋2点、坏3点、甕9点を図示した。

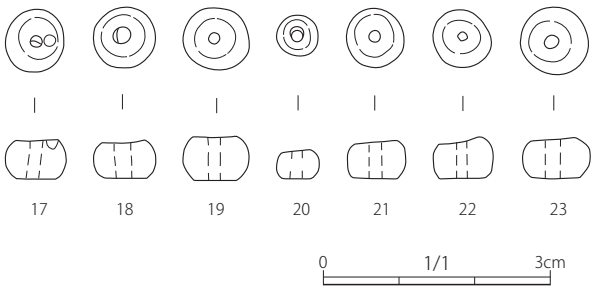
坏蓋は2種に区分できる。1は半球形で、口縁部が内湾し、端部を丸く収める。天井部と口縁部の境に明確な沈線､稜は認められない。形状､調整から遠江Ⅳ期後（飛鳥Ⅲ）段階のものと考えられる。2は天井部が欠損しているものの返りを持たない摘み蓋と推定される。摘みの形状は明らかでないが、形状からⅤ期前（平城Ⅰ）のものと推測される。3は高台付の坏で、丸底に高台をつけた形態で、高台より底部が張り出す。Ⅴ期前（平城Ⅰ）のものと考えられる。4は口縁部から体部上半のみではあるが、形状、調整から無高台坏と考えられる。5も無高台坏で箱型の形状をし、内面にナデによる凹みがみられる。Ⅴ期前（平城Ⅰ）と考えられる。6～14は甕で胎土、色調が類似することから同一個体である可能性が高い。8・9は口縁部で端部が断面三角形状で下位にクシ状工具による刺突文がみられる。10は頚部であるが、こちらにも刺突文が「く」の字状に配置される。11～14は甕の胴部で、外面にタタキがみられ、内面には同心円状のあて具の痕跡をナデ調整によって消している。6は形状から坏の底部と推測される。



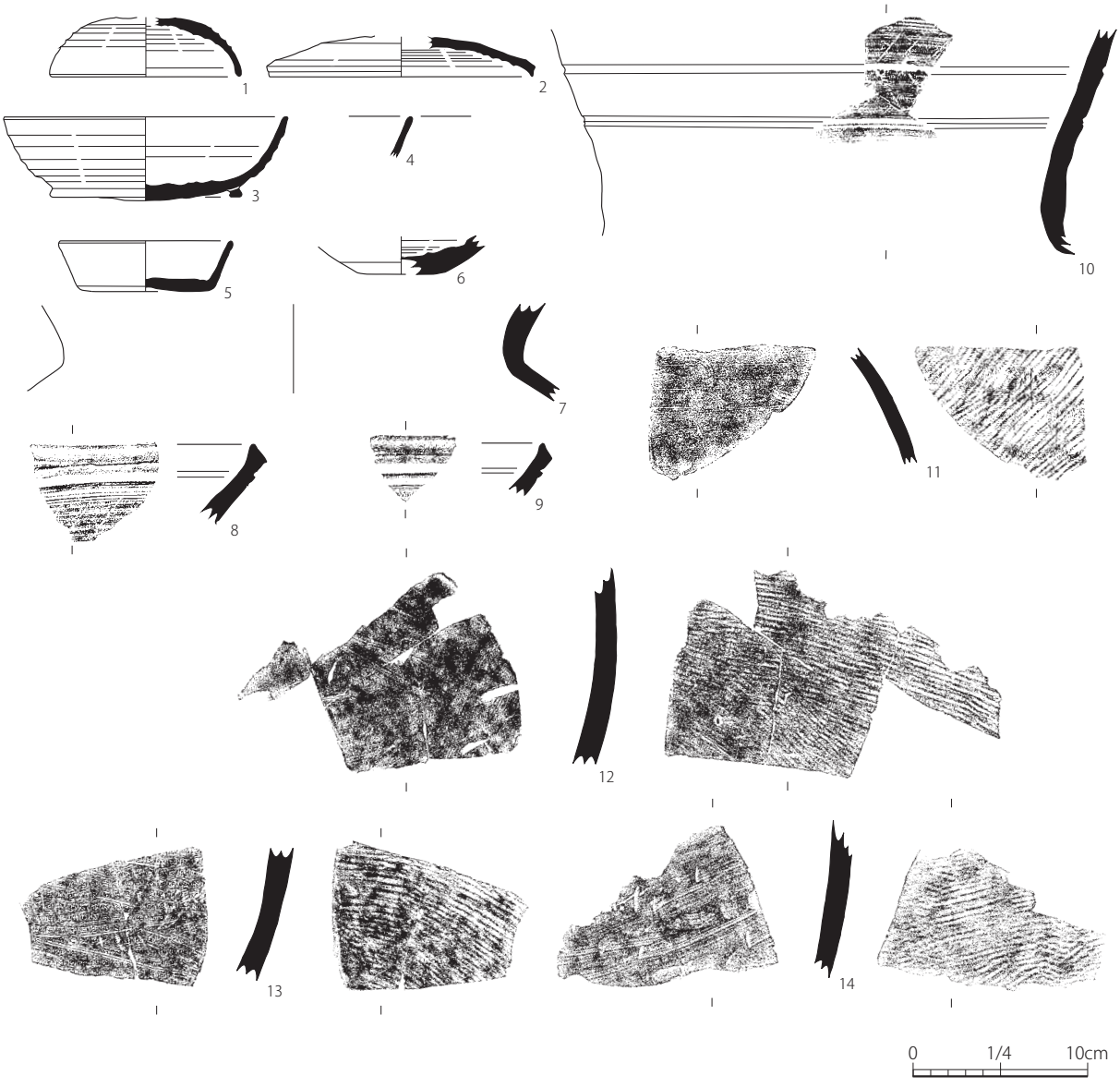
第277図　比奈G－第74号墳　横穴式石室前庭部遺物出土状況図



第 278 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　石室内出土遺物（金属製品）



第 279 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　石室内出土遺物（玉類）



第 280 図　比奈Ｇ－第 74 号墳　出土遺物

第 48 表　比奈Ｇ－第 74 号墳　出土遺物観察表

・金属製品（刀子）

挿図番号	R 番号	写真図版	出土位置	種別	現存長（cm）	刀部長（cm）	刀部幅（cm）	茎部長（cm）	重量（g）
第 278 図－ 6	R023	PL.54	第 2 床面	刀子	12.9	7.8	1.2	5.1	15.51
第 278 図－ 7	R024	PL.54	第 2 床面	刀子	6.7				11.19
第 278 図－ 8	R044	PL.54	第 2 床面	刀子	2.2				1.77

・金属製品（鉄鏃）

挿図番号	R 番号	写真図版	出土位置	鏃身形状	鏃身部断面形状	残存長（cm）	鏃身部（cm）			頸部（cm）			茎部（cm）			重量（g）
							長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	
第 278 図－ 9	R026	PL.54	第 2 床面	平根三角形		8.1	2.4		0.15	3.9			1.9			7.35
第 278 図－ 10	R025	PL.54	第 2 床面	平根三角形		8.3	2.4		0.15	4.1			1.3			6.67
第 278 図－ 11	R045	PL.54	第 2 床面	平根三角形		8.3	2.4		0.15	4.5			1.6			7.90
第 278 図－ 12	R051	PL.54	第 2 床面	平根三角形		8.1	2.5		0.15	4.5			1.2			7.27
第 278 図－ 13	R033	PL.54	第 2 床面	平根三角形		4.6	2.5		0.15	2.3						4.9
第 278 図－ 14	R020	PL.54	第 2 床面			2.9				2.0			0.9			1.69
第 278 図－ 15	R022	PL.54	第 2 床面	尖根ノミ箭		14.3	0.6	1.1	0.2	8.7			4.9			12.48
第 278 図－ 16	R021	PL.54	第 2 床面	尖根片刃		12.6	1.8		0.15	8.5			2.4			9.05

・玉類

挿図番号	R 番号	写真図版	出土位置	種別	材質	色調	径（cm）	高さ（cm）	孔径（cm）	重量（g）	残存状況	備考
第 279 図－ 17	R030	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.8	0.55	0.15	0.51	完形	平坦面あり
第 279 図－ 18	R031	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.8	0.5	0.2	0.45	完形	平坦面あり
第 279 図－ 19	R029	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.85	0.58	0.15	0.64	完形	平坦面あり
第 279 図－ 20	R028	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.55	0.4	0.15	0.16	完形	平坦面あり
第 279 図－ 21	R041	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.75	0.5	0.15	0.49	完形	平坦面あり
第 279 図－ 22	R042	PL.53	第 2 床面	丸玉	ガラス		0.75	0.55	0.1	0.51	完形	平坦面あり
第 279 図－ 23	R046	PL.53	D4	丸玉	ガラス		0.9	0.55	0.2	0.6	完形	平坦面あり

・土器

挿図番号	R 番号	写真図版	出土位置	種別	細別	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	焼成	残存率	備考	内面色調 外面色調
第 280 図－ 1	R007	PL.53	石室内上面	須恵器	坏蓋	(11.0)	(3.4)		良好	25%	反転復元	5Y5/1（灰） 5Y5/1（灰）
第 280 図－ 2	R034、035、036、048	PL.53	閉塞部前方	須恵器	坏蓋	15.4	(2.3)		良好	80%	一部反転復元	2.5Y7/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 3	R006、008、037、047、049	PL.53	閉塞部前方	須恵器	高台坏	16.2	4.8	5.5	良好	60%		2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/2（灰黄）
第 280 図－ 4	R040	PL.53	第 2 床面	須恵器	坏		(2.3)		良好			5Y6/1（灰） 5Y5/1（灰）
第 280 図－ 5	R013	PL.53	閉塞部	須恵器	坏	(5.0)	(2.9)	(4.0)	良好	25%	反転復元	5Y6/1（灰） 5Y5/1（灰）
第 280 図－ 6	R006	PL.53		須恵器	瓶		(2.2)	(5.0)	良好	60%	反転復元	2.5Y7/2（灰黄） 5Y5/2（灰オリーブ）
第 280 図－ 7	R007	PL.53		須恵器	甕		(5.1)		良好		反転復元	2.5Y6/1（黄灰） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 8	R008	PL.53	南西区一括	須恵器	甕		(4.5)		良好			2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 9	R008	PL.53	南西区一括	須恵器	甕		(2.95)		良好			2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 10	R006、008	PL.53		須恵器	甕		(12.9)		良好		反転復元	2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 11	R008	PL.53		須恵器	大甕		(6.7)		良好			2.5Y7/1（灰白） 2.5Y6/2（灰黄）
第 280 図－ 12	R003、006、008	PL.53	南ﾄﾚﾝﾁ・東ﾄﾚﾝﾁの間石室上面	須恵器	甕		(11.1)		良好			2.5Y7/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 13	R007、038	PL.53	閉塞部前方 石室内上面	須恵器	甕		(7.6)		良好			2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）
第 280 図－ 14	R008	PL.53		須恵器	甕		(9.0)		良好			2.5Y6/2（灰黄） 2.5Y6/1（黄灰）

第４節　まとめ

1. 古墳の造営時期

本墳の築造年代について出土遺物から推測したい。出土遺物は第２床面のみにみられ、前節にて報告したように鉄鏃は概ね遠江Ⅲ期後葉～Ⅳ期前葉の形状を示す(注２)。

土器については石室床面から出土したものがなく、すべて石室外からの出土だが、前庭部から出土した坏蓋が遠江Ⅲ期後葉（飛鳥Ⅲ）に帰属する外は、Ⅴ期前葉（平城Ⅰ）に比定される須恵器である。前述した石室内から出土した鉄鏃よりも時期が降ることから、追葬時、もしくはその後の墓前祭祀時の遺物と推測される。

以上のように石室内出土鉄鏃と石室外出土土器から、初葬が遠江Ⅲ期後葉（TK209～飛鳥Ⅱ期）～Ⅳ期前葉、追葬もしくは墓前祭祀期をⅣ期前葉（飛鳥Ⅲ）～Ⅴ期前葉（平城Ⅰ）の時期と考えられる。

2. 石室への埋葬過程の復元

今回の調査において、最大の成果は段構造をもつ無袖形横穴式石室の構築と石室への埋葬・追葬の方法について、新資料を提示できたことにある。

石室の構築方法は前節で報告･検討していることから、ここでは石室への埋葬過程について若干の考察を加えたい。

本墳では鏡石状の一枚石を開口部に用いる。特徴として挙げられるのが、この石が当初から閉塞石として機能を持たないことと床面から最大 0.9 mの高さをもつことにある。本石室は側壁の残存高が 1.25 mある。報告の通り、奥壁が２段で構成されていたと想定しているが、石室高は最大で 1.30 m程度と推定され、開口部から埋葬するには 0.5 mほどの天井高しかない。このため、天井石がないものの石室開口部斜め上方からの可能性を検討せざるを得ない。本市域でもその類似例として、ほぼ同時期にあたる大淵片倉第１号墳が挙げられる。同墳の遺存状況は良く、天井石まで残存しているが、礫の積み上げによって構築された段構造と天井までの高さは 80cm 程しかない。さらに開口部側の天井石がなく、斜め上方からの埋葬を推測されている（富士市 1983)。詳細な比較は別稿にて改めて論ずる予定だが、比奈 G-第 74 号墳と石室の構築法に類似性が認められ、本墳も大淵片倉第１号墳の埋葬過程と同様な方法で行われたことが推測される。今後､調査事例が増加することにより、よりこの種の石室について詳細な構造が明らかとなるであろう。

(注１)、(注２)　大谷宏治氏のご教示による。

参考文献

富士市教育委員会 1981『横沢古墳　中原１号墳　伝法遺跡群（伝法Ａ～Ｅ地区）　天間地区』

富士市教育委員会 1983『山の神古墳　西平第１号墳　実円寺西第１号墳　伊勢塚古墳　念信園古墳　大渕片倉第１号墳　大野新田遺跡』

富士市教育委員会 1988『富士市の埋蔵文化財（古墳編)』

富士市教育委員会 2004『赫夜姫第２号墳発掘調査報告書』

富士市教育委員会 2010『平成 14・20 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』

富士市教育委員会 2011a『平成 13 年度　富士市内遺跡・伝法国久保古墳　埋蔵文化財発掘調査報告書』

富士市教育委員会 2011b『平成 21 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』

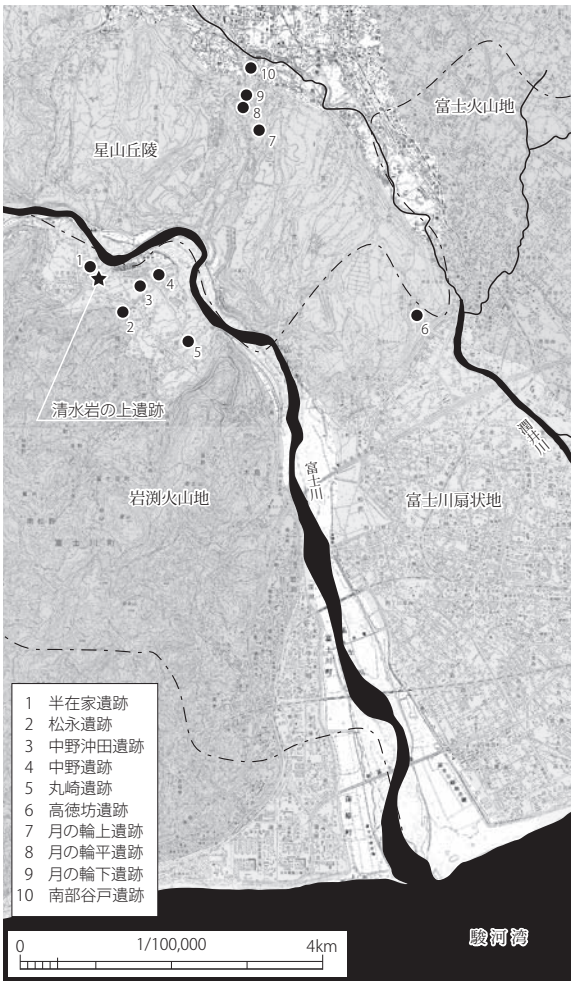
第８章　資料報告

第１節　清水岩の上遺跡出土の弥生土器

はじめに

静岡県東部に位置する富士市は平成 20 年 11 月、富士川町と合併し、新たな富士市として再出発した。文化財保護行政部門としては、旧富士川町教育委員会生涯学習課が担当していた業務の一部を引き継ぎ、その際、富士川町指定文化財となっていたものは、その指定が一旦解除された。本論で報告する清水岩の上遺跡出土の弥生土器も指定が解除されたまま現在に至っている。

本論では、かつて指定されていた土器を再実測し、再報告するとともに、一緒に出土した土器を新たに報告することとする。そして、遺跡周辺の弥生時代後期の様相について概観し、改めて清水岩の上遺跡のもつ重要性について触れていくこととする。



第 281 図　清水岩の上遺跡の位置

１　遺跡の位置と発見の経緯

清水岩の上遺跡は、富士市（旧富士川町）松野地区に所在し、日本三大急流に数えられる富士川を北に望む。現在の富士川は、蛇行しながらいくつもの河川が合流しながら南下し、最終的に駿河湾に注いでいるが、弥生時代の頃は流路を東へとり、かつての吉原湊（現在の田子浦）へ注いでいたと考えられる。清水岩の上遺跡は、「岩の上」の名が示すように富士川を望む溶岩地の上に立地している。

昭和 50 年代、土地所有者である小池正一氏の兄弟である茂雄氏が畑の造成中に地表下 30cm 付近から完形品の土器数個体を発見した。聞き取りによれば、２m四方を掘っただけで多量の土器が見つかったとのことである。現在は、完形品５個体が残されており、発見者の証言とおり、狭い範囲からまとまって土器が見つかったことが分かる。また、周囲は溶岩で容易に掘り下げが行えないにもかかわらず、土器の周辺だけが黒色土が厚く堆積し、掘削が可能であったということはそこに、掘り込みが存在したことを示している。加えて、富士川の石も一緒に出土したと発見者は証言している。

その後、発見された土器は、近所に住む教育委員会職員を通じて届出られ、町教育委員会による現地調査（踏査）が行われたが、新たな遺構や遺物は発見されなかったという。今回紹介する土器のうち、町指定文化財となっていたのは、第 282 図２・３・５、第 283 図６のみで、ほかは土地所有者が保管していたものである。１については借用し実測させていただき所有者に返却したが、他の破片については寄贈されたため、富士市埋蔵文化財調査室にて保管されている。

2　土器について

1は、大型の広口壺で、器高41.2cm、口径18.5cmを測る。突出する底部を有し、胴部はやや下膨れする球形で、胴部最大径は底部より高さ14cmの部分で32.0cmを測る。頸部は緩やかにCの字状に広がり、断面三角形の折り返しの口縁部に至る。頸部下端と胴部の間に成形時の乾燥工程がおかれたために段差が存在する。また、胴部下半にも乾燥工程による明瞭な段差があり、その部分の内外面調整は他の部分と異なり、外面ハケ目調整ののち横位のヘラミガキ、内面は横位のハケ目調整が施される。胴部外面はハケ目調整の後、斜め方向のヘラミガキが丁寧に施され、内面にハケ目は施されずナデ調整。頸部と胴部との境は調整をも規定し、内面は横位のヘラミガキが施される。折り返し口縁部の下端はユビオサエの痕跡が明瞭に残る。完形品である。

2も折り返し口縁の広口壺で器高33.0cm、口径16.9cmを測り底部は突出しない。1同様、胴部下半、胴部上端（頸部下端）で成形時の乾燥工程がおかれ、とくに頸部下端には内外面共に明瞭な段差が存在する。胴部の調整も1と共通している。頸部外面は縦位のハケ目が施されるが、部分的にナデ消されている。頸部外面の下端には3対の円形貼付文が4単位に、計12個施される。その上方には5条の沈線が部分的に施される。存在しない破片も若干あるが、ほぼ完存する。

3も折り返し口縁の広口壺で器高31.0cm、口径16.2cmを測る。底部が突出し、胴部1・2よりさらに球形でやや下膨れした形態を呈する。口縁折り返し部の下側にはユビオサエの痕跡が明瞭に残り、断面はやや崩れた三角形を呈する。胴部下半はハケ目調整の後、横位のヘラミガキが施され、胴部上半は1・2同様に斜め方向のヘラミガキで使い分けがされている。肩部には二段の端末結節縄文が施され、上段には3つ一対の円形貼付文が5単位認められる。胴部上端は形成時に乾燥工程がおかれるものの、器形に影響は与えず明瞭な段差は存在しない。ただし、ハケ目工具の原体小口を水平方向に刺突することで、胴部と頸部の区別を明確にしている。刺突より上は縦方向のハケ目が特徴的に施されるものの部分的にナデ消される。折り返し部外面にも縄文が施され、2本一対の棒状貼付文が7単位認められるが、そのうち一箇所のみが3本になっている。口縁部内面にも屈曲する部分を境に二段の端末結節縄文が施されている。口唇部に近い側の縄文部分に3つ一対の円形貼付文が5単位認められる。完形品である。

4は広口壺の頸部から口縁部にかけての破片で、端部は折り返さない単純口縁である。胴部上端における乾燥工程後、積み上げた部分で折れたらしく、頸部から上方は完存する。外面は縦ハケ調整後、縦方向のヘラミガキ、内面は口縁部のみ横位のハケ目調整でほかはナデ調整。

5は折り返し口縁の広口壺で器高27.5cm、口径15.8cmを測る。器形は3とほぼ同じだが、肩部文様が異なる。一段の端末結節縄文の上に櫛歯状の刺突を羽状に施し、上端は、水平方向の刺突を施すことで、胴部と頸部を区分している。口縁部内面には羽状の端末結節を意識したハケ目が施される。完形品である。

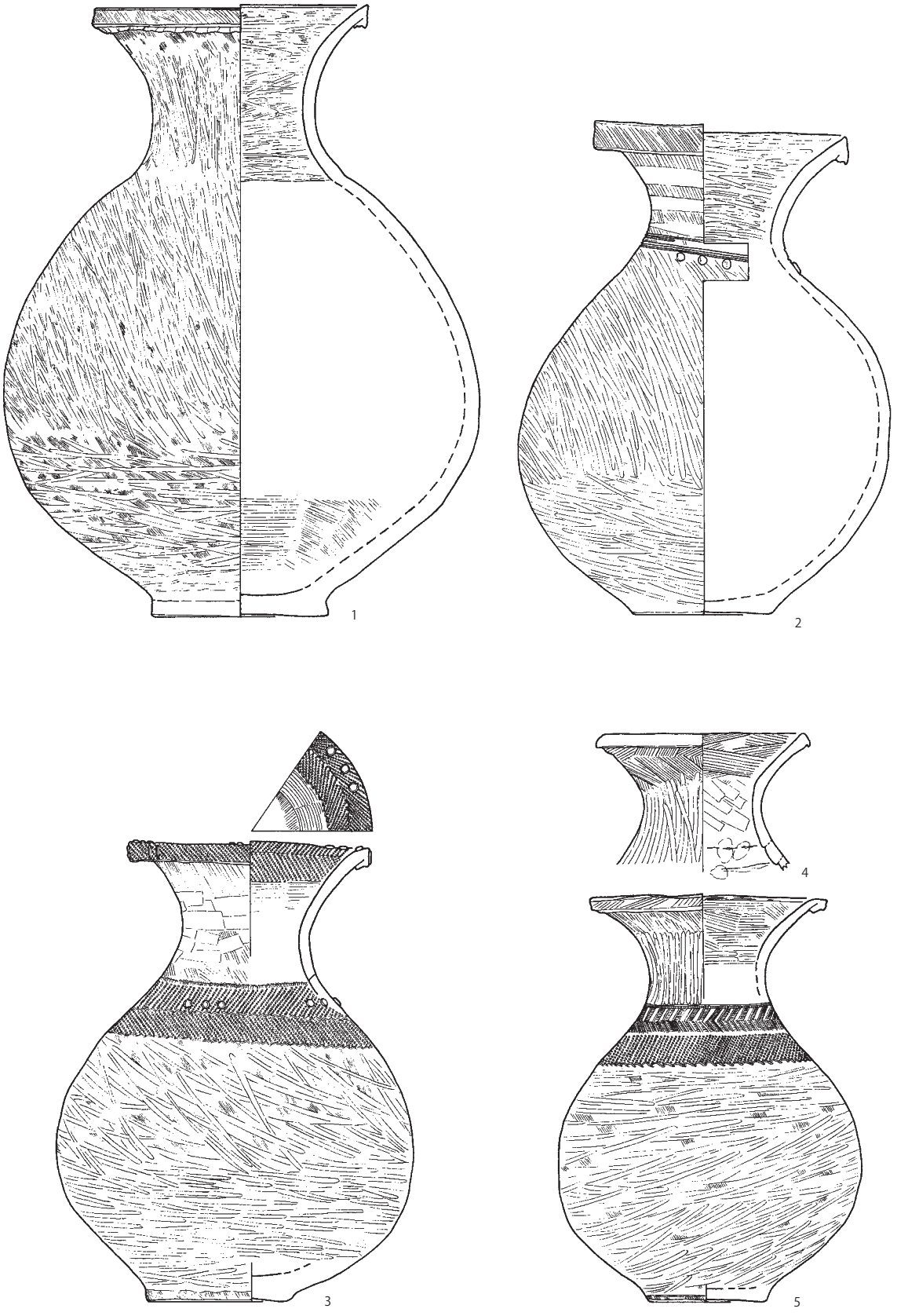
6は複合口縁の壺で、器高33.7cm、口径18.8cmを測る。胴部はやや下膨れをした球形を呈し、頸部は中ほどで屈曲し複合部に至る。胴部下半は内面ハケ目、外面横位のヘラミガキが施されている。内面に段差は認められないものの外形には明確な段が認められ、その段より上方は斜め方向のヘラミガキとなる。胴部上端（頸部下端）にも乾燥工程による段差が認められるものの外面の文様帯はそれよりもやや上方にあり、一致しない。文様は櫛歯状の刺突、水平方向の刺突が施される。複合部外面はハケ目調整、内面はヘラミガキで調整される。部分的に存在しない破片もあるが、ほぼ完存する。

7も6同様、複合口縁の壺で器高29.3cm、口径15.8cmを測る。胴下半では段差を持たない球形を呈し、胴部最大径は胴中位にもつ。頸部は屈曲せず緩やかに広がり、複合部に至る。胴部下半の乾燥工程は外形や外面調整に影響を与えないものの、胴下半の内面にのみハケ目調整が明瞭に認められる。また、胴部上端と頸部の段差も外形では明確でないものの、内面の段差や文様帯により明確に意識されている。文様は4つ一対の円形貼付文を4単位施した後、羽状に櫛歯状刺突を施す。複合部端部にはキザミや棒状の貼付文が施される。

8は口縁部がハの字に広がる単純口縁壺である。胴部・頸部ともに球形を示さず直立気味に立ち上がる。外面は入念な縦ハケ調整後、ヘラミガキが施される。内面は器面荒れのため、調整が観察できない。

9は折り返し口縁壺の破片である。折り返し部外面はハケ目調整、内面はヘラミガキ調整が施される。

10は単純口縁壺の破片である。外面はタテハケ後、



第 282 図　清水岩の上遺跡出土土器①

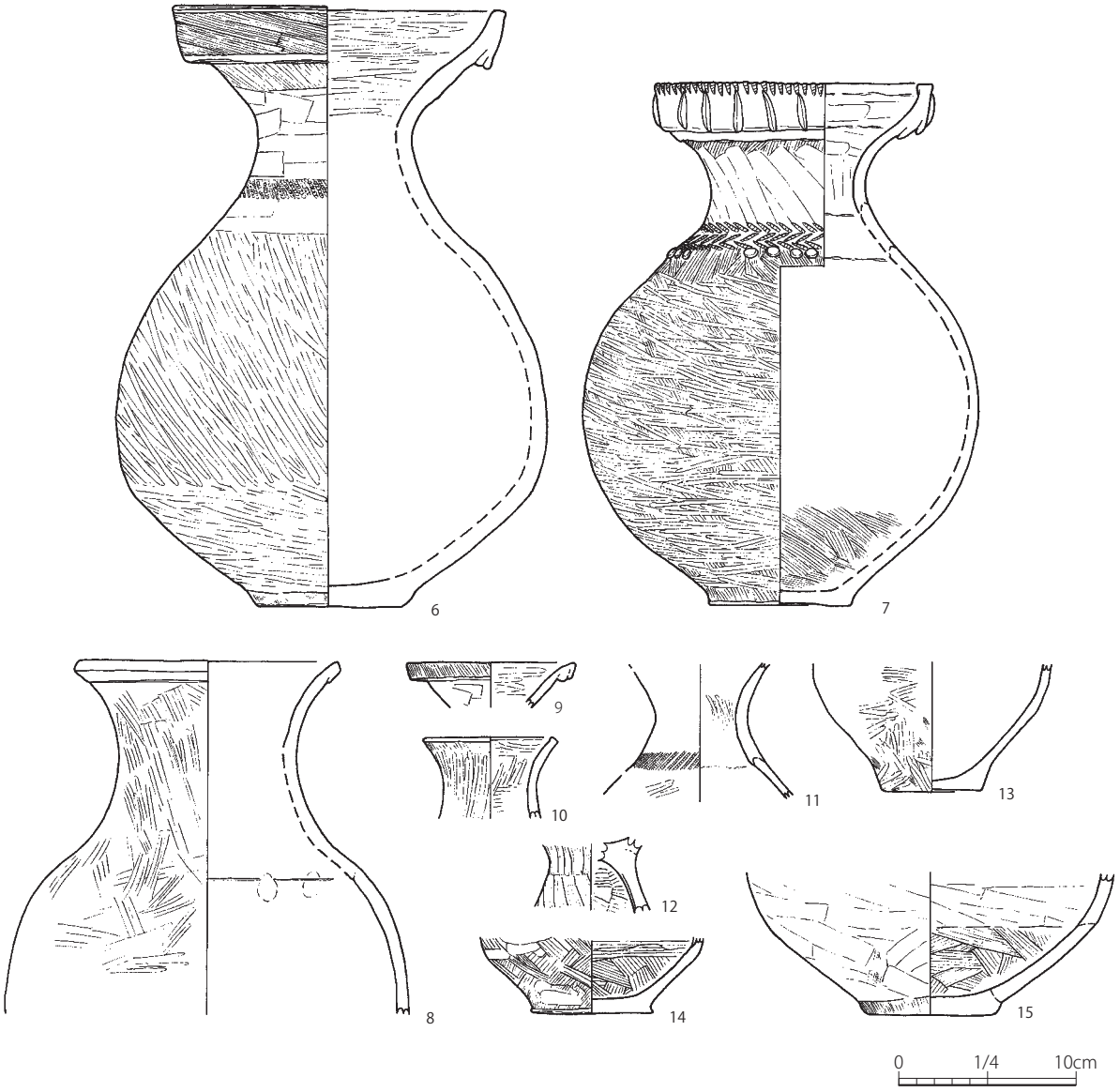
入念なヘラミガキにより調整される。

11 は壺の肩部から頸部にかけての破片である。頸部と胴部との境にハケ原体による刺突が行われる。原体の幅は 1.5cm を測る。

12 は台付甕の脚部の破片である。今回報告する中で、甕と判断される唯一の破片である。内外面共に粗いハケ目調整が施される。

13 から 15 はいずれも壺底部の破片である。13 は、外面を丁寧にヘラミガキし光沢を有し、底部は突出しない。一方、14・15 は底部が突出し、胴部下半の乾燥工程まで内面横ハケ調整が施される。14 は外面もハケ目調整が施される。

以上が、清水岩の上遺跡から出土した土器である。完形に近い壺が 6 個体も存在し、しかも出土状況から一括性が非常に高い。胴部上端と頸部との境の明瞭な段差や端末結節縄文などの装飾、頸部のハケ目調整の後の縦位のミガキ調整など菊川式の影響が強く認められる土器群である（篠原 2006）。そのなかでも壺の胴部下半が丸みを帯びることや有段羽状文が見られないこと、頸部下端にハケ状工具の刺突による横線文、羽状文など、「モミダ型」（篠原 2001）とされる特徴を有しており、東駿河のなかでもまとまって出土した好例と言えよう。「モミダ型」の文様は菊川式中段階頃に成立すると考えられ（篠原前掲）、清水岩の上遺跡の資料も弥生時代後期後半の遺物と考えられる。



第 283 図　清水岩の上遺跡出土土器②

第 284 図　清水岩の上遺跡と周辺の遺跡

3　周辺の遺跡

さて、清水岩の上遺跡の土器・遺跡を評価するために松野地区における他の弥生時代遺跡について見ていくこととする。

中野遺跡　富士川に向かって張り出した溶岩地の上に立地する。昭和 57 年、大規模な宅地造成工事により 24,400㎡が発掘された。遺跡の一部分のみが調査されただけだが、弥生時代後期の竪穴建物跡が 30 軒近く見つかっている。また方形周溝墓も３基以上検出されている。

中野沖田遺跡　中野遺跡が立地する中野溶岩台地の南側の低地部に所在する。弥生時代後期から古墳時代前期の土器が見つかっているが、明確な遺構がないことからかつての有無瀬川の氾濫により、周囲から土器が流れ込み堆積した可能性も指摘されている（稲垣 1990）。

松永遺跡　中野沖田遺跡の南方の丘陵裾部に所在する。かつて幼稚園建設後の調査により、弥生時代終末期（庄内式期）の壺１、甕１が見つかっているが遺跡の広がりは明らかでない。

半在家遺跡　富士川に面する河岸段丘上に立地する。昭和 60 年、道路建設により発見され、竪穴建物跡 13 軒、方形周溝墓、土坑墓、溝状遺構などが発見されている。竪穴建物跡は円形のものから隅丸方形のものまでさまざまな形態を示すが、出土遺物は弥生時代後期に限定される。方形周溝墓は２辺が検出されているのみで、溝状遺構からは相当量の土器が発見されている。

丸崎遺跡　松野地区の南端の血流川の下流左岸に位置する。道路建設の際に調査され、竪穴建物跡５軒と溝状遺構が検出されている。竪穴建物跡からの土器の出土が少なく時期の決定が難しい。一方、全長 15 m以上、幅２m以上、深さ１m前後とされる溝状遺構からは、多量の土器が出土している。弥生時代後期から古墳時代前期中頃までの時間幅が認められることや、出土位置が溝底面から下層という点は、環濠というよりは自然流路に多量の土器が廃棄されたと考えることが出来る。甕などの中には、北陸北東部系とも考えられるものも出土している。

4　松野地区における弥生文化の流入と展開

松野地区は東に富士川を望み、西側の岩淵丘陵地との間に挟まれた緩やかな地形上に前述のような弥生時代後期の遺跡が立地している。この盆地のように閉鎖された空間が、弥生時代後期にどのように存在していたのか再度確認していくこととする。

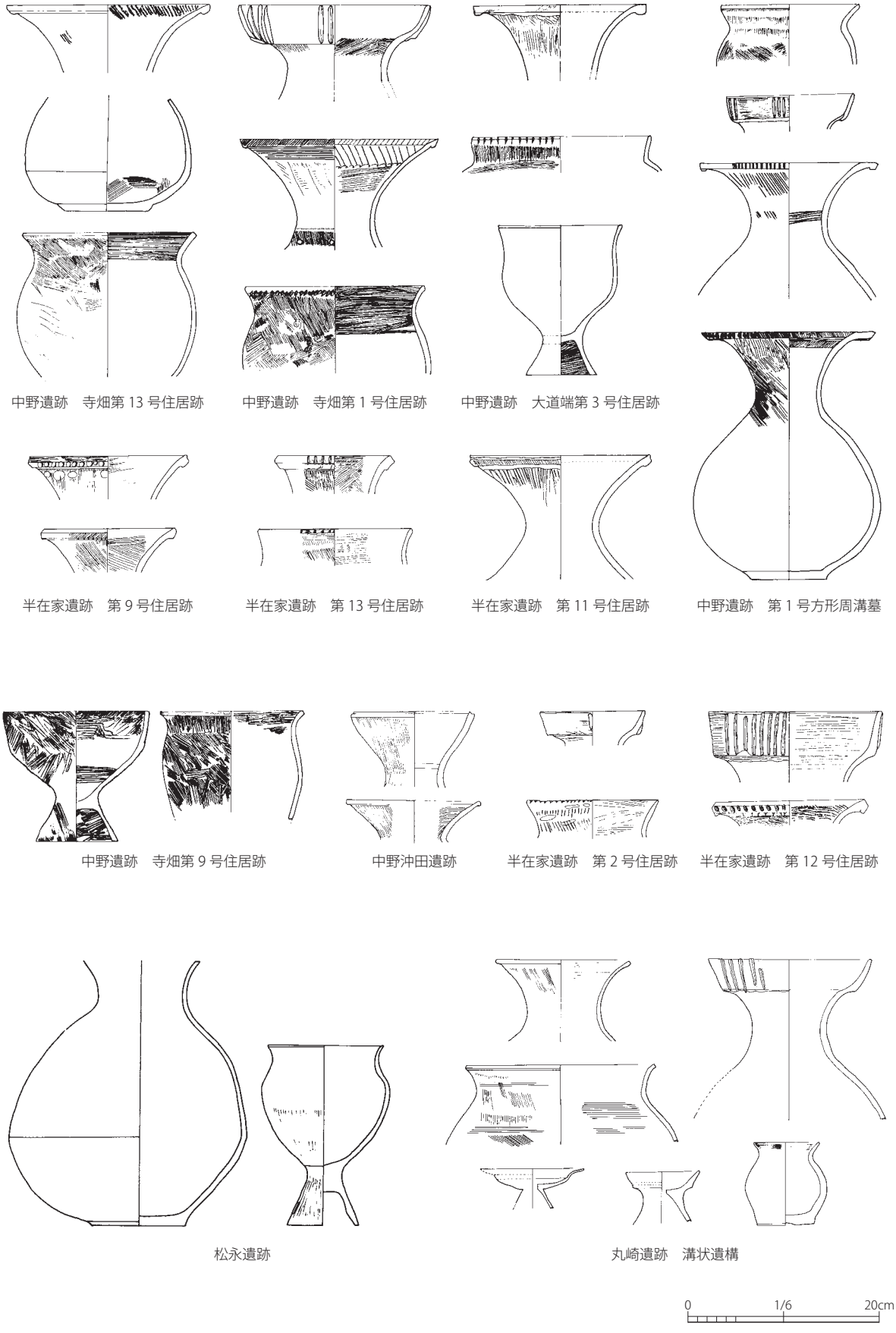
これまで松野地区の弥生時代の様相については、あまり注目されてこなかった。一方、富士山西麓では星山丘陵に位置する月の輪遺跡群が有名である。しかし、地図上で見てみると松野地区と月の輪遺跡群は富士川を挟んで、谷を遡ると比較的近い空間的関係にある。月の輪遺跡群の調査が大規模でしかも面的に行われ、検討が加えられている一方で、松野地区の遺跡は道路建設という幅の狭い範囲での調査のため、これまであまり注目されてこなかったとも言える。

松野地区への菊川系土器がどのような経路で伝わってきたのかを考えると地形的には３つのルートが想定される。１つめは太平洋から蒲原を経由し、現在の富士川沿いで松野に入るルート。２つめは由比から由比川を遡り山中に入り松野に入るルート。３つめは興津から旧芝川町内房へ抜け富士川沿いに南下するルートである。この興津から内房へ抜けるルートは現在、国道 52 号線として整備されておりほぼ全線を富士川に沿いながら山梨県甲府まで行くことが出来る。この３つのルートのどれが松野への菊川式北上ルートにあたるのか、それぞれのルートの太平洋側における出発地である蒲原、由比、興津ともに発掘調査例に乏しく断定できない。また、それぞれのルートすべてが弥生時代後期に存在し、それぞれのルートの結節点として松野の地を考えることも出来る。

一方、駿河（松野）から北上し甲府へ行くルートは、河内路という前述の富士川沿いルートだけではなく右左口路（中道）、若彦路、御坂路などが想定される。

河内路は前述の３つの蒲原、由比、興津のいずれからか富士川へ入り、万沢、南部、下山を経て甲府に入る。右左口路（中道）は現在の富士宮市大宮から根原、本栖湖東岸、右左口峠を経て甲府。若彦路は大宮、上井出までは右左口路と同じで途中から分かれて河口湖と西湖の中間あたりを通って竹居、八代を経て甲府へ至る。最後に御坂路は、松野から甲府に行くルートとしては想定できないが、沼津、御殿場、須走、籠坂峠、山中湖の横、御坂峠を経て甲府へ至るルートである。

このうち、右左口路と若彦路は駿河では同じルートを想定し、太平洋沿岸から富士宮の大宮へ入るには現在の



第 285 図　周辺遺跡出土土器

第 286 図　駿河から甲府へ至る道

松野から月の輪遺跡群を経て大宮へ入る経路が考えられる。菊川式が北上し、甲府へ抜ける際に河内路、右左口路（中道）のいずれのルートを通ろうとも松野が路の結節点になっていた可能性を想定しておきたい。

現在、甲府と太平洋側を繋ぐルート上には、弥生時代の遺跡は点的にしか確認されておらず詳細な路は分からない。しかし、古墳時代前期に甲府盆地南部の曽根丘陵の一角に展開する古墳群、特に甲斐銚子塚古墳や近年、前期古墳であることが確認された天神山古墳の存在（平塚 2014）など古墳の視認性を意識した古墳の存在から、右左口路が古墳時代前期には主要な路として整備されていた可能性が高い。そうであるなら、河内路と右左口路（中道）の両方に行くことが出来る松野地区に弥生時代後期の集落が展開していたことはなんら不思議なことでない。

おわりに

本論では、清水岩の上遺跡の土器を紹介し、松野地区における弥生時代後期の様相について概観してきた。それぞれの遺跡は点的な調査のみでそれらを構造的に捉えるところまで至っていない。しかし、本来は異なる性格を有しながら、それぞれの遺跡が有機的につながりながら、太平洋沿岸と甲斐との重要な中継地としての役割を担っていたと考えられる。今後は、甲斐における菊川系の状況を確認し、弥生時代の交流の姿をさらに浮かび上がらせていくこととしたい。

参考文献

海老沼真治 2008「古代・中世甲斐国交通関係文献史料の概要」『古代の交易と道』山梨県立博物館

稲垣甲子男 1990「考察」『丸崎遺跡』富士川町教育委員会

篠原和大 2001「駿河地域の後期弥生土器と土器の移動（補遺）」『弥生後期のヒトの移動』西相模考古学研究会

篠原和大 2006「登呂式土器と雌鹿塚式土器－駿河湾周辺地域における弥生時代後期の地域色に関する予察－」『静岡県考古学研究』No.38　静岡県考古学会

平塚洋一 2014「最新の研究成果－天神山古墳－」『古代東国と畿内王権－甲斐中道古墳群の検討から－』（資料集）山梨県立考古博物館

第２節　中村上第１号墳出土の須恵器

中村上第１号墳について

中村上第１号墳は、平成 18 年度、市立伝法小学校校舎改築事業に伴って実施された、東平遺跡第 15 地区４次調査において新たに発見された古墳である。

検出時には墳丘盛土は完全に失われていたが、内部主体である横穴式石室の側壁基底部と床面礫敷、および墓坑が残存していた。残存部から求められる石室の規模は、東壁長 4.60m、西壁長 4.76m、中央部幅 1.34m を測る。

遺物は、床面礫敷直上から、須恵器提瓶（第 288 図）、鉄鏃３点（第 287 図－２～４）が出土し、他に覆土中などから須恵器フラスコ形長頸瓶（第 287 図－１）、鉄製刀子（第 287 図－５～７）、銅製耳環（第 287 図－８）が出土している。

中村上第１号墳の築造時期は、須恵器提瓶と複合的な口縁部を有するフラスコ形長頸瓶がともに出土していることと鉄鏃の形式などから、７世紀前葉から中葉ごろと考えられている。

中村上第１号墳出土の須恵器提瓶

発掘調査終了後、保管場所の混乱により所在不明となり、本報告の際に未報告となっていた須恵器提瓶（第 288 図）について、ここで報告する。

出土場所は、石室床面の礫敷直上、西壁際の開口部寄りである（第 289 図）。

扁平な体部の一側面に口頸部を接合した提瓶で吊り手はもたない。

体部の平坦な面を下にして、ロクロ回転で成形し、丸みをもつ側に直径３㎝の粘土円板で栓をしている様子が内側から観察される。

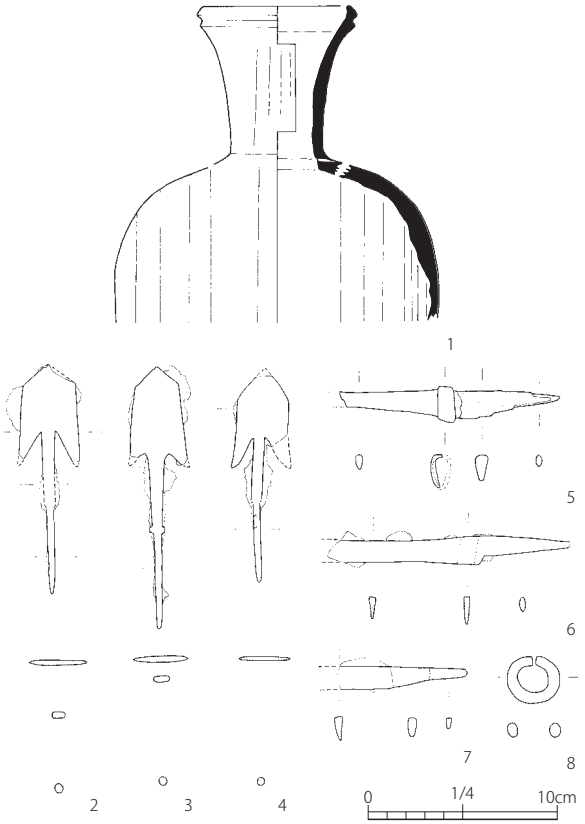
口縁部は直口し、別作りにしたものを体部に接合している。

頸部に波状文が認められるが、部分的に施されるのみである。また、波状文の横に「十」字の沈線が認められる。

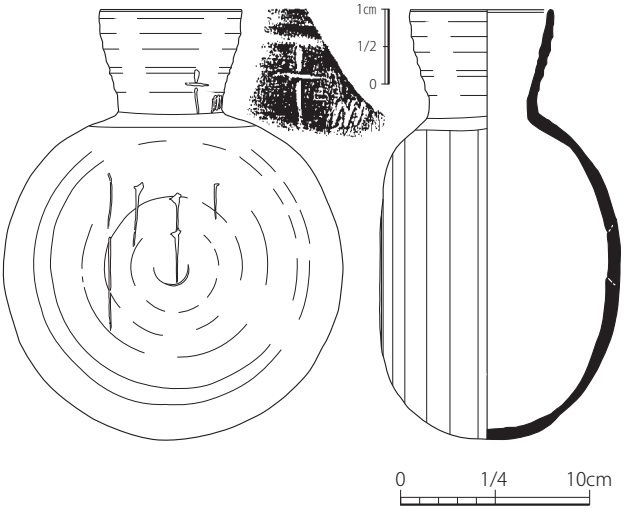
体部は直径 17.9㎝、器高 22.7㎝を測る。

参考文献

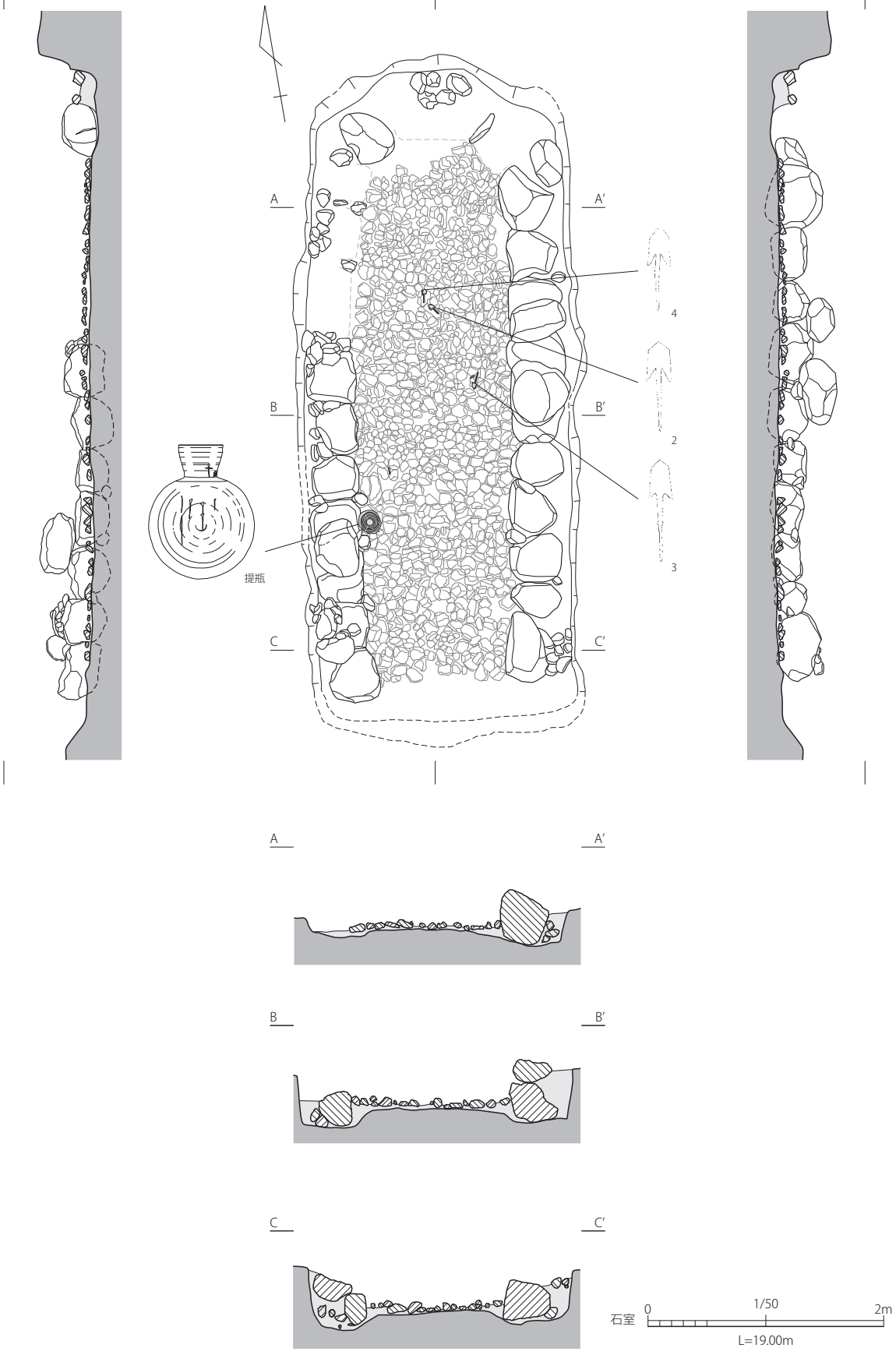
富士市教育委員会 2010『東平遺跡　第 15 地区』



第 287 図　中村上第１号墳　出土遺物



第 288 図　中村上第１号墳出土　須恵器提瓶



第 289 図　中村上第 1 号墳　石室床面遺物出土状況図

写 真 図 版

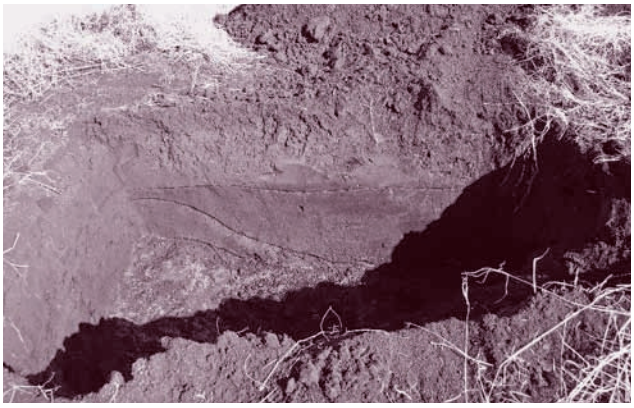
PLATE

【写真図版表紙】　二タ子塚第２号墳（石坂２古墳群）の調査風景

　二タ子塚第２号墳の周辺は宅地化が進み、本墳の墳丘も周囲を大きく削られ、残存する墳丘高は 2.65m である。
　調査により、主体部である横穴式石室は全長 9.5m を測ることが確認され、石室長および墳丘の残存状況から、本墳は径 16m ほどの円墳であったと推定できる。

天間沢遺跡　第 33 地区

1．調査地全景（南から）



2．3Tr 北壁セクション

天間沢遺跡　第 34 地区

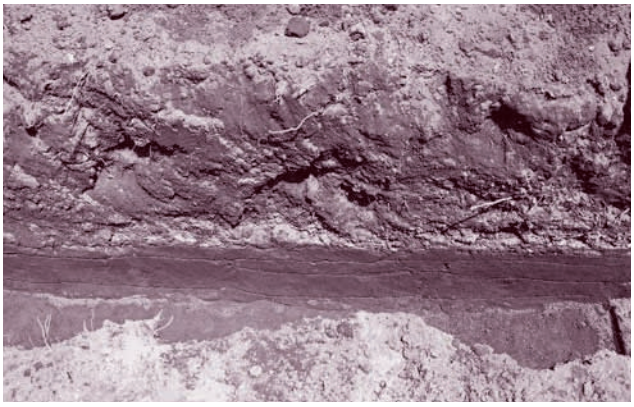
1．調査地全景（北東から）

2．1・2Tr 完掘（西から）

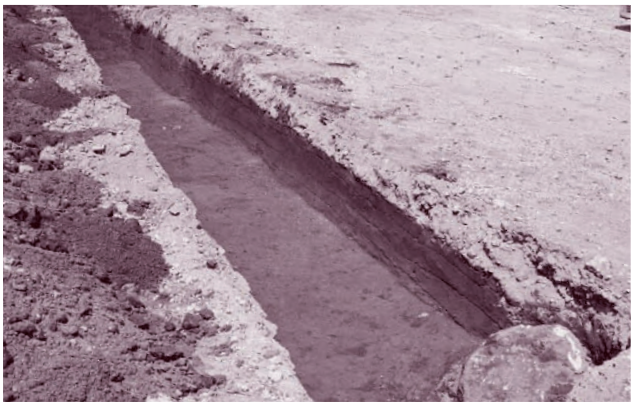
3．4Tr 完掘（南から）

4．5Tr 完掘（南東から）

天間沢遺跡　第 35 地区



1．1Tr 北壁セクション



2．2Tr 完掘（南東から）

PL.2

天間沢遺跡　第 36 地区

1．2Tr 完掘（南東から）

2．2Tr 北壁セクション

3．4Tr 完掘（南東から）

4．6Tr 完掘（北西から）

天間沢遺跡　第 38 地区

1．調査地全景（東から）

2．1Tr 北壁セクション

3．2Tr 完掘（南東から）

天間沢遺跡　第 37 地区

1．1Tr 完掘（西から）

2．2Tr 完掘（南から）

3．2TrSB01 検出（北から）

4．2TrSB01 セクション（南から）

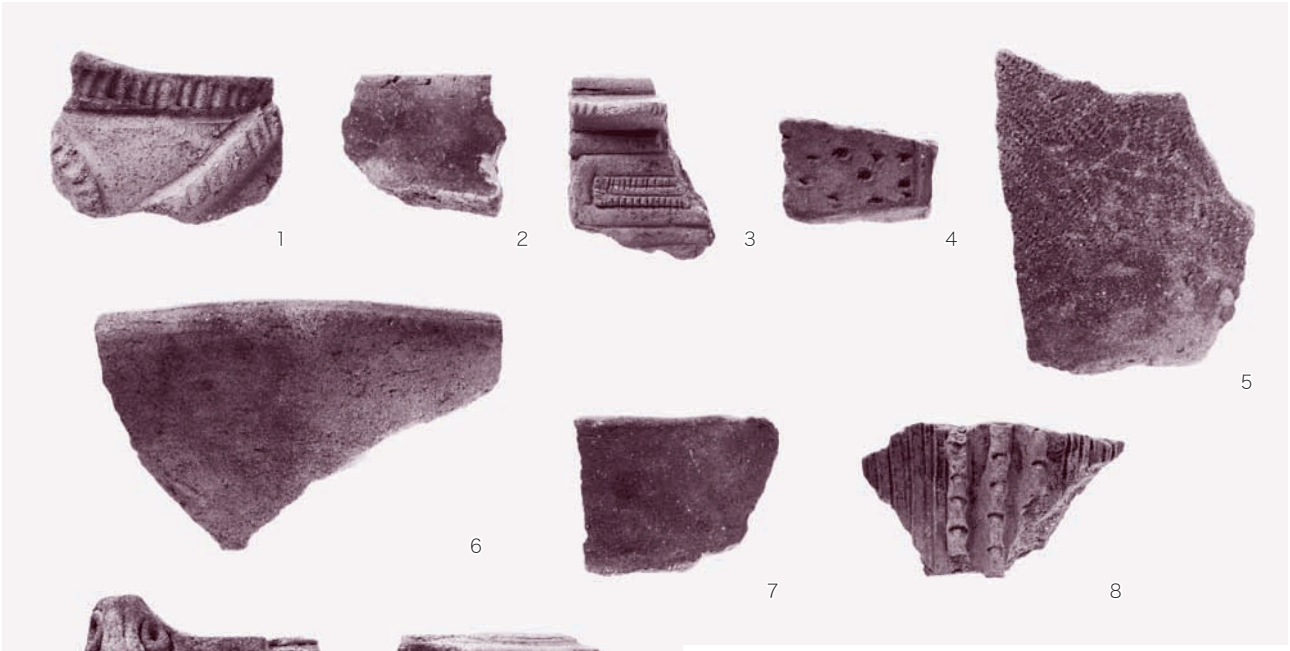
5．1Tr 遺物出土状況

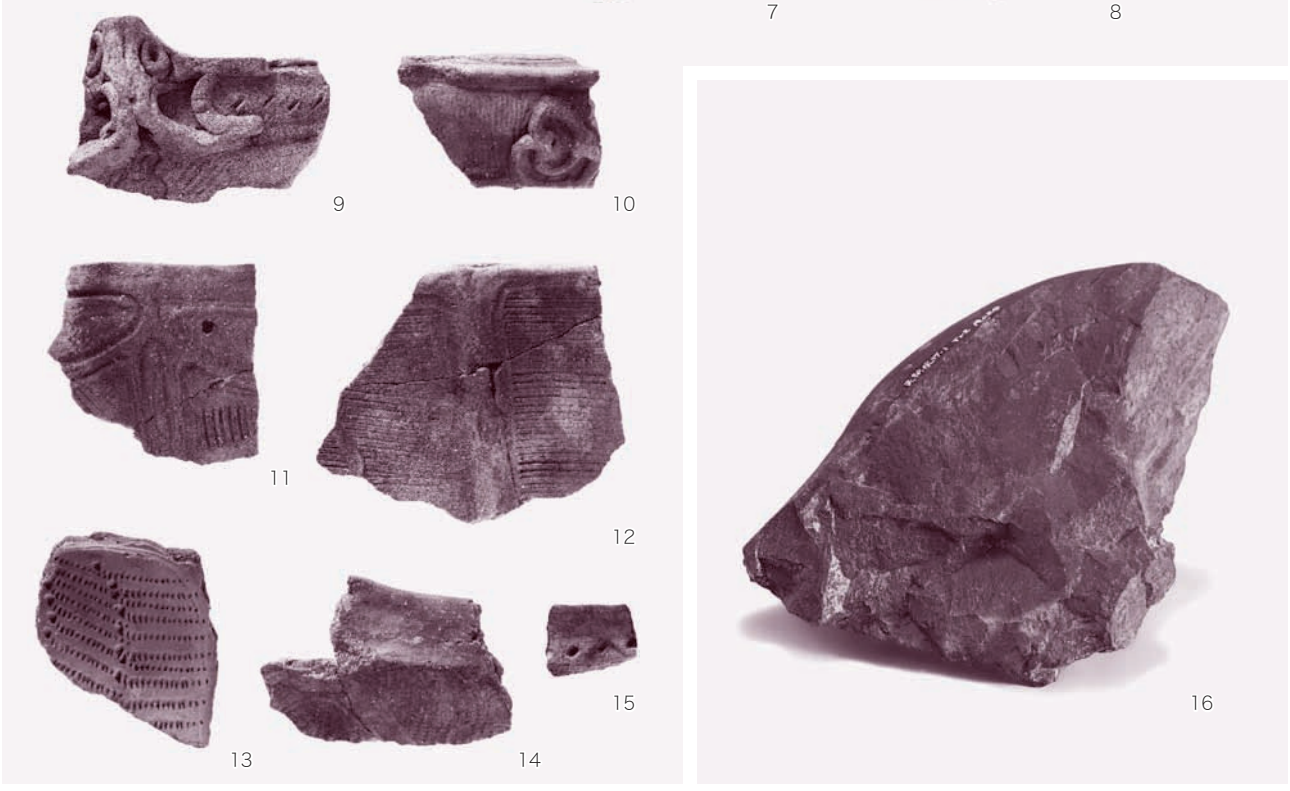
PL.4

天間沢遺跡　第 37 地区

6. 2Tr 東壁セクション南端

7. 3Tr 完掘（南東から）





出土遺物

天間沢遺跡　第 39 地区

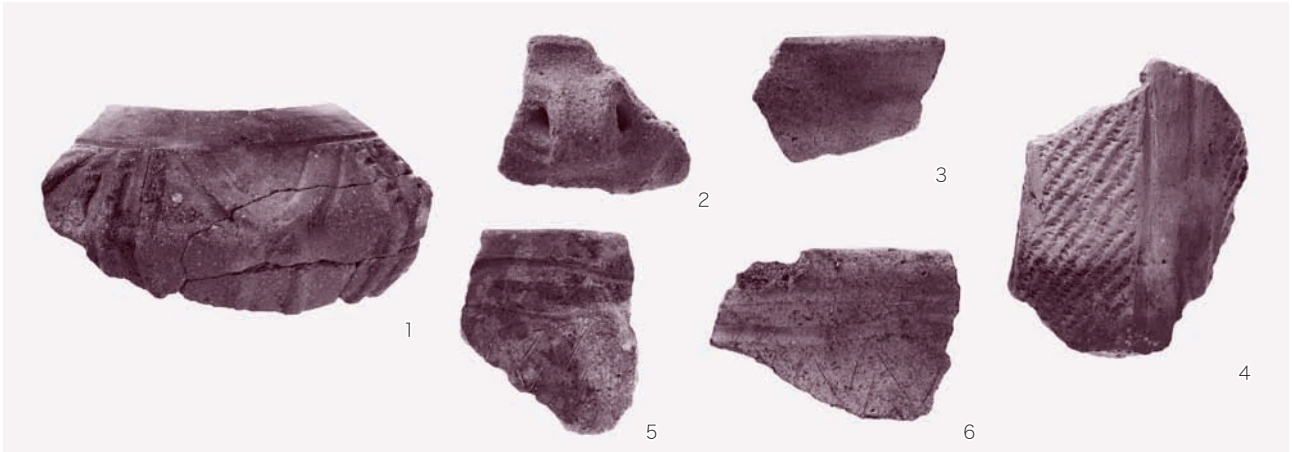
1．調査地全景（東から）

3．1TrSK01・SK02 検出（西から）

2．1Tr 完掘（東から）

4．2Tr 完掘（南東から）

5．2Tr 北壁セクション西端



出土遺物

PL.6

石坂２古墳群　第２地区

1．ニタ子塚第２号墳調査前全景（南から）

石坂２古墳群　第２地区

2．二タ子塚第２号墳墳頂（南から）

3．二タ子塚第２号墳石室奥壁残存状況（北から）

PL.8

石坂２古墳群　第２地区

4. トレンチ完掘全景（南から）

石坂２古墳群　第２地区

5. 1Tr 完掘（南から）

6. 1Tr 東壁セクション（西から）

PL.10

石坂２古墳群　第２地区

7．1Tr 北壁セクション（南から）

8．2Tr 完掘（南東から）

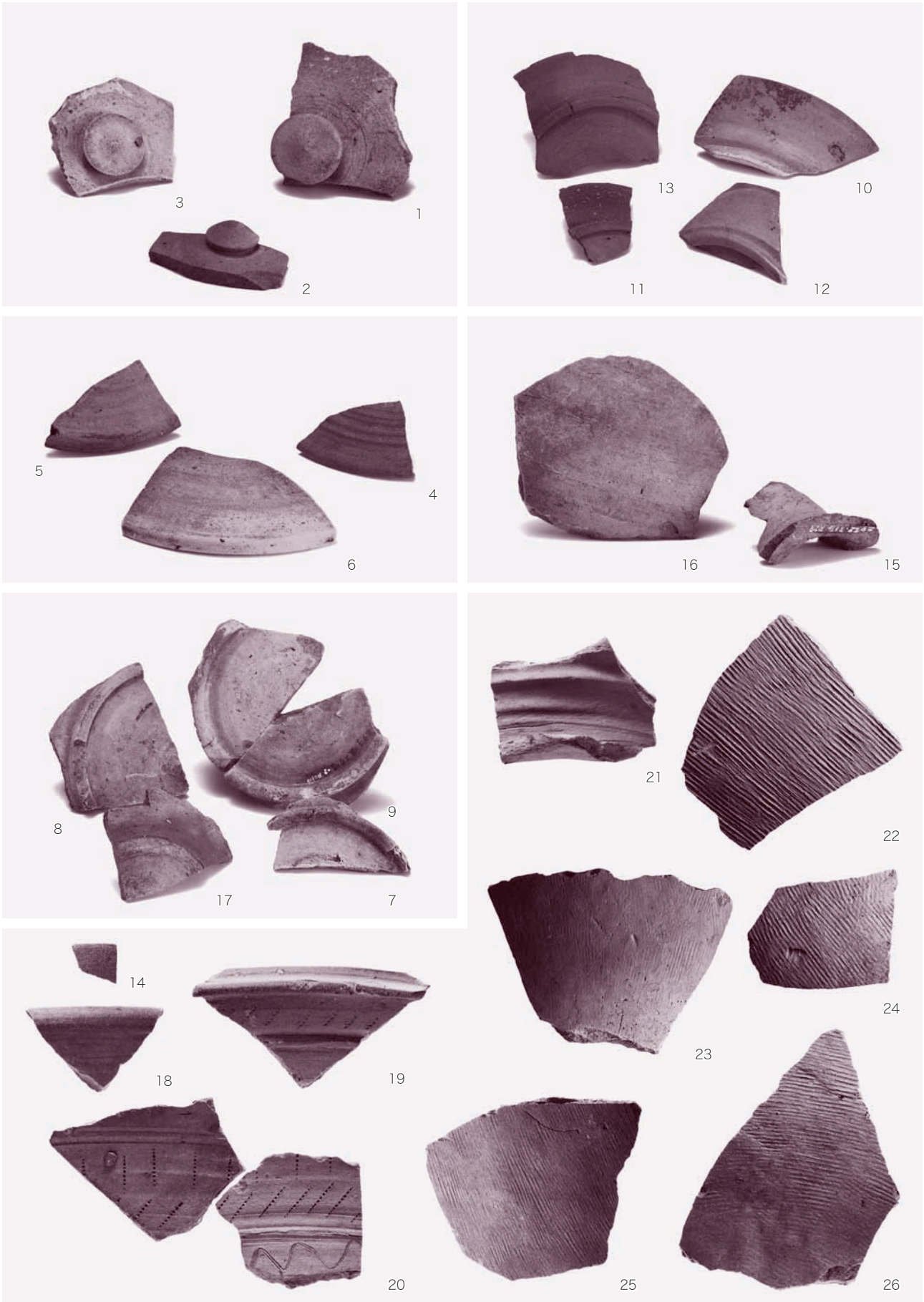
石坂２古墳群　第２地区

9．2Tr 西壁セクション（南東から）

10．3Tr 完掘（南西から）

PL.12

石坂２古墳群　第２地区



出土遺物

石坂２古墳群　第４地区

1．調査前　二タ子塚第１号墳現況（西から）

2．1Tr 完掘（西から）

3．1Tr 北壁（南西から）

4．1Tr 東端（西から）

5．2Tr 完掘（南西から）

6．3Tr 完掘（北から）

7．5Tr 完掘（北東から）

PL.14

コーカン畑遺跡　第２地区

1．調査地全景（南から）

コーカン畑遺跡　第２地区

2．SB01・SB05（北から）

3．SB01 カマド（北から）

4．Ⅰ区西側全景（北東から）

5．Ⅰ区 SD02（東から）

PL.16

コーカン畑遺跡　第２地区

6．SB02（南から）

7．SB02 カマド（南から）

8．SB02-Pit02（南西から）

9．SB02・SB06（南西から）

コーカン畑遺跡　第２地区

10．SB03（南から）

11．SB03 カマド（南から）

12．SB03（西から）

13．SB03 カマド（南から）

14．SB03 カマド（北東から）

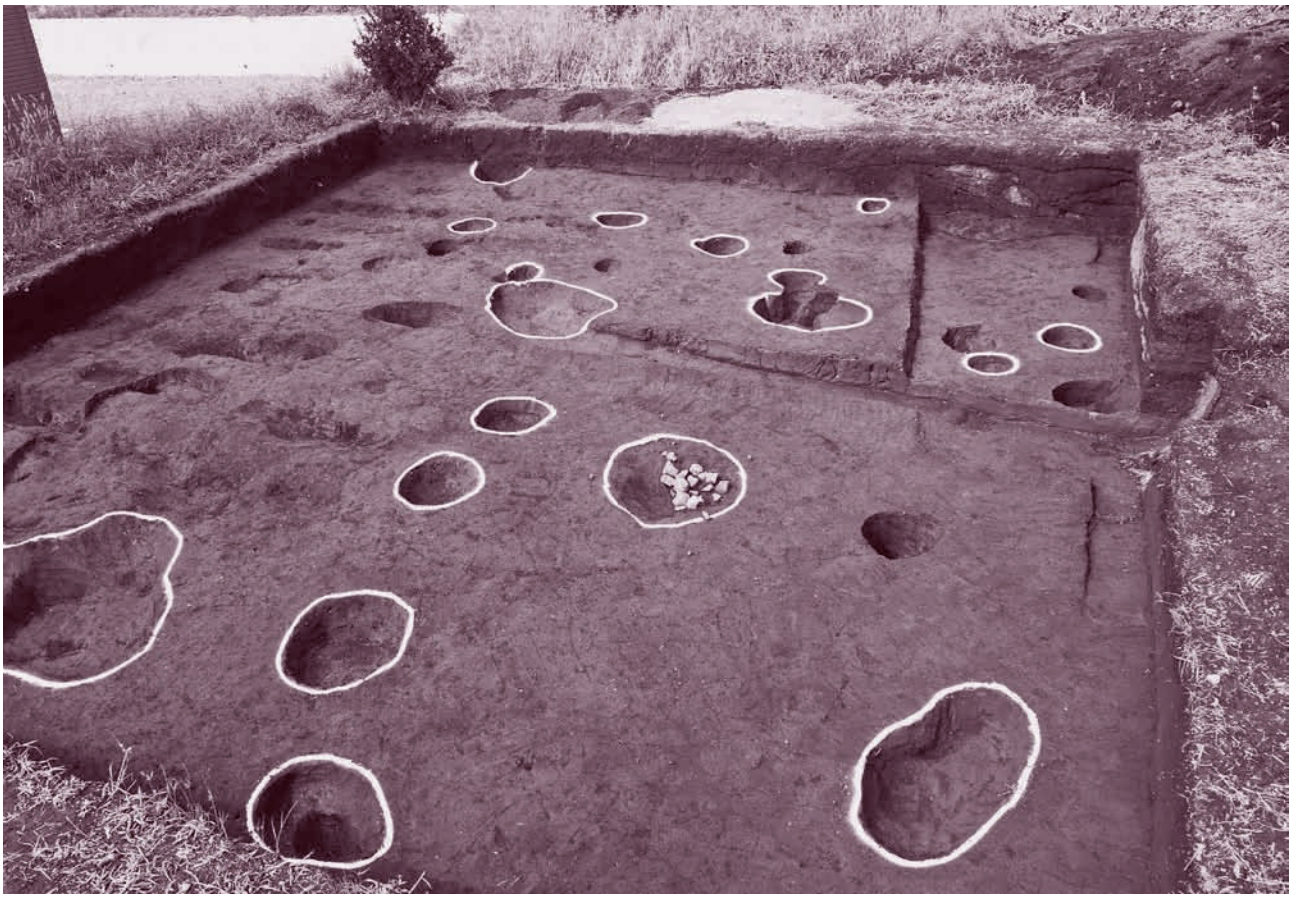
15．SB03 カマド（南から）

PL.18

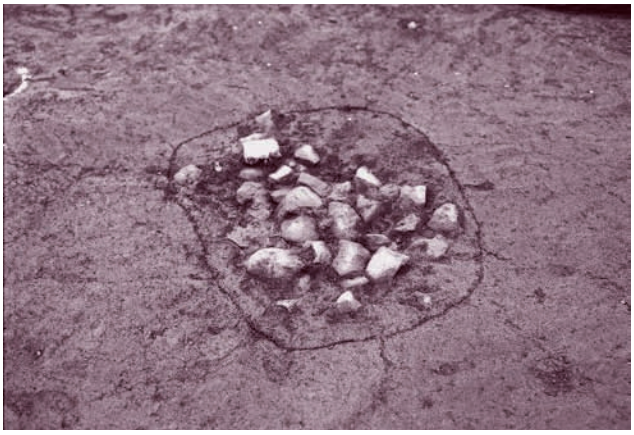
コーカン畑遺跡　第２地区

16．SB04（南西から）

17．SB04 カマド（西から）



18．Ⅱ区第２面全景（南から）



19．SS01（南から）

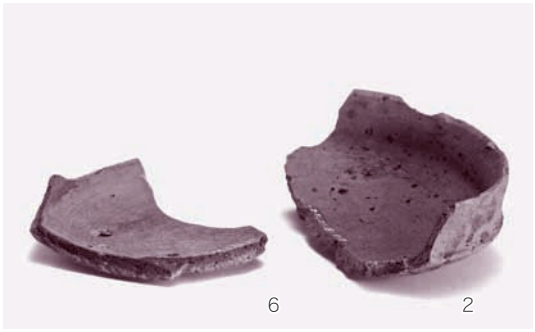
20．SS01（南から）

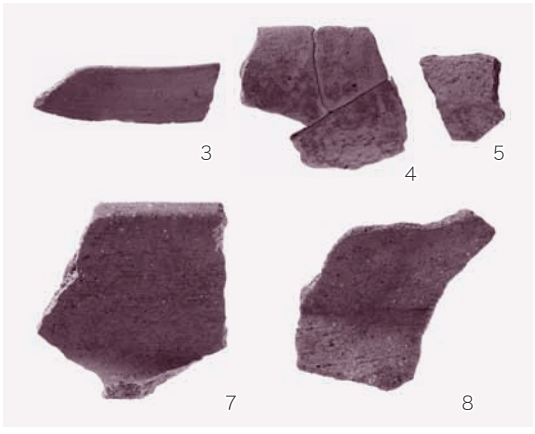
コーカン畑遺跡　第２地区

出土遺物集合

PL.20

コーカン畑遺跡　第２地区

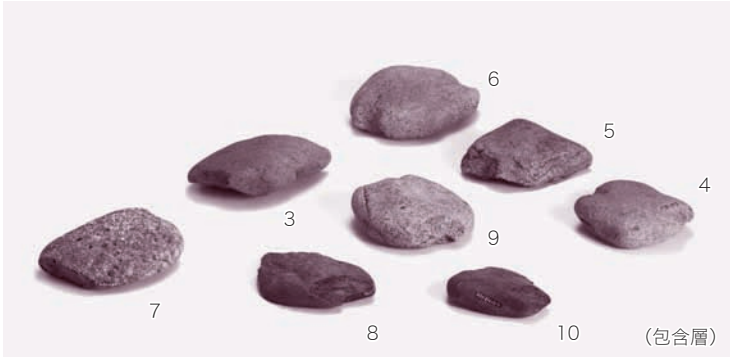




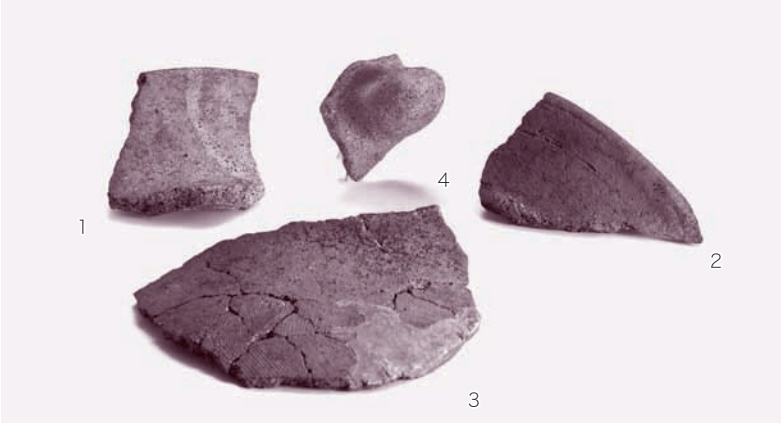
SB02 出土土器

SB01 出土土器

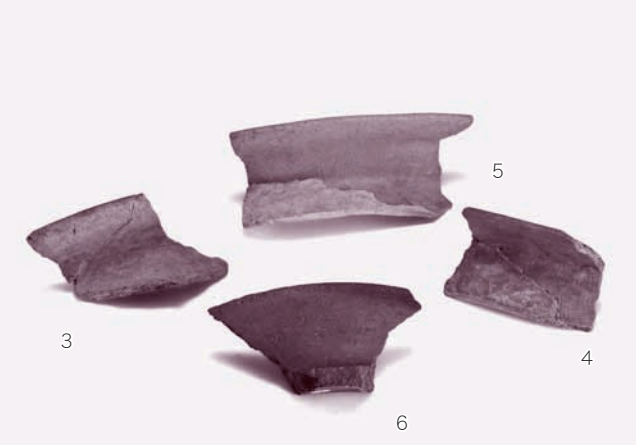
SD02 出土土器

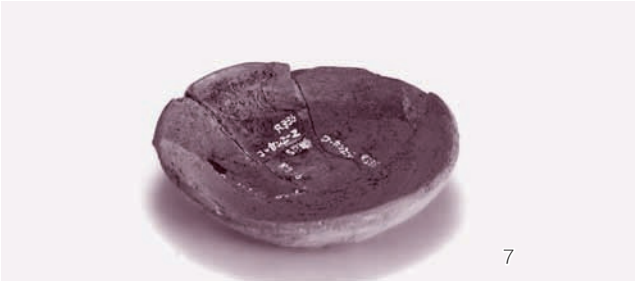


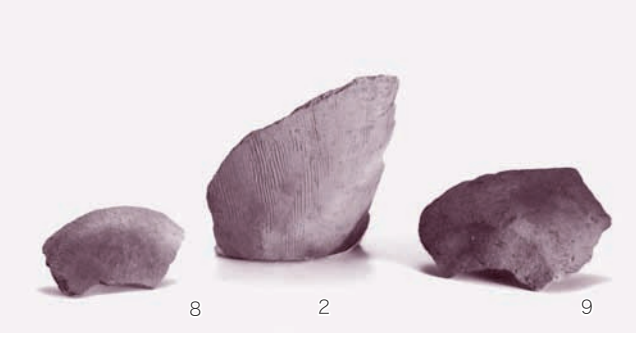
石製品



SB03 出土土器



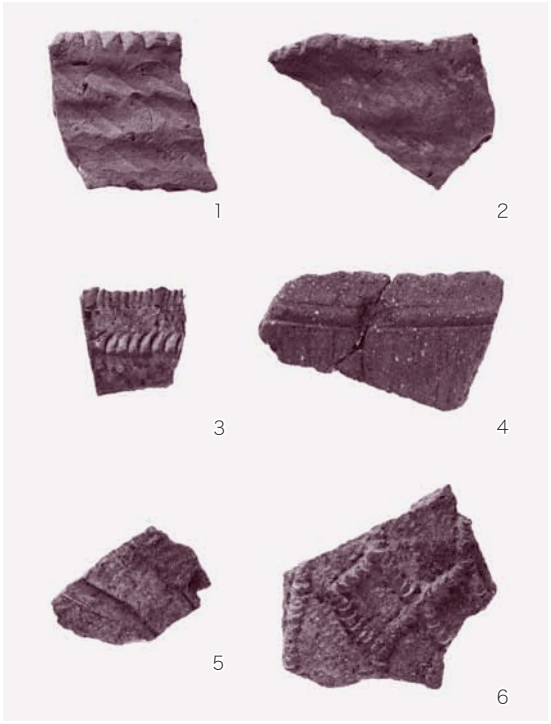




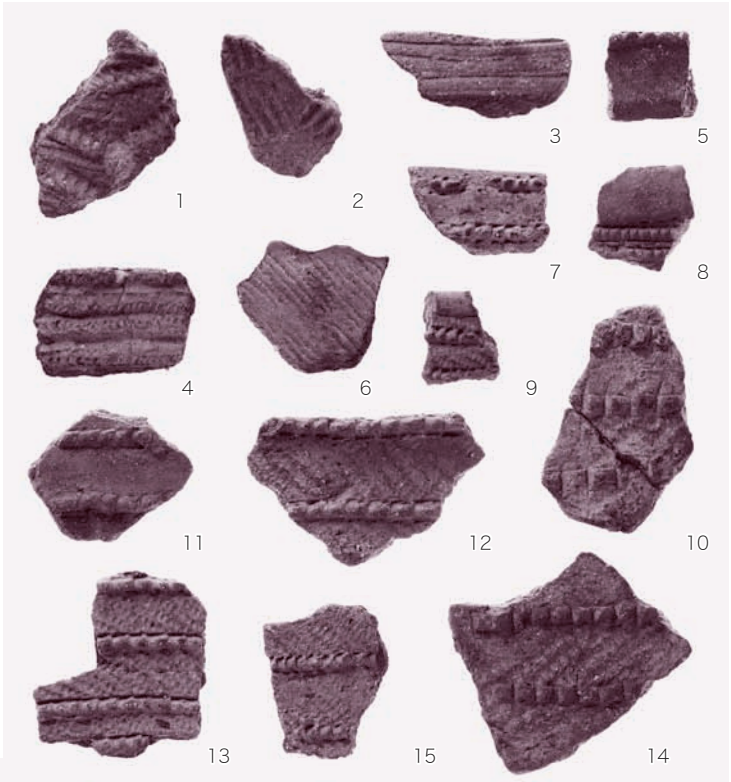
SB04 出土土器

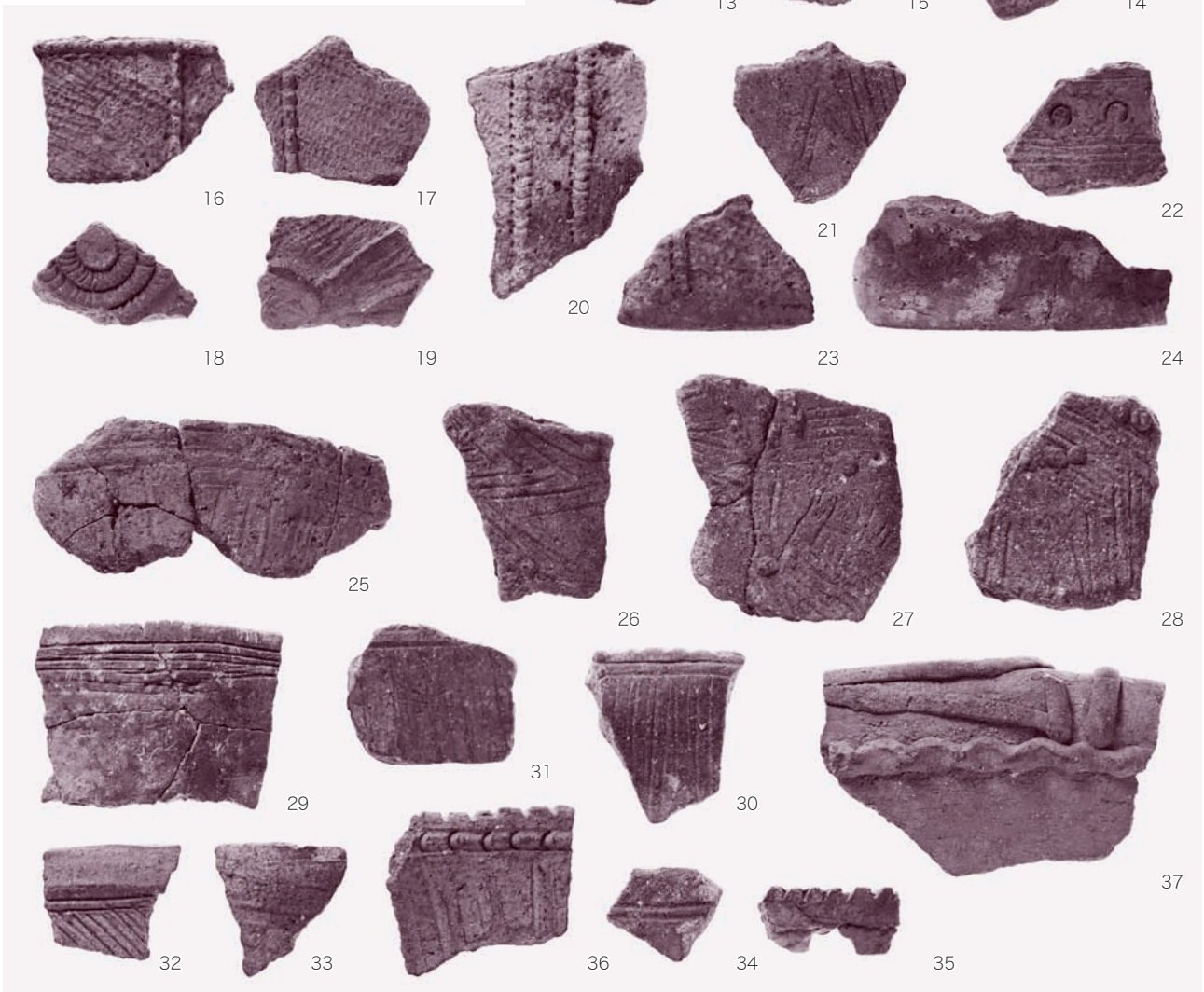
PL.22

コーカン畑遺跡　第２地区



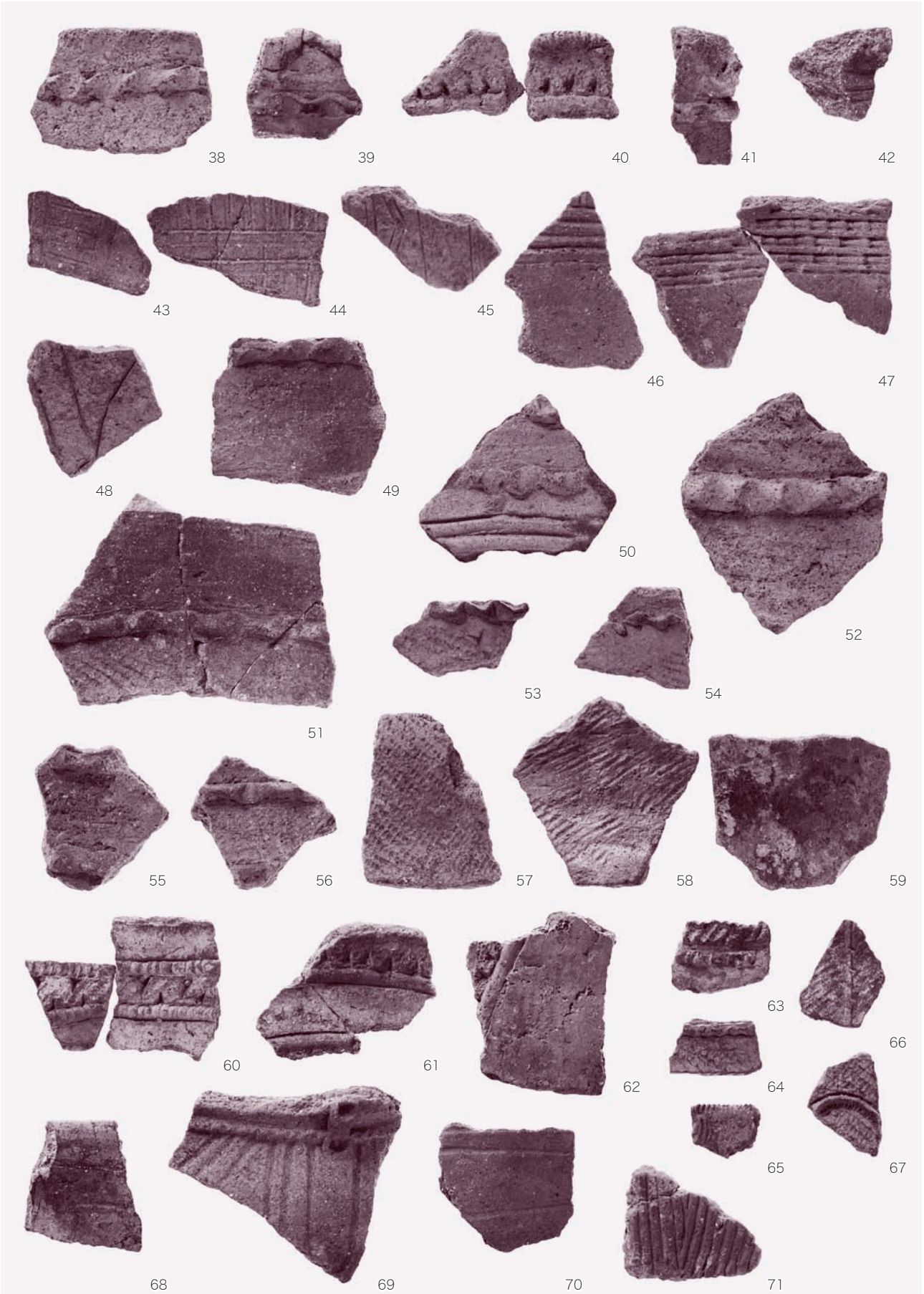
縄文土器（遺構出土）





縄文土器（遺構外出土）

コーカン畑遺跡　第２地区



縄文土器（遺構外出土）

PL.24

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

1．調査地全景（南西から）

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

2．調査地全景（南から）

3．SB01 完掘（南から）

PL.26

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

4. SB02 カマド遺物検出（西から）

5. SB02 カマド遺物検出（南から）

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

6. SB02 全景（南から）

7. SB03 全景（西から）

PL.28

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

8．SB03 カマド遺物検出（北から）

9．SB03 カマド完掘（西から）

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

10．SB04 完掘（東から）

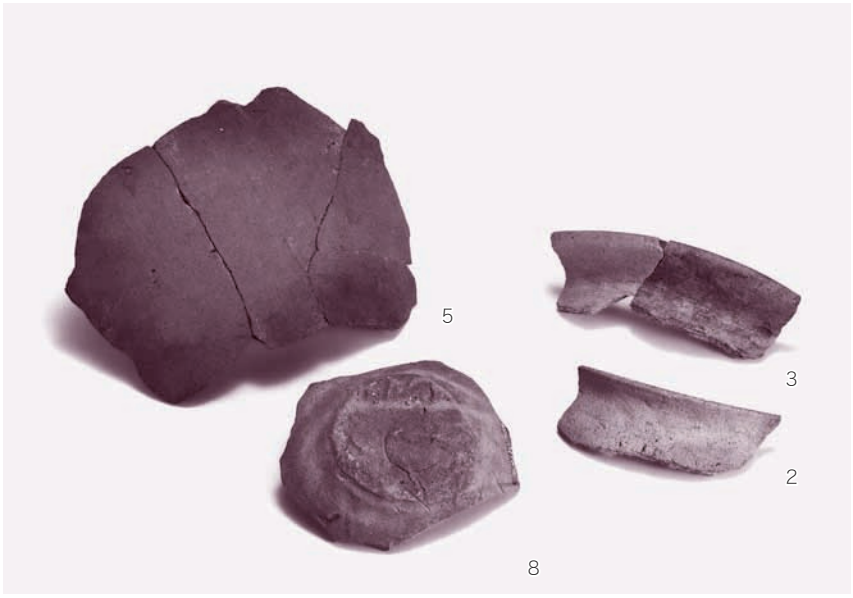
11．SB04 カマド完掘（南から）

PL.30

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

出土遺物集合

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区

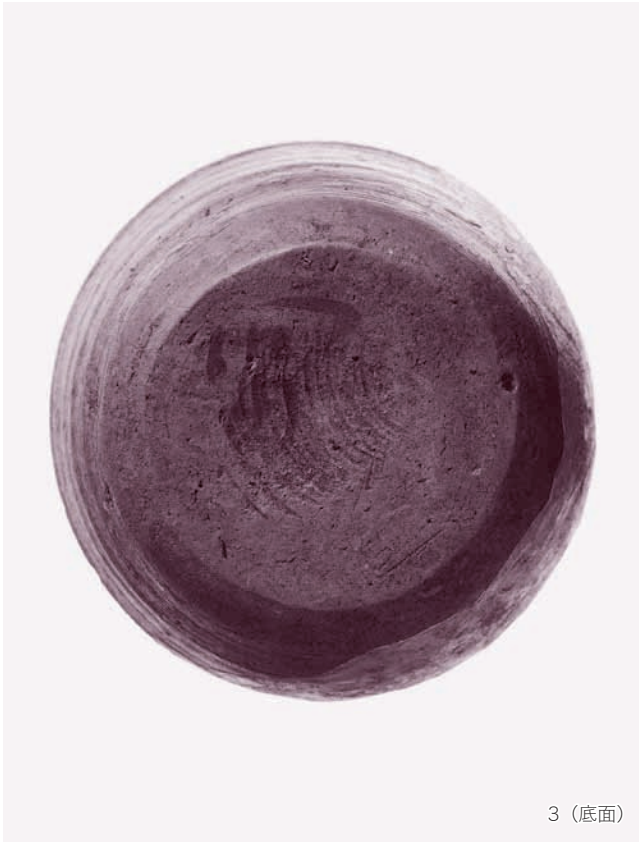


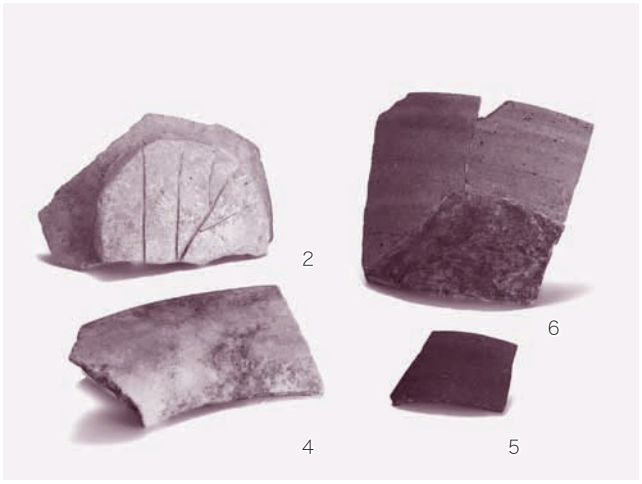
SX01 出土遺物

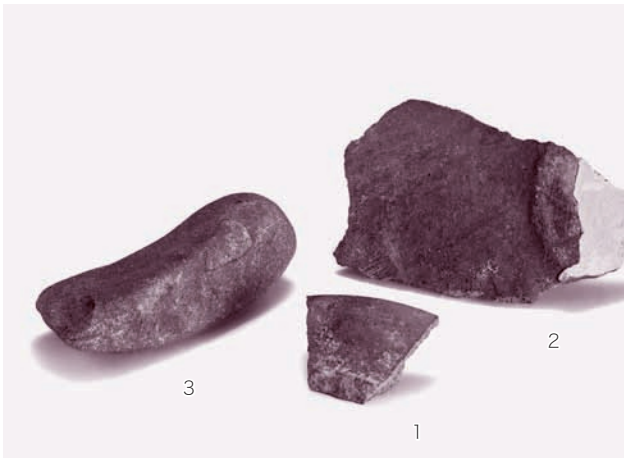
SB02 出土遺物

PL.32

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区



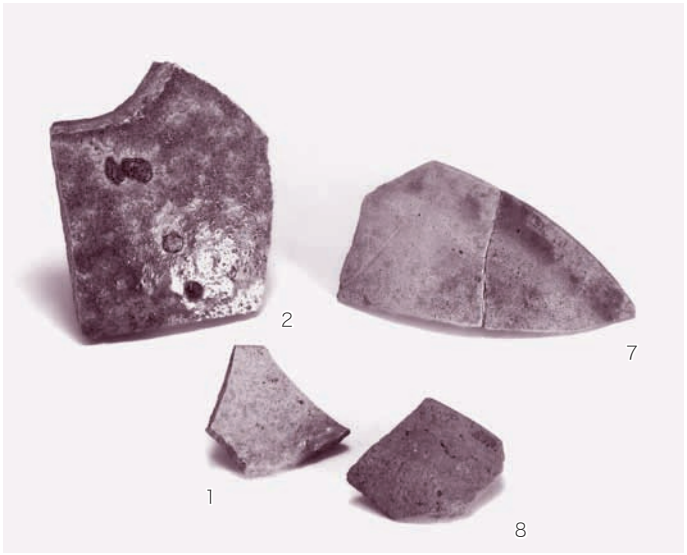


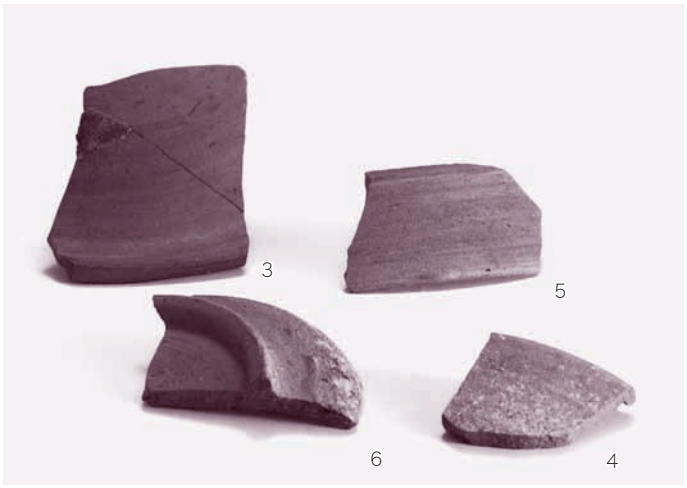


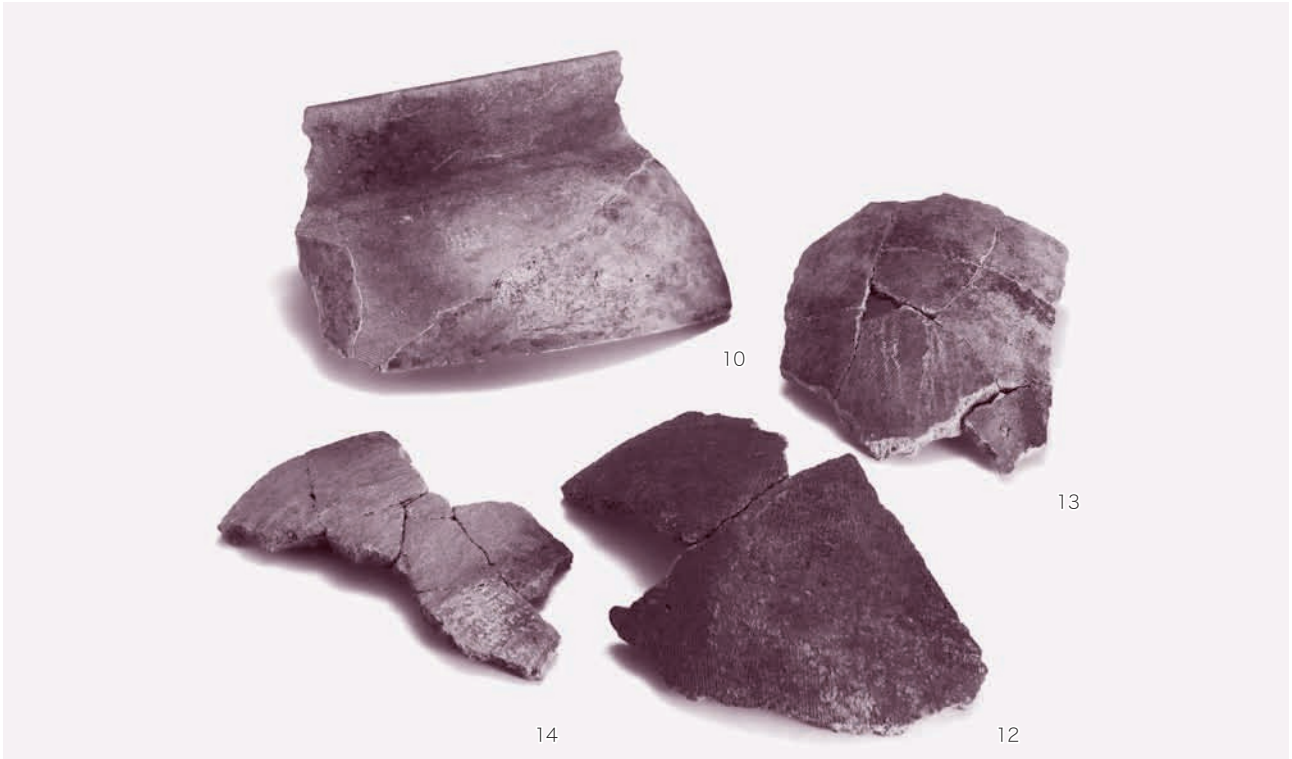
SB01 出土遺物

SB03 出土遺物

中桁・中ノ坪遺跡　第６地区







SB04 出土遺物

PL.34

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

1．遺構検出全景（東から）

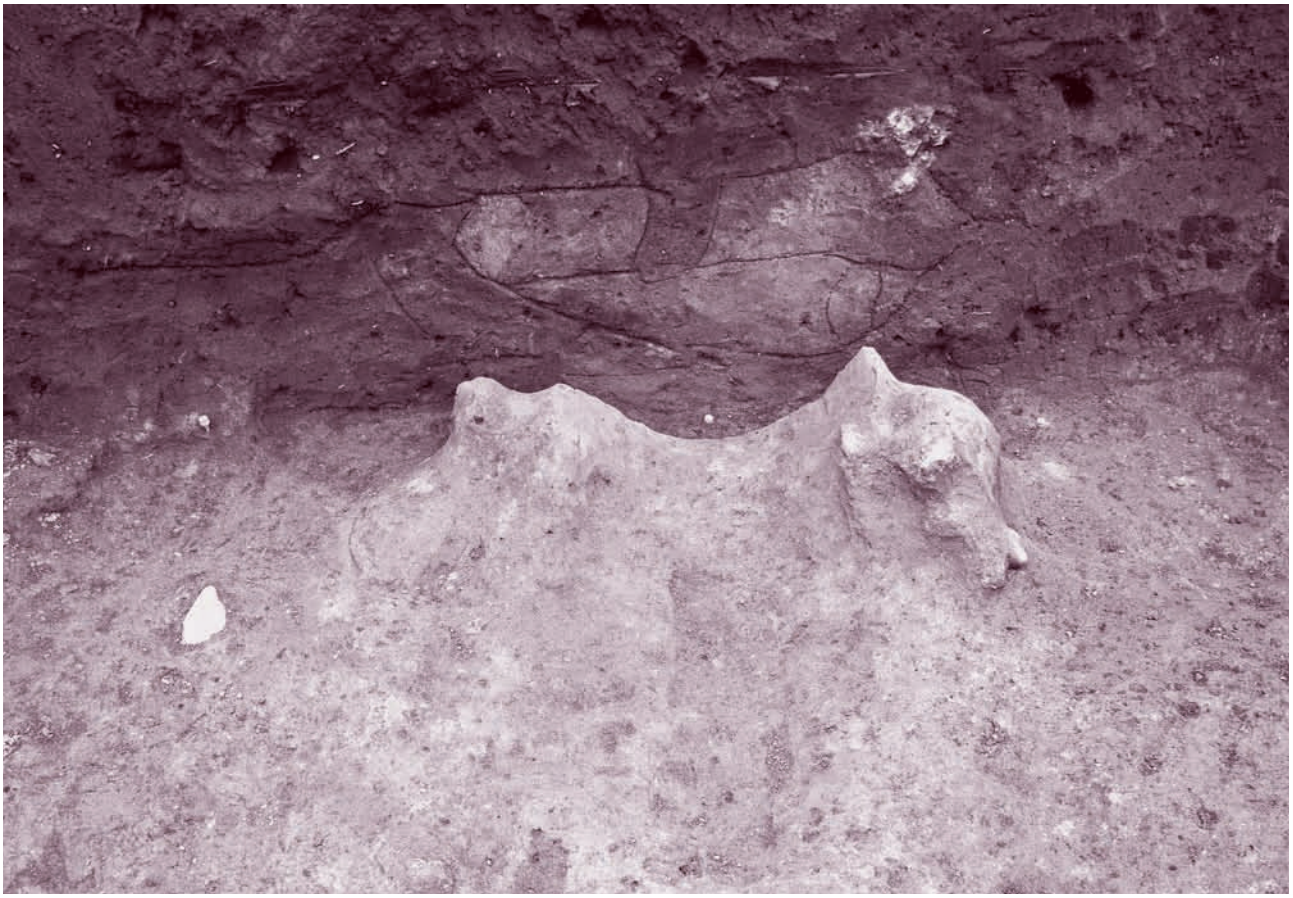
三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

2. SB01・02・03（西から）

3. SB02 カマド遺物出土状況（南から）

PL.36

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）



4. SB02 カマド（南から）

5. SB03（南から）

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

6. SB03 カマド（南から）

7. SB03 カマド袖下出土遺物（南から）

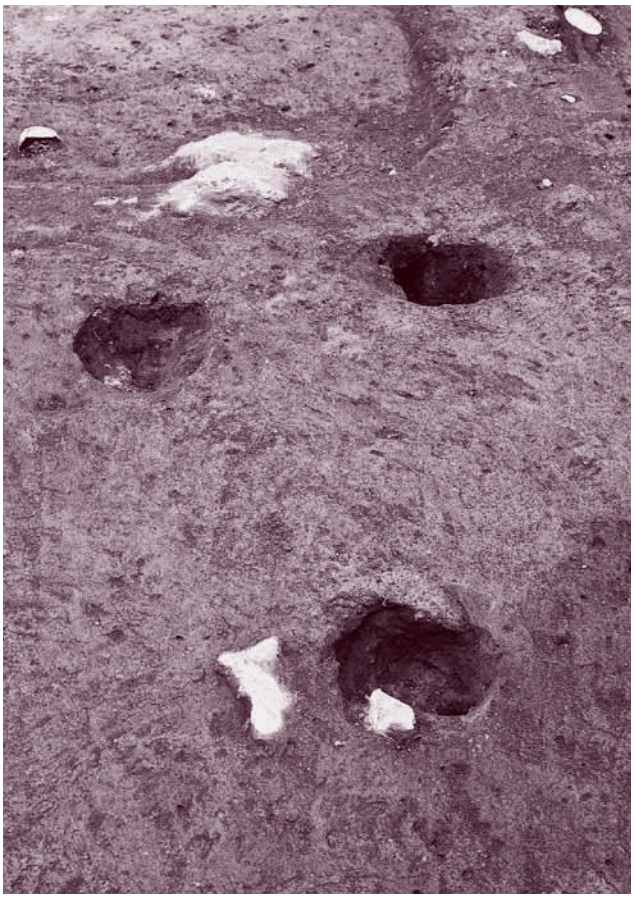
PL.38

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

8．SB03・04（南から）

9．SB04 カマド（南西から）

10．SB05 カマド（北から）



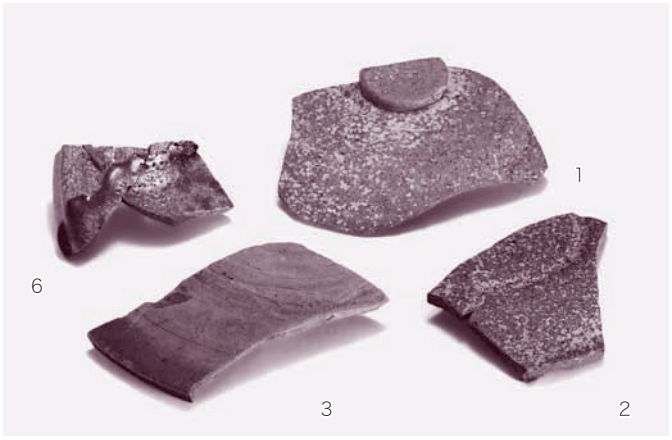
11．Pit01・02・03

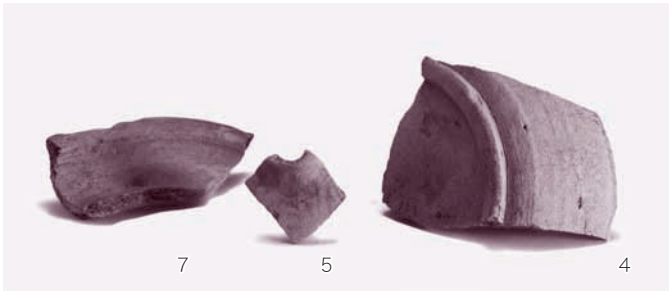
三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

出土遺物集合

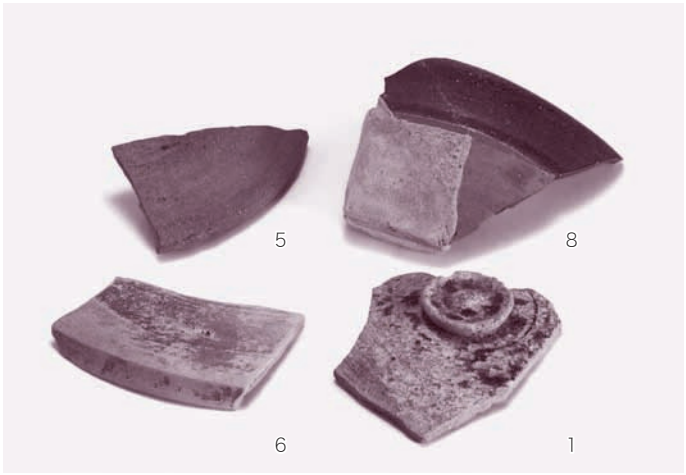
PL.40

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）



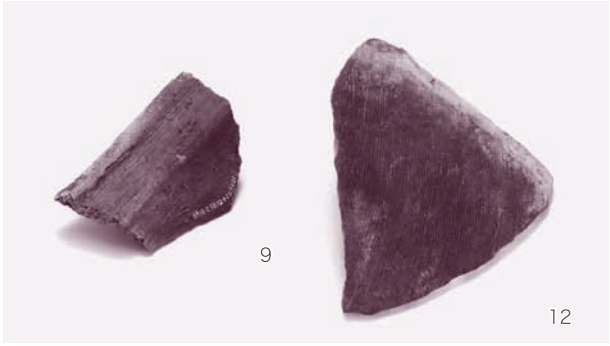


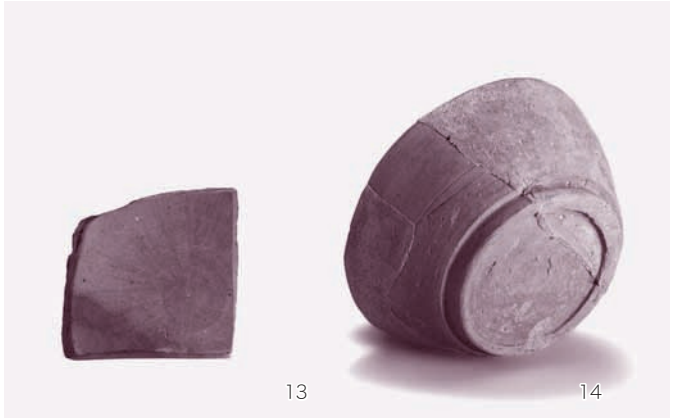
SB01 出土遺物

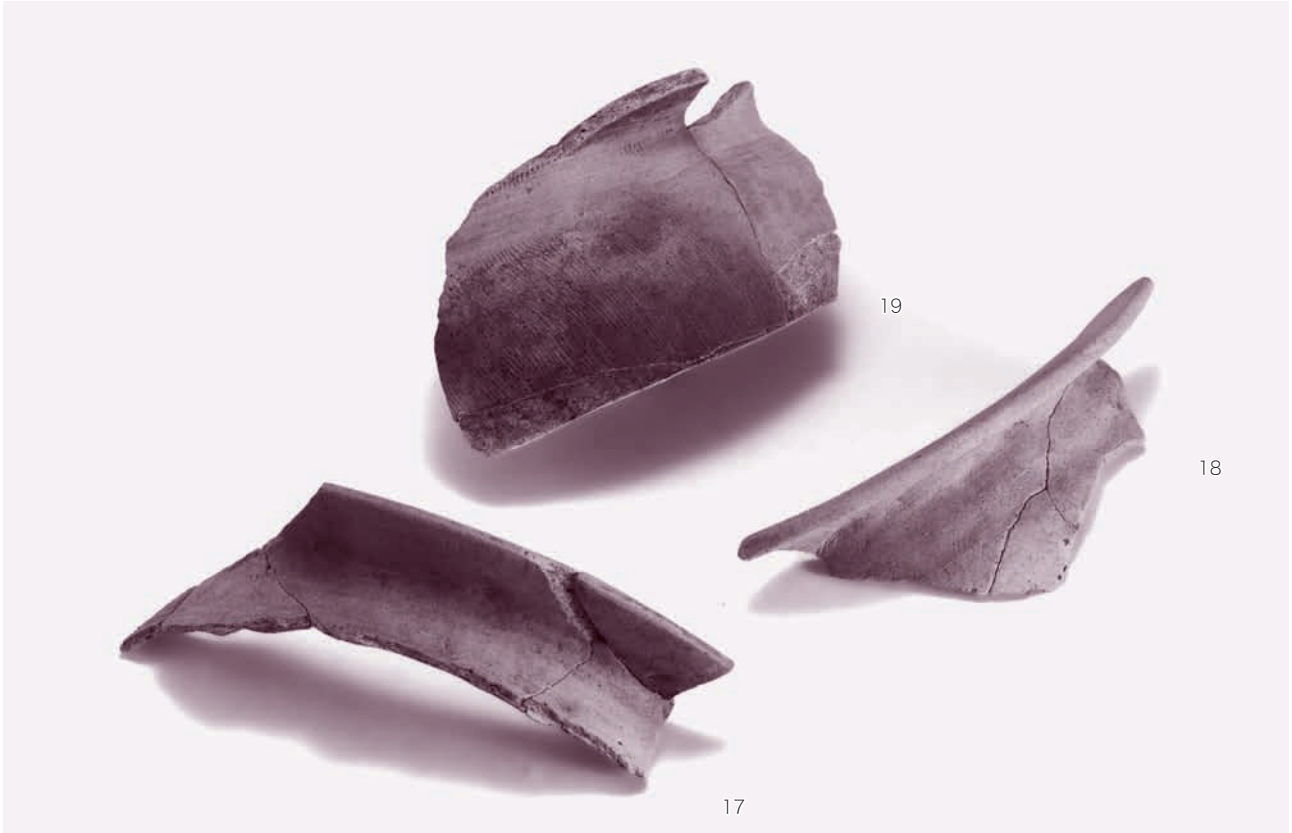


SB02 出土遺物

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）



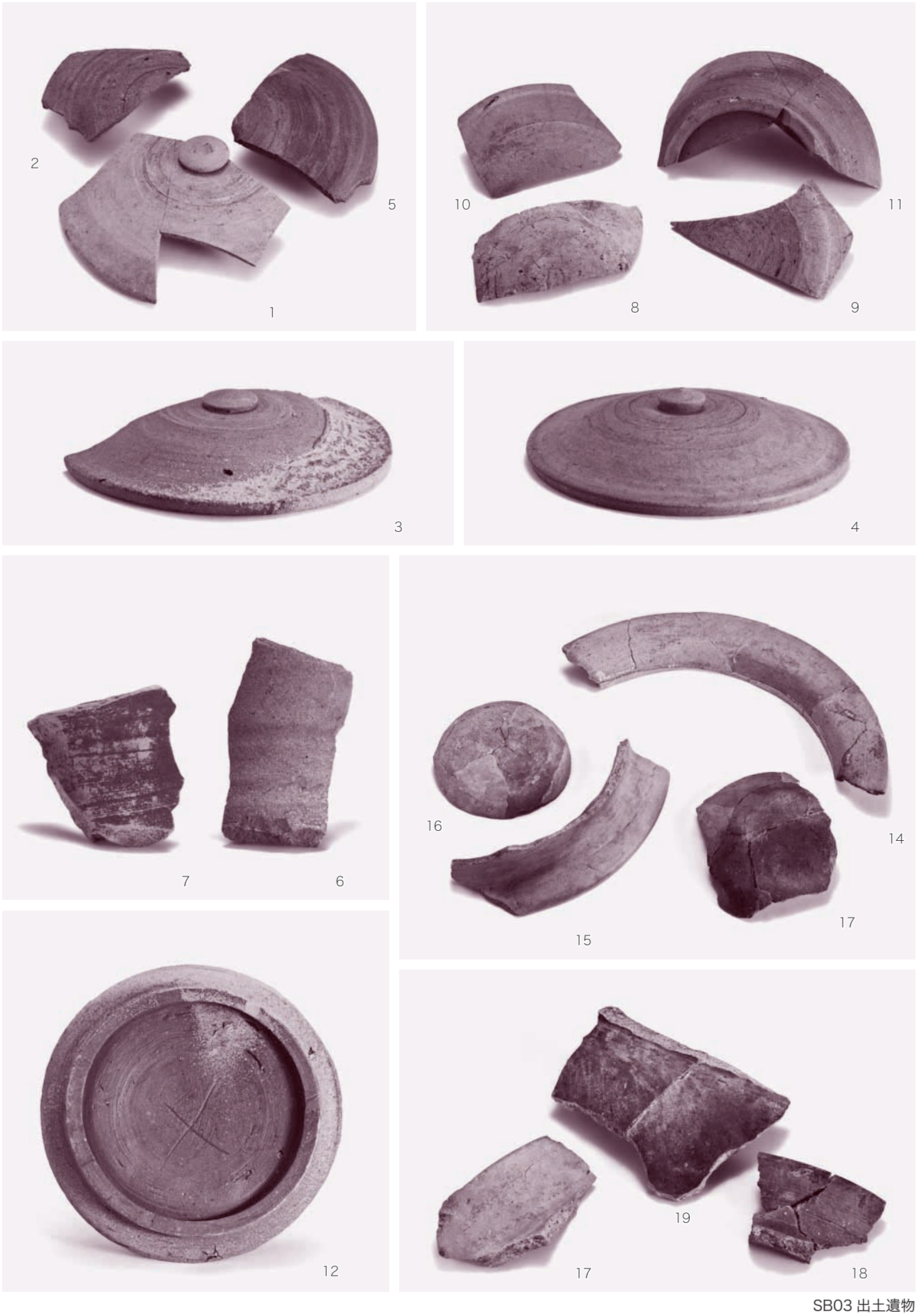




SB02 出土遺物

PL.42

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）



SB03 出土遺物

三日市廃寺跡（東平遺跡　第 60 地区）

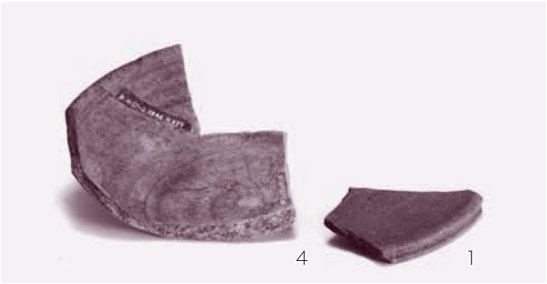
13

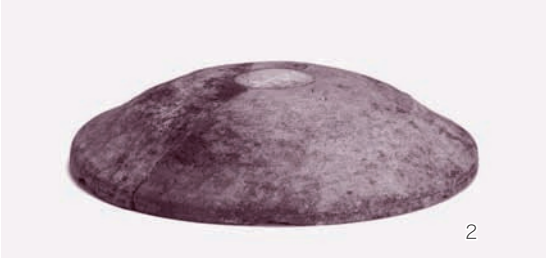
21

22 23

24

SB03 出土遺物

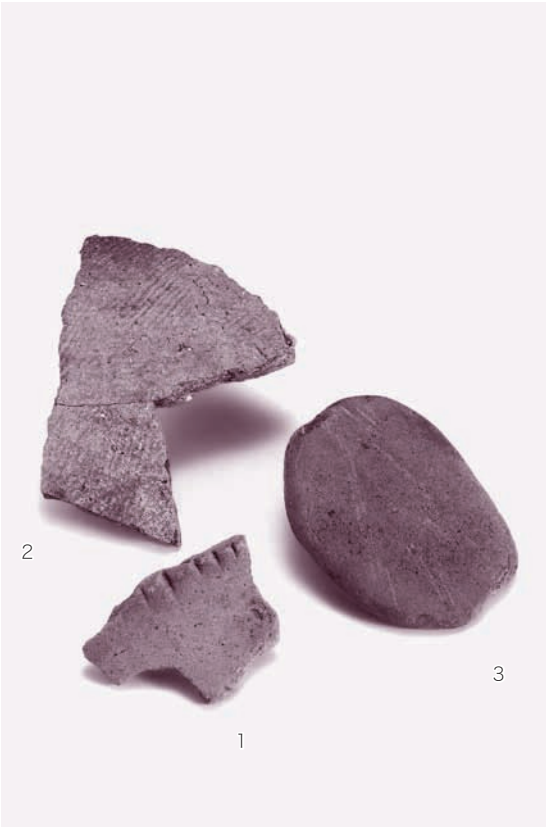

4 1


2

3

5

SB04 出土遺物


2 3 1

表採遺物

PL.44

比奈 1 古墳群　（比奈 G －第 74 号墳）

1．石室　第 1 床面検出（南から）

比奈1古墳群　（比奈G－第74号墳）

2. 石室　閉塞石（南から）

3. 閉塞石外　遺物出土状況（南から）

PL.46

比奈 1 古墳群　（比奈 G －第 74 号墳）

4. 第 1 床面（北から）

比奈 1 古墳群　（比奈G－第 74 号墳）

5. 石室　東側壁（北西から）

6. 石室　西側壁（北東から）

PL.48

比奈 1 古墳群　（比奈 G －第 74 号墳）

7. 閉塞石（石室内から）

8. 奥壁（石室内から）

比奈１古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）

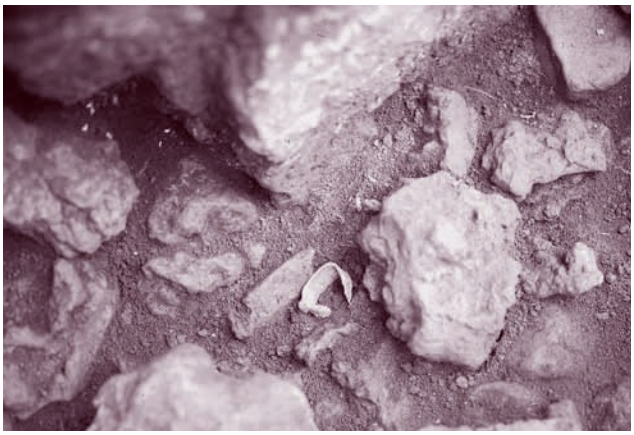
9．石室　第２床面検出（南から）

PL.50

比奈 1 古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）

10．第２床面（南から）

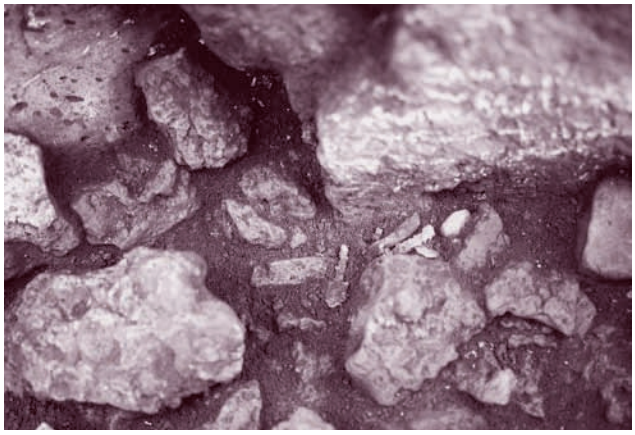
11．第２床面（北から）



12．床面　遺物（刀装具）出土状況

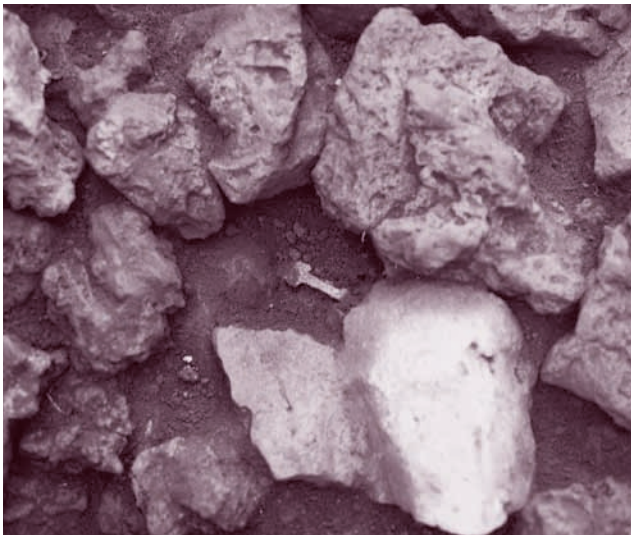
13．床面　遺物（足金物）出土状況

14．床面　遺物（鉄鏃）出土状況

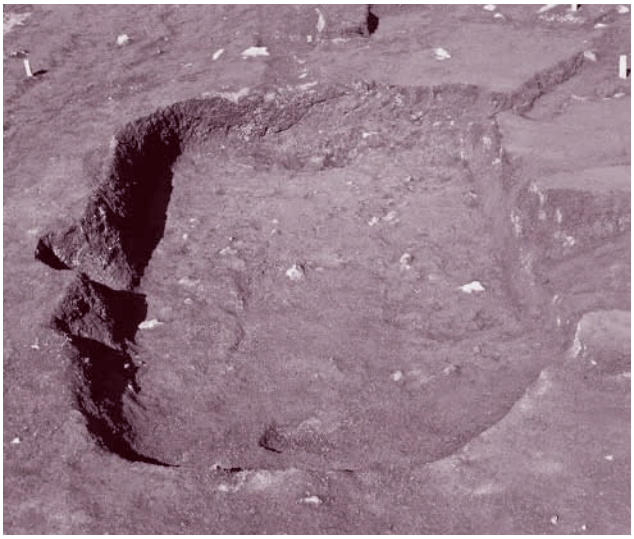


15．第２床面　遺物（鉄鏃）出土状況

比奈１古墳群　（比奈Ｇ－第 74 号墳）



16．第２床面　遺物（鉄鏃）出土状況



17．石室　掘り方（南から）

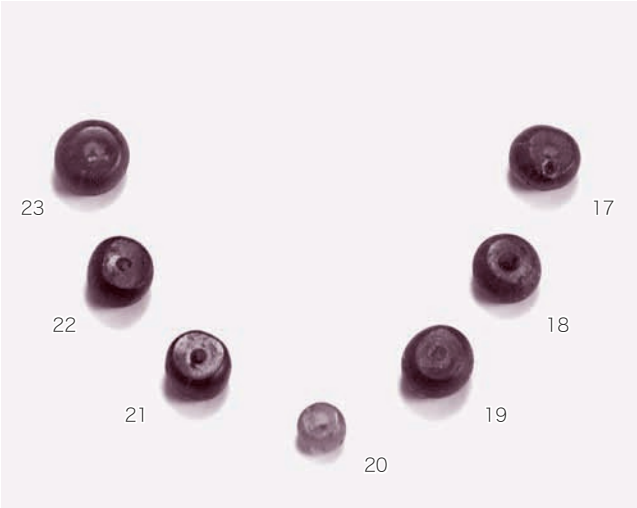
18．石室　根石（南から）

PL.52

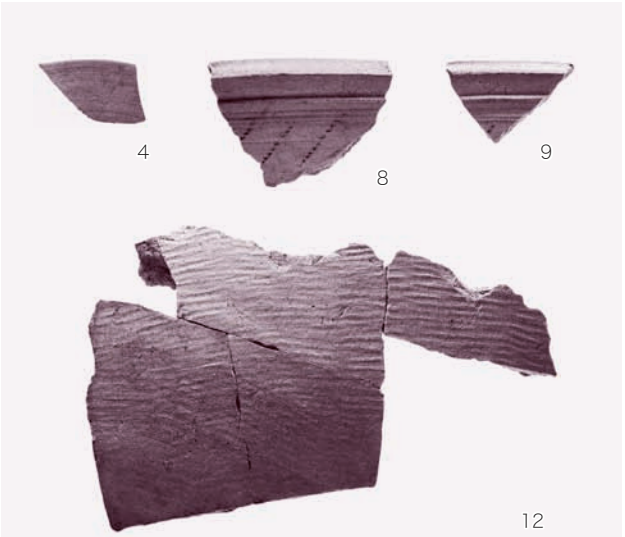
比奈 1 古墳群　（比奈 G －第 74 号墳）

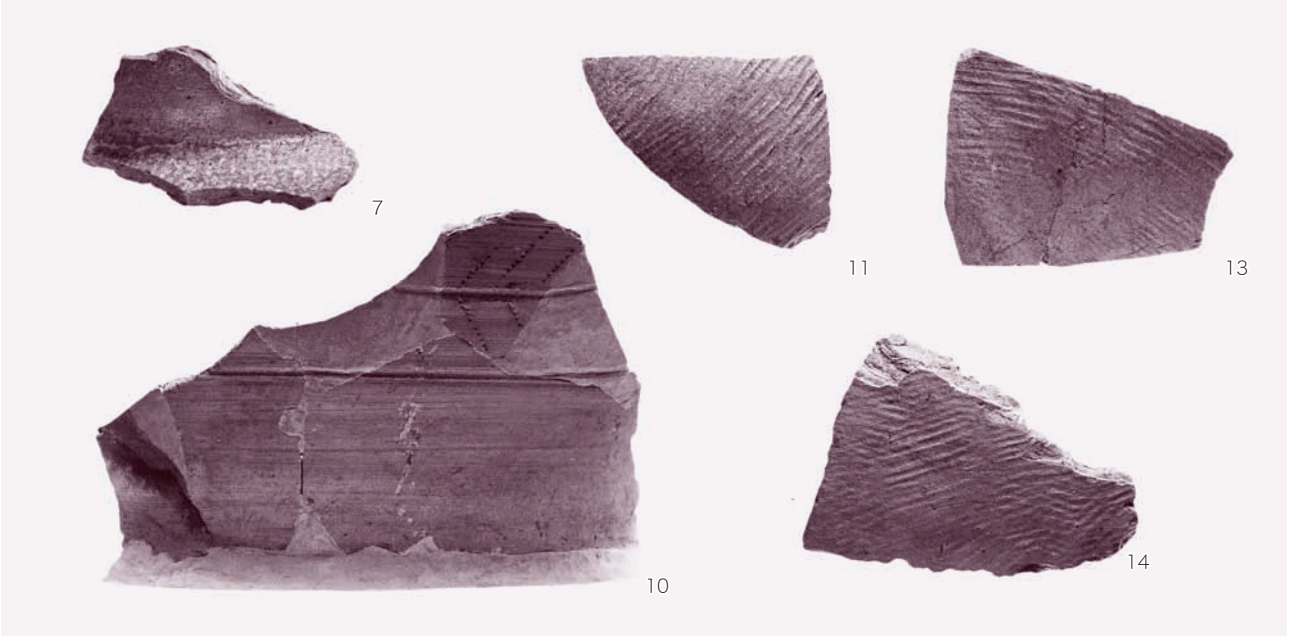
出土遺物集合

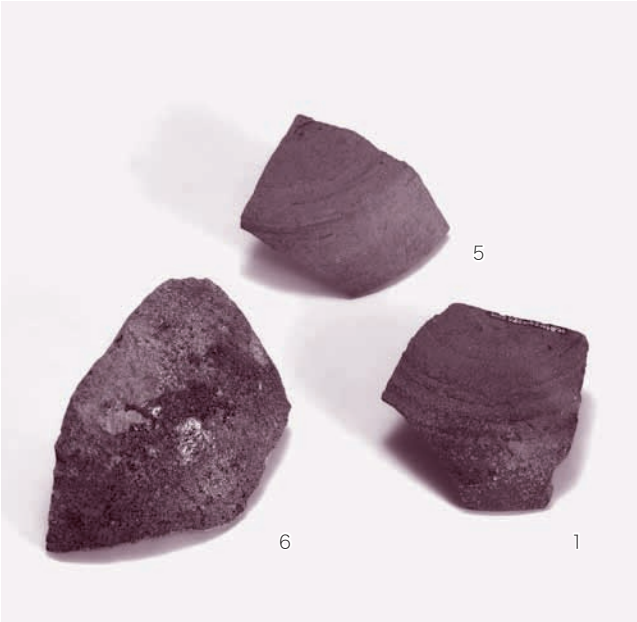
比奈 1 古墳群　（比奈G－第 74 号墳）

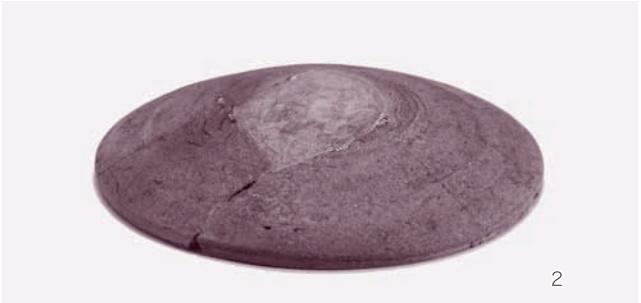


出土遺物（玉類）





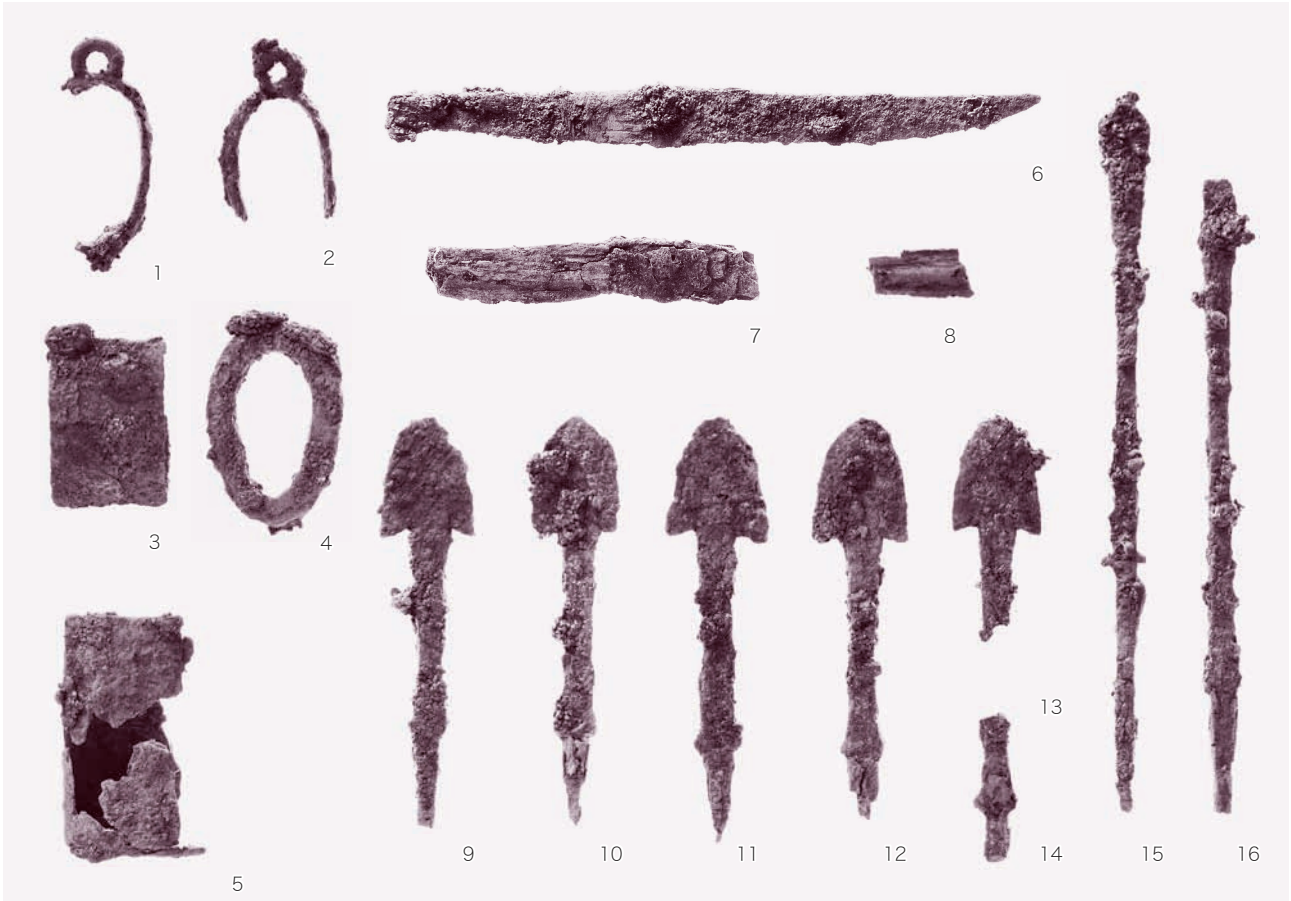


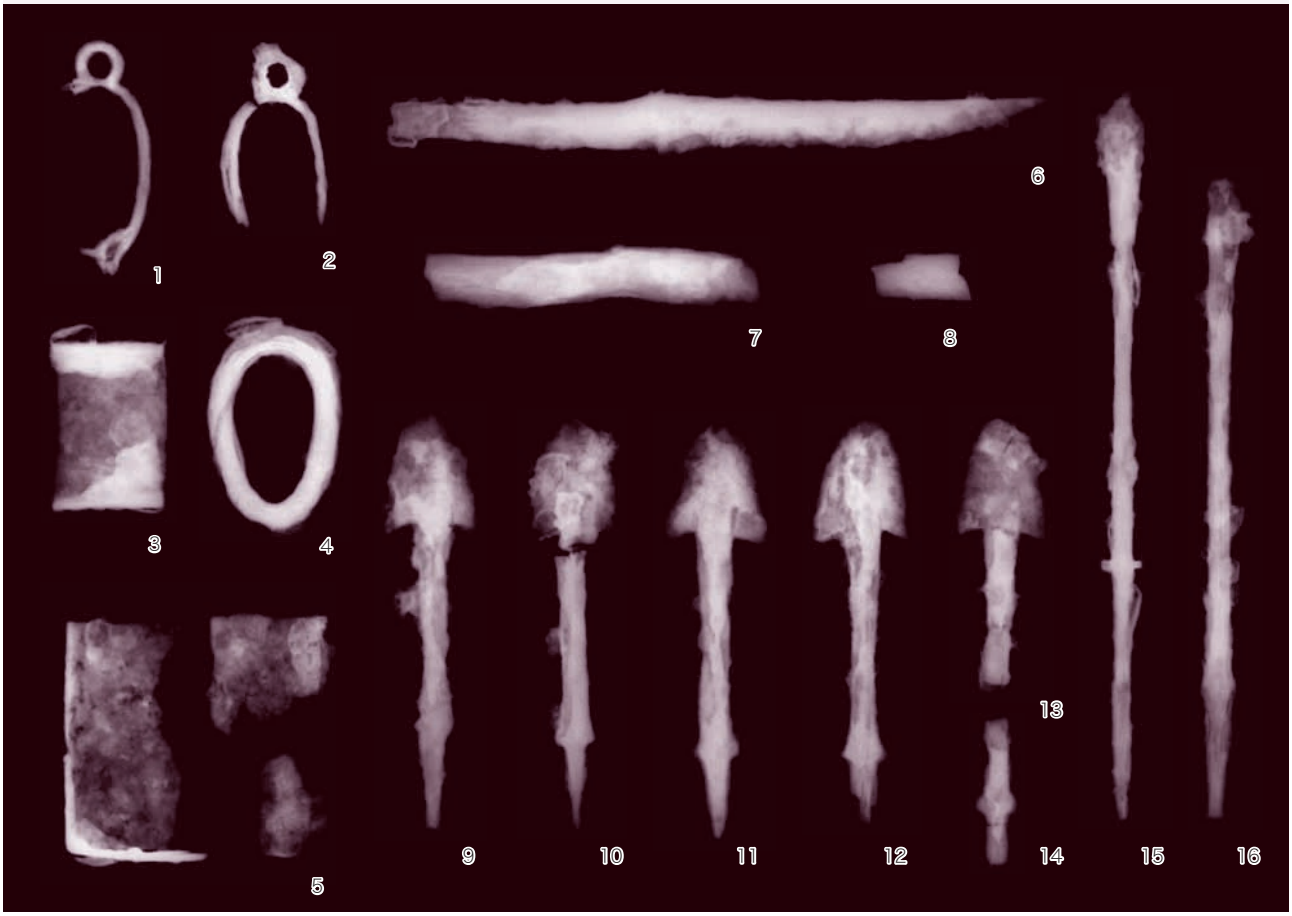


出土遺物（土器）

PL.54

比奈 1 古墳群　（比奈 G －第 74 号墳）





出土遺物（金属製品）

清水岩の上遺跡

出土遺物集合

PL.56

清水岩の上遺跡

1

2

3

5

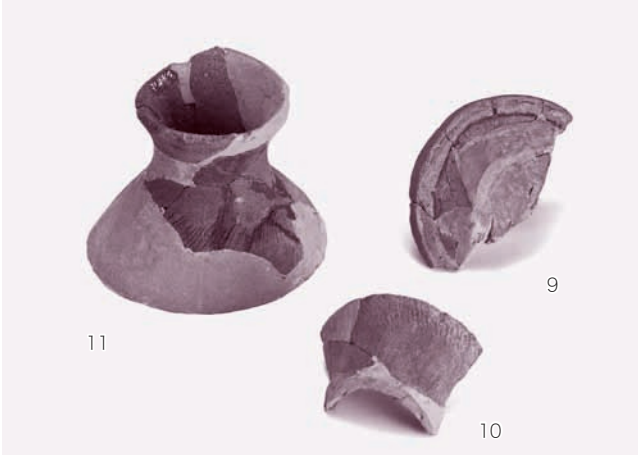
出土遺物

清水岩の上遺跡

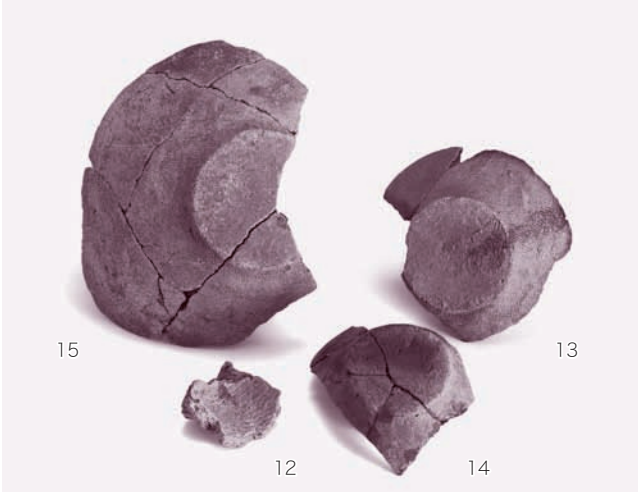
6

7

4


9
11
10

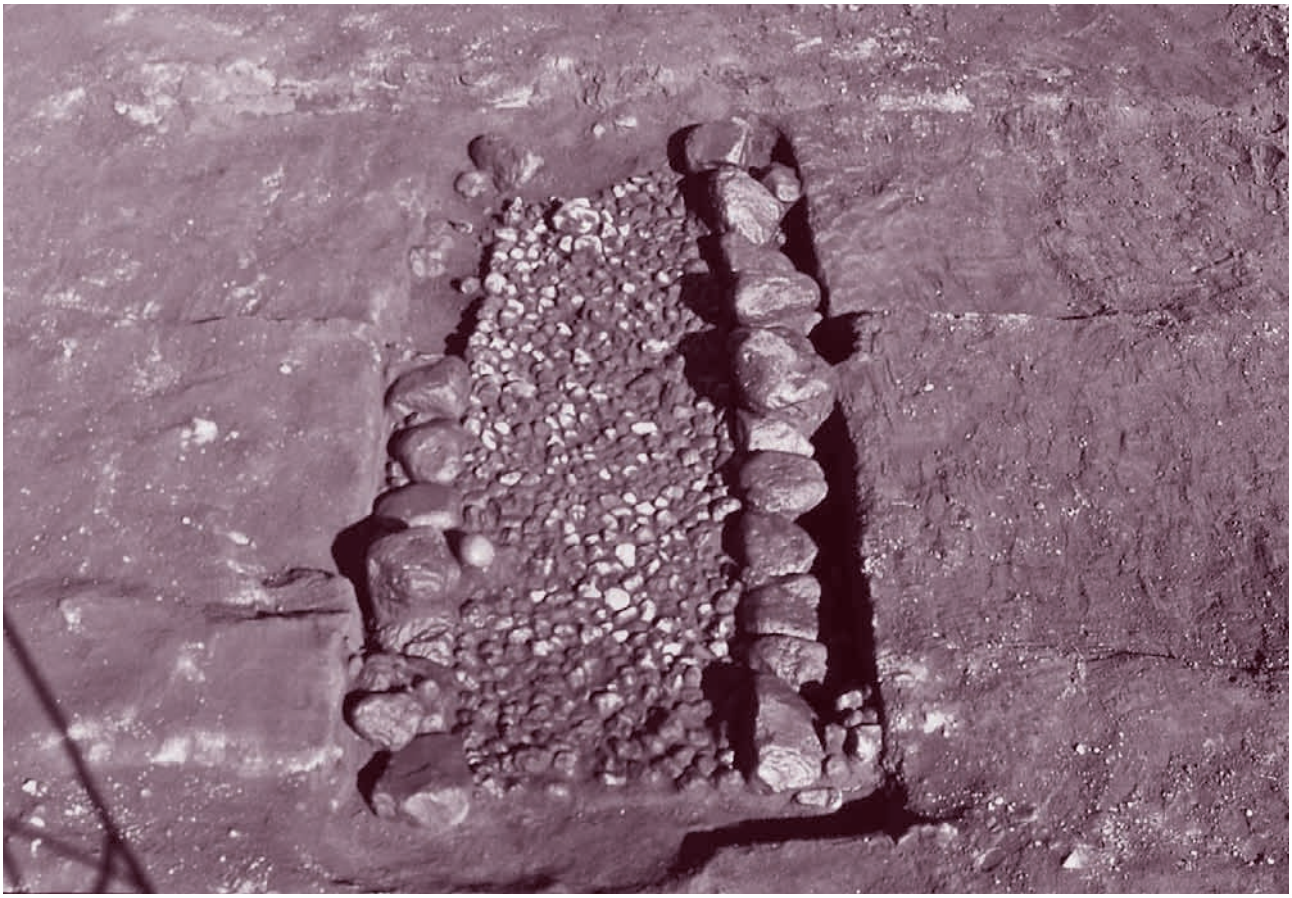
8


15
13
12
14

出土遺物

PL.58

中村上第 1 号墳



石室床面遺物出土状況

出土遺物（提瓶）

報告書抄録

ふりがな	ふじしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	富士市内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成 24・25 年度
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 57 集
編著者名	佐藤祐樹・若林美希（編著）　石川武男・小島利史（著）
編集機関	富士市教育委員会　（担当課：文化振興課）
所在地	〒 417-8601　静岡県富士市永田町 1 丁目 100 番地　　TEL　0545-55-2875
市町村コード	22210
発行年月日	平成 27 年 3 月 31 日

調査年度	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地 北緯	東経	種別 主な時代	遺構 遺物
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H24	第 1 章 第 2 節 1	念信園遺跡（ネンシンエンイセキ） 第 1 地区		岩本（イワモト）1964-1　外 35°10′ 32.15″	138°38′ 00.73″		なし 土師器
		21㎡	確認調査	20120416 ～ 20120418		35	
H24	第 1 章 第 2 節 2	中桁（ナカゲタ）・中ノ坪（ナカノツボ）遺跡 第 5 地区		伝法（デンポウ）1320-4 の内 35°10′ 19.96	138°39′ 28.73″		なし なし
		24㎡	確認調査	20120424		128	
H24	第 1 章 第 2 節 3	舟久保（フナクボ）遺跡 第 51 地区		今泉（イマイズミ）6 丁目 1215-2　外 35°10′ 04.19″	138°41′ 37.36″	 奈良・平安	性格不明遺構 土師器
		103㎡	確認調査	20120523 ～ 20120525		46	
H24	第 1 章 第 2 節 4	中島（ナカジマ）遺跡 第 9 地区		原田（ハラダ）767-1　外 35°10′ 22.82″	138°42′ 09.87″	 縄文	竪穴建物跡・埋甕・土坑 縄文土器・石器
		107㎡	確認調査	20120604 ～ 20120619		49	
H24	第 1 章 第 2 節 5	井倉（イクラ）遺跡 第 1 地区		中野（ナカノ）413-5　外 35°11′ 53.46″	138°40′ 53.93″	 近世以降	溝 なし
		82㎡	確認調査	20120709 ～ 20120710		14	
H24	第 1 章 第 2 節 6	三日市廃寺跡（ミッカイチハイジアト） （東平遺跡（ヒガシダイライセキ）第 59 地区 -1 次調査）		浅間本町（センゲンホンチョウ）5-1 35°10′ 02.04″	138°40′ 31.97″	 古墳後期～奈良・平安	竪穴建物跡・ピット 須恵器・土師器・瓦
		177㎡	確認調査	20120724 ～ 20120821		43（42）	
H24	第 1 章 第 2 節 7	善得寺城跡（ゼントクジジョウアト）・東泉院跡（トウセンインアト） 第 2 地区		今泉 8 丁目 1432-3 35°10′ 02.61″	138°41′ 14.83″	 	なし なし
		5㎡	確認調査	20120724		102	
H24	第 1 章 第 2 節 8	沢東（サワヒガシ）A 遺跡 第 13 次調査地点		久沢（クザワ）112-1　外 35°10′ 48.67″	138°38′ 46.94″	 古墳	竪穴建物跡 土師器・須恵器・石器
		24㎡	確認調査	20120806 ～ 20120809		33	
H24	第 1 章 第 2 節 9	富士岡（フジオカ）1 古墳群（イチコフングン） 第 13 地区 -1 次調査・2 次調査		比奈（ヒナ）1747-1　外 35°10′ 10.56″	138°43′ 30.19″	 縄文～古墳	なし 縄文土器片・須恵器片
		45㎡、165㎡	確認調査	20121120、20130128 ～ 20130129		192	
H24	第 1 章 第 2 節 10	中吉原宿遺跡（ナカヨシワラジュクイセキ） 第 7 地区		八代町（ヤシロチョウ）185- 1 の内 35°09′ 21.55″	138°41′ 27.11″	 	なし なし
		51㎡	確認調査	20121206 ～ 20121207		109	
H24	第 1 章 第 2 節 11	石坂（イシザカ）7 古墳群（ナナコフングン） 第 2 地区		今泉（イマイズミ）3743-2　外 35°10′ 49.00″	138°41′ 26.84″	 	なし なし
		160㎡	確認調査	20121207 ～ 20121213		157	
H24	第 1 章 第 2 節 12	厚原横道下遺跡（アツハラヨコミチシタイセキ） 第 4 地区		厚原（アツハラ）1209-1　外 35°11′ 20.92″	138°39′ 41.65″	 	なし なし
		146㎡	確認調査	20121211		15	
H24	第 1 章 第 2 節 13	大渕城（オオブチジョウアト）跡 第 1 地区		大淵 2213-175 35°13′ 30.82″	138°40′ 58.55″	 	なし なし
		8㎡	確認調査	20130201		98	
H24	第 1 章 第 2 節 14	沖田（オキタ）遺跡 第 148 次調査地点		宇東川東町（ウトウガワヒガシチョウ）168-1 35°10′ 03.75″	138°42′ 18.82″	 	なし なし
		3㎡	確認調査	20130205		53	
H24	第 1 章 第 2 節 15	ジンゲン沢（ザワ）遺跡 第 4 地区		天間（テンマ）951-1　外 35°12′ 32.45″	138°38′ 26.70″	 縄文	竪穴建物跡・溝状遺構 縄文土器・石器
		38㎡	確認調査	20130214 ～ 20130215		6	
H24	第 1 章 第 2 節 16	宇東川（ウトウガワ）遺跡 R 地区		宇東川西町（ウトウガワニシチョウ）577-1 35°10′ 09.83″	138°42′ 07.68″	 縄文	なし 縄文土器片
		9㎡	確認調査	20130220		50	

調査年度	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地 北緯	東経	種別 主な時代	遺構 遺物
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H24	第1章 第2節 17	舟久保遺跡（フナクボイセキ） 第52地区		今泉6丁目1658-5　外（イマイズミロクチョウメ） 35°10′ 08.39″	138°41′ 38.54″		なし なし
		13㎡	確認調査	20130227		46	
H24	第1章 第2節 18	神谷古墳群（カミヤコフングン） 第9地区		中里1763-1（ナカザト） 35°09′ 58.06″	138°44′ 25.29″		なし なし
		17㎡	確認調査	20130305		200	
H24	第1章 第2節 19	伝法1古墳群（デンポウイチコフングン） （東平遺跡第70地区）（ヒガシダイライセキ）		伝法2700-11　外（デンポウ） 35°10′ 24.63″	138°40′ 04.22″		なし なし
		27㎡	確認調査	20130319		142	
H24	第1章 第2節 20	中里3古墳群（ナカザトサンコフングン） 第5地区		中里2150-1（ナカザト） 35°10′ 08.55″	138°44′ 14.17″		なし なし
		23㎡	確認調査	20130326		198	
H24	第1章 第2節 21	沖田遺跡（オキタイセキ）		比奈（ヒナ）843-1　外			竪穴建物跡2軒
						弥生後期・古墳後期～7世紀	弥生土器・土師器・須恵器
			工事立会	20130722、20130726、20130903		53	
H25	第1章 第3節 1	三日市廃寺跡（ミッカイチハイジアト） （東平遺跡第61地区）（ヒガシダイライセキ）		浅間上町2902-23の一部（センゲンカミチョウ） 35°10′ 13.42″	138°40′ 38.90″		竪穴建物跡・ピット 灰釉陶器・土師器・須恵器
		43㎡	確認調査	20130405		43（42）	
H25	第1章 第3節 2	善得寺城跡・東泉院跡（ゼントクジジョウアト・トウセンインアト） 第3地区		今泉8丁目1445-1の内（イマイズミハッチョウメ） 35°09′ 59.64″	138°41′ 16.37″	平安	竪穴建物跡 土師器
		76㎡	確認調査	20130422～20130426		102	
H25	第1章 第3節 3	村添遺跡（ムラゾエイセキ） 第1地区		田子（タゴ）361 35°08′ 11.87″	138°40′ 59.11″		なし なし
		15㎡	確認調査	20130516		93	
H25	第1章 第3節 4	中桁・中ノ坪遺跡（ナカゲタ　ナカノツボイセキ） 第8地区		厚原（アツハラ）441-3　外 35°10′ 28.86″	138°39′ 36.57″	奈良・平安	ピット 土師器・須恵器
		22㎡	確認調査	20130520～20130521		128	
H25	第1章 第3節 5	林泉寺砦跡（リンセンジトリデアト） 第1地区		入山瀬2丁目（イリヤマセニチョウメ）239-2 35°11′ 29.54″	138°38′ 32.95″		なし なし
		12㎡	確認調査	20130522		101	
H25	第1章 第3節 6	東平遺跡（ヒガシダイライセキ） 第62地区－1次調査・2次調査		伝法（デンポウ）2988-1　外 35°10′ 05.72″	138°40′ 28.25″	奈良・平安	土坑・ピット 土師器・須恵器・瓦
		54㎡、8㎡	確認調査	20130716～20130718、20130828		42	
H25	第1章 第3節 7	沖田遺跡（オキタイセキ） 第149次調査地点		原田（ハラダ）214　外 35°09′ 57.62″	138°42′ 22.92″		なし なし
		22㎡	確認調査	20130726		53	
H25	第1章 第3節 8	沖田遺跡（オキタイセキ） 第150次調査地点		今泉2丁目（イマイズミニチョウメ）86-1 35°09′ 48.69″	138°41′ 41.78″	弥生～古墳・奈良・平安	水田跡 須恵器・土師器・木器
		145㎡	確認調査	20130722～20130725		53	
H25	第1章 第3節 9	中野石切場遺跡（ナカノイシキリバイセキ） 第1地区		南松野（ミナミマツノ）2316-20 35°11′ 05.29″	138°36′ 20.88″		なし なし
		44㎡	確認調査	20130730		230	
H25	第1章 第3節 10	元吉原宿遺跡（モトヨシワラジュクイセキ） 第2地区		今井（イマイ）1丁目2-5 35°08′ 30.28″	138°42′ 38.88″		なし なし
		1㎡	確認調査	20130801～20130802		115	
H25	第1章 第3節 11	三日市廃寺跡（ミッカイチハイジアト） （東平遺跡第63地区）（ヒガシダイライセキ）		浅間上町2978-4　外（センゲンカミチョウ） 35°10′ 06.84″	138°40′ 35.93″	奈良・平安	住居跡・土坑・ピット 土師器・須恵器・瓦
		45㎡	確認調査	20130805～20130807		43（42）	
H25	第1章 第3節 12	包蔵地外 （沢東B遺跡（サワヒガシビーイセキ）　隣接地（第8地区））		厚原（アツハラ）179-1　外 35°10′ 54.13″	138°39′ 05.65″		なし なし
		10㎡	試掘調査	20130904		34	
H25	第1章 第3節 13	三新田遺跡（サンシンデンイセキ） L地区		檜新田（ヒノキシンデン）264-1　外 35°08′ 21.65″	138°43′ 38.91″		なし なし
		10㎡	確認調査	20130918～20130919		96	
H25	第1章 第3節 14	丸崎遺跡（マルサキイセキ） 第2地区		南松野（ミナミマツノ）2189-7　外 35°10′ 54.72″	138°36′ 25.98″		なし なし
		37㎡	確認調査	20130925～20130927		231	
H25	第1章 第3節 15	滝下遺跡（タキシタイセキ） K地区		伝法（デンポウ）1928-2　外 35°10′ 32.92″	138°40′ 42.15″		なし なし
		56㎡	確認調査	20131015～20131017		44	
H25	第1章 第3節 16	沖田遺跡（オキタイセキ） 第151次調査地点		今泉（イマイズミ）619-1　外 35°09′ 19.75″	138°42′ 09.28″		なし なし
		32㎡	確認調査	20131021		53	
H25	第1章 第3節 17	中桁・中ノ坪遺跡（ナカゲタ　ナカノツボイセキ） 第9地区		伝法（デンポウ）1268-1 35°10′ 28.57″	138°39′ 33.74″	奈良・平安	竪穴建物跡・ピット 土師器・須恵器
		31㎡	確認調査	20131105		128	

調査年度	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地		種別		遺構
				北緯	東経	主な時代		遺物
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項	
H25	第1章 第3節 18	沢東B遺跡 第9地区		厚原 364-1				なし
				35°10′ 55.38″	138°39′ 14.99″			なし
		59㎡	確認調査	20131107 ～ 20131111		34		
H25	第1章 第3節 19	東平遺跡 第67地区		伝法 2789-1　外				不明遺構
				35°10′ 19.31″	138°40′ 12.81″	奈良・平安、近世・近代		土師器
		63㎡	確認調査	20131114		42		
H25	第1章 第3節 20	滝下遺跡 L地区		伝法 2341-1　外				なし
				35°10′ 26.07″	138°40′ 42.65″			なし
		33㎡	確認調査	20131118		44		
H25	第1章 第3節 21	東平遺跡 第64地区		伝法 2383-1　外				竪穴建物跡・ピット
				35°10′ 20.50″	138°40′ 34.01″	古墳～平安		土師器・須恵器・灰釉陶器
		337㎡	確認調査	20131121 ～ 20131129		42		
H25	第1章 第3節 22	三日市廃寺跡 (東平遺跡第65地区)		浅間上町 2912-2　外				なし
				35°10′ 15.10″	138°40′ 41.34″	奈良・平安		土師器
		11㎡	確認調査	20131211		43（42）		
H25	第1章 第3節 23	三日市廃寺跡 (東平遺跡第59地区 - 2次調査)		浅間本町 5-1				なし
				35°10′ 02.04″	138°40′ 31.97″			陶器・瓦
		25㎡	確認調査	20131216		43（42）		
H25	第1章 第3節 24	柏原遺跡 第8地区		中柏原新田 191　外				なし
				35°08′ 05.89″	138°44′ 51.41″	古墳		土師器
		82㎡	確認調査	20140120 ～ 20140124		97		
H25	第1章 第3節 25	中桁・中ノ坪遺跡 第10地区		伝法 1285-1				竪穴建物跡・ピット
				35°10′ 24.66″	138°39′ 33.75″	古墳～平安		土師器・須恵器・埴輪
		49㎡	確認調査	20140128 ～ 20140129		128		
H25	第1章 第3節 26	祢宜ノ前遺跡 第5地区		比奈 1576-12				なし
				35°09′ 56.88″	138°43′ 30.42″	弥生末～古墳初		土師器
		17㎡	確認調査	20140205 ～ 20140206		57		
H25	第1章 第3節 27	三日市廃寺跡 (東平遺跡第66地区)		浅間上町 2978-3				竪穴建物跡・溝・土坑・ピット
				35°10′ 06.82″	138°40′ 37.00″	奈良・平安		土師器・須恵器・瓦
		97㎡	確認調査	20140212 ～ 20140214		43（42）		
H25	第1章 第3節 28	元吉原宿遺跡 第3地区		今井2丁目 60　外				なし
				35°08′ 30.95″	138°42′ 42.91″	近世		陶器
		6㎡	確認調査	20140220 ～ 20140221		115		
H24	第2章 第2節	天間沢遺跡 第33地区		天間 1050-1 の一部				なし
				35°12′ 30.58″	138°38′ 36.91″			なし
		12㎡	確認調査	20121129		7		
H24	第2章 第3節	天間沢遺跡 第34地区		天間 964-1　外および官有地				なし
				35°12′ 36.27″	138°38′ 34.38″	縄文		縄文土器
		72㎡	確認調査	20121205 ～ 20121206		7		
H25	第2章 第4節	天間沢遺跡 第35地区		天間 1174-3　外				なし
				35°12′ 26.24″	138°38′ 44.85″			なし
		38㎡	確認調査	20130418		7		
H25	第2章 第5節	天間沢遺跡 第36地区		天間 1263-1　外				なし
				35°12′ 15.30″	138°38′ 39.52″			なし
		82㎡	確認調査	20130909 ～ 20130911		7		
H25	第2章 第6節	天間沢遺跡 第37地区		天間 1010-5				竪穴建物跡・ピット
				35°12′ 32.58″	138°38′ 36.85″	縄文		縄文土器・石器
		46㎡	確認調査	20131001 ～ 20131004		7		
H25	第2章 第7節	天間沢遺跡 第38地区		天間 1317-1　外				なし
				35°12′ 15.68″	138°38′ 34.98″			なし
		9㎡	確認調査	20131029		7		
H25	第2章 第8節	天間沢遺跡 第39地区		天間 1010- 6				土坑・ピット
				35°12′ 32.84″	138°38′ 36.16″	縄文		縄文土器・石器
		53㎡	確認調査	20140107 ～ 20140110		7		
H24	第3章 第2節	石坂2古墳群 第2地区 -3 次調査		石坂 618-76				横穴式石室（二タ子塚2号墳）
				35°11′ 15.79″	138°41′ 02.40″	古墳		須恵器
		18㎡	確認調査	20120618 ～ 20120724		152		
H24	第3章 第3節	石坂2古墳群 第4地区		大淵 201-2　外				なし
				35°11′ 17.15″	138°41′ 02.68″			なし
		53㎡	確認調査	20130205 ～ 20130207		152		
H24	第4章	コーカン畑遺跡 第2地区 -1 次調査		江尾 727-1				柱穴・竪穴建物跡・溝状遺構
				35°09′ 31.85″	138°45′ 11.18″	縄文・古墳		縄文土器・石器・土師器
		46㎡	確認調査	20120529 ～ 20120601		71		
H24	第4章	コーカン畑遺跡 第2地区 -2 次調査		江尾 727-1				集石遺構・土坑・竪穴建物跡
				35°09′ 31.85″	138°45′ 11.18″	縄文・弥生・古墳～平安		縄文土器・石器・土師器・須恵器
		173㎡	本発掘調査	20120806 ～ 20120927		71		

調査年度	所収番号	所収遺跡名 地区名		所在地		種別	遺構
				北緯	東経	主な時代	遺物
		調査面積	調査原因	調査期間		市遺跡番号	特記事項
H24	第５章	中桁（ナカゲタ）・中ノ坪遺跡（ナカノツボイセキ） 第６地区 -1 次調査		厚原（アツハラ）427-1			竪穴建物跡　２軒
				35°10′ 29.93″	138°39′ 31.21″	奈良	土師器
		22㎡	確認調査	20120718 ～ 20120720		128	
H24	第５章	中桁（ナカゲタ）・中ノ坪遺跡（ナカノツボイセキ） 第６地区 -2 次調査		厚原（アツハラ）427-1			竪穴建物跡　４軒
				35°10′ 29.93″	138°39′ 31.21″	奈良・平安	土師器・須恵器
		77㎡	本発掘調査	20120827 ～ 20121009		128	
H24	第６章	三日市廃寺跡（ミッカイチハイジアト） （東平遺跡（ヒガシダイライセキ）第 60 地区 -1 次調査）		浅間上町（センゲンカミチョウ）2921-2　外			竪穴建物跡
				35°10′ 11.85″	138°40′ 41.69″	奈良・平安	土師器・須恵器
		3㎡	確認調査	20130220		43（42）	
H25	第６章	三日市廃寺跡（ミッカイチハイジアト） （東平遺跡（ヒガシダイライセキ）第 60 地区 -2 次調査）		浅間上町（センゲンカミチョウ）2921-2　外			竪穴建物跡・ピット・土坑
				35°10′ 11.85″	138°40′ 41.69″	奈良～平安	土師器・須恵器・石器
		99㎡	本発掘調査	20130611 ～ 20130709		43（42）	
H25	第７章	比奈１古墳群（ヒナイチコフングン） 第９地区－１次調査		原田（ハラダ）2005　外			古墳
				35°10′ 44.24″	138°43′ 10.41″	縄文・古墳	縄文土器・須恵器
		348㎡	確認調査	20130607 ～ 20130611		178	
H25	第７章	比奈１古墳群（ヒナイチコフングン） 第９地区－２次調査		原田（ハラダ）2028-2　外			なし
				35°10′ 44.24″	138°43′ 10.41″		なし
		887㎡	確認調査	20130819 ～ 20130828		178	
H25	第７章	比奈１古墳群（ヒナイチコフングン） 第９地区－３次調査		原田（ハラダ）1985-1 の一部　外			無袖型横穴式石室
				35°10′ 44.24″	138°43′ 10.41″	古墳	須恵器、金属製品、玉類
		440㎡	本発掘調査	20131118 ～ 20140131		178	
H25	第７章	比奈１古墳群（ヒナイチコフングン） 第９地区－４次調査		原田（ハラダ）2024　外			古墳
				35°10′ 44.24″	138°43′ 10.41″	古墳	須恵器
		10㎡	確認調査	20140110 ～ 20140123		178	

富士市埋蔵文化財発掘調査報告　第 57 集

富士市内遺跡発掘調査報告書
－平成 24・25 年度－

発行年月日　平成 27 年 3 月 31 日

編集・発行　富士市教育委員会
〒 417-8601　静岡県富士市永田町一丁目 100 番地
TEL 0545-55-2875　FAX 0545-53-0789
E-mail:ky-bunkashinkou@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本　文光堂印刷株式会社
〒 410-0871　静岡県沼津市西間門 68 番地の 1

（富士市行政資料登録番号　26-45）